

2020 年度

自己点検評価資料

2021 年 8 月



目 次

自己点検評価資料

I. 本学の在り方及び目標に関すること

1 北星学園大学の基本理念・建学の精神・ミッションステートメント・各ホリゾン	表 I-1	1
2 学部（学科）・研究科等設置状況	表 I-2	33
3 大学の規模等の推移状況	表 I-3	36
4 大学・学部・学科、大学院研究科の新增設等の認可等の際に文部 科学省から付された履行条件に対する実施状況一覧	表 I-4	39
5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際 に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧	表 I-5	44
6 教職員に占めるクリスチャンの比率状況	表 I-6	67
7 自治体等の公開講座への派遣状況	表 I-7	68
8 各種委員会・審議会等からの委嘱状況	表 I-8	69

II. 本学の管理運営の在り方及び組織並びに機構に関すること

1 文学研究科委員会開催状況	表 II-1	(省略)
2 経済学研究科委員会開催状況	表 II-2	(省略)
3 社会福祉学研究科委員会開催状況	表 II-3	(省略)
4 文学部教授会開催状況	表 II-4	(省略)
5 経済学部教授会開催状況	表 II-5	(省略)
6 社会福祉学部教授会開催状況	表 II-6	(省略)
7 短期大学部教授会開催状況	表 II-7	(省略)
8 共通科目部門会議開催状況	表 II-8	(省略)
9 言語教育部門会議開催状況	表 II-9	(省略)
10 教職部門会議開催状況	表 II-10	(省略)
11 大学評議会開催状況	表 II-11	(省略)
12 部局長会議開催状況【新規】	表 II-12	(省略)
13 企画運営会議開催状況	表 II-13	(省略)
14 教学会議開催状況	表 II-14	(省略)
15 学則諸規程委員会開催状況	表 II-15	(省略)
16 全学危機管理委員会開催状況	表 II-16	(省略)
17 自己点検評価・内部質保証委員会開催状況	表 II-17	(省略)
18 教員評価委員会開催状況	表 II-18	(省略)
19 インスティテューショナル・リサーチ委員会開催状況	表 II-19	(省略)
20 学生支援委員会開催状況	表 II-20	(省略)
21 広報委員会開催状況	表 II-21	(省略)
22 研究倫理委員会開催状況	表 II-22	(省略)
23 図書館運営委員会開催状況	表 II-23	(省略)
24 FD委員会開催状況	表 II-24	(省略)
25 スミス・ミッションセンター運営委員会開催状況	表 II-25	(省略)
26 国際教育推進委員会開催状況	表 II-26	(省略)
27 学生相談専門委員会開催状況	表 II-27	(省略)
28 学習支援推進委員会開催状況	表 II-28	(省略)
29 キャリアデザイン支援委員会開催状況	表 II-29	(省略)
30 社会連携センター運営委員会開催状況	表 II-30	(省略)
31 総合研究センター（研究推進委員会）開催状況	表 II-31	(省略)
31 総合研究センター（経済学部研究資料室運営委員会）	表 II-31	(省略)
32 総合情報センター運営委員会開催状況	表 II-32	(省略)
33 心理臨床センター運営委員会開催状況	表 II-33	(省略)
34 アクセシビリティ支援委員会開催状況	表 II-34	(省略)
35 安全衛生委員会開催状況【新規】	表 II-35	(省略)
36 入学試験センター委員会開催状況	表 II-36	(省略)
37 学長、副学長、学部長等の職務を規定した条項等一覧	表 II-37	(省略)
38 課別職員配置状況	表 II-38	(省略)
39 大学SDの開催状況	表 II-39	(省略)
40 事務職員の研修会等参加状況	表 II-40	(省略)
41 予算説明会出席状況	表 II-41	(省略)
42 北星学園大学の組織・機構図	表 II-42	(省略)
43 大学運営の事務組織・機能図	表 II-43	(省略)

Ⅲ. 本学の財務、施設設備及び環境に関すること

1 資金収支計算書	表Ⅲ-1	145
2 事業活動収支計算書	表Ⅲ-2	146
3 貸借対照表	表Ⅲ-3	147
4 事業活動収支計算書関係比率一覧	表Ⅲ-4	149
5 貸借対照表関係比率一覧	表Ⅲ-5	150
6 大学施設の外部への貸出状況	表Ⅲ-6	151
7 経常費補助金（一般補助）の推移状況	表Ⅲ-7	152
8 経常費補助金（特別補助）の推移状況	表Ⅲ-8	153
9 校地、校舎等の面積一覧	表Ⅲ-9	158
10 講義室、演習室等の面積・規模一覧	表Ⅲ-10	158
11 各講義室の面積・規模・使用状況一覧	表Ⅲ-11	159
12 各演習室等の面積・規模・使用状況一覧	表Ⅲ-12	161
13 語学学習室の面積・規模・使用状況一覧	表Ⅲ-13	162
14 情報処理実習室の面積・規模・使用状況一覧	表Ⅲ-14	163
15 実験・実習室等の面積・規模・使用状況一覧	表Ⅲ-15	164
16 施設の耐久性等の状況	表Ⅲ-16	165
17 情報システム事務室各種ハード・ソフト整備状況	表Ⅲ-17	166
18 各種教具の整備状況	表Ⅲ-18	167
19 校庭等維持管理費の推移状況	表Ⅲ-19	168

Ⅳ. 本学の教育研究活動等の在り方及び目標に関すること

1 専任教員の国内外研修者数及び研修費執行状況一覧	表Ⅳ-1	169
2 専任教員の国内外研修・研究専念者一覧	表Ⅳ-2	170
3 専任教員のサバティカル一覧	表Ⅳ-3	171
4 学部別専任教員の学会発表等の状況一覧	表Ⅳ-4	172
5 学部別非常勤講師出講状況一覧	表Ⅳ-5	173

Ⅴ. 本学の教育課程、教育組織及び教育活動に関すること

1 大学学部開講科目数等一覧	表Ⅴ-1	174
2 大学院科目の科目群別授業科目開講数等一覧	表Ⅴ-2	177
3 教員免許状別取得者数一覧	表Ⅴ-3	178
4 定期試験受験率別授業科目数一覧	表Ⅴ-4	179
5 履修登録者数別授業科目数一覧	表Ⅴ-5	180
6 学籍異動状況	表Ⅴ-6	181
7 修学指導対象者の対応状況	表Ⅴ-7	199
8 入学前の既修得単位等の認定状況一覧	表Ⅴ-8	200
9 卒業時における学科別単位認定状況一覧	表Ⅴ-9	201
10 教員組織一覧	表Ⅴ-10	203
11 専任教員年齢構成一覧表	表Ⅴ-11	204
12 専任教員の学位取得状況	表Ⅴ-12	206
13 専任教員の担当授業時間一覧	表Ⅴ-13	207
14 各種実習室等人員配置一覧	表Ⅴ-14	208
15 ラーニング・コモンズ利用状況	表Ⅴ-15	209
16 教員人事一覧	表Ⅴ-16	211
17 専任教員個別表	表Ⅴ-17	212
18 授業科目別履修者数・成績評価状況・単位修得状況一覧	表Ⅴ-18	(省略)
19 兼任教員個別表	表Ⅴ-19	(省略)

VI. 本学の研究組織及び研究活動に関すること

1 専任教員に配分される研究費	表VI-1	312
2 専任教員の研究旅費	表VI-2	313
3 学内共同研究費	表VI-3	314
4 教員研究費内訳	表VI-4	315
5 学外からの研究費の総額と一人当たりの額	表VI-5	317
6 産学官連携による研究活動状況	表VI-6	319
7 文部科学省科学研究費助成事業等の申請、採択及び受給状況	表VI-7	320
8 文部科学省科学研究費助成事業の受給者一覧	表VI-8	323
9 政府もしくは政府関連法人からの研究助成金の受給者一覧	表VI-9	337
10 民間の研究助成財団等からの研究助成金の受給者一覧	表VI-10	338
11 受託研究費の受給者一覧	表VI-11	339
12 特定研究費支出対象項目別支出状況	表VI-12	340
13 特定研究費予算額・執行額一覧	表VI-13	341
14 学術賞の受賞状況	表VI-14	344
15 学部研究紀要「北星論集」の刊行状況	表VI-15	345
16 専任教員の個人別研究業績一覧	表VI-16	347
17 専任教員の研究業績	表VI-17	352
18 経済学部研究資料室の図書・雑誌等購入状況	表VI-18	370
19 教員研究室	表VI-19	371
20 本学のFD実施状況	表VI-20	(省略)
21 公的監査ガイドライン説明会実施状況	表VI-21	376
22 本学の科学研究費助成授業に係る説明会・研修会実施状況	表VI-22	377
23 個人研究費執行状況	表VI-23	(省略)
24 本学の研究倫理審査承認課題一覧	表VI-24	385

VII. 本学の学生の受入れに関すること

1 学部・学科の特別入試による在籍学生数一覧	表VII-1	386
2 学部・学科の学生定員及び在籍学生数一覧	表VII-2	387
3 大学院研究科の学生定員及び在籍学生数一覧表	表VII-3	388
4 大学院・研究科の入学者の構成一覧	表VII-4	389
5 広告媒体誌の掲出状況と経費等	表VII-5	(省略)
6 各種宣伝活動における動員数状況	表VII-6	(省略)
7 高等学校での説明会及び進路指導部への訪問と参加者の状況	表VII-7	(省略)
8 キャンパス説明会参加者の状況	表VII-8	(省略)
9 学部・学科の志願者・受験者・合格者・入学者数の推移	表VII-9	(省略)
10 学部の入学者の構成	表VII-10	(省略)
11 学部・学科の編入学定員・編入学生数、在籍編入学生数等の推移	表VII-11	(省略)

VIII. 本学の学生の課外活動、厚生及び就職に関すること

1 学生交流会館Kirari利用状況	表VIII-1	413
2 サークル団体状況	表VIII-2	414
3 学生の健康管理状況	表VIII-3	415
4 医務室の利用状況	表VIII-4	416
5 障がいのある学生及び特別な支援を要する学生の状況	表VIII-5	417
6 学生相談センター主催講演会参加状況	表VIII-6	419
7 学生医療互助会給付状況	表VIII-7	420
8 学生の食生活改善プログラム開催状況	表VIII-8	421
9 各種奨学金援助状況	表VIII-9	422
10 大学学部・学科別卒業者の卒業後の状況（状況別・産業別）	表VIII-10	424
11 大学院研究科・専攻別修了者の修了後の状況（状況別・産業別）	表VIII-11	426
12 短期大学部学科別卒業者の卒業後の状況（状況別・産業別）	表VIII-12	428
13 キャリアデザインプログラム等出席状況	表VIII-13	430
14 各種公務員及び公立学校教員の受験・合格状況	表VIII-14	433
15 社会福祉士講座・精神保健福祉士講座受講者の合格率	表VIII-15	436
16 学生ボランティア団体の活動状況	表VIII-16	437

IX. 本学の図書及び学術情報に関すること

1 図書・資料等所蔵状況	表IX-1	438
2 学科・分野別図書・雑誌等受入状況	表IX-2	439
3 図書館の利用状況	表IX-3	441

X. 本学の宗教活動に関すること

1 各種行事等の出席者状況	表X-1	442
2 スミスミッションセンター主催諸行事実施状況	表X-2	443
3 SMC震災ボランティア派遣状況	表X-3	444

XI 本学の国際交流に関すること		
1 国際交流に関する財源状況	表XI-1	447
2 学生及び教員の派遣状況	表XI-2	448
3 学生及び教員の学科別派遣状況	表XI-3	450
4 学生及び教員の受入状況	表XI-4	452
5 学生及び教員の学科別受入状況	表XI-5	453
6 受入交換留学生のためのホームステイ状況	表XI-6	454
7 外国人留学生の奨学金受給率	表XI-7	454
8 国際教育センターイベントおよび国際ラウンジ利用状況	表XI-8	455
XII 本学の社会との連携交流に関すること		
1 大学公開講座の開催状況	表XII-1	457
2 学科・部門等公開講座の開催状況	表XII-2	458
3 社会福祉夏季セミナーの開催状況、社会福祉学部地域連携事業開催	表XII-3	459
4 障害児教育夏季セミナーの開催状況	表XII-4	461
5 学部別研究生の受入状況	表XII-5	462
6 学部別科目等履修生の受入状況	表XII-6	462
7 科目群別科目等履修生の受入状況	表XII-7	463
8 各自治体との連携協定締結・協議状況	表XII-8	464
9 各自治体との連携事業実施状況	表XII-9	465
10 後援会総会・地区別父母懇談会開催状況	表XII-10	466
11 同窓会開催状況	表XII-11	468
12 同窓会主催コンサート・後援会開催状況	表XII-12	469
13 出張講義実施状況	表XII-13	(省略)
XIII その他必要な事項に関すること		
1 各種講座受講者状況	表XIII-1	472
「自己点検評価資料」 点検評価項目		
1 「自己点検評価資料」点検評価項目		473

I 本学の在り方及び目標に関する事

1 北星学園大学の基本理念・建学の精神・ミッションステートメント・各ポリシー・運営計画・運営総括



(表 I-1-①)

基本理念・建学の精神

北星学園大学では、従来、教育目標として、「人間性・社会性・国際性」の育成を掲げてきました。そして2004年度からは、それを十分に活かしつつ、キリスト教を基に創設された北星学園に属す大学として、建学の精神を高等教育によりふさわしい形で展開するために、基本理念を以下のように決めました。

本学は、プロテスタンティズムを建学の精神とする北星学園に属す。北星学園大学の基本は知的誠実である。それは、神の前で自己や自国を相対化し、謙虚に学びつづける姿勢である。「神を畏れることは知識の初めである」(旧約聖書：箴言1章7節)。

自他の人格の尊厳を知り、人間を何かの手段と見ないキリスト教的価値観が、本学の営みの根底に潜む。見識を備え責任を自覚し、社会に貢献する独立人を養成することが、本学の目標である。それは、抑圧や偏見から解放された広い学問的視野のもとに、異質なものを重んじ、内外のあらゆる人を隣人と見る開かれた人間である。

そういう意味での自由を本学は目指している。『真理はあなたがたに自由を得させるであろう』(新約聖書：ヨハネによる福音書8章32節)。

本学は、開学以来、地域・社会・世界に開かれた大学を目標としているのである。

しなやかな精神的骨格を持った、個性ある大学として、時流や利害に流されない独立した人格を学生のうちに育てたいという願いが、この文言には強く込められているのです。

ミッションステートメント

北星学園大学が目指すもの



(表 I-1-②)

北星学園は、その歴史が一世紀を越えてなお創立者サラ・C・スミスの愛と知と技に基づく教育の志を継承しつつ今日に至っています。北星学園大学は、その時代を越えて継承されてきた想いを、今後も教職員・学生の連携に基づき、そこに携わったすべての者において継承し続けるために、この使命を宣言します。

1. 私たち北星学園大学に集う者は、正義と良心に従い、自由に真理を探求し、真理によって自由を得ることを目指します。
2. 私たちは、移りゆく時代の中で、地域・社会・世界の諸情勢に絶えず目を向け、その中における北星学園大学の存在意義を確認し、本学の果たしていく役割を考え、実践することを目指します。
3. 私たちは、世と時代が作り出した、悲惨な出来事に対して、平和と尊厳を作り出していくために、北星学園大学が果たしていく役割を考え、実践することを目指します。
4. 私たちは、北星学園大学における教育・学習・研究から知と技を生み出すとともに、それらが社会において成果を発揮し、社会において貢献できる存在となることを目指します。
5. 私たちは、このような志の下に契約に基づいて集い、そこから愛の献身と批判的精神において、自由な交わりと活動が営まれる北星学園大学であることを目指します。

『求めよ、そうすれば、与えられるであろう』(マタイによる福音書7章7節)

**アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）**

本学は、プロテスタントキリスト教の信仰と伝統に立って、札幌の地に歩み続けてきた学校法人北星学園が設置する大学です。

北星学園の教育の源は、1887年、米国の女性宣教師サラ・C・スミスが「スミス女学校」を開設し、北海道の女子教育に着手したことに遡ります。1962年、社会の要請に応え男女共学の4年制大学を開設しました。

北星学園大学の建学の精神は、キリスト教による人格教育を基礎とし、広く教養を培うとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、応用的能力を発揮させることを目的としています。 高き教養と人格の確立をめざした本学の教育は、多くの有為な人材を世に送り出し、社会の高い評価を得て今日に至っています。

北星を支えるキリスト教精神は、自己を何によって育てるか、自己の一番深いところまで問い続け、考えることにあります。人間としての基本的なあり方と姿勢を問い続けることで、自らの生き方を探し、実践していくことを大切にします。 知性と豊かな人間性を備えていることはもちろん、地域社会の諸情勢やその問題に深い関心を持ち、その発展と問題解決に関わりながら人々とともに生きる姿勢や心を持つような人を求めています。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）

1. キリスト教による人格教育を基礎として、自由・平等・平和の心を得て、知識と知恵を兼ね備えた豊かな『人間性』を有するようになること。
2. 人々とともに生きる心を養い、主体性のある真の教養を身につけ、広く社会に貢献することができる『社会性』を持ちつづけることができるようになること。
3. 様々な国の人々と心を開いて交流し、異なる文化を理解する国際的視野と判断力を身につけた『国際性』を発揮することができるようになること。

文学部のポリシー



(表 I-1-5)

ディプロマ ・ポリシー	1. 人間社会の基本となる「ことば」の学習を通じて、文化、文学、コミュニケーション、心理学、国際関係に関する専門的知識を身につけている。 2. 様々な情報源から問題の本質を見抜く洞察力、自分の考えを論理的に組み立てる論証力、情報を他者にわかりやすく伝える発信力を身につけている。
アドミッション ・ポリシー	文学部では、人間社会の基本となる「ことば」を重視し、その学習を礎としながら、文化、文学、コミュニケーション、心理学、国際関係へと学びを拡げます。英文学科では英語に、心理・応用コミュニケーション学科では日本語に重きを置いています。両学科ともに、 1) 作品、資料、現場などの情報源から問題の本質を見極める洞察力、 2) 自分自身の考えを組み立てる論理構成能力、 3) 自分の考えを他者にわかりやすく伝える情報発信能力を育むため、きめの細かいカリキュラムを整備しています。しかし、主役はあくまでも学生諸君です。我々は、目的意識を持って自主的に学ぶ姿勢を備えた人を求めています。

英文学科のポリシー

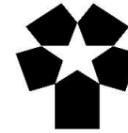


(表 I-1-6)

教育研究上の目的	英語とその背景にある文化や歴史に対する知識を教授するとともに、高度な英語運用能力及び自文化に対する深い理解力を養成し、国際社会において求められる柔軟な対応力とコミュニケーション能力を備えた人材の育成を目的とする。
ディプロマ ・ポリシー (2018年度以前 入学生)	1. 豊かな知識と実践的な英語力を身につけ、文化の架け橋として創造的に活躍する能力を身につけている。 2. 「大学共通科目」の履修によって得られた幅広い視野をもとに、英語とその背景にある文化や歴史に対する知識を身につけている。 3. 行動の基軸としている自国の文化について深い理解があるとともに、ことばの背景にある文化や歴史に対する造詣があり、国際社会において求められる柔軟な対応力とコミュニケーション能力を備えている。
ディプロマ ・ポリシー (2019年度以降 入学生)	英文学科の教育課程を修め、規定の期間以上在学した上で、厳格な成績評価に基づき132単位を修得し、卒業要件を満たした者に対して、卒業を認定し学位 [学士 (英文学)] を授与する。 なお、英文学科を卒業した者は以下の能力を備えていることが期待される。 1. リンガフランカである英語に関する豊かな知識と実践的な英語力 2. 「大学共通科目」の履修によって得られた幅広い視野をもとに、英語とその背景にある文化や歴史に対する知識と洞察力 3. 行動の基軸としている自国の文化について深く理解し、地域・国際社会において文化の架け橋として創造的に活躍するための異文化コミュニケーション能力
カリキュラム ・ポリシー (2018年度以前 入学生)	1. 英米の言語と文化を広く実践的に学べるように、「共通英語科目」、「共通専門科目」、「言語文化概論科目」、「言語コミュニケーション概論科目」、「言語文化コース科目」、「言語コミュニケーションコース科目」、「英語実技科目」、「英語教育科目」を設置している。 2. 「共通英語科目」は1・2年次に配置しているネイティブ・スピーカー中心の基礎英語教育によって、英語の「読解」、「作文」、「会話」の技術教育を体系化している。 3. 1・2年次を中心に配置されている「共通専門科目」、「概論科目」による専門分野の基礎教育を土台として、3年次より「コース専門科目」を設置し、時代のニーズに対応して異なった文化を理解する方法を研究する「言語文化コース」と、コミュニケーションの様々な面について研究する「言語コミュニケーションコース」の2コース制に分かれる。そしてそれぞれのコースにおいて少人数による演習を軸に専門の様々なテーマについて研究する環境を提供している。 4. 「言語文化コース」では、英語圏の文学と文化についてより深く学ぶために、文学史や文学研究、演劇研究、文化研究、専門演習などの専門科目を配置している。 5. 「言語コミュニケーションコース」では、英語という言語とコミュニケーション理論、英語教育についてより深く学ぶために、言語学や英語学、異文化コミュニケーション、国際コミュニケーション、専門演習などの専門科目を配置している。 6. 英語の特殊技能養成のための特別プログラム、すなわち「実技科目」として、通訳や翻訳、スピーチや朗読の技能を専門的に学ぶ科目や、英語による討論能力を養う科目も配置している。 7. 英語の教員養成のための特別プログラム、すなわち「英語教育科目」を設置し、充実した教員養成体制を備えている。
カリキュラム ・ポリシー (2019年度以降 入学生)	英文学科では、文化的知識に裏打ちされた高度な英語運用能力を獲得し、国際社会において求められる見識及び、異文化コミュニケーション能力を備えた人物の育成を目的として、以下のような方針に基づくカリキュラムを編成している。なお、成績評価は、シラバスに記載された明確な評価基準に基づいて厳格に行っている。 1. 1・2年次に配置したCore English Skillsにおいて、ネイティブスピーカー教員による英語の基礎教育を徹底して行う。 2. 1・2年次を中心に配置されている「概論科目」「共通専門科目」により、専門分野の基礎教育を行う。 3. 国際社会で活躍するための基礎力獲得のために、アクティブ・ラーニングを取り入れた少人数教育で展開する科目を各学年に配置している。(続く)

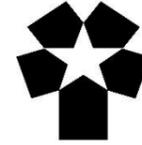


<p>(英文学科続き) カリキュラム ・ポリシー (2019年度以降 入学生)</p>	<p>(続き)</p> <p>4. 3年次よりは、主として小説、詩、演劇等の文学テキストを素材に異なった文化を理解し、人間の本質を探究する「文化・文学コース」、言語学、応用言語学、英語教育学などの知見をもとに言語とコミュニケーションの諸側面について実践的に研究する「言語・コミュニケーションコース」、グローバルな視点からの知識と思考力、異文化コミュニケーション能力の獲得を目指した「グローバル・スタディーズ」の3コース制をとり、少人数の演習を軸に専門の様々なテーマについて研究する科目群を配置している。</p> <p>5. 英語の専門的・実践的スキル養成のための科目群 (Practical English Skills) を配置し、通訳や翻訳、スピーチや朗読、さらには英語による討論能力の養成を行っている。</p> <p>6. 教師養成のための特別プログラムである「英語教師養成科目」ならびに、「日本語教師養成科目」を設置し、充実した教師養成体制を備えている。</p>
<p>アドミッション ・ポリシー (2021年度以降 入学生)</p>	<p>英文学科では、一般選抜のほか、大学入学共通テスト利用選抜、総合型選抜、特別選抜（社会人・帰国生徒・外国人留学生）、編入学選抜等、多様な選抜制度を設け、様々な背景・能力を持つ学生に門戸を広げている。カリキュラムの特徴として、ネイティブスピーカーによる基礎教育を始めとして、英語で行われる授業が多いため、入学前に英文を正しく理解するための文法力や語彙力、リスニング力、英語での表現力をつけておくことを求めている。さらに、卒業研究が必修となっているため、多面的な思考能力とともに論理的思考を持ち、研究論文の作成ができるだけの潜在能力のある人、問題意識を持って主体的に学修を進めることができる資質を持った人を求めている。</p>



(表 I-1-7)

<p>教育研究上の目的</p>	<p>心理学の知見に基づいた人間理解に関する知識を教授するとともに、社会の現場で自ら問題を見つけ出し考え行動する力を養成し、人々の相互理解と協働が求められる社会状況の中で、コミュニケーションの活性化に貢献できる人材の育成を目的とする。</p>
<p>ディプロマ・ポリシー (2018年度以前入学生)</p>	<p>社会人に求められる教養と汎用的能力に加え、学科専門教育の目標である以下のような資質を持った人材を育成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の知見に基づいた人間理解に関する知識を身につけている。 2. 地域や社会におけるコミュニケーションの活性化に貢献できる。 3. 人々の相互理解と協働が求められる社会状況の中で多様な人々と適切な関係を築き、協力して活動することができる。 4. 社会の現場で自ら問題を見つけ出し、考え、行動する力を身につけている。 5. 応用的実践場面において、世の中を広く多角的に見渡す力（空間的センス）と物事を長期的・因果的に考える力（時間的センス）を発揮することができる。
<p>ディプロマ・ポリシー (2019年度以降入学生)</p>	<p>『人の心とコミュニケーションの仕組みを知り、地域や国際的な環境において生かすスキルを身につける』</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の知見に基づいて人間の振る舞いを理解するとともに、自身の振る舞いを調節できる。 2. さまざまなコミュニケーションの在り方を知り、地域や幅広い社会でのコミュニケーションの活性化に寄与することができる。 3. 多様な人々との相互理解と協働が求められる状況の中で、目的の達成に向けて自ら行動し問題を発見することができる。 4. 現場で生じる問題に対し、世の中を広く多角的に見渡す力（空間的センス）と物事を長期的・因果的に考える力（時間的センス）の両面から専門的知識を運用し、解決に向けて柔軟かつ適切に行動することができる。 <p>以上の方針にもとづく要件を満たしたと認められる学生に学位〔学士（心理・応用コミュニケーション学）〕を授与する。</p>
<p>カリキュラム・ポリシー (2018年度以前入学生)</p>	<p>大学共通教育と学科専門教育をバランスよく履修することで、社会人に必要な教養と汎用的能力を身につけます。さらに、学科専門教育の目標達成のために、以下のような教育環境を準備しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理論と現場の融合を目指した教育を実現するため、学外の様々な教育資源を活用するダイナミックな教育体制を整備している。 2. 心理学に基づいた科学的知識の獲得と実践的なコミュニケーション能力の育成のために「心理コミュニケーション科目群」「応用コミュニケーション科目群」「学科共通科目群」の授業を展開している。 3. 「心理コミュニケーション科目群」では、心理学に関連する科目など、人間の心の過程を科学的に探求する能力を養成する授業科目を配置している。 4. 「応用コミュニケーション科目群」では、応用的・対人的科目など、コミュニケーションの現場で活用する応用力と実践力を養成する授業科目を配置している。 5. 「学科共通科目群」では、情報の収集・分析・発信をねらいとして、講義系科目のみならず、実習系・演習系科目も数多く配置している。また、現場でのコミュニケーション感覚を養成するために、1年次の社会活動実習では自主的なボランティア活動を体験し、2年次のフィールド実習では「産業系」「野外系」「教育系」の分野から選択して実習する。就業体験としてのインターンシップも単位化している。 6. 意思を伝える言語としての「書く」「話す」の訓練を徹底し、実用英語技能検定、日本漢字能力検定などの公的検定試験の成果に対して単位を認定し、語学力向上の自主的努力を支援している。 7. 3年次後期の半年間は実質的な必修科目を入れないようにして、海外留学や現場体験などの学生の自主的で自由度の高い学習を保障している（フルフレックス制度）。 8. 学科の学びの集大成として卒業研究を必修化している。論文だけではなく、イベントの企画実践や映像作品の作成、創作活動など多様な卒業研究を認めている。
<p>カリキュラム・ポリシー (2019年度以降入学生)</p>	<p>心理・応用コミュニケーション学科では、理論と現場の融合を目指した教育を実現するため、カリキュラムに実習を大幅に取り入れており、2年次には建築系、農業系、野外系、教育系に分かれ、現場での実習を行っている。また、同年次には、「人間科学科目群」と「地域国際科目群」のどちらかに重きを置く教育を行い、「人間科学科目群」では、人間の心の過程を科学的に探求する能力を養成する授業科目を配置しており、「地域国際科目群」では、応用的・対人的科目など、コミュニケーションの現場で活用する応用力と実践力を養成する授業科目を配置している。</p> <p>3年次から4年次にかけては、学科の学びの集大成として卒業研究を必修化しており、論文だけではなく、イベントの企画実践や映像作品の作成、創作活動など多様な形式を認めている。3年次後期には、必修科目を1科目しか配置しない「フルフレックス制度」を導入し、海外留学や現場体験などの学生の自主的で自由度の高い学習を保障した、最大8ヶ月間を自分でデザインした国内外での活動に充てることことができる。就業体験としてのインターンシップも単位化されている。そして、4年間を通じて、意思を伝える言語としての「書く」「話す」の訓練を徹底し、実用英語技能検定、日本漢字能力検定などの公的検定試験の成果に対して単位を認定し、語学力向上の自主的努力を支援している。</p>



<p>アドミッション ・ポリシー (2021年度以降 入学者)</p>	<p>人の心や思考の仕組みに興味・関心のある人、心理学に興味・関心を持っている人、社会の仕組みや実態を知りたい人、言葉で世界を広げたい人、自らの頭で考え行動して自分を表現したい人、人と人との壁を崩し活かしたコミュニケーションを実践したい人など、意欲と行動力に溢れ自分の可能性を試したい人を求めている。</p> <p>従って、入学前に、英語や日本語などコミュニケーションツールとしての語学力を高め、実用英語技能検定、日本漢字能力検定などの公的検定試験にも挑戦してほしい。さらに、書籍や映画などさまざまなメディアにアクセスし、文化や社会の動き、多くの人々の経験について触れてほしい。なお、心理・応用コミュニケーション学科では一般選抜に加えて、大学入学共通テスト利用選抜、学校推薦型選抜、総合型選抜、特別選抜（社会人・帰国生徒・外国人留学生）など、多様な選抜方法を設けている。</p>
---	---

経済学部ポリシー



(表 I-1-⑧)

ディプロマ ・ポリシー	<ol style="list-style-type: none"> 1. 見識豊かな産業人・社会人として多様な実社会に貢献することができる。 2. 幅広い学識・教養と経済学及び隣接領域の高度に専門的な学問を修得している。 3. 経済学を中心とする社会科学分野の知識・教養を備えた有為な人材として、道内外の民間企業あるいは行政等の各分野で活躍できる能力を身につけている。 4. 経済のグローバル化が進展する中で、時代のニーズに即応することができる。
アドミッション ・ポリシー	経済学部では、基礎的知識の獲得と経済社会の変化に対応できる力の向上を目指した経済学教育を進めており、経済学科、経営情報学科、経済法学科の3つの学科を設置しています。どの学科も経済学を基盤に据えたカリキュラムの展開を行うことによって、見識豊かな産業人、公務員など多様な人材の育成を目指しています。それ故、知的好奇心が旺盛で、且つみずからの将来を主体的に切り拓いていこうという志を持った若者の入学を期待しています。

経済学科ポリシー



(表 I-1-⑨)

教育研究上の目的	社会人となるためにも経済学の学びにおいても必須の基礎的学力を基盤とし、近代経済学分野、歴史・社会分野、国際分野の面から、日本国内外の経済を的確に教授するとともに、地域に貢献できる「国際人」の育成を目的とする。
ディプロマ ・ポリシー (2013～2017年 入学生)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会人基礎力としても経済学の学びにおいても必要な文章表現・外国語・数学的能力を身につけている。 2. 経済学的思考を自らの教養とし、身近な経済的諸問題を理論面からも実証面からも理解する能力を身につけている。 3. 専門性を身につけながらも、現代社会の激しい変化に対応する見識のあるジェネラリストとして、社会の様々な現場で活躍する能力を身につけている。 4. 地球規模のグローバルな視点を持った真の国際人としての豊かな資質を身につけている。
ディプロマ ・ポリシー (2018年以降 入学生)	<p>「知」の魅力に触れ、なりたい「自分」に出会い、「社会の主人公」になろうというモットーに従い、大学共通科目における幅広い教養の学びを基礎とし、学科専門科目の学習課程を通じて、激変する現代社会の状況に対応しながら、卒業後の職業生活や社会生活の各領域において活躍することができる高い見識を備えたジェネラリストを育成する為、以下の項目を充たし、経済学科の教育課程を修め、規定する期間以上在学し、厳格な成績評価に基づき124単位を修得し、卒業要件を満たした者に対して卒業認定を行ない、学位[学士(経済学)]を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高度の体系性を備えた社会科学としての経済学を学び、経済学的思考を自らのものとするを通過して、経済・社会への確かな視座を獲得することができる。更に、理論を体系的に積み上げて理解し、これを踏まえて現実の経済・社会を把握するという学問的視点を身につけることができる。 2. 経済・社会を認識する上で、国と国との国際関係はもとより、国家の枠組みを超えたグローバルな社会連関をも視野に入れ、国内の問題や身近な地域の諸問題に至るまでグローバルな視点から捉えることができる。 3. 必修科目である「新聞活用」や「上級新聞活用」、そして「時事英語」、更には現職ジャーナリストなどによる講義の受講を通じて、とりわけマスメディアを中心としたメディア・リテラシーを身につけることができ、併せて経済学を始めとする社会科学の諸領域において広範且つ多様な情報環境においても言説の当否を見極める力量を備えることができる。 4. 教職課程の科目を併せて履修する者は、経済学科の専門科目における体系的な学びを通じて、教科に関する幅広い知識を獲得することができるだけでなく、経済学の体系的な知見と学問的な基礎力及び見識を身につけ、教育者としての職業人生の長い道のりの中で遭遇するであろう様々な経済・社会の変化や学問的進歩に適確に対応し、授業を絶えず進化させる力量を身につけることができる。
カリキュラム ・ポリシー (2017年度以前 入学生)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 『なりたい「自分」に出会い、「社会の主人公」になろう』とのモットーのもと、経済学の視点を通じて地球と自分の将来を見つめさせるとともに、未来を切り開いていく力を具えたジェネラリストを育てることを目的とし、「共通連携入門科目」、「入門科目」、「基礎科目」、「群科目」、「演習科目」、「選択科目」を配置している。 2. 「共通連携入門科目」では、基礎的なスキルを養成するため、大学共通科目で開講されている「英語」・「数学・統計学」を必修として初年度に配置している。 3. 「入門科目」では、少人数制授業「入門演習」で大学における学習スタイルに慣れ、新入生がスムーズに専門の授業になじんでいけるように配慮している。「基礎経済学」で経済学的思考を、そして「新聞活用」では社会人基礎力を身につけることができる。 4. 「基礎科目」では、理論を無理なく学ぶだけでなく、実証的な歴史も学ぶことができる。 5. 「群科目」では、「近代経済学」・「歴史・社会」・「国際」の3分野の科目群のなかから柔軟に履修することができ、自分なりの関心の所在に出会い、また、それを深めていくことができる。 6. 「演習科目」では、学生と教員の密接なコミュニケーションのもと、専門的知識を深め、また、問題を掘り下げていく力やプレゼンテーション能力を養うことができる。 7. 「選択科目」では、経済学の学びを広げていけるような応用科目を配置している。経済学応用分野の科目、英語力を向上させるための科目、教職や税理士資格にも対応できる科目を履修できる。



(表 I-1-9)

<p>カリキュラム ・ポリシー (2018年度以降 入学生)</p>	<p>ディプロマポリシーに掲げた学科のモットーを基礎として、経済学的見識を身に着けることによって、自己とこれを取り巻く世界の展望を思い描き、将来を自力で開拓してゆく力量を備えたジェネラリストを育成することを目的として、「入門科目」、「基本科目」、「発展科目」、「総合科目」、「演習科目」を配置している。体系的な経済学（大枠組）学習の要は「基本科目」、「発展科目」にあり、ここに「社会経済コース」、「応用経済コース」、「グローバル社会コース」の3コースを設定し、体系的且つ幅広く学習させるカリキュラムを構築した。「入門科目」はこのような学びの準備課程を意味し、「総合科目」は更なる学びの発展を促すものである。少人数教育の象徴である「演習科目」は学科カリキュラムの中核をなし、そこで学問探求の学部段階における完成が図られる、という基本構造になっている。因みに、3コースの設置趣旨は、次のようなものである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「社会経済コース」では、社会・歴史・思想・文化といった多面的な切り口から経済を深く探求することを主眼とする。 2. 「応用経済コース」では、金融・環境・農業・医療など、現代の様々な経済事象を理論的・実証的に分析・探求することを主眼とする。 3. 「グローバル社会コース」では、広く世界に目を向けて、国際社会の一員として政治・社会のグローバルな分析・探求を行なうことを主眼とする。 <p>これらの学科専門科目体系の展開様式は、講義・演習・実習という様式のみならず、アクティブ・ラーニングを更に促す為に、「ディベート」への参加などを通じて、国内外で幅広く学ぶ機会が提供されており、従来の試験を中心とした成績評価に加えて、学外での自己研鑽の賜物としての検定・資格認定を通じた単位取得など、多様な評価を受けることができるものとなっている。</p>
<p>アドミッション ・ポリシー (2021年度以降 入学生)</p>	<p>経済学科では、経済学的思考とグローバルな視座を身に付けることで教養と思考力を具えたジェネラリストたらしめる知的好奇心と、経済を通して広く社会全体を視野に入れて自らの将来像を思い描く意欲と、両方を持ち合わせる学生を求めている。 経済学科での学びに対応するために、学びに対する基本的な姿勢と読解力をはじめとした基礎学力を身に付けてくことを入学者に求めている。</p>



<p>教育研究上の目的</p>	<p>企業経営に関する体系的な理論、経営実務に関する実践的な知識、情報処理に関する最新の技法を教授するとともに、高度で専門的な経営情報活用能力を養成し、経営、マーケティング、会計、情報の各分野で活躍できる人材の育成を目的とする。</p>
<p>ディプロマ ・ポリシー (2018年度以前 入学生)</p>	<p>共通科目群により、多様化社会に柔軟な対応が可能となる学資力を身に付けるとともに、学科専門科目を通して以下に示す専門的なスキルを身に付けることを目的としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ビジネスの理論やスキル、情報の効果的な活用法を身につけている。 2. 企業経営における実践的知識とシステム技術、展開力、応用力を身につけている。 3. ビジネス実践能力と情報活用リテラシーを培い、幅広い企業経営の知識と会計理論、そして即戦力となる情報活用に関する技術を身につけている。 4. 現代の複雑な情報化社会にあって、情報活用能力を習得し、企業経営に経営情報を有効活用できる実践力を身につけている。
<p>ディプロマ ・ポリシー (2019年度以降 入学生)</p>	<p>大学共通科目により、多様化社会に柔軟な対応が可能となる学士力を身に付けるとともに、学科専門科目を通して以下に示す専門的なスキルを身に付け、実践できるようにすることを目的としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ビジネスの理論やスキル、情報の効果的な活用法を身につけ、実際のビジネスで活用することができる。 2. 企業経営における実践的知識とシステム技術、展開力、応用力を身につけ活用することができる。 3. ビジネス実践能力と情報活用リテラシーを培い、幅広い企業経営の知識と会計理論、そして即戦力となる情報活用に関する技術を身につけ、実践できる。 4. 現代の複雑な情報化社会にあって、情報活用能力を習得し、企業経営に経営情報を有効活用できる。 5. 教職課程の科目を併せて履修する者には、経営情報学科の専門教育科目における体系的な学びを通して、教科に関する広い知識を獲得させるのみならず、自ら問題を発見し、問題解決に向き合う態度を身に付けさせ、現代の激しい社会の変化や技術の進歩に適切に対応でき、教職生活の中における様々な困難に対しても、自らその困難を乗り越え、より良い教育を実践できる。 <p>経営情報学科の教育課程を修め、規定する期間以上在学し、厳格な成績評価に基づき124単位を修得し、卒業要件を満たした者に対して、卒業を認定し学位 [学士 (経営情報学)] を授与する。</p>
<p>カリキュラム ・ポリシー (2018年度以前 入学生)</p>	<p>広く教養を身に付けるための共通科目群と専門性を身に付けるための学科専門科目群を4年間にわたってバランスよく配置し、社会で実践的に活躍できるスキルを醸成できるようにしている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代の複雑な情報化社会にあって、企業経営に関する理論、経営実務に関する実践的知識、情報処理に関する最新技法を学ぶとともに、経営情報活用能力を醸成するため、「学科基礎科目」、「学科専門導入科目」、「学科ユニット」、「学科関連ユニット」を配し、段階的な履修を保証している。 2. リテラシー教育と実践実技教育を重視し、「学科実践能力科目」を設置するとともに、各年次に「演習科目」を開講し、少人数で実践的なゼミナール形式の学習機会をより一層充実させている。 3. 効率的かつ効果的な履修年次の配置を考慮した科目群からなる専門領域群として、「学科ユニット」、「学科関連ユニット」を設け、学生の興味や関心が体系的な専門科目の履修に具体化されているようにしている。 4. 学科学生の学問的興味に応じ、経済学部学科間の連携・乗入れを意識的に指向している。 5. 経営 (マネジメント) 分野、マーケティング分野、会計 (アカウンティング) 分野、情報分野、教職課程の5分野で12の履修モデルを導入し、学生が効果的な履修計画を立て意欲を持って学習を遂行できるように配慮している。
<p>カリキュラム ・ポリシー (2019年度以降 入学生)</p>	<p>広く教養を身に付けるための大学共通科目と専門性を身に付けるための学科専門教育科目を4年間にわたってバランスよく配置し、社会で実践的に活躍できるスキルを醸成できるようにしている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代の複雑な情報化社会にあって、企業経営に関する理論、経営実務に関する実践的知識、情報処理に関する最新技法を学ぶとともに、経営情報活用能力を醸成するため、「学科基礎科目」、「学科専門導入科目」、「学科専門科目 (基礎)」、「学科専門科目 (応用)」を配し、段階的な履修を保証している。 2. リテラシー教育と実践実技教育を重視し、「学科実践能力科目」を設置するとともに、1年次に「基礎演習」を、3～4年次に「専門演習」を開講し、少人数で実践的なゼミナール形式の学習機会をより一層充実させている。 3. 効率的かつ効果的な履修年次の配置を考慮した科目群からなる学科専門教育科目として、1～2年配当の「学科専門科目 (基礎)」、3～4年次配当の「学科専門科目 (応用)」を設け、学生の興味や関心が体系的な専門科目の履修に具体化されているようにしている。 4. 学科学生の学問的興味に応じ、経済学部学科間の連携・乗入れを意識的に指向している。 5. 経営 (マネジメント) 分野、マーケティング分野、会計 (アカウンティング) 分野、情報分野、教職課程の5分野で履修モデルを導入し、学生が効果的な履修計画を立て意欲を持って学習を遂行できるように配慮している。 <p>講義形式だけでなく、アクティブ・ラーニングや産学連携プロジェクト等による学びを取り入れた少人数教育で展開する科目を各学年で展開する。シラバスに記載された明確な評価基準に基づいて厳格な成績評価を行う。</p>



(表 I-1-⑩)

<p>アドミッション ・ポリシー (2019年度以降 入学者)</p>	<p>経営情報学科では、経営、情報、マーケティング、会計の専門的な知識や技能を駆使し、企業経営の様々な場面で自らのアイデアを具現化することで、豊かな社会の創造に寄与できる人物の育成を目標としており、カリキュラムでは「学科実践能力科目」を設置し、少人数のゼミナール形式や産学協働も含む実習形式の学習を多く取り入れる等、実践性の高い内容となっているため、高等学校卒業程度の情報や経済についての知識を有した以下のような人を求めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 広く国内外の企業経営に関連する情報に深い関心を持ち、そこで起きている問題や課題について、多面的かつ論理的思考ができる人。 2. 積極的に企業経営における課題解決のために行動し、多様な人々と協働しつつ、その課題解決に参加していきたいという積極的な思考を持っている人。 3. 企業経営上の課題解決のために必要な新しい技術やスキルに関心を持ち、その応用に興味のある人。 4. 上記1～3のような人物を社会に輩出すべく、子供たちの教育にたずさわる意欲のある人。 <p>また、高等学校等において修得した基礎的な知識・技能、それらを活用する能力、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度などを多面的・総合的に評価する入学者選抜を行う。</p>
---	---



<p>教育研究上の目的</p>	<p>経済学と法律学から成る学科専門科目群の中から、公共法政策、経済分析、企業法務、金融・財政、法律総合等の領域に関する専門知識を学修し、必要な実践的な能力と倫理観を備えた、社会に有為な人材の育成を目的とする。</p>
<p>ディプロマ・ポリシー (2017年度以前入学生)</p>	<p>大学共通科目の履修によって身につけた幅広い教養を活かすとともに、経済学と法律学の視点から専門的な問題解決能力や資質を持つ人材を育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学と法律学を学び、経済や法律が生活に与える影響を正しく理解でき、広い視野を持つことができる。 2. 経済の知識を備えた法律のスペシャリスト、リーガルマインドを備えた経済のスペシャリストとして、実社会で活躍できる能力を身につけている。やや具体的にいえば、本学科の例えば金融志望の卒業生は、法学知識だけではなく、経済学、会計学の知識を備え、実践的な能力を身につけている。 <p>また、公務員志望であれば、こちらも単に法学知識だけではなく、経済学なかでも財政学の知識を備え、より広い視野にたって公務員としての任務遂行に当たることができる。</p>
<p>ディプロマ・ポリシー (2018年度以降入学生)</p>	<p>『経済と法との出会い・学びが未来を変える』</p> <p>大学共通科目で幅広い教養と発想を学んだうえで、経済学と法律学から成る学科専門教育科目の中から、キャリア形成を行うために必要な知識体系の基盤を構築している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生各自が価値観、興味関心を明確に意識したうえで、理想とするキャリア形成に適したコースを、5つのコース「公共法政策」「経済分析」「企業法務」「金融・財政」「法律総合」の中から選択・学修することで、自らの視点で社会の動向を分析・予測し、人生を開拓できる力を修得している。 2. 経済や法律の知識をベースに、実社会で活躍できる能力を身につけている。やや具体的にいえば、例えば金融志望の卒業生は、経済学と法学の知識を備え、多様な能力を発揮できる。また、公務員志望であれば、法学知識だけではなく、経済学なかでも特に財政学の知識を備え、より広い視野にたって公務員としての任務遂行に当たることができる。 3. 獲得した経済学、法律学の知識と経験を活かし、中学・高校において教員として後進の指導にあたることもできる。 <p>以上のような能力を身に付け、経済法学科の教育課程を修め、規定する期間以上在学し、厳格な成績評価に基づき124単位を修得し、卒業要件を満たした者に対して、卒業を認定し学位〔学士（経済法学）〕を授与する。</p>
<p>カリキュラム・ポリシー (2017年度以前入学生)</p>	<p>社会人としての教養に加え実践的に活躍できる人材を育成するために大学共通科目と学科専門科目をバランスよく配置している。学科専門科目においては、基礎力を養成する”塾”によって学修の土台を固め、多彩な専門科目を分野ごとのユニットにまとめることで学生の志望や進路に応じた選択・履修をガイドすると同時に、前提科目制度によって体系的な学修を保障することで、学科専門教育の目的を達成するための教育環境を準備している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リーガルマインドを備えた経済のスペシャリスト、経済学のセンスを備えた法律のスペシャリストを養成するために、経済、法律、会計に関連する学科の専門科目を九つのユニットにグループ化している（①理論経済ユニット、②金融・財政ユニット、③経済・経営ユニット、④公法基礎ユニット、⑤政策法務ユニット、⑥民事法基礎ユニット、⑦企業法務ユニット、⑧司法実務ユニット、⑨アカウンティングユニット） 2. 経済学、法律学、会計学のいずれについても学習する機会を保障する。 3. 本学科の専門科目には、選択必修も含めて必修科目はない。すなわち、すべて自由選択であるが、その代わりに、下記履修モデルと前提科目制および一定の履修制限によって体系的に履修がなされるようにしている。 4. 各自の知的好奇心と学修ニーズに応える多彩な専門科目のユニットを、5つの履修モデル（①公務員志望、②司法書士・行政書士志望、③公認会計士・税理士志望、④国税専門官志望、⑤金融・保険・証券業志望）を参考に積み上げることにより、希望の進路への効果的な学修をサポートする。例えば、公務員志望であれば、〈理論経済〉〈金融・財政〉〈経済・経営〉〈公法基礎〉〈民事法基礎〉〈政策法務〉の各ユニットを積み上げる。
<p>カリキュラム・ポリシー (2018年度以降入学生)</p>	<p>ゆたかな人間性を育む大学共通科目と社会人としてのキャリア形成に必要な学科専門科目をバランスよく配置する。学生は、大学で学修するための基礎力を養成する少人数の“塾”と学科基礎科目を通じて学修の土台を固めることから始め、それぞれの知的関心と将来の志望を踏まえて、より専門性の高い科目群からなる5つのコースから1つのコースを選択し、学科専門科目を学修していく。低年次から開講される専門演習において、専門科目で身につけた知識とスキルを実践の場でさらに磨く。また、学生に適切なコース選択をガイドするために、教員が個々の学生を丁寧にサポートする体制を用意するとともに、専門科目を体系的に学修することを保障するための前提科目制度を設ける。また、各科目のシラバスに記載された明確な評価基準に基づいて厳格な成績評価を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学の学修を無理なく円滑に進めていくために必要な力を養う基礎力養成塾と学科専門科目への入門または導入として学科基礎科目を置く。 2. 学生の多様な知的関心と将来の志望に柔軟に対応するため、経済学と法律学を適切に組み合わせた学科専門科目群から構成されている5つのコース（①公共法政策コース、②経済分析コース、③企業法務コース、④金融・財政コース、⑤法律総合コース）を置く。 3. 各コースで身につけた知識や技術やセンスを実践的に活用し、ステップアップするための場として切れ目なく演習科目を置く。 4. コースを超えた幅広い知的関心に応えるとともに、より高度な専門性を養うためにコース共通科目を置く。 5. 学科基礎科目とコース科目に選択必修科目を設定し、コース修了のための最低修得単位を定めるとともに、前提科目制度や履修制限によって体系的な学修を保障する。



(表 I-1-①)

<p>アドミッション ・ポリシー</p>	<p>経済法学科では、経済学と法律学のコアとなる知識とスキルを確かなものとし、それを基盤としたより高度な専門知識を身につけるとともに、経済や法律にかかわる幅広い社会・経済活動に不可欠な実践的な能力と職業上の倫理観を形成する。そのために経済法学科では、高校卒業程度の経済と法についての知識を有した次のような人を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人権と多様性を尊び、国の公共政策や地域のまちづくりにかかわる意欲のある人（公共法政策コース） 2. 様々な経済・社会問題に関心を抱き、経済学的な分析を通じて個人や社会にとって望ましい（合理的な）解決法を見出すことに意欲のある人（経済分析コース） 3. 企業の組織や活動に関心があり、企業における意思決定の仕組みやリスク管理・契約などの法実務を学ぶ意欲のある人（企業法務コース） 4. 経済を巡るおカネの動きや国の財政について関心があり、資金の流れに関与することで社会の発展に貢献していきたい人（金融・財政コース） 5. 正義や権利の価値に重きをおき、法律にかかわる資格の取得や裁判制度に強い関心のある人（法律総合コース） 6. 地理・歴史、公民に興味があり、民主社会の将来の担い手である子どもたちの教育にたずさわる意欲のある人（教職） また、高等学校等において修得した基礎的な知識・技能、それらを活用する能力、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度などを、多面的・総合的に評価する入学者選抜を行う。
--------------------------	--

社会福祉学部のポリシー



(表 I-1-12)

ディプロマ ・ポリシー	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉学部では、人を支援する場合に求められる基本的な姿勢と、そのために求められる深い人間理解を身につける。 2. 人を支援する場は、社会の複雑化とあいまって、多様に広がっている。それは、福祉を必要とする人々のニーズの多様化でもある。そうした多様なニーズを、それぞれの支援の場において分析・把握し、その充足を目指すための、対人関係サービスの専門家たる能力を身につける。 3. より具体的には、社会福祉分野や各種行政部門で個別援助・地域計画・地域組織化に従事するといった場合についてはもとより、一般企業においても企業内や対外的な企業活動における様々な場面において、福祉的支援の要請に応えられる知識と姿勢と対人能力を身につける。
アドミッション ・ポリシー	<p>社会福祉学部では、社会福祉分野及び各種行政部門で、専門職として対人関係サービスに従事する人材を社会に送り出すために、社会福祉学はもとより、社会学、心理学、経済学を含めた隣接領域の専門的な知識や技術の修得を目指します。</p> <p>社会福祉学部には福祉計画学科、福祉臨床学科、福祉心理学科の3つの学科を設置し、それぞれ相互に関連しあう共通の教育課題と目標を持ちながら、社会福祉分野における有為な人材養成を目指して教育に取り組んでいます。</p>

福祉計画学科のポリシー



(表 I-1-13)

教育研究上の目的	社会福祉制度・政策の知識を教授するとともに、調査・分析能力や国際感覚を養成し、コミュニティーソーシャルワーカーや福祉マインドを持った企業人及び公務員として活躍できる人材の育成を目的とする。
ディプロマ ・ポリシー (2018年度以前 入学生)	<p>現代社会の要請に対応できる人材の育成を目的としています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉マインドをもって民間企業や国家・地方の公的機関に従事する人材、さらにNPO や教育機関などで活躍できる人材としての能力を有している。 2. 福祉サービスを必要とする人びとの視点で、側面から援助したり、福祉的施策に関するプランを策定しサービスを提供することができる能力がある。 3. 地域で住民や公的機関と協働し、ニーズを統計的に把握し、主体的に問題を解決することができるコミュニティー・ソーシャルワーカーとして活躍できる能力がある。 4. 社会福祉制度・政策の知識を有し、国際比較を踏まえて分析する能力を有している。
ディプロマ ・ポリシー (2019年度以降 入学生)	<p>福祉計画学科では、「地域(みんな)でつなぐ、地域(まち)をつくる」をモットーに、現代社会の要請に対応ができ、北海道の地域性および国際感覚を身につけて活躍できる人材養成を行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「福祉マインド」をもって民間企業や国家・地方の公的機関に従事する人材、さらにNPO や教育機関などで活躍することができる。 2. 福祉サービスを必要とする人びとの視点で、寄り添いながら援助を行い、福祉的施策に関するプランを策定し、サービスを提供する能力を身につけることができる。 3. 地域で住民や公的機関と協働し、ニーズを統計的に把握し、主体的に問題を解決するコミュニティー・ソーシャルワーカーとして活躍することができる。 4. 社会福祉制度・政策の知識を有し、国際比較を踏まえて分析する能力を身につけることができる。 <p>以上のような能力を身に付け、福祉計画学科の教育課程を修め、規定する期間以上在学し、厳格な成績評価に基づき124単位を修得し、卒業要件を満たした者に対して、卒業を認定し学位 [学士 (福祉計画学)] を授与する。</p>
カリキュラム ・ポリシー (2018年度以前 入学生)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の制度・政策に関する幅広い知識を得るために、経済学・法学系のカリキュラムを設置する。 2. 社会福祉政策の実施に際し、ニーズの把握等に関わる知識や技能を得るための資格を取得しうるカリキュラムを展開する。 3. 福祉計画学科独自の科目群として、社会保障を中心に、社会福祉に関わる計画・政策・財政・法律・社会福祉調査・コミュニティー・NPO・公的部門の経済活動を学ぶ科目など、地方分権と高齢社会に対応した地域の福祉計画策定のための科目を用意し、福祉をマクロ的視点から学ぶ。 4. 4つの体験型・参加型学習 (コミュニティーワーク実習、海外福祉事情、社会福祉調査実習、社会福祉士養成) や、インターンシップへの参加機会を設置する。 5. 学生のプレゼンテーション能力を向上させる科目を設置する。



(表 I-1-13)

<p>カリキュラム ・ポリシー (2019年度以降 入学生)</p>	<p>福祉系学科として、福祉現場だけでなく、国および自治体職員、一般企業、学校教員やNPO等で活躍できる人材として、「福祉マインド」を身につけ、超高齢社会、貧困等の格差社会、マイノリティへの適切な対応が行える知識と能力を身につけ、それぞれの現場およびそれを取りまく地域社会で社会的な役割を担うことができる人材養成を行う。その目的を達成するためのカリキュラムとして「福祉計画基盤科目」「社会福祉士関係科目」「教職・社会教育主事関係科目」を配置する。履修モデルとして「社会福祉士コース」「福祉教育コース」「福祉行政・公共コース」「応用福祉・産業コース」の4コースを設置する。また、各科目のシラバスに記載された明確な評価基準に基づいて厳格な成績評価を行う。</p> <p>「社会福祉士コース」では、社会福祉士国家試験受験資格を4年間で取得できるように、厚生労働省の指定科目を配置する。また、単に社会福祉士国家試験受験資格が取得できるだけでなく、「地域(みんな)でつなぐ、地域(まち)をつくる」に関連する福祉計画基盤科目の履修を通して、地域を強く意識した場での実習の実施や専門職養成を行う。</p> <p>「福祉教育コース」では、本学科で社会福祉制度等を広く学びながら、それらの知識を活かして、広く教育に携わる職業人を養成する。さらに、家庭環境への理解を深め、より適切な生徒指導や教育を実施できるよう資質を高めることを目指す。希望により中学校教諭1種免許状(社会)、高等学校教諭1種免許状(公民)およびこれらを基礎免許とした特別支援学校教諭1種免許状の取得を目指せるよう科目を配置する。</p> <p>「福祉行政・公共コース」では、本学科の特徴である福祉政策系(マクロ)科目と地域関連(メゾ)科目を幅広く学び、併せて社会学・経済学・法学系の科目の履修を推奨している。また、社会教育系の科目も配置し、市町村教育委員会等で社会教育主事を目指すことができる。</p> <p>「応用福祉・産業コース」では、本学科で福祉専門職を目指すのではなく、社会福祉の理論・制度・政策を学んだ上で、少子高齢社会にあって消費者ニーズに対応しうる知識・技能を幅広く学び、それを卒業後の進路で役立てられることを目指す。また、社会調査士資格を目指す過程で、社会調査に役立つ知識・技能が修得できる。</p>
<p>アドミッション ・ポリシー (2019年度以降 入学生)</p>	<p>福祉計画学科では、「福祉マインド」をもって地域社会で活躍したいと願う人を求めている。また、次の5つのことに関心や興味、または能力を身につけたいと考えている人を受け入れたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の制度・政策に関する知識と併せて幅広い分野で活躍できる人材となるために、社会学、経済学・法学・教育学系のカリキュラムを学びたい人。 2. 社会福祉政策の実施に際し、支援を必要としている者のニーズ把握等に関わる知識や技能を得たいと考えている人。 3. 福祉計画学科独自の科目群として、社会保障を中心に、社会福祉に関わる計画・政策・財政・法律・社会福祉調査・国際比較・コミュニティ・NPO・公的部門の経済活動に関する科目や、地方分権と超高齢社会に対応した地域の福祉計画策定のための科目を学び、社会福祉をメゾ・マクロ的視点から見ることのできる能力を身につけたい人。 4. 5つの体験型・参加型科目(コミュニティワーク実習、海外福祉計画実習、社会福祉調査実習、社会福祉士養成、福祉計画インターンシップ)に関心や興味のある人。 5. ソーシャルスキル(文章作成、プレゼンテーション、コミュニケーションの各能力)を向上させたいと考えている人。 <p>これらに関心や興味があり、能力を身につけ、卒業後は、自治体、学校、社会福祉協議会、非営利団体などで地域住民のニーズにあったサービスを総合的に企画・立案し、福祉のまちづくり、福祉・教育・医療におけるサービスの提供に従事することに関心を持つ人、また、民間企業などで高齢者や障がい者等多くの人に利用されるのにふさわしい商品やサービスを開発・提供する仕事を希望している人を求めている。</p> <p>そのため、高等学校等において修得した基礎的な知識・技能、それらを活用する能力、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度などを、多面的・総合的に評価する入学者選抜を行う。</p>



<p>教育研究上の目的</p>	<p>対人援助専門職としての基本的な価値・知識・技術を教授するとともに、多様な実践環境に対応したソーシャルワーク実践能力、実践の中で研鑽・研究する能力を養成し、真に実践力のあるジェネラリスト・ソーシャルワーカーの育成を目的とする。</p>
<p>ディプロマ・ポリシー (2018年度以前入学生)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワーカーとして、人の尊厳と人権を擁護し、社会正義に基づいて広く社会を見つめる視野を持っている。 2. ジェネラリスト・ソーシャルワーカーとして理論的・計画的な実践能力を展開することができる。 3. 人の発達段階を理解し、保健医療分野や在宅から施設まで、多用なクライアントへのソーシャルワーク展開能力を有している。 4. 多様な職場や現場など実践環境に対応したソーシャルワーク展開能力を有している。 5. ソーシャルワーカーとして、日々の臨床実践の中で自ら学習し研究できる能力を有している。 6. ソーシャルワーク・社会福祉を理解した上で、社会における諸課題の解決に向けた実践展開能力を有している。
<p>ディプロマ・ポリシー (2019年度以降入学生)</p>	<p>福祉臨床学科では、本学が規定する在学期間において、各科目の特質に応じた厳正な成績評価に基づき124単位を修得し、次に掲げる諸能力等を獲得することによって卒業要件を満たした者に対して、卒業を認定し学位〔学士(福祉臨床学)〕を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代の流動的な社会において、常に人の尊厳と人権を尊重し、社会正義に基づいて広く社会を捉え・働きかけることのできる人格的な陶冶が成し遂げられている。 2. ソーシャルワークと社会福祉を理解し、地域社会における諸課題の解決に向けて、ジェネラリストまたはスペシャリスト・ソーシャルワーカーとして多様なクライアントの生活環境に応じた理論的・計画的な支援の実践展開能力を獲得している。 3. この社会を担う次世代を教育・支援することの意義を理解し、地域社会の重要な資源としての学校等において、教育指導とソーシャルワークを実践的に展開する能力を獲得している。 4. 社会福祉および教育における多職種連携と協働の重要性を理解し、それぞれの専門的な価値・知識・スキルを相互に理解し合い、実践的に連携・協働して人を支援し、誰もが住みやすい地域社会をつくり出そうとする姿勢を有している。 5. ソーシャルワークと教育の専門職として、日々の臨床実践の中で自ら学習し研究できる能力を獲得している。
<p>カリキュラム・ポリシー (2018年度以前入学生)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ジェネラリスト・ソーシャルワーカーが備えるべき能力を、5群13項目に分類し、専門職養成のための総合的なカリキュラムを構成する。 2. 福祉臨床学科独自の科目群として、社会福祉における援助の基礎理論、方法論、様々な分野別に求められる知識・技術を学ぶ。特に福祉臨床実習を通じ積上げ方式で福祉現場の理解とソーシャルワーカーの役割・実践を理解する。 3. 人の一生の発達段階とそこでの障害を概観する科目を設置する。 4. ソーシャルワーカーの基本的理論・実践枠組みを学習する科目を設置する。 5. 幅広い分野における問題と援助枠組みを学習する科目を配置する。 6. ソーシャルワーカーとしての実践的力を身につけるための科目を積上げ方式で配置する。 7. 研究的力を身につけるための科目を配置する。 8. 性差の問題に関する感覚、人権感覚、社会正義の感覚を養う科目を配置する。 9. 理論的、実践的、研究的かつ人権感覚に溢れたジェネラリスト・ソーシャルワーカーを養成するカリキュラムを展開する。
<p>カリキュラム・ポリシー (2019年度以降入学生)</p>	<p>福祉臨床学科では、人権感覚に溢れた理論的・実践的・研究的な社会福祉と教育の専門職を養成するカリキュラムを展開するために、次の諸点についての科目を設置する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1年次・2年次の全学生を対象に、人の生涯に渡る生活とその環境を捉え、そこで生じる問題や障害・ジェンダー・文化などに伴う偏見と差別の歴史を理解し、人権と社会正義の感覚を養う科目群を設置する。 2. 特に社会福祉領域の専門職養成をねらいとして、人の生活を支援することに対する情熱と目的意識を醸成し、社会福祉の基礎理論・方法論・実践理論についての学びを通して、様々な分野に対応した相談援助の枠組みとソーシャルワーカーが果たす機能と役割について理解する科目群を設置する。 3. 特に学校教育領域の専門職養成をねらいとして、人を育て・教え・導くことに対する情熱と目的意識を醸成し、児童生徒の特性とその生活を理解するとともに、教科に関する学問的知識と指導法についての学びを通して、教育が果たす機能と学校教員の役割について理解する科目群を設置する。 4. 社会福祉及び学校教育領域それぞれの養成において、多様なクライアントや児童生徒とその生活を臨床的に理解し、ソーシャルワーカーや学校教員としての実践的な力を身につけるために、入学年次から卒業年次に渡る段階的な積上げ方式による実習科目を設置する。 5. 3年次・4年次の全学生を対象に、多様なクライアントや児童生徒の生活を支援する際、広く社会を捉えるとともにエビデンスに基づく実践を展開するための研究的な力を身につけるために、様々な研究法について学び、自ら研究を実践するための科目群を設置する。(続く)



<p>(福祉臨床学科 続き) カリキュラム ・ポリシー (2019年度以降 入学生)</p>	<p>(続き) 各科目群においては、それぞれの科目の特質に応じて、講義形式や演習形式、また学外で行う実習形式で展開し、これらの科目においては随時、学生による主体的な学修活動を行わせる。また、実習指導や専門演習などでは、概ね学生20名以下を1クラスとした少人数教育を展開する。これらの科目にはおいては、シラバスに明記された成績評価基準に基づき厳正な単位認定評価を行う。</p>
<p>アドミッション ・ポリシー (2019年度以降 入学生)</p>	<p>福祉臨床学科では、人権感覚に溢れた理論的・実践的・研究的な社会福祉と教育の専門職養成を目的としており、将来、社会福祉援助を専門的に行っている福祉施設（児童・障害者・高齢者のための施設など）、地域・在宅福祉機関（地域包括支援センター、社会福祉協議会など）、相談機関（福祉事務所、児童相談所など）、保健・医療・教育機関（病院・診療所、学校など）などで活躍できるソーシャルワーカーや、ソーシャルワークに精通した学校教員（中学校や特別支援学校の教諭）として従事することを希望する者を求めている。そのため、子供から高齢者までの多様な人々と接し、人を支援することに強い関心を持つとともに、人権や社会正義に反するような社会的諸状況の解決に向けて努力することができる者を求めている。 本学科に入学を希望する者は、他者や社会に関心を持つことによって自ら問いを発し、それを踏まえて自律的に学習することができるスキルが必要である。また、入学者選抜においては、多様な背景を持つ学生の受け入れを行うとともに、本学入学後の修学支援を整備することによって、本学卒業後には多様な人々の支援を行うことができる実践的な人材の養成を行っている。</p>



<p>教育研究上の目的</p>	<p>心理学という学問を通して、科学的なものの考え方を教授するとともに、人間の心や行動を理解し追究する能力を養成し、急激な変化の只中で心理的な問題を抱える人が増加する現代社会の要請に対応できる人材の育成を目的とする。</p>
<p>ディプロマ・ポリシー (2017年度以前入学生)</p>	<p>カリキュラム・ポリシーの項目が十分に習得されていること。すなわち、具体的には、以下の項目が習得されていること。 1. 科学的人間理解の能力、積極的に他者と関わることの出来る感受性、豊かな人間性を身につける。 2. 心理専門科目および心理学実験実習を習得する。 3. 2に必要な意欲、心理学的センス、自ら考える態度を身につける。</p>
<p>ディプロマ・ポリシー (2018年度以降入学生)</p>	<p>福祉心理学科は、科学的な心理学に関する専門的知識と技能を基礎から応用まで幅広く身につけると同時に、心理学的マインドを養い、医療、教育、福祉、産業組織など様々な領域において、地域社会に貢献する実践力と人間性を備えた人材の育成を行う。そして、この目的にそって編成された授業科目について所定の単位数を修得し、以下の能力を持つと認められる学生に対して学位[学士(福祉心理学)]を授与する。また、「高等学校教諭1種免許状(公民)」「特別支援学校教諭1種免許状」の免許取得、および「公認心理師(国家資格)」「認定心理士」の資格取得を奨励する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 心理学および隣接諸科学の理論や概念について幅広く関心を持ち、自己、他者、社会関係などに関する総合的な知識を習得することができる。 科学的な心理学の知識を、医療、教育、福祉などの領域に応用し、実践的に活用することができる。 心理社会的な人間のこころの仕組みやそこに発生する諸問題に関して、心理学の見地から理論的考察を行い、それを適切に表現することができる。 こころの仕組みや病理にかかわる問題を発見し、解決するために、心理学的な知見に基づいて適切な判断をすることができる。 こころの諸問題を検証するために適切な研究計画を設定し、入手したデータを統計的に分析することができる。 日常生活において他者と円滑なコミュニケーションをはかたり、対人援助場面において相談者の心理査定や心理療法を行うために、社会的及び臨床的なスキルを役立てることができる。 心理学および隣接諸科学の専門知識や研究法について、能動的学修や他者との協働的学習によって学ぶ意欲を持っている。卒業後もキャリアを通じて自己研鑽を続け、自らの持つ心理学の知識を応用して、心理社会的な問題に関して解決策を検討することができる。
<p>カリキュラム・ポリシー (2017年度以前入学生)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 科学的な人間理解の能力、積極的に他者と関わることの出来る感受性、豊かな人間性を育む。 専門科目についてはもちろん、統計的な知識を使用して実験や実習についても全国的にも高度なレベルにある密度の濃い教育を展開する。 単なる知識の詰め込みではなく、心理学的なセンスで物事をとらえ、自分の頭で考えることの出来る人材育成を行う。
<p>カリキュラム・ポリシー (2018年度以降入学生)</p>	<p>福祉心理学科は、心理学の様々な領域についての基礎知識の習得、心理学実験や演習を通じた体験的な心理学の学びを通して、科学的な人間理解の能力、積極的に他者と関わることのできる感受性、豊かな人間性を育むことにより、医療、福祉、教育など様々な領域において心理臨床家として対人援助を実践することのできる人材、特別支援学校や高等学校において心理学的なスキルとマインドを備えた教師として教育を実践することのできる人材、企業組織においては科学的な調査にもとづく分析能力と高いコミュニケーション能力を備えた人材を養成する。</p> <p>このような目的を達成するために、福祉心理学科では、科学的な基礎心理学を主体に学ぶ「心理科学コース」と、対人援助実践のための心理学的知識や技能を学ぶ「心理臨床コース」を設け、いずれのコースにも、心理学の体系的・包括的な知識を教授し、こころの諸問題や心理学的現象が発生する要因の分析および解決策を導き出すための、実験、実習、演習、講義科目を配置している。実験・実習科目では、実際に体験して能動的に問題を解決する学習によって科学的心理学の基礎や実践力を徹底して身につけ、演習科目では、少人数による対話を介した学習や能動的学修によって深化した心理学の専門知識やコミュニケーション能力を培う。学習の到達度は、期末試験やレポートの他には授業に参加する積極的な姿勢などをもとに評価される。</p> <p>カリキュラムは段階的に編成されており、1年次は心理学の基礎の学び、2年次は科学的方法論と専門知識の学び、3年次は幅広く専門知識を深化させる学び、4年次はこころの諸問題や諸現象を科学的に分析して論理的に考察する総まとめの学びによって、高い学士力を養成する。</p>
<p>アドミッション・ポリシー</p>	<p>福祉心理学科では、本学科の教育目標を理解し学ぼうとする強い意欲があることを前提として、臨床心理学やカウンセリングなど心の問題の実践的分野に関心のある人、幅広く心理学という学問を学びたい人、人との関わり方に関心のある人、心理学の視点を生活や社会のために生かしたい人を求めている。</p> <p>本学科で心理学を学ぶために、入学前に身につけておくことが求められるのは、論理的な思考力と文章構成力、主題の理解力と表現力、コミュニケーション能力および広い分野の基礎学力などである。入学者の受入れにあたっては、多様な入学者選抜方法で、多元的な評価尺度を用いて、本学科の教育目標に沿った学習に必要な基礎的な能力と資質を重視して評価・判定する。</p>

短期大学のポリシー



(表 I-1-⑯)

ディプロマ ・ポリシー	<ol style="list-style-type: none"> 1. キリスト教による人格教育を通じ、広い教養と、専門の知識・技術を深く修得し、社会において、知的、応用的能力を発揮することができるようになること。 2. 愛と奉仕に生きる自由な人間という、人間の基本的なあり方と姿勢を問い続け、自らの生き方を探求し、実践していくことができるようになること。 3. 知性と豊かな人間性を備え、社会の諸情勢や問題に深い関心を持ち、その発展と問題解決に関わる姿勢や心を持ち続けることができるようになること。
アドミッション ・ポリシー	<p>本学は、プロテスタントキリスト教の信仰と伝統に立って、札幌の地に歩みを続けてきた学校法人北星学園が設置する短期大学部です。</p> <p>北星学園の教育の源は、1887年、米国の女性宣教師サラ・C・スミスが「スミス女学校」を開設し、北海道の女子教育に着手したことに遡ります。1951年、英文科の第1期生を迎えて北星学園女子短期大学を開設しました。「地域の生活や社会の改善の礎となる人材を育成したい」この想いを胸に、北星学園女子短期大学は向学の志ある女子に学びの場を提供し続け、2002年には大学キャンパスへ移転し、男女共学となりました。</p> <p>北星学園大学短期大学部の建学の精神は、キリスト教による人格教育を基礎とし、広く教養を培うとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、応用的能力を発揮させることを目的としています。高き教養と人格の確立をめざした本学の教育は、多くの有為な人材を世に送り出し、社会の高い評価を得て今日に至っています。</p> <p>北星を支えるキリスト教精神は、自己を何によって育てるか、自己の一番深いところまで問い続け、考えることにあります。人間としての基本的なあり方と姿勢を問い続けることで、自らの生き方を探し、実践していくことを大切にします。知性と豊かな人間性を備えていることはもちろん、地域社会の諸情勢やその問題に深い関心を持ち、その発展と問題解決に関わりながら人々とともに生きる姿勢や心を持つような人を求めています。</p>

英文学科のポリシー



(表 I-1-⑰)

教育研究上の目的	生きた英語とそれを支える文化、さらに英米文化のみならず広範な分野にわたる専門教育を実践的に教授するとともに、総合的な英語運用能力と豊かな国際感覚を養成し、広い視野と判断力及び適切なコミュニケーション能力を備えた人材の育成を目的とする。
ディプロマ ・ポリシー	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実践に重点を置いた「生きた英語」を身につけ、豊かな国際感覚を有している。 2. 世界に通じるコミュニケーション手段としての英語の基本的な能力である、「聴く・話す・読む・書く」を磨き、さらに「知る・使う」能力を身につけている。 3. 英語を通じ、様々な国の人々と心をひらいて交流し、国際的視野と判断力を養い、社会に奉仕・貢献することができる。 4. 社会人としての教養と実践的知識を身につけている。
カリキュラム ・ポリシー (2018年度以前 入学制)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全員が「英語と日本語で高い教養知識」を吸収し、「英語による自己表現力」を高めるよう科目を展開する。 2. 1年次に基本的な英語運用能力、「聴く・話す・読む・書く」能力を最大限に伸ばす科目を設置する。 3. 2年次にはSociology (社会学)、History (歴史)、Anthropology (人類学)、Geography (地理)、Life Science (ライフサイエンス) 等の「英語による講義科目」を展開する。 4. 「世界共通語」としての英語の様々な種類に触れながらコミュニケーション能力を高めることができるように、インターナショナル・チューター・プログラムを導入し、「人間と人間の触れあい」を大切に学習環境を提供する。 5. それぞれの学生のニーズに合った学習を進めるよう、「スタディ・スキル」の科目を設置し、アカデミック・アドバイザーによる定期的な個別指導を実践する。
カリキュラム ・ポリシー (2019年以降 入学制)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全員が「英語と日本語で高い教養知識」を吸収し、「英語による自己表現力」を高めるよう科目を展開する。 2. 1年次に基本的な英語運用能力、「聴く・話す・読む・書く」能力を最大限に伸ばす科目を設置する。 3. 2年次にはAnthropology (人類学)、Geography (地理)、Life Science (ライフサイエンス)、Ainu and Maori Studies (アイヌとマオリ研究)、Intercultural Communication (異文化コミュニケーション)、International Business (国際ビジネス)、Introduction to Sports Theory (スポーツ概論) 等の「英語による講義科目」を展開する。 4. 「世界共通語」としての英語の様々な種類に触れながらコミュニケーション能力を高めることができるように、インターナショナル・チューター・プログラムを導入し、「人間と人間の触れあい」を大切に学習環境を提供する。 5. それぞれの学生のニーズに合った学習を進めるよう、「スタディ・スキル」の科目を設置し、アカデミック・アドバイザーによる定期的な個別指導を実践する。
アドミッション ・ポリシー	<p>英文学科では、生きた英語とそれを支える文化、さらに英米文化のみならず広範な分野にわたる専門教育を実践的に教授するとともに、総合的な英語運用能力と豊かな国際感覚を養成し、広い視野と判断力及び適切なコミュニケーション能力を備えた人材の育成を目的としています。</p> <p>英語運用能力の「聴く」「話す」「読む」「書く」という基礎力を最大限に伸ばし、さらに、「知る」「使う」といった応用能力を身につけることを目指します。英米人の英語だけでなく、英語を国際語ととらえ、インターナショナル・チューターに接する機会を持ち、自分の意見を伝える力を備え、さまざまな英語や文化を理解し、寛容な姿勢を学びます。また、英語を通して、幅広い分野の学問を探究する姿勢や、社会で英語を使って仕事をするための知識や英語運用能力を育成します。</p> <p>生きた英語そのものとそれを支える文化を学び、英語による自己表現力を高め、国際性を身につけたい人を求めています。</p>



<p>教育研究上の目的</p>	<p>人の生活を総合的、複合的、科学的にとらえるための知識・技術を教授し、生活に存在する問題を発見して適切に表現する能力、そして新しい生活方法を発想、実践する能力を養成し、主体的、能動的に生活の知的創造ができる人材の育成を目的とする。</p>
<p>ディプロマ ・ポリシー</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人の生活を総合的・複合的・科学的にとらえる知識・技術を有し、生活に内在する問題を発見して適切に表現する能力、そして新しい生活方法を発想、実践する能力を持ち、主体的・能動的に生活の知的創造ができる。 2. 時代のニーズを敏感に察知する感受性と、社会人として求められる知識、他者と協調できる豊かな人間性と表現力を獲得する。
<p>カリキュラム ・ポリシー (2018年度 入学生)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一般教育科目、専門科目に多様な分野の科目を開設し、現代の生活に関わる基礎的な事柄や問題を知り、生活を総合的、複合的、科学的にとらえることができるようにする。 2. 学生が興味や関心を持っている分野の専門知識や技術の学習を軸として、生活の問題を掘り下げていくことができるように、履修モデルを提示する。 3. 時代のニーズに合わせた履修モデルとして、生活心理、生活文化、生活福祉、経済・経営、くらしと経済、情報システム、住居・インテリアデザイン、クリエイティブデザインの8つがある。学生は、履修モデルに共通する理解力、思考力、感受性、表現力をそれぞれの分野の学習を通して修得する。 4. 履修モデルの各分野の専門的知識や技術を修得すると共に、相互の関連する科目を自由に学ぶことが可能で、多角的なものを見方を養うことができるようにする。 5. 少人数制の講義や演習、実習を展開し、学生一人ひとりにきめ細かい支援を行う。 6. さまざまな問題を自ら解決する能力、そのプロセスにおいて他者と協調できる豊かな人間性と表現力を獲得することを目的とした科目を置く。 7. 社会人として求められる知識、自己のキャリア探求に必要な知識を教授する科目を置く。
<p>カリキュラム ・ポリシー (2019年度以降 入学生)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一般教育科目、専門科目に多様な分野の科目を開設し、現代の生活に関わる基礎的な事柄や問題を知り、生活を総合的、複合的、科学的にとらえることができるようにする。 2. 学生が興味や関心を持っている分野の専門知識や技術の学習を軸として、生活の問題を掘り下げていくことができるように、履修モデルを提示する。 3. 時代のニーズに合わせた履修モデルとして、生活心理、生活文化、生活福祉、経済・経営、情報システム、住居・インテリアデザイン、クリエイティブデザインの7つがある。学生は、履修モデルに共通する理解力、思考力、感受性、表現力をそれぞれの分野の学習を通して修得する。 4. 履修モデルの各分野の専門的知識や技術を修得すると共に、相互の関連する科目を自由に学ぶことが可能で、多角的なものを見方を養うことができるようにする。 5. 少人数制の講義や演習、実習を展開し、学生一人ひとりにきめ細かい支援を行う。 6. さまざまな問題を自ら解決する能力、そのプロセスにおいて他者と協調できる豊かな人間性と表現力を獲得することを目的とした科目を置く。 7. 社会人として求められる知識、自己のキャリア探求に必要な知識を教授する科目を置く。
<p>アドミッション ・ポリシー (2021年度以降 入学生)</p>	<p>生活創造学科では、人の生活を総合的、複合的、科学的にとらえるための知識・技術を教授します。生活の中に潜在する問題を発見し適切に表現する能力、新しい生活方法をのびやかに発想し実践する能力を養成することを目的としています。</p> <p>「生活の知的創造」をキーワードに、実践的な総合科学を追究し、自ら考え、行動し、他者と協働できる人材を育成します。その方法としては、文化、芸術、心理学、社会学、福祉学、経済学、住居・建築学、デザイン、情報技術等を切り口に、生活を論理的、多角的に検証していきます。また、演習・実習形式を活用した少人数教育によって、一人ひとりが主体的に学ぶことのできる環境を整えています。</p> <p>2年という限られた時間の中で、貪欲に学び、幅広い知識と技能を修得しようという志のある人、より豊かに生きていくために、個人と社会のあり方を真剣に考え、行動できる人を求めています。</p>



<p>教育研究上の目的</p>	<p>英語教育その他の社会分野で必要とされる言語文化、英語教育及びコミュニケーションに関する高度な専門的学識と幅広い学際的知識を教授し、かかる分野における高度な専門的職業人の養成及び教育研究者の養成を目的とする。</p>
<p>ディプロマ・ポリシー (2017年度以前入学生)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語圏の言語文化、英語教育、コミュニケーションについて、社会状況の変化を踏まえた高度な専門性と広範な学際的見識を有している。 2. 異なった文化を理解するという言語習得の本来の目的を見据えた幅広い視野と国際的な視野を有している。 3. 言語使用の根本にあるコミュニケーションという人間の営為の基本にまで至る理解を有している。
<p>ディプロマ・ポリシー (2018年度以降入学生)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語圏の言語文化、英語教育、コミュニケーションについて、社会状況の変化を踏まえた高度な専門性と広範な学際的見識を身につけ、活用することができる。 2. 異なった文化を理解するという言語習得の本来の目的を見据えた幅広い視野と国際的な視野を身につけ、活用することができる。 3. 言語使用の根本にあるコミュニケーションという人間の営為の基本にまで至る理解を身につけ、活用することができる。 <p>以上の項目を満たし、言語文化コミュニケーション専攻の教育課程を修め、規定する期間以上在学し、厳格な成績評価に基づき30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査又は特定課題研究の成果の審査及び試験に合格して修了要件を満たしたものに対して修了を認定し学位[修士(言語文化コミュニケーション)]を授与する。</p>
<p>カリキュラム・ポリシー (2017年度以前入学生)</p>	<p>教育課程は、「言語文化研究」「英語教育・コミュニケーション研究」「人間関係論研究」の3分野で構成されています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 言語文化研究分野では、英米の文化と文学に関する言語テキストをてがかりに、その背後に広がる英米文化の深層を理解するとともに、他の英語圏の文化と文学および、西洋文明の根底にあるキリスト教文化についての理解を深めることができます。 2. 英語教育・コミュニケーション研究分野では、言語および非言語メッセージの発信と受信をてがかりに、「言語学」「コミュニケーション学」「英語教育学」の3つの領域から、人々のおりなす相互作用の諸側面について多角的に理解することができます。 3. 人間関係論研究分野では、教育学や心理学といった関連する分野の授業をとおして、言語文化研究分野と英語教育・コミュニケーション研究分野での高度な専門的研究をより豊かで深みのあるものにすることができます。
<p>カリキュラム・ポリシー (2018年度以降入学生)</p>	<p>言語文化コミュニケーション専攻では、文学・文化研究分野、英語教育・コミュニケーション研究分野、人間関係論研究分野の専門性の高い授業を提供し、少人数での特殊演習科目、研究指導を通して修士論文指導を行う。また、成績評価についてはシラバスに記載された明確な基準に基づく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文学・文化研究分野では、英米の文化と文学に関する言語テキストをてがかりに、その背後に広がる英米文化の深層を理解するとともに、他の英語圏の文化と文学および、西洋文明の根底にあるキリスト教文化についての理解を深めることができる。 2. 英語教育・コミュニケーション研究分野では、言語および非言語メッセージの発信と受信をてがかりに、人々のおりなす相互作用の諸側面について多角的に理解することができる。 3. 人間関係論研究分野では、教育学や心理学といった関連する分野の授業をとおして、高度な専門的研究をより豊かで深みのあるものにすることができます。 4. ライフプラン・キャリアプランに応じて、長期履修制度を利用できる。
<p>アドミッション・ポリシー (2017年度以前入学生)</p>	<p>文学研究科では、コミュニケーションを単に言語学習や交渉術の修得にとどめることなく、対象とする文化の歴史的・社会的・経済的背景を考慮することができ、あわせて人間に対する深い関心と理解を兼ね備えた能力を持つ人材育成を教育目標としています。したがって、英米の文化と文学、英語と言語学、英語教育に関心がある人だけではなく、コミュニケーションの根本的な特性にまで考察を深めていこうとする人を求めています。</p>

文学研究科(修士課程)のポリシー



(表 I-1-19)

<p>アドミッション ・ポリシー (2018年度以降 入学生)</p>	<p>言語文化コミュニケーション専攻では、コミュニケーションを単に言語学習や交渉術の修得にとどめることなく、対象とする文化の歴史的・社会的・心理的背景を考慮することができ、あわせて人間に対する深い関心と理解を兼ね備えた能力を持つ人材育成を教育目標としている。 したがって、英米の文化と文学、英語と言語学、英語教育に関心がある人だけではなく、コミュニケーションの根本的な特性にまで考察を深めていこうとする人を求めている。 そのため、入学を希望する者は、英米の文化と文学、語学に関する基礎的知識(学部卒業程度)が必要である。また、高等教育機関において修得した知識、現場での実践等を多面的、総合的に評価する入学者選抜を行う。</p>
---	---

経済学研究科(修士課程)のポリシー



(表 I-1-20)

<p>教育研究上の目的</p>	<p>地域経済と地域行政の問題を的確に理解するとともに、アジア及び欧米等におけるグローバル経済の実態にも精通した高度な専門的職業人の養成を目的とする。</p>
-----------------	---

<p>ディプロマ ・ポリシー (2017年度以前 入学生)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済現象あるいは企業経営の本質を様々な角度から分析できる高度な研究能力と実践的能力を有している。 2. 経済学の領域においては、経済現象を理論的・歴史的・統計的手法を用いて分析できる専門的知識と実践的能力を有している。 3. 企業経営の領域においては、企業組織や経営組織・戦略、マーケティング、あるいは会計や金融の専門的知識を身に付け、グローバル化に伴う経営問題を解決できる実践的な能力を有している。
<p>ディプロマ ・ポリシー (2018年度以降 入学生)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 広い視野に立って経済現象あるいは企業経営の本質を様々な角度から分析できる高度な研究能力とともに、高度な専門性を要する職業人に必要な実践的能力を身につけ、活用することができる。 2. 経済学の領域においては、経済現象を理論的・歴史的・統計的手法を用いて分析できる専門的知識と実践的能力を身につけ、活用することができる。 3. 企業経営の領域においては、経営組織、マーケティング、あるいは会計や金融の専門的知識を身につけ、グローバル化に伴う経営問題を解決できる実践的な能力を身につけ、活用することができる。 <p>以上の項目を満たし、経済学専攻の教育課程を修め、規定する期間以上在学し、厳格な成績評価に基づき30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験に合格して修了要件を満たしたものに対して修了を認定し学位[修士(経済学)]を授与する。</p>

<p>カリキュラム ・ポリシー (2017年度以前 入学生)</p>	<p>教育課程は、理論経済・応用経済・政治経済などの経済学に関する領域、企業経営に関わる経営組織・戦略、マーケティング、会計などの経営学に関する領域があります。探究テーマに応じてメインとなる科目、関連する科目を選択し、次のように専門性を重層的に深めることができます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済現象あるいは企業経営の本質を様々な角度から分析できる高度な研究能力と実践的能力を養成します。 2. 経済学の領域においては、経済現象を理論的・歴史的に解明する専門的知識を身に付けるばかりではなく、統計的手法に基づく政策提言のできる実践的な能力を養成します。 3. 企業経営の領域においては、企業組織や経営組織・戦略、マーケティング、あるいは会計や金融の専門的知識を身に付け、グローバル化に伴う経営問題を解決できる実践的な能力を養成します。
--	--

経済学研究科(修士課程)のポリシー



(表 I-1-20)

<p>カリキュラム ・ポリシー (2018年度以降 入学生)</p>	<p>経済学専攻では、経済学に関する領域、企業経営学に関する領域の専門性を次のように重層的に深め、1年次から論文指導を受け修士論文作成に取り組む。また、シラバスに記載された明確な評価基準に基づいて厳格な成績評価を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 統計や情報等の定量的方法を用いる講義科目と、歴史や思想などの定性的方法を用いる講義科目を開設し、様々な角度から分析できる高度な研究能力と実践的能力を養成する。 2. 高度な研究能力と実践的能力を身につけ、意思決定を行い、学問的貢献に資することができるために、多くの講義科目は少人数による演習形式で行う。 3. 大学院生が公開で修士論文作成に係る報告会を行い、質疑応答する機会を設ける。 4. 先取り科目等履修制度及び早期修了制度を導入しており、より高度な研究能力と実践的能力を兼ね備えた者を輩出する。 5. 大学院生個々のライフプラン・キャリアプランに応じて、長期履修制度を利用できるようにしている。
--	---

<p>アドミッション ・ポリシー (2018年度以降 入学生)</p>	<p>経済学専攻では、高度な研究能力を備えた専門家や専門的職業人の育成を目的とし、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経済や企業経営を研究・分析し評価できる能力を身につけたいと考えている学部卒業生 ・ ビジネスに関わる国家資格取得を目指している学部卒業生・社会人 ・ 経済理論や経営理論を利用して自らの組織をさらに拡充させたいと考えている地域経済の担い手や企業経営の一角を担っている社会人 ・ 最新の経済理論を身につけることで教育内容を充実させたいと考えている中学・高校教員 ・ 日本経済の発展と課題を研究することで、自国経済に活かしたいと考えている外国人留学生を求めている。 <p>そのため、入学を希望する者は、経済学や経営学に関する基礎的知識(学部卒業程度)が必要である。また、高等教育機関において修得した知識、現場での実践等を多面的、総合的に評価する入学者選抜を行う。</p>
---	--

社会福祉学専攻(修士課程)のポリシー



(表 I-1-21)

<p>教育研究上の目的</p>	<p>社会福祉学の専攻領域における高度な専門的学識を教授し、研究能力及び高度な専門職に必要な知識と実践能力を養うとともに、社会福祉及びその隣接領域における専門的職業人の養成並びに教育研究者の養成を目的とする。</p>
<p>ディプロマ ・ポリシー (2017年度以前 入学生)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 広い視野に立って社会福祉学と臨床心理学の分野における高度な専門的学識を有している。 2. 研究能力とともに、高度の専門性を要する職業人に必要な知識と実践能力を有している。
<p>ディプロマ ・ポリシー (2018年度以降 入学生)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 広い視野に立って社会福祉学の分野における高度な専門的学識を身につけ、活用することができる。 2. 研究能力とともに、高度な専門性を要する職業人に必要な知識と実践能力を身につけ、活用することができる。 <p>以上の項目を満たし、社会福祉学専攻修士課程の教育課程を修め、規定する期間以上在学し、厳格な成績評価に基づき30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験に合格して修了要件を満たしたものに対して修了を認定し学位[修士(社会福祉学)]を授与する。</p>



<p>カリキュラム ・ポリシー (2017年度以前 入学生)</p>	<p>社会福祉サービスの体系は、コミュニティを基盤とする実践を中核にしながら、施設・機関を中心にしたミクロ実践および社会全体の福祉資源配分を対象にした福祉計画までを視野に入れた幅広いものです。社会福祉学専攻修士課程においては、これらの包括的な社会福祉実践および分野別の専門性を高める教育・訓練をするために、幅広い科目群を用意しています。加えて、社会福祉研究の第一線で活躍するために、また、社会福祉現場のリーダー、スーパーバイザーにとって必要な分析能力を高めるために必要な研究方法や関連領域の科目群を配置しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本科目、分野別研究、研究方法、関連領域、論文の5科目群を配置し、修士論文を修了要件としています。 2. それぞれの院生の関心領域の研究を追究できるように、子ども家庭福祉研究、障害児・者福祉研究、発達障害研究、精神保健ソーシャルワーク研究、高齢者・高齢社会福祉研究、医療福祉実践研究、地域福祉研究、公的扶助研究の分野別の授業科目を配置し、選択的な履修を可能にしています。 3. 専門的な調査力や分析力を高められるように、質的調査研究、量的調査研究、国際比較福祉研究、ソーシャルワーク実践研究、海外福祉実践研究など幅広い視野から研究方法を身につけられるように配慮しています。 4. 社会福祉研究を狭い福祉サービスの提供に限定せず、広く実地的な視野を持って学びを深められるように、社会保障財政研究、社会保障法研究、特別支援教育研究、社会的弱者研究、偏見・差別問題研究、コミュニティケア政策研究、精神障害学研究の関連領域の科目を配置しています。 5. 1年次後期から論文指導をはじめ、質の高い修士論文の作成にじっくりと取り組めるようにしています。
<p>カリキュラム ・ポリシー (2018年度以降 入学生)</p>	<p>社会福祉学専攻修士課程では、コミュニティを基盤とする実践を中核にしながら、施設・機関を中心にしたミクロ実践および社会全体の福祉資源配分を対象にした福祉計画までを視野に入れた包括的な社会福祉実践および分野別の専門性を高める教育・訓練をするために、幅広い科目を配置している。</p> <p>加えて、社会福祉研究の第一線で活躍するために、また、社会福祉現場のリーダー、スーパーバイザーにとって必要な分析能力を高めるために必要な研究方法や関連領域の科目を配置し、1年次から論文指導を受け修士論文作成に取り組む。また、シラバスに記載された明確な評価基準に基づいて厳格な成績評価を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. それぞれの院生の関心領域の研究を追究できるように、分野別の講義科目を配置し、選択的な履修を可能にしている。 2. 高度な調査力や分析力を修得することができるように、様々な視野からの研究方法を身につけることができるように配慮している。 3. 社会福祉研究を狭い福祉サービスの提供に限定せず、幅広く実地的な視野を持って学びを深められるように、関連領域の講義科目を配置している。 4. 院生個々のライフプラン・キャリアプランに対応できるよう、長期履修制度を導入する。
<p>アドミッション ・ポリシー (2018年度以降 入学生)</p>	<p>わが国では急速な少子高齢化が進行しており、社会保障、社会福祉制度などの諸課題に対して、理念・制度レベルに加え、実践レベルでの解決が求められている。一方で、社会システムの変化や価値観の多様化などが人間関係に変化をもたらし、様々な場面での心理社会的課題の解決が求められている。</p> <p>社会福祉学専攻では、社会福祉学について高度な専門的知識を備え、研究・分析能力を身につけた専門家を指す人を求めている。</p> <p>そのため、入学を希望する者は、社会福祉学に関する基礎的知識（学部卒業程度）が必要である。また、高等教育機関において修得した知識、現場での実践等を多面的、総合的に評価する入学者選抜を行う。</p>



教育研究上の目的	臨床心理学の専攻領域における高度な専門的学識を教授し、研究能力及び高度な専門職に必要な知識と実践能力を養うとともに、高度な心の専門家の養成及び臨床心理学における教育研究者の養成を目的とする。
ディプロマ ・ポリシー (2018年度 ～2019年度 入学生)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 広い視野に立って臨床心理学の分野における高度な専門的学識を身につけ、心の問題について研究することができる。 2. 高度な専門性を要する職業人に必要な知識と実践能力を身につけ、活用することができる。 以上の項目を満たし、臨床心理学専攻の教育課程を修め、規定する期間以上在学し、厳格な成績評価に基づき35単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験に合格して修了要件を満たしたものに対して修了を認定し学位[修士(心理学)]を授与する。
ディプロマ ・ポリシー (2020年度以降 入学生)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 広い視野に立って臨床心理学の分野における高度な専門的学識を身につけ、心の問題について研究することができる。 2. 高度な専門性を要する職業人に必要な知識と実践能力を身につけ、活用することができる。 以上の項目を満たし、臨床心理学専攻の教育課程を修め、規定する期間以上在学し、厳格な成績評価に基づき30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験に合格して修了要件を満たしたものに対して修了を認定し学位[修士(心理学)]を授与する。
カリキュラム ・ポリシー (2018年度 ～2019年度 入学生)	<p>臨床心理学専攻では、高度な心の専門家の養成を主要な目的としている。そのために2年間にわたる実習が、カリキュラムの重要な柱になっている。加えて、研究法をはじめとする幅広い科目を配置し、1年次から論文指導を受け修士論文作成に取り組む。また、シラバスに記載された明確な評価基準に基づいて厳格な成績評価を行う。なお、大学院生個々のライフプラン・キャリアプランに対応できるよう、長期履修制度を導入している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高度な心の専門家として臨床心理学的な援助技術を修得し、適切に実践できる能力を身につける。 2. 臨床心理学または隣接領域に関連する分野について研究する。 3. 実習科目では、クライアントに具体的にどのように心理検査や面接を実施し、適切な援助法を見出すかを、実習体験を通して学ぶ。
カリキュラム ・ポリシー (2020年度以降 入学生)	<p>臨床心理学専攻では、高度な心の専門家の養成を主要な目的としている。そのために2年間にわたる心理実践実習が、カリキュラムの重要な柱になっている。加えて、心理学研究方法論をはじめとする幅広い科目を配置し、1年次から論文指導を受け修士論文作成に取り組む。また、シラバスに記載された明確な評価基準に基づいて厳格な成績評価を行う。なお、大学院生個々のライフプラン・キャリアプランに対応できるよう、長期履修制度を導入している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高度な心の専門家として臨床心理学的な援助技術を修得し、適切に実践できる能力を身につける。 2. 臨床心理学または隣接領域に関連する分野について研究する。 3. 実習科目では、クライアント等に対するアセスメントや適切な援助法について、また多職種連携等について、実習体験を通して学ぶ。
アドミッ ション ・ポリシー (2021年度以降 入学生)	<p>わが国では急速な少子高齢化が進行しており、社会保障、社会福祉制度などの諸課題に対して、理念・制度レベルに加え、実践レベルでの解決が求められている。一方で、社会システムの変化や価値観の多様化などが人間関係に変化をもたらし、様々な場面での心理社会的課題の解決が求められている。</p> <p>臨床心理学専攻では、臨床心理学について高度な専門的知識を備え、研究・分析能力、さらには実践能力を身につける、という専攻の教育目標を理解し、高度な専門性を有する職業人たることを志す人を求めている。</p> <p>そのため、入学を希望する者は、心理学に関する基礎的知識(学部卒業程度)が必要である。また、高等教育機関において修得した知識、現場での実践等を多面的、総合的に評価する入学者選抜を行う。</p>



<p>教育研究上の目的</p>	<p>福祉、保健及び医療の分野の専門職を志望し、またはその職にある修士課程修了者を引き続き教育し、かかる分野における高度な専門的職業人の養成及び教育研究者の養成を目的とする。</p>
<p>ディプロマ ・ポリシー (2018年度以降 入学生)</p>	<p>1. 社会福祉学に関する高度な知見を有するのみならず、臨床心理学等の隣接領域の学際的な知見を持ち、研究課題を多面的かつ学際的に研究できる能力を身につけることができる。 2. 福祉・保健・医療などの分野で職業人として、また教育や学会などを通じて、研究成果を広く社会に還元できる能力を身につけることができる。 以上の項目を満たし、社会福祉学専攻博士〔後期〕課程の教育課程を修め、規定する期間以上在学し、厳格な成績評価に基づき12単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格して修了要件を満たしたものに対して修了を認定し学位〔博士（社会福祉学）〕を授与する。</p>
<p>カリキュラム ・ポリシー (2018年度以降 入学生)</p>	<p>社会福祉学専攻博士〔後期〕課程では、社会福祉学に関する高度な知見、および臨床心理学等の隣接領域の学際的な知見を包摂した専門分野の授業科目を配置し、個々の研究テーマに応じて博士論文作成に至るまできめ細かい指導を行う。 指導教授は研究する上で必要な論文・資料・文献の読解・レビューおよび論理的な考察能力を高めるとともに、自律的研究能力を向上させることができるように、大学院生の主体的学びを保障しつつ、学会や研究会等における発表指導を通じてプレゼンテーション能力開発の支援を行う。</p>
<p>アドミッション ・ポリシー (2018年度以降 入学生)</p>	<p>社会福祉学研究科博士〔後期〕課程では、福祉・保健・医療分野における専門職スタッフを対象とする高度な専門的職業人の育成、大学・短期大学等における社会福祉士養成に関わる教育・研究者の養成を目的としている。 社会福祉学研究科博士〔後期〕課程では、国内外の最先端の研究動向・研究課題について、文献研究能力、プレゼンテーション能力、論文作成能力の向上を目標とする人材を求めている。 そのため、入学を希望する者は、社会福祉学に関する専門的知識（修士課程修了程度）が必要である。また、入学者選抜試験については、海外文献読解能力を測る英語筆記試験とともに、専門知識についての口述試験を行う。</p>



はじめに

2020年度は高等教育の修学支援新制度の開始、大学入試センター試験に代わって新たに2021年度の大学入学共通テストの導入、そして昨年度末に示された「教学マネジメント指針」に基づき、全学的な教学マネジメントの確立に向けて各大学が真剣に検討し取組むよう促されています。加えて私立学校法が改正され、また大学の統合が現実化、就職活動ルールの見直しも決まっております、2020年度を境に高等教育を取り巻く環境が大きく変化します。

また、現在107万人程度の18歳人口は2020年以降急減し、2030年には約100万人、2040年には約80万人にまで減少すると言われております。このような状況の中、高校生・社会（特に高校教員・保護者）から選ばれる大学であり続けるために中等教育部門を持つ総合学園のメリットを生かし、中長期的な視点で戦略的な運営をしていかなければなりません。総合学園として選ばれ続ける学校法人であるべく、『学校法人北星学園 中長期計画～グランドデザイン2020-2040～』が策定されました。その計画に従い大学・短期大学部が「北星ブランドの確立」に向け牽引していきたいと考えています。その中では、大学・短期大学の目指す姿として、以下の通り掲げています。

- ◎ 「北星でなければならない」と、高校生・社会から必要とされる（選ばれる）大学・短大を目指す。
- ◎ 全国から入学志願者を集められるような知名度をもった大学・短大を目指す。
- ◎ 北海道・札幌と、世界・全国を結ぶハブ（拠点）大学・短大を目指す。
- 以上のことを踏まえ、これまでの北星学園（大学・短期大学）の教育エッセンス〔キリスト教に基づく人格教育、人間性・社会性・国際性の育成〕を基礎にして、情報や理数（STE(A)M）教育も加味した、新たな人文社会系の総合大学となる。
- a. 北星ブランドの復興
- b. 教育、研究の見直し
- c. 人間性・社会性・国際性の実質化
- d. 人文科学・社会科学+αを強化する
- e. 社会の変化に対応し、乗り越える人財を育てる

今後、a～eの具体化について検討する。高齢化及び人口の減少、格差の拡大する中、持続可能な社会をつくり支えることができる人財の輩出を目指すとともに、リカレント教育・生涯教育の実践も検討する。

さて、私立大学の置かれている状況は、定員割れとなった全国私立大学の割合（大学：587校中194校33.0%、短大：297校中228校76.8%）（〔2018年度〕大学：582校中210校36.1%、短大：301校中212校70.4%）は大学で引続き減少傾向にあるものの、短期大学は増加し続けています。北海道内私立大学・短期大学の入学定員充足率は、大学が2.05ポイント増の100.79%、短期大学が1.91ポイント減の83.45%と短期大学は充足率が悪化し、入学者確保に苦戦している状況です。

大学の入学定員充足率が回復傾向にあるのは、補助金が不交付となる入学定員超過率の取扱基準が大規模校を中心に厳しくなったことと、東京23区内における定員抑制措置が原因であると考えられます。補助金不交付に係る取扱基準は今後も継続されると思われますが、東京23区内における定員抑制措置は2027年度をもって失効するので、2028年度からまた受験生が首都圏の大学に回帰し、する可能性は否定できません。今後の北海道の18歳人口の減少幅は全国平均よりも大きいため、来るべき時に備えて学部学科再編を含む教育改革を実行し、北海道内での本学のブランド地位を確固たるものにすると同時に、北海道外からも受験生を集めるルートを確立しなければなりません。【出典：平成31年度私立大学・短期大学等入学志願動向／日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センター】

1. 「建学の精神」の継承と実践

学園中長期計画（グランドデザイン）に掲げた目標である「大学・短期大学部の目指す姿【北星ブランドの確立】～2040年に向けて」を基に、今後もこれまでの本学の教育エッセンス（キリスト教に基づく人格教育、人間性・社会性・国際性の育成）を基礎に教育が継続されるよう、あらゆる場面で「建学の精神」と「ミッション」に立ち返りながら大学運営をしていきたいと考えています。

また、日々のチャペルタイムの充実と活性化に向けた努力、各種イベントの実施、スミス・ミッションセンター関係の学生団体の活動支援等を継続し、学生の中にキリスト教の精神への理解を中心とした建学の精神が根付き、豊かに育まれるよう活動を展開します。

2. 教育課程、教育組織及び教育活動

教育課程については、新カリキュラムの完成年度を迎える2021年度及び2022年度まで、コース制の導入を含めた教育改革により、教育内容が可視化され外部に伝わっているか、学生の満足度が向上しているか、学力レベルに変化はあるかなどの点検・評価等を随時行い、一層の充実を図るとともにより良い教育課程の検討を進めていきます。取り分け、Society5.0やSDGs、well-beingの考え方を組み込んだ教育をどの学部学科においても意識的に展開し、全学的に理数教育や情報リテラシー教育の強化に繋がりたいと考えています。また、初年次教育の見直しを進め、体系的な初年次教育の検討にも着手します。加えて、既存の副専攻制度の見直しを進め、学部学科横断型の「国際（英語）コース」等、育てたい人物像に沿った教育プログラムを検討します。

また、昨今の高校教育改革により高校生や高校教員が大学を選ぶ基準も変化してきており、大学から公表される教育の質を示す情報は志望校検討の重要な情報となり、今後は偏差値と並んで「教育力」で大学選びが行われるようになっていわれています。今年度は「教育の質の保証」「学修成果の測定と可視化」について真剣に検討し実現させなければなりません。

学部学科再編については2022年4月の「社会福祉学科」の設置及び「新学科」開設を目指して、学内調整を図りながら本格的に書類作成に取り掛かり、文部科学省への事前相談を経て届出または設置認可の申請に入ります。新たな北星学園大学を全学協力体制で作上げていきたいと考えています。

教育活動については、ピア・サポーター制度、学習支援プログラム等を展開する学習サポートセンターを中心に、様々な取組みが成果を挙げています。今年度も学生の学習活動並びに大学運営の一翼を担う学生活動の更なる進展のための支援を積極的に行います。

3. 研究組織及び研究活動

研究活動の活性化及び研究水準の向上を図るために、組織、制度等に係る諸課題に取り組むとともに、研究環境の整備を継続的に進めます。

本学の研究力向上、研究費の効果的使用、財政基盤の安定のため、今年度から新たな研究費制度を運用します。具体的には個人研究費に関して科研費等外部資金獲得支援加算を新設、傾斜配分申請資格の新設、学会活動支援研究費加算方法の変更を実施します。また、共同研究費の使途についても見直しをしました。これらの改善により、より良い研究活動が展開されることを期待します。教員だけではなく学部学生、大学院生を含めた研究倫理教育も引き続き精力的に実施していくとともに、今以上に教員の研究内容を動画などで広く発信していきます。

<p>4. 教員評価、FD (ファカルティ・デベロップメント) 及びSD (スタッフ・デベロップメント)</p> <p>教員評価については、今年度から試験的に教育・研究・社会貢献・大学運営の総合評価を実施し、諸活動への支援・啓発、教育・研究及び社会貢献等の改善・向上に繋げ、制度を確立させたいと考えています。</p> <p>FDについては、授業を受け持つ教員全員の全学FDへの出席を基本とし、教員の資質向上と能力開発に努めます。また、学生による授業評価アンケート結果に基づいた「モデルティーチング顕彰制度」を通して、教育水準の維持・向上に向けて教育内容・方法及び教育上の効果を定期的に検証し、授業の内容及び方法の改善を図るような効果に繋げるため、活用方法の見直しにも着手しなければなりません。併せて教育効果の浸透のため、相互授業参観を推進していきたいと思えます。</p> <p>SDについては、本格的に教育職員、事務職員の垣根を超えた大学主体のSDが推進される中、本学においても大学運営に携わるスタッフとして全ての教育・事務職員を対象にSDを継続して実施します。引き続き、FD・SDそれぞれの趣旨の共通理解を促すと共に、適切なFD・SDを計画的に実施していきます。</p> <p>なお、「教学マネジメント指針」ではディプロマ・ポリシーに沿った教育を提供するために必要な望ましい教職員像を定義し、役職や経験に応じた適切かつ最適なFD・SDを組織的かつ体系的に実施する必要があるとも示されています。教学IRの整備とともに教学マネジメントを支える基盤として、FD・SDの高度化にも着手していかなければなりません。また、教学IRの整備については、学生情報の一元化及び学生の個人情報利用手続きに係る再整備も含めて検討します。</p> <p>5. 大学運営のあり方及び組織・機構</p> <p>今年度も引き続き、各種委員会組織の肥大化による業務負担増の問題を解消すべく、企画運営会議で委員会の役割の見直し、統合・新設など組織のスリム化について検討します。次々と打ち出される文部科学省の改革施策や社会の変革スピードに素早く対応できる大学運営体制を整備しなければ、今後の大学の生き残りに大きく影響を及ぼすだろうと推測されることから、大学としてのガバナンス、学長のガバナンスの整理と強化及び大学としての意思決定を速やかに行える体制を構築することで、高等教育を取り巻く厳しい現状を乗り越えていきたいと考えています。</p> <p>また、教育の質保証・推進部会から教学マネジメントの確立のための組織の設置について提案がなされていますので、早急に組織構築への検討を進めます。「教学マネジメント指針」にもあるように教学マネジメントの確立に当たっては様々な取組みが必要で、個々の取組みそれぞれを積み上げるだけではなく、学修者本位の教育という目標に向けてそれぞれの取組みを有機的に関連付け、根本的かつ包括的な教育改善に繋げていかなければならず、困難が伴いますが、あらゆる教育改善の取組みが教学マネジメントの確立という一元的な考えの下、統合的に運用できるような仕組みの構築を目指します。</p> <p>事務組織については、課間事務分掌の見直しを継続し、引き続き適正な職員配置数の検討を含め、組織体制の課題等の点検をその都度行っていきます。専門性が求められる業務も増えていることから、適切な人事配置のため配置換えの方針等も含めての検討もしていきます。</p> <p>6. 教育環境及び施設設備、財政</p> <p>教育研究環境の整備については、大学評議会を確認している「事業計画」に基づき、教育展開に支障のないよう整備していきます。</p> <p>財政の現状については、毎年獲得に向け取組んできた私立大学等改革総合支援事業の内容が大幅に再編され、獲得できなくなってきたことや、入学生数の減少により2020年度の収入は2005年度以来の規模に落ち込む見込みです。このことは、教職員全員が真摯に受け止めなければなりません。そのことを受け、予算額の適正化と教育研究の発展に資する予算配分を目的に今年度当初予算編成からヒアリングを実施しています。新規事業の取組み内容によってはヒアリングの結果、増額を認める場合もあることから、より効果的な部分に予算を充当できるような運用が今後期待されます。また、事業(取組み)の撤退条件の設定やスクラップ・アンド・ビルドによる運営の効率化等の検討にも着手します。</p> <p>厳しい財政状況、昨年10月からの消費増税もあり、収入増の方策として大学と大学院の2020年度以降入学生の学費改定を行いました。ただし、授業料収入に頼るだけではなく補助金などの増額方策や削減可能な支出項目の洗い出しなど、収支構造の改善策を並行して検討し、あらゆる方面で出来る限りの収入増と支出削減に取り組めます。また、私立学校にとって寄付金は今後さらに重要なものとなるので、学園として精力的に寄付金獲得を目指すよう要請します。</p> <p>7. 大学広報</p> <p>大学広報については、学内情報の集約方法、広報担当組織のあり方等も含め、発信力強化の検討に着手します。今後、大学だけではなく学園全体の広報も含めて検討できるような体制の構築を法人に提案していきます。また、学科ウェブサイト及び学科パンフレット作成は学科に一任されており、デザイン等にばらつきがあることから、まずは大学としての「トーン&マナー」を構築していきたいと考えています。ゆくゆくは、学園・各学校の広報にもこの考え方を広げていき、学園全体としての広報強化に繋がりたいと考えています。</p> <p>日経BPコンサルティングによる「大学ブランド・イメージ調査2019-2020」においては、昨年度に引き続き北海道内における本学の認知度は高いものの、年代が若くなればなるほど、認知度が低いという結果が出ていますので、昨年度から開始したインターネット広告を効果的に利用し、高校生や保護者を中心に、若い世代から現役の社会人までも認知が高まるような広報を展開します。昨年4月から運用を開始した大学公式Twitterは現在800を超えるフォロワー数を獲得しています。在学生向け情報の出し方や企業向け情報の発信等を検討し、さらなるフォロワー数増、出願・進学に繋がる内容を目指し継続して取り組みます。</p> <p>8. 学生募集</p> <p>今年度から「キャンパス説明会」を「オープン キャンパス」と改め、より多くの来場者数を目指し、名称だけではなく高校生・保護者等参加者の期待に応え得るよう、更なる内容の充実に取り組めます。今年度から新入試制度が始まり、進路指導のスケジュールも変わっていくことが予想されます。実施はできませんでしたが、昨年度初めて第4回目のミニ・オープン キャンパスを計画しました。今後も状況に合わせて柔軟に対応していきます。また、募集活動が厳しさを増す中、学園内高校からの進学者の確保も重要な要素です。学園内高校対象のミニ・オープン キャンパス等をはじめとあらゆる場面で学園内の魅力をアピールしていくとともに、総合型選抜を活かした進学者の確保も検討します。そして、2021年度以降の入学者選抜方法については、文部科学省及び大学入試センターの英語外部検定試験の利用及び国語と数学での記述式問題導入の延期という方針変更を受け、本学においても予定していた利用を変更して実施します。引き続き動向を踏まえながら、入試改革に係るアドミッション・ポリシーの再策定も含め本学の教育理念に合うものとなるよう準備を進めていきます。</p>
--

9. 就職支援

日本経済団体連合会の就職活動ルールの廃止表明を受け、就職活動スケジュールが大幅に変更されていること等を十分に把握し、柔軟な就職支援を展開していきます。就職活動環境や支援ニーズの変動に対応したキャリアデザインプログラム、各種講座・イベント等を展開し、手厚いキャリア教育と就職支援を継続するとともに高校教員をはじめ高校生・保護者等に向け「実績ある就職支援体制」をアピールします。今後はインターンシップが直接採用に結び付く可能性が高いことから、現在実施しているインターンシップだけではなく就業型インターンシップを組織的に推進できるよう検討を進めます。また、ミッション・ステートメントを意識したキャリア教育に取り組み、入学から卒業まで一貫した理念に基づく教育が展開されることを期待します。

障がい学生のキャリア形成支援については実績に繋がっているため、引き続き個々の障がい特性に合わせ、アクセシビリティ支援室・学生相談室・医務室と連携し取り組んでいきます。

10. 学生厚生及び課外活動

今年度から「学生支援委員会」「学生相談専門委員会」「アクセシビリティ支援委員会」「学習支援推進委員会」「キャリアデザイン支援委員会」を「学生部」と位置づけ、学生部長を配置することとしました。また、これら委員会の連絡調整や連携を図るために「学生支援連絡会議」を設置しました。学生部長を中心に、学生支援体制に関する方針策定を含め、現在の課題を解決しつつ学生気質等の変化に対応できる新しい学生指導体制の構築に向けた活動を期待します。特に、学生のサークル活動と大学としての支援のあり方について、再検討する必要があると考えています。また、奨学金や減免制度の抜本的見直しを進め、成績優秀者奨励金の充実に転換したいと考えています。学生自治会の委員会が本格的に活動を再開してから、新入生歓迎会やその他イベントを精力的に企画・実施していることから、自治会活動の一環である体育祭・大学祭等の諸行事を含め、積極的に指導・支援を行います。

11. 教育の国際化及び国際交流

国際教育中期計画「北星国際交流2020」に基づき、海外への派遣学生数の増加、海外協定校の新規開拓、受入交換留学生、私費留学生の獲得という課題についても継続して取り組みます。キャンパスの国際性涵養のためにも海外交流教員制度の実施を実現したいと考えています。中期計画の最終年度を迎えることから、振り返り及び中長期計画の再検討にも取り組まなければなりません。海外協定校の拡大とともに既存の協定校との関係見直しも進め、これまでの派遣留学プログラムのみの対応から、様々な形態で海外渡航する学生のサポート体制及びリスク対応について検討します。さらに、学部学科横断型の国際（英語）コース等の設置も視野に、全学的な国際教育の強化を検討していきます。

また、国際交流活動の見える化を継続して推進し、国際ラウンジ学生チームHUITの力も借りながら国際ラウンジからあらゆるイベントを通じて在学生に興味関心を持たせる機会の提供を行うとともに、社会一般だけでなく大谷地地区の方々へも「国際教育の北星」というブランドを発信していきます。

12. 高大連携、地域社会との連携及び社会貢献

高大連携プログラムについては、そのテーマが高校生のニーズに合っているのか点検を加えたいうえで充実したプログラムを用意し、本学の特色や学部学科の教育内容を多くの高校生が理解し、学び・研究することの喜びを感じてもらえるよう、精力的に展開していきます。また、学園内の教育連携事業である「女子高Core コースの高大連携プログラム」、「附属高探究プログラム」について引き続き実施します。

短期大学部は北海道後志総合振興局とのグローバル人材育成に係る連携・協力に関する協定を締結し、Shiribeshi留学への派遣、インターンシップやボランティア等の学習を積極的に推進しているところです。大学も同様な学習機会を作るため、地方公共団体との連携だけではなく産学連携も含めた可能性を模索し、地域社会で活躍する人材育成に力を入れたいと考えています。併せて地域での共同事業・研究などの連携も精力的に進め、研究力の強化を図っていきたく思います。

社会連携センターは昨年度、試験的に教員の社会連携活動情報の収集・共有を目的としたウェブサイトを開設しました。今年度はその情報を基に、より多くの教員及び学生の地域活動を把握し、積極的に推進していける協力体制の構築に向け検討を進めるとともに、この大谷地地区でも地域活動を展開していきます。

加えて、地域・社会に開かれた大学として、持てる知と技を社会に提供していく責任を果たすため、札幌中心部で有益なリカレント教育を展開できるよう検討していきます。折しも、札幌文化芸術劇場 hitaruのスポンサーになった関係で、札幌市民交流プラザ一階のホール（スカーツ・コート）が無料で借りられるので、市民・リカレント向け講座をそこで実施し、札幌市中心部での講座展開の足掛かりにしたいと考えています。

13. 大学のあり方と自己点検・評価

教育・研究活動、管理運営、財務等の状況についての点検・評価を継続して行うとともに、その点検・評価結果を大学全体として共有するだけでなく、改善についても求めることで「質の保証」と「質の向上」に繋げ、実質的なPDCAサイクル [Plan (計画) → Do (実行) → Check (評価) → Act (改善) サイクル] の確立を目指します。また、昨年度から客観的な評価を取り入れるため、外部評価を実施しました。内部質保証の妥当性が客観的にも担保されるよう、PDCAサイクルをより確実に機能させる必要があります。そのため、今年度は9月中旬から下旬を目途に「2020年度の課題」への中間点検評価を実施します。また、学生による評価制度の導入を継続して検討していくとともに、2022年の第3期認証評価受審に向けた準備を進めていきます。

また、内部質保証システムを有効に機能させるためには機能的なIRが必要であり、教学マネジメントの確立という観点では教学IRの進展が重要とされています。IR委員会はあらゆる組織との調整を図りながら、本学にとってどのようなIR活動の展開が有効なのか見極め、機能的なIR活動が可能となるよう準備を進めます。また、継続して現在あるデータを利用したIR活動に取り組み、学内へのIRの浸透を図ります。

14. 理事会及び各学校との連携

学園教育の中心を担う高等教育部門の大学として、『学校法人北星学園 中長期計画～グランドデザイン2020-2040～』を踏まえ、これまで以上に総合学園を意識し、中等教育部門と連携した取り組みを積極的に展開していきます。大学・短期大学部の中長期計画の目標である【北星ブランドの確立】に向けて、アクションプランを一つ一つ確実に実施・実現させ、学園の更なる発展を目指します。また、理事会に対して財政健全化を前提とした経営基盤構築に向けた提言や取り組みは継続して行っています。

以上



はじめに

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により、大学運営のあらゆる面で大きな影響を受けることとなりました。4月に緊急事態宣言が発令され、各大学は対面授業を取りやめ、オンラインでの授業スタイルへと移行しました。本学でも、遠隔授業サポートチームを中心に教職員が精一杯の知恵を絞り、学生の学びを止めないようにできることにしっかりと取り組んできました。また、教職員も在宅勤務という新たな働き方を取入れながら大学運営を続けることとなりました。

このように、新型コロナウイルス感染症の流行により、オンライン環境の整備や、それに付随する教育改革の流れが急速に進むこととなり、ポスト・コロナの新たな時代は、対面とオンラインとを合わせたハイブリッド教育が標準となることは想像に難しくありません。

文部科学省も、国立大学法人の戦略的経営実現に向けた検討会議の中で『これまでの物理的な所在の“リアルキャンパス”だけを前提としたマインドセットを変え、世界に先駆けて「大学ニューノーマル」を確立することが肝要である。』としています。加えて、『世界的なDXによる変革期において、グローバルな人材獲得競争に打ち勝っていくためには、国内のみならず世界市場から優秀な多様な学生（高卒者、社会人、留学生など）や教員、研究者を柔軟に受入れることを可能とするため、社会との接続の在り方や学事暦・修業年限の多様化も含めて、新しい大学モデルへと変わっていく必要があり、大学設置基準の学修単位数や収容定員等の考え方等について、新たな時代の「大学ニューノーマル」の早期実現に向けた弾力化を早急に検討すべきである。』とも提言しています。

このような時代の大きな転換点において、ポスト・コロナの新たな時代を見据えた社会変革へのアンテナを常に張り、信頼され、選ばれる大学であり続けられるよう「北星ブランド確立」に向けて積極的に各方面での強化・改革に努めることを確認し、2020年度の大学・短期大学部運営総括とします。

1. 「建学の精神」の継承と実践

スミス・ミッションセンターを中心に、建学の精神を具現化し、キリスト教の精神への理解が豊かに育まれるよう、コロナ禍で活動が制限される中、あらゆる工夫をしながらチャペルタイム、クリスマス礼拝、講演会、ワーキング・グループ等諸活動に取組みました。

今後も建学の精神を学内で浸透させ、さらに学外に広く伝えるために有効な方策を検討しつつ、本学の教育エッセンス(キリスト教に基づく人間教育、人間性・社会性・国際性の育成)を基礎に教育を継続し、豊かな人間性と世界的な視野を備えた社会人を育むことができるよう実践していきます。

2020年にACUCA (The Association of Christian Universities and College in Asia) に加盟しました (69加盟団体)。これは、アジアにおけるキリスト教を基盤とする大学間の様々な交流を行うものであり、その一環として、学生交換プログラムがあります。本学としてアジアのキリスト教主義大学との新たなネットワークによる、新たな学生の活動の一つとして期待できます。

2. 教育課程、教育組織及び教育活動

新型コロナウイルス感染症の流行拡大によって授業の開始が実質的に5月にずれ込み、コロナ禍における教学運営が試された試験の年度でした。教育活動については、新型コロナウイルス感染症の影響により年度当初から非対面授業の準備が必要となりました。学習サポートセンタースタッフを中心に部署の垣根を越えて遠隔授業サポートチームを組み、教育活動の支援を続けてきました。学生及び教員それぞれが非対面授業に取り組むためのマニュアル作成や、その時々課題に応じたFD・SDも実施し、非対面授業になることで教育の質が下がることがないように努めました。ラーニング・コモンズは、前期は閉館、後期も短縮開館となり学習セミナーは開講することができませんでしたが、オンラインと対面併用による個別学習支援、個別学習相談は継続して実施しました。

次年度も引続き授業サポートプロジェクトチームを立ち上げ、教職員だけではなくスチューデントスタッフもメンバーに迎え、全学協力体制で教育の質を担保していきます。学生による授業評価アンケートによる遠隔授業の質的な検証を実施した上で、今後は対面授業と遠隔授業のハイブリッド型の教育についても検討すべき課題です。

教学マネジメントの確立については、コロナ禍による遠隔授業等の体制準備に時間が割かれ、教育の質保証の方法について具体的な検討に着手することはできませんでしたが、「授業科目とディプロマ・ポリシーの関連性の明示」を進めることができました。引続き2022年度の認証評価受審に向け、各部局が連携しながら教育の質保証体制を構築していかなければなりません。学部学科再編については、各学部学科部門に対し、各種エビデンスをもとに学部学科再編の検討を依頼し、その検討結果を基に企画運営会議で議論を重ねました。3月下旬には全学に検討結果を示す予定でしたが、未だ整理できていない検討事項の議論を続けており、2021年5月中に示すことができるよう精力的に取り組めます。昨年度の大学評議会にて決定した2022年度4月の「社会福祉学科」の設置予定を変更し、2023年4月に「社会福祉学科」の設置及び学部学科再編等の教育改革を予定していることから、学内調整を図りながら文部科学省への事前相談の手続き等を進めます。

3. 研究組織及び研究活動

今年度から研究費等制度の新たな運用が始まり、研究者の自由な発意による研究を尊重したうえで、科学研究費等外部資金応募者や採択者を支援する制度となりました。個人研究費に係る基礎額以外の資金は、科学研究費等外部資金の獲得で対応することが求められるため、今年度も継続して科学研究費獲得のためのURA (University Research Administrator) による申請書添削サービスを実施しました。この新研究費制度が本学の研究の活性化に繋がるよう継続的に検証していきます。

また、2020年5月に文部科学省から通知された競争的資金でのバイアウト制度導入の決定を受けて、本学でも教員の研究時間を確保することで、科学研究費獲得の促進に繋がるよう、同制度を導入することとしました。バイアウト制度では代行要員として博士課程学生を含めた若手人材の活用も考えられることから、TAを含む教育活動等の経験を通じた、将来を担う優れた若手人材の能力向上や活躍促進にも繋がることを期待されます。

4. 教員評価、FD（ファカルティ・デベロップメント）及びSD（スタッフ・デベロップメント）

教員評価については、今年度から教育・研究・社会貢献・大学運営の総合評価を試験的に実施しはじめました。量的な評価のみで質的な評価にはまだ着手できていませんが、継続した評価を実施し、質的評価の導入にも繋げていきたいと考えています。

「業績の見える化」については昨年度より研究業績評価の結果を学内で公開していますが、加えて教育・社会貢献・管理運営評価も2021年度より公開することとしました。

コロナ禍により全学FDの開催ができませんでしたが、学部、学科、部門FDは遠隔で実施しました。コロナ禍での遠隔や、オンデマンドでの教育継続のためのFDが精力的に実施され、教育の質の維持に大いに寄与しました。2021年度に実施する学生による授業評価アンケートについて、遠隔授業ベースでの評価項目を含めて、効果的な活用方法を検討していきます。

SDについては、今年度はオンライン開催となりました。大学運営に携わるスタッフとして、全ての教職員を対象に予算編成や補助金制度に係るSDを継続して実施しました。

また、今年度から事務職員を対象に大学事務職員・社会人として獲得すべき到達スキル目標を勤務年数に応じて定め、それを獲得できるような研修への参加、自身の業務以外の私立学校に関する知識と、企画立案・プレゼンテーション・マネジメントなどといったビジネス・スキルについて、段階的に研修が受けられる研修制度の確立を検討する予定でしたが、具体的な検討には至らなかったため、引続き検討課題として取り組んでいきます。

5. 大学運営のあり方及び組織・機構

本学が公共性と自主性を基本にした自律的な取組みとして活用することを目的に、行動規範として「北星学園大学・北星学園大学短期大学部ガバナンスコード」の策定に着手しました。2021年度内には決定・公表し、学生・保証人等のステークホルダーに対する説明責任を果たすと共に、策定後も常に見直しを行っていきます。

今年度から学生部長を置き、その下に「学生部」を設置し、学生支援連絡会議を立ち上げたことにより、コロナ禍の中でも学生支援を担当する各部署が協力体制で臨機応変に学生支援をできたと言えます。

課題となっている各種委員会のスリム化・合理化については、何案か検討したものの成案には至りませんでした。また、教員定数（雇用形態含む）、教員持ちコマ基準の見直し及び非常勤講師数の削減等についても「学園中長期計画」、「再編と並行して取り組む事項」に掲げていますが、具体的な見直しには着手できませんでした。学園全体の財政が困難な状況に直面していることから、2021年度は本格的検討に着手しなければなりません。また、教学マネジメントの確立のための組織の設置についても十分な取組みができませんでしたので、2021年度の課題とします。

事務組織については、事務組織体制の点検・見直し及び適正な職員配置数についての内容を踏まえ、2021年4月からの管理部門のIR広報戦略室、総務人事課及び法人課の改編を決めました。改編後は「IR内部質保証課」がIR業務、自己点検業務、内部監査業務、「企画広報課」が企画業務、補助金業務、広報業務、「総務課」が総務業務と法人業務、「人事課」が人事業務をそれぞれ所掌し、早急に取組まなければならない課題に対応していきます。また、管理部門以外の事務組織体制についても引続き検討し、改善を図っていきます。

6. 教育環境、施設設備及び財政

今年度、大学を取巻く環境は新型コロナウイルス感染症の影響により大きく変化し、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら教育研究活動に取り組んでいくことが求められました。教育環境、施設設備の整備については、遠隔授業に対応するためのサーバーの増強や、手洗い場の設置をはじめ、サーマルカメラ、入構記録のためのICカードリーダーの設置、さらに学内共用部には抗菌・抗ウイルスコーティングを施すなど新型コロナウイルス感染症対策に積極的に取り組みました。

財政については、2020年度当初予算の大変厳しい状況を踏まえ、学生生徒数確定後に編成した更正予算に引続き、厳しい状況を踏まえつつ、新型コロナウイルス感染症対策と対策下での教育研究活動に予算的な裏付けを与えるため、例年の補正予算の時期を待たずに支出の費目ベースまで見直した更正予算(第2次)を策定しました。

2021年度も新型コロナウイルス感染症対策と諸計画に必要な財源を確保するために、全般的な財政構造の見直しを行いつつ、必要な事業にはしっかりと経営資源を配分することを方針とし、2021年度当初予算編成においても、2020年度当初予算編成から導入した学長・副学長・事務局長によるヒアリングを継続して実施しました。

また、学校法人北星学園中長期計画に掲げた「大学・短期大学部の目指す姿【北星ブランドの確立】～2040年に向けて」を実現するための中期目標と、財政計画、単年度の予算編成とをリンクさせ推進するための具体的方針も示しました。中長期計画である学園ランドデザインの中で掲げている財政マネジメント改革はよりスピードを上げ、直ちに数値目標による財政改善計画の立案と実行に取り組む必要があります。まずは、「学園としての財政運営目標」を達成するため、大学・短期大学部として2025年度及び2030年度にそれぞれ目指す財政運営目標を検討し報告することになっていきますので、検討を進めていきます。

7. 大学広報

広報担当組織のあり方については、全学的なマターであるがゆえの課題が多く、具体的な取組みに着手できませんでした。大学として各学科の広報活動をどのように位置づけるかというところから検討が必要です。また、受験生Webに「キャンパスライフ」として掲載しているような、学習環境及び教育・研究内容を発信するコンテンツの拡充が課題です。

前年度から開始したインターネット広告に高い効果が見られたことから、更なる広告効果の向上を目的とし、前年度実績が高い2媒体（LINE、YouTube）に加え、新たに3媒体（Google、Instagram、Facebook）への広告配信を行いました。その結果、受験生webの表示数が前年度と比べ約123%増加しました。また、大学公式Twitterは、学生たちにとっても必要な情報が行き渡るよう、新型コロナウイルス感染症への取組み等を発信し続けました。フォロワー数は、前年同月比の約210%（フォロワー数：1,778）となりました。

次年度から新たなメインビジュアルで広報を展開するにあたっては、日経BP社発行の「大学ブランド・イメージ調査」において「上品・誠実」「グローバル」などの項目が継続して上位であることから、本学の印象は概ね社会に浸透したと考えられるため、次年度以降のコンセプトを「従来のブランド・イメージを発展させる」という方向性で進めることを決めました。公募から最終審査を経て、委託業者を決定しましたので、2021年度からの3年間で北星ブランドの発展に繋がるよう広報活動に取り組みます。

8. 学生募集

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、対面で行う相談会やオープンキャンパスを中止とせざるを得ず、代替手段として、オンラインによる説明会や相談会への参加、Web動画（学長メッセージや新入試制度、学科紹介、模擬講義等）を作成しHPで公開しました。9月には高校3年生と1、2年生を2日間に分け、対面でオープンキャンパスを実施することができました。引続き対面と非対面のハイブリット型で募集活動ができるよう準備をしていきます。

新入試制度である「総合型選抜」を「知る・学ぶ・育てる入試」というコンセプトの下、合格者への入学前教育を含めて実施しました。今後は入学後における成果も検証し、よりコンセプトにあった入試制度を確立していく必要があります。また、「学校推薦型選抜」も、知識・技能を問う選抜方法へ変更して実施しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大により、対面での口頭試問実施を中止とせざるを得ず、書類での選考となりました。

学園内高校との連携を図り、本学への志願者増加に繋がるよう努力しています。年度ごとの進学者数にはばらつきがありますが、引続き本学への進学希望者増加とスムーズな入学後の学びに繋がれるよう高大連携強化に取り組めます。

2021年度入試は、一般選抜、大学入学共通テスト利用選抜の志願者が大幅に減少し、結果的に入学者は大学、短期大学部で予算定員を83名下回り、短大2学科と大学も2学科で入学定員を満たすことができませんでした。2022年度入試に向けて、早急に現状を分析し、改善の方策を検討するとともに、入試広報と大学広報の一層の連携により広報活動を強化し、志願者数の回復を目指します。

9. 就職支援

今年度は、昨年度までは少数派であったwebを活用した就職活動が、コロナ禍の影響により急速に一般化しました。自宅の通信環境等に不安を持つ学生のため、空+A154教室を利用し、Web活動に特化したスタジオを他大学に先駆けて設置しました。スタジオには専用ノートPC、マイク、照明等を設置し、面接試験のみならず、模擬面接や入社式、研修受講にも活用されました。

キャリアデザインプログラムは非対面型での実施に切替え、最新の動向やタイムリーな情報提供を継続して行いました。また、今年度は従来受付けていない、電話やメールでの相談、ZoomなどのWeb会議システムを利用した面接指導を積極的に行い、新型コロナウイルス感染症予防に配慮した就職支援を実施しました。

多様化する障がい学生にはケースバイケースの対応が求められ、一定の経験や知識が無ければ十分な支援を実施することが難しい中、就職支援課単独ではなく教務係やアクセシビリティ支援室、学生相談室などとの横断的な協力、情報共有を図って支援をしてきました。今年度はコロナ禍の中でできる支援が限られましたが、学生部の中で、より一層連携し、充実した支援ができるよう引続き取り組みます。

10. 学生厚生及び課外活動

今年度から設置した「学生部」では、「学生支援連絡会議」を月に1回開催し、各委員会の現状や課題を報告し合い、学生の動向を共有できるようになりました。特に今年度は、コロナ禍における学生対応が困難となる中、この情報共有をもとに各センターで多様かつ柔軟な対応が可能となりました。

学生相談センターでは「北星学園大学における新型コロナウイルス感染症拡大防止のための危機管理ステージに基づく学生相談室の対応指針」を作成し、厳しい状況の中、電話による相談活動を取入れ、継続した学生支援を続けました。

奨学金制度については、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、大学の休業要請がなされる中、学生がスムーズに遠隔授業に取り組むことがれるよう「通信環境整備等支援金」として、申請した学生(98.0%の学生が申請)一人当たり一律50,000円を給付しました。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から経済的に困難な状況におかれている学生への対応として利用可能な制度を、公式ホームページ等で今まで以上に積極的に配信しました。

今年度から導入された高等教育の修学支援新制度は、合計で595名の学生が給付奨学金を受給し、授業料減免を実施しました。その内、家計急変により支援の対象となった学生は8名でした。また、新型コロナウイルスにより家計が急変した学生で、高等教育の修学支援新制度の支援対象から漏れた学生に対して、「新型コロナウイルス感染症の影響により家計が急変した学生に対する授業料減免要領」を制定して支援の体制を整えました。

学生のサークル活動支援については、例年配付している「サークル顧問への手引き」を学生の安全性を重視した内容に刷新しました。また、今年度はサークル代表者と学生部長及び所管職員との面談の機会を増やし、健全なサークル運営を指導してきました。コロナ禍の中でのサークル活動については「北星学園大学における危機管理ステージ下での課外活動に関するガイドライン」を作成し、危機管理ステージに応じて感染予防対策を講じながら課外活動を支援してきました。

学生自治会の指導・支援については、学生自治会評議会にオブザーバーとして学生部長が参加し、課題等の共有ができました。次年度以降も積極的に参加し、自治会の目的である「学生生活の維持および向上」が達成できるよう必要な助言を行っていきます。

11. 教育の国際化及び国際交流

国際教育中期計画「北星国際交流2020」の完成年度でありましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で国際教育活動に制限が生じ、課題への取り組みが不可能な状況でした。交換留学プログラムも中止となったため、派遣予定だった学生へは、延期等による留学機会維持の対応をしました。同じく留学生の受入れも中止となりましたが、協定校との交流はオンラインを活用して継続し、「日本語クラスプロモーション」として協定校、協定締結予定校の日本留学予定学生や在学生の希望者に、日本語講師が授業を行い本学の認知度向上を図りました。

キャンパスの国際化への取り組みもオンラインを活用し、「オンライン留学相談」、「English Camp オンライン」、「EASCOMオンライン」、「オンライン派遣留学報告会」など積極的に活動を続けました。「国際教育センターYouTubeチャンネル」、「Instagram」を新規開設し、オンライン学習会・セミナー・英語を使った講演等を発信して本学学生の留学へのモチベーション維持を図りつつ、学内のみならず社会に「国際教育の北星」というイメージを広める活動をしました。

HUIT（国際ラウンジ学生チーム）もオンライン活動に転換し、協定校のセントラル・ランカシャー大学学生と語学イベントを行い、学生委員のモチベーション維持向上に努めました。

国際教育活動の幅は広がっており、協定校との交換留学の他、海外渡航科目対応、外国人留学生対応、私費留学する在学生の対応などが徐々に増えています。コロナ禍の対応でも留学生の種類により区別することはできません。キャンパスの国際化を進めるために必要な体制整備について検討すべき時期にきています。

12. 高大連携、地域社会との連携及び社会貢献

高大連携については、コロナ禍においても出張講義の依頼は途絶えることはなく、高校側の要望に従って対面及び非対面で実施しました。また、受験生Webで学問分野ごとの模擬講義動画を配信しました。

学園内高校との連携については、6月の附属高3年生向けミニオープンキャンパスは中止となり、高校に出向いて学びの説明を実施しました。9月には、附属高1年生、女子高2年生向けに開催することができました。感染予防措置を講じながらの内容充実について、今後も各高校と連携し、改善を図っていきます。また、「女子高Coreコースの高大連携プログラム」、学園内推薦合格者が独自にテーマを設定し、調べ学習を行う「附属高探究プログラム」は予定通り実施することが出来ました。

地方自治体等との連携についてはコロナ禍の影響を大きく受け、厚別区の瑞徳大学（高齢者教室）や歌志内市のチロル学園への講師派遣等が中止となりました。また、新たな連携を推進することも困難な状況でした。3年目を迎えた「札幌市営住宅（もみじ台団地）の大学・短期大学部生への提供事業」は新入生1名が入居し、計4名の学生が地域活動を続けました。

また、大学・短期大学部と北海道社会福祉協議会との連携にむけて学内調整をスタートさせました。福祉及び教育の分野において相互に連携・協力することで、北海道の福祉活動の推進及び福祉人材の育成に資することを目的とし、2021年度中に協定締結の予定です。

オープンユニバーシティ事業については、コロナ禍により一般向け講座を全て中止したため、全体的な受講者増に向けての取組みには着手できませんでした。在学生向けの資格取得講座は、オンライン講座の導入や開講期の見直し等により、例年とほぼ変わらない受講者数を確保することができました。2021年度は一般向け講座のオンライン展開、学内で利用可能な資源の掘り起こしを行い、学外者も含めた受講者増の方策を引き続き検討していきます。

13. 大学のあり方と自己点検・評価

今年度から各部局において、前年度自己点検評価報告書の評価内容確認の報告、中間点検評価を行ったことにより、自己点検評価・内部質保証委員会において年度途中で各部局の課題への取組状況を把握することが可能となりました。また、各部局においても年度途中で課題を再確認する機会が設けられたことで、PDCAサイクルを意識することにつながりました。

学外者による外部評価については、前年度評価結果への対応検討を関係部局に依頼している段階であることから、今年度の実施は見送ることとしました。また、在学生による評価も、新型コロナウイルス感染症の影響により実施には至りませんでした。

2021年度の実施に向けて、当初計画に基づき対面でのヒアリングを前提としつつ、コロナ禍で実施可能な学外者による外部評価及び在学生による評価方法を模索していきます。

今年度は、「内部質保証に関する方針」、「教育職員組織の編成方針」、「学生支援に関する方針」、「教育研究等環境の整備に関する方針」「求める教職員像及び人材育成の目標・方針」、「社会連携ポリシー」を策定し、大学公式ホームページにて公表しました。2023年度に第3期認証評価受審を予定しており、内部質保証システムを適切に構築し、有効に機能させることを目指します。

インスティテューショナル・リサーチ委員会の周知と学内のIRに対する理解の促進を目的に学内向けのリーフレット「データで見るHOKUSEI」を発行しました。また、現在実施している各種調査を今後のIR活動において有効活用するため、2022年度を目途に実施の準備ができた調査から順次リニューアルする方針を立てました。教学IRとして、「本学学生の学業成績に見られる傾向」を例題的な分析課題として設定し、2016年度入学生を対象に1年次から4年次（短大は2年次）までのGPA及びGPの分析を行い、大学及び短大全体のGPAの基本的な傾向を把握することができました。

内部質保証の実質化とIR活動の実質化は非常に密接に関わる事項であり、教学マネジメントの確立という観点において教学IRの進展は重要な事項です。相互に連携しながら機能的なIR活動が可能となるよう取組みを進めていきます。

14. 理事会及び各学校との連携

学園教育の中心を担う高等教育部門として、大学の役割と責任が極めて重いことを認識し、学園内教育連携委員会及び学園総合企画委員会を通じて中等教育部門との連携強化を図っています。2021年度入試の状況からも、学園内高校からの進学者なくしては大学・短期大学部ともに今後の定員確保は難しい状況にあります。学園内高校とのコミュニケーションをさらに密にしていきます。

昨年度策定された「学校法人北星学園中長期計画～ランドデザイン2020-2040」を推進し、学園と設置する学校それぞれが目指すべき使命と課題を明確にし、喫緊の重大な課題である財政健全化を見据えた経営基盤の構築を含め、学園が一体感を持って歩み続けられるよう大学・短期大学部の役割を果たしていきます。

I. 本学の在り方及び目標に関すること

2 学部（学科）・研究科等設置状況〔2019年度〕

(1) 大学

(表 I - 2 - ①)

学部・研究科	学科・専攻科	開設年度	設置認可年月日	入学定員	備考（入学定員変更等）
文学部	英文学科	1962	1962年1月20日	113人	1979年度 恒常的入学定員増 50人 ⇒ 100人 1991年度 期間付入学定員設定 100人 ⇒ 120人 (終期1995年度) 1993年度 3年次編入学定員設定 8人 1996年度 3年次編入学定員増 8人 ⇒ 20人 1996年度 期間付入学定員再設定 100人 ⇒ 120人 (終期1999年度) 2000年度 期間付入学定員延長 18人 ⇒ 16人 (14人⇒12人⇒10人) 2002年度 期間付入学定員延長変更 4人 ⇒ 2人⇒0人 (臨定恒定化10人) 2002年度 恒常的入学定員増 100人 ⇒ 110人 2005年度 恒常的入学定員増 100人 ⇒ 113人 (2004. 6. 1. 届出) 2005年度 3年次編入学定員減 20人 ⇒ 14人 (2004. 6. 1. 届出)
	心理・応用 コミュニケーション学科	2002	2001年8月1日	90人	2004年度 3年次編入学定員 10人
	社会福祉学科	1962	1962年1月20日	一人	1979年度 恒常的入学定員増 50人 ⇒ 100人 1987年度 期間付入学定員設定 100人 ⇒ 140人 (終期1995年度) 1993年度 3年次編入学定員設定 10人 1996年度 1年次入学生募集停止 1998年度 3年次編入学生募集停止 2002年度 廃止 (2002. 7. 30)
経済学部	経済学科	1965	1965年1月25日	152人	1982年度 恒常的入学定員増 150人 ⇒ 200人 1987年度 恒常的入学定員減 200人 ⇒ 150人 1990年度 期間付入学定員設定 150人 ⇒ 200人 (終期1998年度) 1993年度 3年次編入学定員設定 10人 1999年度 期間付入学定員再設定 150人 ⇒ 200人 (1999年度限り) 2000年度 期間付入学定員延長 46人 ⇒ 42人 (38人⇒34人⇒30人) 2002年度 期間付入学定員延長変更 8人 ⇒ 4人⇒0人 (臨定38人の内、心理・応用 コミュニケーション学科へ臨定30人を恒定化して振替、残りの臨定8人を単純延長) 2005年度 恒常的入学定員増 150人 ⇒ 152人 (2004. 6. 1. 届出) 2005年度 3年次編入学定員減 10人 ⇒ 6人 (2004. 6. 1. 届出)

2 学部（学科）・研究科等設置状況〔2019年度〕

(1) 大学

(表 I - 2 - ②)

学部・研究科	学科・専攻科	開設年度	設置認可年月日	入学定員	備考（入学定員変更等）
経済学部	経営情報学科	1987	1986年12月23日	102人	1991年度 期間付入学定員設定 100人 ⇒ 120人 (終期1999年度) 1993年度 3年次編入学定員設定 10人 2000年度 期間付入学定員延長 18人 ⇒ 16人 (14人⇒12人⇒10人) 2002年度 期間付入学定員延長変更 4人 ⇒ 2人⇒0人 (臨定14人の内、経済法学科 へ臨定10人を恒定化して振替、残りの臨定4人を単純延長) 2005年度 恒常的入学定員増 100人 ⇒ 102人 (2004. 6. 1. 届出) 2005年度 3年次編入学定員減 10人 ⇒ 6人 (2004. 6. 1. 届出)
	経済法学科	2002	2001年8月1日	110人	2004年度 3年次編入学定員設定 10人
社会福祉学部	福祉計画学科	1996	1995年12月22日	85人	1998年度 3年次編入学定員設定 20人 2005年度 恒常的入学定員増 80人 ⇒ 85人 (2004. 6. 1. 届出) 2005年度 3年次編入学定員減 20人 ⇒ 10人 (2004. 6. 1. 届出)
	福祉臨床学科	1996	1995年12月22日	85人	1998年度 3年次編入学定員設定 20人 2005年度 恒常的入学定員増 80人 ⇒ 85人 (2004. 6. 1. 届出) 2005年度 3年次編入学定員減 20人 ⇒ 10人 (2004. 6. 1. 届出)
	福祉心理学科	1996	1995年12月22日	64人	1998年度 3年次編入学定員設定 15人 2005年度 恒常的入学定員増 60人 ⇒ 64人 (2004. 6. 1. 届出) 2005年度 3年次編入学定員減 15人 ⇒ 7人 (2004. 6. 1. 届出)
文学専攻科	英文学専攻	1980	1980年4月1日	一人	(設置認可年月日は、設置年月日) 2002年度 収容定員変更 10人 ⇒ 3人 (2001. 12. 20. 届出) 2004年度 学生募集停止・廃止(2004. 6. 1)
	社会福祉学専攻	1980	1980年4月1日	一人	(設置認可年月日は、設置年月日) 2002年度 学生募集停止・廃止(2001. 12. 20) 入学定員10人
経済学専攻科	経済学専攻	1980	1980年4月1日	一人	(設置認可年月日は、設置年月日) 2002年度 廃止 (2001. 12. 20) 入学定員10人
文学研究科	社会福祉学専攻	1992	1992年3月19日	一人	修士課程 昼夜開講制 入学定員7人 2000年度 学生募集停止 2004年度 廃止 (2004. 3. 29. 届出)
	言語文化コミュニケーション専攻	2001	2000年12月21日	8人	修士課程 昼夜開講制
経済学研究科	経済学専攻	2001	2000年12月21日	10人	修士課程 昼夜開講制

2 学部（学科）・研究科等設置状況〔2019年度〕

(1) 大学

(表 I - 2 - ③)

学部・研究科	学科	開設年度	設置認可年月日	入学定員	備考（入学定員変更等）
社会福祉学 研究科	社会福祉学専攻	2000	1999年12月22日	8人	修士課程 昼夜開講制
				3人	博士〔後期〕課程 昼夜開講制
	臨床心理学専攻	2000	1999年12月22日	4人	修士課程 昼夜開講制 2006年度 心理学専攻を臨床心理学専攻に名称変更（2005. 9. 26. 届出）

(2) 短期大学部

(表 I - 2 - ④)

	学科	開設年度	設置認可年月日	入学定員	備考（入学定員変更等）
短期 大学部	英文学科	1951	1951年3月8日	120人	1968年度 恒常的入学定員増 40人 ⇒ 80人
					1986年度 恒常的入学定員増 80人 ⇒ 120人
					1986年度 期間付入学定員設定 120人 ⇒ 150人
					1991年度 期間付入学定員再設定 150人 ⇒ 170人 (終期1999年度)
					2000年度 期間付入学定員延長 45人 ⇒ 40人 (35人⇒30人⇒25人)
					2002年度 期間付入学定員延長変更 10人 ⇒ 5人⇒0人 (臨定35人の内、心理・応用コミュニケーション学科へ臨定25人を恒定化して振替、残りの臨定10人を単純延長)
					2002年度 北星学園女子短期大学を北星学園大学短期大学部に校名変更 (2001. 5. 31. 届出)
	生活創造学科	1954	1954年3月30日	80人	1968年度 恒常的入学定員増 80人 ⇒ 120人
					1986年度 恒常的入学定員増 120人 ⇒ 180人
					1986年度 期間付入学定員設定 180人 ⇒ 220人
					1991年度 期間付入学定員再設定 220人 ⇒ 250人 (終期1999年度)
					2000年度 期間付入学定員延長 63人 ⇒ 56人 (49人⇒42人⇒35人)
					2002年度 期間付入学定員延長変更 14人 ⇒ 7人⇒0人 (臨定49人の内、心理・応用コミュニケーション学科へ臨定35人を恒定化して振替、残りの臨定14人を単純延長)
					2002年度 恒常的入学定員減 180人 ⇒ 80人 (恒定180人の内、経済法学科へ100人を振替)
2002年度 生活教養学科を生活創造学科に学科名変更 (2001. 5. 31. 届出)					

3 大学の規模等の推移状況

(1)大学 [2016-2020]

(5月1日現在) (単位:人)

(表 I-3-①)

学部	学 科	2016年度			2017年度			2018年度			2019年度			2020年度		
		収容 定員 A	在籍者 B	収定 充足率 B/A*100												
文	英文	480	590	122.92%	480	607	126.46%	480	588	122.50%	480	587	122.29%	480	575	119.79%
	心理・応用コミュニケーション	380	451	118.68%	380	444	116.84%	380	462	121.58%	380	444	116.84%	380	431	113.42%
	計	860	1,041	121.05%	860	1,051	122.21%	860	1,050	122.09%	860	1,031	119.88%	860	1,006	116.98%
経済	経済	620	702	113.23%	620	704	113.55%	620	694	111.94%	620	689	111.13%	620	693	111.77%
	経営情報	420	480	114.29%	420	516	122.86%	420	516	122.86%	420	501	119.29%	420	490	116.67%
	経済法	460	519	112.83%	460	540	117.39%	460	545	118.48%	460	551	119.78%	460	520	113.04%
	計	1,500	1,701	113.40%	1,500	1,760	117.33%	1,500	1,755	117.00%	1,500	1,741	116.07%	1,500	1,703	113.53%
社会 福祉	福祉計画	360	413	114.72%	360	408	113.33%	360	406	112.78%	360	394	109.44%	360	401	111.39%
	福祉臨床	360	371	103.06%	360	374	103.89%	360	380	105.56%	360	363	100.83%	360	378	105.00%
	福祉心理	270	282	104.44%	270	283	104.81%	270	281	104.07%	270	298	110.37%	270	310	114.81%
	計	990	1,066	107.68%	990	1,065	107.58%	990	1,067	107.78%	990	1,055	106.57%	990	1,089	110.00%
大学学部 計		3,350	3,808	113.67%	3,350	3,876	115.70%	3,350	3,872	115.58%	3,350	3,827	114.24%	3,350	3,798	113.37%

3 大学の規模等の推移状況

(1) 大学 [2016-2020]

(5月1日現在) (人) (表 I-3-②)

			2016年度			2017年度			2018年度			2019年度			2020年度		
			収容定員 A	在籍者 B	収定充足率 B/A*100												
研 究 科	文 学 研究科	言語文化コミュニケーション専攻 (修士)	16	8	50.00%	16	7	43.75%	16	2	12.50%	16	0	0.00%	16	4	25.00%
	経済学 研究科	経済学専攻 (修士)	20	2	10.00%	20	2	10.00%	20	5	25.00%	20	6	30.00%	20	7	35.00%
	社 会 福祉学 研究科	社会福祉学専攻 (修士)	16	7	43.75%	16	11	68.75%	16	10	62.50%	16	4	25.00%	16	4	25.00%
		社会福祉学専攻 (博士〔後期〕)	9	6	66.67%	9	4	44.44%	9	4	44.44%	9	4	44.44%	9	5	55.56%
		臨床心理学専攻 (修士)	8	9	112.50%	8	9	112.50%	8	9	112.50%	8	7	87.50%	8	4	50.00%
計		33	22	66.67%	33	24	72.73%	33	23	69.70%	33	15	45.45%	33	13	39.39%	
大学院 計			69	32	46.38%	69	33	47.83%	69	30	43.48%	69	21	30.43%	69	24	34.78%
大 学 合 計			3,419	3,836	112.20%	3,419	3,908	114.30%	3,419	3,909	114.33%	3,419	3,848	112.55%	3,419	3,822	111.79%

(2) 短期大学部 [2016-2020]

(5月1日現在) (人) (表 I-3-③)

学 科		2016年度			2017年度			2018年度			2019年度			2020年度		
		収容定員 A	在籍者 B	収定充足率 B/A*100												
英文		240	290	120.83%	240	291	121.25%	240	278	115.83%	240	251	104.58%	240	257	107.08%
生活創造		160	203	126.88%	160	198	123.75%	160	186	116.25%	160	182	113.75%	160	175	109.38%
短期大学部 合計		400	493	123.25%	400	489	122.25%	400	464	116.00%	400	433	108.25%	400	432	108.00%

3 大学の規模等の推移状況

(1) 大学 [2016-2020]

(5月1日現在) (単位:人) (表I-3-④)

		2016年度			2017年度			2018年度			2019年度			2020年度		
		通常専任	特別専任	合計												
教員数	学長	1	/	1	1	/	1	1	/	1	1	/	1	1	/	1
	副学長	1	/	1	1	/	1	1	/	1	1	/	1	1	/	1
	チャブレン	1	/	1	1	/	1	1	/	1	1	/	1	1	/	1
	カウンセラー	1	/	1	1	/	1	1	/	1	/	/	0	/	/	0
	文学部	23	10	33	25	7	32	28	3	31	26	5	31	25	5	30
	経済学部	41	7	45	43	8	51	43	6	49	40	10	50	38	11	49
	社会福祉学部	33	7	39	32	10	42	34	8	42	30	9	39	32	7	39
	大学計	101	24	121	104	25	129	109	17	126	99	24	123	98	23	121

(2) 短期大学部 [2016-2020]

(5月1日現在) (単位:人) (表I-3-⑤)

		2016年度			2017年度			2018年度			2019年度			2020年度		
		通常専任	特別専任	合計												
教員数	学長	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	短期大学部	16	0	16	15	3	18	16	2	18	15	3	18	15	2	17

(3) 大学・短期大学部 [2016-2020]

(5月1日現在) (単位:人) (表I-3-⑥)

		2016年度			2017年度			2018年度			2019年度			2020年度		
		専任	特任職員	合計												
職員数	大学・短期大学部	83	23	106	82	23	105	81	24	105	83	22	105	87	21	108

4 大学・学部・学科、大学院研究科の新增設等の認可等の際に文部科学省から付された履行条件に対する実施状況一覧

(表 I-4-①)

大学・学部・学科、 大学院研究科等の名称 (設置認可年月日)	大学・学部・学科、 大学院研究科等の 設置認可の際の履行条件	設置認可(履行状況 報告)の際の状況	履行条件に対する実施状況	備考
<p>社会福祉学部 福祉計画学科 福祉臨床学科 福祉心理学科</p> <p>(平成7年12月22日)</p>	<p>1 編入学生の受入れについては、定員の遵守、学科の設置の趣旨に沿った既修得単位の認定及び履修上の配慮に努めること。</p>		<p>1 (平成10年度) 平成10年度に3学科で3年次編入学生の受入れを行ったが、福祉計画学科では定員通りの合格者を発表することができなかった。また、福祉臨床学科と福祉心理学科については定員を遵守すべく合格者を発表したが入学の段階では3学科とも定員を充足することができなかった。なお、受入れ編入学生については、学科の設置趣旨に合致した科目の認定及び個々人の諸資格取得計画に応じた履修ができるように十分なオリエンテーションを行い、履修上の配慮に努めた。</p> <p>(平成11年度) 福祉心理学科では定員を遵守(1人超過)できたが、福祉計画学科と福祉臨床学科では、定員を上回る受験者数があったにも係わらず、入学定員を遵守することはできなかった。なお、受入れ編入学生については、前年度同様、既修得単位の認定はもとより、学科長との個別面談を行うなど履修上の配慮に努めた。 今後は、さらに定員遵守のための方策として合格者数の発表を検討する。</p>	
	<p>2 文学部社会福祉学科については、平成8年4月1日(ただし、3年次編入学は、平成10年4月1日)で学生募集を停止し、在学生の卒業を待って廃止すること。</p>		<p>2 (平成8・9年度) 留意事項のとおり、文学部社会福祉学科については、平成8年4月1日で1年次の学生募集を停止した。</p> <p>(平成10・11年度) 留意事項のとおり、文学部社会福祉学科については、平成8年4月1日に1年次の学生募集を、3年次編入学についても平成10年4月1日に学生募集を停止した。</p> <p>(平成14年度) 平成14年3月31日付けで全ての在學生がいなくなったため、文学部社会福祉学科を廃止した。 【平成14年7月30日廃止認可】</p>	

4 大学・学部・学科、大学院研究科の新增設等の認可等の際に文部科学省から付された履行条件に対する実施状況一覧

(表 I-4-②)

大学・学部・学科、 大学院研究科等の名称 (設置認可年月日)	大学・学部・学科、 大学院研究科等の 設置認可の際の履行条件	設置認可(履行状況 報告)の際の状況	履行条件に対する実施状況	備考
<p>社会福祉学部 年次計画履行状況調査時 (平成8年9月10日)</p>	<p>1 社会福祉学部福祉心理学科の定員超過の是正に努めること。</p>	<p>1 (平成8年度) 入学定員60人に対し、入学者78人となり、入学定員超過率が1.30倍となったことによる。</p>	<p>1 (平成9年度) 社会福祉学部福祉心理学科の定員超過については、より教育的効果を高めるために是正に努めた。その結果、2年目は60名の入学定員で入学者は66名であり、入学定員超過率は、1.10倍となり、収容定員超過率でも1.18倍であった。 (平成10年度) 予想以上に入学したため、入学定員超過率は1.28倍であったが、収容定員超過率では2年目同様1.16倍で納まった。 (平成11年度) 完成年度になる今年度は、入学定員の遵守と収容定員超過率を適正にするべく努力したが、入学手続状況が予想を上回り、結果として、入学定員超過率が1.47倍となった。なお、収容定員超過率では1.29倍となった。</p>	
<p>大学院社会福祉学研究科 社会福祉学専攻(修士) 社会福祉学専攻(博士) 心理学専攻(修士) (平成11年12月22日)</p>	<p>1 経済学部経済学科の編入学生の確保に努めること。</p>	<p>1 (平成11年度) 編入学定員10人に対し、定員超過率が平成9年度0.70倍、平成10年度1.00倍、平成11年度0.60倍となっていることによる。</p>	<p>1 (平成12年度) 経済学部経済学科の編入学生は、定員(10人)を遵守すべく、10人に入学資格を与えたが、1人が入学を辞退したため、結果的には9人と定員を遵守できなかった。 今後は、定員遵守のための方策として、発表方法の検討を行うなど、学生確保に努める。 (平成13年度) 経済学部経済学科の編入学生は、受験者が9人であったため、定員を遵守すべく、9人全員を合格させ、9人全員が入学したが、結果としては、定員を遵守できなかった。 今後は受験者を確保すべく、広報活動をより積極的に行うなど、学生確保に努める。 (平成14年度) 経済学部経済学科の編入学生は、3年次定員(10人)のところ、3年次受験者8人であったため、定員を遵守すべく、8人全員を合格させ、8人全員が入学した</p>	

4 大学・学部・学科、大学院研究科の新增設等の認可等の際に文部科学省から付された履行条件に対する実施状況一覧

(表 I-4-③)

大学・学部・学科、 大学院研究科等の名称 (設置認可年月日)	大学・学部・学科、 大学院研究科等の 設置認可の際の履行条件	設置認可(履行状況 報告)の際の状況	履行条件に対する実施状況	備考
大学院社会福祉学研究科 社会福祉学専攻(修士) 社会福祉学専攻(博士) 心理学専攻(修士) (平成11年12月22日)	2 文学研究科については、 平成12年4月1日で学生募 集を停止し、在学生の修了 を待って廃止すること。		が、結果としては、定員を遵守できなかった。 今後は、編入学定員を充足できない状況が常態化し ていることから、従前の広報活動を積極的に行うと ともに、編入学希望者のマーケット状況を分析し、推薦 制度の拡充も含めた新たな志願者増の対策を検討し、 学生確保に努める。 2 (平成12・13・14年度) 留意事項のとおり、文学研究科社会福祉学専攻(修 士課程)については、平成12年4月1日で学生募集を 停止した。 なお、在学生の修了を待って社会福祉学専攻は廃止 するが、平成12年12月21日に文学研究科に言語文化コ ミュニケーション専攻の設置が承認されたため、文学研究科は 廃止しないこととする。 (平成15年度) 留意事項のとおり、文学研究科社会福祉学専攻(修 士課程)については、平成16年3月31日付けで在学 生がいなくなるため、平成16年3月31日をもって廃止す る。なお、文学研究科に言語文化コミュニケーション 専攻が設置認可(平成12年12月21日)されたことか ら、文学研究科は廃止しない。	
大学院文学研究科 言語文化コミュニケーション専攻 (修士) (平成12年12月21日)	特になし			
大学院経済学研究科 経済学専攻(修士) (平成12年12月21日)	特になし			

4 大学・学部・学科、大学院研究科の新增設等の認可等の際に文部科学省から付された履行条件に対する実施状況一覧

(表 I-4-④)

大学・学部・学科、 大学院研究科等の名称 (設置認可年月日)	大学・学部・学科、 大学院研究科等の 設置認可の際の履行条件	設置認可(履行状況 報告)の際の状況	履行条件に対する実施状況	備考
<p>文学部 心理・応用コミュニケーション学科</p> <p>経済学部 経済法学科</p> <p>(平成13年8月1日)</p>	<p>1 編入学生の受入れについては、定員の遵守、学科の設置の趣旨に沿った既修得単位の認定及び履修上の配慮に努めること。</p>		<p>1 (平成14・15年度) 平成16年4月1日からの3年次編入学生募集については、定員を確保するために次の事項についての取組みを行う。 ①北星学園大学短期大学部から一定数の推薦入学者の確保。 ②ポスター、大学案内等の作製・配布及び本学ホームページを利用した周知活動の展開。 ③北海道内の短期大学への訪問と進路担当者への説明。 ④専修学校専門課程修了者の受入の拡充。</p> <p>また、3年次編入学生受入れにあたっては、積極的な入学前単位認定を行う。特に、3年次以降に配当される授業科目を履修するにあたり、学生の基礎的能力の不足にならないよう配慮しつつ、個人の学習上の要望を聴取するなど、履修上の十分な配慮を行い、履修指導を綿密に行っていく方針である。</p> <p>(平成16年度) 文学部心理・応用コミュニケーション学科及び経済学部経済法学科とも14年度、15年度と定員確保に向けた上記取組みを行ってはいたが、近年の短期大学の4年制大学への改組(統廃合)等が認可申請時に予想していたよりも北海道内において急速に進み、短期大学卒業生が減少したこと、経済的状況から進学を断念する短期大学卒業生が増加した等の要因もあり、受験生が定員を上回ることなく、編入学生の定員を遵守することができなかった。また、心理・応用コミュニケーション学科においては、学科で必要とする学力水準に達していない受験者もいた。</p>	

4 大学・学部・学科、大学院研究科の新增設等の認可等の際に文部科学省から付された履行条件に対する実施状況一覧

(表 I-4-⑤)

大学・学部・学科、 大学院研究科等の名称 (設置認可年月日)	大学・学部・学科、 大学院研究科等の 設置認可の際の履行条件	設置認可(履行状況 報告)の際の状況	履行条件に対する実施状況	備考
<p>文学部 心理・応用コミュニケーション学科</p> <p>経済学部 経済法学科</p> <p>(平成13年8月1日)</p>	<p>1 編入学生の受入れについては、定員の遵守、学科の設置の趣旨に沿った既修得単位の認定及び履修上の配慮に努めること。</p>		<p>17年度に向け、より一層の定員遵守に向けた取組みを強化し、定員の遵守に努力したい。とくに、併設する北星学園大学短期大学部との連携を図り、同短期大学部からの推薦等による入学者の確保に向けた取組みを計画している。</p> <p>なお、受入れた編入学生については、2年間で卒業要件を満たし得るよう単位認定を行うとともに、学科長による教育上の配慮と個別修学指導を十分に行っており、より一層の指導体制の強化を図る計画である。</p> <p>(平成17年度)</p> <p>文学部心理・応用コミュニケーション学科及び経済法学科は、編入学定員を確保するための取組みを行ってきたが、編入学生の定員を遵守することができなかった。心理・応用コミュニケーション学科は16年度に計画していた併設する北星学園大学短期大学部からの入学者の確保に向けた取組を強化し、同短期大学部からの推薦等による入学者は確保できたが、編入学定員を遵守することはできなかった。また、経済法学科は受験者が定員を上回ることもなく、同短期大学部からの推薦等による入学者1名の確保に留まり、編入学定員を遵守することができなかった。</p> <p>なお、受入れた編入学生については、2年間で卒業要件を満たし得るよう単位認定を行うとともに、より一層の指導体制の強化を図る計画である。</p> <p>また、編入学生の受入れについては、今後も引き続き、定員の遵守に向けた取組みを強化し、努力したい。</p>	

5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧

(1) 大学【大学基準協会】

(表 I-5-①)

(実施年月日)	勧告、助言事項	改善方策の取組状況	備考
認証評価申請書類提出 (平成20年3月28日)	二 助 言		勧告は付されていない。
実地視察実施 (平成20年10月20日)	1 理念・目的		
認証評価適合認定 【大基委大評第207号】 (平成21年 3月12日) 改善報告書提出 (2012年7月27日)	1) 全学部について、学部としての理念・目的・教育目標が、大学案内など、『点検・評価報告書』以外の公的刊行物に掲載されていないので明示および周知することが望まれる。	<p>【2009年度】 (文学部) 文学部としてのアドミッション・ポリシーを策定し、今後はこれをアレンジした形のものを入試広報のみならず学外に発信していく方針を確認した。 (経済学部) 「経済学部アドミッションポリシー」を制定し、各種刊行物で明示する途を拓いた。 (社会福祉学部) 学部としての理念・教育目標については、学科再編等の動きについて具体的な方向性が確認された段階で、明示することとしたい。</p> <p>【2010年度】 (文学部) 昨年度アドミッション・ポリシーを策定したのに引き続き、本年度はディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを策定し、大学のホームページ等に公開した。 (経済学部) アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーという形で当学部の教育理念は、既に大学ホームページやガイドブックなどの各種媒体において公表済みであり、様々な経路を経て対外的な周知にも努めている。 (社会福祉学部) 学部としてのディプロマ・ポリシー及び各学科ごとのカリキュラム・ポリシーをホームページに掲載した。</p> <p>【2011年度】 (文学部) 学部の理念と目標はすでに大学のホームページで公開されている。学部としてのアドミッション・ポリシーもディプロマ・ポリシーも同様に公開されている。 (経済学部) 学部のアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーは、既に前年度に引き続き大学ホームページやガイドブック（受験生など学外者向け）などの各種媒体において公表済みである。3ポリシーで明示している学部としての理念・目的・教育目標に関しては、各種の媒体を通してあるいは機会を見つけて対外的な周知にも努めている。 (社会福祉学部) 学部としての理念・目的・教育目標については、既にホームページに掲載した。</p>	

5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧

(1) 大学【大学基準協会】

(表 I-5-②)

(実施年月日)	勧告、助言事項	改善方策の取組状況	備考
	1) 全学部について、学部としての理念・目的・教育目標が、大学案内など、『点検・評価報告書』以外の公的刊行物に掲載されていないので明示および周知することが望まれる。	<p>【2012年度】 (文学部) HP等掲載済で改善済である。8月以降については特に改善なし。 (経済学部) 今年度も対応済みである。 (社会福祉学部) 大学ホームページにおいて、学部の教育理念・目的・目標について掲載済みである。</p>	
	2 教育内容・方法		
	(1) 教育課程等		
	1) 社会福祉学研究科社会福祉学専攻（修士課程）では、開講科目数が多く履修者が極端に少ない中での教育指導上の効果や教員の持ちコマ負担の点から、カリキュラム体系の見直しが望まれる。	<p>【2009年度】 学部・学科再編の如何によって大学院のカリキュラム体系についても見直しが必要となる可能性があるため、現行のカリキュラムについては、その見通しがはっきりするまで見直しを控えることとした。</p> <p>【2010年度】 学部学科再編の協議の関係上、議論する機会をもつことができなかった。</p> <p>【2011年度】 大学院科目及びカリキュラム体系の見直しについて検討を行い、科目数の削減を中心として負担の軽減を図ることができた。さらなる改善を図る必要がある。</p> <p>【2012年度】 カリキュラムの大幅な改訂をおこなうこととし、WGの設置をおこない福祉計画と福祉臨床領域の統合および社会発達心理学領域の発展的解消を前提にした2015年度からのカリキュラム改訂案をまとめることができた点は高く評価できる。</p>	

(2) 教育方法等	
<p>1) 全学部について、シラバスの記述の仕方に教員間で精粗が見られ、改善が望まれる。</p>	<p>【2009年度】 (教学運営委員会) シラバスの記述については、2010年度の作成依頼において改善の要請を行い、新たに事前学習の内容を含めて充実を図る事とした。</p> <p>【2010年度】 (教学運営委員会) 「シラバスに関する理解を深める—知の構造、評価、授業改善—」と題して山形大学基盤教育院／高等教育研究企画センター准教授の杉原真晃氏によるFD研修会を大学教学会議主催で行い、シラバスに関する作成上の留意点及び効果的な活用方法を学ぶ有益な機会となった。また、シラバスシステムの改訂を行い、編集表示画面と印刷イメージを一致させるなど作成作業上の改善を図った。</p>

5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧

(1) 大学【大学基準協会】

(表 I -5-③)

(実施年月日)	勧告、助言事項	改善方策の取組状況	備考
	<p>1) 全学部について、シラバスの記述の仕方に教員間で精粗が見られ、改善が望まれる。</p>	<p>【2011年度】 (教学会議) シラバスの記述方法の見直しなどに関して、FD委員会の主催で「ディプロマ・ポリシーに基づく体系的な教育改善」というテーマの研修会を実施した。講師は立命館大学教育開発推進機構教授の沖裕貴氏で、主な講演内容は3ポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）のとらえ方、カリキュラム・マップの作成のほか、特にシラバス記述との関係で客観的かつ厳格な成績評価の方法（ルーブリック評価）の紹介があり、大変示唆に富むもので時機にかなった研修であった。</p> <p>【2012年度】 (教学会議) シラバスの記述方法の見直しなどに関して、2013年度シラバスから記載事項を①講義の目的および概要、②講義方法、③到達目標、④授業計画、⑤成績評価方法、⑥準備学習、⑦教科書・参考書、⑧注意事項、⑨参照リンクに変更し、より統一的で具体的な記載とすることとした。</p>	
	<p>2) 全学部について、授業評価アンケートによる授業改善は教員個人に委ねられていることから、組織的に活用されるよう改善が望まれる。</p>	<p>【2009年度】 (教学運営委員会) 2009年度の授業評価アンケートは従来の方法により実施することとしたが、実施に係るシステムの見直しを含め、2010年度の検討課題とする。</p> <p>【2010年度】 (教学運営委員会) 学生による授業評価アンケートについては、実施に係るシステム見直しなどが本年度の課題であったが、時間がなく検討を進めることが出来なかった。隔年実施の件も含めて早急に検討を行うべく、次年度への課題とした。</p> <p>【2011年度】 (教学会議) 学生による授業評価アンケートについては、FD委員会に諮問したが時間がなく検討を進めることが出来なかったため、従前の質問項目で実施した。アンケート方法や項目の見直しなどは、FD委員会で次年度への課題として引き続き検討を進めてもらうこととした。</p> <p>【2012年度】 (教学会議) 学生による授業評価アンケートについては、実施方法に関してFD委員会からの答申を受け、2013年度実施分からWebによるアンケート調査を行うことを決定した。なお、「アンケート項目の見直し」「集計方法や公開の簡素化」などについては、引き続きFD委員会で検討を進めてもらうこととした。</p>	

5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧

(1) 大学【大学基準協会】

(表 I-5-④)

(実施年月日)	勧告、助言事項	改善方策の取組状況	備考
	<p>3) 文学部心理・応用コミュニケーション学科、経済学部経営情報学科および経済法学科では、1年間に履修登録できる単位数の上限が高いので、単位制度の趣旨に照らして改善が望ましい。</p>	<p>【2009年度】 (文学部) 2年次の履修単位数が52となっていたものを2010年度新入生からは48単位とすることを決定した。 (経済学部) 既に3年間現行カリキュラムでこの履修上限を続けており、入学年次による履修条件及び卒業条件の差別を生じさせないため、今すぐ改定を行なう予定は無いが、次回カリキュラム改訂に際し、ただちに改善する。</p> <p>【2010年度】 (文学部) 2010年度入学生から上限を低くしたので、すでに改善がなされている。 (経済学部) 現行カリキュラムは本年度に完成年度を迎えたが、平成24年度まで改訂しないことが大学評議会決定されている為、平成25年4月導入の次期カリキュラムに於いて対応することとした。この点は、経済学部教授会では昨年度に了承されており、昨年度の自己点検評価報告書に記載済みである。</p> <p>【2011年度】 (文学部) 2010年度入学生から上限を低くしたので、すでに改善がなされている。 (経済学部) 2013年度カリキュラムの策定に合わせて、単位制度の趣旨に照らしながら3学科とも履修登録単位数の上限を見直した。その結果、経営情報学科・経済法学科とも、各学年の履修登録単位数の上限を引き下げた。</p> <p>【2012年度】 (文学部) 2013年度新カリキュラムにおいて改善を見ている。 (経済学部) 今年度も対応済みである。</p>	

<p>4) 全研究科について、研究科固有のFDを実施することが望まれる。</p>	<p>【2009年度】 文学研究科主催で研究科合同のFDを実施した他、各研究科でも固有のFDを実施した。</p> <p>【2010年度】 (文学研究科) 本年度は、「首都大学東京における大学院教育と論文指導」ということで大学院3研究科の合同FDとなったが、次年度は研究科固有のFDを実施するよう努めたい。</p> <p>(経済学研究科) 経済学研究科固有のFDを実施し(7月28日)、入学志願者数を増やす方策を徹底討論した。その結果、学部の早期卒業制度の導入可能性とそれを活用した本研究科への進学を勧誘することの実現可能性が高いという共通認識を得た。</p>
--	---

5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧

(1) 大学【大学基準協会】

(表 I-5-⑤)

(実施年月日)	勧告、助言事項	改善方策の取組状況	備考
	<p>4) 全研究科について、研究科固有のFDを実施することが望まれる。</p>	<p>(社会福祉学研究科) 研究科固有のFDに相当する博士論文の指導体制について首都大学東京の取り組みをFDにおいて講師を招いて詳細な展開を確認することができ、協議をおこなった。 また、修士論文の中間報告会の位置づけや実施方法について時期や体制を含めた改善課題を協議した。</p> <p>【2011年度】 (文学研究科) 3研究科合同で「特色ある大学院の再構築に向かって——学生の確保と教育」と題して、文学研究科としてもおおいに啓発されるFDが実施されたものの、文学研究科固有のFDは実施に至らなかった。ただ開催するのではなく、検討すべきテーマをしっかりと煮詰めたうえで、次年度は開催するようにしたい。</p> <p>(経済学研究科) 8月3日に学部と合同で早期卒業制度の導入などについてFDを開催した。2月22日に佐々木隆生本学教授を講師として「特色ある大学院の再構築に向かって」というテーマでのFD研修会を実施した。</p> <p>(社会福祉学研究科) 研究科固有のFDについては、時間的な確保がとれず、実施することはできなかった。次年度の早い時期に開催を図りたい。</p> <p>【2012年度】 (文学研究科) 研究科固有のFDが求められた一方で、現実には3研究科主催FDとの隔年開催が現実的とされる意見があり、実際そのように変更処置が講じられたことは理にかなっている。本年度は、全学的な大学院の現状を踏まえ、かつ、文学研究科の課題を念頭に、「ICUの改革～リベラルアーツと高度専門職業人養成～」(ICU教授・町田健一氏講演・懇談)を2月に開催した。</p> <p>(経済学研究科) 新入試制度の実施および新カリキュラム策定に伴う展開科目・担当教員数の削減など、新制度への移行期にあつて様々な点で検討に時間を要したため、研究科固有のFDは実施できなかった。</p> <p>(社会福祉学研究科) 研究科固有のFDについてはリトリートとして8月1日に教育研究指導体制の課題を整理検討した。主な課題は上記の通りである。詳細については時間的な余裕がなく次年度の課題とせざるをえない。</p>	

5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧

(1) 大学【大学基準協会】

(表 I -5-⑥)

(実施年月日)	勧告、助言事項	改善方策の取組状況	備考
	5) 全研究科について、大学院要覧などに授業および研究指導の方法、成績評価基準、ならびに1年間の授業および研究指導の計画の明示がなされていないので、改善が望まれる。	【2009年度】 2009年度の『大学院要覧』から記入内容について周知徹底し、全科目について、授業のねらい・概要、授業計画、成績評価の基準・方法、教科書、参考書等について明記した。	
	(3) 学位授与・課程修了の認定		
	1) 全研究科について、修士の学位授与の質的な要件、つまり学位論文に係る評価ならびに修了の認定の際の基準などを明確にすることが望まれる。	【2009年度】 (大学院委員会) 社会福祉学研究科及び経済学研究科では修士論文の評価基準を作成し次年度より実施することとした。文学研究科においても現在検討中であり、2010年度内には修士論文の評価基準を作成することを確認した。 併せて、今後の博士論文審査の本格化をにらみ、博士論文の審査実施要領を改訂し、評価の方法を整理し透明化を図った。また、いわゆるオーバーペイのうち、大学院兼担手当を見直し博士論文審査手当の追加について検討を行い、現状の問題点を企画運営会議に報告した。 【2010年度】 (大学院委員会) 社会福祉学研究科及び経済学研究科では、昨年度において修士論文の評価基準を作成し今年度より実施している。文学研究科においても修士論文の評価基準を作成し、次年度から実施することとした。評価基準を持つことにより、学位の質的保証を確保した。 【2011年度】 (大学院委員会) 社会福祉学研究科及び経済学研究科では、2009年度において修士論文の評価基準を作成し2010年度より実施している。文学研究科においては2010年度において修士論文の評価基準を作成し、今年度から実施している。評価基準を持つことにより、学位の質的保証を確保する制度をとっている。 【2012年度】 (大学院委員会) 2011年度に完了済みである。	

5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧

(1) 大学【大学基準協会】

(表 I-5-⑦)

(実施年月日)	勧告、助言事項	改善方策の取組状況	備考
	<p>3 学生の受け入れ</p> <p>1) 編入学定員に対する編入学生数比率が、経済学部0.50、社会福祉学部0.52と低いので、改善が望まれる。</p>	<p>【2009年度】 (企画運営会議) 2009年度は検討することができなかった。</p> <p>【2010年度】 (企画運営会議) 編入学定員、社会福祉学部の教員負担といった問題は、現在検討が進んでいる学部・学科再編と密接に関連しているため、現段階では具体的な改善方策を検討できていない。次年度以降、学部・学科再編の具体的な検討を行う中で、これらの問題についても取組みを進めることとする。</p> <p>【2011年度】 (企画運営会議) このことについては、具体的に検討することができなかった。編入学定員に対する編入学生比率が低い要因としては、短期大学数の減少及び本学短期大学部学生の3年次編入志願者の減少ならびに志願傾向による学部学科間格差が顕著に浮き彫りになっていること、さらには経済不況が背景にあることで編入学に歯止めをかけている。現段階では、具体的な改善方策を講ずることはできないが、今後は多角的検証をしながら検討していくこととする。</p> <p>【2012年度】 (企画運営会議) 経済学部及び社会福祉学部の編入学定員に対する編入学生数比率が低下してきた外的要因としては、短期大学及び学生母数が年々減少したこと、本学短期大学部学生の志願傾向の変化による学部学科間格差が浮き彫りになっていること、経済不況が背景にある理由で3年次編入学を進路先の選択肢として断念せざるを得ない状況であること、が考えられる。 このような状況の中、学内の短期大学部では、学部の教職科目や社会福祉士関連授業科目を履修できるように特別科目等履修制度を充実させ、編入前の履修環境を整えた。また、学部学科間で相互に情報を共有しつつ短大部生へのきめ細かい指導等連携を図ってきた。その結果、経済学部においては、評価当時の0.5から2012年度では0.84と内部努力により改善に結びつく数字となった。一方、社会福祉学部では、評価当時より比率が低下する結果となってしまった。 この状況を踏まえ、具体的な改善方策を検討する。なお、前述のような社会状況等により志願者が減少傾向であることから、定員を減員することも含め検討していくこととする。</p>	

5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧

(1) 大学【大学基準協会】

(表 I -5-⑧)

(実施年月日)	勧告、助言事項	改善方策の取組状況	備考
	<p>2) 文学研究科修士課程における収容定員に対する在籍学生数比率が0.25と低く、改善が望まれる。</p>	<p>【2009年度】 2009年度は厳しい結果となったので、次年度の最重点課題として取り組みたい。</p> <p>【2010年度】 幸いにして、2011年度は6名の合格者を出したので、在籍学生比率が大幅に改善されることになるだろう。</p> <p>【2011年度】 2011年度は6名の入学者があったし、2012年度は4名の合格者を出したので、在籍学生比率は若干改善されることになるが、まだまだ収容定員に近づいていないのが現状である。</p> <p>【2012年度】 学内選考の人数枠を2名から3名へ増員し、次年度から適用されることとなった。今年度は、第Ⅰ期入学者2名（内、上記制度適用者1名）、第Ⅱ期は受験者なし。今後の進学者リクルートの方策について、文学部両学科の枠を超えて展開する可能性をも念頭に置き追究する。なお、早期入学者制度の導入は、文学研究科への適用について、現状では困難であるとの見通しをもっている。</p>	
	4 教員組織		
	<p>1) 社会福祉学部では、一部の専任教員に大学院博士後期課程担当などの負担により、コマ数の過重が見られるので改善が望まれる。</p>	<p>【2009年度】 この問題については、社会福祉学部だけでなく大学として大学院担当についてどのように考えていくかといった基本方針に関わる問題であり、その策定を今後追及していく。</p> <p>【2010年度】 (社会福祉学部) この問題は社会福祉学部だけではなく、大学として大学院担当についてどのように考えていくかといった基本方針に関わる問題である。現在今後の本学あり方として全学的な方針の策定に向かっており、大学院についてのその方針に基づいてあり方を検討する中でコマ数の負担の問題も検討することになる。</p> <p>(企画運営会議) 今年度は具体的な結論を得ることができなかったため、次年度に継続して検討することとした。</p>	

5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧

(1) 大学【大学基準協会】

(表 I -5-⑨)

(実施年月日)	勧告、助言事項	改善方策の取組状況	備考
	<p>1) 社会福祉学部では、一部の専任教員に大学院博士後期課程担当などの負担により、コマ数の過重が見られるので改善が望まれる。</p>	<p>【2011年度】 (社会福祉学部) 社会福祉学部では、一部の教員に大学院博士後期課程担当などの負担により、コマ数の過重が見られるので、改善が望まれているが、2013年度の新カリキュラムにおいて、一定程度の実現を目指している。 (企画運営会議) このことについては、今年度、持ちコマ基準の見直しを検討する際に、取り上げたが、資格対応等科目に特化したカリキュラムであること、大学院博士課程授業科目については専任教員を担当させることに重点を置いていることなどから一部の専任教員に負担がかからざるを得ない状況であり、早急に対応策を講ずることは難しいと判断するに至った。次年度は2013年度カリキュラム改編に向けた学部開講科目と大学院博士課程の持ちコマ数との調整を図りながら負担軽減につながるよう取組んでいくこととする。</p> <p>【2012年度】 (社会福祉学部) 2013年度の学部新カリキュラムにおいて、大学院科目担当教員の教育負担の軽減化を図るべく、担当科目数の軽減化はじめ、実習教育や卒論指導の展開の見直しに取り組むことで、一定程度実現できた。なお、2015年度大学院修士課程のカリキュラムの改訂時期に合わせて、今後も継続して取り組む。 (企画運営会議) 社会福祉学部は、資格対応（社会福祉士・精神保健福祉士等）科目を多く配置する特化したカリキュラム構造になっている。また、大学院博士課程授業科目、修士課程授業科目及び実習科目については非常勤講師に依存せず専任教員を担当させることに重点を置いている。このような理由から、一部の専任教員に負担がかからざるを得なく、早急に対応策を講じて解決するには困難な状況である。 今後はこの問題を改善するため2013年度カリキュラム改編に向けた学部開講科目と大学院修士及び博士課程の持ちコマ数について、少しでも教員の負担軽減につながるよう解決策を講じていくこととする。</p>	

	<p>2) 専任教員の年齢構成において、文学部では、41歳～50歳の比率が36.4%、経済学部では、51歳～60歳の比率が33.4%、社会福祉学部では、41歳～50歳の比率が37.9%と高いので、全体的バランスを保つよう改善の努力が望まれる。</p>	<p>【2009年度】 (文学部) 今後の採用人事において均衡の取れた年齢構成をできるだけ考慮することを確認した。 (経済学部) 近年の新規採用人事に置いては採用内定時20代の若年者もいるため、今後改善されると思われる。 (社会福祉学部) 社会福祉学部の専任教員の年齢構成は、大学院担当教員採用の必要性を踏まえると、比較的バランスが取れていると考えられる。</p>	
--	---	--	--

5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧

(1) 大学【大学基準協会】

(表 I-5-⑩)

(実施年月日)	勧告、助言事項	改善方策の取組状況	備考
	<p>2) 専任教員の年齢構成において、文学部では、41歳～50歳の比率が36.4%、経済学部では、51歳～60歳の比率が33.4%、社会福祉学部では、41歳～50歳の比率が37.9%と高いので、全体的バランスを保つよう改善の努力が望まれる。</p>	<p>【2010年度】 (文学部) 2010年度は1件の新任採用人事があったが、実務経験者が望ましいという学科の要望もあり、若手の採用にはならず、年齢構成は高いままである。時間がかかるが、改善につとめたい。 (経済学部) この指摘を踏まえ、2011年4月1日付着任予定の環境経済学・基礎経済学等担当教員の採用条件としては「35歳以下」という応募条件(従来からの慣例になっている)を明示すると共に、着任時30歳の若手教員を採用した。 (社会福祉学部) 社会福祉学部の専任教員の年齢構成は、大学院担当教員の採用の必要性があり、そのことを踏まえれば年齢構成比率は比較的バランスが取れていると考えており、今後の採用においてそのバランスが崩れないよう努力する。</p>	

【2011年度】

(文学部)

ここ2年間で2回採用人事があったが、いずれも採用者は55歳と51歳であるから、中高年層が増えた。教育経験や校務経験、研究業績を考えると、中堅層が増えるのはやむをえない面もあるが、中・長期的に改善していきたい。

(経済学部)

2010年度の人事(2011年4月着任)では2名、2011年度(2012年4月着任)は1名の採用人事を行った。採用人事のうち1名は30代、残りの2名は人事計画に基づき60歳以上の教員の採用となった。なお、引き続き、年齢構成のバランスを考慮した人事計画を実行する。

(社会福祉学部)

専任教員の年齢構成について、社会福祉学部では41歳～50歳の比率が37.9%と高いので全体的バランスを保つよう改善の努力をした結果、福祉計画、福祉臨床、福祉心理の3学科とも、直近の人事において若手の教員を採用した。

【2012年度】

(文学部)

特に英文学科での新規若手採用による年齢比率の改善が望まれたが、状況は改善されなかった。しかし、現状のなかでも、教育活動や学科運営に対する特別専任教員の一定の貢献が見込まれる面もある。

(経済学部)

新たな人事は行わなかったが、引き続き、年齢構成のバランスを考慮した人事計画を実行する。

(社会福祉学部)

今年度の新規採用人事はなかったものの、今後も継続して、教員の年齢構成に配慮した採用人事を推進する。

5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧

(1) 大学【大学基準協会】

(表 I-5-⑪)

(実施年月日)	勧告、助言事項	改善方策の取組状況	備考
	<p>5 施設・設備</p> <p>1) 図書館4階の特別教室の教壇の段差が大きいので、対策として簡易スロープか簡易昇降機の設置を検討している。2008（平成20）年度は予算化出来ず設置が見送られたが、今後の改善が望まれる。</p>	<p>【2009年度】 キャンパス・マスタープランに関わって新たに設置する建築委員会に検討を要請する。</p> <p>【2010年度】 図書館4階特別教室の教壇の問題については、建築委員会に検討を要請することとしていたが、学部・学科再編及び隣接地への末日聖徒キリスト教会神殿建設の問題等により、キャンパス・マスタープランが一時凍結中であることから、今年度は検討要請を行なわなかった。</p> <p>【2011年度】 前年度から継続して、大学建築委員会に具体的な検討を要請することとする。</p> <p>【2012年度】 これまで建物の新築・増築の際に、バリアフリー化を取り入れるよう努力し、一定程度実現できている。図書館棟4階の特別教室には移動式簡易スロープを設置出来なかったが、2009年度から、B館402教室の教壇用として移動式簡易スロープを設置した。車椅子利用者が講義等を行う際は、発生頻度がごく稀とはいえ、B館402教室（図書館棟4階特別教室と同規模）を代替教室として教学との連携により優先的に使用することとしている。このことにより、一定程度の改善を図ったと受け止めている。</p>	

5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧

(1) 大学【大学基準協会】

(表 I -5-⑫)

(実施年月日)	努力課題	改善方策の取組状況	備考
認証評価申請書類提出 (平成27年3月27日) 実地視察実施 (平成27年10月20~21日) 認証評価適合認定 【大基委大評第138号】 (平成28年3月11日) 改善報告書提出 (2019年7月26日)	4 教育内容・方法・成果 教育目標、学位授与方 (1) 針、教育課程の編成・実 施方針		改善勧告は付 されていない。
	1) 全学部において、学位授 与方針と学生の受け入れ 方針は学部ごとに設定さ れているのに対して、学 部としての教育課程の編 成・実施方針が明確に定 められていないので、改 善が望まれる。 2) 大学院修士課程の文学研 究科、経済学研究科、社 会福祉学研究科、博士課 程の社会福祉学研究科の 教育課程の編成・実施方 針は、現状の説明にとど まっており、教育内容・ 方法等に関する基本的な 考えを示していないの で、改善が望まれる。	【2016年度】 (自己点検評価委員会) 3ポリシーのガイドライン(平成28年3月31日 中央教育審議会大学分科会大学教育 部会による「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー), 「教育課程編 成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッ ション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン)によれば、必ずしも学部の カリキュラム・ポリシーを策定することは必要でないため、現状のまま策定しないこと とした。 【2016年度】 (自己点検評価委員会) 3研究科とも2017年度から検討に着手することとした。 【2017年度】 (各大学院研究科委員会) カリキュラム・ポリシーについての検討 カリキュラム改編に伴い、カリキュラム・ポリシーを中心に改めて3ポリシーにつ いて検討・修正を行った。 【2018年度】 (自己点検評価委員会) カリキュラム改編を行なう際に「教育課程の編成・実施方針」に教育内容・方法等に関 する基本的な考え方を盛り込み、改めた。また大学公式WEBサイト及び大学院要覧に変 更した教育課程の編成・実施方針を掲載した。	

5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧

(1) 大学【大学基準協会】

(表 I -5-⑬)

(実施年月日)	努力課題	改善方策の取組状況	備考
	<p>(3) 教育方法</p> <p>1) 1年間に履修登録できる単位数の上限について、社会福祉学部福祉臨床学科が2・3年次において50単位に設定されているため、改善が望まれる。また、編入学生の1年間に履修登録できる単位数の上限については、全学部において学科長との面談を経て国家試験受験資格などを満たさないなど特別な事情がある学生については、1年間に履修登録できる単位数の上限を超える履修登録を認めているので、単位制度の趣旨に照らして、改善が望まれる。</p> <p>2) 社会福祉学研究科博士課程を除く全研究科修士課程において、研究指導計画の学生への明示が不十分であるので、改善が望まれる。</p>	<p>【2016年度】 (教学会議) 社会福祉学部 福祉臨床学科2.3年次の履修登録上限単位を2019年度から48単位とすることとした。</p> <p>【2018年度】 (大学評議会) 「授業科目の履修等に関する規程」を改定した。 2019年度にも編入学生の履修上限について、具体的な改定を行う予定である。</p> <p>【2019年度】 (大学評議会) 編入学生の1年間に履修登録できる単位数の上限については、全学部において学科長との面談の際に、1年間に履修登録できる単位数の上限を超えないように、より適切な履修指導を行うこととした。また、大学設置基準第27条の2第2項に基づき、編入学生の成績が優れている者については、1年間に履修登録できる単位数の上限を超えて履修登録を認めることを教学会議で確認し、2020年度4月編入学生から適用することとした。</p> <p>【2016年度】 2017年度大学院要覧に各専攻授業科目の履修と研究指導について掲載し、学生に明示することとした。</p> <p>【2017年度】 大学院要覧に掲載し、学生に明示した。</p>	

5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧

(1) 大学【大学基準協会】

(表 I -5-⑭)

(実施年月日)	努力課題	改善方策の取組状況	備考
	<p>(4) 成果</p> <p>1) 社会福祉学研究科博士課程において、学位論文審査基準が学生に明示されていないので、『大学院要覧』などに明記するよう、改善が望まれる。</p> <p>2) 社会福祉学研究科博士課程において、修業年限内に学位を取得できず課程の修了に必要な単位を取得して退学した後、在籍関係のない状態で学位論文を提出した者に対し「課程博士」として学位を授与することを規定していることは適切ではない。課程博士の取り扱いを見直すとともに、課程制大学院制度の趣旨に留意して修業年限内の学位授与を促進するよう、改善が望まれる。</p>	<p>【2016年度】 大学院要覧に「学位論文に関する取扱い・6. 学位論文評価の基準」として掲載した。</p> <p>【2016年度】 (企画運営会議) 企画運営会議で検討し、博士課程に長期履修制度を導入する方向で検討するよう、研究科委員会に依頼した。</p> <p>【2017年度】 検討した結果、社会福祉学研究科博士課程において、在籍関係のある者に対してのみ「課程博士」として学位を授与するよう、規程を改正した。</p>	

5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧

(1) 大学【大学基準協会】

(表 I - 5 - ⑮)

(実施年月日)	努力課題	改善方策の取組状況	備考
	<p>5 学生の受入れ</p> <p>1) 収容定員に対する在籍学生数比率について、文学研究科が0.44、経済学研究科が0.30 と低いので、改善が望まれる。</p>	<p>【2016年度】 （自己点検評価委員会） 当面様子を見ることとした。</p> <p>【2017年度】 在籍学生数の定員比率は文学研究科0.44、経済学研究科0.10であった。 学長を委員長とする自己点検評価委員会から、文学研究科委員会及び経済学研究科委員会へ、入学者確保の方策の検討を依頼した。</p> <p>【2018年度】 在籍学生数の定員比率は文学研究科0.13、経済学研究科0.25であった。 両研究科において、カリキュラム・科目担当者等を検討する際や自己点検評価報告書内容の検討等に併せて、入学者確保の方策の検討を断続的に続けてきたが、入学者の確保には至っていない。また、大学院 進学説明会を実施しているが、参加者数もあまり多くなく、入学者の確保にはつながらなかった。 以上のことを鑑み、学長から入学試験を所掌する副学長宛てに「編入学定員及び研究科入学定員確保の方策検討について（お願い）」としてさらに強く検討依頼を行ったが、入学者の確保には至らなかったため、入学定員の変更も含め検討することとした。</p>	

5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧

(1) 大学【大学基準協会】

(表 I - 5 - ⑩)

	<p>2) 編入学定員に対する編入学生数比率について、経済学部経営情報学科が0.67、同学部経済法学科が0.25、社会福祉学部福祉計画学科が0.40、同学部福祉臨床学科が0.00、同学部福祉心理学科が0.14 と低いので、改善が望まれる。</p>	<p>【2016年度】 (自己点検評価委員会) 当面様子を見ることとした。</p> <p>【2017年度】 編入学定員に対する編入学生数比率は経済学部経営情報学科1.17、経済法学科0.40、社会福祉学部福祉計画学科0.60、福祉臨床学科0.40、福祉心理学科0.43であった。</p> <p>【2018年度】 編入学定員に対する編入学生数比率は経済学部経営情報学科0.33、経済法学科0.30、社会福祉学部福祉計画学科0.50、福祉臨床学科0.30、福祉心理学科0.00であった。 この2年間の状況を鑑み、学長から入学試験を所掌する副学長宛てに「編入学定員及び研究科入学定員確保の方策検討について(お願い)」として検討依頼を行った。それを受けた副学長は「入試改革プロジェクト」を組織し、2020年の入試制度改革への対応と併せて検討し、2018年11月に「編入学定員充足のための改善策(案)」として答申をまとめた。これは、特に本学校法人で設置している北星学園大学短期大学部からの編入学生を確保する方策であり、その他の学校法人が設置する短期大学からの編入学生増及び編入学定員の変更を盛り込んだものである。</p> <p>【2019年度】 編入学定員に対する編入学生数比率は経済学部経営情報学科0.33、経済法学科0.10、社会福祉学部福祉計画学科0.10、福祉臨床学科0.40、福祉心理学科0.00であった。 昨年度まとめた答申内容について、北星学園大学短期大学部から編入学生を受け入れる方策を各学科で検討し、文学部、経済学部、社会福祉学部教授会で最終決定した。</p>	
--	---	---	--

5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧

(2) 短期大学部【短期大学基準協会】

(表 I - 5 - ⑩)

(実施年月日)	勧告、助言事項	改善方策の取組状況	備考
第三者評価申請書類提出 (平成20年6月20日) 訪問調査実施 (平成20年10月1日～3日) 第三者評価適格認定 【短基協事第868号】 (平成21年3月25日)	(2) 向上・充実のための課題		早急に改善を要すると判断される事項は付されていない。
	II 教育の内容 ○ 講義要項（シラバス）は、「講義のねらい」、「授業のながれ」、「成績評価・注意事項」、「教科書・参考書」の項目で統一されているが、各科目担当者間の記載の仕方に格差があり、今後は編集段階で各科目担当者に統一性を求めると講義要項（シラバス）は更に充実し、学生の便宜に供するものとなる。	<p>【2009年度】 (教学運営委員会) シラバスの記述については、2010年度の作成依頼において改善の要請を行い、新たに事前学習の内容を含めて充実を図る事とした。</p> <p>【2010年度】 (教学運営委員会) 「シラバスに関する理解を深める一知の構造、評価、授業改善」と題して山形大学基盤教育院／高等教育研究企画センター准教授の杉原真晃氏によるFD研修会を大学学会議主催で行い、シラバスに関する作成上の留意点及び効果的な活用方法を学ぶ有益な機会となった。また、シラバスシステムの改訂を行い、編集表示画面と印刷イメージを一致させるなど作成作業上の改善を図った。</p> <p>【2011年度】 (教学会議) シラバスの記述方法の見直しなどに関して、FD委員会の主催で「ディプロマ・ポリシーに基づく体系的な教育改善」というテーマの研修会を実施した。講師は立命館大学教育開発推進機構教授の沖裕貴氏で、主な講演内容は3ポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）のとらえ方、カリキュラム・マップの作成のほか、特にシラバス記述との関係で客観的かつ厳格な成績評価の方法（ルーブリック評価）の紹介があり、大変示唆に富むもので時機にかなった研修であった。</p> <p>【2012年度】 (教学会議) シラバスの記述方法の見直しなどに関して、2013年度シラバスから記載事項を①講義の目的および概要、②講義方法、③到達目標、④授業計画、⑤成績評価方法、⑥準備学習、⑦教科書・参考書、⑧注意事項、⑨参照リンクに変更し、より統一的で具体的な記載とすることとした。</p>	

5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧

(2) 短期大学部【短期大学基準協会】

(表 I - 5 - ⑱)

(実施年月日)	勧告、助言事項	改善方策の取組状況	備考
	<p>○ 学生による授業評価が隔年ということであるが、在学期間が2年間という制約を考慮すると、短期大学における授業改善に役立つ方向での検討が望まれる。</p>	<p>【2009年度】 (教学運営委員会) 2009年度の授業評価アンケートは従来の方法により実施することとしたが、実施に係るシステムの見直しを含め、2010年度の検討課題とする。</p> <p>【2010年度】 (教学運営委員会) 学生による授業評価アンケートについては、実施に係るシステム見直しなどが本年度の課題であったが、上記の教学関係「3. 授業評価アンケートの見直しについて」に記載のとおり、時間がなく検討を進めることが出来なかった。隔年実施の件も含めて早急に検討を行うべく、次年度への課題とした。</p> <p>【2011年度】 (教学会議) 学生による授業評価アンケートについては、FD委員会に諮問したが時間がなく検討を進めることが出来なかったため、従前の質問項目で実施した。アンケート方法や項目の見直しなどは、FD委員会で次年度への課題として引き続き検討を進めてもらうこととした。</p> <p>【2012年度】 (教学会議) 学生による授業評価アンケートについては、実施方法に関してFD委員会からの答申を受け、2018年度実施分からWebによるアンケート調査を行うことを決定した。なお、「アンケート項目の見直し」「集計方法や公開の簡素化」などについては、引き続きFD委員会で検討を進めてもらうこととした。</p> <p>【2018年度】 Web回答による授業評価アンケートを実施した。</p>	
IV			
	<p>○ 卒業生に対する評価の取り組みが今後組織的にされれば、教育の達成度や効果の客観性が増し、更に向上するものと期待される。</p>	<p>【2009年度】 (自己点検評価委員会) 学外者の意見を取り入れるための仕組みとして卒業生アンケートの実施を検討したが、他大学の状況を調査した上で再度内容・実施方法等の検討を行うこととした。</p>	

IX 財務	
○ 図書の処分に関する規程を整備し、他の固定資産管理と同様に取り扱うことが望まれる。	<p>【2009年度】 「北星学園図書管理規程」として整備し、2010年4月1日から施行することとした。</p> <p>【2010年度】 2010年4月1日から施行した。</p>

5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧

(2) 短期大学部【短期大学基準協会】

(表 I-5-⑱)

(実施年月日)	勧告、助言事項	改善方策の取組状況	備考
第三者評価申請書類提出 (平成27年6月26日) 訪問調査実施 (平成27年10月8日～9日) 第三者評価適格認定 【短基協事第215号】 (平成28年3月11日)	向上・充実のための課題		
	I 建学の精神と教育の効果		
	○ 自己点検・評価報告書に、目付の誤りなど、記載に不備が散見されたので、より組織的な自己点検・評価体制の整備に努められたい。	<p>【2016年度】 2016年度の事務機構再編において、認証評価を担当する「企画課」を「IR広報戦略室」として再編し、構成員を増加して自己点検・評価体制の整備を図った。</p>	
	III 教育資源と財的資源		
○ 就業規則上には出勤簿に押印する旨が定められているが、専任教員だけがそれとは異なる方法で出勤を申告し、就業状況が把握されている。就業規則に基づいた適正な管理が望まれる。	<p>【2016年度】 対応を検討したが、具体的対策は行えなかった。</p>		
○ 学校法人全体の事務職員研修会等は実施されているが、SD規程を整備されたい。	<p>【2016年度】 「北星学園スタッフ・ディベロップメントに関する規程」を整備し、2017年4月1日から施行することとした。</p> <p>【2017年度】 「北星学園スタッフ・ディベロップメントに関する規程」を施行した。</p>		

IV リーダーシップとガバナンス

○ 評価の過程で、決算及び事業の実績について、理事会決議後に評議員会への報告がなされていないという問題が認められた。
当該問題については、機関別評価結果の判定までに対処し、学校法人の運営の改善に努めていることを確認した。今後は法令順守の下、理事会、評議員会の機能を確認し、より一層その向上・充実に取り組まれない。

【2015年度】

2016年2月25日に開催された理事会及び評議員会において、寄附行為所定の手続きを経て、理事会の議決事項の整理及び評議員会への諮問事項の変更に伴う寄附行為変更が承認されたため、速やかに文部科学大臣に寄附行為変更認可申請をおこなった。
この寄附行為変更に伴い、2016度より決算及び事業の実績については、理事会で議決後に評議員会に報告することとなった。

6 教職員に占めるクリスチャンの比率状況

(表 I -6)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	備 考
教員数 (a)	141	146	146	143	136	職員数は専任のみ
内クリスチャン数	22	23	23	23	19	
割合 (%)	15.6	15.8	15.8	16.1	14.0	
職員数 (b)	83	82	83	84	87	
内クリスチャン数	3	3	3	3	3	
割合 (%)	3.6	3.7	3.6	3.6	3.4	
合計 (a) + (b)	224	228	229	227	223	
内クリスチャン数	25	26	26	26	22	
割合 (%)	11.2	11.4	11.4	11.5	9.9	

7 自治体等の公開講座への派遣状況〔2020年度〕

(表 I - 7)

氏名	期間	タイトル	主催者
足立 清人	7/2、7/9、7/16	消費生活講座	札幌消費者協会
	11/25、1/20	昇任時教養講師	北海道警察学校
大島 寿美子	9/4	「絆を築くケア技法 ユマニチュード」講師	JA北海道厚生連旭川厚生病院
	11/13	厚生労働省臨床研究総合促進事業 治験・倫理審査委員会委員研修講師	北海道大学病院
岡田 直人	8/20～12/28	北海道専門里親認定研修講師	北海道保健福祉部
金子 大輔	12/21	「学生のエンゲージメントを高める授業づくり 2」講師	東京工業大学
	3/10	「アフターコロナの大学教育」基調講演講師	北海道大学オープンエデュケー ションセンター
栗山 隆	11/12	北海道児童養護施設等基幹的職員研修会講師	北海道保健福祉部
	11/23	「子どもの未来を考えるセミナー04」講師	北海道社会福祉会
マシュー J. コッター	3/22	「アイヌ・先住民学海外特別演習 国際先住民 学演習Ⅱ」講師	北海道大学アイヌ・先住民研究 センター
佐藤 祐基	8/11	社会教育主事講習講師	北海道立生涯学習推進センター
鈴木 克典	10/2	共助災害情報を考えるに関わる講師	室蘭市総務部
田辺 毅彦	1/21、2/12、3/18	継続研修講師	チャイルドラインほっかいどう
田辺 等	2020/6/4～2021/2/20	薬物問題を持つ人の家族のための ワンデイ・セミナー講師	北海道精神保健福祉センター
	2020/9/1～ 2021/6/26	第41期・第42期養成研修、スーパーバイザー研 修講師	北海道いのちの電話
	4/30	座談会講師	日本医師会
	7/19	全日本断酒連盟第50回北海道ブロック大会講演	全日本断酒連盟
	9/17	ギャンブル依存症等指導者養成研修講師	久里浜医療センター
	10/17	働き続けられる職場づくり推進委員会研修会 講師	北海道看護協会上川北支部
	3/27	ヘルシーワークプレイス講演会講師	北海道看護協会
西山 薫	9/18	臨床心理士集合訓練講師	陸上自衛隊北部方面総監部
林 秀彦	11/6	「コロナ禍での大学の価値・教育創造～北星 フィロソフィ」講師	釧路公立大学
森田 勲	2020/12/4～ 2021/1/27	やさしい筋力トレーニング教室	石狩市体育協会

8 各種委員会・審議会等からの委嘱状況〔2020年度〕

(表 I-8-①)

氏名	委員会・審議会等の名称
秋森 弘	札幌緑花会評議員
池田 雅子	札幌市社会福祉審議会委員、札幌市民生委員推薦会委員、札幌市新型コロナウイルス感染症対策専門家会議委員
伊藤 新一郎	恵庭市社会福祉審議会委員
大島 寿美子	北海道大学特定認定再生医療等委員会、北海道大学病院医療安全管理業務監査委員会委員、北海道大学病院長候補者選考会議委員、北海道大学病院自主臨床研究審査委員会委員、北海道がん対策基金運営委員会委員、北海道大学臨床研究審査委員会委員
大友 秀治	北海道スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザー
大原 昌明	札幌市交通事業振興公社評議員、エフエム・ノースウェア放送番組審議会審議委員、あつべつ区民協議会第8・9期委員、コープさっぽろ「トドックフードバンク基金」諮問委員会委員、北海道公衆浴場問題協議会、北海道公衆浴場入浴料金審議会委員、北海道道州制特別区域提案検討委員会委員、北海道公益認定等審議会委員、北海道住宅対策審議会委員、コープさっぽろ社会福祉基金理事、コープ育英奨学生選考委員会委員、全国大学生協連全国理事、全国大学生協連北海道ブロック運営委員長
岡田 直人	北海道地域密着型サービス外部評価審査委員会委員、北海道住宅対策審議会委員、北海道社会福祉審議会臨時委員、北海道社会福祉協議会評議員選任・解任委員会委員、北の住まいるタウン検討協議会アドバイザー
金子 大輔	文部科学省ICT活用教育アドバイザー、北海道大学附属図書館外部評価委員
鴨澤 あかね	札幌刑務所性犯罪処遇プログラムアドバイザー、函館少年刑務所性犯罪者処遇プログラムアドバイザー
佐藤 祐基	札幌真栄高等学校スクールカウンセラー
佐橋 克彦	恵庭市社会福祉審議会・福祉有償運送部会委員
白鳥 金吾	日本学生支援機構官民協働海外留学支援制度選考委員会専門選考委員、北海道教科用図書選定審議会調査員、北海道地域との協働による高等学校教育改革推進事業運営指導委員会委員、文部科学省「小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業」企画評価委員会委員
鈴木 克典	あつべつ区民協議会第8・9期委員、札幌市社会教育委員、札幌市社会教育功労者表彰選考委員、栗山町政策評価委員会有識者委員、札幌市土地利用審査会委員、栗山町空家等対策協議会委員、札幌市町内会アドバイザー派遣制度等企画競争実施委員会委員、札幌市新たな活動の場創設支援事業審査委員会委員、札幌市みんなの商店街集客アップ事業補助金に係る選考委員会委員、札幌市大規模小売店舗の立地に係る生活環境影響評価専門家会議委員、札幌市篠路駅周辺地区まちづくり計画検討委員会委員、札幌市清田区役所ロビーに係る空間デザイン及びレイアウト業務企画競争実施委員会委員
竹田 恒規	北海道後期高齢者医療広域連合情報公開・個人情報保護審査会委員
田実 潔	札幌市幼児アセスメント委員、札幌市教科用図書選定審議会委員、札幌市特別支援教育振興審議会委員、全国私立大学教職課程協会理事、全国私立大学教職課程協会編集委員会委員
田中 耕一郎	北海道自立支援協議会人材育成部会部会員、日本高等教育評価機構大学機関別認証評価評価員
田辺 等	北海道精神科病院実地審査委員、札幌市精神保健福祉審議会委員

8 各種委員会・審議会等からの委嘱状況〔2020年度〕

(表 I-8-②)

氏名	委員会・審議会等の名称
永井 順子	札幌市精神保健福祉審議会委員、札幌市営住宅入居者選考委員会委員、札幌市発達障がい者支援地域協議会委員
中田 知生	積丹町まちづくり活動支援事業選定委員会委員
中地 美枝	日本学術振興会特別研究員等審査会委員等
中村 和彦	北海道医療大学大学院博士学位論文審査委員会委員
長屋 幸世	北海道建設工事紛争審査会特別委員
鳴海 昌江	北海道拓北養護学校スクールカウンセラー、北海道金融広報委員会金融広報アドバイザー、北海道・札幌市公立学校教員採用に関する協議会委員
西原 明希	日本学生支援機構官民協働海外留学支援制度選考委員会専門選考委員
西山 薫	札幌啓成高等学校スクールカウンセラー、札幌市児童等に関する重大事態調査検討委員会委員
畑 亮輔	札幌市社会福祉審議会委員、札幌市地域福祉社会計画審議会委員、北海道医療ソーシャルワーカー協会顧問
藤原 里佐	苫小牧市ケース対応会議における助言者、札幌市子ども・子育て会議委員、札幌市子ども・子育て会議児童福祉部会の臨時委員及び（仮称）評価ワーキンググループ委員
牧田 浩一	北海道札幌視覚支援学校公立学校スクールカウンセラー、札幌市児童等に関する重大事態調査検討委員会委員
松本 康一郎	小樽商科大学グローバル戦略推進センター産学官連携推進部門フェロー、北海道若年者雇用問題検討会議委員、北海道地域訓練協議会委員及び北海道地域ジョブ・カード運営本部委員、北海道独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構北海道訓練計画専門部会委員、北海道労働局公共調達監視委員会委員
蓑内 豊	北海道スポーツ協会スポーツ科学委員会委員、道内におけるスポーツ医科学サポート体制のあり方検討委員会委員
ロバート・J・トムソン	国立日高青少年自然の家運営協議会委員

Ⅲ. 本学の財務、施設設備及び環境に関すること

1 資金収支計算書

大学・短期大学部

(単位：千円) (表Ⅲ-1)

	収入の部	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	備考
1	学生生徒等納付金収入	4,375,817 (-)	4,404,126 (100.6%)	4,376,637 (99.4%)	4,290,965 (98.0%)	4,313,979 (100.5%)	
2	手数料収入	94,067 (-)	96,617 (102.7%)	96,773 (100.2%)	104,636 (108.1%)	89,541 (85.6%)	
3	寄付金収入	28,328 (-)	34,399 (121.4%)	41,262 (120.0%)	39,187 (95.0%)	90,660 (231.4%)	
4	補助金収入	416,033 (-)	435,058 (104.6%)	402,673 (92.6%)	391,644 (97.3%)	685,402 (175.0%)	
5	資産売却収入	100 (-)	0 (-)	416 (-)	0 (-)	83 (-)	
6	付随事業・ 収益事業収入	1,666 (-)	42,973 (2579.4%)	37,187 (86.5%)	31,886 (85.7%)	25,144 (78.9%)	
7	受取利息・ 配当金収入	10,032 (-)	10,032 (100.0%)	10,032 (100.0%)	10,032 (100.0%)	10,032 (100.0%)	
8	雑収入	168,360 (-)	231,549 (137.5%)	231,525 (100.0%)	65,581 (28.3%)	95,184 (145.1%)	
9	借入金等収入	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	
10	前受金収入	804,135 (-)	786,934 (97.9%)	749,372 (95.2%)	735,348 (98.1%)	642,361 (87.4%)	
11	その他の収入	112,532 (-)	132,337 (117.6%)	233,920 (176.8%)	211,461 (90.4%)	85,729 (40.5%)	
12	資金収入調整勘定	△ 941,104 (-)	△ 1,039,291 (110.4%)	△ 1,009,150 (97.1%)	△ 850,788 (84.3%)	△ 841,933 (99.0%)	
	収入の部合計	5,069,965 (-)	5,134,734 (101.3%)	5,160,647 (100.5%)	5,029,952 (97.5%)	5,196,182 (103.3%)	

	支出の部	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	備考
1	人件費支出	3,010,925 (-)	3,175,582 (105.5%)	3,163,196 (99.6%)	2,869,421 (90.7%)	2,965,037 (103.3%)	
2	教育研究経費支出	1,046,333 (-)	979,443 (93.6%)	1,028,597 (105.0%)	1,099,402 (106.9%)	1,296,479 (117.9%)	
3	管理経費支出	293,640 (-)	281,744 (95.9%)	304,087 (107.9%)	280,247 (92.2%)	251,993 (89.9%)	
4	借入金等利息支出	500 (-)	3,247 (649.4%)	5,666 (174.5%)	5,300 (93.5%)	4,932 (93.1%)	
5	借入金等返済支出	78,750 (-)	78,650 (99.9%)	78,650 (100.0%)	78,650 (100.0%)	78,630 (100.0%)	
6	施設関係支出	109,861 (-)	57,139 (52.0%)	55,043 (96.3%)	124,366 (225.9%)	25,087 (20.2%)	
7	設備関係支出	11,556 (-)	222,838 (1928.3%)	124,026 (55.7%)	381,361 (307.5%)	118,641 (31.1%)	
8	資産運用支出	363,000 (-)	95,000 (26.2%)	316,000 (332.6%)	99,000 (31.3%)	0 (0.0%)	
9	その他の支出	238,168 (-)	281,844 (118.3%)	341,419 (121.1%)	337,734 (98.9%)	139,671 (41.4%)	
10	法人費操出金	110,013 (-)	102,970 (93.6%)	105,916 (102.9%)	120,133 (113.4%)	117,972 (98.2%)	
10	資金支出調整勘定	△ 271,316 (-)	△ 352,204 (129.8%)	△ 338,249 (96.0%)	△ 124,610 (36.8%)	△ 189,567 (152.1%)	
	支出の部合計	4,991,430 (-)	4,926,253 (98.7%)	5,184,351 (105.2%)	5,271,004 (101.7%)	4,808,875 (91.2%)	

[注] 下段の () 内は前年度比%を表す。

※2015年度より学校法人会計基準が変更になった。

2 事業活動収支計算書

大学・短期大学部

(単位：千円) (表Ⅲ-2)

	区分/科目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	備 考
1	教育活動収入の部	学生生徒等納付金	4,375,817 (-)	4,404,127 (100.6%)	4,376,637 (99.4%)	4,290,965 (98.0%)	4,313,978 (100.5%)
2		手数料	94,067 (-)	96,617 (102.7%)	96,773 (100.2%)	104,636 (108.1%)	89,541 (85.6%)
3		寄付金	19,742 (-)	24,159 (122.4%)	30,403 (125.8%)	31,203 (102.6%)	88,790 (284.6%)
4		経常費等補助金	406,894 (-)	430,091 (105.7%)	396,548 (92.2%)	357,982 (90.3%)	677,227 (189.2%)
5		付随事業収入	1,666 (-)	42,973 (2579.4%)	37,187 (86.5%)	31,886 (85.7%)	25,144 (78.9%)
6		雑収入	168,174 (-)	231,477 (137.6%)	231,091 (99.8%)	65,552 (28.4%)	95,649 (145.9%)
7		教育活動収入計	5,066,360 (-)	5,229,444 (103.2%)	5,168,639 (98.8%)	4,882,224 (94.5%)	5,290,329 (108.4%)
8	事業活動支出の部	人件費	3,045,323 (-)	3,144,760 (103.3%)	3,147,148 (100.1%)	2,876,134 (91.4%)	2,953,207 (102.7%)
9		教育研究経費	1,466,669 (-)	1,330,759 (90.7%)	1,385,372 (104.1%)	1,470,392 (106.1%)	1,675,507 (113.9%)
10		管理経費	311,550 (-)	296,345 (95.1%)	289,025 (97.5%)	288,422 (99.8%)	253,775 (88.0%)
11		徴収不能額等	5,715 (-)	17,634 (308.6%)	9,804 (55.6%)	17,257 (176.0%)	10,675 (61.9%)
12		法人費繰出金	110,013 (-)	102,970 (93.6%)	105,916 (102.9%)	120,133 (113.4%)	117,972 (98.2%)
13		教育活動支出計	4,939,270 (-)	4,892,468 (99.1%)	4,937,265 (100.9%)	4,772,338 (96.7%)	5,011,136 (105.0%)
14	教育活動収支差額	127,090 (-)	336,976 (265.1%)	231,374 (68.7%)	109,886 (47.5%)	279,193 (254.1%)	
15	教育活動外収支	収入	10,032 (-)	10,032 (100.0%)	10,032 (100.0%)	10,032 (100.0%)	10,032 (100.0%)
16		支出	500 (-)	3,247 (649.4%)	5,666 (174.5%)	5,300 (93.5%)	4,932 (93.1%)
17	教育活動外収支差額	9,532 (-)	6,785 (71.2%)	4,366 (64.3%)	4,732 (108.4%)	5,100 (107.8%)	
18	経常収支差額	136,622 (-)	343,761 (251.6%)	235,740 (68.6%)	114,618 (48.6%)	284,293 (248.0%)	
19	特別収支	収入	23,108 (-)	23,436 (101.4%)	22,273 (95.0%)	48,520 (217.8%)	17,497 (36.1%)
20		支出	16,187 (-)	44,277 (273.5%)	71,518 (161.5%)	66,033 (92.3%)	29,626 (44.9%)
21	特別収支差額	6,921 (-)	△ 20,841 (△301.1%)	△ 49,245 (△236.3%)	△ 17,513 (△35.6%)	△ 12,129 (69.3%)	
22	基本金組入前当年度収支差額	143,543 (-)	322,920 (225.0%)	186,495 (57.8%)	97,105 (52.1%)	272,164 (280.3%)	
23	基本金組入額合計	△ 208,668 (-)	△ 66,969 (32.1%)	△ 160,794 (240.1%)	△ 235,279 (146.3%)	△ 112,041 (47.6%)	
24	当年度収支差額	△ 65,125 (-)	255,951 (△393.0%)	25,701 (10.0%)	△ 138,174 (△537.6%)	160,123 (△115.9%)	
25	前年度繰越収支差額	1,089,344 (-)	1,025,219 (94.1%)	1,281,170 (125.0%)	1,306,871 (102.0%)	1,168,698 (89.4%)	
26	基本金取崩額	1,000 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	
27	翌年度繰越収支差額	1,025,219 (-)	1,281,170 (125.0%)	1,306,871 (102.0%)	1,168,698 (89.4%)	1,328,822 (113.7%)	
【参考】							
28	事業活動収入計	5,099,500 (-)	5,262,912 (103.2%)	5,200,944 (98.8%)	4,940,775 (95.0%)	5,317,858 (107.6%)	
29	事業活動支出計	4,955,957 (-)	4,939,992 (99.7%)	5,014,449 (101.5%)	4,843,670 (96.6%)	5,045,694 (104.2%)	
30	減価償却額の合計	438,876 (-)	613,077 (139.7%)	371,758 (60.6%)	385,075 (103.6%)	390,684 (101.5%)	

[注] 下段の () 内は前年度比%を表す。

※2015年度より学校法人会計基準が変更になった。

3 貸借対照表

学園全体

(単位：千円) (表Ⅲ-3-①)

	資 産 の 部	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	備 考
1	固定資産	27,916,532 (-)	27,925,438 (100.0%)	28,084,370 (100.6%)	28,285,077 (100.7%)	27,945,637 (98.8%)	
2	有形固定資産	16,542,490 (-)	16,340,943 (98.8%)	16,077,407 (98.4%)	16,059,163 (99.9%)	15,696,974 (97.7%)	
3	土地	1,615,181 (-)	1,615,181 (100.0%)	1,615,181 (100.0%)	1,615,181 (100.0%)	1,615,181 (100.0%)	
4	建物	11,099,343 (-)	10,830,620 (97.6%)	10,591,823 (97.8%)	10,346,490 (97.7%)	10,055,476 (97.2%)	
5	構築物	552,400 (-)	520,925 (94.3%)	497,500 (95.5%)	464,685 (93.4%)	437,860 (94.2%)	
6	教育研究用機器備品	762,985 (-)	805,261 (105.5%)	771,147 (95.8%)	971,103 (125.9%)	875,479 (90.2%)	
7	管理用機器備品	53,421 (-)	47,716 (89.3%)	44,133 (92.5%)	41,970 (95.1%)	41,271 (98.3%)	
8	図書	2,458,454 (-)	2,520,534 (102.5%)	2,556,917 (101.4%)	2,619,028 (102.4%)	2,669,321 (101.9%)	
9	車輛	706 (-)	706 (100.0%)	706 (100.0%)	706 (100.0%)	2,306 (326.6%)	
10	建設仮勘定	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	80 (-)	
11	特定資産	11,262,437 (-)	11,482,624 (102.0%)	11,924,215 (103.8%)	12,152,090 (101.9%)	12,160,490 (100.1%)	
12	第2号基本金引当特定資産	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	
13	第3号基本金引当特定資産	388,801 (-)	389,988 (100.3%)	390,579 (100.2%)	391,454 (100.2%)	391,854 (100.1%)	
14	退職給与引当特定資産	810,000 (-)	813,000 (100.4%)	813,000 (100.0%)	823,000 (101.2%)	831,000 (101.0%)	
15	減価償却引当特定資産	9,664,000 (-)	9,880,000 (102.2%)	10,321,000 (104.5%)	10,538,000 (102.1%)	10,538,000 (100.0%)	
16	大学奨学金引当特定資産	399,636 (-)	399,636 (100.0%)	399,636 (100.0%)	399,636 (100.0%)	399,636 (100.0%)	
17	その他の固定資産	111,605 (-)	101,871 (91.3%)	82,748 (81.2%)	73,824 (89.2%)	88,173 (119.4%)	
18	電話加入権	4,789 (-)	4,789 (100.0%)	4,789 (100.0%)	4,789 (100.0%)	4,789 (100.0%)	
19	ソフトウェア	57,420 (-)	53,599 (93.3%)	38,441 (71.7%)	28,760 (74.8%)	28,030 (97.5%)	
20	ソフトウェア仮勘定	0 (-)	0 (-)	0 (-)	2,118 (-)	19,981 (-)	
21	有価証券	30,804 (-)	29,617 (96.1%)	29,026 (98.0%)	28,151 (97.0%)	27,751 (98.6%)	
22	長期貸付金	14,730 (-)	11,898 (80.8%)	8,269 (69.5%)	8,410 (101.7%)	6,746 (80.2%)	
23	その他	3,862 (-)	1,968 (51.0%)	2,223 (113.0%)	1,596 (71.8%)	876 (54.9%)	
24	流動資産	1,501,393 (-)	1,564,325 (104.2%)	1,354,138 (86.6%)	841,067 (62.1%)	1,111,829 (132.2%)	
25	現金預金	709,387 (-)	1,266,973 (178.6%)	1,076,794 (85.0%)	568,151 (52.8%)	877,374 (154.4%)	
26	未収入金	244,296 (-)	266,663 (109.2%)	254,728 (95.5%)	255,354 (100.2%)	205,000 (80.3%)	
27	短期貸付金	20,317 (-)	16,851 (82.9%)	14,668 (87.0%)	12,022 (82.0%)	10,619 (88.3%)	
28	有価証券	514,303 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	
29	その他	13,090 (-)	13,838 (105.7%)	7,948 (57.4%)	5,540 (69.7%)	18,836 (340.0%)	
30	資 産 の 部 合 計	29,417,924 (-)	29,489,763 (100.2%)	29,438,508 (99.8%)	29,126,144 (98.9%)	29,057,466 (99.8%)	

3 貸借対照表

学園全体

(単位：千円) (表Ⅲ-3-②)

負 債 の 部	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	備 考
1 固定負債	4,173,231 (-)	4,018,418 (96.3%)	3,856,647 (96.0%)	3,706,247 (96.1%)	3,517,782 (94.9%)	
2 長期借入金	2,615,660 (-)	2,459,710 (94.0%)	2,291,760 (93.2%)	2,123,830 (92.7%)	1,925,900 (90.7%)	
3 長期未払金	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	
4 退職給与引当金	1,557,571 (-)	1,558,708 (100.1%)	1,564,887 (100.4%)	1,582,417 (101.1%)	1,591,882 (100.6%)	
5 流動負債	1,764,432 (-)	1,767,343 (100.2%)	1,746,512 (98.8%)	1,609,300 (92.1%)	1,450,959 (90.2%)	
6 短期借入金	323,950 (-)	335,950 (103.7%)	347,950 (103.6%)	347,930 (100.0%)	347,930 (100.0%)	
7 未払金	384,127 (-)	405,524 (105.6%)	393,820 (97.1%)	283,391 (72.0%)	229,649 (81.0%)	
8 前受金	910,471 (-)	888,194 (97.6%)	865,733 (97.5%)	842,732 (97.3%)	738,197 (87.6%)	
9 預り金	145,884 (-)	137,675 (94.4%)	139,009 (101.0%)	135,247 (97.3%)	135,183 (100.0%)	
10 負債の部合計	5,937,663 (-)	5,785,761 (97.4%)	5,603,159 (96.8%)	5,315,547 (94.9%)	4,968,741 (93.5%)	

純 資 産 の 部	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	備 考
11 基本金	25,624,891 (-)	25,823,984 (100.8%)	26,136,291 (101.2%)	26,496,188 (101.4%)	26,755,129 (101.0%)	
12 第1号基本金	24,729,090 (-)	24,926,996 (100.8%)	25,238,712 (101.3%)	25,597,734 (101.4%)	25,856,275 (101.0%)	
13 第2号基本金	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	
14 第3号基本金	388,801 (-)	389,988 (100.3%)	390,579 (100.2%)	391,454 (100.2%)	391,854 (100.1%)	
15 第4号基本金	507,000 (-)	507,000 (100.0%)	507,000 (100.0%)	507,000 (100.0%)	507,000 (100.0%)	
16 繰越収支差額	△2,144,630 (-)	△2,119,982 (98.9%)	△2,300,942 (108.5%)	△2,685,591 (116.7%)	△2,666,404 (99.3%)	
17 翌年度繰越収支差額	△2,144,630 (-)	△2,119,982 (98.9%)	△2,300,942 (108.5%)	△2,685,591 (116.7%)	△2,666,404 (99.3%)	
18 純資産の部合計	23,480,261 (-)	23,704,002 (101.0%)	23,835,349 (100.6%)	23,810,597 (99.9%)	24,088,725 (101.2%)	
19 負債及び純資産の部合計	29,417,924 (-)	29,489,763 (100.2%)	29,438,508 (99.8%)	29,126,144 (98.9%)	29,057,466 (99.8%)	

[注] 下段の()内は前年度比%を表す。

※2015年度より学校法人会計基準が変更になった。

4 事業活動収支計算書関係比率一覧

大学・短期大学部

(単位：%) (表Ⅲ-4)

	比 率	算出方法	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2019年度全国平均	備 考
1	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	86.2	84.1	84.5	87.7	81.4	83.8	
2	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	8.2	8.3	7.7	7.9	12.9	6.6	
3	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	60.0	60.0	60.8	58.8	55.7	50.5	
4	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	69.6	71.4	71.9	67.0	68.5	60.3	
5	借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
6	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	28.9	25.4	26.8	30.1	31.6	33.3	
7	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	6.1	5.7	5.6	5.9	4.8	8.6	
8	減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	8.9	7.5	7.5	8.1	7.8	11.9	
9	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	4.1	1.3	3.1	4.8	2.1	9.5	
10	教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	2.5	6.4	4.5	2.3	5.3	6.4	
11	経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	2.7	6.6	4.6	2.3	5.4	7.4	
12	基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入-基本金組入額}}$	101.3	95.1	99.5	102.9	96.9	103.1	

*1 全国平均は、「令和元年度版 今日の私学財政」(日本私立学校振興・共済事業団)の令和元年度財務比率表(系統別)の大学部門を参照した(P514)。

*2015年度より学校法人会計基準が変更になった。

5 貸借対照表関係比率（法人全体）

（単位：％）（表Ⅲ-5）

	比 率	算出方法	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2019年度全国平均	備 考
1	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	118.9	117.8	117.8	118.8	116.0	97.0	
2	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}+\text{固定負債}}$	101.0	100.7	101.4	102.8	101.2	90.6	
3	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	85.1	88.5	77.5	52.3	76.6	260.2	
4	特定資産構成比率	$\frac{\text{特定資産}}{\text{総資産}}$	38.3	38.9	40.5	41.7	41.8	22.6	
5	総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	20.2	19.6	19.0	18.3	17.1	11.8	
6	負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	25.3	24.4	23.5	22.3	20.6	13.3	
7	内部留保資産比率	$\frac{\text{運用資産}(*1)-\text{総負債}}{\text{総資産}}$	22.4	23.7	25.2	25.5	27.9	26.3	
8	基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	94.3	95.0	95.6	96.2	96.9	97.7	
9	積立率	$\frac{\text{運用資産}(*1)}{\text{要積立額}(*2)}$	107.8	109.4	106.1	101.9	100.8	77.0	

[注]

*1 運用資産＝現金預金＋特定資産＋有価証券

*2 要積立額＝減価償却累計額＋退職給与引当金＋2号基本金＋3号基本金

*3 全国平均は、「今日の私学財政」(日本私立学校振興・共済事業団発行)より、大学法人の文他複数学部平均額から算出した。

*2015年度より学校法人会計基準が変更になった。

6 大学施設の外部への貸出状況

2021. 3. 31

〔2016～2020〕

(表Ⅲ-6)

施設名等		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	備考 (主な使用目的)
チャペル	件数	1 件	0 件	0 件	0 件	0 件	結婚式
	金額	16,000 円	0 円	0 円	0 円	0 円	
教室	件数	3 件	3 件	2 件	3 件	2 件	札幌市職員採用試験、英語技能検定 聖徳大学通信教育部
	金額	1,962,144 円	1,614,384 円	870,264 円	827,344 円	2,698,212 円	
体育館	件数	1 件	2 件	1 件	0 件	0 件	日本バレーボール協会 全国指導者講習会 選挙開票所
	金額	50,000 円	1,231,358 円	50,000 円	0 円	0 円	
野球場	件数	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	
	金額	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円	
学生会館	件数	5 件	4 件	3 件	5 件	0 件	
	金額	314,500 円	219,100 円	368,500 円	378,000 円	0 円	
ゲストハウスA	件数	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	
	金額	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円	
ゲストハウスB	件数	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	
	金額	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円	
合計	件数	10 件	9 件	6 件	8 件	2 件	
	金額	2,342,644 円	3,064,842 円	1,288,764 円	1,205,344 円	2,698,212 円	

7 経常費補助金（一般補助）の推移状況

(1) 大学〔2016～2020〕

(単位：千円)

(表Ⅲ-7-①)

項目	年度		2016年度		2017年度		2018年度		2019年度		2020年度	
専任教員給与費（算定基礎）	123人		106,864	128人	111,344	124人	119,184	123人	101,034	120人	130,006	
教育研究経常費			70,558		73,773		63,368		54,282		77,153	
研究旅費			1,304		1,359		1,455		1,233		35	
専任職員給与費（算定基礎）	84人		45,180	84人	45,509	84人	49,959	80人	40,796	85人	56,883	
非常勤教員給与費			7,314		7,656		8,115		6,855		8,858	
教職員福利厚生費			23,279		23,731		23,973		22,427		22,209	
非常勤教員福利厚生費			45		43		42		42		42	
私立大学退職金財団掛金			27,127		28,217		27,979		26,948		26,880	
厚生補導費			1,936		1,956		2,149		1,824		2,417	
合計			283,607		293,588		296,224		255,441		324,483	
〔対前年比〕			88.7%		103.5%		100.9%		86.2%		127.0%	

(2) 短期大学部〔2016～2020〕

(単位：千円)

(表Ⅲ-7-②)

項目	年度		2016年度		2017年度		2018年度		2019年度		2020年度	
専任教員給与費（算定基礎）	16人		16,005	18人	19,152	18人	21,994	18人	23,800	17人	23,526	
教育研究経常費			10,468		10,569		11,859		12,296		13,614	
研究旅費			229		275		315		341		60	
専任職員給与費（算定基礎）	11人		8,068	12人	9,390	12人	10,823	12人	11,684	12人	12,238	
非常勤教員給与費			1,305		1,569		1,809		1,953		1,907	
教職員福利厚生費			2,732		3,026		3,122		3,028		2,816	
非常勤教員福利厚生費			5		6		6		6		6	
私立大学退職金財団掛金			3,183		3,513		3,701		3,613		3,450	
厚生補導費			318		339		391		422		441	
合計			42,313		47,839		54,020		57,143		58,058	
〔対前年比〕			84.8%		113.1%		112.9%		105.8%		101.6%	

8 経常費補助金（特別補助）の推移状況

(1) 大学〔2016～2020〕

(単位：千円) (表Ⅲ-8-①)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
I. 成長力強化に貢献する質の高い教育					
1.就職支援・就業力育成の充実					
2.被災地への復興支援					
I. 成長力強化に貢献する質の高い教育	4,529				
1.地方に貢献する大学等への支援	4,529				
2.医学部入学定員の増員	0				
I. 成長力強化に貢献する質の高い教育		3,300	2,647	3,540	5,500
1.地方に貢献する大学等への支援		3,000	2,365	3,240	2,640
2.医学部入学定員の増加		0	0	0	0
3.被災地の復興支援		300	282	300	2,860
1.被災地の復興					0
2.授業料減免事業等支援					0
3.授業料減免事業等支援〔新型コロナウイルス新型コロナウイルス感染症緊急経済対策分〕					1,860
4.新型コロナウイルス感染症対策支援					1,000
II. 社会人の組織的な受入れ	4,441	4,450	3,285	0	1,200
1.正規学生としての受入れ	3,197	2,100	1,126		
2.多様な形態による受入れに対する支援	178	250	188		
1.科目等履修生	178	250	188		
2.専攻科・別科	0	0	0		
3.履修証明プログラム	0	0	0		
3.社会人の受入れ環境整備	1,066	2,100	1,971	0	1,200
III. 大学等の国際交流の基盤整備	6,954	2,130	2,384	2,840	0
1.海外からの学生の受入れ	1,146	1,050	1,211	1,170	0
2.海外からの教員の招へい	0	300	0	0	0
3.学生の海外派遣	480	780	422	870	0
4.教員の海外派遣	2,131	0	751		
4.教職員の海外派遣				800	0
5.大学等の教育研究環境の国際化	1,599	1,800	1,689	2,400	0
6.実践的な語学力の習得や国際理解の推進	1,332				
7.クールジャパンを活用した日本文化の発信	266				
IV. 大学院等の機能の高度化	2,398	2,726	1,783	2,100	1,997
1.大学院における研究の充実	2,398	2,726	1,783	2,100	1,997
2.大学院生に対する授業料減免事業等支援					0
3.研究施設運営支援	0	0	0	0	0
4.大型設備等運営支援	0	0	0	0	0
5.私立大学研究ブランディング事業(継続分)	0	0	0	0	0
6.戦略的研究基盤形成支援(継続分)	0	0	0	0	
7.大学間連携等による共同研究	0	0	0	0	0
8.専門職大学院等	0	0	0	0	0
9.法科大学院	0	0	0	0	0
10.短大・高専における教育研究の充実	0	0	0	0	0
1.教育組織の高度化(専攻科)支援	0	0	0	0	0
2.研究支援	0	0	0	0	0
V. 経営強化等支援	0	0	0	0	0
1.私立大学等経営強化集中支援事業	0	0	0	0	0
2.未来経営戦略推進経費(継続分)	0	0			

VI. 授業料減免及び学生の経済的支援体制の充実	10,990	16,030	19,870	26,206	
1. 授業料減免事業支援経費		15,350	19,190	23,580	
1. 授業料減免事業及び学生経済的支援体制の充実	10,310				
1. 授業料減免事業支援経費（熊本地震分）		0	0		
1. 授業料減免事業支援経費（平成28年熊本地震、平成30年7月豪雨等、平成30年北海道胆振東部地震分）				296	
2. 卓越した学生に対する授業料減免等事業	680	680	680	680	
3. 特色ある経済的支援方策	0	0	0	1,650	

8 経常費補助金（特別補助）の推移状況

(1) 大学〔2016～2020〕

(表Ⅲ-8-②)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
Ⅶ. 東日本大震災に係る支援	0	0	0	0	0
1. 授業料減免事業等支援経費（震災分）	0	0	0	0	0
2. 被災私立大学等復興特別補助	0	0	0	0	0
3. 被災私立大学等復興特別補助（福島県内の大学等）	0	0	0	0	
Ⅷ. 平成28年度熊本地震からの復興支援	0	0			
1. 教育研究活動復旧費	0	0			
2. 授業料減免事業等支援（熊本地震分）	0				
Ⅷ. 平成30年7月豪雨等からの復興支援			0		
1. 教育研究活動復旧費（平成30年7月豪雨等分）			0		
2. 授業料減免事業等支援（平成30年7月豪雨等分）			0		
Ⅷ. 平成30年北海道胆振東部地震からの復興支援			1,376		
1. 教育研究活動復旧費（平成30年北海道胆振東部地震分）			1,080		
2. 授業料減免事業等支援（平成30年北海道胆振東部地震分）			296		
Ⅷ. 台風第19号、第20号及び第21号からの復興支援				0	
1. 教育研究環境復旧費（台風第19号、第20号及び第21号分）				0	
2. 授業料減免事業等支援（台風第19号、第20号及び第21号分）				0	
Ⅸ. 令和2年7月豪雨等からの復興支援					0
1. 教育研究活動復旧費（令和2年7月豪雨等分）					0
私立大学等改革総合支援事業	19,137	36,300	0		
1. 建学の精神を生かした大学教育の質向上（大学教育質転換型）	11,632	20,300	0		
2. 特色を發揮し、地域の発展を重層的に支える大学づくり（地域特色型）	0	8,000			
2. 産業界との連携			0		
3. 産業界など多様な主体、国内外の大学等と連携した教育研究（多様な連携型）	0	0			
3. 他大学との広域・分野連携			0		
4. グローバル化への対応	7,505	8,000	0		
5. プラットフォーム形成		0	0		
私立大学等改革総合支援事業				0	0
1. 特色ある教育の展開				0	0
1. 『Society5.0』の実現に向けた特色ある教育の展開					0
2. 特色ある高度な研究の展開				0	0
3. 地域社会への貢献				0	0
4. 社会実装の推進				0	0
特別補助 計	48,449	64,936	31,345	34,686	8,697
対前年度比	247.2%	134.0%	48.3%	110.7%	25.1%

※ 2013年度～2018年度は、一部項目の追加と統合がなされたため、当該年度に無い項目は「/」とする。

8 経常費補助金（特別補助）の推移状況

(2) 短期大学部〔2016～2020〕

(単位：千円)

(表Ⅲ-8-③)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
I. 成長力強化に貢献する質の高い教育					
1.就職支援・就業力育成の充実					
2.被災地への復興支援					
I. 成長力強化に貢献する質の高い教育	3,996				
1.地方に貢献する大学等への支援	3,996				
2.医学部入学定員の増員	0				
I. 成長力強化に貢献する質の高い教育		2,700	2,647	3,540	1,540
1.地方に貢献する大学等への支援		2,400	2,365	3,240	0
2.医学部入学定員の増加		0	0	0	0
3.被災地の復興支援		300	282	300	1,540
1.被災地の復興					0
2.授業料減免事業等支援					0
3.授業料減免事業等支援〔新型コロナウイルス新型コロナウイルス感染症緊急経済対策分〕					540
4.新型コロナウイルス感染症対策支援					1,000
II. 社会人の組織的な受入れへの支援	0	1,500	1,408	0	0
1.正規学生としての受入れ	0	0	0		
2.多様な形態による受入れに対する支援	0	0	0		
1.科目等履修生	0	0	0		
2.専攻科・別科	0	0	0		
3.履修証明プログラム	0	0	0		
3.社会人の受入れ環境整備	0	1,500	1,408	0	0
III. 大学等の国際交流の基盤整備	3,197	120	450	0	0
1.海外からの学生の受入れ	0	0	0	0	0
2.海外からの教員の招へい	0	0	0	0	0
3.学生の海外派遣	0	120	450	0	0
4.教員の海外派遣	0	0	0		
4.教職員の海外派遣				0	0
5.大学等の教育研究環境の国際化	1,599	1,800	1,689	0	0
6.実践的な語学力の習得や国際理解の推進	1,332				
7.クールジャパンを活用した日本文化の発信	266				
IV. 大学院等の機能の高度化	426	540	507	540	510
1.大学院における研究の充実	0	0	0	0	0
2.大学院生に対する授業料減免事業等支援					0
3.研究施設運営支援	0	0	0	0	0
4.大型設備等運営支援	0	0	0	0	0
5.私立大学研究ブランディング事業(継続分)	0	0	0	0	0
6.戦略的研究基盤形成支援(継続分)	0	0	0	0	
7.大学間連携等による共同研究	0	0	0	0	0
8.専門職大学院等	0	0	0	0	0
9.法科大学院	0	0	0	0	0
10.短大・高専における教育研究の充実	426	540	507	540	510
1.教育組織の高度化(専攻科)支援	0	0	0	0	0
2.研究支援	426	540	507	540	510
V. 経営強化等支援	0	0	0	0	0

1. 私立大学等経営強化集中支援事業	0	0	0	0	0
2. 未来経営戦略推進経費（継続分）	0	0			

8 経常費補助金（特別補助）の推移状況

(2) 短期大学部〔2016～2020〕

(単位：千円) (表Ⅲ-8-④)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
VI. 授業料減免及び学生の経済的支援体制の充実	4,236	6,880	6,186	3,866	
1. 授業料減免事業支援経費		6,880	5,900	3,550	
1. 授業料減免事業及び学生経済的支援体制の充実	3,950				
1. 授業料減免事業支援経費（熊本地震分）		0	0		
1. 授業料減免事業支援経費（平成28年熊本地震、平成30年7月豪雨等、平成30年北海道胆振東部地震分）				0	
2. 卓越した学生に対する授業料減免等事業	286	0	286	286	
3. 特色ある経済的支援方策	0	0	0	30	
VII. 東日本大震災からの復興支援	0	0	0	0	0
1. 授業料減免事業等支援経費（震災分）	0	0	0	0	0
2. 被災私立大学等復興特別補助	0	0	0	0	0
3. 被災私立大学等復興特別補助（福島県内の大学等）					
VIII. 平成28年度熊本地震からの復興支援	0	0			
1. 教育研究活動復旧費	0	0			
2. 授業料減免事業等支援（熊本地震分）	0				
VIII. 平成30年7月豪雨等からの復興支援			0		
1. 教育研究活動復旧費（平成30年7月豪雨等分）			0		
2. 授業料減免事業等支援（平成30年7月豪雨等分）			0		
VIII. 平成30年北海道胆振東部地震からの復興支援			0		
1. 教育研究活動復旧費（平成30年北海道胆振東部地震分）			0		
2. 授業料減免事業等支援（平成30年北海道胆振東部地震分）			0		
VIII. 台風第19号、第20号及び第21号からの復興支援				0	
1. 教育研究環境復旧費（台風第19号、第20号及び第21号分）				0	
2. 授業料減免事業等支援（台風第19号、第20号及び第21号分）				0	
IX. 令和2年7月豪雨等からの復興支援					0
1. 教育研究活動復旧費（令和2年7月豪雨等分）					0
私立大学等改革総合支援事業	18,105	8,000	0		
1. 建学の精神を生かした大学教育の質向上（大学教育質転換型）	10,600	0	0		
2. 特色を發揮し、地域の発展を重層的に支える大学づくり（地域特色型）	0	0			
2. 産業界との連携			0		
3. 産業界など多様な主体、国内外の大学等と連携した教育研究（多様な連携型）	0	0			
3. 他大学との広域・分野連携			0		
4. グローバル化への対応	7,505	8,000	0		
5. プラットフォーム形成		0	0		
私立大学等改革総合支援事業				0	0
1. 特色ある教育の展開				0	0
1. 『Society5.0』の実現に向けた特色ある教育の展開					0
2. 特色ある高度な研究の展開				0	0
3. 地域社会への貢献				0	0
4. 社会実装の推進				0	0
特別補助 計	29,960	19,740	11,198	7,946	2,050
対前年度比	348.9%	65.9%	56.7%	71.0%	25.8%

※ 2013年度～2018年度は、一部項目の追加と統合がなされたため、当該年度に無い項目は「/」とする。

9 校地、校舎等の面積一覧〔2020年度〕

(5月1日現在)

(表Ⅲ-9)

		備 考
収 容 定 員	3,819 人	
校 地 面 積	76,344.21 m ²	校宅敷地含む
学生1人当面積	19.99 m ²	
校 舎 面 積	39,623.59 m ²	
学生1人当面積	10.38 m ²	
図 書 館	7,748.90 m ²	
学生1人当面積	2.03 m ²	
厚 生 施 設	5,640.97 m ²	大学会館及び学生交流会館
学生1人当面積	1.48 m ²	
体 育 館	5,657.11 m ²	
学生1人当面積	1.48 m ²	
運 動 場	38,851.79 m ²	野球場及びグラウンド
学生1人当面積	10.17 m ²	
そ の 他	- m ²	
学生1人当面積	- m ²	

10 講義室、演習室等の面積・規模一覧〔2020年度〕

(5月1日現在)

(表Ⅲ-10)

	室 数	総面積 (m ²)	収容人員 (人)	学生総数 (人)	在籍学生1人当 面積 (m ²)	備 考
講 義 室	54	7,101.79	5,338	4,254	1.669	
演 習 室	32	1,558.85	700	4,254	0.366	
実験・実習室等	14	964.02		4,254	0.227	
情報処理学習室	13	1,492.56	484	4,254	0.351	
語学学習施設	4	475.45	165	4,254	0.112	
学生自習室	0	0.00		4,254	0.000	
体 育 館	1	5,657.11				
チ ャ ペ ル	1	245.61	240	4,254	0.058	
講 堂	2	1,241.48	1,112	4,254	0.292	
ラーニング・commons	1	490.17		4,254	0.115	
合 計	122	19,227.04				

11 各講義室の面積・規模・使用状況一覧 [2020年度]

(表Ⅲ-11-①)

	教室	面積 (㎡)	収容 人数 (人)	使用度数 (1週間当教室使用回数)						備 考 (設置機材等)
				前期 (回)	使用率 (%)	後期 (回)	使用率 (%)	通年 (回)	使用率 (%)	
1	図4 A	412.80	306	2	8%	9	36%	11	22%	プロジェクト BD/DVD/CD/VHS/カセット OHC
2	図4 B	412.80	306	2	8%	9	36%	11	22%	プロジェクト BD/DVD/CD/VHS/カセット OHC
3	A300	102.25	70	11	44%	7	28%	18	36%	プロジェクト DVD/CD/OHC
4	A301	88.40	44	7	28%	0	0%	7	14%	プロジェクト DVD/CD/OHC
5	A303	84.95	44	12	48%	0	0%	12	24%	プロジェクト DVD/CD/OHC
6	A305	367.29	344	17	68%	7	28%	24	48%	プロジェクト DVD/CD/OHC
7	A400	102.20	99	11	44%	10	40%	21	42%	プロジェクト DVD/CD/OHC
8	A401	185.57	141	10	40%	4	16%	14	28%	プロジェクト DVD/CD/OHC
9	A403	300.44	267	15	60%	13	52%	28	56%	プロジェクト DVD/CD/OHC
10	A404	90.00	80	14	56%	12	48%	26	52%	プロジェクト DVD/CD/OHC
11	A407	79.00	50	17	68%	7	28%	24	48%	プロジェクト DVD/CD/OHC
12	A408	125.00	110	12	48%	10	40%	22	44%	プロジェクト DVD/CD/OHC
13	A500	102.25	99	12	48%	12	48%	24	48%	プロジェクト DVD/CD/OHC
14	A501	247.43	138	9	36%	5	20%	14	28%	プロジェクト DVD/CD/OHC
15	A503	300.44	267	16	64%	3	12%	19	38%	プロジェクト DVD/CD/OHC
16	A504	70.12	50	15	60%	9	36%	24	48%	プロジェクト DVD/CD/OHC
17	A506	70.12	50	15	60%	14	56%	29	58%	プロジェクト DVD/CD/OHC
18	A507	79.00	50	10	40%	8	32%	18	36%	プロジェクト DVD/CD/OHC
19	A508	61.50	40	16	64%	12	48%	28	56%	プロジェクト DVD/CD/OHC
20	A509	63.50	40	12	48%	11	44%	23	46%	プロジェクト DVD/CD/OHC
21	A603	230.00	248	21	84%	0	0%	21	42%	プロジェクト DVD/CD/OHC
22	A605	86.25	64	13	52%	4	16%	17	34%	プロジェクト DVD/CD/OHC
23	A607	86.25	64	11	44%	12	48%	23	46%	プロジェクト DVD/CD/OHC
24	A702	75.00	50	16	64%	9	36%	25	50%	プロジェクト DVD/CD/OHC
25	A703	150.00	140	8	32%	0	0%	8	16%	プロジェクト DVD/CD/OHC
26	A704	75.00	50	15	60%	9	36%	24	48%	プロジェクト DVD/CD/OHC
27	A705	150.00	136	11	44%	0	0%	11	22%	プロジェクト DVD/CD/OHC
28	A706	61.50	40	11	44%	7	28%	18	36%	プロジェクト DVD/CD/OHC
29	A708	68.50	40	15	60%	9	36%	24	48%	プロジェクト DVD/CD/OHC
30	A709	79.00	50	16	64%	9	36%	25	50%	プロジェクト DVD/CD/OHC
31	B301	76.50	50	0	0%	0	0%	0	0%	プロジェクト DVD/CD/OHC
32	B400	61.20	48	8	32%	11	44%	19	38%	プロジェクト DVD/CD/OHC
33	B401	76.50	50	13	52%	8	32%	21	42%	プロジェクト DVD/CD/OHC
34	B402	283.80	252	15	60%	0	0%	15	30%	プロジェクト DVD/CD/OHC
35	B403	73.50	50	15	60%	8	32%	23	46%	プロジェクト DVD/CD/OHC
36	B405	150.00	118	9	36%	7	28%	16	32%	プロジェクト DVD/CD/OHC
37	B500	190.50	157	9	36%	2	8%	11	22%	プロジェクト DVD/CD/OHC
38	B501	76.50	50	15	60%	10	40%	25	50%	プロジェクト DVD/CD/OHC
39	B502	93.50	70	13	52%	9	36%	22	44%	プロジェクト DVD/CD/OHC
40	B503	73.50	50	17	68%	9	36%	26	52%	プロジェクト DVD/CD/OHC
41	B504	97.20	70	13	52%	5	20%	18	36%	プロジェクト DVD/CD/OHC
42	B505	73.50	50	19	76%	8	32%	27	54%	プロジェクト DVD/CD/OHC
小計		5,732.76	4,492							

※2020年度は非対面授業を中心としていたため、表の通り実施されていない場合があり、あくまで参考の数値である。

11 各講義室の面積・規模・使用状況一覧 [2020年度]

(表Ⅲ-11-②)

	教室	面積 (㎡)	収容 人数 (人)	使用度数 (1週間当教室使用回数)						備 考 (設置機材等)
				前期 使用回数 (回)	前期 使用率 (%)	後期 使用回数 (回)	後期 使用率 (%)	通年 使用回数 (回)	通年 使用率 (%)	
43	B507	76.50	50	15	60%	7	28%	22	44%	ポジエタ DVD/CD/OHC
44	B607	69.10	50	16	64%	8	32%	24	48%	ポジエタ DVD/CD/OHC
45	B609	71.90	50	17	68%	8	32%	25	50%	ポジエタ DVD/CD/OHC
46	C400	308.75	240	13	52%	10	40%	23	46%	ポジエタ DVD/CD/OHC
47	C401	118.16	80	15	60%	6	24%	21	42%	ポジエタ DVD/CD/OHC
48	C402	165.91	90	7	28%	9	36%	16	32%	ポジエタ DVD/CD/OHC
49	C403	120.45	78	15	60%	11	44%	26	52%	ポジエタ DVD/CD/OHC
50	C500	244.09	150	10	40%	3	12%	13	26%	ポジエタ DVD/CD/OHC
51	C501	137.13	90	12	48%	8	32%	20	40%	ポジエタ DVD/CD/OHC
52	C502	230.57	150	17	68%	7	28%	24	48%	ポジエタ DVD/CD/OHC
53	C700	308.75	225	21	84%	0	0%	21	42%	ポジエタ DVD/CD/OHC
54	C701	79.13	50	17	68%	9	36%	26	52%	ポジエタ DVD/CD/OHC
55	C702	165.91	90	12	48%	8	32%	20	40%	ポジエタ DVD/CD/OHC
56	C703	78.59	50	15	60%	11	44%	26	52%	ポジエタ DVD/CD/OHC
57	C705	80.89	50	14	56%	13	52%	27	54%	ポジエタ DVD/CD/OHC
58	講堂	415.88	500	4	16%	8	32%	12	24%	ポジエタ DVD/CD/OHC
59	チャペル	189.00	180	0	0%	0	0%	0	0%	
小計		2,860.71	2,173							
計		8,593.47	6,665							

※2020年度は非対面授業を中心としていたため、表の通り実施されていない場合があり、あくまで参考の数値である。

※ 使用率 (使用度数 ÷ 延教室数 × 100) 、延教室数 (5講 × 5日 = 25)

12 各演習室等の面積・規模・使用状況一覧〔2020年度〕

(表Ⅲ-12)

	教室	面積 (㎡)	収容 人数 (人)	使用度数(1週間当教室使用回数)						備 考(設置機材等)
				前期 (回)	使用率 (%)	後期 (回)	使用率 (%)	通年 (回)	使用率 (%)	
1	A 405	46.24	24	10	40%	1	4%	11	22%	テレビモニター BD/DVD/CD/VHS
2	A 406	45.00	24	7	28%	4	16%	11	22%	テレビモニター BD/DVD/CD/VHS
3	A 505	46.24	24	5	20%	0	0%	5	10%	テレビモニター BD/DVD/CD/VHS
4	A 601	57.50	30	6	24%	5	20%	11	22%	テレビモニター BD/DVD/CD/VHS
5	A 701	60.00	30	6	24%	1	4%	7	14%	テレビモニター BD/DVD/CD/VHS
6	B 300	50.00	23	0	0%	0	0%	0	0%	
7	B 600	52.00	23	9	36%	0	0%	9	18%	テレビモニター BD/DVD/CD/VHS
8	B 601	48.90	24	13	52%	5	20%	18	36%	テレビモニター BD/DVD/CD/VHS
9	B 602	49.00	23	11	44%	10	40%	21	42%	テレビモニター BD/DVD/CD/VHS
10	B 603	46.10	24	12	48%	6	24%	18	36%	テレビモニター BD/DVD/CD/VHS
11	B 604	49.00	23	9	36%	0	0%	9	18%	テレビモニター BD/DVD/CD/VHS
12	B 605	46.10	24	15	60%	4	16%	19	38%	テレビモニター BD/DVD/CD/VHS
13	B 606	49.00	23	11	44%	6	24%	17	34%	テレビモニター BD/DVD/CD/VHS
14	B 608	49.00	23	9	36%	0	0%	9	18%	テレビモニター BD/DVD/CD/VHS
15	B 610	52.00	23	10	40%	2	8%	12	24%	テレビモニター BD/DVD/CD/VHS
16	C 503	48.78	24	12	48%	0	0%	12	24%	プロジェクタ(インタラクティブ機能付) BD/DVD/CD OHC
17	C 505	52.70	24	4	16%	0	0%	4	8%	プロジェクタ(インタラクティブ機能付) BD/DVD/CD OHC
18	C 600	48.90	24	11	44%	0	0%	11	22%	プロジェクタ BD/DVD/CD OHC
19	C 601	43.54	24	13	52%	8	32%	21	42%	プロジェクタ(インタラクティブ機能付) BD/DVD/CD OHC
20	C 602	49.92	24	15	60%	0	0%	15	30%	プロジェクタ BD/DVD/CD OHC
21	C 603	44.08	24	11	44%	2	8%	13	26%	プロジェクタ(インタラクティブ機能付) BD/DVD/CD OHC
22	C 604	44.70	24	12	48%	0	0%	12	24%	プロジェクタ BD/DVD/CD OHC
23	C 605	48.38	24	10	40%	2	8%	12	24%	プロジェクタ(インタラクティブ機能付) BD/DVD/CD OHC
24	C 606	44.70	24	9	36%	0	0%	9	18%	プロジェクタ BD/DVD/CD OHC
25	C 607	48.38	24	8	32%	2	8%	10	20%	プロジェクタ(インタラクティブ機能付) BD/DVD/CD OHC
26	C 608	37.25	24	8	32%	0	0%	8	16%	プロジェクタ BD/DVD/CD OHC
27	C 609	52.27	24	9	36%	3	12%	12	24%	プロジェクタ(インタラクティブ機能付) BD/DVD/CD OHC
28	C 610	42.47	20	14	56%	0	0%	14	28%	プロジェクタ BD/DVD/CD OHC
29	C 611	47.75	24	7	28%	0	0%	7	14%	プロジェクタ BD/DVD/CD OHC
計		1,399.90	697							

※2020年度は非対面授業を中心としていたため、表の通り実施されていない場合があり、あくまで参考の数

※ 使用率(使用度数÷延教室数×100)、延教室数(5講×5日=25)

13 語学学習室の面積・規模・使用状況一覧〔2020年度〕

(表Ⅲ-13)

	教室	面積 (㎡)	収容 人数 (人)	使用度数 (1週間当教室使用回数)						備 考 (設置機材等)
				前期 (回)	使用率 (%)	後期 (回)	使用率 (%)	通年 (回)	使用率 (%)	
1	CALL第1	154.25	55	6	24%	8	32%	14	28%	Lenovo TinkCentre M700z
2	CALL第2	162.45	48	12	48%	9	36%	21	42%	Lenovo TinkCentre M700z
3	CALL第3	106.50	35	15	60%	15	60%	30	60%	Lenovo TinkCentre M700z
計		423.20	138							

※ 使用率 (使用度数÷延教室数×100) 、延教室数 (5講×5日講=25)

14 情報実習室の面積・規模・使用状況一覧〔2020年度〕

(表Ⅲ-14)

	教室	面積 (m ²)	収容 人数 (人)	使用度数 (1週間当教室使用回数)						備 考 (設置機材等)
				前期		後期		通年		
				使用率 (回)	使用率 (%)	使用率 (回)	使用率 (%)	使用率 (回)	使用率 (%)	
1	第1情報実習室	76.50	24		0.0		0.0	0	0.0	Lenovo TinkCentre M700z
2	第2情報実習室	93.30	30		0.0		0.0	0	0.0	Lenovo TinkCentre M700z
3	第3情報実習室	93.30	30		0.0		0.0	0	0.0	Lenovo TinkCentre M700z
4	第4情報実習室	97.20	30		0.0		0.0	0	0.0	Lenovo TinkCentre M700z
5	第5情報実習室	150.00	72		0.0		0.0	0	0.0	Lenovo TinkCentre M700z
6	第6情報実習室	159.40	60		0.0		0.0	0	0.0	Lenovo TinkCentre M700z
7	第7情報実習室	159.40	60		0.0		0.0	0	0.0	Lenovo TinkCentre M700z
8	第8情報実習室	159.40	24		0.0		0.0	0	0.0	Lenovo TinkCentre M700z
9	第9情報実習室	150.22	50		0.0		0.0	0	0.0	Lenovo TinkCentre M700z
10	第10情報実習室	121.64	50		0.0		0.0	0	0.0	Lenovo TinkCentre M700z
11	第11情報実習室	121.64	44		0.0		0.0	0	0.0	iMac MB324J/A(44)
12	第12情報実習室	150.22	40		0.0		0.0	0	0.0	iMac MB324J/A(40)
計		1,532.22	514							

※ 使用率 (使用度数÷延教室数×100)、延教室数 (5講×5日=25)

15 実験・実習室等の面積・規模・使用状況一覧〔2020年度〕

(表Ⅲ-15)

	教室	面積 (㎡)	収容 人数 (人)	使用度数(1週間当教室使用回数)						備考(設置機材等)
				前期 (回)	使用率 (%)	後期 (回)	使用率 (%)	通年 (回)	使用率 (%)	
1	福祉臨床実習室	200.00	-	0	0%	0	0%	0	0%	ベッド
2	社会調査実習室	46.24	-	2	8%	0	0%	2	4%	
3	デザイン設計実習室	102.25	-	5	20%	4	16%	9	18%	製図用机
4	生活支援実習室	150.83	-	2	8%	4	16%	6	12%	ベッド、調理実習器材
5	工作・作業室	53.00	-	0	0%	0	0%	0	0%	
6	実験室A	22.30	-	0	0%	0	0%	0	0%	
7	防音実験室	4.64	-	0	0%	0	0%	0	0%	
8	実験室B	22.30	-	0	0%	0	0%	0	0%	
9	実験室C	57.10	-	0	0%	0	0%	0	0%	
10	スタジオ	61.20	-	0	0%	0	0%	0	0%	
11	第1実験室	52.00	-	0	0%	0	0%	0	0%	
12	第2実験室	26.00	-	0	0%	0	0%	0	0%	
13	第3実験室	26.00	-	0	0%	0	0%	0	0%	
14	第4実験室	52.00	-	0	0%	0	0%	0	0%	
15	第5実験室	37.00	-	0	0%	0	0%	0	0%	
16	第6実験室	120.00	-	0	0%	0	0%	0	0%	
17	カウンセリング室A	13.00	-	0	0%	0	0%	0	0%	
18	カウンセリング室B	13.00	-	0	0%	0	0%	0	0%	
計		1,058.86	-							

※2020年度は非対面授業を中心としていたため、表の通り実施されていない場合があり、あくまで参考の数値である。

※ 使用率(使用度数÷延教室数×100)、延教室数(5講×5日=25)

16 施設の耐久性等の状況〔2020年度〕

(表Ⅲ-16)

校舎名称	建築年月	築年月数	耐用年数	備考 (改修等の記録)
A 館	2002年 1月	19年 2月	60年	2015年 C館増築に伴う改修
B 館	1995年12月	25年 3月	60年	
C 館	2015年 2月	6年 1月	34年	
センター棟	1981年 9月	39年 6月	60年	1991年・2002年・2015年 改修
図書館・特別教室棟	1991年 2月	30年 1月	60年	1996年 エレベーター棟設置等に伴う解体改修
図書館	2003年 1月	18年 2月	47年	2003年 増築
エレベータ棟	1995年12月	25年 3月	40年	1995年 増築
第1研究室棟	1987年 2月	34年 1月	60年	1996年 用途変更に伴う改修
第2研究室棟	2002年 1月	19年 2月	60年	
大学会館	1986年 3月	35年 0月	60年	1994年 1階増築改修
大学会館	2002年 1月	19年 2月	60年	
体育館	2001年 1月	20年 2月	60年	
弓道場	1991年 9月	29年 6月	30年	
学生会館	1991年 9月	29年 6月	60年	
学生交流会館	2006年 2月	15年 1月	47年	
正門守衛所	2016年10月	4年 5月	34年	
居宅・ゲストハウス	1995年11月	25年 4月	24年	
倉庫(課外活動用)	2002年 3月	19年 0月	7年	
野球場倉庫	1993年12月	27年 3月	7年	
多目的グラウンド	2006年 2月	15年 1月	30年	
テニスコート	1994年 8月	26年 7月	30年	

17 情報システム事務室各種ハード・ソフト整備状況

[2017~2019]

(単位：円)

(表Ⅲ-17)

	2018年度	2019年度	2020年度	備 考
ハードの整備・充実状況	教室LAN制御機器更新	教育研究用基幹サーバ更新 A・B館無線LANの設置	Moodleサーバのストレージ機器増設 C館3階会議用、就職支援課学生対応用無線LANの設置 教学事務システム機器更新	
ソフト充実件数 合計	0	0	0	
基本ソフト				
バージョンアップ	0	0	0	
経 費 合計	48,653,605	172,377,404	87,074,495	
ハード部分 小計	350,000	116,563,757	16,440,090	
購入代	350,000	116,563,757	16,440,090	
リース代	0	0	0	
ソフト部分 小計	12,042,040	14,445,624	22,274,048	
購入代	0		4,092,000	
リース代	12,042,040	14,445,624	18,182,048	
保守料	36,261,565	41,368,023	48,360,357	

18 各種教具の整備状況

〔2016～2020〕

(表Ⅲ-18)

	総数	購入年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	備考(設置・保管場所)
CD/MDラジカセ	5	1994年度～	0	0	0	0	0	教育支援課
DVD/CDプレーヤー(移動型)	3	2002年度～	0	0	0	0	0	非常勤講師控室
OHC(移動ワゴン)	4	1996年度～	0	0	0	0	0	教育支援課
OHC(ポータブル)	1	2002年度～	0	0	0	0	0	教育支援課
液晶プロジェクター	4	1997年度～	0	0	0	0	0	教育支援課
短焦点プロジェクター	3	2013年度～	0	0	0	0	0	教育支援課
CD/カセットデッキ(持運び)	1	1980年度～	0	0	0	0	0	教育支援課
移動型スクリーン	3	2018年度～	0	0	1	0	0	教育支援課
ストップウォッチ	6		0	0	0	0	0	教育支援課
スライド映写機	2	1972年度～	0	0	0	0	0	教育支援課
ビデオカメラ(デジタル)	9	2013年度～	0	0	0	0	5	教育支援課
テーブルベル	8		0	0	0	0	0	教育支援課
レーザーポインター	7	2013年度～	0	0	0	1	0	教育支援課・非常勤講師控室
TVコンバーター	3	1999年度～	0	0	0	0	0	教育支援課
ノート型パソコン	16	2005年度～	2	0	5	8	5	教育支援課・非常勤講師控室
BDプレーヤー(持運び)	4	2012年度～	0	0	0	0	0	教育支援課・非常勤講師控室
図書館4階A・B教室								
ビデオデッキ(DVD/VHS)	2	2003年度～	0	0	0	0	0	図書館4階A・B教室
カセットデッキ(教室設置)	2	1980年度～	0	0	0	0	0	図書館4階A・B教室
OHC(教室設置)	2	2018年度～			2	0	0	図書館4階A・B教室
設置型スクリーン	2	2018年度～			2	0	0	図書館4階A・B教室
BDプレーヤー	2	2018年度～			2	0	0	図書館4階A・B教室
A 館								
プロジェクター(教室設置)	29	2019年度～	0	0	0	29	0	大・中・語学教室(A305は2台)
テレビモニター(教室設置)	8	2019年度～				8	0	A305・A403・A503・A603
スクリーン(教室設置)	29	2019年度～	0	0	0	29	0	大・中・語学教室(A305は2枚)
BDプレーヤー(教室設置)	28	2019年度～	0	0	0	28	0	大・中・語学教室
OHC(教室設置)	28	2019年度～	0	0	0	28	0	大・中・語学教室
B 館								
プロジェクター(教室設置)	15	2019年度～	0	0	0	15	0	大・中・語学教室
テレビモニター(教室設置)	2	2019年度～	0	0	0	2	0	B402
スクリーン(教室設置)	15	2019年度～	0	0	0	15	0	大・中・語学教室
BDプレーヤー(教室設置)	15	2019年度～	0	0	0	15	0	大・中・語学教室
OHC(教室設置)	15	2019年度～	0	0	0	15	0	大・中・語学教室
C 館								
プロジェクター(教室設置)	30	2015年度～	0	0	0	0	0	全教室(C400・C500・C502・C700は2台)
スクリーン(教室設置)	30	2015年度～	0	0	0	0	0	全教室(C400・C500・C502・C700は2枚)
BDプレーヤー(教室設置)	26	2015年度～	0	0	0	0	0	全教室
OHC(教室設置)	12	2015年度～	0	0	0	0	0	大・中・語学教室
インタラクティブ機能	7	2015年度～	0	0	0	0	0	C503・505・601・603・605・607・609
ゼミ室(A・B館)								
液晶テレビ	14	2016年度～	14	0	0	0	0	全館演習室移動スタンド(HDMI・RGBケーブル付)
BDプレーヤー	14	2016年度～	14	0	0	0	0	全館演習室移動スタンド(HDMI・RGBケーブル付)
ビデオデッキ(VHS)	14	1987年度～	0	0	0	0	0	全館演習室移動スタンド(HDMI・RGBケーブル付)

19 校庭等維持管理費の推移状況

2021. 3. 31

〔2016～2020〕

(単位：千円)

(表Ⅲ-19)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	備 考
校 庭 関 係	11,448	10,962	10,298	10,570	10,924	
駐 車 場 関 係	9,710	11,988	12,400	12,561	13,361	
そ の 他	693	71	209	0	0	
合 計	21,851	23,021	22,907	23,131	24,285	

IV. 本学の教育研究活動等の在り方及び目標に関すること

1 専任教員の国内外研修者数及び研修費執行状況一覧

[2016～2020]

(表IV-1)

種別	学 部	2016年度			2017年度			2018年度			2019年度			2020年度			
		件数	総額(円)	一人当たり 支給額(円)	件数	総額(円)	一人当たり 支給額(円)	件数	総額(円)	一人当たり 支給額(円)	件数	総額(円)	一人当たり 支給額(円)	件数	総額(円)	一人当たり 支給額(円)	
国外研修	半年	文 学 部	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-
		経 済 学 部	1	1,766,928	1,766,928	1	1,876,130	1,876,130	0	-	-	1	1,949,173	1,949,173	0	-	-
		社会福祉学部	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-
		短期大学部	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-
		計	1	1,766,928	1,766,928	1	1,876,130	1,876,130	0	0	0	1	1,949,173	1,949,173	0	0	0
	一年	文 学 部	1	3,505,460	3,505,460	1	3,699,659	3,699,659	0	-	-	0	-	-	0	-	-
		経 済 学 部	0	-	-	1	3,310,627	3,310,627	0	-	-	0	-	-	0	-	-
		社会福祉学部	1	3,644,808	3,644,808	0	-	-	1	3,786,289	3,786,289	0	-	-	0	-	-
		短期大学部	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-
		計	2	7,150,268	3,575,134	2	7,010,286	3,505,143	1	3,786,289	3,786,289	0	0	0	0	0	0
国内研修	半年	文 学 部	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-
		経 済 学 部	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-
		社会福祉学部	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-
		短期大学部	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一年	文 学 部	0	-	-	0	-	-	1	1,886,270	1,886,270	1	194,200	194,200	0	-	-
		経 済 学 部	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-
		社会福祉学部	0	-	-	0	-	-	1	418,600	418,600	0	-	-	1	1,825,560	1,825,560
		短期大学部	0	-	-	1	194,200	194,200	1	1,928,390	1,928,390	0	-	-	0	-	-
		計	0	0	0	1	194,200	194,200	3	4,233,260	1,411,087	1	194,200	194,200	1	1,825,560	1,825,560

* 国外研修の「半年」の欄は、年度をまたぐ研修者も含まれる。

2 専任教員の国内外研修・研究専念者一覧

[2016～2020]

(表Ⅳ-2)

年度	学部	氏名・職名	種別	期間	研修先	研修機関	研究課題	備考
2016	文学部	片岡 徹 准教授	国外研修	2016.4.5～ 2017.3.1	米国	マンチェスター大学	マンチェスター大学における平和学プログラムの開発史に関する調査研究	
	経済学部	浦野 真理子 教授	国外研修	2016.9.5～ 2017.3.11	インドネシア	環境自然保護熱帯研究センター	インドネシアの油ヤシ農園の拡大が地域住民の食糧確保と食文化に及ぼす影響	
	社会福祉学部	中村 和彦 教授	国外研修	2016.4.8～ 2017.3.22	米国・カナダ	ダルハウジー大学	①ソーシャルワーク実践理論におけるリジエンス思考の具体的適用 ②カナダ・ノヴァスコシア州における精神障害者の地域生活支援体制・方法の把握・理解 ③カナダ・ノヴァスコシア州におけるソーシャルワーカー養成教育内容・方法の把握・理解	
2017	文学部	柳町 智治 教授	国外研修	2017.4.17～ 2018.3.15	フィンランド・スイス	ヘルシンキ大学(フィンランド)・バーゼル大学(スイス)	(1)第二言語を通して相互行為を組織する能力に関する研究(2)欧州における共通語としての英語の使用と評価に関する研究	
	経済学部	韓 文熙	国外研修	2017.4.1～ 2017.9.12	スペイン	サン・パブロ大学	異文化理解と消費者行動、ブランド・マネジメント	
	経済学部	岡田 みさを 教授	国外研修	2017.4.17～ 2018.3.16	フィンランド・スイス	ヘルシンキ大学(フィンランド)・バーゼル大学(スイス)	スポーツ練習会話における指示行動の形成一言語と身体動作による相互行為の観点から	
	短期大学部	ジャン・マウン 教授	国内研修	2017.4.1～ 2018.3.31	国内	札幌国際大学	シェイクスピアユニバーサリズムについての生物学的視座を含めた見解の可能性を探求する	
2018	文学部	大島 寿美子 教授	国内研修	2018.4.1～ 2019.3.31	国内	東京大学大学院医学系研究科	社会構造や相互行為現象の発露としての健康に関する研究	
	社会福祉学部	横山 穰 教授	国内研修	2018.4.1～ 2019.3.31	国内	北海道大学文学研究科	ソーシャルワーク実践におけるスピリチュアルケアの課題について	
	短期大学部	藤原 里佐 教授	国内研修	2018.4.1～ 2019.3.25	国内	同志社大学	知的障害者とその家族の高齢化ケアの担い手と生活の場を移行をめぐる	
	社会福祉学部	眞嶋 良全 准教授	国外研修	2018.4.8～ 2019.3.27	カナダ	トロント ウォーターラー大学	日常的信念の形成と維持における二重過程思考と文化的マインドセットの関連性の研究	
2019	社会福祉学部	宮崎 靖士 教授	国内研修	2019.4.1～ 2020.3.31	国内	北海道大学大学院文学研究科(押野武志先生研究室)	1920～40年代の朝鮮、台湾、「満州」における日本語文学に関する包括的検討	
	経済学部	萩原 浩太 教授	国外研修	2019.9.1～ 2020.3.23	インドネシア	マラナタ大学	我が国及びインドネシア競争法の比較研究 欧州競争法および米国反トラスト法とインドネシア競争法の比較研究	新型コロナウイルス感染症蔓延による学長の帰国要請により2020.3.23で終了
2020	社会福祉学部	畑 亮輔 准教授	国内研修	2020.4.1～ 2021.3.31	国内	大阪市立大学大学院	ソーシャルワークにおけるマクロプラクティスの理論構築にむけた研究 ～文献研究、帰納法研究(質的研究)、そしてアクションリサーチを通して～	

3 専任教員のサバティカル一覧

[2016～2020]

(表IV-3)

年度	学部	氏名・職名	種別	期間	主な研修先等	取得目的	備考
2016	経済学部	浜 文章 教授	サバティカル	2016.9.1～ 2017.8.31	研究室、ニューヨーク、アイルランド、イギリス	「Saving Bank Recordsの分析およびIrish immigrant Society (New York)の設立趣意書の閲覧・入手・分析」	
	社会福祉学部	中田 知生 准教授	サバティカル	2016.9.1～ 2017.8.31	自宅	「高齢期の健康のソーシャルサポートに関する研究及び過疎地域における集落活動とソーシャルキャピタルに関する研究」	
	社会福祉学部	J.アリソン 教授	サバティカル	2016.9.11～ 2017.3.10	自宅	「北星学園創立130周年記念誌編集委員会での書物の研究と執筆」	
	社会福祉学部	トマス・ゲッツ 教授	サバティカル	2016.4.1～ 2016.9.10	アメリカ	「第二言語習得の研究方法及びオンラインの電子教材の開発並びに教材収集」	
2017	社会福祉学部	柴田 利男 教授	サバティカル	2017.4.1～ 2017.9.14	自宅	「これまでに蓄積されたデータの整理・統合と統計解析を進め論文文化をはかる」	
2018	社会福祉学部	U.ネンシュティール 教授	サバティカル	2018.9.15～ 2019.3.14	ヨーロッパ	特に森林セラピーに関する国際比較研究に継続的に取り組む。具体的には、場所はヨーロッパを中心にするが、場所はヨーロッパ以外の国の調査や研究会なども含めて森林セラピーを通して社会的インクルージョンを進める可能性や文化や社会の多様性を超えて検討する。	
2019	文学部	長谷川 典子 教授	サバティカル	2019.10.1～ 2020.3.31	自宅	異文化コミュニケーション教育用教科書の執筆	
	文学部	阪井 宏 教授	サバティカル	2019.4.1～ 2019.8.28	英国	英国北西部・マンチェスター近郊の小さな街々（ヘブデンブリッジトッドモーデン、ロッチデール等）で進む地域再生活動の中から、北海道内の旧産炭地域（空知地方等）の復興のためのヒントを探す	
	社会福祉学部	栗林 克匡 教授	サバティカル	2019.10.1～ 2020.3.31	自宅	資料収集およびこれまでの研究で得られたデータの整理を行い、まとまった執筆活動を行うため	
2020	文学部	高橋 克依 教授	サバティカル	2020.4.1～ 2020.9.13	国内	劇作家Eugene O' Neillの初期的一幕物を中心とした作品研究および付随する現地調査	
	文学部	松浦 年男 教授	サバティカル	2020.4.1～ 2020.9.13	自宅、本学、九州大学（オンラインゼミ）	自己研鑽	
	文学部	蓑内 豊 教授	サバティカル	2020.10.1～ 2021.3.31	自宅、本学	授業・会議などの職務を離れ、研究活動に専念する。また、近年体調を崩すことが多かったため、心身のリフレッシュを図る。	
	経済学部	篠田 優 教授	サバティカル	2020.4.1～ 2020.9.13	本学、自宅	①これまでの研究をまとめる作業。 ②ロシア語能力をブラッシュアップし、かつロシアの一般市民の生活に触れるためにホームステイでロシア語短期留学を行う予定（であったが、②についてはコロナ禍で断念。）	

4 学部別専任教員の学会発表等の状況一覧

(1) 大学 [2016~2020]

(表IV-4-①)

学部・研究科	2016年度		2017年度		2018年度		2019年度		2020年度		平均	
	学会発表		学会発表		学会発表		学会発表		学会発表		学会発表	
	国内	国外	国内	国外								
文学部・文学研究科	16	8	15	9	24	10	26	7	25	5	21.2	7.8
経済学部・経済学研究科	24	17	19	16	28	23	22	15	14	10	21.4	16.2
社会福祉学部・社会福祉学研究科	51	21	46	12	49	18	47	13	30	4	44.6	13.6
計	91	46	80	37	101	51	95	35	69	19	87.2	37.6

(2) 短期大学部 [2016~2020]

(表IV-4-②)

短期大学部	2016年度		2017年度		2018年度		2019年度		2020年度		平均	
	学会発表		学会発表		学会発表		学会発表		学会発表		学会発表	
	国内	国外	国内	国外								
短期大学部	15	25	27	27	20	47	16	37	13	13	18.2	29.8

5 学部別非常勤講師出講状況一覧

(1) 大学 (2016～2020)

(表IV-5-①)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	平均
文学部	8名(6.1)	6名(5.8)	8名(6.2)	10名(6.2)	9名(6.8)	8.2名(6.20)
経済学部	16名(15.2)	15名(11.5)	11名(9.6)	12名(13.8)	15名(13.3)	13.8名(12.69)
社会福祉学部	15名(9.8)	19名(13.5)	18名(13.2)	16名(12.5)	17名(11.7)	17名(12.13)
全体	39名(31.1)	40名(30.8)	37名(29.0)	38名(32.5)	41名(31.8)	39名(31.01)

(2) 短期大学部 (2015～2020)

(表IV-5-②)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	平均
短期大学部	5名(3.9)	5名(4.7)	3名(3.2)	3名(3.2)	3名(4.7)	3.8名(3.96)

*括弧内は「講」の数

V. 本学の教育課程、教育組織及び教育活動に関すること

1 大学学部開講科目数等一覧〔2020年度〕

(1) 大学 2019～カリキュラム（経済学科・経済法学科は2018～）

(表V-1-①-i)

分野名	開設 科目 数	開設 単位 数	必要単位数			開講 クラ ス数	総履修 者数	1クラス あたりの 履修者数	教員配置計				兼任依 存率
			文	経	社				計	専 任	兼 担	兼 任	
文学部	英文学科	129	270	80		141	3,189	22.6	45	22	0	23	51.1%
	Core English Skills	15	30	30		86	1,607	18.7	21	3	0	18	85.7%
	コース入門科目	21	42	14		27	1,300	48.1	12	12	0	0	0.0%
	英語関連活動	13	32	0		8	0	0.0	2	2	0	0	0.0%
	文化・文学コース	16	34	22		0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	言語・コミュニケーションコース	14	30	22		0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	グローバル・スタディーズコース	14	30	22		0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	英語教師養成科目	7	14	0		4	32	8.0	3	1	0	2	66.7%
	日本語教師養成科目	5	10	0		2	42	21.0	1	1	0	0	0.0%
	Practical English Skills	24	48	0		14	208	14.9	6	3	0	3	50.0%
	心理・応用コミュニケーション学科	90	244	62		63	2,475	39.3	29	21	1	7	24.1%
	人間科学コース科目群	16	54	10		14	931	66.5	8	6	0	2	25.0%
	地域・国際コース科目群	16	54	10		14	443	31.6	8	4	1	3	37.5%
学科共通科目群	58	136	32		35	1,101	31.5	13	11	0	2	15.4%	
経済学部	経済学科（2018～）	102	256		68	156	6,683	42.8	81	57	3	21	25.9%
	入門科目	6	14		12	15	1,126	75.1	20	15	0	5	25.0%
	コース科目	46	118		24	47	3,394	72.2	23	17	1	5	21.7%
	演習科目	6	12		12	60	645	10.8	15	15	0	0	0.0%
	総合科目	40	104		4	30	1,518	50.6	23	10	2	11	47.8%
	認定科目	4	8		0	4	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	経営情報学科	99	224		74	58	3,290	56.7	40	34	0	6	15.0%
	学科基礎科目	8	16		0	9	526	58.4	7	7	0	0	0.0%
	学科専門導入科目	6	12		0	6	468	78.0	6	5	0	1	16.7%
	学科実践能力科目	7	16		2	9	295	32.8	6	5	0	1	16.7%
	演習科目	3	10		6	4	114	28.5	8	8	0	0	0.0%
	論文科目	1	4		0	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	学科専門科目	74	166		8	30	1,887	0.0	13	9	0	4	0.0%
	基礎	37	86		0	30	1,887	62.9	13	9	0	4	0.0%
	応用	37	80		8	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	経済法学科（2018～）	86	218		76	85	3,961	46.6	50	44	0	6	12.0%
	学科基礎科目	4	8		4	5	405	81.0	7	7	0	0	0.0%
	基礎力養成科目	2	4		0	11	140	12.7	10	10	0	0	0.0%
	演習科目	3	12		0	20	194	0.0	13	13	0	0	0.0%
	コース科目	77	194		40	49	3,222	65.8	20	14	0	6	30.0%

(1) 大学 2019～カリキュラム (福祉心理学科は2018～)

(表V-1-①-ii)

分野名	開設 科目 数	開設 単位 数	必要単位数			開講 クラス 数	総履修 者数	1クラス あたりの 履修者数	教員配置計				兼任依 存率	
			文	経	社				計	専 任	兼 担	兼 任		
社会福祉学部	福祉計画学科	98	234			68	61	5,052	82.8	45	30	0	15	33.3%
	福祉計画基盤科目	61	154			14	21	1,197	57.0	16	11	0	5	31.3%
	社会福祉士関係科目	37	80			10	40	3,855	96.4	29	19	0	10	34.5%
	社会福祉士基盤科目	20	44			0	27	2,313	85.7	18	12	0	6	33.3%
	社会福祉士・計画系科目	12	26			10	12	1,377	114.8	10	7	0	3	30.0%
	社会福祉士・臨床系科目	5	10			0	1	165	165.0	1	0	0	1	100.0%
	福祉臨床学科	117	263			74	19	1,190	62.6	19	13	0	6	31.6%
	福祉臨床基盤科目	11	21			12	10	608	60.8	7	7	0	0	0.0%
	福祉臨床展開科目	16	41			16	1	7	7.0	3	0	0	3	100.0%
	社会福祉士専門科目	33	73			0	3	258	86.0	2	2	0	0	0.0%
	精神保健福祉士専門科目	17	39			0	3	103	34.3	5	3	0	2	40.0%
	SSW専門科目	4	6			0	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	教育臨床専門科目	36	83			4	2	214	107.0	2	1	0	1	50.0%
	福祉心理学科 (2018～)	77	168			66	67	2746	336.88	44	28	0	16	36.4%
	基幹科目	12	30			24	23	619	26.9	9	9	0	0	0.0%
	基礎心理科目	4	8			0	5	333	66.6	4	2	0	2	50.0%
	臨床心理学関連科目	9	18			0	9	410	45.6	7	4	0	3	42.9%
	社会的・臨床的スキル科目	4	9			2	3	102	34.0	3	3	0	0	0.0%
	対人・社会科目	9	18			0	4	314	78.5	3	1	0	2	66.7%
	発達・教育臨床科目	15	31			0	13	498	38.3	9	4	0	5	55.6%
福祉・医療科目	13	28			4	10	470	47.0	9	5	0	4	44.4%	
教育関連科目	11	26			0	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%	
共通科目	人間科学	16	32	2	2	2	33	1,666	50.5	9	4	0	5	55.6%
	人文科学	14	28	2	2	2	21	2,551	121.5	15	5	1	9	60.0%
	自然・数理科学	10	20	2	2	2	18	1,698	94.3	5	1	0	4	80.0%
	社会科学	16	32	2	2	2	21	2,011	95.8	14	1	8	5	35.7%
	地域と世界	10	20	2	2	2	18	1,610	89.4	8	3	0	5	62.5%
	キリスト教学	6	12	4	4	4	16	2,242	140.1	2	2	0	0	0.0%
	キャリア支援	10	20	10	6-10	8-10	152	4,801	31.6	32	7	6	19	59.4%
	総合講義	1	2	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	キャリア教育科目	2	4	2	2	0-2	5	1,022	204.4	4	0	2	2	50.0%
	日本語科目	2	4	4	2-4	4	90	1,935	21.5	14	5	1	8	57.1%
	情報科目	5	10	4	2-4	4	57	1,844	32.4	14	2	3	9	64.3%
	外国語	50	100	8	8-12	8	204	4,687	23.0	62	10	0	52	83.9%
教職	教職の基礎的理解に関する科目	30	61				17	829	48.8	7	4	1	2	28.6%

(2) 短期大学部 2019～カリキュラム

(表V-1-②)

分野名	開設 科目 数	開設 単位 数	必要単位数			開講 クラ ス数	総履修 者数	1クラス あたりの 履修者数	教員配置計			兼任依 存率	
			英	生					計	専 任	兼 担		兼 任
短期 大学 部	英文学科	75	132	57		176	5,102	29.0	42	20	1	21	50.0%
	必修科目	20	26	26		106	2,666	25.2	20	9	0	11	55.0%
	選択科目	32	62	14		38	1,074	28.3	13	5	1	7	53.8%
	選択必修科目	23	44	17		32	1,362	42.6	9	6	0	3	33.3%
	イングリッシュ・ハブ I, II	2	4	2		4	151	37.8	1	0	0	1	100.0%
	エクステンシブ・リーディング I, II	2	2	1		3	128	42.7	1	1	0	0	0.0%
	情報入門, 情報活用	2	4	2		4	243	60.8	1	0	0	1	100.0%
	英語による講義	17	34	12		21	840	40.0	6	5	0	1	16.7%
	生活創造学科	66	134		42	88	2,370	26.9	32	15	1	16	50.0%
	共通必修科目	9	20		20	30	795	26.5	7	7	0	0	0.0%
選択科目	57	114		22	58	1,575	27.2	25	8	1	16	64.0%	
一 般 目 的 教 育	基礎教養科目	16	32	4	8	18	851	47.3	14	7	3	4	28.6%
	外国語科目	24	24	0	2	36	707	19.6	11	1	0	10	90.9%
	保健体育科目	2	2	0	0	5	51	10.2	2	0	2	0	0.0%
	キリスト教科目	2	4	0	4	2	185	92.5	1	0	1	0	0.0%

2 大学院開講数等一覧〔2020年度〕

社会福祉学研究科社会福祉学専攻（修士課程）

（表V-2-①）

科目群等	開講科目数	開講単位数	必要単位数	開講クラス数	総履修者数	計	教員配置計			兼任率 依存率%
							専任	兼任	兼任	
基本科目	3	6	2	3	5	3	2	0	1	33.3
分野別研究	6	12	2	6	9	6	6	0	0	0.0
研究方法	2	4	2	2	4	2	2	0	0	0.0
関連領域	4	8	2	4	5	4	4	0	0	0.0
論文	3	8	8	4	4	4	4	0	0	0.0

社会福祉学研究科臨床心理学専攻（修士課程）

（表V-2-②）

科目群等	開講科目数	開講単位数	必要単位数	開講クラス数	総履修者数	計	教員配置計			兼任率 依存率%
							専任	兼任	兼任	
公認心理師専門科目	8	16	4	8	20	8	5	0	3	37.5
実習	5	11	10	5	10	19	19	0	0	0.0
演習	1	2	0	1	2	1	0	0	1	100.0
特殊研究	6	12	2	6	14	6	6	0	0	0.0
研究方法	4	8	2	4	8	4	2	2	0	0.0
論文	3	10	10	5	6	5	5	0	0	0.0

社会福祉学研究科社会福祉学専攻（博士〔後期〕課程）

（表V-2-③）

科目群等	開講科目数	開講単位数	必要単位数	開講クラス数	総履修者数	計	教員配置計			兼任率 依存率%
							専任	兼任	兼任	
研究	1	4	4	1	1	1	1	0	0	0.0
演習	2	8	8	3	4	3	3	0	0	0.0

文学研究科言語文化コミュニケーション専攻（修士課程）

（表V-2-④）

科目群等	開講科目数	開講単位数	必要単位数	開講クラス数	総履修者数	計	教員配置計			兼任率 依存率%
							専任	兼任	兼任	
文学・文化研究	6	12	14	6	17	6	5	0	1	16.7
英語教育・コミュニケーション研究	10	20		10	22	10	8	0	2	20.0
人間関係論	1	2	2	1	3	1	1	0	0	0.0
論文	1	2	8	4	4	4	4	0	0	0.0

経済学研究科経済学専攻（修士課程）

（表V-2-⑤）

科目群等	開講科目数	開講単位数	必要単位数	開講クラス数	履修者総数	計	教員配置計			兼任率 依存率%
							専任	兼任	兼任	
研究	16	32	20	16	30	16	16	0	0	0.0
特殊研究	0	0		0	0	0	0	0	0	0.0
演習	6	12	4	6	6	6	6	0	0	0.0
論文	3	6	6	8	8	8	8	0	0	0.0

※学部は開設科目で作成しているが大学院は開講しない科目も多いため、開講科目数一覧とする

3 教員免許状別取得者数一覧

[2016～2020]

(単位:人)

(表V-3)

種別	年度	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	平均	備考
中学社会	心コミ	3	3	4	1	2	2.6	
	経 済	3	14	5	2	0	4.8	
	(経営情報)	0	2	0	0	0	0.4	
	経済法	2	2	0	0	6	2.0	
	福祉計画	5	5	4	4	0	3.6	
	福祉臨床	9	7	8	9	9	8.4	
	(福祉心理)	1	3	1	3	4	2.4	
小 計		23	36	22	19	21	24.2	
中学英語	英 文	16	13	8	14	21	14.4	
小 計		16	13	8	14	21	14.4	
高校英語	英 文	19	20	9	16	22	17.2	
小 計		19	20	9	16	22	17.2	
高校地歴	経 済	2	11	6	2	0	4.2	
	(経営情報)	0	0	0	0	0	0.0	
	経済法	1	2	0	0	5	1.6	
小 計		3	13	6	2	5	5.8	
高校公民	心コミ	4	5	6	3	1	3.8	
	経 済	1	11	7	2	0	4.2	
	(経営情報)	0	2	0	0	0	0.4	
	経済法	4	4	0	0	5	2.6	
	福祉計画	5	6	6	4	0	4.2	
	福祉臨床	9	6	8	9	6	7.6	
	福祉心理	6	7	3	7	8	6.2	
小 計		29	41	30	25	20	29.0	
高校商業	経 済	0	0	0	0	0	0	
	経営情報	0	0	0	3	0	0.6	
小 計		0	0	0	3	0	0.6	
高校情報	経営情報	0	1	0	3	0	0.8	
小 計		0	1	0	3	0	0.8	
特別支援 学校	(福祉計画)	5	4	1	3	0	2.6	
	福祉臨床	9	7	8	7	9	8.0	
	福祉心理	6	4	2	6	5	4.6	
小 計		20	15	11	16	14	15.5	
合 計		110	139	86	98	103	108.3	

※ () 内学科学生は他学科カリキュラムを活用し、当該教科教員免許を取得している

4 定期試験受験率別授業科目数一覧〔2020年度〕

(表V-4)

大学共通

受験率	科目数	対総数比	備考
95%以上	0	0.00	
90	0	0.00	
85	0	0.00	
80	0	0.00	
75	0	0.00	
70	0	0.00	
65	0	0.00	
60	0	0.00	
55	0	0.00	
50	0	0.00	
45	0	0.00	
45%未満	0	0.00	

文学部

受験率	科目数	対総数比	備考
95%以上	0	0.00	
90	0	0.00	
85	0	0.00	
80	0	0.00	
75	0	0.00	
70	0	0.00	
65	0	0.00	
60	0	0.00	
55	0	0.00	
50	0	0.00	
45	0	0.00	
45%未満	0	0.00	

※大学共通科目には教職・国際科目は含まれない。

経済学部

受験率	科目数	対総数比	備考
95%以上	0	0.00	
90	0	0.00	
85	0	0.00	
80	0	0.00	
75	0	0.00	
70	0	0.00	
65	0	0.00	
60	0	0.00	
55	0	0.00	
50	0	0.00	
45	0	0.00	
45%未満	0	0.00	

社会福祉学部

受験率	科目数	対総数比	備考
95%以上	0	0.00	
90	0	0.00	
85	0	0.00	
80	0	0.00	
75	0	0.00	
70	0	0.00	
65	0	0.00	
60	0	0.00	
55	0	0.00	
50	0	0.00	
45	0	0.00	
45%未満	0	0.00	

短期大学部

受験率	科目数	対総数比	備考
95%以上	0	0.00	
90	0	0.00	
85	0	0.00	
80	0	0.00	
75	0	0.00	
70	0	0.00	
65	0	0.00	
60	0	0.00	
55	0	0.00	
50	0	0.00	
45	0	0.00	
45%未満	0	0.00	

5 履修登録者数別授業科目数一覧〔2020年度〕

(表V-5)

大学共通

履修登録者数	科目数	対総数比	備考
401人以上	0	0.00%	
351~400	0	0.00%	
301~350	0	0.00%	
251~300	2	0.32%	
201~250	6	0.95%	
151~200	25	3.97%	
101~150	32	5.08%	
51~100	51	8.10%	
41~50	14	2.22%	
31~40	65	10.32%	
21~30	257	40.79%	
11~20	97	15.40%	
1~10	81	12.86%	

650 1

文学部

履修登録者数	科目数	対総数比	備考
401人以上	0	0.00%	
351~400	0	0.00%	
301~350	0	0.00%	
251~300	0	0.00%	
201~250	1	0.21%	
151~200	1	0.21%	
101~150	12	2.54%	
51~100	24	5.08%	
41~50	14	2.97%	
31~40	22	4.66%	
21~30	65	13.77%	
11~20	209	44.28%	
1~10	124	26.27%	

472 1

経済学部

履修登録者数	科目数	対総数比	備考
401人以上	0	0.00%	
351~400	0	0.00%	
301~350	0	0.00%	
251~300	0	0.00%	
201~250	0	0.00%	
151~200	6	1.46%	
101~150	40	9.71%	
51~100	75	18.20%	
41~50	17	4.13%	
31~40	20	4.85%	
21~30	34	8.25%	
11~20	120	29.13%	
1~10	100	24.27%	

412 1

社会福祉学部

履修登録者数	科目数	対総数比	備考
401人以上	0	0.00%	
351~400	0	0.00%	
301~350	0	0.00%	
251~300	0	0.00%	
201~250	3	0.93%	
151~200	13	4.02%	
101~150	23	7.12%	
51~100	43	13.31%	
41~50	6	1.86%	
31~40	19	5.88%	
21~30	16	4.95%	
11~20	109	33.75%	
1~10	91	28.17%	

323 1

短期大学部

履修登録者数	科目数	対総数比	備考
401人以上	0	0.00%	
351~400	0	0.00%	
301~350	0	0.00%	
251~300	0	0.00%	
201~250	0	0.00%	
151~200	0	0.00%	
101~150	2	0.60%	
51~100	34	10.12%	
41~50	20	5.95%	
31~40	64	19.05%	
21~30	51	15.18%	
11~20	121	36.01%	
1~10	44	13.10%	

336 1

6 学籍異動状況〔2020年度〕

文学部 英文学科 学籍異動状況

(表V-6-①)

入学年度		在籍			休学(内数)						退学(外数)					除籍(外数)											
		計	再入学	転編入学	復学	経済的	家庭事	病	再考	留学	その他	計	経済的	家庭事	病	変更	意欲喪	その他	計	30未満	未登録	学費未納	死亡	その他	計		
20	1年目	123	0	-	0						0					1		1							0		
19	1年目	121	0	-	0						0			1				1							0		
	2年目	121	0	1	0	1					1	1			1			2							0		
18	1年目	126	0	-	0				2		2							0			1				1		
	2年目	127	0	2	0	1					1	1				1		2			2				2		
	3年目	141	0	18	0	1			1		2				1			1							0		
17	1年目	132	0	-	0	1		3			4				3			3							0		
	2年目	129	0	-	0	2		5	2		9				1		2	3							0		
	3年目	142	0	16	0	1		5	1	11	18			1			3	4			1				1		
	4年目	137	0	0	0	2		2	1	4	4	13			1	1		2							0		
	正規卒業者数(21.3)	91																									
	正規卒業率	66.4																									
16	1年目	141	0	-	0			2	1		3				2			2							0		
	2年目	139	0	-	0	1		1	2		4				2	1		3							0		
	3年目	149	0	13	0	1		1	1	10	1	14			1			1			1				1		
	4年目	147	0	0	0			1	1	11	3	16			1			1							0		
	正規卒業者数(20.3)	103																									
	正規卒業率	70.1																									
	5年目	43				3				3	6							0			1				1		
	20年9月卒業者数	2																									
21年3月卒業者数	32																										
15	4年目	136	0	0	0	1				13	1	15			4			4							0		
	正規卒業者数(19.3)	91																									
	正規卒業率	66.9																									
	6年目	9				1				1	1	3					1	1							0		
	20年9月卒業者数	1																									
	21年3月卒業者数	7																									
14	4年目	154	0	0	0	3		1	1	17	1	23			1			1			1				1		
	正規卒業者数(18.3)	107																									
	正規卒業率	69.5																									
	7年目	1				1					1						1	1							0		
	20年9月卒業者数	0																									
	21年3月卒業者数	0																									
13	4年目	133	0	0	0	3		1	1	17	1	23			1			1			1				1		
	正規卒業者数(17.3)	96																									
	正規卒業率	72.2																									
	8年目	0									0							0							0		
	20年9月卒業者数	0																									
	21年3月卒業者数	0																									
合計			0	19	0	9	0	2	2	8	5	26	1	0	1	3	1	2	8	0	0	1	0	0	1		
20年度在籍者数	575	(5月1日現在)																									
卒業	20年9月卒業者数	3	(注) 休学・退学・除籍の計は実人数																								
	21年3月卒業者数	130	事由の内訳については延人数で表記																								

6 学籍異動状況〔2020年度〕

文学部 心理・応用コミュニケーション学科 学籍異動状況

(表V-6-②)

入学年度		在籍			休学(内数)						退学(外数)						除籍(外数)									
		計	再入学	転編入学	復学	経済的	家庭事	病	再考	留学	その他	計	経済的	家庭事	病	変更	意欲喪	その他	計	30未満	未登録	学費未納	死亡	その他	計	
20	1年目	104	0	-	0						0							0						0		
19	1年目	98	0	-	0						0							0						0		
	2年目	98	0	-	0	1				1	2				1	1		2						0		
18	1年目	112	0	-	0						0				1			1						0		
	2年目	110	0	1	0	1		1	2		4				1			1			1			1		
	3年目	111	0	3	0			1	2		3			1			1	2						0		
17	1年目	95	0	-	0					1	1				2		2	4			1			1		
	2年目	91	0	1	0	1			1		2					1		1		1	1	1		2		
	3年目	95	0	7	0			1		2	4						1	1			1			1		
	4年目	93	0	0	0			3	1	1	6				1		1	2						0		
	正規卒業者数(21.3)	77																								
	正規卒業率	82.8																								
16	1年目	107	0	-	0						0							0						0		
	2年目	108	0	1	0	1			2	1	4				1			1						0		
	3年目	111	0	4	0	1		3	2	1	8				2			2						0		
	4年目	109	0	0	0			4	1	2	7				2			2						0		
	正規卒業者数(20.3)	90																								
	正規卒業率	82.6																								
	5年目	17				3		3	1		7	1						1						0		
	20年9月卒業者数	2																								
21年3月卒業者数	5																									
15	4年目	113	0	0	0			2	2	4	2	10					1	1						0		
	正規卒業者数(19.3)	93																								
	正規卒業率	82.3																								
	6年目	5				2				1	3							0						0		
	20年9月卒業者数	0																								
	21年3月卒業者数	1																								
14	4年目	106	0	0	0	2		3		4	9				1			1			1			1		
	正規卒業者数(18.3)	81																								
	正規卒業率	76.4																								
	7年目	2				2					2							0						0		
	20年9月卒業者数	0																								
	21年3月卒業者数	0																								
13	4年目	108	0	0	0	1		1		2	4	1						1				1		1		
	正規卒業者数(17.3)	95																								
	正規卒業率	88.0																								
	8年目	1									0							0			1		1	1		
	20年9月卒業者数	0																								
	21年3月卒業者数	0																								
合計			0	3	0	8	0	7	4	1	3	23	1	0	1	2	1	2	7	0	0	1	0	1	1	
20年度在籍者数		431	(5月1日現在)																							
卒業	20年9月卒業者数	2	(注) 休学・退学・除籍の計は実人数																							
	21年3月卒業者数	83	事由の内訳については延人数で表記																							

6 学籍異動状況〔2020年度〕

経済学部 経済学科 学籍異動状況

(表V-6-③)

入学年度		在籍			休学(内数)						退学(外数)						除籍(外数)									
		計	再入学	転編入学	復学	経済的	家庭事	病	再考	留学	その他	計	経済的	家庭事	病	変更	意欲喪	その他	計	30未満	未登録	学費未納	死亡	その他	計	
20	1年目	179	0	-	0						0					1	2	3							0	
19	1年目	163	0	-	0						0				1			1							1	
	2年目	161	0	-	0	1				1	1	3	1		3	1		5	1		1				1	
18	1年目	168	0	-	0				2		2				2	2		4							0	
	2年目	163	0	1	0	1		1	1		3				5			5				2	1		3	
	3年目	156	0	1	0	1	1		3	2	7				1		1	2						1	1	
17	1年目	176	0	-	0						0			1	1			2							0	
	2年目	174	0	0	0			1	1	1	3				2	2		4	1		1				1	
	3年目	172	0	3	0					1	1				2			2				1			1	
	4年目	169	0	0	0	1		2		2	5				1	3		4			1				1	
	正規卒業者数(21.3)	145																								
	正規卒業率	85.8																								
16	1年目	175	0	-	0				1		1				2	1		3							0	
	2年目	172	0	0	0	2		1	1		4				3			3				2			2	
	3年目	170	0	3	0	1		1			2	4			1			1	1		1				1	
	4年目	168	0	0	0	1			2	2	5				1			1				1			1	
	正規卒業者数(20.3)	145																								
	正規卒業率	86.3																								
	5年目	21							2	1	3				1			1			1				1	
	20年9月卒業者数	1																								
21年3月卒業者数	10																									
15	4年目	166	0	0	0	2			1	2	5				1			1							0	
	正規卒業者数(19.3)	148																								
	正規卒業率	89.2																								
	6年目	5				1					1	1						2							0	
	20年9月卒業者数	0																								
	21年3月卒業者数	2																								
14	4年目	170	0	0	0					1	1				1			1							0	
	正規卒業者数(18.3)	156																								
	正規卒業率	91.8																								
	7年目	2				1					1				1			1							0	
	20年9月卒業者数	0																								
	21年3月卒業者数	1																								
13	4年目	172	0	0	0				2	1	3				1			1			1	1			2	
	正規卒業者数(17.3)	156																								
	正規卒業率	90.7																								
	8年目	0									0							0							0	
	20年9月卒業者数	0																								
	21年3月卒業者数	0																								
合計			0	1	0	5	1	2	3	5	4	20	2	0	0	7	6	3	18	1	0	3	0	1	4	
20年度在籍者数		693	(5月1日現在)																							
卒業	20年9月卒業者数	1	(注) 休学・退学・除籍の計は実人数																							
	21年3月卒業者数	158	事由の内訳については延人数で表記																							

6 学籍異動状況〔2020年度〕

経済学部 経営情報学科 学籍異動状況

(表V-6-④)

入学年度		在籍			休学(内数)					退学(外数)					除籍(外数)										
		計	再入学	転編入学	復学	経済的	家庭事	病	再考	留学	その他	計	経済的	家庭事	病	変更	意欲喪	その他	計	30未満	未登録	学費未納	死亡	その他	計
20	1年目	103	1	-	0			1			1							0			1		1	2	
19	1年目	125	0	-	0						0							0						0	
	2年目	124	0	-	0			2	3		5			1				1	1					1	
18	1年目	120	0	-	0			2	1		3			1	1		1	3						0	
	2年目	121	1	3	0			1			1			1		2	3							0	
	3年目	123	0	5	0			1			1			1			1							0	
17	1年目	138	0	-	0						0			2			2				1			1	
	2年目	135	1	0	1			3			3			4	1		5	1		2				2	
	3年目	131	0	3	0	2			4	1	7			3			3				1			1	
	4年目	127	0	0	0	5		2		2	9	1	2	2			5				1			1	
	正規卒業生数(21.3)	106																							
	正規卒業率	83.5																							
16	1年目	121	0	-	0						0						0							0	
	2年目	123	1	0	1	1		1	1		3		1	5			6	1	3					4	
	3年目	115	0	2	0	3			2		5					1	1			1		1		2	
	4年目	112	0	0	0	2			1	2	5			2			2							0	
	正規卒業生数(20.3)	99																							
	正規卒業率	88.4																							
	5年目	11				3			1		4	1					1							0	
	20年9月卒業生数	4																							
21年3月卒業生数	6																								
15	4年目	129	0	0	0	1			1		2						0							0	
	正規卒業生数(19.3)	122																							
	正規卒業率	94.6																							
	6年目	1				1					1						0						1	1	
	20年9月卒業生数	0																							
	21年3月卒業生数	0																							
14	4年目	108	0	0	0		1	1	2		4			2	1		3							0	
	正規卒業生数(18.3)	96																							
	正規卒業率	88.9																							
	7年目	0									0						0							0	
	20年9月卒業生数	0																							
	21年3月卒業生数	0																							
13	4年目	105	0	0	0		1	1	2		4						0							0	
	正規卒業生数(17.3)	95																							
	正規卒業率	90.5																							
	8年目	1									0						0							0	
	20年9月卒業生数	0																							
	21年3月卒業生数	1																							
合計		1	5	0	9	0	6	3	3	0	21	2	0	2	4	0	0	8	1	0	2	0	2	5	
20年度在籍者数		490	(5月1日現在)																						
卒業	20年9月卒業生数	4	(注) 休学・退学・除籍の計は実人数																						
	21年3月卒業生数	113	事由の内訳については延人数で表記																						

6 学籍異動状況〔2020年度〕

経済学部 経済法学科 学籍異動状況

(表V-6-⑤)

入学年度		在籍			休学(内数)						退学(外数)						除籍(外数)									
		計	再入学	転編入学	復学	経済的	家庭事	病气	再考	留学	その他	計	経済的	家庭事	病气	変更	意欲喪	その他	計	30未満	未登録	学費未納	死亡	その他	計	
20	1年目	116	0	-	0			1			1				1	1		2						0		
19	1年目	130	1	-	0			1	1		1				1			1						0		
	2年目	129	0	0	0			3	1		4				2	1	1	4						0		
18	1年目	130	0	-	0						0							0						0		
	2年目	131	1	0	0	1					1				1			1	1					1		
	3年目	129	0	-	0	1			1		2				2			2				1		1		
17	1年目	131	0	-	0						0				5			5						0		
	2年目	126	0	0	0						0				2			2						0		
	3年目	125	0	1	0			1		1	2							0						0		
	4年目	125	0	0	0			1		2	3	1						1						0		
	正規卒業者数(21.3)	115																								
	正規卒業率	92.0																								
16	1年目	134	0	-	0						0							0				1		1		
	2年目	133	0	0	0			1			1				2			2				1		1		
	3年目	134	0	4	0						0				1			1						0		
	4年目	133	0	0	0	2		1		1	4	2						2						0		
	正規卒業者数(20.3)	105																								
	正規卒業率	78.9																								
	5年目	15				3					3							0				1		1		
	20年9月卒業者数	7																								
21年3月卒業者数	3																									
15	4年目	132	0	0	0	1		1	1	1	4	1					1	2						0		
	正規卒業者数(19.3)	105																								
	正規卒業率	79.5																								
	6年目	3						1			1				1			1						0		
	20年9月卒業者数	1																								
	21年3月卒業者数	0																								
14	4年目	123	0	0	0			5	4	2	1	12			1			1	1					1		
	正規卒業者数(18.3)	102																								
	正規卒業率	82.9																								
	7年目	3				1					1							0						0		
	20年9月卒業者数	1																								
	21年3月卒業者数	1																								
13	4年目	114	0	0	0	1			1		2				1			1						0		
	正規卒業者数(17.3)	103																								
	正規卒業率	90.4																								
	8年目	0									0							0						0		
	20年9月卒業者数	0																								
	21年3月卒業者数	0																								
合計			0	0	0	5	0	5	3	2	0	15	1	0	0	6	2	1	10	0	0	1	1	0	2	
20年度在籍者数		520	(5月1日現在)																							
卒業	20年9月卒業者数	9	(注) 休学・退学・除籍の計は実人数																							
	21年3月卒業者数	119	事由の内訳については延人数で表記																							

6 学籍異動状況〔2020年度〕

社会福祉学部 福祉計画学科 学籍異動状況

(表V-6-⑥)

入学年度		在籍			休学(内数)						退学(外数)					除籍(外数)										
		計	再入学	転編入学	復学	経済的	家庭事	病气	再考	留学	その他	計	経済的	家庭事	病气	変更	意欲喪	その他	計	30未満	未登録	学費未納	死亡	その他	計	
20	1年目	113	0	-	0			1			1				1			1				1		1		
19	1年目	93	0	-	0						0							0						0		
	2年目	93	0	0	0						0						1	1						0		
18	1年目	98	0	-	0				2		2				1			1						0		
	2年目	97	0	0	0				1		1				1		1	2						0		
	3年目	97	0	2	0				1	1	2					1	1	2						0		
17	1年目	86	0	-	0						0				1			1						0		
	2年目	85	0	0	0	1		1			2					1		1						0		
	3年目	86	1	1	0	2		2	1		5				1			1			1			1		
	4年目	84	0	0	0			1			1			1			1	2			1			1		
	正規卒業生数(21.3)	69																								
	正規卒業率	82.1																								
16	1年目	103	0	-	0						0				1			1				1		1		
	2年目	101	0	0	0				1		1				1			1						0		
	3年目	105	0	5	0				1		1					1	1	2		1				1		
	4年目	102	0	0	0			1			1	1			1			2						0		
	正規卒業生数(20.3)	90																								
	正規卒業率	88.2																								
	5年目	10				2		1			3							0			1			1		
	20年9月卒業生数	3																								
21年3月卒業生数	4																									
15	4年目	104	0	0	0				2		2							0						0		
	正規卒業生数(19.3)	91																								
	正規卒業率	87.5																								
	6年目	2									0					1		1						0		
	20年9月卒業生数	1																								
	21年3月卒業生数	0																								
14	4年目	93	0	0	0				3		3						1	1			1			1		
	正規卒業生数(18.3)	79																								
	正規卒業率	84.9																								
	7年目	2				2					2							0						0		
	20年9月卒業生数	1																								
	21年3月卒業生数	0																								
13	4年目	103	0	0	0			1	3	4				2			2							0		
	正規卒業生数(17.3)	84																								
	正規卒業率	81.6																								
	8年目	0									0							0						0		
	20年9月卒業生数	0																								
	21年3月卒業生数	0																								
合計			0	2	0	4	0	2	2	0	1	9	0	0	1	1	2	3	7	0	0	2	1	0	3	
20年度在籍者数		401	(5月1日現在)																							
卒業	20年9月卒業生数	5	(注) 休学・退学・除籍の計は実人数																							
	21年3月卒業生数	73	事由の内訳については延人数で表記																							

6 学籍異動状況〔2020年度〕

社会福祉学部 福祉臨床学科 学籍異動状況

(表V-6-⑦)

入学年度		在籍			休学(内数)						退学(外数)						除籍(外数)									
		計	再入学	転編入学	復学	経済的	家庭事	病	再考	留学	その他	計	経済的	家庭事	病	変更	意欲喪	その他	計	30未満	未登録	学費未納	死亡	その他	計	
20	1年目	104	0	-	0						0							0						0		
19	1年目	81	0	-	0			1			1				1			1						0		
	2年目	80	0	-	0						0							0				1		1		
18	1年目	88	0	-	1						0				1		1	2						0		
	2年目	87	0	1	0				2		2							0			1			1		
	3年目	87	0	1	0				2		2			1				1					1	1		
17	1年目	99	0	-	1			2			2							0						0		
	2年目	98	0	0	0			2	1		3			1	1			2	1		1			1		
	3年目	99	0	4	0				1		1				2			2						0		
	4年目	97	0	0	0	1				1	2							0						0		
	正規卒業者数(21.3)	90																								
	正規卒業率	92.8																								
16	1年目	88	0	-	0				1		1				1			1						0		
	2年目	87	0	0	0			1	1		2							0						0		
	3年目	90	0	3	0			2			2			1	1			2						0		
	4年目	88	0	0	0					1	1							0						0		
	正規卒業者数(20.3)	82																								
	正規卒業率	93.2																								
	5年目	6				1					1							0						0		
	20年9月卒業者数	2																								
21年3月卒業者数	2																									
15	4年目	93	0	0	0			1	1	1	3				1			1						0		
	正規卒業者数(19.3)	85																								
	正規卒業率	91.4																								
	6年目	4				3					3							0						0		
	20年9月卒業者数	0																								
	21年3月卒業者数	3																								
14	4年目	87	0	0	0	1					1			2				2						0		
	正規卒業者数(18.3)	75																								
	正規卒業率	86.2																								
	7年目	0									0							0						0		
	20年9月卒業者数	0																								
	21年3月卒業者数	0																								
13	4年目	94	0	0	0						0			1	1			2						0		
	正規卒業者数(17.3)	86																								
	正規卒業率	91.5																								
	8年目	0									0							0						0		
	20年9月卒業者数	0																								
	21年3月卒業者数	0																								
合計			0	1	0	5	0	0	2	0	1	8	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	2		
20年度在籍者数	378	(5月1日現在)																								
卒業	20年9月卒業者数	2	(注) 休学・退学・除籍の計は実人数																							
	21年3月卒業者数	95	事由の内訳については延人数で表記																							

6 学籍異動状況〔2020年度〕

社会福祉学部 福祉心理学科 学籍異動状況

(表V-6-⑧)

入学年度		在籍			休学(内数)						退学(外数)						除籍(外数)									
		計	再入学	転編入学	復学	経済的	家庭事	病	再考	留学	その他	計	経済的	家庭事	病	変更	意欲喪	その他	計	30未満	未登録	学費未納	死亡	その他	計	
20	1年目	82	0	-	0				1		1				2			2						0		
19	1年目	81	0	-	0						0	1						1			1			1		
	2年目	80	0	1	0				5		5	1			4	1		6						0		
18	1年目	75	0	-	0				1		1				1			1						0		
	2年目	75	0	1	0			3	2		5				4		1	5						0		
	3年目	72	0	2	0	1		1		1	3		1	1	1			3						0		
17	1年目	70	0	-	0			1			1							0			2			2		
	2年目	69	0	0	0			2	1		3				1		1	2		1				1		
	3年目	66	0	0	0					2	2							0						0		
	4年目	66	0	0	0				2		2				1			1						0		
	正規卒業者数(21.3)	53																								
	正規卒業率	80.3																								
16	1年目	74	0	-	0			1		1	2							0						0		
	2年目	74	0	0	0			2		1	3			1	2		2	5			1			1		
	3年目	68	0	3	0			1			1						1	1						0		
	4年目	67	0	0	0	3		1	1		5	1			3			4						0		
	正規卒業者数(20.3)	54																								
	正規卒業率	80.6																								
	5年目	9				1					1				1			1			1			1		
	20年9月卒業者数	3																								
21年3月卒業者数	1																									
15	4年目	61	0	0	0			2		2				1			1			1			1	1		
	正規卒業者数(19.3)	53																								
	正規卒業率	86.9																								
	6年目	1				1					1							0						0		
	20年9月卒業者数	0																								
21年3月卒業者数	1																									
14	4年目	65	0	0	0	2		1	1		4	2						2						0		
	正規卒業者数(18.3)	58																								
	正規卒業率	89.2																								
	7年目	0									0							0						0		
	20年9月卒業者数	0																								
21年3月卒業者数	0																									
13	4年目	70	0	0	0			1	1	1	3			1				1						0		
	正規卒業者数(17.3)	62																								
	正規卒業率	88.6																								
	8年目	0									0							0						0		
	20年9月卒業者数	0																								
21年3月卒業者数	0																									
合計			0	3	0	3	0	1	8	0	1	13	1	1	1	9	1	0	13	0	0	1	0	0	1	
20年度在籍者数	310	(5月1日現在)																								
卒業	20年9月卒業者数	3	(注) 休学・退学・除籍の計は実人数																							
	21年3月卒業者数	55	事由の内訳については延人数で表記																							

6 学籍異動状況〔2020年度〕

大学 全学部合計 学籍異動状況

(表V-6-⑨)

入学年度		在籍			休学(内数)							退学(外数)						除籍(外数)								
		計	再入学	転編入学	復学	経済的	家庭事	病	再考	留学	その他	計	経済的	家庭事	病	変更	意欲喪	その他	計	30未満	未登録	学費未納	死亡	その他	計	
20	1年目	924	1	0	0	0	0	3	1	0	0	4	0	0	0	4	3	2	9	0	0	1	1	1	3	
19	1年目	892	1	0	0	0	0	2	1	0	1	4	1	0	1	3	0	0	5	0	0	2	0	0	2	
	2年目	886	0	2	0	3	0	5	9	1	2	20	3	0	0	12	4	2	21	2	0	2	0	0	3	
18	1年目	917	0	0	1	0	0	2	8	0	0	10	0	0	1	7	2	2	12	0	0	1	0	0	1	
	2年目	911	2	9	0	4	0	6	8	0	0	18	1	0	0	13	1	4	19	1	0	6	1	0	8	
	3年目	916	0	32	0	4	1	3	10	0	4	22	0	1	2	7	1	3	14	0	0	0	1	2	3	
17	1年目	927	0	0	1	1	0	6	0	0	1	8	0	0	1	14	0	2	17	0	0	4	0	0	4	
	2年目	907	1	1	1	4	0	14	6	1	0	25	0	0	1	11	5	3	20	3	2	5	0	0	7	
	3年目	916	1	35	0	5	0	9	7	16	3	40	0	0	1	8	0	4	13	0	0	5	0	0	5	
	4年目	898	0	0	0	9	0	11	4	11	6	41	2	0	4	6	3	2	17	0	0	3	0	0	3	
	正規卒業者数(21.3)	746	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	正規卒業率	83.1																								
16	1年目	943	0	0	0	0	0	3	3	0	1	7	0	0	0	6	1	0	7	0	0	2	0	0	2	
	2年目	937	1	1	1	5	0	7	8	0	2	22	0	0	2	16	1	2	21	0	1	7	0	0	8	
	3年目	942	0	37	0	6	0	8	6	11	4	35	0	0	1	5	2	3	11	1	1	3	0	1	5	
	4年目	926	0	0	0	8	0	8	6	19	5	44	4	0	0	10	0	0	14	0	0	1	0	0	1	
	正規卒業者数(20.3)	768	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	正規卒業率	82.9																								
	5年目	132	0	0	0	16	0	3	2	6	1	28	2	0	0	2	0	0	4	0	0	5	0	0	5	
	20年9月卒業者数	24																								
21年3月卒業者数	63																									
15	4年目	934	0	0	0	5	0	4	7	24	3	43	1	0	0	7	2	0	10	0	0	1	0	0	1	
	正規卒業者数(19.3)	788	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	正規卒業率	84.4																								
	6年目	30	0	0	0	9	0	0	1	1	2	13	1	0	0	1	2	1	5	0	0	0	0	1	1	
	20年9月卒業者数	3																								
	21年3月卒業者数	14																								
14	4年目	906	0	0	0	8	0	11	10	26	2	57	2	0	0	8	1	1	12	0	1	3	0	0	4	
	正規卒業者数(18.3)	754	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	正規卒業率	83.2																								
	7年目	10	0	0	0	7	0	0	0	0	0	7	0	0	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	
	20年9月卒業者数	2																								
21年3月卒業者数	2																									
13	4年目	899	0	0	0	5	0	4	6	23	5	43	1	0	1	6	1	0	9	0	1	2	1	0	4	
	正規卒業者数(17.3)	777																								
	正規卒業率	86.4																								
	8年目	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	
	20年9月卒業者数	0																								
21年3月卒業者数	1																									
合計		1	34	0	48	1	25	27	19	15	135	8	1	6	33	13	11	72	2	0	12	2	5	19		
20年度在籍者数	3798	(5月1日現在)																								
卒業	20年9月卒業者数	29	(注) 休学・退学・除籍の計は実人数																							
	21年3月卒業者数	826	事由の内訳については延人数で表記																							

6 学籍異動状況〔2020年度〕

短期大学部 英文学科 学籍異動状況

(表V-6-⑩)

入学年度		在籍			休学(内数)						退学(外数)						除籍(外数)									
		計	再入 学	転編 入学	復 学	経 済 的	家 庭 事	病 気	再 考	留 学	そ の 他	計	経 済 的	家 庭 事	病 気	変 更	意 欲 喪	そ の 他	計	30 未 満	未 登 録	学 費 未 納	死 亡	そ の 他	計	
20	1年目	137	0	-	0			2			2			1	1	1	3	6							0	
19	1年目	109	0	-	0				1		2					3	1	4							0	
	2年目	106	1			1		2	1	1	4				1			1							0	
	正規卒業生数(21.3)	97																								
	正規卒業率	91.5																								
18	1年目	137	0	-	0			1	3	1	5	1			3	1	1	6		1					1	
	2年目	130				2		1	5	8	16				4		1	5			1				1	
	正規卒業生数(20.3)	113																								
	正規卒業率	86.9																								
	3年目	11				2		1	1	4	8			1	1			2							0	
	20年9月卒業生数	1																								
	21年3月卒業生数	6																								
17	2年目	129							3	5	8							0							0	
	正規卒業生数(19.3)	120																								
	正規卒業率	93.0																								
	4年目	3									0					1		1							0	
	20年9月卒業生数	0																								
	21年3月卒業生数	2																								
16	2年目	133				2			2	4	1	9			4		1	5							0	
	正規卒業生数(18.3)	120																								
	正規卒業率	90.2																								
	5年目	0									0							0							0	
	20年9月卒業生数	0																								
	21年3月卒業生数	0																								
15	2年目	142				3				12	15	1						1			1				1	
	正規卒業生数(17.3)	121																								
	正規卒業率	85.2																								
	6年目	0									0							0							0	
	20年9月卒業生数	0																								
	21年3月卒業生数	0																								
14	2年目	126	0	0	0	2				5	7				2			2							0	
	正規卒業生数(16.3)	116																								
	正規卒業率	92.1																								
	7年目	0									0							0							0	
	20年9月卒業生数	0																								
	21年3月卒業生数	0																								
合計			1	0	0	3	0	5	2	5	4	19	0	0	2	3	2	3	10	0	0	0	0	0	0	
20年度在籍者数		257	(5月1日現在)																							
卒業	20年9月卒業生数	1	(注) 休学・退学・除籍の計は実人数																							
	21年3月卒業生数	105	事由の内訳については延人数で表記																							

6 学籍異動状況〔2020年度〕

短期大学部 生活創造学科 学籍異動状況

(表V-6-①)

入学年度		在籍		休学(内数)							退学(外数)					除籍(外数)										
		計	再 入 学	転 編 入 学	復 学	経 済 的	家 庭 事	病 気	再 考	留 学	そ の 他	計	経 済 的	家 庭 事	病 気	変 更	意 欲 喪	そ の 他	計	30 未 満	未 登 録	学 費 未 納	死 亡	そ の 他	計	
20	1年目	90	0	-	0						0				1			1							0	
19	1年目	88	0	-	0				1		1			1	1		1	3							0	
	2年目	85						2		2				2			2				1			1		
	正規卒業生数(21.3)	82																								
	正規卒業率	96.5																								
18	1年目	89	0	-	0						0							0							0	
	2年目	89									0							0							0	
	正規卒業生数(20.3)	89																								
	正規卒業率	100.0																								
	3年目	0									0							0							0	
	20年9月卒業生数	0																								
	21年3月卒業生数	0																								
17	2年目	93				2		2		1	5						2	2			2			2		
	正規卒業生数(19.3)	85																								
	正規卒業率	91.4																								
	3年目	0									0							0							0	
	20年9月卒業生数	0																								
	21年3月卒業生数	0																								
16	2年目	98							1		1							0								
	正規卒業生数(18.3)	96																								
	正規卒業率	98.0																								
	4年目	0									0							0							0	
	20年9月卒業生数	0																								
	21年3月卒業生数	0																								
15	2年目	100							2		2							0								
	正規卒業生数(17.3)	94																								
	正規卒業率	94.0																								
	5年目	0									0							0							0	
	20年9月卒業生数	0																								
21年3月卒業生数	0																									
14	2年目	96	0	0	0			1			1						1								0	
	正規卒業生数(16.3)	92																								
	正規卒業率	95.8																								
	6年目	0									0							0							0	
	20年9月卒業生数	0																								
	21年3月卒業生数	0																								
合計			0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	1	0	1	
20年度在籍者数		175	(5月1日現在)																							
卒業	20年9月卒業生数	0	(注) 休学・退学・除籍の計は実人数																							
	21年3月卒業生数	82	事由の内訳については延人数で表記																							

6 学籍異動状況〔2020年度〕

短期大学部 合計 学籍異動状況

(表V-6-⑫)

入学年度		在籍				休学(内数)						退学(外数)						除籍(外数)								
		計	再入学	転編入学	復学	経済的	家庭事	病	再考	留学	その他	計	経済的	家庭事	病	変	意欲喪	その他	計	30未満	未登録	学費未納	死亡	その他	計	
																										計
20	1年目	227	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	1	2	1	3	7	0	0	0	0	0	0	
19	1年目	197	0	0	0	0	0	0	2	0	1	3	0	0	1	4	0	2	7	0	0	0	0	0	0	
	2年目	191	1	0	0	1	0	2	3	1	4	11	0	0	0	3	0	0	3	0	0	1	0	0	1	
	正規卒業生数(21.3)	179																								
	正規卒業率	93.7																								
18	1年目	226	0	0	0	0	0	1	3	1	0	5	1	0	0	3	1	1	6	0	1	0	0	0	1	
	2年目	219	0	0	0	2	0	1	5	8	0	16	0	0	0	4	0	1	5	0	0	1	0	0	1	
	正規卒業生数(20.3)	202																								
	正規卒業率	92.2																								
	3年目	11	0	0	0	2	0	1	1	4	0	8	0	0	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	
	20年9月卒業生数	1																								
21年3月卒業生数	6																									
17	2年目	222	0	0	0	2	0	2	3	5	1	13	0	0	0	0	0	2	2	0	0	2	0	0	2	
	正規卒業生数(19.3)	205																								
	正規卒業率	92.3																								
	3年目	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	
	20年9月卒業生数	0																								
21年3月卒業生数	2																									
16	2年目	231	0	0	0	2	0	0	2	5	1	10	0	0	0	4	0	1	5	0	0	0	0	0	0	
	正規卒業生数(18.3)	216																								
	正規卒業率	93.5																								
	4年目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	20年9月卒業生数	0																								
21年3月卒業生数	0																									
15	2年目	242	0	0	0	3	0	0	0	14	0	17	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	
	正規卒業生数(17.3)	215																								
	正規卒業率	88.8																								
	5年目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	20年9月卒業生数	0																								
21年3月卒業生数	0																									
14	2年目	222	0	0	0	2	0	1	0	5	0	8	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	
	正規卒業生数(16.3)	208																								
	正規卒業率	93.7																								
	6年目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	20年9月卒業生数	0																								
21年3月卒業生数	0																									
合計			1	0	0	3	0	5	4	5	4	21	0	0	2	6	2	3	13	0	0	1	0	0	1	
20年度在籍者数		432	(5月1日現在)																							
卒業	20年9月卒業生数	1	(注) 休学・退学・除籍の計は実人数																							
	21年3月卒業生数	187	事由の内訳については延人数で表記																							

6 学籍異動状況〔2020年度〕

大学院（社会福祉学専攻 社会福祉学専攻 修士課程）学籍異動状況

（表V-6-13）

入学年度		在籍		休学（内数）						退学（外数）						除籍（外数）										
		計	再入 学	転編入 学	復学	経済的	家事	病	再考	留学	その他	計	経済的	家事	病	変更	意欲喪	その他	計	30未 満	未登 録	学費未 納	死 亡	その他	計	
20	1年目	2	0	-	0						0							0						0		
19	1年目	1	0	-	0						0							0						0		
	2年目	1									0							0						0		
	正規修了者数	0																								
	正規修了率	0.0																								
18	2年目	3									0							0						0		
	正規修了者数	0																								
	正規修了率	0.0																								
	3年目	0									0							0						0		
	20/9修了者数	0																								
	21/3修了者数	1																								
17	2年目	4									0							0						0		
	正規修了者数	3																								
	正規修了率	75.0																								
	4年目	0									0							0						0		
	20/9修了者数	0																								
	21/3修了者数	1																								
16	2年目	3	0	-	0						0							0						0		
	正規修了者数	0																								
	正規修了率	0.0																								
	5年目	0									0							0						0		
	20/9修了者数	0																								
	21/3修了者数	0																								
15	2年目	2									0							0						0		
	正規修了者数	0																								
	正規修了率	0.0																								
	6年目	1									0							0						0		
	20/9修了者数	0																								
	21/3修了者数	0																								
合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
20年度在籍者数	4	（5月1日現在）																								
修了	20/9修了者数	0																								
	21/3修了者数	2																								

（注）休学・退学・除籍の計は実人数

事由の内訳については延人数で表記

6 学籍異動状況〔2020年度〕

大学院（社会福祉学専攻 臨床心理学専攻 修士課程）学籍異動状況

（表V-6-⑭）

入学年度		在籍		休学（内数）						退学（外数）						除籍（外数）										
		計	再入 学	転編入 学	復学	経済的	家事	病	再考	留学	その他	計	経済的	家事	病	変更	意欲喪	その他	計	30未 満	未登 録	学費未 納	死 亡	その他	計	
20	1年目	2	0	-	0						0							0						0		
19	1年目	3	0	-	0						0							0			1			1		
	2年目	2									0							0						0		
	正規修了者数	4																								
	正規修了率	200.0																								
18	2年目	4									0							0						0		
	正規修了者数	4																								
	正規修了率	100.0																								
	3年目	0									0							0						0		
	20/9修了者数	0																								
	21/3修了者数	0																								
17	2年目	5									0							0						0		
	正規修了者数	5																								
	正規修了率	100.0																								
	4年目	0									0							0						0		
	20/9修了者数	0																								
	21/3修了者数	0																								
16	2年目	4	0	-	0						0							0						0		
	正規修了者数	2																								
	正規修了率	50.0																								
	5年目	0									0							0						0		
	20/9修了者数	0																								
	21/3修了者数	0																								
15	2年目	5									0							0						0		
	正規修了者数	2																								
	正規修了率	40.0																								
	6年目	0									0							0						0		
	20/9修了者数	0																								
	21/3修了者数	0																								
合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
20年度在籍者数		4	(5月1日現在)																							
修了	20/9修了者数	0																								
	21/3修了者数	4																								

（注）休学・退学・除籍の計は実人数

事由の内訳については延人数で表記

6 学籍異動状況〔2020年度〕

大学院（文学研究科 言語文化コミュニケーション専攻 修士課程）学籍異動状況

（表V-6-15）

入学年度		在籍		休学（内数）						退学（外数）						除籍（外数）										
		計	再入 学	転編入 学	復学	経済的	家事	病	再考	留学	その他	計	経済的	家事	病	変更	意欲喪	その他	計	30未 満	未登 録	学費未 納	死 亡	その他	計	
20	1年目	4	0	-	0						0							0						0		
19	1年目	0	0	-	0						0				0			0						0		
	2年目	0								0								0						0		
	正規修了者数	0																								
	正規修了率	0.0																								
18	2年目	0								0								0						0		
	正規修了者数	0																								
	正規修了率	0.0																								
	3年目	0								0								0						0		
	20/9修了者数	0																								
	21/3修了者数	0																								
17	2年目	1								0								0						0		
	正規修了者数	1																								
	正規修了率	100.0																								
	4年目	0								0								0						0		
	20/9修了者数	0																								
	21/3修了者数	0																								
16	2年目	5	0	-	0						0							0						0		
	正規修了者数	1																								
	正規修了率	20.0																								
	5年目	0								0								0						0		
	20/9修了者数	0																								
	21/3修了者数	5																								
15	2年目	2									0							0						0		
	正規修了者数	1																								
	正規修了率	50.0																								
	6年目	0								0								0						0		
	20/9修了者数	0																								
	21/3修了者数	1																								
合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
20年度在籍者数		4	（5月1日現在）																							
修了	20/9修了者数	0																								
	21/3修了者数	6																								

（注）休学・退学・除籍の計は実人数

事由の内訳については延人数で表記

6 学籍異動状況〔2020年度〕

大学院（経済学研究科 経済学専攻 修士課程）学籍異動状況

（表V-6-⑩）

入学年度		在籍		休学（内数）						退学（外数）						除籍（外数）							
		計	再入 学	転編入 学	復学	経済 的	家 庭 事 務	病 気	再 考 学	留 学 他	計	経 済 的	家 庭 事 務	病 気	変 更	意 欲 喪 失	そ の 他	計	30 未 満	未 登 録	学 費 未 納	死 亡	そ の 他
20	1年目	3	0	-	0						0						0						0
19	1年目	4	0	-	0						0	1					1						0
	2年目	3							1	1							0						0
	正規修了者数	0																					
	正規修了率	0.0																					
18	2年目	1							1	1							0						0
	正規修了者数	0																					
	正規修了率	0.0																					
	3年目	1							1	1							0						0
	20/9修了者数	0																					
	21/3修了者数	1																					
17	2年目	1							0	0							0						0
	正規修了者数	0																					
	正規修了率	0.0																					
	4年目	0								0							0						0
	20/9修了者数	0																					
	21/3修了者数	1																					
16	2年目	1	0	-	0					0							0						0
	正規修了者数	1																					
	正規修了率	100.0																					
	5年目	0								0							0						0
	20/9修了者数	0																					
	21/3修了者数	0																					
15	2年目	1								0							0						0
	正規修了者数	1																					
	正規修了率	100.0																					
	6年目	0								0							0						0
	20/9修了者数	0																					
	21/3修了者数	0																					
合計		0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20年度在籍者数		7	(5月1日現在)																				
修了	20/9修了者数	0																					
	21/3修了者数	2																					

（注）休学・退学・除籍の計は実人数

事由の内訳については延人数で表記

6 学籍異動状況〔2020年度〕

大学院（修士課程）学籍異動状況

（表V-6-⑰）

入学年度		在籍		休学（内数）							退学（外数）						除籍（外数）									
		計	再入 学	転編 入学	復 学	経 済 的	家 庭 事 務	病 気	再 考 学	留 学 他	計	経 済 的	家 庭 事 務	病 気	変 更	意 欲 喪	そ の 他	計	30 未 満	未 登 録	学 費 未 納	死 亡	そ の 他	計		
20	1年目	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
19	1年目	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1		
	2年目	6	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	正規修了者数	4																								
	正規修了率	66.7																								
18	2年目	8	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	正規修了者数	4																								
	正規修了率	50.0																								
	3年目	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	20/9修了者数	0																								
	21/3修了者数	2																								
17	2年目	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	正規修了者数	9																								
	正規修了率	81.8																								
	3年目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	20/9修了者数	0																								
	21/3修了者数	2																								
16	2年目	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	正規修了者数	4																								
	正規修了率	30.8																								
	4年目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	20/9修了者数	0																								
	21/3修了者数	5																								
15	2年目	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	正規修了者数	4																								
	正規修了率	40.0																								
	5年目	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	20/9修了者数	0																								
	21/3修了者数	1																								
合計		0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
20年度在籍者数		19	(5月1日現在)																							
修了	20/9修了者数	0	※00年度から社会福祉学研究所開設（2修士課程）、文学研究科（社会福祉学専攻）募集停止																							
	21/3修了者数	14	※01年度から文学研究科（言語文化）、経済学研究所開設																							

（注）休学・退学・除籍の計は実人数

事由の内訳については延人数で表記

6 学籍異動状況〔2020年度〕

大学院（社会福祉学研究科 社会福祉学専攻 博士課程）学籍異動状況

（表V-6-⑱）

入学年度		在籍		休学（内数）							退学（外数）						除籍（外数）									
		計	再入 学	転編 入学	復学	経済 的	家庭 事	病 気	再 考	留 学	そ の 他	計	経 済 的	家 庭 事	病 気	変 更	意 欲 喪 失	そ の 他	計	30 未 満	未 登 録	学 費 未 納	死 亡	そ の 他	計	
																										再入 学
20	1年目	1	0	-	0						0							0						0		
19	1年目	1	0	-	0						0							0						0		
	2年目	1																								
18	1年目	3	0	-	0						0							0						0		
	2年目	3																								
	3年目	3																								
	正規修了者 (21/3)	0																								
	正規修了者率	0.0%																								
	単位修得満期 退学者数 (21/3)	0																								
	満期単位修得率	0.0%																								
17	3年目	0																								
	正規修了者 (20/3)	0																								
	正規修了者率	0.0%																								
	単位修得満期 退学者数 (20/3)	0																								
	満期単位修得率	0.0%																								
	4年目	0																								
	単位修得満期 退学者数 (21/3)	0																								
16	3年目	1																								
	正規修了者 (19/3)	0																								
	正規修了者率	0.0%																								
	単位修得満期 退学者数 (18/3)	1																								
	満期単位修得率	100.0%																								
	5年目	0																								
単位修得満期 退学者数 (21/3)	0																									
15	3年目	2																								
	正規修了者 (18/3)	0																								
	正規修了者率	0.0%																								
	単位修得満期 退学者数 (18/3)	0																								
	満期単位修得率	0.0%																								
	6年目	0																								
単位修得満期 退学者数 (21/3)	0																									
合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
20年度在籍者数		5	(5月1日現在)																							
	正規修了者	0																								
	単位修得満期 退学者数 (19/3)	1																								
	単位修得満期 退学者数 (18/3)	3																								
	単位修得満期 退学者数 (17/3)	0																								
	単位修得満期 退学者数 (16/3)	0																								
	単位修得満期 退学者数 (15/3)	0																								
	単位修得満期 退学者数 (14/3)	0																								
	単位修得満期 退学者数 (13/3)	3																								
	単位修得満期 退学者数 (12/3)	3																								
	博士号授与 (14/3/14)	1																								
	博士号授与 (13/9/30)	1																								
	博士号授与 (12/3/15)	3																								
	博士号授与 (11/3/15)	2																								
	博士号授与 (07/3/15)	1																								
	博士号授与 (04/9/30)	1																								

(注) 休学・退学・除籍の計は実人数
事由の内訳については延人数で表記

7 修学指導対象者の対応状況

(1) 大学 [2016～2020]

(表V-7-①)

			2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	平均
文学部	英文学科	対象者	83	77	81	89	57	77.4
		対応者	59	48	52	62	39	52.0
	心理・応用コミュニケーション学科	対象者	79	82	91	53	70	75.0
		対応者	47	35	46	38	31	39.4
経済学部	経済学科	対象者	137	147	188	125	138	147.0
		対応者	88	77	111	86	66	85.6
	経営情報学科	対象者	82	117	123	80	80	96.4
		対応者	42	70	79	62	52	61.0
	経済法学科	対象者	113	116	94	60	89	94.4
		対応者	60	48	60	40	48	51.2
社会福祉学部	福祉計画学科	対象者	96	81	59	46	38	64.0
		対応者	52	41	31	35	19	35.6
	福祉臨床学科	対象者	53	49	56	46	45	49.8
		対応者	28	30	38	31	25	30.4
	福祉心理学科	対象者	29	42	59	53	37	44.0
		対応者	20	26	42	44	22	30.8
合計	対象者	672	711	751	552	554	648.0	
	対応者	396	375	459	398	302	386.0	

(2) 短期大学部 [2016～2020]

(表V-7-②)

			2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	平均
短期大学部	英文学科	対象者	33	34	35	44	37	36.6
		対応者	19	20	24	30	28	24.2
	生活創造学科	対象者	11	27	11	20	15	16.8
		対応者	3	13	4	9	6	7.0
合計	対象者	44	61	46	64	52	53.4	
	対応者	22	33	28	39	34	31.2	

8 入学前の既修得単位等の認定状況一覧〔2020年度〕

(1) 大学

(表V-8-①)

		1年次					2年次				3年次								
		10 単 位 以 下	11 ～ 15 単 位	16 ～ 20 単 位	21 ～ 25 単 位	26 ～ 30 単 位	合 計	30 単 位 以 下	31 ～ 35 単 位	36 ～ 40 単 位	合 計	40 単 位 以 下	41 ～ 45 単 位	46 ～ 50 単 位	51 ～ 55 単 位	56 ～ 60 単 位	61 ～ 65 単 位	66 ～ 70 単 位	71 ～ 72 単 位
文学部	英文学科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2 0.11	3 0.17	13 0.72	18 1.00
	心理・応用コミュニケーション学科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3 1.00	3 1.00
経済学部	経済学科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 1.00	1 1.00
	経営情報学科	0	1 1.00	0	0	0	1 1.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3 0.60	2 0.40	5 1.00
	経済法学科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会福祉学部	福祉計画学科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2 1.00	2 1.00
	福祉臨床学科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 1.00	1 1.00
	福祉心理学科	0	0	0	0	0	0	0	1 1.00	1 1.00	0	0	0	0	0	0	1 1.00	1 0.50	2 1.00
合計		0	1 1.00	0	0	0	1 1.00	0	0	1 1.00	1 1.00	0	0	0	0	2 0.06	7 0.22	23 0.72	32 1.00

* 「教職に関する科目」のうち、卒業要件に含めない認定単位は、表の数値に含まない。

* 認定単位数の上限は、1年次30単位、2年次編入40単位、3年次72単位である。なお、2009年度において本学卒業生が3年に編入学した際に、算入充当および履修免除により76単位を認定している。

(2) 短期大学部

(表V-8-②)

		1年次					
		10 単 位 以 下	11 ～ 15 単 位	16 ～ 20 単 位	21 ～ 25 単 位	26 ～ 30 単 位	合 計
短期大学部	英文学科	0	1 1.00	0	0	0	1 1.00
	生活創造学科	0	0	0	0	0	0
合計		0	1 1.00	0	0	0	1 1.00

9 卒業時における学科別単位認定状況一覧〔2020年度〕

(1) 大学

(表V-9-①)

認定単位数	英文(大学)	心理・応用 コミュニケーション	経済	経営情報	経済法	福祉計画	福祉臨床	福祉心理	合計
124単位			59人 37.1%	38人 32.5%	41人 32.0%	12人 15.2%	5人 5.2%	18人 31.0%	173人 20.2%
125単位			2人 1.3%	2人 1.7%	0人 0.0%	1人 1.3%	6人 6.2%	0人 0.0%	11人 1.3%
126単位			31人 19.5%	31人 26.5%	18人 14.1%	16人 20.3%	7人 7.2%	13人 22.4%	116人 13.6%
127単位			0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 1.3%	3人 3.1%	0人 0.0%	4人 0.5%
128単位			33人 20.8%	25人 21.4%	29人 22.7%	10人 12.7%	3人 3.1%	4人 6.9%	104人 12.1%
129単位			1人 0.6%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 1.3%	1人 1.0%	0人 0.0%	3人 0.4%
130単位			12人 7.5%	8人 6.8%	21人 16.4%	9人 11.4%	1人 1.0%	8人 13.8%	59人 6.9%
131単位			0人 0.0%						
132単位	30人 22.6%	28人 32.9%	6人 3.8%	5人 4.3%	8人 6.3%	6人 7.6%	0人 0.0%	4人 6.9%	87人 10.2%
133単位	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	2人 2.1%	0人 0.0%	2人 0.2%
134単位	23人 17.3%	28人 32.9%	4人 2.5%	6人 5.1%	4人 3.1%	3人 3.8%	0人 0.0%	1人 1.7%	69人 8.1%
135単位	0人 0.0%	1人 1.2%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	2人 2.1%	0人 0.0%	3人 0.4%
136単位	13人 9.8%	7人 8.2%	2人 1.3%	2人 1.7%	2人 1.6%	3人 3.8%	4人 4.1%	2人 3.4%	35人 4.1%
137単位	6人 4.5%	2人 2.4%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 1.0%	1人 1.7%	10人 1.2%
138単位	15人 11.3%	9人 10.6%	3人 1.9%	0人 0.0%	0人 0.0%	4人 5.1%	3人 3.1%	0人 0.0%	34人 4.0%
139単位	1人 0.8%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 0.1%
140単位	2人 1.5%	3人 3.5%	2人 1.3%	0人 0.0%	2人 1.6%	4人 5.1%	8人 8.2%	1人 1.7%	22人 2.6%
141単位	3人 2.3%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	3人 0.4%
142単位	4人 3.0%	1人 1.2%	1人 0.6%	0人 0.0%	1人 0.8%	3人 3.8%	12人 12.4%	0人 0.0%	22人 2.6%
143単位	1人 0.8%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 1.7%	2人 0.2%
144単位	4人 3.0%	0人 0.0%	1人 0.6%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 1.3%	4人 4.1%	0人 0.0%	10人 1.2%
145単位	1人 0.8%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	3人 5.2%	4人 0.5%
146単位	7人 5.3%	1人 1.2%	1人 0.6%	0人 0.0%	0人 0.0%	2人 2.5%	1人 1.0%	1人 1.7%	13人 1.5%
147単位	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
148単位	2人 1.5%	2人 2.4%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 0.8%	1人 1.3%	0人 0.0%	0人 0.0%	6人 0.7%
149単位	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	3人 3.1%	0人 0.0%	3人 0.4%
150単位	5人 3.8%	1人 1.2%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 1.3%	2人 2.1%	0人 0.0%	9人 1.1%
151単位	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
152単位	1人 0.8%	1人 1.2%	0人 0.0%	2人 0.2%					
153単位	1人 0.8%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 0.1%
154単位	3人 2.3%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	3人 0.4%
155単位	1人 0.8%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 0.1%
156単位	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
157単位	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 0.6%	0人 0.0%	1人 0.1%				
158単位	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 1.0%	0人 0.0%	1人 0.1%
159単位	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 1.0%	0人 0.0%	1人 0.1%
160単位	1人 0.8%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 0.1%
161単位	1人 0.8%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 0.1%
162単位	0人 0.0%	1人 1.2%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 1.0%	0人 0.0%	2人 0.2%
163単位	1人 0.8%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 1.0%	1人 1.7%	3人 0.4%
164単位	1人 0.8%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 0.1%
165単位	2人 1.5%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 1.0%	0人 0.0%	3人 0.4%
166単位	1人 0.8%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	2人 2.1%	0人 0.0%	3人 0.4%
167単位	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.8%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
168単位	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 0.8%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 0.1%
169単位	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	2人 2.1%	0人 0.0%	2人 0.2%
170単位以上	3人 2.3%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 1.3%	20人 20.6%	0人 0.0%	24人 2.8%
卒業生数	133人	85人	159人	117人	128人	79人	97人	58人	856人
取得単位平均	140.1	135.5	127.5	126.9	128.1	130.9	146.7	129.7	132.7

9 卒業時における学科別単位認定状況一覧〔2020年度〕

(2) 短期大学部 (表V-9-②)

認定単位数	英文(短大)	生活創造	合計
64単位	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
65単位	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
66単位	2人 1.9%	1人 1.2%	3人 1.6%
67単位	8人 7.5%	1人 1.2%	9人 4.8%
68単位	6人 5.7%	8人 9.8%	14人 7.4%
69単位	12人 11.3%	1人 1.2%	13人 6.9%
70単位	11人 10.4%	14人 17.1%	25人 13.3%
71単位	16人 15.1%	3人 3.7%	19人 10.1%
72単位	10人 9.4%	18人 22.0%	28人 14.9%
73単位	13人 12.3%	4人 4.9%	17人 9.0%
74単位	7人 6.6%	22人 26.8%	29人 15.4%
75単位	4人 3.8%	2人 2.4%	6人 3.2%
76単位	2人 1.9%	4人 4.9%	6人 3.2%
77単位	6人 5.7%	1人 1.2%	7人 3.7%
78単位	1人 0.9%	1人 1.2%	2人 1.1%
79単位	2人 1.9%	0人 0.0%	2人 1.1%
80単位	1人 0.9%	2人 2.4%	3人 1.6%
81単位	1人 0.9%	0人 0.0%	1人 0.5%
82単位	1人 0.9%	0人 0.0%	1人 0.5%
83単位	1人 0.9%	0人 0.0%	1人 0.5%
84単位	1人 0.9%	0人 0.0%	1人 0.5%
85単位	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
86単位	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
87単位	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
88単位	1人 0.9%	0人 0.0%	1人 0.5%
89単位	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
90単位	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
91単位以上	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
卒業生数	106人	82人	188人
取得単位平均	72.1	72.2	72.2

10 教員組織一覧

(1) 大学〔2020年5月1日現在〕

(表V-10-①)

学部・学科等		専任教員数										設置基準上必要専任教員数	非常勤講師数 (B)		全教員数における比率 (%)		専任教員1人当たりの在籍学生数
		教授		准教授		講師		助教		計 (A)							
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女						
文学部	英文学科	5	1	2	3	1	0	0	0	8	4	7	17	4	36.4%	63.6%	43.7 人
	心理・応用コミュニケーション学科	7	1	1	1	1	0	0	0	9	2	6	13	4	39.3%	60.7%	
文学部 計		12	2	3	4	2	0	0	0	17	6	13	30	8	37.7%	62.3%	
経済学部	経済学科	7	1	3	0	4	0	0	0	14	1	11	7	3	60.0%	40.0%	48.7 人
	経営情報学科	7	0	0	1	1	0	0	0	8	1	10	5	2	56.3%	43.8%	
	経済法学科	6	1	0	1	3	0	0	0	9	2	10	5	2	61.1%	38.9%	
経済学部 計		20	2	3	2	8	0	0	0	31	4	31	17	7	59.3%	40.7%	
社会学部 福祉	福祉計画学科	4	1	3	0	1	0	0	0	8	1	8	9	6	37.5%	62.5%	37.6 人
	福祉臨床学科	6	2	2	0	0	0	1	0	9	2	8	9	6	42.3%	57.7%	
	福祉心理学科	5	2	1	0	1	0	0	0	7	2	8	7	4	45.0%	55.0%	
社会福祉学部 計		15	5	6	0	2	0	1	0	24	5	24	25	16	41.4%	58.6%	
大学共通		18	3	3	4	2	1	1	0	24	8		60	39	24.4%	75.6%	
大学全体の収容定員に応じ定める専任教員数												32					
合計		65	12	15	10	14	1	2	0	96	23	100	132	70	37.1%	62.9%	31.9 人

※ 社会福祉学部各学科の設置基準上必要専任教員数欄は、2割の範囲内において兼任の教員に代えることができる。

※ 教員数合計には、学長、チャプレン各1名を含まない。

※ 大学共通に交流教員1名を含む。

※ 比率の計算式は右記による。 比率 (%) = 専任 or 非常勤 / 計 (A) + 非常勤講師数 (B)

(2) 短期大学部〔2020年5月1日現在〕

(表V-10-②)

学 科		専任教員数										設置基準上必要専任教員数	非常勤講師数 (B)		全教員数における比率 (%)		専任教員1人当たりの在籍学生数
		教授		准教授		講師		助教		計 (A)							
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女						
短期大学部	英文学科	3	1	2	1	1	1	0	0	6	3	7	16	10	25.7%	74.3%	28.6 人
	生活創造学科	3	1	1	1	1	1	0	0	5	3	5	10	11	27.6%	72.4%	21.9 人
	大学全体の収容定員に応じ定める専任教員数											4					
合計		6	2	3	2	2	2	0	0	11	6	16	26	21	26.6%	73.4%	25.4 人

※ 教員数合計には、学長、チャプレンを各1名含まない。

※ 比率の計算式は右記による。比率 (%) = 専任 or 非常勤 / 計 (A) + 非常勤講師数 (B)

11 専任教員年齢構成一覧表

(1) 大学

(2020年5月1日現在)

(表V-11-①)

学部	職位	71歳 以上	66歳～ 70歳	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	計	
文学部	教授	0	2	4	6	3	1	1	0	0	0	17	
		0.0%	11.8%	23.5%	35.3%	17.6%	5.9%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%	100%	
	准教授	0	1	1	1	2	2	1	1	1	1	0	10
		0.0%	10.0%	10.0%	10.0%	20.0%	20.0%	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100%
計		0	3	5	7	5	3	2	3	2	0	30	
		0.0%	10.0%	16.7%	23.3%	16.7%	10.0%	6.7%	10.0%	6.7%	0.0%	100%	
経済学部	教授	0	9	5	7	6	2	3	0	0	0	32	
		0.0%	28.1%	15.6%	21.9%	18.8%	6.3%	9.4%	0.0%	0.0%	0.0%	100%	
	准教授	0	0	0	0	3	0	3	2	0	0	8	
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	37.5%	0.0%	37.5%	25.0%	0.0%	0.0%	100%	
	専任講師	0	1	0	0	0	1	1	3	2	1	9	
		0.0%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	11.1%	33.3%	22.2%	11.1%	100%	
計		0	10	5	7	9	3	7	5	2	1	49	
		0.0%	20.4%	10.2%	14.3%	18.4%	6.1%	14.3%	10.2%	4.1%	2.0%	100%	
社会福祉学部	教授	0	3	2	10	5	6	0	1	0	0	27	
		0.0%	11.1%	7.4%	37.0%	18.5%	22.2%	0.0%	3.7%	0.0%	0.0%	100%	
	准教授	0	0	1	1	0	1	2	2	0	0	7	
		0.0%	0.0%	14.3%	14.3%	0.0%	14.3%	28.6%	28.6%	0.0%	0.0%	100%	
	専任講師	0	0	1	0	0	0	1	1	1	0	4	
		0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	100%	
	助教	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%	
計		0	3	4	11	5	7	4	4	1	0	39	
		0.0%	7.7%	10.3%	28.2%	12.8%	17.9%	10.3%	10.3%	2.6%	0.0%	100%	

※交流教員を含む（受け入れ期間中は専任教員としてカウントする）

※学長、副学長、チャプレン、各1名を含まない

11 専任教員年齢構成一覧表

(2) 短期大学部・全体

(2020年5月1日現在)

(表V-11-②)

短大部学科	職位	71歳 以上	66歳～ 70歳	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	計	
短期大学部 英文学科	教授	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	4	
		0.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%	
	准教授	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3	
		0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%	
	専任講師	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100%
計		0	1	1	2	2	1	1	1	0	0	9	
		0.0%	11.1%	11.1%	22.2%	22.2%	11.1%	11.1%	11.1%	0.0%	0.0%	100%	
短期大学部 生活創造学科	教授	0	1	0	1	1	1	0	0	0	0	4	
		0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%	
	准教授	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%	
	専任講師	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100%
計		0	1	0	1	1	3	0	2	0	0	8	
		0.0%	12.5%	0.0%	12.5%	12.5%	37.5%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	100%	
大学・短期大学部 全 体	教授	0	16	12	25	16	10	4	1	0	0	84	
		0.0%	19.0%	14.3%	29.8%	19.0%	11.9%	4.8%	1.2%	0.0%	0.0%	100%	
	准教授	0	1	2	3	6	6	6	5	1	0	30	
		0.0%	3.3%	6.7%	10.0%	20.0%	20.0%	20.0%	16.7%	3.3%	0.0%	100%	
	専任講師	0	1	1	0	0	1	3	9	3	1	19	
		0.0%	5.3%	5.3%	0.0%	0.0%	5.3%	15.8%	47.4%	15.8%	5.3%	100%	
	助教	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2	
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100%	
合 計		0	18	15	28	22	17	14	15	5	1	135	
		0.0%	13.3%	11.1%	20.7%	16.3%	12.6%	10.4%	11.1%	3.7%	0.7%	100%	
定 年： 通常専任教育職員 65才、特別専任教育職員 70才													

※ 交流教員を含む（受け入れ期間中は専任教員としてカウントする）

※ 学長、副学長、チャプレン、各1人を含まない。

13 専任教員の担当授業時間一覧〔2020年度〕

(1) 大学

文学部 (31人)

区分	教 授	准教授	講 師	助 教	備 考
最 高	8.93	8.47	6.60	0.00	教授の最低2.00 は副学長
最 低	2.00	3.00	6.50	0.00	
平 均	6.12	6.42	6.55	0.00	

経済学部 (49人)

区分	教 授	准教授	講 師	助 教	備 考
最 高	9.25	9.82	9.50		
最 低	3.00	5.03	4.53		
平 均	6.28	7.33	6.91		

社会福祉学部 (39人)

区分	教 授	准教授	講 師	助 教	備 考
最 高	10.00	12.50	7.87	3.00	准教授の最低 0.00は国内研修 平均では外数
最 低	2.50	0.00	4.00	3.00	
平 均	6.44	7.16	5.59	3.00	

(2) 短期大学部 (17人)

区分	教 授	准教授	講 師	助 教	備 考
最 高	7.00	7.50	6.50		
最 低	3.00	5.75	5.75		
平 均	5.41	6.30	6.13		

[注]

- 1 教員が当該大学において担当する1週間の最高、最低及び総平均授業時間を記載すること。
- 2 授業時間の計算は、1週間における1授業時間（授業の単位となる連続した授業時間—いわゆる「コマ」を指す）の担当回数を基礎として算出する。したがって、1授業時間（1コマ）90分の授業の場合は、90分を単位として計算すること。ただし、学部等の特色により、1授業時間を超過連続して授業を行っている場合にも、授業時間の計算は、1授業時間（コマ）の単位に換算し直した数値を記入すること。
- 3 卒業研究指導のための時間は、正規の時間のみを算入し、それ以外の時間に指導を行っていてもここには加えないこと。
- 4 担当授業時間が特に多い教員、または特に少ない教員がいる場合は、その埋田を欄外に付記すること。
- 5 開設されてはいるものの、履修者のいない科目については上表に含めない。
- 6 学長、チャプレンは除く。

14 各種実習室等人員配置一覧〔2020年度〕

人的補助体制について

(2020年5月1日現在) (表V-14)

実験・実習室等名	職員数				備考
	特任	臨時	非常勤助手	派遣	
福祉実習相談室	0	1	2	0	
社会調査実習室	0	0	0	0	
教職実習準備室	0	0	2	0	
心理応用コミュ実習実験準備室	0	0	2	0	
心理学実験準備室	0	0	1	0	
情報・CALLサポートデスク	0	2	0	1	
キリスト教センター	0	2	0	0	
心理臨床センター	0	3	0	0	
学習サポートセンター	0	3	1	0	
アクセシビリティ支援室	2	0	0	0	
短大部生活創造学科建築資料室	0	1	0	0	
短大部英文学科資料室	0	1	0	0	
短大部英文学科教材開発室	0	1	0	0	
合計	2	14	8	1	

※ 2020年度 社会調査実習室は人員配置なし

15 ラーニング・コモンズ利用状況〔2020年度〕

※ここでの来館者数とは、10：30、12：30、15：00、18：00、20：00にラーニング・コモンズを利用していた学生数の総計（延べ人数）である
 ※2020年度はコロナ禍における危機管理ステージに基づき、開館時間の拡縮を行った。（表V-15-①）

通常開館（9:00-21:00）：無し

短縮開館（10:00-17:00）：4/1

コロナ特別開館①（9:00-17:00）：9/14～10/16（土日祝閉館）

コロナ特別開館②（8:40-18:00）：10/19～11/20（土日祝閉館）

コロナ特別開館③（10:00-18:00）：11/24～3/31（土日祝閉館）

4月	来館者数
1日	47
2日	閉館
3日	閉館
4日	閉館
5日	閉館
6日	閉館
7日	閉館
8日	閉館
9日	閉館
10日	閉館
11日	閉館
12日	閉館
13日	閉館
14日	閉館
15日	閉館
16日	閉館
17日	閉館
18日	閉館
19日	閉館
20日	閉館
21日	閉館
22日	閉館
23日	閉館
24日	閉館
25日	閉館
26日	閉館
27日	閉館
28日	閉館
29日	閉館
30日	閉館

小計 47

5月	来館者数
1日	閉館
2日	閉館
3日	閉館
4日	閉館
5日	閉館
6日	閉館
7日	閉館
8日	閉館
9日	閉館
10日	閉館
11日	閉館
12日	閉館
13日	閉館
14日	閉館
15日	閉館
16日	閉館
17日	閉館
18日	閉館
19日	閉館
20日	閉館
21日	閉館
22日	閉館
23日	閉館
24日	閉館
25日	閉館
26日	閉館
27日	閉館
28日	閉館
29日	閉館
30日	閉館
31日	閉館

小計 0

6月	来館者数
1日	閉館
2日	閉館
3日	閉館
4日	閉館
5日	閉館
6日	閉館
7日	閉館
8日	閉館
9日	閉館
10日	閉館
11日	閉館
12日	閉館
13日	閉館
14日	閉館
15日	閉館
16日	閉館
17日	閉館
18日	閉館
19日	閉館
20日	閉館
21日	閉館
22日	閉館
23日	閉館
24日	閉館
25日	閉館
26日	閉館
27日	閉館
28日	閉館
29日	閉館
30日	閉館

小計 0

7月	来館者数
1日	閉館
2日	閉館
3日	閉館
4日	閉館
5日	閉館
6日	閉館
7日	閉館
8日	閉館
9日	閉館
10日	閉館
11日	閉館
12日	閉館
13日	閉館
14日	閉館
15日	閉館
16日	閉館
17日	閉館
18日	閉館
19日	閉館
20日	閉館
21日	閉館
22日	閉館
23日	閉館
24日	閉館
25日	閉館
26日	閉館
27日	閉館
28日	閉館
29日	閉館
30日	閉館
31日	閉館

小計 0

8月	来館者数
1日	閉館
2日	閉館
3日	閉館
4日	閉館
5日	閉館
6日	閉館
7日	閉館
8日	閉館
9日	閉館
10日	閉館
11日	閉館
12日	閉館
13日	閉館
14日	閉館
15日	閉館
16日	閉館
17日	閉館
18日	閉館
19日	閉館
20日	閉館
21日	閉館
22日	閉館
23日	閉館
24日	閉館
25日	閉館
26日	閉館
27日	閉館
28日	閉館
29日	閉館
30日	閉館
31日	閉館

小計 0

9月	来館者数
1日	閉館
2日	閉館
3日	閉館
4日	閉館
5日	閉館
6日	閉館
7日	閉館
8日	閉館
9日	閉館
10日	閉館
11日	閉館
12日	閉館
13日	閉館
14日	28
15日	19
16日	13
17日	32
18日	20
19日	閉館
20日	閉館
21日	閉館
22日	閉館
23日	25
24日	30
25日	27
26日	閉館
27日	閉館
28日	31
29日	12
30日	26

小計 263

通常開館	0日	0人/日
短縮開館	1日	47.0人/日
特別開館	0日	0人/日

0日	0人/日
0日	0人/日
0日	0人/日

0日	0人/日
0日	0人/日
0日	0人/日

0日	0人/日
0日	0人/日
0日	0人/日

0日	0人/日
0日	0人/日
0日	0人/日

0日	0人/日
0日	0人/日
11日	23.9人/日

(表V-15-②)

10月	来館者数
1日	22
2日	14
3日	閉館
4日	閉館
5日	33
6日	21
7日	14
8日	39
9日	34
10日	閉館
11日	閉館
12日	25
13日	16
14日	19
15日	28
16日	27
17日	閉館
18日	閉館
19日	43
20日	28
21日	28
22日	24
23日	35
24日	閉館
25日	閉館
26日	36
27日	29
28日	52
29日	31
30日	46
31日	閉館
小計	644

11月	来館者数
1日	閉館
2日	40
3日	閉館
4日	32
5日	32
6日	46
7日	閉館
8日	閉館
9日	44
10日	22
11日	24
12日	47
13日	39
14日	閉館
15日	閉館
16日	39
17日	13
18日	19
19日	25
20日	18
21日	閉館
22日	閉館
23日	閉館
24日	19
25日	19
26日	21
27日	19
28日	閉館
29日	閉館
30日	20
小計	538

12月	来館者数
1日	25
2日	17
3日	27
4日	30
5日	閉館
6日	閉館
7日	19
8日	19
9日	6
10日	17
11日	25
12日	閉館
13日	閉館
14日	16
15日	19
16日	15
17日	18
18日	9
19日	3
20日	閉館
21日	28
22日	27
23日	22
24日	閉館
25日	閉館
26日	閉館
27日	閉館
28日	閉館
29日	閉館
30日	閉館
31日	閉館
小計	342

1月	来館者数
1日	閉館
2日	閉館
3日	閉館
4日	閉館
5日	閉館
6日	13
7日	9
8日	12
9日	閉館
10日	閉館
11日	閉館
12日	28
13日	36
14日	50
15日	閉館
16日	閉館
17日	閉館
18日	55
19日	20
20日	18
21日	54
22日	26
23日	閉館
24日	閉館
25日	34
26日	31
27日	18
28日	45
29日	21
30日	閉館
31日	閉館
小計	470

2月	来館者数
1日	40
2日	20
3日	27
4日	26
5日	閉館
6日	閉館
7日	閉館
8日	閉館
9日	13
10日	24
11日	閉館
12日	36
13日	閉館
14日	閉館
15日	4
16日	4
17日	15
18日	1
19日	6
20日	閉館
21日	閉館
22日	25
23日	閉館
24日	20
25日	9
26日	13
27日	閉館
28日	閉館
小計	283

3月	来館者数
1日	19
2日	11
3日	7
4日	13
5日	10
6日	閉館
7日	閉館
8日	10
9日	18
10日	14
11日	9
12日	9
13日	閉館
14日	閉館
15日	4
16日	5
17日	11
18日	7
19日	10
20日	閉館
21日	閉館
22日	6
23日	6
24日	3
25日	閉館
26日	27
27日	閉館
28日	閉館
29日	15
30日	2
31日	34
小計	250

通常開館
0短縮開館
1特別開館
124

4月1日～3月31日	合計	2,837	閉館日数
0日	0人/日	0日	0人/日
0日	0人/日	0日	0人/日
16日	17.7人/日	22日	11.4人/日

240

通常開館	0日	0人/日
短縮開館	0日	0人/日
特別開館	22日	29.3人/日

0日	0人/日
0日	0人/日
19日	28.3人/日

0日	0人/日
0日	0人/日
18日	19.0人/日

0日	0人/日
0日	0人/日
16日	29.4人/日

16 教員人事一覧

[2020年度]

(表V-16)

学部	採用者・職名 2020.4.1付け	昇格者・職名 2020.4.1付け	退職者・職名 2021.3.31付け	採用予定者・職名 2021.4.1付け	昇格予定者・職名 2021.4.1付け	交流教員及び客員教員 受入者
文学部	森田 勲・教授(特別専任)	石川 悟・教授	鈴木 剛・教授	鈴木 剛・教授(特別専任)	鳴海 昌江・教授	アントン・スタンデ ^o 准教授 2020.9-2021.3⇒中止 交流教員
		松浦 年男・教授	阪井 宏・教授	阪井 宏・教授(特別専任)	山本 範子・教授	
		斎藤 彩世・准教授	永井 暁行・助教(嘱託)	高橋あすみ・助教(嘱託)(3年任期)		
		田村 早苗・准教授	斎藤 紗世・准教授			
	計	1	4	4	3	
経済学部	濱 文章・教授(特別専任)	鄭 根珠・教授	増田 辰良・教授	増田 辰良・教授(特別専任)	勝村 務・教授	Urandelger Gantulga 客員研究員
	原島 正衛・教授(特別専任)	黄 雅雯・准教授	竹野内真樹・教授(特別専任)	竹野内真樹・教授(特別専任) (1年延長)	諸岡 卓真・教授	
	申 恩真・専任講師		増田 好純・准教授(1/26付)	寺尾恵仁・専任講師(特別専任) (3年任期)	野原 克仁・教授	
				板谷 淳一・教授(特別専任)	多鹿 智哉・准教授	
				田中 恭子・准教授	渡邊 稔・准教授	
	計	3	2	3	5	
社会福祉学部	大西 昌美・教授(特別専任)	眞嶋 良全・教授	播磨正一・専任講師(特別専任) (任期)	播磨正一・専任講師(特別専任) (1年任期)		橋本剛客員教授 2020.9-2020.11
	中田龍三郎・専任講師	佐藤 祐基・准教授	村井泰廣・教授(特別専任) (8/31付)	望月和代・教授(特別専任)(2 年任期)		
			吉田 竜平・助教(嘱託) (任期)	吉田 竜平・助教(嘱託)(2年 任期)		
			林 健太郎・専任講師			
計	2	2	4	3	0	1
大学合計	6	8	11	11	7	3
短期大学部		田中 直子・准教授	竹村 雅史・教授	竹村 雅史・教授(特別専任)	カート・アッカーマン・教授	
		風戸 真理・准教授		林 晋太郎・専任講師		
計	0	2	1	2	1	0
総計	6	10	12	13	8	3

学 長																
ふりがな 氏 名 (性別)	授 業 科 目												職 名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号
	毎週授業コマ数															
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コ マ 数	備 考	合 計 コ マ 数				
だいぼう いくお 大坊 郁夫 (男) 昭和22年11月4日 72歳													0.00	学 長	平成30年4月1日	昭和48年3月 北海道大学大学院 文学研究科 心理学専攻 博士課程 中退 文学修士〔昭和47年3月〕 北海道大学

チャプレン																	
ふりがな 氏 名 (性別)	授 業 科 目												職 名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号	
	毎週授業コマ数																
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コ マ 数	備 考	合 計 コ マ 数					
ひだか よしひこ 日高 嘉彦 (男) 昭和33年5月4日 61歳	7945	キリスト教学Ⅱ		前	前	金	1	2	86	0.50		1.00	チャプレン (教授)	平成25年4月1日	スミス・ミッション センター部長 平成21年11月 西南学院大学大学院 神学研究科 博士後期課程 修了 博士(神学) 西南学院大学		
	7943	キリスト教学Ⅰ		後	後	金	2	2	99	0.50						平成25年4月1日 (平成26年4月1日)	

ふりがな 氏名(性別)	授業科目												職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号
	毎週授業コマ数															
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コマ数	備考	合計 コマ数				
ぴーたー ぐれい ピーター・グレイ (男) 昭和31年8月6日 63歳	1324	専門演習Ⅲ		前	前	月	4	2	11	0.50	7.50	教授	平成11年4月1日 平成13年4月1日	国際教育 センター長	昭和58年6月 米国カリフォルニア大学デービス校大学院 文学専攻 修士課程 修了 M.A. (英文学修士) 米国カリフォルニア大学デービス校大学院	
	1364	卒業研究Ⅰ		前	前	月	5	2	11	0.50						
	1021	Academic CommunicationⅠ	／In	前	前	火	1	2	14	0.50						
	1521	アカデミック・コミュニケーションⅠ	／In	前	前	火	1	2	0	—						1021でカウント
	1304	専門演習Ⅰ		前	前	火	2	2	13	0.50						
	1021	Academic CommunicationⅠ	／In	前	前	金	1	2	14	0.50						
	1521	アカデミック・コミュニケーションⅠ	／In	前	前	金	1	2	0	—						1021でカウント
	1165	Academic EssayⅠ	／E	前	前	金	2	2	19	0.50						
	1585	アカデミック・エッセイⅠ	／E	前	前	金	2	2	3	—						1165でカウント
	1261	Oral InterpretationⅠ	／A	前	前	金	5	2	6	0.50						
	1921	オーラル・インタープリテーションⅠ		前	前	金	5	2	9	—						1261でカウント
	1661	Introduction to Fiction Writing		後	後	月	2	2	36	0.50						
	1334	専門演習Ⅳ		後	後	月	4	2	11	0.50						
	1374	卒業研究Ⅱ		後	後	月	5	4	11	0.50						
	1031	Academic CommunicationⅡ	／In	後	後	火	1	2	14	0.50						
	1531	アカデミック・コミュニケーションⅡ	／In	後	後	火	1	2	0	—						1031でカウント
	1314	専門演習Ⅱ		後	後	火	2	2	14	0.50						
	1031	Academic CommunicationⅡ	／In	後	後	金	1	2	14	0.50						
	1531	アカデミック・コミュニケーションⅡ	／In	後	後	金	1	2	0	—						1031でカウント
	1175	Academic EssayⅡ	／E	後	後	金	2	2	19	0.50						
	1595	アカデミック・エッセイⅡ	／E	後	後	金	2	2	2	—						1175でカウント
1263	Oral InterpretationⅡ	／A	後	後	金	5	2	6	0.50							
1923	オーラル・インタープリテーションⅡ		後	後	金	5	2	9	—	1263でカウント						
はせがわ のりこ 長谷川 典子(女) 昭和37年4月6日 57歳	1421	専門演習Ⅲ		前	前	月	4	2	13	0.50	6.50	教授	平成10年4月1日 平成15年4月1日	総合研究大学院大学 文化科学研究科 文化科学専攻 博士課程 修了 博士(学術) 総合研究大学院大学		
	1461	卒業研究Ⅰ		前	前	月	5	2	14	0.50						
	9223	異文化コミュニケーション論研究		前	前	火	2	2	4	0.50					大学院	
	1616	異文化コミュニケーション概論Ⅰ		前	前	火	4	2	176	0.50						
	1195	基礎演習Ⅰ	／E	前	前	水	2	2	19	0.50						
	1401	専門演習Ⅰ		前	前	木	2	2	16	0.50						
	1681	English PracticumⅠ		通年	前	夏集中	1	2	0	—						
	1682	English PracticumⅡ		通年	前	夏集中	1	2	0	—						
	1431	専門演習Ⅳ		後	後	月	4	2	14	0.50						
	1471	卒業研究Ⅱ		後	後	月	5	4	15	0.50						
	9251	研究指導Ⅰ		後	後	火	1	2	1	0.50					大学院	
	9224	異文化コミュニケーション論演習		後	後	火	2	2	4	0.50					大学院	
	1617	異文化コミュニケーション概論Ⅱ		後	後	火	4	2	235	0.50						
	1208	基礎演習Ⅱ	／H	後	後	水	2	2	20	0.50						
	1411	専門演習Ⅱ		後	後	木	2	2	16	0.50						
	1628	海外短期英語研修	／B	通年	後	冬集中	1	4	0	—						
	1681	English PracticumⅠ		通年	後	冬集中	1	2	0	—						
	1682	English PracticumⅡ		通年	後	冬集中	1	2	0	—						
	1685	Overseas English StudiesⅠ		通年	後	冬集中	1	4	0	—						
	1686	Overseas English StudiesⅡ		通年	後	冬集中	1	4	0	—						
	1687	Overseas English ExperienceⅠ		通年	後	冬集中	1	2	0	—						
1688	Overseas English ExperienceⅡ		通年	後	冬集中	1	2	0	—							
2184	海外短期研修	／C	通年	後	冬集中	1	2	0	—							
じよせふ らけっと ジョセフ・ラケット (男) 昭和36年5月26日 58歳	1071	イングリッシュ・ディベートⅠ		前	前	月	2	2	18	0.50	7.50	教授	平成4年4月1日 平成16年4月1日	昭和60年6月 米国カリフォルニア州立大学大学院 英語学専攻 修士課程 修了 M.A. (英語学修士) 米国カリフォルニア州立大学大学院		
	1424	専門演習Ⅲ		前	前	月	4	2	11	0.50						
	1464	卒業研究Ⅰ		前	前	月	5	2	11	0.50						
	1001	Basic SpeakingⅠ	／In	前	前	火	2	2	12	0.50						
	1501	ベーシック・スピーキングⅠ	／In	前	前	火	2	2	0	—					1001でカウント	
	1255	Public Speaking	／A	前	前	木	1	2	19	0.50						
	1903	パブリック・スピーキング	／A	前	前	木	1	2	5	—					1255でカウント	
	1404	専門演習Ⅰ		前	前	木	2	2	15	0.50						
	1001	Basic SpeakingⅠ	／In	前	前	金	2	2	12	0.50						
	1501	ベーシック・スピーキングⅠ	／In	前	前	金	2	2	0	—					1001でカウント	
	1642	英語学概論		前	前	金	4	2	11	—					1662でカウント	
	1662	Introduction to English Linguistics		前	前	金	4	2	81	0.50						
	1076	イングリッシュ・ディベートⅡ		後	後	月	2	2	18	0.50						
	1434	専門演習Ⅳ		後	後	月	4	2	11	0.50						
	1474	卒業研究Ⅱ		後	後	月	5	4	11	0.50						
	1011	Basic SpeakingⅡ	／In	後	後	火	2	2	12	0.50						
	1511	ベーシック・スピーキングⅡ	／In	後	後	火	2	2	0	—					1011でカウント	
	1257	Presentation Skills	／A	後	後	木	1	2	19	0.50						
	1906	プレゼンテーション・スキルズ	／A	後	後	木	1	2	5	—					1257でカウント	
	1414	専門演習Ⅱ		後	後	木	2	2	15	0.50						
	1011	Basic SpeakingⅡ	／In	後	後	金	2	2	11	0.50						
1511	ベーシック・スピーキングⅡ	／In	後	後	金	2	2	0	—	1011でカウント						

17 専任教員個別表〔2020年度〕 文学部

(表V-17-2)

ふりがな 氏名(性別)	授業科目											職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号							
	毎週授業コマ数																					
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コマ数	備考					合計 コマ数						
たかはし かつより 高橋 克依(男) 昭和37年7月3日 57歳 サバティカル 2020.4.1~2020.9.13	1325	専門演習Ⅲ		後	後	月	1	2	13	0.50		7.00	教授	平成7年4月1日 平成19年4月1日		平成6年3月 中央大学大学院 文学専攻 文学研究科 英学位専攻 博士後期課程 単位取得後退学 文学修士〔平成2年3月〕 中央大学						
	1606	演劇概論		後	後	月	2	2	80	0.50												
	1335	専門演習Ⅳ		後	後	月	4	2	14	0.50												
	1375	卒業研究Ⅱ		後	後	月	5	4	14	0.50												
	1305	専門演習Ⅰ		後	後	火	1	2	13	0.50												
	1315	専門演習Ⅱ		後	後	火	2	2	13	0.50												
	9207	現代英米言語文化論研究		後	後	火	3	2	3	0.50	大学院											
	9208	現代英米言語文化論演習		後	後	火	4	2	3	0.50	大学院											
	9252	研究指導Ⅰ		後	後	火	5	2	1	0.50	大学院											
	1365	卒業研究Ⅰ		後	後	火	6	2	13	0.50												
	1177	英文法クリニック	/A	後	後	水	1	2	123	0.50												
	1178	英文法クリニック	/a	後	後	水	1	2	6	-	1177でカウント											
	1177	英文法クリニック	/A	後	後	水	2	2	123	0.50												
	1763	演劇研究A		後	後	金	4	2	39	0.50												
	1764	演劇研究B		後	後	金	5	2	20	0.50												
	1178	英文法クリニック	/a	後	後	土	5	2	6	-	1177でカウント											
	たかの しょうじ 高野 照司(男) 昭和36年7月10日 58歳	1423	専門演習Ⅲ		前	前	月	4	2	14	0.50							5.50	教授	平成8年4月1日 平成19年4月1日	英文学科長	平成9年9月 米国アリゾナ大学大学院 第二言語習得理論及び教授法課程 社会言語学専攻 博士課程 修了 Ph.D.(学術博士) 米国アリゾナ大学大学院
		1463	卒業研究Ⅰ		前	前	月	5	2	14	0.50											
		9227	社会言語学研究		前	前	水	1	2	0	-						大学院					
		1196	基礎演習Ⅰ	/F	前	前	水	2	2	18	0.50											
1854		英語学研究B		前	前	木	1	2	33	0.50												
1403		専門演習Ⅰ		前	前	木	2	2	15	0.50												
1614		社会言語学概論		前	前	金	3	2	118	0.50												
1433		専門演習Ⅳ		後	後	月	4	2	15	0.50												
1473		卒業研究Ⅱ		後	後	月	5	4	15	0.50												
9228		社会言語学演習		後	後	水	1	2	0	-	大学院											
1204		基礎演習Ⅱ	/D	後	後	水	2	2	18	0.50												
1856		英語学研究D		後	後	木	1	2	30	0.50												
1413		専門演習Ⅱ		後	後	木	2	2	15	0.50												
1422		専門演習Ⅲ		前	前	月	4	2	17	0.50												
やなぎまち ともはる 柳町 智治(男) 昭和35年10月20日 59歳		1462	卒業研究Ⅰ		前	前	月	5	2	16	0.50		5.00	教授	平成24年4月1日 平成20年4月1日	文学部長 文学 研究科長 図書館長	平成9年8月 米国ミネソタ大学大学院 第二言語文化教育専攻 博士課程 修了 Ph.D.(教育学博士) 米国ミネソタ大学大学院					
	1402	専門演習Ⅰ		前	前	木	2	2	14	0.50												
	9225	言語教育学研究		前	前	木	3	2	2	0.50	大学院											
	1853	英語学研究A		前	前	木	4	2	43	0.50												
	1432	専門演習Ⅳ		後	後	月	4	2	16	0.50												
	1472	卒業研究Ⅱ		後	後	月	5	4	16	0.50												
	1412	専門演習Ⅱ		後	後	木	2	2	15	0.50												
	9226	言語教育学演習		後	後	木	3	2	2	0.50	大学院											
	1643	応用言語学概論		後	後	金	4	2	68	0.50												
	9229	グローバル・地域研究		前	前	月	3	2	1	0.50	大学院											
ななかち みえ 中地 美枝(女) 昭和45年12月4日 49歳	1426	専門演習Ⅲ		前	前	月	4	2	10	0.50		7.00	准教授	平成29年4月1日 平成29年4月1日		平成20年2月 米国シカゴ大学大学院 社会科学部 歴史学部 博士課程 修了 Ph.D(歴史博士) シカゴ大学						
	1466	卒業研究Ⅰ		前	前	月	5	2	10	0.50												
	1194	基礎演習Ⅰ	/D	前	前	水	2	2	17	0.50												
	1406	専門演習Ⅰ		前	前	木	2	2	14	0.50												
	1874	英語メディア研究D		前	前	金	4	2	40	0.50												
	9255	研究指導Ⅰ		後	後	月	2	2	1	0.50	大学院											
	9230	グローバル・地域研究演習		後	後	月	3	2	1	0.50	大学院											
	1436	専門演習Ⅳ		後	後	月	4	2	11	0.50												
	1476	卒業研究Ⅱ		後	後	月	5	4	11	0.50												
	1202	基礎演習Ⅱ	/B	後	後	水	2	2	18	0.50												
	1416	専門演習Ⅱ		後	後	木	2	2	16	0.50												
	1665	グローバル・スタディーズ概論		後	後	金	1	2	11	0.50												
	1873	英語メディア研究C		後	後	金	4	2	36	0.50												

ふりがな 氏名(性別)	授業科目												職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号
	毎週授業コマ数															
	履修 コード	科目名	クラス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コマ数	備考	合計 コマ数				
えぐち ひとし 江口 均(男) 昭和44年4月14日 50歳	1425	専門演習Ⅲ		前	前	月	4	2	13	0.50		5.50	准教授	平成18年4月1日	平成22年4月1日	平成8年5月 米国インディアナ大学大学院 応用言語学科 修士課程 修了 M.A.(文学修士) 米国インディアナ大学大学院
	1465	卒業研究Ⅰ		前	前	月	5	2	13	0.50						
	1193	基礎演習Ⅰ	/C	前	前	水	2	2	18	0.50						
	1405	専門演習Ⅰ		前	前	木	2	2	13	0.50						
	8916	英語科教育法Ⅰ		前	前	木	4	2	12	0.50						
	1681	English PracticumⅠ		通年	前	夏集中	1	2	0	—						
	1682	English PracticumⅡ		通年	前	夏集中	1	2	0	—						
	1435	専門演習Ⅳ		後	後	月	4	2	15	0.50						
	1475	卒業研究Ⅱ		後	後	月	5	4	15	0.50						
	1946	インタラクティブ活動指導法		後	後	火	5	2	3	0.50						
	1201	基礎演習Ⅱ	/A	後	後	水	2	2	20	0.50						
	1415	専門演習Ⅱ		後	後	木	2	2	13	0.50						
	1942	英語教育学講座		後	後	木	4	2	5	—	1967でカウント					
	1967	英語科教育概説Ⅰ		後	後	木	4	2	4	0.50						
	1621	海外短期英語研修	/A	通年	後	冬集中	1	4	0	—						
	1628	海外短期英語研修	/B	通年	後	冬集中	1	4	0	—						
	1681	English PracticumⅠ		通年	後	冬集中	1	2	0	—						
	1682	English PracticumⅡ		通年	後	冬集中	1	2	0	—						
	1685	Overseas English StudiesⅠ		通年	後	冬集中	1	4	0	—						
	1686	Overseas English StudiesⅡ		通年	後	冬集中	1	4	0	—						
	1687	Overseas English ExperienceⅠ		通年	後	冬集中	1	2	0	—						
	1688	Overseas English ExperienceⅡ		通年	後	冬集中	1	2	0	—						
	1691	海外英語短期研修		通年	後	冬集中	1	4	0	—						
	2184	海外短期研修	/C	通年	後	冬集中	1	2	0	—						
しまだ けいこ 島田 桂子(女) 昭和38年12月12日 56歳	1321	専門演習Ⅲ		前	前	月	4	2	12	0.50		6.50	准教授	平成27年4月1日	平成27年4月1日	平成21年3月 聖学院大学大学院 アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科 博士課程 修了 Ph.D.(学術博士) 聖学院大学大学院
	1361	卒業研究Ⅰ		前	前	月	5	2	12	0.50						
	1301	専門演習Ⅰ		前	前	火	2	2	14	0.50						
	1192	基礎演習Ⅰ	/B	前	前	水	2	2	19	0.50						
	1771	イギリス小説研究A		前	前	金	3	2	30	0.50						
	9203	イギリス言語文化論研究		前	前	金	4	2	2	0.50	大学院					
	1331	専門演習Ⅳ		後	後	月	4	2	12	0.50						
	1371	卒業研究Ⅱ		後	後	月	5	4	12	0.50						
	1311	専門演習Ⅱ		後	後	火	2	2	14	0.50						
	1207	基礎演習Ⅱ	/G	後	後	水	2	2	19	0.50						
	1602	イギリス文学概論		後	後	金	3	2	102	0.50						
	9204	イギリス言語文化論演習		後	後	金	4	2	2	0.50	大学院					
	9256	研究指導Ⅰ		後	後	金	5	2	1	0.50	大学院					
	さいとう さよ 斎藤 彩世(女) 昭和60年3月5日 35歳	1641	アメリカ文学概論		前	前	月	2	2	69	0.50					
1322		専門演習Ⅲ		前	前	月	4	2	13	0.50						
1362		卒業研究Ⅰ		前	前	月	5	2	13	0.50						
9211		アメリカ言語文化論研究		前	前	火	1	2	0	—	大学院					
1302		専門演習Ⅰ		前	前	火	2	2	14	0.50						
1191		基礎演習Ⅰ	/A	前	前	水	2	2	17	0.50						
1753		アメリカ文学史A		前	前	木	3	2	70	0.50						
1751		イギリス文学史A		前	前	金	2	2	58	0.50						
1985		翻訳法AⅠ		前	前	金	4	2	23	0.50						
1332		専門演習Ⅳ		後	後	月	4	2	13	0.50						
1372		卒業研究Ⅱ		後	後	月	5	4	13	0.50						
9212		アメリカ言語文化論演習		後	後	火	1	2	0	—	大学院					
1312		専門演習Ⅱ		後	後	火	2	2	16	0.50						
1206		基礎演習Ⅱ	/F	後	後	水	2	2	16	0.50						
1754		アメリカ文学史B		後	後	木	3	2	71	0.50						
1752		イギリス文学史B		後	後	金	2	2	45	0.50						
1987		翻訳法AⅡ		後	後	金	4	2	23	0.50						
ろばーと とむそん ロバート・トムソン(男) 昭和55年6月12日 39歳		1427	専門演習Ⅲ		前	前	月	4	2	7	0.50		6.50	講師	平成29年4月1日	平成29年4月1日
	1467	卒業研究Ⅰ		前	前	月	5	2	7	0.50						
	9221	コミュニケーション論研究		前	前	木	1	2	2	0.50	大学院					
	1407	専門演習Ⅰ		前	前	木	2	2	11	0.50						
	1986	翻訳法BⅠ		前	前	木	3	2	16	0.50						
	8791	コミュニケーション論〔国際〕	/A	前	前	木	5	2	3	0.50						
	8885	コミュニケーション論〔国際〕	/A	前	前	木	5	3	3	—	8791でカウント					
	1664	Introduction to Digital Media		前	前	金	1	2	29	0.50						
	1437	専門演習Ⅳ		後	後	月	4	2	7	0.50						
	1477	卒業研究Ⅱ		後	後	月	5	4	7	0.50						
	9222	コミュニケーション論演習		後	後	木	1	2	1	0.50	大学院					
	1417	専門演習Ⅱ		後	後	木	2	2	11	0.50						
	1988	翻訳法BⅡ		後	後	木	3	2	16	0.50						
	8792	コミュニケーション論〔国際〕	/B	後	後	木	5	2	10	0.50						
8886	コミュニケーション論〔国際〕	/B	後	後	木	5	3	3	—	8792でカウント						

17 専任教員個別表〔2020年度〕 文学部

(表V-17-2)

ふりがな 氏名(性別)	授業科目												職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号
	毎週授業コマ数															
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コ マ 数	備 考	合 計 コ マ 数				
みのうち ゆたか 養内 豊(男) 昭和38年7月28日 56歳 サバティカル 2020.10.1~2021.3.31	9244	身体心理学特殊研究		前	前	月	1	2	0	—	大学院	3.57	教授	平成3年4月1日 平成15年4月1日	昭和63年3月 筑波大学大学院 体育研究科 体育方法学専攻 修士課程 修了 体育学修士 筑波大学	
	2073	野外活動演習		前	前	月	2	2	60	0.50						
	2048	応用コミュニケーション論		前	前	月	3	2	1	—	2073でカウント					
	2059	コミュニケーション科学II		前	前	月	3	2	106	0.07	2回担当					
	2141	フィールド実習I	/A	前	前	月	5	2	32	0.50						
	2017	スポーツ心理学		前	前	火	1	2	107	0.50						
	2111	基礎演習	/コA	前	前	水	2	2	13	0.50						
	2202	専門演習I		前	前	金	3	2	11	0.50						
	2242	専門演習III		前	前	金	4	2	15	0.50						
	2276	専門演習IV	/指導	前	前	金	4	2	1	—	2242でカウント					
	2302	卒業研究I		前	前	金	5	3	15	0.50						
	2048	応用コミュニケーション論		前	前	月	3	2	1	—	2059でカウント					
	2059	コミュニケーション科学II		前	前	月	3	2	106	0.03	1回担当					
9242	教育社会心理学研究		前	前	月	4	2	3	0.50	大学院						
2142	フィールド実習I	/B	前	前	月	5	2	0	—							
8911	教育心理学	/A	前	前	水	1	2	107	0.50							
2112	基礎演習	/コB	前	前	水	2	2	14	0.50							
2126	社会活動実習		前	前	木	4	2	4	0.50							
2027	コミュニティ心理学		前	前	金	1	2	59	0.50							
2203	専門演習I		前	前	金	3	2	20	0.50							
2243	専門演習III		前	前	金	4	2	13	0.50							
2273	専門演習IV	/指導	前	前	金	4	2	2	—	2243でカウント						
2303	卒業研究I		前	前	金	5	3	13	0.50							
2340	卒業研究II	/指導	前	前	金	5	3	1	—	2303でカウント						
2147	フィールド実習II	/B	後	後	月	5	2	30	0.50							
2009	心理学研究法	/コ	後	後	火	3	2	1	—	2024でカウント						
2024	心理学研究法	/コ	後	後	火	3	2	56	0.10	3回担当						
2005	心理学実験演習	/コA	後	後	火	4	4	1	0.40	5人(田辺、後藤、石川、藤原、大瀬)で分担						
2006	心理学実験演習	/コB	後	後	火	4	4	0	—	2005でカウント						
2022	心理学実験	/コA	後	後	火	4	4	55	—							
2023	心理学実験	/コB	後	後	火	4	4	0	—	2022でカウント						
2005	心理学実験演習	/コA	後	後	火	5	4	1	—							
2006	心理学実験演習	/コB	後	後	火	5	4	0	—	2005でカウント						
2022	心理学実験	/コA	後	後	火	5	4	55	—							
2023	心理学実験	/コB	後	後	火	5	4	0	—	2022でカウント						
8912	教育心理学	/B	後	後	水	1	2	89	0.50							
2021	心理学概論		後	後	水	2	2	93	0.50	コーディネーター、5回						
2004	感情心理学		後	後	木	1	2	89	0.50							
2171	プレゼンテーション演習		後	後	木	3	2	66	0.50							
2085	科学的研究法基礎実習	/A	後	後	木	4	4	27	0.40	学科専任9名、2人ずつ24回担当						
2086	科学的研究法基礎実習	/B	後	後	木	4	4	26	—	Aクラスでカウント						
2087	科学的研究法基礎実習	/C	後	後	木	4	4	26	—	Aクラスでカウント						
2088	科学的研究法基礎実習	/D	後	後	木	4	4	27	—	Aクラスでカウント						
2085	科学的研究法基礎実習	/A	後	後	木	5	4	27	—	上段でカウント						
2086	科学的研究法基礎実習	/B	後	後	木	5	4	26	—	Aクラスでカウント						
2087	科学的研究法基礎実習	/C	後	後	木	5	4	26	—	Aクラスでカウント						
2088	科学的研究法基礎実習	/D	後	後	木	5	4	27	—	Aクラスでカウント						
2223	専門演習II		後	後	金	3	2	20	0.50							
2263	専門演習IV		後	後	金	4	2	15	0.50							
2323	卒業研究II		後	後	金	5	3	14	0.50							

ふりがな 氏名(性別)	授業科目												職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務的分担	最終学歴及び学位称号						
	毎週授業コマ数																					
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コ マ 数	備 考	合 計 コ マ 数										
さかい ひろし 阪井 宏(男) 昭和31年3月24日 64歳	2048	応用コミュニケーション論		前	前	月	3	2	1	—	2059でカウント	6.53	教授	平成23年4月1日	平成23年4月1日	昭和55年3月 慶応義塾大学 法学部 政治学科 卒業 法学士 慶応義塾大学						
	2059	コミュニケーション科学Ⅱ		前	前	月	3	2	106	0.03	1回担当											
	2084	現代社会学		前	前	火	1	2	107	0.50												
	2118	基礎演習	/コH	前	前	水	2	2	13	0.50												
	2074	ルポルタージュ論		前	前	木	3	2	69	0.50												
	2205	専門演習Ⅰ		前	前	金	3	2	11	0.50												
	2245	専門演習Ⅲ		前	前	金	4	2	13	0.50												
	2305	卒業研究Ⅰ		前	前	金	5	3	13	0.50												
	2082	マスコミュニケーション論		後	後	火	1	2	58	0.50												
	2034	インタビュー・ルポルタージュ技法	/A	後	後	火	3	2	40	0.50	2人(大島・阪井)で2クラス担当											
	2035	インタビュー・ルポルタージュ技法	/B	後	後	火	3	2	0	—	2034でカウント											
	2056	インタビュー技法	/A	後	後	火	3	2	6	—	Aクラスでカウント											
	2057	インタビュー技法	/B	後	後	火	3	2	0	—	2056でカウント											
	2031	地域国際概論		後	後	木	2	2	84	0.10	3回担当											
	2085	科学的研究法基礎実習	/A	後	後	木	4	4	27	0.40	学科専任9名、2人ずつ24回担当											
	2086	科学的研究法基礎実習	/B	後	後	木	4	4	26	—	Aクラスでカウント											
	2087	科学的研究法基礎実習	/C	後	後	木	4	4	26	—	Aクラスでカウント											
	2088	科学的研究法基礎実習	/D	後	後	木	4	4	27	—	Aクラスでカウント											
	2085	科学的研究法基礎実習	/A	後	後	木	5	4	27	—	上段でカウント											
	2086	科学的研究法基礎実習	/B	後	後	木	5	4	26	—	Aクラスでカウント											
	2087	科学的研究法基礎実習	/C	後	後	木	5	4	26	—	Aクラスでカウント											
	2088	科学的研究法基礎実習	/D	後	後	木	5	4	27	—	Aクラスでカウント											
	2072	時事社会研究		後	後	金	1	2	27	0.50												
	2225	専門演習Ⅱ		後	後	金	3	2	11	0.50												
	2265	専門演習Ⅳ		後	後	金	4	2	14	0.50												
	2325	卒業研究Ⅱ		後	後	金	5	3	14	0.50												
	ごとう やすひろ 後藤 靖宏(男) 昭和43年4月12日 51歳	2009	心理学研究法	/コ	後	後	火	3	2	1	—						2024でカウント	4.03	教授	平成12年4月1日	平成24年4月1日	平成10年3月 北海道大学大学院 文学研究科 行動科学専攻 博士後期課程 修了 博士(行動科学) 北海道大学
		2024	心理科学研究法	/コ	後	後	火	3	2	56	0.10						3回担当					
2005		心理学実験演習	/コA	後	後	火	4	4	1	0.40	5人(田辺、後藤、石川、柳原、大瀬)で分担											
2006		心理学実験演習	/コB	後	後	火	4	4	0	—	2005でカウント											
2022		心理学実験	/コA	後	後	火	4	4	55	—												
2023		心理学実験	/コB	後	後	火	4	4	0	—	2022でカウント											
2005		心理学実験演習	/コA	後	後	火	5	4	1	—												
2006		心理学実験演習	/コB	後	後	火	5	4	0	—	2005でカウント											
2022		心理学実験	/コA	後	後	火	5	4	55	—												
2023		心理学実験	/コB	後	後	火	5	4	0	—	2022でカウント											
2021		心理科学概論		後	後	水	2	2	93	0.13	4回担当											
2003		音楽心理学		後	後	木	3	2	96	0.50												
2085		科学的研究法基礎実習	/A	後	後	木	4	4	27	0.40	学科専任9名、2人ずつ24回担当											
2086		科学的研究法基礎実習	/B	後	後	木	4	4	26	—	Aクラスでカウント											
2087		科学的研究法基礎実習	/C	後	後	木	4	4	26	—	Aクラスでカウント											
2088		科学的研究法基礎実習	/D	後	後	木	4	4	27	—	Aクラスでカウント											
2085		科学的研究法基礎実習	/A	後	後	木	5	4	27	—	上段でカウント											
2086		科学的研究法基礎実習	/B	後	後	木	5	4	26	—	Aクラスでカウント											
2087		科学的研究法基礎実習	/C	後	後	木	5	4	26	—	Aクラスでカウント											
2088		科学的研究法基礎実習	/D	後	後	木	5	4	27	—	Aクラスでカウント											
2001		コミュニケーション心理学		後	後	金	2	2	1	—	2058でカウント											
2058		コミュニケーション科学Ⅰ		後	後	金	2	2	106	0.50	コーディネーター、7回担当(濱、後藤)											
2226		専門演習Ⅱ		後	後	金	3	2	2	0.50												
2266		専門演習Ⅳ		後	後	金	4	2	3	0.50												
2326		卒業研究Ⅱ		後	後	金	5	3	3	0.50												
2185		インターンシップ・プロジェクト実習		冬集中	後	冬集中	1	2	1	0.50												

ふりがな 氏名(性別)	授業科目												職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務的分担	最終学歴及び学位称号
	毎週授業コマ数															
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コマ数	備考	合計 コマ数				
おおしま すみこ 大島 寿美子(女) 昭和39年8月20日 55歳	2189	English as a global language		前	前	月	2	4	18	0.25	2人(大島・片岡)で分担	6.56	教授	平成14年4月1日 平成24年4月1日	心理・応用 コミュニケーション 学科長	平成24年3月 北海道大学大学院 医学研究科 医学専攻 博士課程 修了 博士(医学) 北海道大学
	2048	応用コミュニケーション論		前	前	月	3	2	1	-	2189でカウント					
	2059	コミュニケーション科学II		前	前	月	3	2	106	0.03	1回担当					
	1871	英語メディア研究A		前	前	火	1	2	40	0.50						
	2037	国際社会論		前	前	火	2	2	37	0.50						
	2068	国際交流論		前	前	火	2	2	14	-	2037でカウント					
	2113	基礎演習	／コC	前	前	水	2	2	14	0.50						
	2189	English as a global language		前	前	金	2	4	18	0.25	2人(大島・片岡)で分担					
	2207	専門演習I		前	前	金	3	2	14	0.50						
	2247	専門演習III		前	前	金	4	2	4	0.50						
	2307	卒業研究I		前	前	金	5	3	4	0.50						
	1872	英語メディア研究B		後	後	火	1	2	41	0.50						
	2034	インタビュー・ルポルタージュ技法	／A	後	後	火	3	2	40	0.50	2人(大島・阪井)で2クラス担当					
	2035	インタビュー・ルポルタージュ技法	／B	後	後	火	3	2	0	-	2034でカウント					
	2056	インタビュー技法	／A	後	後	火	3	2	6	-	Aクラスでカウント					
	2057	インタビュー技法	／B	後	後	火	3	2	0	-	2056でカウント					
	2031	地域国際概論		後	後	木	2	2	84	0.13	4回担当					
	2085	科学的研究法基礎実習	／A	後	後	木	4	4	27	0.40	学科専任9名、2人ずつ24回担当					
	2086	科学的研究法基礎実習	／B	後	後	木	4	4	26	-	Aクラスでカウント					
	2087	科学的研究法基礎実習	／C	後	後	木	4	4	26	-	Aクラスでカウント					
	2088	科学的研究法基礎実習	／D	後	後	木	4	4	27	-	Aクラスでカウント					
	2085	科学的研究法基礎実習	／A	後	後	木	5	4	27	-	上段でカウント					
	2086	科学的研究法基礎実習	／B	後	後	木	5	4	26	-	Aクラスでカウント					
	2087	科学的研究法基礎実習	／C	後	後	木	5	4	26	-	Aクラスでカウント					
	2088	科学的研究法基礎実習	／D	後	後	木	5	4	27	-	Aクラスでカウント					
	2227	専門演習II		後	後	金	3	2	23	0.50						
2267	専門演習IV		後	後	金	4	2	17	0.50							
2327	卒業研究II		後	後	金	5	3	17	0.50							
いしかわ さとる 石川 悟(男) 昭和46年11月8日 48歳	2048	応用コミュニケーション論		前	前	月	3	2	1	-	2059でカウント	6.47	教授	平成18年4月1日 平成22年4月1日	社会連携 センター長	平成12年3月 京都大学大学院 文学研究科 行動文化学専攻 博士後期課程 単位取得後退学 博士(文学)〔平成14年3月〕 京都大学
	2059	コミュニケーション科学II		前	前	月	3	2	106	0.07	2回担当					
	2143	フィールド実習I	／C	前	前	月	5	2	20	0.50						
	2114	基礎演習	／コD	前	前	水	2	2	13	0.50						
	2002	心理統計法	／コ	前	前	木	1	2	58	0.50						
	2208	専門演習I		前	前	金	3	2	9	0.50						
	2248	専門演習III		前	前	金	4	2	6	0.50						
	2272	専門演習IV	／指導	前	前	金	4	2	1	-	2248でカウント					
	2308	卒業研究I		前	前	金	5	3	6	0.50						
	9245	心理学特殊研究		後	後	月	2	2	0	-	大学院					
	2148	フィールド実習II	／C	後	後	月	5	2	20	0.50						
	2005	心理学実験演習	／コA	後	後	火	4	4	1	0.40	5人(田辺、後藤、石川、柳原、大橋)で分担					
	2006	心理学実験演習	／コB	後	後	火	4	4	0	-	2005でカウント					
	2022	心理科学実験	／コA	後	後	火	4	4	55	-						
	2023	心理科学実験	／コB	後	後	火	4	4	0	-	2022でカウント					
	2005	心理学実験演習	／コA	後	後	火	5	4	1	-						
	2006	心理学実験演習	／コB	後	後	火	5	4	0	-	2005でカウント					
	2022	心理科学実験	／コA	後	後	火	5	4	55	-						
	2023	心理科学実験	／コB	後	後	火	5	4	0	-	2022でカウント					
	2016	学習心理学	／コ	後	後	水	1	2	31	0.50						
	2021	心理科学概論		後	後	水	2	2	93	0.10	3回担当					
	2085	科学的研究法基礎実習	／A	後	後	木	4	4	27	0.40	学科専任9名、2人ずつ24回担当					
	2086	科学的研究法基礎実習	／B	後	後	木	4	4	26	-	Aクラスでカウント					
	2087	科学的研究法基礎実習	／C	後	後	木	4	4	26	-	Aクラスでカウント					
	2088	科学的研究法基礎実習	／D	後	後	木	4	4	27	-	Aクラスでカウント					
	2085	科学的研究法基礎実習	／A	後	後	木	5	4	27	-	上段でカウント					
	2086	科学的研究法基礎実習	／B	後	後	木	5	4	26	-	Aクラスでカウント					
	2087	科学的研究法基礎実習	／C	後	後	木	5	4	26	-	Aクラスでカウント					
	2088	科学的研究法基礎実習	／D	後	後	木	5	4	27	-	Aクラスでカウント					
	2228	専門演習II		後	後	金	3	2	9	0.50						
	2268	専門演習IV		後	後	金	4	2	6	0.50						
	2328	卒業研究II		後	後	金	5	3	6	0.50						

ふりがな 氏名(性別)	授業科目												職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号
	毎週授業コマ数															
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コ マ 数	備 考	合 計 コ マ 数				
かたおか とおる 片岡 徹(男) 昭和47年10月18日 47歳	2189	English as a global language		前	前	月	2	4	18	0.25	2人(大島・片岡)で分担	8.47	准教授	平成20年4月1日 平成25年4月1日	平成21年3月 東京大学大学院 教育学研究科 学校教育高度化専攻 学校開発政策コース 博士課程 単位取得後退学 M.A.(平和学修士)〔平成16年7月〕 英国ブラッドフォード大学	
	2048	応用コミュニケーション論		前	前	月	3	2	1	-	2059でカウント					
	2059	コミュニケーション科学II		前	前	月	3	2	106	0.07	2回担当					
	2144	フィールド実習I	/D	前	前	月	5	2	21	0.50						
	8291	平和学	/A	前	前	水	1	2	55	0.50						
	8571	平和学I	/A	前	前	水	1	2	102	-	8291でカウント					
	2115	基礎演習	/コE	前	前	水	2	2	13	0.50						
	2039	現代教育論		前	前	木	3	2	41	0.50						
	2081	教育コミュニケーション論		前	前	木	3	2	49	-	2039でカウント					
	8292	平和学	/B	前	前	木	5	2	35	0.50						
	8573	平和学I	/B	前	前	木	5	2	8	-	8292でカウント					
	2189	English as a global language		前	前	金	2	4	18	0.25	2人(大島・片岡)で分担					
	2209	専門演習I		前	前	金	3	2	11	0.50						
	2249	専門演習III		前	前	金	4	2	10	0.50						
	2309	卒業研究I		前	前	金	5	3	10	0.50						
	2149	フィールド実習II	/D	後	後	月	5	2	21	0.50						
	2038	国際教育論		後	後	火	2	2	23	0.50						
	2067	グループ・コミュニケーション		後	後	火	2	2	18	-	2038でカウント					
	2032	社会調査法	/A	後	後	火	4	4	38	0.25	2人(片岡・寺林)で分担					
	2033	社会調査法	/B	後	後	火	4	4	2	-	Aクラスでカウント					
	2052	観察訓練演習	/A	後	後	火	4	4	6	-	2032でカウント					
	2053	観察訓練演習	/B	後	後	火	4	4	0	-	2032でカウント					
	2032	社会調査法	/A	後	後	火	5	4	38	0.25	2人(片岡・寺林)で分担					
	2033	社会調査法	/B	後	後	火	5	4	2	-	Aクラスでカウント					
	2052	観察訓練演習	/A	後	後	火	5	4	6	-	2032でカウント					
	2053	観察訓練演習	/B	後	後	火	5	4	0	-	2032でカウント					
	2031	地域国際概論		後	後	木	2	2	84	0.50	コーディネーター、7回					
	2085	科学的研究法基礎実習	/A	後	後	木	4	4	27	0.40	学科専任9名、2人ずつ24回担当					
	2086	科学的研究法基礎実習	/B	後	後	木	4	4	26	-	Aクラスでカウント					
	2087	科学的研究法基礎実習	/C	後	後	木	4	4	26	-	Aクラスでカウント					
	2088	科学的研究法基礎実習	/D	後	後	木	4	4	27	-	Aクラスでカウント					
	2085	科学的研究法基礎実習	/A	後	後	木	5	4	27	-	上段でカウント					
	2086	科学的研究法基礎実習	/B	後	後	木	5	4	26	-	Aクラスでカウント					
2087	科学的研究法基礎実習	/C	後	後	木	5	4	26	-	Aクラスでカウント						
2088	科学的研究法基礎実習	/D	後	後	木	5	4	27	-	Aクラスでカウント						
2229	専門演習II		後	後	金	3	2	11	0.50							
2269	専門演習IV		後	後	金	4	2	10	0.50							
2329	卒業研究II		後	後	金	5	3	10	0.50							

17 専任教員個別表〔2020年度〕 文学部

(表V-17-2)

ふりがな 氏名(性別)	授業科目												職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号
	毎週授業コマ数															
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コ マ 数	備 考	合 計 コ マ 数				
かきはら くにか 柿原 久仁佳(女) 昭和51年6月10日 43歳	2048	応用コミュニケーション論		前	前	月	3	2	1	—	2059でカウント	7.70	准教授	平成30年4月1日 平成30年4月1日	北海道大学大学院 教育学研究科 教育臨床学講座 博士課程 単位取得後退学 修士(人文科学)〔平成13年3月〕 お茶の水女子大学	
	2059	コミュニケーション科学Ⅱ		前	前	月	3	2	106	0.50	コーディネーター、3回担当					
	2145	フィールド実習Ⅰ	/E	前	前	月	5	2	16	0.50						
	2026	生涯発達心理学		前	前	火	4	2	56	0.50						
	2116	基礎演習	/コF	前	前	水	2	2	13	0.50						
	2049	応用統計法		前	前	金	1	2	6	—	2060でカウント					
	2060	統計法基礎		前	前	金	1	2	108	0.50						
	2210	専門演習Ⅰ		前	前	金	3	2	11	0.50						
	2251	専門演習Ⅲ		前	前	金	4	2	9	0.50						
	2311	卒業研究Ⅰ		前	前	金	5	3	9	0.50						
	2339	卒業研究Ⅱ	/指導	前	前	金	5	3	1	—	2311でカウント					
	2150	フィールド実習Ⅱ	/E	後	後	月	5	2	16	0.50						
	2009	心理学研究法	/コ	後	後	火	3	2	1	—	2024でカウント					
	2024	心理科学研究法	/コ	後	後	火	3	2	56	0.30	9回担当					
	2005	心理学実験演習	/コA	後	後	火	4	4	1	0.40	5人(田辺、後藤、石川、柿原、大瀬)で分担					
	2006	心理学実験演習	/コB	後	後	火	4	4	0	—	2005でカウント					
	2022	心理学実験	/コA	後	後	火	4	4	55	—						
	2023	心理学実験	/コB	後	後	火	4	4	0	—	2022でカウント					
	2005	心理学実験演習	/コA	後	後	火	5	4	1	—						
	2006	心理学実験演習	/コB	後	後	火	5	4	0	—	2005でカウント					
	2022	心理学実験	/コA	後	後	火	5	4	55	—						
	2023	心理学実験	/コB	後	後	火	5	4	0	—	2022でカウント					
	2021	心理科学概論		後	後	水	2	2	93	0.10	3回担当					
	2085	科学的研究法基礎実習	/A	後	後	木	4	4	27	0.40	学科専任9名、2人ずつ24回担当					
	2086	科学的研究法基礎実習	/B	後	後	木	4	4	26	—	Aクラスでカウント					
	2087	科学的研究法基礎実習	/C	後	後	木	4	4	26	—	Aクラスでカウント					
	2088	科学的研究法基礎実習	/D	後	後	木	4	4	27	—	Aクラスでカウント					
	2085	科学的研究法基礎実習	/A	後	後	木	5	4	27	—	上段でカウント					
	2086	科学的研究法基礎実習	/B	後	後	木	5	4	26	—	Aクラスでカウント					
	2087	科学的研究法基礎実習	/C	後	後	木	5	4	26	—	Aクラスでカウント					
	2088	科学的研究法基礎実習	/D	後	後	木	5	4	27	—	Aクラスでカウント					
2011	パーソナリティ心理学	/コ	後	後	金	2	2	71	0.50							
2025	対人行動論	/コ	後	後	金	2	2	57	—	2011でカウント						
2230	専門演習Ⅱ		後	後	金	3	2	11	0.50							
2270	専門演習Ⅳ		後	後	金	4	2	9	0.50							
2331	卒業研究Ⅱ		後	後	金	5	3	9	0.50							

ふりがな 氏名(性別)	授業科目												職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号
	毎週授業コマ数															
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コマ数	備考	合計 コマ数				
てらばやし あきら 寺林 暁良(男) 昭和58年9月4日 36歳	2048	応用コミュニケーション論		前	前	月	3	2	1	—	2059でカウント	6.60	講師	平成31年4月1日	平成31年4月1日	平成27年3月 北海道大学大学院 文学研究科 地域システム科学専修 博士課程 修了 博士(文学)〔平成27年3月〕 北海道大学
	2059	コミュニケーション科学Ⅱ		前	前	月	3	2	106	0.07	2回担当					
	2157	フィールド実習Ⅰ	／F	前	前	月	5	2	12	0.50						
	2101	総合講義	／コ	前	前	火	2	2	104	0.50						
	2117	基礎演習	／コG	前	前	水	2	2	13	0.50						
	2211	専門演習Ⅰ		前	前	金	3	2	11	0.50						
	2252	専門演習Ⅲ		前	前	金	4	2	9	0.50						
	2312	卒業研究Ⅰ		前	前	金	5	3	9	0.50						
	2046	地域コミュニティ論		後	後	月	2	2	39	0.50						
	6115	コミュニティ論		後	後	月	2	2	58	—	2046でカウント					
	2159	フィールド実習Ⅱ	／F	後	後	月	5	2	12	0.50						
	2032	社会調査法	／A	後	後	火	4	4	38	0.25	2人(片岡・寺林)で分担					
	2033	社会調査法	／B	後	後	火	4	4	2	—	Aクラスでカウント					
	2052	観察訓練演習	／A	後	後	火	4	4	6	—	2032でカウント					
	2053	観察訓練演習	／B	後	後	火	4	4	0	—	2032でカウント					
	2032	社会調査法	／A	後	後	火	5	4	38	0.25	2人(片岡・寺林)で分担					
	2033	社会調査法	／B	後	後	火	5	4	2	—	Aクラスでカウント					
	2052	観察訓練演習	／A	後	後	火	5	4	6	—	2032でカウント					
	2053	観察訓練演習	／B	後	後	火	5	4	0	—	2032でカウント					
	2031	地域国際概論		後	後	木	2	2	84	0.13	4回担当					
	2085	科学的研究法基礎実習	／A	後	後	木	4	4	27	0.40	学科専任9名、2人ずつ24回担当					
	2086	科学的研究法基礎実習	／B	後	後	木	4	4	26	—	Aクラスでカウント					
	2087	科学的研究法基礎実習	／C	後	後	木	4	4	26	—	Aクラスでカウント					
	2088	科学的研究法基礎実習	／D	後	後	木	4	4	27	—	Aクラスでカウント					
	2085	科学的研究法基礎実習	／A	後	後	木	5	4	27	—	上段でカウント					
	2086	科学的研究法基礎実習	／B	後	後	木	5	4	26	—	Aクラスでカウント					
	2087	科学的研究法基礎実習	／C	後	後	木	5	4	26	—	Aクラスでカウント					
	2088	科学的研究法基礎実習	／D	後	後	木	5	4	27	—	Aクラスでカウント					
	2231	専門演習Ⅱ		後	後	金	3	2	11	0.50						
	2271	専門演習Ⅳ		後	後	金	4	2	9	0.50						
	2332	卒業研究Ⅱ		後	後	金	5	3	9	0.50						
すずき つよし 鈴木 剛(男) 昭和30年12月14日 64歳	8904	教育学	／A	前	前	月	4	2	49	0.50		2.00	教授	平成14年4月1日	副学長	平成2年3月 東京大学大学院 教育学研究科 教育哲学専攻 博士課程 単位取得後退学 教育学修士〔昭和60年3月〕 東京大学大学院
	8907	教育史		前	前	月	5	2	16	0.50						
	9241	教育思想論特殊研究		後	後	月	4	2	0	—	大学院					
	8905	教育学	／B	後	後	月	5	2	56	0.50						
	8937	道徳教育の研究		後	後	木	4	2	4	—	8958でカウント					
8958	道徳教育の理論と実践		後	後	木	4	2	10	0.50							
なかじま てるあき 中嶋 輝明(男) 昭和42年10月2日 52歳	8411	情報入門	／経A	前	前	月	1	2	40	0.50		5.50	教授	平成14年4月1日	インスティ テューショナ ル・リサーチ 委員長	平成14年3月 北海道大学大学院 文学研究科 行動科学専攻 博士後期課程 修了 博士(行動科学) 北海道大学
	8427	情報入門	／法B	前	前	水	2	2	35	0.50						
	8401	情報入門	／英A	前	前	木	2	2	32	0.50						
	8431	情報入門	／計A	前	前	木	3	2	40	0.50						
	8443	情報入門	／福心C	前	前	金	2	2	20	0.50						
	8019	心理学Ⅰ	／遠隔	前	前	遠隔	1	2	69	0.50						
	8511	情報活用Ⅱ	／法B	後	後	火	1	2	14	0.50						
	8452	情報活用Ⅰ	／英B	後	後	木	2	2	34	0.50						
	8475	情報活用Ⅰ	／計A	後	後	木	3	2	33	0.50						
	8525	情報活用Ⅱ	／福心E	後	後	金	2	2	33	0.50						
	8531	ハードウェア基礎		冬集中	冬集中	冬集中	1	2	6	0.50						
まつうら としお 松浦 年男(男) 昭和52年10月5日 42歳 サバティカル 2020.4.1~2020.9.13	8694	日本語表現Ⅱ	／臨E	後	後	月	1	2	23	0.50		3.50	教授	平成21年4月1日	九州大学大学院 人文科学府 言語・文学専攻 言語学専修 博士後期課程 単位取得後退学	
	8685	日本語表現Ⅱ	／計E	後	後	月	3	2	23	0.50						
	8656	日本語表現Ⅱ	／英F	後	後	月	4	2	20	0.50						
	8693	日本語表現Ⅱ	／福心I	後	後	火	1	2	22	0.50						
	8661	日本語表現Ⅱ	／コE	後	後	火	3	2	25	0.50						
	8672	日本語表現Ⅱ	／情B	後	後	木	4	2	20	0.50						
	8286	人文科学基礎演習Ⅱ	／B	後	後	木	5	2	24	0.50						
	8596	教養演習Ⅱ	／F	後	後	木	5	2	3	—	8286でカウント					

17 専任教員個別表〔2020年度〕 文学部

(表V-17-2)

ふりがな 氏名(性別)	授業科目											職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号	
	毎週授業コマ数															
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コ マ 数	備 考					合 計 コ マ 数
やまもと のりこ 山本 範子(女) 昭和44年2月8日 51歳	872	中国語Ⅲ	／文部	前	前	月	4	2	23	0.50	7.00	准教授	平成18年4月1日 平成23年4月1日		平成14年3月 大阪市立大学大学院 文学研究科 中国文学専攻 博士後期課程 単位取得後退学 修士(文学)〔平成8年3月〕 大阪市立大学	
	860	中国語Ⅰ	／経部	前	前	火	2	2	21	0.50						
	954	外国語演習〔中国語〕		通年	前	木	2	4	25	0.50						
	871	中国語Ⅲ	／文部	前	前	木	4	2	23	0.50						
	934	上級中国語Ⅰ		前	前	金	1	2	34	0.50						
	858	中国語Ⅰ	／経部	前	前	金	2	2	21	0.50						
	933	海外事情	／中国	夏集中	前	夏集中	1	2	0	***						履修者未定(確定後コマ換算)
	931	中国語と文化		後	後	月	1	2	55	0.50						
	882	中国語Ⅳ	／文部	後	後	月	4	2	23	0.50						
	870	中国語Ⅱ	／経部	後	後	火	2	2	25	0.50						
	954	外国語演習〔中国語〕		通年	後	木	2	4	25	0.50						
	881	中国語Ⅳ	／文部	後	後	木	4	2	23	0.50						
	936	上級中国語Ⅱ		後	後	金	1	2	31	0.50						
	868	中国語Ⅱ	／経部	後	後	金	2	2	22	0.50						
	1982	ジャパニーズ・リテラチャー	／B	後	後	金	4	3	2	—						8804でカウント
	8804	日本のサブカルチャー	／B	後	後	金	4	2	35	0.50						
	8857	日本の文学〔国際〕	／B	後	後	金	4	3	1	—						8804でカウント
	8962	教育実習Ⅰ(中学校)		通年	前	火	1	4	49	—						8978でカウント
	8963	教育実習Ⅱ(高等学校)		通年	前	火	1	2	6	—						8978でカウント
	8978	教育実習事前事後指導		通年	前	火	1	1	55	0.50						
8941	教育方法論	／A	前	前	火	3	2	51	0.50							
8919	社会科教育法Ⅱ(公民)	／A	前	前	水	1	2	14	0.50							
8920	社会科教育法Ⅱ(公民)	／B	前	前	木	2	2	13	0.50							
8913	教育行政論	／A	前	前	木	3	2	33	0.50							
8968	社会科教育実践指導Ⅰ		後	後	月	6	2	17	0.50							
8962	教育実習Ⅰ(中学校)		通年	後	火	1	4	49	—	8978でカウント						
8963	教育実習Ⅱ(高等学校)		通年	後	火	1	2	6	—	8978でカウント						
8978	教育実習事前事後指導		通年	後	火	1	1	55	—	上段でカウント						
8984	教職実践演習(中・高)	／D	後	後	火	3	2	12	0.50							
8969	社会科教育実践指導Ⅱ		後	後	水	2	2	11	0.50							
8922	公民科教育法	／A	後	後	木	2	2	11	0.50							
8985	教職実践演習(中・高)	／E	後	後	木	3	2	13	0.50							
8923	公民科教育法	／B	後	後	金	1	2	15	0.50							
8914	教育行政論	／B	後	後	金	2	2	36	0.50							
8942	教育方法論	／B	後	後	金	5	2	25	0.50							
8602	日本語表現Ⅰ	／英B	前	前	月	4	2	22	0.50							
8644	日本語表現Ⅰ	／福心	前	前	火	1	2	22	0.50							
8608	日本語表現Ⅰ	／冨B	前	前	火	3	2	26	0.50							
7243	日本語教授法		前	前	木	1	2	13	0.50							
8613	日本語表現Ⅰ	／経B	前	前	木	5	2	20	0.50							
8652	日本語表現Ⅱ	／英B	後	後	月	4	2	21	0.50							
8690	日本語表現Ⅱ	／福心	後	後	火	1	2	25	0.50							
8658	日本語表現Ⅱ	／冨B	後	後	火	3	2	23	0.50							
8673	日本語表現Ⅱ	／情C	後	後	木	4	2	18	0.50							
8663	日本語表現Ⅱ	／経B	後	後	木	5	2	24	0.50							
1644	英語教育概論		前	前	月	3	2	3	—	1663でカウント						
1663	英語コミュニケーション概論		前	前	月	3	2	37	0.50							
1198	基礎演習Ⅰ	／H	前	前	水	2	2	18	0.50							
8931	英語科教育実践指導Ⅰ		前	前	水	4	2	12	0.50							
1863	コミュニケーション研究C		前	前	金	3	2	40	0.50							
1203	基礎演習Ⅱ	／C	後	後	水	2	2	19	0.50							
1864	コミュニケーション研究D		後	後	金	3	2	38	0.50							
みなと しろろ 湊 史郎(男) 昭和26年6月23日 68歳											3.00	准教授			昭和51年3月 北星学園大学 文学部 英文学科 卒業 文学士〔昭和51年3月〕 北星学園大学	

ふりがな 氏名(性別)	授業科目												職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号				
	毎週授業コマ数																			
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コ マ 数	備 考	合 計 コ マ 数								
はま やすひさ 濱 保久(男) 昭和29年1月20日 66歳	2015	産業心理学	／コ	前	前	木	2	2	119	0.50		5.17	教授	平成3年4月1日 平成10年4月1日	昭和56年7月 同志社大学大学院 文学研究科 心理学専攻 博士後期課程 中途退学 文学修士〔昭和55年3月〕 同志社大学					
	2201	専門演習Ⅰ		前	前	金	3	2	6	0.50										
	2241	専門演習Ⅲ		前	前	金	4	2	8	0.50										
	2301	卒業研究Ⅰ		前	前	金	5	3	8	0.50										
	2146	フィールド実習Ⅱ	／A	後	後	月	5	2	2	0.50										
	2171	プレゼンテーション演習		後	後	木	3	2	66	0.50										
	2085	科学的研究法基礎実習	／A	後	後	木	4	4	27	0.40	学科専任9名、2人ずつ24回担当									
	2086	科学的研究法基礎実習	／B	後	後	木	4	4	26	—	Aクラスでカウント									
	2087	科学的研究法基礎実習	／C	後	後	木	4	4	26	—	Aクラスでカウント									
	2088	科学的研究法基礎実習	／D	後	後	木	4	4	27	—	Aクラスでカウント									
	2085	科学的研究法基礎実習	／A	後	後	木	5	4	27	—	上段でカウント									
	2086	科学的研究法基礎実習	／B	後	後	木	5	4	26	—	Aクラスでカウント									
	2087	科学的研究法基礎実習	／C	後	後	木	5	4	26	—	Aクラスでカウント									
	2088	科学的研究法基礎実習	／D	後	後	木	5	4	27	—	Aクラスでカウント									
	2001	コミュニケーション心理学		後	後	金	2	2	1	—	2058でカウント									
	2058	コミュニケーション科学Ⅰ		後	後	金	2	2	106	0.27	8回担当(濱、後藤)									
	2221	専門演習Ⅱ		後	後	金	3	2	6	0.50										
	2261	専門演習Ⅳ		後	後	金	4	2	8	0.50										
	2321	卒業研究Ⅱ		後	後	金	5	3	8	0.50										
	ふるーす でびっどそん ブルース・デビッドソン(男) 昭和28年1月19日 67歳	2093	English CommunicationⅡ		前	前	月	2	2	13	0.50						5.53	教授	平成7年4月1日 平成19年4月1日	昭和61年8月 南イリノイ大学 カーボンデイル校 言語学研究科 EFL専攻 修士課程 修了 M.A.(文学修士) 南イリノイ大学 カーボンデイル校
2107		英会話Ⅱ		前	前	月	2	2	8	—	2093でカウント									
2048		応用コミュニケーション論		前	前	月	3	2	1	—	2059でカウント									
2059		コミュニケーション科学Ⅱ		前	前	月	3	2	106	0.03	1回担当									
1645		キリスト教と文学		前	前	木	1	2	5	0.50										
2204		専門演習Ⅰ		前	前	金	3	2	6	0.50										
2244		専門演習Ⅲ		前	前	金	4	2	3	0.50										
2274		専門演習Ⅳ	／指導	前	前	金	4	2	1	—	2244でカウント									
2275		専門演習Ⅳ	／指導	前	前	金	4	2	1	—	2244でカウント									
2304		卒業研究Ⅰ		前	前	金	5	3	3	0.50										
2094		English CommunicationⅢ		後	後	火	1	2	0	—	2128でカウント									
2128		アカデミックライティングⅠ		後	後	火	1	2	7	0.50										
2092		English CommunicationⅠ		後	後	水	1	2	17	0.50										
2106		英会話Ⅰ		後	後	水	1	2	7	—	2092でカウント									
2129		アカデミックライティングⅡ		後	後	水	2	2	6	0.50										
2224		専門演習Ⅱ		後	後	金	3	2	6	0.50										
2264		専門演習Ⅳ		後	後	金	4	2	3	0.50										
2324		卒業研究Ⅱ		後	後	金	5	3	3	0.50										
もりた いさお 森田 勲(男) 昭和29年8月27日 65歳		8021	体育実技Ⅰ	／A	通年	前	火	1	2	49	0.50	テニス	7.25	教授	令和2年4月1日 平成18年7月1日	平成18年3月 北海道大学 教育学研究科 教育学専攻 修了 教育学博士 北海道大学				
		8051	体育実技Ⅱ	／A	通年	前	火	1	2	8	—	8021でカウント								
	8022	体育実技Ⅰ	／B	通年	前	火	2	2	50	0.50	テニス									
	8052	体育実技Ⅱ	／B	通年	前	火	2	2	9	—	8022でカウント									
	8023	体育実技Ⅰ	／C	通年	前	火	3	2	49	0.50	テニス									
	8053	体育実技Ⅱ	／C	通年	前	火	3	2	9	—	8023でカウント									
	8012	身体の科学Ⅰ		前	前	水	2	2	148	0.50										
	8026	体育実技Ⅰ	／F	通年	前	木	1	2	50	0.50	テニス									
	8056	体育実技Ⅱ	／F	通年	前	木	1	2	11	—	8026でカウント									
	8027	体育実技Ⅰ	／G	通年	前	木	2	2	50	0.50	テニス									
	8057	体育実技Ⅱ	／G	通年	前	木	2	2	9	—	8027でカウント									
	8028	体育実技Ⅰ	／H	通年	前	木	3	2	50	0.50	テニス									
	8058	体育実技Ⅱ	／H	通年	前	木	3	2	10	—	8028でカウント									
	8021	体育実技Ⅰ	／A	通年	後	火	1	2	49	0.50	バレーボール									
	8051	体育実技Ⅱ	／A	通年	後	火	1	2	8	—	8021でカウント									
	8022	体育実技Ⅰ	／B	通年	後	火	2	2	50	0.50	バレーボール									
	8052	体育実技Ⅱ	／B	通年	後	火	2	2	9	—	8022でカウント									
	8023	体育実技Ⅰ	／C	通年	後	火	3	2	49	0.50	バレーボール									
	8053	体育実技Ⅱ	／C	通年	後	火	3	2	9	—	8023でカウント									
	8018	体力育成論		後	後	火	4	2	106	0.25	2人で分担(星野・森田)									
	8013	身体の科学Ⅱ		後	後	水	2	2	148	0.50										
	8010	健康管理学		後	後	木	1	2	71	0.50										
	8027	体育実技Ⅰ	／G	通年	前	木	2	2	50	0.50	バドミントン									
	8057	体育実技Ⅱ	／G	通年	前	木	2	2	9	—	8027でカウント									
	8028	体育実技Ⅰ	／H	通年	前	木	3	2	50	0.50	バドミントン									
	8058	体育実技Ⅱ	／H	通年	前	木	3	2	10	—	8028でカウント									

ふりがな 氏名(性別)	授業科目											職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号	
	毎週授業コマ数															
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コ マ 数	備 考					合 計 コ マ 数
ながい あきゆき 永井 暁行(男) 昭和62年2月16日 33歳												0.00	助教	平成30年4月1日 平成30年4月1日		平成30年3月 中央大学 文学研究科 心理学専攻 博士課程修了 博士(心理学) 中央大学

17 専任教員個別表〔2019年度〕経済学部

(表V-17-3)

ふりがな 氏名(性別)	授業科目												職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号				
	毎週授業コマ数																			
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コマ数	備考	合計コマ数								
かやの ともあつ 菅野 智篤(男) 昭和34年4月17日 60歳	3501	入門演習		前	前	月	2	2	0	—	3510でカウント	7.53	教授	平成8年4月1日 平成20年4月1日	北海道大学大学院 法学研究科 政治学専攻 博士課程 単位取得後退学 法学修士〔昭和62年3月〕 北海道大学					
	3510	経済学入門	経	前	前	月	2	2	179	0.03	1回担当									
	3537	国際関係論		通	前	月	3	4	9	—	3221でカウント									
	3221	国際関係論 I		前	前	月	3	2	140	0.50										
	3147	現代政治学		前	前	月	4	2	148	0.50										
	3575	演習 I		前	前	火	2	2	12	0.50										
	3615	演習 III		前	前	火	4	2	15	0.50										
	3805	演習 I		通	前	火	4	4	3	—	3615でカウント									
	3855	演習 II		通	前	火	5	4	14	0.50										
	8133	政治学 I		前	前	木	1	2	164	0.50										
	3127	国際政治学	B	通	前	木	2	4	18	—	3240でカウント									
	3240	国際政治学	A	前	前	木	2	2	29	0.50										
	3703	フェアトレード		通	前	金	2	4	75	0.50										
	3537	国際関係論		通	後	月	3	4	9	—	3222でカウント									
	3222	国際関係論 II		後	後	月	3	2	141	0.50										
	3595	演習 II		後	後	火	2	2	14	0.50										
	3635	演習 IV		後	後	火	4	2	14	0.50										
	3805	演習 I		通	後	火	4	4	3	—	3635でカウント									
	3855	演習 II		通	後	火	5	4	14	0.50										
	8135	政治学 II		後	後	木	1	2	134	0.50										
	3127	国際政治学	B	通	後	木	2	4	18	0.50										
	3703	フェアトレード		通	後	金	2	4	75	0.50										
	しゅう ぜんじ 修 震傑(男) 昭和34年10月28日 60歳	3501	入門演習		前	前	月	2	2	0	—					3510でカウント	8.53	教授	平成8年4月1日 平成20年4月1日	平成7年3月 北海道大学大学院 環境科学研究科 社会環境学専攻 博士課程 修了 博士(環境科学) 北海道大学
		3510	経済学入門	経	前	前	月	2	2	179	0.03					1回担当				
		9301	経済理論研究 I		前	前	月	3	2	1	0.50					大学院				
		3051	ミクロ経済学 I	経	通	前	月	4	4	11	—					3201でカウント				
3201		ミクロ経済学 I	経	前	前	月	4	2	125	0.50										
9337		経済理論演習 II	A	前	前	月	5	2	1	0.50	大学院									
9392		論文指導 II	A	前	前	月	6	2	1	0.50	大学院									
3576		演習 I		前	前	火	2	2	11	0.50										
3616		演習 III		前	前	火	4	2	7	0.50										
3806		演習 I		通	前	火	4	4	4	—	3616でカウント									
3856		演習 II		通	前	火	5	4	8	0.50										
3133		ゲーム理論		前	前	水	1	4	42	0.50										
3133		ゲーム理論		前	前	金	2	4	42	0.50										
9302		経済理論研究 II		後	後	月	3	2	1	0.50	大学院									
3051		ミクロ経済学	経	通	後	月	4	4	11	—	3202でカウント									
3202		ミクロ経済学 II	経	後	後	月	4	2	107	0.50										
9407		論文指導 III	A	後	後	月	5	2	1	0.50	大学院									
3596		演習 II		後	後	火	2	2	10	0.50										
3636		演習 IV		後	後	火	4	2	7	0.50										
3806		演習 I		通	後	火	4	4	4	—	3636でカウント									
3856		演習 II		通	後	火	5	4	8	0.50										
3124		計量経済学	経	後	後	木	1	4	6	0.50										
3124		計量経済学	経	後	後	木	2	4	6	0.50										
うらの まりこ 浦野 真理子(女) 昭和41年10月9日 53歳		3501	入門演習		前	前	月	2	2	0	—	3510でカウント	5.53	教授	平成15年4月1日 平成21年4月1日	平成14年8月 米国ジョージタウン大学大学院 政治学部 博士課程 修了 Ph. D. (政治学博士)				
		3510	経済学入門	経	前	前	月	2	2	179	0.03	1回担当								
		3545	現代の国際社会	A	前	前	火	1	2	50	0.50									
	3094	アジア経済論		通	前	火	3	4	5	—	3223でカウント									
	3223	グローバル社会論 I		前	前	火	3	2	143	0.50										
	3807	演習 I		通	前	火	4	4	2	—	3617でカウント									
	3617	演習 III		前	前	火	4	2	12	0.50										
	9311	アジア政治経済研究 I		前	前	火	5	2	0	—	大学院									
	3577	演習 I		前	前	木	2	2	12	0.50										
	3857	演習 II		通	前	木	5	4	15	0.50										
	3092	開発経済論		後	後	火	1	4	57	0.50										
	3094	アジア経済論		通	後	火	3	4	4	—	3246でカウント									
	3246	現代アジア論		後	後	火	3	2	88	0.50										
	3807	演習 I		通	後	火	4	4	2	—	3637でカウント									
	3637	演習 IV		後	後	火	4	2	13	0.50										
	9312	アジア政治経済研究 II		後	後	火	5	2	0	—	大学院									
	3597	演習 II		後	後	木	2	2	13	0.50										
	3857	演習 II		通	後	木	5	4	15	0.50										
	3092	開発経済論		後	後	金	4	4	57	0.50										

17 専任教員個別表〔2019年度〕経済学部

(表V-17-3)

ふりがな 氏名(性別)	授業科目												職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号					
	毎週授業コマ数																				
	履修 コード	科目名	クラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コマ数	備考	合計コマ数									
のもと けいすけ 野本 啓介(男) 昭和40年6月24日 54歳	3501	入門演習		前	前	月	2	2	0	—	3510でカウント	5.03	准教授	平成14年4月1日 平成18年4月1日		平成8年3月 慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科政策・メディア専攻 修士課程 修了 修士(政策・メディア) 慶應義塾大学					
	3510	経済学入門	経	前	前	月	2	2	179	0.03	1回担当										
	3578	演習Ⅰ		前	前	火	2	2	11	0.50											
	3808	演習Ⅰ		通	前	火	4	4	1	—	3618でカウント										
	3618	演習Ⅲ		前	前	火	4	2	3	0.50											
	3858	演習Ⅱ		通	前	火	5	4	4	0.50											
	3538	国際開発協力論		通	前	木	1	4	11	—	3241でカウント										
	3241	国際協力論Ⅰ		前	前	木	1	2	8	0.50											
	3243	グローバルガバナンス論		前	前	金	5	2	2	0.50											
	3704	グローバル・ガバナンス論		通	後	金	5	4	1	—	3243でカウント										
	3598	演習Ⅱ		後	後	火	2	2	11	0.50											
	3808	演習Ⅰ		通	後	火	4	4	1	—	3638でカウント										
	3638	演習Ⅳ		後	後	火	4	2	3	0.50											
	3858	演習Ⅱ		通	後	火	5	4	4	0.50											
	3402	海外実習Ⅱ		後	後	水	1	4	0	—											
	3538	国際開発協力論		通	後	木	1	4	11	—	3242でカウント										
	3242	国際協力論Ⅱ		後	後	木	1	2	5	0.50											
	3224	グローバル社会論Ⅱ		後	後	金	5	2	76	0.50											
	3717	海外実習Ⅱ		冬集中	後	水	1	2	0	—											
	かつむら つとむ 勝村 務(男) 昭和43年8月30日 51歳	3501	入門演習		前	前	月	2	2	0	—						3510でカウント	9.82	准教授	平成18年4月1日 平成22年4月1日	経済学科長
3510		経済学入門	経	前	前	月	2	2	179	0.07	2回担当										
8137		経済学Ⅰ		前	前	月	3	2	165	0.50											
3421		経済学特論Ⅱ		前	前	月	5	2	74	0.25	2人(勝村・柴崎)で分担										
3579		演習Ⅰ		前	前	火	2	2	11	0.50											
3809		演習Ⅰ		通	前	火	4	4	2	—	3619でカウント										
3619		演習Ⅲ		前	前	火	4	2	11	0.50											
3859		演習Ⅱ		通	前	火	5	4	16	0.50											
3535		日本経済論		通	前	木	2	4	19	—	3235でカウント										
3235		日本経済論Ⅰ		前	前	木	2	2	112	0.50											
3531		社会経済学		通	前	木	3	4	3	—	3211でカウント										
3211		社会経済学Ⅰ		前	前	木	3	2	154	0.50											
9305		社会経済学研究Ⅰ		前	前	木	4	2	3	0.50	大学院										
8153		メディアと社会		前	前	金	3	2	0	—											
3524		新聞活用		前	前	金	5	2	179	0.25	2人(原島・勝村)で分担										
3791		卒業論文		通	前	土	5	4	0	—											
3248		日本経済論ディベートⅠ	A	通	前	夏集中	1	4	3	0.50											
3709		文化経済学		後	後	月	4	2	144	0.50											
3599		演習Ⅱ		後	後	火	2	2	9	0.50											
3809		演習Ⅰ		通	後	火	4	4	2	—	3639でカウント										
3639		演習Ⅳ		後	後	火	4	2	11	0.50											
3859		演習Ⅱ		通	後	火	5	4	16	0.50											
3531		社会経済学		通	後	木	3	4	3	—	3212でカウント										
3212		社会経済学Ⅱ		後	後	木	3	2	145	0.50											
9306		社会経済学研究Ⅱ		後	後	木	4	2	3	0.50	大学院										
9340		社会経済学演習Ⅰ	A	後	後	木	5	2	1	0.50	大学院										
9381		論文指導Ⅰ		後	後	木	6	2	1	0.50	大学院										
3401		上級新聞活用		後	後	金	2	2	5	0.50											
8313		職業と人生Ⅱ	C	後	後	金	2	2	54	—	3401でカウント										
8577		職業と人生Ⅰ	C	後	後	金	3	2	3	—	8580でカウント										
8580		学びとキャリア形成	C	後	後	金	3	2	179	0.25	2人(原島・勝村)で分担										
3791		卒業論文		通	後	土	5	4	0	—											
3248		日本経済論ディベートⅠ	A	通	後	冬集中	1	4	3	—	上段でカウント										
3701		日本経済論ディベートⅠ	B	冬集中	後	冬集中	1	2	5	0.50											
のほら かつひと 野原 克仁(男) 昭和56年2月5日 39歳		3501	入門演習		前	前	月	2	2	0	—	3510でカウント	6.03	准教授	平成23年4月1日 平成27年4月1日	平成22年3月 東北大学大学院 経済学研究科 経済経営学専攻 博士後期課程 修了 博士(経済学) 東北大学					
		3510	経済学入門	経	前	前	月	2	2	179	0.03	1回担当									
		3231	公共経済学		前	前	火	2	4	24	0.50										
		3580	演習Ⅰ		前	前	木	2	2	13	0.50										
		3811	演習Ⅰ		通	前	木	4	4	0	—	3620でカウント									
		3620	演習Ⅲ		前	前	木	4	2	13	0.50										
	3861	演習Ⅱ		通	前	木	5	4	16	0.50											
	3231	公共経済学		前	前	金	3	4	24	0.50											
	3234	環境政策論		後	後	月	3	2	24	0.50											
	8794	環境経済	B	後	後	月	4	2	10	0.50											
	3071	環境経済学		後	後	水	2	4	60	0.50											
	3600	演習Ⅱ		後	後	木	2	2	13	0.50											
	3811	演習Ⅰ		通	後	木	4	4	0	—	3640でカウント										
	3640	演習Ⅳ		後	後	木	4	2	13	0.50											
	3861	演習Ⅱ		通	後	木	5	4	16	0.50											
	3071	環境経済学		後	後	金	1	4	60	0.50											

17 専任教員個別表〔2019年度〕経済学部

(表V-17-3)

ふりがな 氏名(性別)	授業科目												職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号						
	毎週授業コマ数																					
	履修 コード	科目名	クラス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コマ数	備考	合計コマ数										
くすき あつし 楠木 敦(男) 昭和54年4月18日 40歳	3501	入門演習		前	前	月	2	2	0	—	3510でカウント	6.03	講師	平成26年4月1日	平成26年4月1日	平成25年3月 北海道大学院 経済学研究科 現代経済経営専攻 博士後期課程 修了 博士(経済学) 北海道大学						
	3510	経済学入門	経	前	前	月	2	2	178	0.03	1回担当											
	3106	社会思想史	B	通	前	月	4	4	44	—	3418でカウント											
	3418	社会思想史	A	前	前	月	4	2	61	0.50												
	3056	経済思想史		前	前	火	2	4	106	0.50												
	3581	演習I		前	前	木	2	2	13	0.50												
	3812	演習I		通	前	木	4	4	1	—	3621でカウント											
	3621	演習III		前	前	木	4	2	10	0.50												
	3862	演習II		通	前	木	5	4	15	0.50												
	3056	経済思想史		前	前	金	3	4	106	0.50												
	3521	基礎経済学	経A	後	後	月	2	4	62	0.50												
	3106	社会思想史	B	通	後	月	4	4	44	0.50												
	3521	基礎経済学	経A	後	後	水	2	4	62	0.50												
	3601	演習II		後	後	木	2	2	13	0.50												
	3812	演習I		通	後	木	4	4	1	—	3641でカウント											
	3641	演習IV		後	後	木	4	2	10	0.50												
	3862	演習II		通	後	木	5	4	15	0.50												
	わたなべ みる 渡邊 稔(男) 昭和54年9月23日 40歳	3501	入門演習		前	前	月	2	2	0	—						3510でカウント	6.03	講師	平成29年4月1日	平成29年4月1日	平成23年3月 神戸大学 経済学研究科 情報システム分析 博士課程修了 博士(経済学) 神戸大学
		3510	経済学入門	経	前	前	月	2	2	179	0.03						1回担当					
		3052	マクロ経済学	経	通	前	水	1	4	9	—						3203でカウント					
3203		マクロ経済学I	経	前	前	水	1	2	146	0.50												
3583		演習I		前	前	木	2	2	13	0.50												
3814		演習I		通	前	木	4	4	1	—	3623でカウント											
3623		演習III		前	前	木	4	2	16	0.50												
3864		演習II		通	前	木	5	4	14	0.50												
3523		基礎経済学	経C	後	後	月	2	4	111	0.50												
3539		経済数学	経S	後	後	火	4	2	14	0.50												
3540		経済数学	経A	後	後	火	5	2	107	0.50												
3052		マクロ経済学	経	通	後	水	1	4	9	—	3204でカウント											
3204		マクロ経済学II	経	後	後	水	1	2	139	0.50												
3523		基礎経済学	経C	後	後	水	2	4	111	0.50												
3603		演習II		後	後	木	2	2	16	0.50												
3814		演習I		通	後	木	4	4	1	—	3643でカウント											
3643		演習IV		後	後	木	4	2	16	0.50												
3864		演習II		通	後	木	5	4	14	0.50												
しばさき しんや 柴崎 慎也(男) 昭和59年1月22日 36歳		3501	入門演習		前	前	月	2	2	0	—	3510でカウント	5.28	講師	平成31年4月1日	平成31年4月1日	平成29年3月 東京大学大学院 経済学研究科 経済理論専攻 博士課程修了 博士(経済学) 東京大学					
		3510	経済学入門	経	前	前	月	2	2	179	0.03	1回担当										
	3421	経済学特論II		前	前	月	5	2	74	0.25	2人(勝村・柴崎)で分担											
	3584	演習I		前	前	火	2	2	12	0.50												
	3816	演習I		通	前	火	4	4	3	—	3625でカウント											
	3625	演習III		前	前	火	4	2	12	0.50												
	3866	演習II		通	前	火	5	4	2	0.50												
	3237	信用と景気循環		前	前	金	4	4	125	0.50												
	3237	信用と景気循環		前	前	金	5	4	125	0.50												
	3604	演習II		後	後	火	2	2	14	0.50												
	3816	演習I		通	後	火	4	4	3	—	3645でカウント											
	3645	演習IV		後	後	火	4	2	12	0.50												
	3585	演習I		後	後	木	2	2	0	—												
	3059	社会経済史	B	通	後	木	4	4	1	—	3214でカウント											
	3214	現代資本主義論		後	後	木	4	2	137	0.50												
	3551	基礎演習		後	後	金	4	2	3	0.50												
	3605	演習II		後	後	金	4	2	3	—	3551でカウント											
	3866	演習II		通	後	火	5	4	2	0.50												

17 専任教員個別表〔2019年度〕経済学部

(表V-17-3)

ふりがな 氏名(性別)	授業科目												職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号				
	毎週授業コマ数																			
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コマ数	備考	合計コマ数								
おおはら まさあき 大原 昌明(男) 昭和34年6月24日 60歳	9357	会計学演習Ⅱ	／A	前	前	月	2	2	1	0.50	大学院	7.84	教授	平成4年4月1日	昭和63年5月 駒澤大学大学院 商学専攻 博士後期課程 中途退学					
	9387	論文指導Ⅱ	／A	前	前	月	3	2	1	0.50	大学院									
	4006	会計入門	／B	前	前	月	4	2	98	0.50										
	4211	原価計算Ⅰ		前	前	月	5	2	71	0.50										
	4213	管理会計Ⅰ		前	前	火	1	2	40	0.50										
	9321	会計学研究Ⅰ		前	前	火	2	2	1	0.50	大学院									
	4082	専門演習Ⅰ		通年	前	木	4	4	14	0.50										
	5571	演習Ⅱ	／K	通年	前	木	4	4	0	—	4082でカウント									
	4102	専門演習Ⅱ		通年	前	木	5	4	11	0.50										
	5590	演習Ⅲ	／J	通年	前	木	5	4	0	—	4102でカウント									
	4214	管理会計Ⅱ		後	後	月	2	2	22	0.50										
	9402	論文指導Ⅲ	／A	後	後	月	3	2	1	0.50	大学院									
	4016	簿記原理Ⅰ	／B	後	後	月	5	2	93	0.50										
	4212	原価計算Ⅱ		後	後	火	1	2	45	0.50										
	9322	会計学研究Ⅱ		後	後	火	2	2	1	0.50	大学院									
	にしわき りゅうじ 西脇 隆二(男) 昭和35年7月11日 59歳	4051	基礎演習Ⅰ	／A	後	後	水	2	2	1	—					4071でカウント	7.34	教授	平成5年4月1日	平成5年3月 拓殖大学大学院 商学専攻 博士後期課程 単位取得後退学
		4071	基礎演習Ⅱ	／A	後	後	水	2	2	29	0.17					3人(佐藤・大原・黄)で分担				
4052		基礎演習Ⅰ	／B	後	後	木	2	2	0	—	4072でカウント									
4072		基礎演習Ⅱ	／B	後	後	木	2	2	28	0.17	3人(大原・鈴木・韓)で分担									
4082		専門演習Ⅰ		通年	後	木	4	4	14	0.50										
5571		演習Ⅱ	／K	通年	後	木	4	4	0	—	4082でカウント									
4102		専門演習Ⅱ		通年	後	木	5	4	11	0.50										
5590		演習Ⅲ	／J	通年	後	木	5	4	0	—	4102でカウント									
9317		マーケティング論研究Ⅰ		前	前	月	4	2	3	0.50	大学院									
4083		専門演習Ⅰ		通年	前	火	4	4	17	0.50										
すざき かつのり 鈴木 克典(男) 昭和41年4月7日 53歳	4103	専門演習Ⅱ		通年	前	火	5	4	5	0.50		7.67	教授	平成15年4月1日	アクセシビリティ 支援室長					
	4225	広告コミュニケーション論		前	前	木	4	2	40	0.50										
	4005	マーケティングⅠ		前	前	木	5	2	129	0.50										
	4222	流通サービス経営論Ⅰ		前	前	金	1	2	130	0.50										
	9318	マーケティング論研究Ⅱ		後	後	月	4	2	3	0.50	大学院									
	4083	専門演習Ⅰ		通年	後	火	4	4	17	0.50										
	4103	専門演習Ⅱ		通年	後	火	5	4	5	0.50										
	4053	基礎演習Ⅰ	／C	後	後	水	2	2	1	—	4073でカウント									
	4073	基礎演習Ⅱ	／C	後	後	水	2	2	29	0.17	3人(鎌田・松本・西脇)で分担									
	4054	基礎演習Ⅰ	／D	後	後	木	2	2	1	—	4074でカウント									
	4074	基礎演習Ⅱ	／D	後	後	木	2	2	28	0.17	3人(林・黄・西脇)で分担									
	4025	問題解決スキル		後	後	木	3	2	46	0.50										
	4018	マーケティングⅡ		後	後	木	5	2	94	0.50										
	9373	論文指導Ⅰ		後	後	木	6	2	1	0.50	大学院									
	4223	流通サービス経営論Ⅱ		後	後	金	1	2	72	0.50										
	9352	マーケティング論演習Ⅰ	／A	後	後	金	2	2	1	0.50	大学院									
	はん むんひ 韓 文熙(男) 昭和42年5月18日 52歳	9323	情報分析研究Ⅰ		前	前	月	2	2	2	0.50					大学院	5.17	教授	平成21年4月1日	平成17年3月 早稲田大学大学院 商学専攻 博士後期課程 単位取得後退学
4164		情報システム論Ⅰ		前	前	月	4	2	54	0.50										
4084		専門演習Ⅰ		通年	前	火	4	4	16	0.50										
4104		専門演習Ⅱ		通年	前	火	5	4	14	0.50										
8422		情報入門	／情B	前	前	水	1	2	40	0.50										
4012		経営科学		前	前	木	3	2	98	0.50										
9324		情報分析研究Ⅱ		後	後	月	2	2	3	0.50	大学院									
4165		情報システム論Ⅱ		後	後	月	3	2	52	0.50										
4161		意思決定論		後	後	月	5	2	98	0.50										
4049		ビジネスと社会		後	後	月	6	2	76	0.50										
4084		専門演習Ⅰ		通年	後	火	4	4	16	0.50										
4104		専門演習Ⅱ		通年	後	火	5	4	14	0.50										
4052		基礎演習Ⅰ	／B	後	後	木	2	2	0	—	4072でカウント									
4072		基礎演習Ⅱ	／B	後	後	木	2	2	28	0.17	3人(大原・鈴木・韓)で分担									
4144		情報メディア論Ⅱ		後	後	木	4	2	15	—	4177でカウント									
4177		情報と社会		後	後	木	4	2	35	0.50										
9358		情報分析演習Ⅰ	／A	後	後	木	5	2	1	0.50	大学院									
9376	論文指導Ⅰ		後	後	木	6	2	1	0.50	大学院										
はん むんひ 韓 文熙(男) 昭和42年5月18日 52歳	4226	国際マーケティング		前	前	火	3	2	75	0.50		7.67	教授	平成26年4月1日	修士(商学)〔平成13年3月〕 早稲田大学					
	4125	ブランドマネジメント論		前	前	火	5	2	112	0.50										
	9319	消費者行動論研究Ⅰ		前	前	木	3	2	3	0.50	大学院									
	4085	専門演習Ⅰ		通年	前	木	4	4	13	0.50										
	4105	専門演習Ⅱ		通年	前	木	5	4	11	0.50										
	4224	消費者行動論		後	後	月	3	2	127	0.50										
	4126	マーケティング・リサーチ		後	後	月	4	2	24	0.50										
	4052	基礎演習Ⅰ	／B	後	後	木	2	2	0	—	4072でカウント									
	4072	基礎演習Ⅱ	／B	後	後	木	2	2	28	0.17	3人(大原・鈴木・韓)で分担									
	9320	消費者行動論研究Ⅱ		後	後	木	3	2	3	0.50	大学院									
4085	専門演習Ⅰ		通年	後	木	4	4	13	0.50											
4105	専門演習Ⅱ		通年	後	木	5	4	11	0.50											

17 専任教員個別表〔2019年度〕経済学部

(表V-17-3)

ふりがな 氏名(性別)	授業科目											職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号				
	毎週授業コマ数																		
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履修 者数	コマ数	備考					合計コマ数			
はやし ひでひこ 林 秀彦(男) 昭和50年9月1日 44歳	4146	プログラミングⅠ	/A	前	前	月	3	2	22	0.50	7.67	教授	経営情報 学科長	平成15年3月 北陸先端科学技術大学院 知識科学研究科 知識社会システム 学専攻 博士後期課程 修了 博士(知識科学)〔平成15年3月〕 北陸先端科学技術大学					
	4162	ソフトウェア開発論Ⅰ		前	前	火	1	2	22	0.50									
	4123	アプリケーション論		前	前	火	2	2	32	0.50									
	4086	専門演習Ⅰ		通年	前	火	4	4	16	0.50									
	4106	専門演習Ⅱ		通年	前	火	5	4	15	0.50									
	4168	シミュレーション論		前	前	水	2	2	23	0.50									
	4147	プログラミングⅠ	/B	前	前	木	5	2	22	0.50									
	4131	卒業論文		通年	前	土	4	4	4	0.50									
	4151	プログラミングⅡ	/A	後	後	月	3	2	21	0.50									
	4163	ソフトウェア開発論Ⅱ		後	後	火	1	2	22	0.50									
	4086	専門演習Ⅰ		通年	後	火	4	4	16	0.50									
	4106	専門演習Ⅱ		通年	後	火	5	4	15	0.50									
	4068	基礎演習Ⅱ	/B	後	後	水	2	2	8	0.50									
	4054	基礎演習Ⅰ	/D	後	後	木	2	2	1	—					4074でカウント				
	4074	基礎演習	/D	後	後	木	2	2	28	0.17					3人(林・黄・西脇)で分担				
	4152	プログラミングⅡ	/B	後	後	木	5	2	22	0.50									
	4131	卒業論文		通年	後	土	4	4	4	0.50									
	さとう ともあき 佐藤 友暁(男) 昭和47年12月20日 47歳	4155	データベース論		前	前	月	2	2	50					0.50	6.67	教授	総合情報 センター長	平成13年3月 東北大学 大学院 工学研究科 機械知能工学専攻 博士課程 修了 博士(工学)〔平成13年3月〕 東北大学 修士(理学)〔平成10年3月〕 弘前大学
		4122	システム設計論		前	前	月	3	2	27					0.50				
		4121	情報システム管理論		前	前	月	5	2	15					0.50				
4142		情報メディア論Ⅰ	/A	前	前	火	2	2	24	—	4175でカウント								
4175		マルチメディア論	/A	前	前	火	2	2	26	0.50									
4143		情報メディア論Ⅰ	/B	前	前	水	1	2	19	—	4176でカウント								
4176		マルチメディア論	/B	前	前	水	1	2	18	0.50									
4087		専門演習Ⅰ		通年	前	木	4	4	14	0.50									
4107		専門演習Ⅱ		通年	前	木	5	4	14	0.50									
4028		海外実習		通年	前	夏集中	1	2	0	—									
4019		インターネット論	/A	後	後	月	1	2	45	—	4178でカウント								
4178		情報ネットワーク論	/A	後	後	月	1	2	13	0.50									
4030		インターネット論	/B	後	後	月	4	2	20	—	4189でカウント								
4189		情報ネットワーク論	/B	後	後	月	4	2	38	0.50									
4051		基礎演習Ⅰ	/A	後	後	水	2	2	1	—	4071でカウント								
4071		基礎演習	/A	後	後	水	2	2	29	0.17	3人(佐藤・大原・黄)で分担								
4087		専門演習Ⅰ		通年	後	木	4	4	14	0.50									
4107		専門演習Ⅱ		通年	後	木	5	4	14	0.50									
4043		情報処理	/C	後	後	金	1	2	40	0.50									
4048		情報処理	/D	後	後	金	3	2	40	0.50									
4028	海外実習		通年	後	冬集中	1	2	0	—										
こう がぶん 黄 雅雯(女) 昭和55年2月16日 40歳	4045	ビジネスケース		前	前	月	1	2	20	0.50	6.84	准教授	平成27年4月1日 令和2年4月1日	平成22年3月 早稲田大学大学院 商学研究科 商学専攻 修士課程 修了 修士(商学)〔平成22年3月〕 早稲田大学					
	4088	専門演習Ⅰ		通年	前	火	4	4	16	0.50									
	4108	専門演習Ⅱ		通年	前	火	5	4	15	0.50									
	4002	マネジメント入門Ⅰ		前	前	木	3	2	37	—					4008でカウント				
	4008	経営学入門Ⅰ		前	前	木	3	2	93	0.50									
	8830	マネジメント論〔国際〕	/A	前	前	木	4	2	19	0.50									
	8881	マネジメント論A〔国際〕		前	前	木	4	3	4	—					8830でカウント				
	4044	ビジネス英語		前	前	金	4	2	46	0.50									
	4173	経営戦略論Ⅰ		前	前	金	5	2	72	0.50									
	4183	戦略マネジメントⅠ		前	前	金	5	2	22	—					4173でカウント				
	4088	専門演習Ⅰ		通年	後	火	4	4	16	0.50									
	4108	専門演習Ⅱ		通年	後	火	5	4	15	0.50									
	4010	経営学入門Ⅱ		後	後	火	1	2	84	0.50									
	4013	マネジメント入門Ⅱ		後	後	火	1	2	21	—					4010でカウント				
	4051	基礎演習Ⅰ	/A	後	後	水	2	2	1	—					4071でカウント				
	4071	基礎演習	/A	後	後	水	2	2	29	0.17					3人(佐藤・大原・黄)で分担				
	4054	基礎演習Ⅰ	/D	後	後	木	2	2	1	—					4074でカウント				
	4074	基礎演習	/D	後	後	木	2	2	28	0.17					3人(林・黄・西脇)で分担				
	8832	マネジメント論〔国際〕	/B	後	後	木	4	2	7	0.50									
	8882	マネジメント論B〔国際〕		後	後	木	4	3	2	—					8832でカウント				
4124	国際マネジメント		後	後	金	3	2	93	0.50										
4174	経営戦略論Ⅱ		後	後	金	5	2	76	0.50										
4184	戦略マネジメントⅡ		後	後	金	5	2	18	—	4174でカウント									

17 専任教員個別表〔2019年度〕経済学部

(表V-17-3)

ふりがな 氏名(性別)	授業科目												職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号				
	毎週授業コマ数																			
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コマ数	備考	合計コマ数								
かまだ なおや 鎌田 直矢(男) 昭和58年10月9日 36歳	4001	経営情報学Ⅰ		前	前	月	2	2	58	0.50	5.17	講師	平成27年4月1日		平成27年3月 北海道大学大学院 経済学研究科 博士課程 修了					
	4141	情報科学		前	前	火	1	2	52	0.50										
	4089	専門演習Ⅰ		通年	前	木	4	4	13	0.50										
	4109	専門演習Ⅱ		通年	前	木	5	4	4	0.50										
	4011	経営情報学Ⅱ		後	後	月	2	2	57	0.50										
	8506	情報活用Ⅱ	情D	後	後	水	1	2	33	0.50										
	4053	基礎演習Ⅰ	C	後	後	水	2	2	1	—						4073でカウント				
	4073	基礎演習	C	後	後	水	2	2	29	0.17						3人(鎌田・松本・西脇)で分担				
	4089	専門演習Ⅰ		通年	後	木	4	4	13	0.50										
	4109	専門演習Ⅱ		通年	後	木	5	4	4	0.50										
	4041	情報処理	A	後	後	金	1	2	35	0.50										
	4042	情報処理	B	後	後	金	3	2	35	0.50										
	ますだ たつよし 増田 辰良(男) 昭和30年12月6日 64歳	5508	法と経済		前	前	月	3	2	75						0.50	6.00	教授	平成14年4月1日	昭和61年3月 北海道大学大学院 経済学研究科 経済学専攻 博士後期課程 単位取得後退学
		5747	規制と競争の経済学		前	前	火	1	2	37						0.50				
9303		応用経済論研究Ⅰ		前	前	火	4	2	0	—	大学院									
5561		演習Ⅱ	A	通年	前	火	5	4	4	0.50										
5124		経済政策論		通年	前	水	1	4	17	0.50										
3233		産業組織論		前	前	木	3	2	37	0.50										
5541		演習Ⅰ	A	通年	前	木	5	4	8	0.50										
5615		モダン・エコノミクス		後	後	月	3	2	43	0.50										
5741		応用経済学特別講義		後	後	火	2	2	13	0.50										
9304		応用経済論研究Ⅱ		後	後	火	4	2	0	—	大学院									
5561		演習Ⅱ	A	通年	後	火	5	4	4	0.50										
5124		経済政策論		通年	後	水	1	4	17	0.50										
5813		基礎力養成塾Ⅱ	C	後	後	木	2	2	3	0.50										
5541		演習Ⅰ	A	通年	後	木	5	4	8	0.50										
しのだ ゆう 篠田 優(男) 昭和32年12月30日 62歳 サバティカル 2020.4.1~2020.9.13	5671	民法Ⅰ〔民法総則・物権〕		後	後	月	4	4	145	0.50	4.00	教授	平成16年4月1日	昭和62年4月 北海道大学大学院 法学研究科 民法専攻 博士後期課程 単位取得後退学						
	8129	日本国憲法	C	後	後	月	5	2	82	0.50										
	5738	民法Ⅲ〔不法行為〕		後	後	火	1	2	63	0.50										
	5676	民法Ⅵ〔親族〕		後	後	火	2	2	9	0.50										
	5671	民法Ⅰ〔民法総則・物権〕		後	後	水	1	4	145	0.50										
	5737	民法再入門		後	後	木	3	2	13	0.50										
	5562	演習Ⅱ	B	後	後	木	5	4	0	—					演習Ⅱ・Ⅲ合同					
	5581	演習Ⅲ	A	後	後	木	5	4	1	0.50										
	5562	演習Ⅱ	B	後	後	木	6	4	0	—					演習Ⅱ・Ⅲ合同					
	5581	演習Ⅲ	A	後	後	木	6	4	1	0.50										
いわもと いちろう 岩本 一郎(男) 昭和40年4月17日 54歳	5642	憲法Ⅱ〔統治機構〕		前	前	月	3	4	151	0.50	8.00	教授	平成8年4月1日	入学試験セン ター長	平成7年3月 北海道大学大学院 法学研究科 公法専攻 博士後期課程 修了					
	5563	演習Ⅱ	C	通年	前	月	5	4	21	0.50										
	5801	基礎力養成塾Ⅰ	A	前	前	火	3	2	17	0.50										
	8128	日本国憲法	B	前	前	火	5	2	165	0.50										
	5642	憲法Ⅱ〔統治機構〕		前	前	木	4	4	151	0.50										
	5582	演習Ⅲ	B	通年	前	木	5	4	13	0.50										
	8127	日本国憲法	A	前	前	金	1	2	164	0.50										
	5542	演習Ⅰ	B	通年	前	金	2	4	16	0.50										
	5641	憲法Ⅰ〔人権〕		後	後	月	2	4	144	0.50										
	5657	メディア法		後	後	月	3	2	44	0.50										
	5563	演習Ⅱ	C	通年	後	月	5	4	21	0.50										
	5641	憲法Ⅰ〔人権〕		後	後	水	2	4	144	0.50										
	5658	国際人権法		後	後	木	4	2	98	0.50										
	5582	演習Ⅲ	B	通年	後	木	5	4	13	0.50										
	5507	法哲学		後	後	金	1	2	62	0.50										
	5542	演習Ⅰ	B	通年	後	金	2	4	16	0.50										

17 専任教員個別表〔2019年度〕経済学部

(表V-17-3)

ふりがな 氏名(性別)	授業科目												職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号				
	毎週授業コマ数																			
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コマ数	備考	合計コマ数								
あきもり ひろし 秋森 弘(男) 昭和38年7月30日 56歳	8826	日本の金融と経済(国際)	/A	前	前	月	3	2	47	0.50		5.50	教授	平成8年4月1日 平成20年4月1日	経済学部長、 総合研究セン ター長、 経済学研究科 長	平成12年3月 一橋大学大学院 商学研究科 商学専攻 博士課程 単位取得後退学 経済学修士〔平成2年3月〕 北海道大学				
	8881	マネジメント論A(国際)		前	前	月	3	3	4	—	8826でカウント									
	5135	国際金融論		前	前	月	4	2	31	0.50										
	5543	演習Ⅰ	/C	通	前	月	5	4	4	0.50										
	9313	金融・証券論研究Ⅰ		前	前	金	1	2	0	—	大学院									
	5835	証券経済論		前	前	金	2	2	4	0.50										
	5564	演習Ⅱ	/D	通	前	金	4	4	3	0.50										
	5583	演習Ⅲ	/C	通	前	金	4	4	4	—	演習Ⅱ・Ⅲ合同									
	5543	演習Ⅰ	/C	通	後	月	5	4	4	0.50										
	3055	金融論		後	後	火	3	4	130	0.50										
	9314	金融・証券論研究Ⅱ		後	後	金	1	2	0	—	大学院									
	3055	金融論		後	後	金	3	4	130	0.50										
	5564	演習Ⅱ	/D	通	後	金	4	4	3	0.50										
	5583	演習Ⅲ	/C	通	後	金	4	4	4	—	演習Ⅱ・Ⅲ合同									
	5802	基礎力養成熟Ⅰ	/B	後	後	金	5	2	15	0.50										
	5821	証券概論		後	後	金	6	2	44	0.50										
	あだち きよと 足立 清人(男) 昭和43年4月30日 51歳	5736	民法Ⅱ〔債権各論〕		前	前	月	2	4	105	0.50							7.74	教授	平成20年4月1日 平成27年4月1日
5675		民法Ⅴ〔担保物権〕		前	前	月	3	2	46	0.50										
5584		演習Ⅲ	/D	通	前	月	5	4	8	0.50										
5677		民法Ⅶ〔相続〕		前	前	火	3	2	15	0.50										
5544		演習Ⅰ	/D	通	前	火	5	4	8	0.50										
5736		民法Ⅱ〔債権各論〕		前	前	水	2	4	105	0.50										
5721		法学入門		前	前	木	1	2	146	0.17	5回担当(長屋・足立・竹田)									
5803		基礎力養成熟Ⅰ	/C	前	前	木	2	2	11	0.50										
5565		演習Ⅱ	/E	通	前	木	5	4	8	0.50										
5674		民法Ⅳ〔債権総論〕		後	後	月	3	2	59	0.50										
5584		演習Ⅲ	/D	通	後	月	5	4	8	0.50										
8131		法学		後	後	火	3	2	207	0.50										
5544		演習Ⅰ	/D	通	後	火	5	4	8	0.50										
5812		基礎力養成熟Ⅱ	/B	後	後	木	2	2	14	0.50										
5684		金融取引法		後	後	木	3	2	46	0.50										
5565		演習Ⅱ	/E	通	後	木	5	4	8	0.50										
5842		ビジネス法務		後	後	金	2	2	51	0.07	2回担当(萩原・足立・長屋・伊東・林)									
ながや ゆきよ 長屋 幸世(女) 昭和50年4月12日 44歳	7902	法学	/短	前	前	火	1	2	77	0.50		5.66	教授	平成17年4月1日 平成28年4月1日	平成17年3月 北海道大学大学院 法学研究科 法学政治学専攻 博士後期課程 単位取得後退学 修士(法学)〔平成13年3月〕 北海道大学					
	5691	民事訴訟法		前	前	火	2	4	96	0.50										
	5585	演習Ⅲ	/E	通	前	火	5	4	3	0.50										
	5721	法学入門		前	前	木	1	2	146	0.13	4回担当(長屋・足立・竹田)									
	5804	基礎力養成熟Ⅰ	/D	前	前	木	2	2	11	0.50										
	5691	民事訴訟法		前	前	木	3	4	96	0.50										
	5566	演習Ⅱ	/F	通	前	木	5	4	19	0.50										
	5693	倒産処理法		後	後	火	4	2	78	0.50										
	5585	演習Ⅲ	/E	通	後	火	5	4	3	0.50										
	5692	民事執行法		後	後	水	1	2	56	0.50										
	5739	手続法基礎論		後	後	木	2	2	112	0.50										
	5566	演習Ⅱ	/F	通	後	木	5	4	19	0.50										
	5842	ビジネス法務		後	後	金	2	2	51	0.03	1回担当(萩原・足立・長屋・伊東・林)									
	はぎわら こうた 萩原 浩太(男) 昭和34年3月9日 61歳	5141	経済法		後	後	月	1	4	94	0.50						4.20	教授	平成29年4月1日 平成29年4月1日	平成18年3月 一橋大学大学院 国際企業戦略研究科 経営法務コース 修了 修士(経営法)〔平成18年3月〕 東京大学
		5567	演習Ⅱ	/G	後	後	月	5	4	8	0.50									
		5567	演習Ⅱ	/G	後	後	月	6	4	8	0.50									
		5586	演習Ⅲ	/F	後	後	火	4	4	13	0.50									
5586		演習Ⅲ	/F	後	後	火	5	4	13	0.50										
5814		基礎力養成熟Ⅱ	/D	後	後	木	2	2	9	0.50										
5842		ビジネス法務		後	後	金	2	2	51	0.20	6回担当(萩原・足立・長屋・伊東・林)									
5685		知的財産法		後	後	金	3	2	10	—	5843でカウント									
5742		先端法律学特別講義		後	後	金	3	2	6	—	5843でカウント									
5843		知的財産法		後	後	金	3	2	96	0.50										
5141		経済法		後	後	金	4	4	94	0.50										

ふりがな 氏名(性別)	授業科目												職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号				
	毎週授業コマ数																			
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コマ数	備考	合計コマ数								
いとう ますみ 伊東 尚美(女) 昭和41年1月9日 54歳	5682	商法Ⅱ〔会社法〕		前	前	月	1	4	54	0.50		6.07	准教授	平成14年4月1日	経済法 学科長	平成11年3月 北海道大学大学院 法学研究科 民法専攻 博士後期課程 単位取得後退学				
	5545	演習Ⅰ	／E	通	前	前	月	5	4	12	0.50									
	5805	基礎力養成熟Ⅰ	／E	前	前	火	3	2	11	0.50										
	5587	演習Ⅲ	／G	通	前	前	火	5	4	8	0.50									
	5682	商法Ⅱ〔会社法〕		前	前	木	2	4	54	0.50										
	5700	卒業論文		通	前	土	4	4	1	0.50										
	5545	演習Ⅰ	／E	通	後	月	5	4	12	0.50										
	5681	商法Ⅰ〔商法総則・商行為法〕		後	後	火	2	4	127	0.50										
	5839	商法Ⅲ〔手形法・小切手法〕		後	後	火	3	2	38	0.50										
	5587	演習Ⅲ	／G	通	後	火	5	4	8	0.50										
	5681	商法Ⅰ〔商法総則・商行為法〕		後	後	木	1	4	127	0.50										
	5842	ビジネス法務		後	後	金	2	2	51	0.07	2回担当(萩原・足立・長屋・伊東・林)									
	5700	卒業論文		通	後	土	4	4	1	0.50										
	5654	行政法Ⅱ〔行政救済法〕		前	前	月	2	4	58	0.50										
たけだ つねのり 竹田 恒規(男) 昭和49年2月6日 46歳	5546	演習Ⅰ	／F	通	前	月	5	4	19	0.50		5.70	講師	平成14年4月1日	平成14年3月 北海道大学大学院 法学研究科 公法専攻 博士後期課程 単位取得後退学					
	5806	基礎力養成熟Ⅰ	／F	前	前	火	3	2	16	0.50										
	5568	演習Ⅱ	／H	通	前	火	5	4	10	0.50										
	5654	行政法Ⅱ〔行政救済法〕		前	前	水	1	4	58	0.50										
	6148	租税法		前	前	水	2	2	92	0.50										
	5721	法学入門		前	前	木	1	2	146	0.20	6回担当(長屋・足立・竹田)									
	5655	地方自治法		後	後	月	4	2	71	0.50										
	5546	演習Ⅰ	／F	通	後	月	5	4	19	0.50										
	5653	行政法Ⅰ〔行政法総論〕		後	後	火	3	4	134	0.50										
	5568	演習Ⅱ	／H	通	後	火	5	4	10	0.50										
	5653	行政法Ⅰ〔行政法総論〕		後	後	木	3	4	134	0.50										
	5548	演習Ⅰ	／H	通	前	月	5	4	16	0.50										
	5807	基礎力養成熟Ⅰ	／G	前	前	火	3	2	13	0.50										
	5617	経済数学	／法	通	前	火	4	4	4	—	5831でカウント									
たじか ともや 多鹿 智哉(男) 平成2年1月15日 30歳	5831	経済数学基礎		前	前	火	4	2	110	0.50		6.00	講師	平成31年4月1日	平成29年3月 神戸大学 経済学研究科 博士課程修了					
	5589	演習Ⅲ	／I	通	前	火	5	4	2	0.50										
	4031	経済学基礎	／A	前	前	水	1	2	10	0.50	7回×1クラス、8回×1クラス									
	4032	経済学基礎	／B	前	前	水	1	2	17	—	4031でカウント									
	5501	基礎経済学	／A	前	前	水	1	2	50	—	4031でカウント									
	5502	基礎経済学	／B	前	前	水	1	2	92	—	4031でカウント									
	5724	ミクロ経済学	／情法	通	前	木	1	4	9	—	5833でカウント									
	5833	ミクロ経済学Ⅰ	／情法	前	前	木	1	2	100	0.50										
	5570	演習Ⅱ	／J	通	前	木	5	4	11	0.50										
	5724	ミクロ経済学	／情法	通	後	月	2	4	9	—	5834でカウント									
	5834	ミクロ経済学Ⅱ	／情法	後	後	月	2	2	93	0.50										
	5548	演習Ⅰ	／H	通	後	月	5	4	16	0.50										
	5617	経済数学	／法	通	後	火	4	4	4	—	5832でカウント									
	5832	経済数学	／情法	後	後	火	4	2	55	0.50										
	5589	演習Ⅲ	／I	通	後	火	5	4	2	0.50										
	5570	演習Ⅱ	／J	通	後	木	5	4	11	0.50										
	5849	計量経済学	／法	前	前	月	1	4	36	0.50										
	なむ ほちよる 南 ホ Chol(男) 昭和62年2月6日 33歳	5726	証券論		通	前	月	2	4	45	—					3227でカウント	7.00	講師	平成31年4月1日	平成30年3月 九州大学 経済学研究科 経済工学専攻 博士課程修了
		3227	証券論Ⅰ		前	前	月	2	2	53	0.50									
		5727	企業金融論		前	前	月	4	2	68	0.50									
		5569	演習Ⅱ	／I	通	前	月	5	4	12	0.50									
		5588	演習Ⅲ	／H	通	前	火	5	4	2	0.50									
4031		経済学基礎	／A	前	前	水	1	2	10	0.50	7回×1クラス、8回×1クラス									
4032		経済学基礎	／B	前	前	水	1	2	17	—	4031でカウント									
5501		基礎経済学	／A	前	前	水	1	2	50	—	4031でカウント									
5502		基礎経済学	／B	前	前	水	1	2	92	—	4031でカウント									
5849		計量経済学	／法	前	前	木	3	4	36	0.50										
5547		演習Ⅰ	／G	通	前	木	5	4	15	0.50										
5726		証券論		通	後	月	2	4	45	—	3228でカウント									
3228		証券論Ⅱ		後	後	月	2	2	40	0.50										
8828		日本の金融と経済〔国際〕	／B	後	後	月	3	2	15	0.50										
8882		マネジメント論B〔国際〕		後	後	月	3	3	2	—	8828でカウント									
5569		演習Ⅱ	／I	通	後	月	5	4	12	0.50										
5588		演習Ⅲ	／H	通	後	火	5	4	2	0.50										
5815		基礎力養成熟Ⅱ	／E	後	後	木	2	2	16	0.50										
5547		演習Ⅰ	／G	通	後	木	5	4	15	0.50										

ふりがな 氏名(性別)	授業科目												職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号
	毎週授業コマ数															
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コ マ 数	備 考	合計コマ数				
たなせ えりや 棚瀬 江里哉(男) 昭和34年4月5日 60歳	534	英語Ⅰ	経部	前	前	月	2	2	25	0.50		5.00	教授	昭和62年4月1日 平成16年4月1日		平成14年3月 北海道大学大学院 教育学研究科 教育制度専攻 博士後期課程 単位取得後退学 修士(教育学)〔平成10年3月〕 北海道大学
	516	英語Ⅰ	経部	前	前	月	4	2	24	0.50						
	513	英語Ⅰ	経部	前	前	木	4	2	27	0.50						
	523	英語Ⅰ	経部	前	前	金	2	2	20	0.50						
	613	英語Ⅲ	経部	前	前	金	4	2	26	0.50						
	585	英語Ⅱ	社部	後	後	月	2	2	24	0.50						
	567	英語Ⅱ	経部	後	後	月	4	2	25	0.50						
	564	英語Ⅱ	経部	後	後	木	4	2	28	0.50						
	572	英語Ⅱ	経部	後	後	金	2	2	25	0.50						
664	英語Ⅳ	経部	後	後	金	4	2	26	0.50							
おかだ みさを 岡田 みさを(女) 昭和36年1月26日 59歳	8833	日本語ⅣA		前	前	月	1	12	1	0.80	24回	4.10	教授	平成18年4月1日 平成24年4月1日	言語教育 部門長	平成13年9月 米国ミネソタ大学大学院 言語学専攻 博士課程 修了 Ph. D. (言語学博士)
	8833	日本語ⅣA		前	前	月	2	12	1	—	上段でカウント					
	8822	日本社会における言語とジェンダー〔国際〕	A	前	前	月	4	2	6	0.50						
	8887	日本社会における言語とジェンダー〔国際〕	A	前	前	月	4	3	2	—	8822でカウント					
	1975	日本語教授法Ⅰ		前	前	火	4	2	22	0.50						
	1977	日本語教授法Ⅲ		前	前	木	3	2	16	0.50						
	8829	日本語ⅢA		前	前	金	1	12	1	0.80	24回					
	8829	日本語ⅢA		前	前	金	2	12	1	—	上段でカウント					
	8831	日本語ⅢB		後	後	月	1	12	0	—	履修者未定(確定後コマ換算)					
	8831	日本語ⅢB		後	後	月	2	12	0	—	上段でカウント					
	1976	日本語教授法Ⅱ		後	後	火	4	2	22	0.50						
	8824	日本社会における言語とジェンダー〔国際〕	B	後	後	火	5	2	7	0.50						
	8888	日本社会における言語とジェンダー〔国際〕	B	後	後	火	5	3	2	—	8824でカウント					
	ふるや じろう 古谷 次郎(男) 昭和39年3月25日 56歳	8412	情報入門	経B	前	前	月	1	2	39	0.50					
8429		情報入門	法D	前	前	水	2	2	32	0.50						
8404		情報入門	英D	前	前	木	2	2	34	0.50						
8461		情報活用Ⅰ	経A	後	後	月	1	2	39	0.50						
8476		情報活用Ⅰ	計B	後	後	木	3	2	36	0.50						
8486	情報活用Ⅰ	福心	後	後	金	2	2	23	0.50							
ほしの ひろし 星野 宏司(男) 昭和40年5月25日 54歳	8017	運動の科学		前	前	月	1	2	167	0.50		9.25	教授	平成18年4月1日 平成28年4月1日	共通科目 部門長	平成18年3月 北海道大学大学院 教育学研究科 体育学専攻 博士後期課程 単位取得後退学 博士(歯学)〔平成28年3月〕 北海道医療大学
	8015	スポーツ生理学		前	前	月	2	2	150	0.50						
	8084	生涯スポーツⅡ	A	通年	前	月	3	2	19	0.50						
	8081	生涯スポーツⅠ	A	通年	前	月	4	2	44	0.50						
	8021	体育実技Ⅰ	A	通年	前	火	1	2	50	0.50	ソフトボール					
	8051	体育実技Ⅱ	A	通年	前	火	1	2	8	—	8021でカウント					
	8022	体育実技Ⅰ	B	通年	前	火	2	2	51	0.50	ソフトボール					
	8052	体育実技Ⅱ	B	通年	前	火	2	2	11	—	8022でカウント					
	8023	体育実技Ⅰ	C	通年	前	火	3	2	50	0.50	ソフトボール					
	8053	体育実技Ⅱ	C	通年	前	火	3	2	9	—	8023でカウント					
	8091	身体と心の科学演習Ⅰ		前	前	火	4	2	51	0.50						
	8082	生涯スポーツⅠ	B	通年	前	水	1	2	5	0.50						
	8087	スポーツ実技		前	前	水	2	1	10	0.50						
	8014	スポーツ医学		後	後	月	2	2	67	0.50						
	8084	生涯スポーツⅡ	A	通年	後	月	3	2	19	0.50						
	8081	生涯スポーツⅠ	A	通年	後	月	4	2	44	0.50						
	8021	体育実技Ⅰ	A	通年	後	火	1	2	50	0.50	バドミントン					
	8051	体育実技Ⅱ	A	通年	後	火	1	2	8	—	8021でカウント					
	8022	体育実技Ⅰ	B	通年	後	火	2	2	51	0.50	バドミントン					
	8052	体育実技Ⅱ	B	通年	後	火	2	2	11	—	8022でカウント					
	8023	体育実技Ⅰ	C	通年	後	火	3	2	50	0.50	バドミントン					
	8053	体育実技Ⅱ	C	通年	後	火	3	2	9	—	8023でカウント					
	8018	体力育成論		後	後	火	4	2	106	0.25	2人で分担(星野・森田)					
	8082	生涯スポーツⅠ	B	通年	後	水	1	2	5	0.50						
	8089	健康運動実技		後	後	水	2	1	10	0.50						

17 専任教員個別表〔2019年度〕経済学部

(表V-17-3)

ふりがな 氏名(性別)	授業科目												職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号
	毎週授業コマ数															
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コマ数	備考	合計コマ数				
かねこ だいすけ 金子 大輔(男) 昭和49年10月21日 45歳	8406	情報入門	ノコA	前	前	火	2	2	38	0.50		5.00	教授	平成18年4月1日	平成15年3月 名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 教育学専攻 博士後期課程 単位取得後退学 修士(教育学)〔平成11年3月〕 名古屋大学	
	2045	メディアコミュニケーション		前	前	火	3	2	5	—	2064でカウント					
	2064	マルチメディア論		前	前	火	3	2	43	0.50						
	8426	情報入門	ノ法A	前	前	水	2	2	35	0.50						
	8402	情報入門	ノ英B	前	前	木	2	2	36	0.50						
	8433	情報入門	ノ計C	前	前	木	3	2	39	0.50						
	8471	情報活用I	ノ法A	後	後	火	1	2	38	0.50						
	8466	情報活用I	ノ情B	後	後	水	1	2	33	0.50						
	8535	ソフトウェア基礎		後	後	水	2	2	27	0.50						
	8491	情報活用II	ノ英C	後	後	木	2	2	34	0.50						
	8515	情報活用II	ノ計C	後	後	木	3	2	23	0.50						
	941	韓国語と文化		前	前	月	2	2	24	0.50						
	822	韓国語III	文部	前	前	月	4	2	21	0.50						
	8194	韓国・朝鮮の文化		前	前	月	5	2	22	0.50						
	944	上級韓国語I		前	前	水	1	2	26	0.50						
955	外国語演習[韓国語]		通年	前	木	2	4	5	0.50							
821	韓国語III	文部	前	前	木	4	2	21	0.50							
943	海外事情	韓国	夏集中	前	夏集中	1	2	12	0.50							
813	韓国語II	経部	後	後	火	2	2	23	0.50							
834	韓国語IV	経部	後	後	火	4	2	30	0.50							
946	上級韓国語II		後	後	水	1	2	10	0.50							
955	外国語演習[韓国語]		通年	後	木	2	4	5	0.50							
831	韓国語IV	文部	後	後	木	4	2	15	0.50							
8636	日本語表現I	ノ計B	前	前	月	3	2	24	0.50		6.00	准教授	平成31年4月1日	平成19年11月 北海道大学大学院 文学研究科 歴史地域文化学専攻 博士課程 修了 博士(文学)〔平成20年3月〕 北海道大学		
8603	日本語表現I	ノ英C	前	前	月	4	2	21	0.50							
8645	日本語表現I	ノ福心	前	前	火	1	2	22	0.50							
8171	日本の文化I	ノA	前	前	木	4	2	137	—	8179でカウント						
8179	日本の文化	ノA	前	前	木	4	2	25	0.50							
8227	地域と世界基礎演習I		前	前	金	4	2	86	0.50							
8584	教養演習I	ノD	前	前	金	4	2	23	—	8227でカウント						
1981	ジャパニーズ・リテラチャー	ノA	前	前	金	5	3	3	—	8803でカウント						
8803	日本のサブカルチャー	ノA	前	前	金	5	2	53	0.50							
8856	日本の文学[国際]	ノA	前	前	金	5	3	2	—	8803でカウント						
8682	日本語表現II	ノ計B	後	後	月	3	2	24	0.50							
8653	日本語表現II	ノ英C	後	後	月	4	2	21	0.50							
8691	日本語表現II	ノ福心	後	後	火	1	2	24	0.50							
8173	日本の文化I	ノC	後	後	木	3	2	25	—	8193でカウント						
8193	日本の文化	ノC	後	後	木	3	2	45	0.50							
8172	日本の文化I	ノB	後	後	木	4	2	66	—	8180でカウント						
8180	日本の文化	ノB	後	後	木	4	2	99	0.50							
8228	地域と世界基礎演習II		後	後	金	4	2	21	0.50							
8594	教養演習II	ノD	後	後	金	4	2	15	—	8228でカウント						
8231	聖書の思想と文化I	ノA	前	前	月	3	2	165	0.50		6.00	准教授	平成29年4月1日	平成24年5月 テュービンゲン大学 プロテスタント神学部 博士課程修了 博士(神学)〔平成24年5月〕 テュービンゲン大学		
8281	宗教と文化演習I		前	前	月	5	2	20	0.50							
8211	ヨーロッパの文化I	ノA	前	前	火	1	2	78	—	8218でカウント						
8218	ヨーロッパの文化	ノA	前	前	火	1	2	76	0.50							
8232	聖書の思想と文化I	ノB	前	前	火	3	2	140	0.50							
8233	聖書の思想と文化I	ノC	前	前	火	5	2	140	0.50							
8234	聖書の思想と文化I	ノD	前	前	金	1	2	139	0.50							
8235	聖書の思想と文化II	ノA	後	後	月	3	2	165	0.50							
8285	宗教と文化演習II		後	後	月	5	2	11	0.50							
8212	ヨーロッパの文化I	ノB	後	後	火	1	2	24	—	8219でカウント						
8219	ヨーロッパの文化	ノB	後	後	火	1	2	114	0.50							
8236	聖書の思想と文化II	ノB	後	後	火	3	2	165	0.50							
8237	聖書の思想と文化II	ノC	後	後	火	5	2	136	0.50							
8238	聖書の思想と文化II	ノD	後	後	金	1	2	120	0.50							

17 専任教員個別表〔2019年度〕経済学部

(表V-17-3)

ふりがな 氏名(性別)	授業科目												職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号				
	毎週授業コマ数																			
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コ マ 数	備 考	合 計 コ マ 数								
ますだ よしずみ 増田 好純(男) 昭和50年11月20日 44歳	701	ドイツ語Ⅰ	／文部	前	前	月	1	2	22	0.50		5.50	准教授	平成31年4月1日	博士(学術) 東京大学					
	911	ドイツ語と文化	／	前	前	火	2	2	29	0.50										
	952	外国語演習[ドイツ語]	／	通年	前	木	2	4	6	0.50										
	721	ドイツ語Ⅲ	／文部	前	前	木	4	2	22	0.50										
	703	ドイツ語Ⅰ	／経部	前	前	金	2	2	24	0.50										
	723	ドイツ語Ⅲ	／経部	前	前	金	4	2	12	0.50										
	711	ドイツ語Ⅱ	／文部	後	後	月	1	2	25	0.50										
	952	外国語演習[ドイツ語]	／	通年	後	木	2	4	6	0.50										
	731	ドイツ語Ⅳ	／文部	後	後	木	4	2	23	0.50										
	713	ドイツ語Ⅱ	／経部	後	後	金	2	2	28	0.50										
	733	ドイツ語Ⅳ	／経部	後	後	金	4	2	12	0.50										
	913	海外事情	／ドイツ	冬集中	後	冬集中	1	2	0	***	履修者未定(確定後コマ換算)									
	しん うんじん 申 恩真(女) 昭和63年2月28日 32歳	8021	体育実技Ⅰ	／A	通年	前	火	1	2	50	0.50					サッカー	9.50	講師	令和2年4月1日	令和2年9月 北海道大学大学院 教育学院 教育学 博士後期課程 単位取得後退学
		8051	体育実技Ⅱ	／A	通年	前	火	1	2	8	—					8021でカウント				
8022		体育実技Ⅰ	／B	通年	前	火	2	2	50	0.50	サッカー									
8052		体育実技Ⅱ	／B	通年	前	火	2	2	9	—	8022でカウント									
8023		体育実技Ⅰ	／C	通年	前	火	3	2	49	0.50	サッカー									
8053		体育実技Ⅱ	／C	通年	前	火	3	2	9	—	8023でカウント									
8024		体育実技Ⅰ	／D	通年	前	水	1	2	30	0.50	テニス									
8054		体育実技Ⅱ	／D	通年	前	水	1	2	8	—	8024でカウント									
8025		体育実技Ⅰ	／E	通年	前	水	2	2	30	0.50	テニス									
8055		体育実技Ⅱ	／E	通年	前	水	2	2	10	—	8025でカウント									
8028		体育実技Ⅰ	／H	通年	前	木	3	2	50	0.50	サッカー									
8058		体育実技Ⅱ	／H	通年	前	木	3	2	10	—	8028でカウント									
8029		体育実技Ⅰ	／I	通年	前	金	1	2	30	0.50	テニス									
8059		体育実技Ⅱ	／I	通年	前	金	1	2	5	—	8029でカウント									
7933		スポーツⅠ	／Y	前	前	金	1	1	10	—	上段でカウント									
8031		体育実技Ⅰ	／J	通年	前	金	2	2	31	0.50	テニス									
8061		体育実技Ⅱ	／J	通年	前	金	2	2	8	—	8031でカウント									
7934		スポーツⅠ	／Z	前	前	金	2	1	19	—	上段でカウント									
8032		体育実技Ⅰ	／K	通年	前	金	3	2	0	—										
8062		体育実技Ⅱ	／K	通年	前	金	3	2	0	—										
8021		体育実技Ⅰ	／A	通年	後	火	1	2	49	0.50										
8051		体育実技Ⅱ	／A	通年	後	火	1	2	8	0.50										
8024		体育実技Ⅰ	／D	通年	後	水	1	2	30	0.50	卓球									
8054		体育実技Ⅱ	／D	通年	後	水	1	2	8	—	8024でカウント									
8025		体育実技Ⅰ	／E	通年	後	水	2	2	30	0.50	卓球									
8055		体育実技Ⅱ	／E	通年	後	水	2	2	10	—	8025でカウント									
8026		体育実技Ⅰ	／F	通年	後	木	1	2	50	0.50	卓球									
8056		体育実技Ⅱ	／F	通年	後	木	1	2	11	—	8026でカウント									
8027		体育実技Ⅰ	／G	通年	後	木	2	2	50	0.50	卓球									
8057		体育実技Ⅱ	／G	通年	後	木	2	2	9	—	8027でカウント									
8028		体育実技Ⅰ	／H	通年	後	木	3	2	50	0.50	卓球									
8058		体育実技Ⅱ	／H	通年	後	木	3	2	10	—	8028でカウント									
8029		体育実技Ⅰ	／I	通年	後	金	1	2	30	0.50	卓球									
8059		体育実技Ⅱ	／I	通年	後	金	1	2	5	—	8029									
7937		スポーツⅡ	／Y	後	後	金	1	1	9	—	上段でカウント									
8031		体育実技Ⅰ	／J	通年	後	金	2	2	31	0.50	卓球									
8061		体育実技Ⅱ	／J	通年	後	金	2	2	8	—	8031									
7938		スポーツⅡ	／Z	後	後	金	2	1	13	—	上段でカウント									
8032		体育実技Ⅰ	／K	通年	後	金	3	2	0	—										
8062		体育実技Ⅱ	／K	通年	後	金	3	2	0	—										
7908		健康の科学		後	後	火	1	2	52	0.50										
8093		身体と心の科学演習Ⅱ		後	後	火	4	2	20	0.50										

17 専任教員個別表〔2019年度〕経済学部

(表V-17-3)

ふりがな 氏名(性別)	授業科目												職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号						
	毎週授業コマ数																					
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コマ数	備考	合計コマ数										
ひらい ひろかず 平井 廣一(男) 昭和29年1月21日 66歳	3501	入門演習		前	前	月	2	2	0	—	3510でカウント	5.03	教授	昭和58年4月1日 平成7年4月1日	1回担当	昭和57年3月 北海道大学大学院 経済学研究科 経済学専攻 博士課程 単位取得後退学 博士(経済学)〔平成8年3月〕 北海道大学						
	3510	経済学入門	経	前	前	月	2	2	179	0.03	1回担当											
	3104	日本経済史		前	前	月	5	4	15	0.50												
	3571	演習I		前	前	火	2	2	10	0.50												
	3801	演習I		通年	前	火	4	4	1	—	3611でカウント											
	3611	演習III		前	前	火	4	2	4	0.50												
	3851	演習II		通年	前	火	5	4	15	0.50												
	3104	日本経済史		前	前	水	5	4	13	0.50												
	8806	日本の歴史〔国際〕	B	後	後	月	5	2	3	0.50												
	3591	演習II		後	後	火	2	2	10	0.50												
	3136	日本史	経部	通年	後	火	3	4	5	—	3404でカウント											
	3404	日本史II〔近現代〕	経部	後	後	火	3	2	21	0.50												
	3801	演習I		通年	後	火	4	4	1	—	3631でカウント											
	3631	演習IV		後	後	火	4	2	3	0.50												
	3851	演習II		通年	後	火	5	4	3	0.50												
	なかむら かずひろ 中村 一浩(男) 昭和28年1月6日 67歳	3501	入門演習		前	前	月	2	2	0	—						3510でカウント	6.03	教授	昭和59年4月1日 平成7年4月1日	1回担当	昭和59年3月 早稲田大学大学院 商学研究科 商学専攻 経営経済専修 博士課程 単位取得後退学 法学修士〔昭和52年3月〕 文学修士〔昭和54年3月〕 早稲田大学
		3510	経済学入門	経	前	前	月	2	2	179	0.03						1回担当					
3138		世界史II		通年	前	月	5	4	70	0.50												
3107		社会政策論		前	前	火	5	4	36	0.50												
3107		社会政策論		前	前	水	5	4	36	0.50												
3572		演習I		前	前	木	2	2	11	0.50												
3802		演習I		通年	前	木	4	4	0	—	3612でカウント											
3612		演習III		前	前	木	4	2	11	0.50												
3852		演習II		通年	前	木	5	4	12	0.50												
3138		世界史II		通年	後	月	5	4	70	0.50												
3057		労働経済論		後	後	火	5	4	25	0.50												
3057		労働経済論		後	後	水	5	4	25	0.50												
3592		演習II		後	後	木	2	2	11	0.50												
3802		演習I		通年	後	木	4	4	0	—	3632でカウント											
3632		演習IV		後	後	木	4	2	11	0.50												
3852		演習II		通年	後	木	5	4	12	0.50												
たけのうち まさき 竹野内 真樹(男) 昭和25年8月31日 69歳		3501	入門演習		前	前	月	2	2	0	—	3510でカウント	4.53	教授	平成29年4月1日 平成29年4月1日	1回担当	昭和54年3月 東京大学大学院 経済学研究科 応用経済学 博士課程 単位取得後退学 修士(経済学)〔昭和54年3月〕 東京大学					
	3510	経済学入門	経	前	前	月	2	2	179	0.03	1回担当											
	3238	国際経済学I		前	前	月	3	2	157	0.50												
	3091	国際経済学		通年	前	月	3	4	61	—	3238でカウント											
	3546	現代の国際社会	B	前	前	火	1	2	68	0.50												
	3624	演習III		前	前	火	4	2	3	0.50												
	3815	演習I		通年	前	火	4	4	0	—	3624でカウント											
	3865	演習II		通年	前	火	5	4	6	0.50												
	3705	時事英語		前	前	水	2	2	6	—	3731でカウント											
	3731	時事英語I		前	前	水	2	2	8	0.50												
	3091	国際経済学		通年	後	月	3	4	56	—	3239でカウント											
	3239	国際経済学II		後	後	月	3	2	106	0.50												
	3815	演習I		通年	後	火	4	4	0	—												
	3644	演習IV		後	後	火	4	2	3	0.50												
	3865	演習II		通年	後	火	5	4	6	0.50												
	8840	国際経済〔国際〕		後	後	水	5	2	4	0.50												
	8874	日欧(経済)関係〔国際〕		後	後	水	5	3	3	—	8840でカウント											

17 専任教員個別表〔2019年度〕経済学部

(表V-17-3)

ふりがな 氏名(性別)	授業科目											職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号
	毎週授業コマ数														
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コマ数	備考				
まつもと こういちろう 松本 康一郎(男) 昭和29年3月16日 66歳	8761	国際交流特別講義A		前	前	水	4	2	14	0.50	6.67	教授	平成19年4月1日	昭和57年3月 神戸商科大学大学院 経営学研究科 経営学専攻 博士課程 単位取得後退学	
	4201	簿記原理II		前	前	木	2	2	76	0.50					
	4081	専門演習I		通	前	木	4	4	4	0.50					
	5572	演習II	/L	通	前	木	4	4	0	-					
	4101	専門演習II		通	前	木	5	4	3	0.50					
	5591	演習III	/K	通	前	木	5	4	0	-					
	4066	基礎演習II	/A	前	前	金	2	2	2	0.50					
	4215	国際会計I		前	前	金	3	2	23	0.50					
	4004	会計入門	/A	前	前	金	4	2	109	0.50					
	4053	基礎演習I	/C	後	後	水	2	2	1	4073でカウント					
	4073	基礎演習	/C	後	後	水	2	2	29	0.17 3人(鎌田・松本・西脇)で分担					
	4204	簿記原理III		後	後	木	2	2	40	0.50					
	4081	専門演習I		通	後	木	4	4	4	0.50					
	5572	演習II	/L	通	後	木	4	4	0	4081でカウント					
	4101	専門演習II		通	後	木	5	4	3	0.50					
	5591	演習III	/K	通	後	木	5	4	0	4101でカウント					
	4180	財務会計II		後	後	金	2	2	29	0.50					
	4207	会計学II		後	後	金	2	2	14	4180でカウント					
	4216	国際会計II		後	後	金	3	2	5	0.50					
	4015	簿記原理I	/A	後	後	金	4	2	98	0.50					
やまが てつお 山我 哲雄(男) 昭和26年5月5日 68歳	8242	キリスト教の歴史と文化I	/B	前	前	月	2	2	27	-	6.00	教授	平成2年4月1日	昭和61年3月 早稲田大学大学院 文学研究科 哲学専攻 博士後期課程 単位取得後退学	
	8288	キリスト教の歴史I	/B	前	前	月	2	2	123	0.50					
	8241	キリスト教の歴史と文化I	/A	前	前	月	4	2	23	-					
	8287	キリスト教の歴史I	/A	前	前	月	4	2	125	0.50					
	8243	キリスト教の歴史と文化I	/C	前	前	火	4	2	34	-					
	8289	キリスト教の歴史I	/C	前	前	火	4	2	176	0.50					
	9214	キリスト教文化論特殊研究		前	前	火	5	2	3	0.50					
	8277	イスラム教の思想と文化		前	前	水	4	2	166	0.50					
	8244	キリスト教の歴史と文化I	/D	前	前	木	2	2	28	-					
	8290	キリスト教の歴史I	/D	前	前	木	2	2	135	0.50					
	8141	世界の近現代史I		前	前	木	4	2	100	0.50					
	8558	現代世界の歴史〔西洋〕		前	前	木	4	2	103	-					
	8246	キリスト教の歴史と文化II	/B	後	後	月	2	2	22	-					
	8298	キリスト教の歴史II	/B	後	後	月	2	2	142	0.50					
	8245	キリスト教の歴史と文化II	/A	後	後	月	4	2	18	-					
	8297	キリスト教の歴史II	/A	後	後	月	4	2	129	0.50					
	8247	キリスト教の歴史と文化II	/C	後	後	火	4	2	15	-					
	8299	キリスト教の歴史II	/C	後	後	火	4	2	125	0.50					
	8248	キリスト教の歴史と文化II	/D	後	後	水	4	2	9	-					
	8300	キリスト教の歴史II	/D	後	後	水	4	2	144	0.50					
8255	比較宗教学		後	後	金	5	2	103	0.50						
みやざわ てるえ 宮澤 照恵(女) 昭和28年11月26日 66歳	8635	日本語表現I	/計A	前	前	月	3	2	24	0.50	4.00	教授	平成2年4月1日	平成2年3月 北海道大学大学院 文学研究科 国文学専攻 博士後期課程 単位取得後退学	
	8283	人文科学基礎演習I		前	前	火	3	2	37	0.50					
	8581	教養演習I	/A	前	前	火	3	2	8	-					
	8628	日本語表現I	/法A	前	前	火	5	2	19	0.50					
	8621	日本語表現I	/情A	前	前	木	4	2	16	0.50					
	8681	日本語表現II	/計A	後	後	月	3	2	25	0.50					
	8284	人文科学基礎演習II	/A	後	後	火	3	2	21	0.50					
	8591	教養演習II	/A	後	後	火	3	2	2	-					
	8678	日本語表現II	/法	後	後	火	5	2	13	0.50					
	1654	日本文化特講B		後	後	水	4	2	12	-					
8671	日本語表現II	/情A	後	後	木	4	2	19	0.50						
なかや あきら 中屋 晃(男) 昭和27年5月5日 67歳	507	英語I	/コB	前	前	月	1	2	27	0.50	5.00	教授	平成3年4月1日	昭和55年12月 米国アリゾナ大学大学院 英語教育科 修士課程 修了	
	514	英語I	/経済	前	前	月	4	2	28	0.50					
	515	英語I	/経済	前	前	木	4	2	23	0.50					
	524	英語I	/経部	前	前	金	2	2	19	0.50					
	608	英語III	/経部	前	前	金	4	2	28	0.50					
	558	英語II	/コC	後	後	月	1	2	26	0.50					
	563	英語II	/経済	後	後	月	4	2	27	0.50					
	567	英語II	/経済	後	後	木	4	2	25	0.50					
	571	英語II	/経部	後	後	金	2	2	25	0.50					
	659	英語IV	/経部	後	後	金	4	2	28	0.50					

17 専任教員個別表〔2019年度〕経済学部

(表V-17-3)

ふりがな 氏名(性別)	授業科目											職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼担、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号	
	毎週授業コマ数															
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コ マ 数	備 考					合計コマ数
やぶき てつお 矢吹 哲夫(男) 昭和28年1月23日 67歳	8115	環境と人間 I	/A	前	前	火	3	2	229	0.50		6.00	教授	平成30年4月1日 平成30年4月1日		平成6年3月 北海道大学大学院 理学研究科 素粒子理論専攻 博士課程 単位取得後退学 博士(理学)〔平成12年9月〕
	8309	自然・数理学基礎演習 I		前	前	火	5	2	18	0.50						
	8582	教養演習I	/B	前	前	火	5	2	2	-	8309でカウント					
	8111	生命の科学 I	/A	前	前	水	2	2	166	0.50						
	8145	統計学 I	/A	前	前	水	4	2	14	-	8149でカウント					
	8149	統計学	/A	前	前	水	4	2	56	0.50						
	8307	数学	/A	前	前	木	3	2	31	0.50						
	8314	数学 I	/A	前	前	木	3	2	38	-	8307でカウント					
	8117	環境と人間 I	/B	前	前	木	5	2	142	0.50						
	7924	環境の科学		後	後	火	3	2	23	0.50						
	8317	数学 II		後	後	火	5	2	24	0.50						
	8146	統計学 I	/B	後	後	水	2	2	21	-	8150でカウント					
	8150	統計学	/B	後	後	水	2	2	45	0.50						
	8308	数学	/B	後	後	水	4	2	38	0.50						
	8315	数学 I	/B	後	後	水	4	2	40	-	8308でカウント					
	8112	生命の科学 I	/B	後	後	木	3	2	147	0.50						
	8310	自然・数理学基礎演習 II		後	後	木	5	2	4	0.50						
	8592	教養演習 II	/B	後	後	木	5	2	0	-	8310でカウント					

ふりがな 氏名(性別)	授業科目												職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号								
	毎週授業コマ数																							
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コ マ 数	備 考	合 計 コ マ 数												
うるりけ ねんしゅていーる ウルリケ・ネンシュティール(女) 昭和36年3月4日 59歳	6103	ジェンダー論	/計	前	前	月	4	2	107	0.50		4.84	教授	平成8年4月1日 平成17年4月1日	Ph. D. (哲学博士)	平成8年1月 独国ボン大学大学院 哲学研究科 日文学専攻 博士後期課程 修了								
	6251	海外の福祉制度		前	前	月	5	2	80	0.07	2回担当													
	6253	国際比較福祉論		前	前	木	2	2	46	0.50	コーディネーター													
	6211	専門演習Ⅰ		前	前	木	3	2	9	0.50														
	6101	福祉計画概説		前	前	木	5	2	106	0.27	8回ゼミ形式、学科専任7人で担当													
	9034	社会的弱者研究		前	前	木	6	2	0	—	大学院													
	6231	専門演習Ⅲ		前	前	金	4	2	7	0.50														
	6171	卒業論文		通年	前	金	5	6	8	0.50														
	1984	ジャパニーズ・カルチャー	/B	後	後	水	2	3	4	—	8782でカウント													
	8782	比較文化〔国際〕	/B	後	後	水	2	2	2	0.50														
	8868	日本の文化〔国際〕	/B	後	後	水	2	3	0	—	8782でカウント													
	6221	専門演習Ⅱ		後	後	木	3	2	9	0.50														
	6241	専門演習Ⅳ		後	後	金	4	2	8	0.50														
	6171	卒業論文		通年	後	金	5	6	4	0.50														
	あべ まさひと 安部 雅仁(男) 昭和36年9月19日 58歳	6251	海外の福祉制度		前	前	月	5	2	80	0.07						2回担当	5.67	教授	平成16年4月1日 平成20年4月1日	平成7年3月 東北学院大学大学院 経済学研究科 経済学専攻 博士後期課程 修了	博士(経済学) 東北学院大学		
		6110	福祉財政論		前	前	水	2	2	80	0.50													
		6253	国際比較福祉論		前	前	木	2	2	46	0.10						3回担当							
6212		専門演習Ⅰ		前	前	木	3	2	16	0.50														
6101		福祉計画概説		前	前	木	5	2	116	0.27	8回ゼミ形式、学科専任7人で担当													
3230		医療経済学	/経	前	前	金	2	2	11	0.50														
6232		専門演習Ⅲ		前	前	金	4	2	13	0.50														
6172		卒業論文		通年	前	金	5	6	12	0.50														
6590		福祉行財政と福祉計画		後	後	月	1	2	101	0.23	7回担当													
6591		社会保険論Ⅰ	/A	後	後	月	5	2	131	0.50														
9031		社会保険財政研究		後	後	月	6	2	0	—	大学院													
6202		医療経済学	/計	後	後	木	2	2	30	0.50														
6222		専門演習Ⅱ		後	後	木	3	2	16	0.50														
6242		専門演習Ⅳ		後	後	金	4	2	13	0.50														
6172		卒業論文		通年	後	金	5	6	12	0.50														
おかだ なおと 岡田 直人(男) 昭和43年10月5日 51歳		6032	地域福祉論	/A	前	前	月	1	2	50	0.50		9.07	教授	平成20年4月1日 平成25年4月1日	キャリアデザ インセンター 長	平成8年3月 大阪市立大学大学院 生活科学研究科 人間福祉学専攻 前期博士課程 修了						修士(学術) 大阪市立大学	
		9011	地域福祉研究		前	前	月	4	2	1	0.50	大学院												
	6251	海外の福祉制度		前	前	月	5	2	80	0.07	2回担当													
	6562	相談援助実習指導Ⅱ	/B	前	前	火	5	2	13	0.50														
	6771	ケアマネジメント実践論		前	前	水	1	2	9	0.50														
	6213	専門演習Ⅰ		前	前	木	3	2	16	0.50														
	6531	相談援助演習Ⅰ	/A	通年	前	木	5	3	11	0.50														
	6541	相談援助演習Ⅱ	/A	通年	前	木	6	2	13	0.50														
	6113	ケアマネジメント論		前	前	金	2	2	70	0.50														
	6233	専門演習Ⅲ		前	前	金	4	2	12	0.50														
	6173	卒業論文		通年	前	金	5	6	5	0.50														
	6024	コミュニケーション論	/A	後	後	火	3	2	99	0.50														
	6572	相談援助実習指導Ⅲ	/B	後	後	火	5	2	16	0.50														
	6223	専門演習Ⅱ		後	後	木	3	2	16	0.50														
	6531	相談援助演習Ⅰ	/A	通年	後	木	4	3	11	0.50														
	6531	相談援助演習Ⅰ	/A	通年	後	木	5	3	12	0.50														
	6541	相談援助演習Ⅱ	/A	通年	後	木	6	2	13	0.50														
	6243	専門演習Ⅳ		後	後	金	4	2	12	0.50														
	6173	卒業論文		通年	後	金	5	6	5	0.50														
	さはし かつひこ 佐橋 克彦(男) 昭和49年3月8日 46歳	6251	海外の福祉制度		前	前	月	5	2	80	0.07	2回担当						5.51	教授	平成16年4月1日 平成29年4月1日	福祉計画 学科長	平成15年3月 北星学園大学大学院 社会福祉学研究科 社会福祉学専攻 博士後期課程 単位取得後退学		博士(社会福祉学)〔平成16年9月〕 北星学園大学
		9001	社会福祉原理研究		前	前	月	6	2	1	0.50	大学院												
6253		国際比較福祉論		前	前	木	2	2	46	0.10	3回担当													
6214		専門演習Ⅰ		前	前	木	3	2	11	0.50														
6101		福祉計画概説		前	前	木	5	2	116	0.27	8回ゼミ形式、学科専任7人で担当													
6004		社会福祉概説		通年	前	金	1	4	207	0.50														
6234		専門演習Ⅲ		前	前	金	4	2	9	0.50														
6174		卒業論文		通年	前	金	5	6	4	0.50														
6239		専門演習Ⅲ	/B	前	前	土	4	2	0	—														
6590		福祉行財政と福祉計画		後	後	月	1	2	101	0.07	2回担当													
6122		福祉計画論Ⅱ		後	後	月	4	2	100	0.50														
6224		専門演習Ⅱ		後	後	木	3	2	11	0.50														
6004		社会福祉概説		通年	後	金	1	4	207	0.50														
6244		専門演習Ⅳ		後	後	金	4	2	9	0.50														
6174		卒業論文		通年	後	金	5	6	4	0.50														

ふりがな 氏名(性別)	授業科目												職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号					
	毎週授業コマ数																				
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コ マ 数	備 考	合 計 コ マ 数									
いとう しんいちろう 伊藤 新一郎(男) 昭和54年10月19日 40歳	6121	福祉計画論Ⅰ		前	前	月	4	2	117	0.50	7.57	教授	平成21年4月1日 平成31年4月1日		平成19年3月 北星学園大学大学院 社会福祉学専攻 博士後期課程 単位取得後退学 修士(社会福祉学)〔平成16年3月〕 北星学園大学						
	6561	相談援助実習指導Ⅱ	/A	前	前	火	5	2	15	0.50											
	6253	国際比較福祉論		前	前	木	2	2	46	0.10						3回担当					
	6215	専門演習Ⅰ		前	前	木	3	2	16	0.50											
	6101	福祉計画概説		前	前	木	5	2	116	0.27						8回ゼミ形式、学科専任7人で担当					
	6118	福祉国家論		前	前	金	2	2	49	0.50											
	6235	専門演習Ⅲ		前	前	金	4	2	18	0.50											
	6175	卒業論文		通年	前	金	5	6	13	0.50											
	6581	相談援助実習		通年	前	土	5	6	91	0.50											
	6590	福祉行財政と福祉計画		後	後	月	1	2	101	0.20						6回担当					
	6592	社会保障論Ⅰ	/B	後	後	月	4	2	97	0.50											
	6571	相談援助実習指導Ⅲ	/A	後	後	火	5	2	16	0.50											
	6225	専門演習Ⅱ		後	後	木	3	2	16	0.50											
	9003	福祉政策研究		後	後	木	5	2	1	0.50						大学院					
	6245	専門演習Ⅳ		後	後	金	4	2	13	0.50											
	6175	卒業論文		通年	後	金	5	6	13	0.50											
	6581	相談援助実習		通年	後	土	5	6	91	0.50											
	なかた ともお 中田 知生(男) 昭和38年8月30日 56歳	6150	社会福祉調査実習		通年	前	月	3	6	5						0.50	6.00	准教授	平成6年4月1日 平成13年4月1日		平成3年3月 北海道大学大学院 文学研究科 行動科学専攻 博士後期課程 中途退学 文学修士〔平成2年3月〕 北海道大学
		6150	社会福祉調査実習		通年	前	月	4	6	5						0.50					
		6026	社会福祉調査論	/福祉	前	前	月	5	2	130						0.50					
6108		福祉社会学		前	前	木	1	2	94	0.50											
6101		福祉計画概説		前	前	木	5	2	116	0.50	コーディネーター、8回ゼミ形式、学科専任7人で担当										
6107		社会調査法		前	前	金	3	2	23	0.50											
6254		福祉計画インターンシップ		前	前	金	5	2	10	0.50											
6150		社会福祉調査実習		通年	後	月	3	6	5	0.50											
6150		社会福祉調査実習		通年	後	月	4	6	5	0.50											
6106		社会調査入門		後	後	木	4	2	33	0.50											
9022		量的調査研究		後	後	木	6	2	2	0.50	大学院										
6114		社会福祉調査方法論		後	後	金	4	2	9	0.50											
6252		海外福祉計画実習		後	後	土	1	2	0	—											
まつおか よしのぶ 松岡 是伸(男) 昭和55年11月14日 39歳		6181	コミュニティワーク実習		通年	前	月	1	6	14	0.50	7.52	准教授	平成29年4月1日 平成31年4月1日	平成26年3月 日本社会事業大学 大学院 社会福祉学専攻 博士課程修了 社会福祉学専攻〔平成26年3月〕 日本社会事業大学 大学院						
	6181	コミュニティワーク実習		通年	前	月	2	6	14	—	2名(松岡・林)で担当 上段でカウント										
	6251	海外の福祉制度		前	前	月	5	2	80	0.50	コーディネーター、3回担当										
	6593	社会保障論Ⅱ	/A	前	前	火	1	2	118	0.50											
	6029	公的扶助論		前	前	木	1	2	151	0.50											
	6216	専門演習Ⅰ		前	前	木	3	2	16	0.50											
	6101	福祉計画概説		前	前	木	5	2	111	0.27	8回ゼミ形式、学科専任7人で担当										
	6236	専門演習Ⅲ		前	前	金	4	2	11	0.50											
	6176	卒業論文		通年	前	金	5	6	9	0.50											
	6181	コミュニティワーク実習		通年	後	月	1	6	14	0.50	2名(松岡・林)で担当										
	6181	コミュニティワーク実習		通年	後	月	2	6	14	—	上段でカウント										
	6551	相談援助実習指導Ⅰ	/A	後	後	火	2	2	60	0.50											
	9012	公的扶助研究		後	後	火	6	2	1	0.50	大学院										
	9055	論文指導Ⅰ		後	後	火	7	2	1	0.50	大学院										
	6226	専門演習Ⅱ		後	後	木	3	2	16	0.50											
	6246	専門演習Ⅳ		後	後	金	4	2	11	0.50											
	6176	卒業論文		通年	後	金	5	6	9	0.50											
	6530	相談援助入門実習		後	後	土	5	1	98	0.25	2名(西田・松岡)で分担当										
	はやし けんたろう 林 健太郎(男) 昭和63年3月17日 32歳	6181	コミュニティワーク実習		通年	前	月	1	6	14	0.50					7.87	講師	平成29年4月1日 平成29年4月1日	平成25年3月 千葉大学 人文社会科学専攻 修士課程 修了 修士(法学)(社会科学) 千葉大学 平成29年3月 早稲田大学 法学研究科 民法学専攻 博士課程 中途退学		
		6181	コミュニティワーク実習		通年	前	月	2	6	14	—									2名(松岡・林)で担当 上段でカウント	
9032		社会保障法研究		前	前	月	3	2	1	0.50	大学院										
6139		労働法		前	前	火	3	2	130	0.50											
6146		労働法Ⅰ		前	前	火	3	2	36	—	6139でカウント										
6147		労働法Ⅱ		前	前	木	1	2	33	—	6595でカウント										
6595		労災と就労支援		前	前	木	1	2	76	0.50											
6217		専門演習Ⅰ		前	前	木	3	2	16	0.50											
6101		福祉計画概説		前	前	木	5	2	116	0.27	8回ゼミ形式、学科専任7人で担当										
3413		法学概論		前	前	金	2	2	24	0.50											
6237		専門演習Ⅲ		前	前	金	4	2	11	0.50											
6177		卒業論文		通年	前	金	5	6	3	0.50											
6181		コミュニティワーク実習		通年	後	月	1	6	14	0.50	2名(松岡・林)で担当										
6181		コミュニティワーク実習		通年	後	月	2	6	14	—	上段でカウント										
6596		権利擁護と成年後見制度		後	後	火	1	2	165	0.50											
6552		相談援助実習指導Ⅰ	/B	後	後	火	2	2	2	0.50											
6511		社会保障法		後	後	木	2	2	75	0.50											
6227		専門演習Ⅱ		後	後	木	3	2	16	0.50											
5842		ビジネス法務		後	後	金	2	2	51	0.10	2回担当(萩原・足立・長屋・伊東・林)										
6247		専門演習Ⅳ		後	後	金	4	2	11	0.50											
6177	卒業論文		通年	後	金	5	6	3	0.50												

ふりがな 氏名(性別)	授業科目											職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号
	毎週授業コマ数														
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コマ数	備考				
よこやま ゆずる 横山 穰(男) 昭和33年3月10日 62歳	6651	福祉臨床基礎演習		前	前	火	5	2	2	0.50	6.67	教授	平成8年4月1日 平成15年4月1日	5回担当(横山・池田・大友) 大学院 6749でカウント	平成元年8月 米国ワシントン大学社会福祉大学院 博士課程 修了 Ph. D. (社会福祉学博士)
	6737	成人期福祉論		前	前	木	2	2	8	0.50					
	6621	成人期発達論		前	前	木	4	2	7	0.17					
	6535	相談援助演習Ⅰ	/E	通	前	木	5	3	17	0.50					
	9035	偏見・差別問題研究		前	前	木	6	2	1	0.50					
	6734	差別論		前	前	金	2	2	15	—					
	6749	社会福祉の思想		前	前	金	2	2	97	0.50					
	6661	福祉臨床専門演習		通	前	金	3	4	7	0.50					
	6785	卒業論文		通	前	金	5	6	6	0.50					
	6067	ソーシャルワーク方法論Ⅰ		前	前	遠隔	1	2	160	0.50					
	6535	相談援助演習Ⅰ	/E	通	後	木	4	3	17	0.50					
	6535	相談援助演習Ⅰ	/E	通	後	木	5	3	17	0.50					
	6661	福祉臨床専門演習		通	後	金	3	4	7	0.50					
	6785	卒業論文		通	後	金	5	6	6	0.50					
	6068	ソーシャルワーク方法論Ⅱ		後	後	遠隔	1	2	146	0.50					
	6782	福祉臨床応用実習		通	前	月	3	6	1	0.50					
	9024	ソーシャルワーク実践研究		前	前	月	5	2	0	—					
	6564	相談援助実習指導Ⅱ	/D	前	前	火	5	2	13	0.50					
	6621	成人期発達論		前	前	木	4	2	7	0.17					
	6624	地域ソーシャルワーク論		前	前	木	5	2	61	0.50					
6662	福祉臨床専門演習		通	前	金	3	4	13	0.50						
6786	卒業論文		通	前	金	5	6	15	0.50						
6581	相談援助実習		通	前	土	5	6	91	0.50						
6039	地域福祉論	/B	前	前	遠隔	1	2	95	0.50						
6782	福祉臨床応用実習		通	後	月	3	6	1	0.50						
6631	療法論Ⅰ		後	後	火	1	2	11	0.03						
6574	相談援助実習指導Ⅲ	/D	後	後	火	5	2	13	0.50						
6025	コミュニティワーク論	/B	後	後	木	2	2	59	0.50						
6662	福祉臨床専門演習		通	後	金	3	4	13	0.50						
6786	卒業論文		通	後	金	5	6	15	0.50						
6581	相談援助実習		通	後	土	5	6	91	0.50						
6563	相談援助実習指導Ⅱ	/C	前	前	火	5	2	13	0.50						
9483	社会福祉学特殊演習Ⅰ		通	前	木	6	4	1	0.50						
9493	社会福祉学特殊演習Ⅱ		通	前	木	7	4	2	0.50						
6663	福祉臨床専門演習		通	前	金	3	4	11	0.50						
6787	卒業論文		通	前	金	5	6	8	0.50						
6802	卒業論文	/B	通	前	金	6	6	4	0.50						
6034	障害者福祉論		前	前	遠隔	1	2	206	0.50						
6709	倫理学		後	後	火	2	2	160	0.25						
6573	相談援助実習指導Ⅲ	/C	後	後	火	5	2	13	0.50						
9483	社会福祉学特殊演習Ⅰ		通	後	木	6	4	1	0.50						
9493	社会福祉学特殊演習Ⅱ		通	後	木	7	4	2	0.50						
6707	障害学		後	後	金	2	2	38	0.50						
6663	福祉臨床専門演習		通	後	金	3	4	11	0.50						
6787	卒業論文		通	後	金	5	6	8	0.50						
6802	卒業論文	/B	通	後	金	6	6	4	0.50						
9006	障害児・者福祉研究		後	後	金	7	2	1	0.50						
6744	施設ソーシャルワーク論		前	前	火	4	2	55	0.50						
6565	相談援助実習指導Ⅱ	/E	前	前	火	5	2	16	0.50						
6701	福祉臨床入門		前	前	木	3	2	104	0.50						
6536	相談援助演習Ⅰ	/F	通	前	木	5	3	17	0.50						
6664	福祉臨床専門演習		通	前	金	3	4	14	0.50						
6788	卒業論文		通	前	金	5	6	14	0.50						
6779	卒業論文	/指導	前	前	金	5	6	1	—						
6581	相談援助実習		通	前	土	5	6	90	0.50						
6527	児童・家庭福祉論		前	前	遠隔	1	2	187	0.50						
6575	相談援助実習指導Ⅲ	/E	後	後	火	5	2	16	0.50						
6536	相談援助演習Ⅰ	/F	通	後	木	4	3	17	0.50						
6536	相談援助演習Ⅰ	/F	通	後	木	5	3	17	0.50						
9005	子ども家庭福祉研究		後	後	木	7	2	2	0.50						
6664	福祉臨床専門演習		通	後	金	3	4	14	0.50						
6788	卒業論文		通	後	金	5	6	14	0.50						
6581	相談援助実習		通	後	土	5	6	91	0.50						
6022	ソーシャルワーク論Ⅰ		後	後	遠隔	1	2	188	0.50						

ふりがな 氏名(性別)	授業科目												職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号			
	毎週授業コマ数																		
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コマ数	備考	合計 コマ数							
なかむら かずひこ 中村 和彦(男)	6606	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I		前	前	月	3	2	21	0.50		8.23	教授	学生部長	平成16年3月 龍谷大学大学院 社会学研究科 社会福祉学専攻 博士後期課程 単位取得後退学				
	9494	社会福祉学特殊演習 II		通	前	火	7	4	1	0.50	大学院								
	9474	社会福祉学特殊研究		通	前	水	7	4	1	0.50	大学院								
	6617	精神保健福祉援助実習指導 II	/A	通	前	木	2	4	8	0.50									
	9008	精神保健ソーシャルワーク研究		前	前	木	7	2	2	0.50	大学院								
	6598	ソーシャルワーク実践理論 I		前	前	金	1	2	135	0.23	7回担当								
昭和40年2月3日 55歳	6665	福祉臨床専門演習		通	前	金	3	4	8	0.50		7.75	教授	博士(社会福祉学)〔平成17年3月〕 龍谷大学					
	6789	卒業論文		通	前	金	5	6	14	0.50									
	6784	卒業論文	/指導	前	前	金	5	6	1	—	6789でカウント								
	6618	精神保健福祉援助実習		通	前	土	4	7	15	0.25	2人(中村・永井)で分担								
	6605	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	/専門	後	後	月	2	2	33	0.50									
	9048	論文指導 I		後	後	月	7	2	1	0.50	大学院								
	9494	社会福祉学特殊演習 II		通	後	火	7	4	1	0.50	大学院								
	9474	社会福祉学特殊研究		通	後	水	7	4	1	0.50	大学院								
	6617	精神保健福祉援助実習指導 II	/A	通	後	木	2	4	8	0.50									
	6615	精神保健福祉援助演習(専門) II	/A	後	後	木	3	1	8	0.50									
	6665	福祉臨床専門演習		通	後	金	3	4	8	0.50									
	6789	卒業論文		通	後	金	5	6	14	0.50									
	6796	卒業論文	/指導	後	後	金	5	6	1	—	6789でカウント								
	6618	精神保健福祉援助実習		通	後	土	4	7	15	0.25	2人(中村・永井)で分担								
	にしだ みつきよ 西田 充潔(男)	6417	知的障害教育方法論 I		前	前	月	2	2	55	0.50					7.75	教授	広報委員長	平成12年3月 東北大学大学院 教育学研究科 教育心理学専攻 博士後期課程 単位取得後退学
		6623	子ども発達論		前	前	火	4	2	12	—				6641でカウント				
		6641	こどもの発達と社会		前	前	火	4	2	108	0.50								
		6566	相談援助実習指導 II	/F	前	前	火	5	2	7	0.50								
6713		福祉臨床基礎実習指導 I	/A	前	前	木	1	2	35	0.50									
6768		福祉臨床研究法B I		前	前	木	3	2	80	0.50									
6666		福祉臨床専門演習		通	前	金	3	4	5	0.50									
6791		卒業論文		通	前	金	5	6	7	0.50									
6803		卒業論文	/C	通	前	金	6	6	2	0.50									
6553		相談援助実習指導 I	/C	後	後	火	2	2	4	0.50									
6576		相談援助実習指導 III	/F	後	後	火	5	2	7	0.50									
6717		福祉臨床基礎実習指導 II	/A	後	後	木	1	2	35	0.50									
6769		福祉臨床研究法B II		後	後	木	3	2	2	0.50									
6666		福祉臨床専門演習		通	後	金	3	4	5	0.50									
6791		卒業論文		通	後	金	5	6	7	0.50									
6803		卒業論文	/C	通	後	金	6	6	2	0.50									
6530		相談援助入門実習		後	後	土	5	1	98	0.25	2人(西田・松岡)で分担								
ながい じゅんこ 永井 順子(女)		9071	論文指導 II		前	前	火	6	2	1	0.50	大学院	7.75	教授	福祉臨床 学科長				
	6638	精神保健福祉援助実習指導 II	/B	通	前	木	2	4	7	0.50									
	6667	福祉臨床専門演習		通	前	金	3	4	14	0.50									
	6792	卒業論文		通	前	金	5	6	15	0.50									
	6780	卒業論文		前	前	金	5	6	1	—	6792でカウント								
	9037	精神障害学研究		前	前	金	6	2	2	0.50	大学院								
	6618	精神保健福祉援助実習		通	前	土	4	7	15	0.25	2人(中村・永井)で分担								
	6616	精神保健福祉援助実習指導 I	/A	後	後	月	4	2	19	0.50									
	6614	精神保健福祉援助演習(専門) I	/A	後	後	月	5	1	20	0.50									
	6709	倫理学		後	後	火	2	2	160	0.25	2人(田中・永井)で分担								
	6611	精神保健福祉に関する制度とサービス I		後	後	火	3	2	35	0.50									
	9091	修士論文		後	後	火	6	4	1	0.50	大学院								
	6638	精神保健福祉援助実習指導 II	/B	通	後	木	2	4	7	0.50									
	6636	精神保健福祉援助演習(専門) II	/B	後	後	木	3	1	7	0.50									
	6613	精神障害者の生活支援システム		後	後	木	5	2	15	0.50									
	6667	福祉臨床専門演習		通	後	金	3	4	14	0.50									
	6792	卒業論文		通	後	金	5	6	15	0.50									
	6618	精神保健福祉援助実習		通	後	土	4	7	15	0.25	2人(中村・永井)で分担								

17 専任教員個別表〔2019年度〕社会福祉学部

(表V-17-4)

ふりがな 氏名(性別)	授業科目												職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号
	毎週授業コマ数															
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コ マ 数	備 考	合 計 コ マ 数				
はた りょうすけ 畑 亮輔(男) 昭和58年10月12日 36歳 国内研修 2020/4/1~2021/3/31												0.00	准教授	平成24年4月1日 平成29年4月1日		平成23年3月 大阪市立大学大学院 生活科学研究科 生活科学専攻 博士後期課程 単位取得後退学 博士(学術)〔平成24年3月〕 大阪市立大学
おおとも しゅうじ 大友 秀治(男) 昭和48年8月3日 46歳	6747	スクールソーシャルワーク論		前	前	火	1	2	14	0.50		8.94	准教授	平成28年4月1日 平成31年4月1日	平成31年3月 大阪府立大学大学院 人間社会学研究科博士後期課程 社会福祉学専攻 博士課程 修了 博士(社会福祉学)〔平成31年3月〕 大阪府立大学大学院	
	6705	福祉臨床基礎実習		通年	前	木	1	2	0	—						
	6714	福祉臨床基礎実習指導Ⅰ	/B	前	前	木	1	2	34	0.50						
	6798	スクールソーシャルワーク実習指導		通年	前	木	2	1	2	—	6797でカウント					
	6797	スクールソーシャルワーク演習		前	前	木	2	1	2	0.50						
	6621	成人発達論		前	前	木	4	2	7	0.17	5回担当(横山・池田・大友)					
	6598	ソーシャルワーク実践理論Ⅰ		前	前	金	1	2	135	0.27	8回担当					
	6669	福祉臨床専門演習		通年	前	金	3	4	12	0.50						
	6794	卒業論文		通年	前	金	5	6	13	0.50						
	6804	卒業論文	/D	通年	前	金	6	6	1	0.50						
	6799	スクールソーシャルワーク実習		通年	前	土	2	2	2	0.50						
	6023	ソーシャルワーク論Ⅱ		前	前	遠隔	1	2	169	0.50						
	6555	相談援助実習指導Ⅰ	/E	後	後	火	2	2	19	0.50						
	6705	福祉臨床基礎実習		通年	後	木	1	2	0	—						
	6718	福祉臨床基礎実習指導Ⅱ	/B	後	後	木	1	2	34	0.50						
	6798	スクールソーシャルワーク実習指導		通年	後	木	2	1	2	0.50						
	6612	精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ		後	後	金	2	2	22	0.50						
	6669	福祉臨床専門演習		通年	後	金	3	4	12	0.50						
	9013	スクールソーシャルワーク研究		後	後	金	4	2	2	0.50	大学院					
	6794	卒業論文		通年	後	金	5	6	13	0.50						
	6804	卒業論文	/D	通年	後	金	6	6	1	0.50						
	6799	スクールソーシャルワーク実習		通年	後	土	2	2	2	0.50						

17 専任教員個別表〔2019年度〕社会福祉学部

(表V-17-4)

ふりがな 氏名(性別)	授業科目												職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号
	毎週授業コマ数															
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コ マ 数	備 考	合 計 コ マ 数				
にしやま かおる 西山 薫(女) 昭和36年12月27日 58歳	6826	専門演習Ⅰ		前	前	木	2	2	12	0.50		9.00	教授	平成24年4月1日 平成21年4月1日		平成14年3月 北海道医療大学大学院 看護福祉学研究所 臨床福祉・心理学専攻 博士課程 単位取得修了 博士(臨床心理学)〔平成16年3月〕 北海道医療大学
	9116	心理実践実習Ⅰ		通	前	木	3	3	2	0.50	大学院					
	9141	論文指導Ⅰ		前	前	金	1	2	1	0.50	大学院					
	9109	心の健康教育に関する理論と実践		前	前	金	3	2	4	0.50	大学院					
	6847	専門演習Ⅲ		前	前	金	4	2	12	0.50						
	6867	卒業論文		通	前	金	5	6	12	0.50						
	6878	卒業論文		前	前	金	5	6	1	—	6867でカウント					
	9117	心理実践実習Ⅱ		通	前	土	1	2	2	0.50	大学院					
	9119	心理実践実習Ⅳ		通	前	土	1	4	2	0.50	大学院					
	6888	社会的スキル実習		後	後	火	4	2	4	—	6949でカウント					
	6949	ソーシャルスキル実習		後	後	火	4	2	14	0.50						
	6888	社会的スキル実習		後	後	火	5	2	4	—	6949でカウント					
	6949	ソーシャルスキル実習		後	後	火	5	2	14	0.50						
	6836	専門演習Ⅱ		後	後	木	2	2	12	0.50						
	9116	心理実践実習Ⅰ		通	後	木	3	3	2	0.50	大学院					
	9151	論文指導Ⅱ		後	後	金	1	2	1	0.50	大学院					
	6817	臨床心理検査演習Ⅰ		後	後	金	2	2	5	—	6947でカウント					
	6947	心理的アセスメント		後	後	金	2	2	80	0.50						
	6857	専門演習Ⅳ		後	後	金	4	2	12	0.50						
	6867	卒業論文		通	後	金	5	6	12	0.50						
	6870	卒業論文		後	後	金	5	6	1	—	6867でカウント					
	9117	心理実践実習Ⅱ		通	後	土	1	2	2	0.50	大学院					
	9119	心理実践実習Ⅳ		通	後	土	1	4	2	0.50	大学院					
くりばやし よしまさ 栗林 克匡(男) 昭和44年3月28日 51歳	9142	論文指導Ⅰ		前	前	月	1	2	0	—	大学院	4.50	教授	平成8年4月1日 平成22年4月1日	学習センター サポート長 修士(教育心理学)〔平成5年3月〕 名古屋大学	
	6815	心理学実験演習	／福心	前	前	火	4	4	1	—	6924でカウント					
	6924	心理学実験	／福心	前	前	火	4	4	84	0.50	3人(栗林・眞嶋・中田龍)で常時担当					
	6815	心理学実験演習	／福心	前	前	火	5	4	1	—	6924でカウント					
	6924	心理学実験	／福心	前	前	火	5	4	84	0.50	3人(栗林・眞嶋・中田龍)で常時担当					
	6822	専門演習Ⅰ		前	前	木	2	2	10	0.50						
	6887	グループダイナミクス		前	前	木	4	2	60	0.50						
	9125	社会心理学特論		前	前	木	5	2	2	0.50	大学院					
	6843	専門演習Ⅲ		前	前	金	4	2	0	—						
	6863	卒業論文		通	前	金	5	6	0	—						
	6888	社会的スキル実習		後	後	火	4	2	4	—	6949でカウント					
	6949	ソーシャルスキル実習		後	後	火	4	2	14	0.50						
	6888	社会的スキル実習		後	後	火	5	2	4	—	6949でカウント					
	6949	ソーシャルスキル実習		後	後	火	5	2	14	0.50						
	6832	専門演習Ⅱ		後	後	木	2	2	10	0.50						
	6061	社会心理学	／社部	後	後	木	4	2	21	—	6961でカウント					
	6961	社会・集団・家族心理学		後	後	木	4	2	99	0.50						
	9152	論文指導Ⅱ		後	後	金	1	2	0	—	大学院					
	6853	専門演習Ⅳ		後	後	金	4	2	0	—						
	6863	卒業論文		通	後	金	5	6	0	—						

17 専任教員個別表〔2019年度〕社会福祉学部

(表V-17-4)

ふりがな 氏名(性別)	授業科目												職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号
	毎週授業コマ数											合計 コマ数				
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コマ数	備考					
たざわ やすひろ 田澤 安弘(男) 昭和39年5月17日 55歳	6938	公認心理師の職責		前	前	月	1	2	17	0.50		10.00	教授	心理臨床 センター長	平成15年3月 北海道大学大学院 教育学研究科 教育学専攻 修士課程 修了	
	9110	臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習Ⅲ)		通	前	月	3	1	2	—	大学院、9111でカウント					
	9111	臨床心理実習Ⅱ		通	前	月	3	1	2	0.50	大学院、2人(田澤・佐藤)で常時担当					
	9110	臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習Ⅲ)		通	前	月	4	1	2	—	大学院、9111でカウント					
	9111	臨床心理実習Ⅱ		通	前	月	4	1	2	0.50	大学院、2人(田澤・佐藤)で常時担当					
	9106	心理的アセスメントに関する理論と実践		前	前	水	1	2	2	0.50	大学院					
	6823	専門演習Ⅰ		前	前	木	2	2	7	0.50						
	9116	心理実践実習Ⅰ		通	前	木	3	3	2	0.50	大学院					
	9143	論文指導Ⅰ		前	前	金	1	2	0	—	大学院					
	6844	専門演習Ⅲ		前	前	金	4	2	11	0.50						
	6864	卒業論文		通	前	金	5	6	11	0.50						
	6877	卒業論文	／指導	前	前	金	5	6	1	—	6864でカウント					
	9117	心理実践実習Ⅱ		通	前	土	1	2	2	0.50	大学院					
	9119	心理実践実習Ⅳ		通	前	土	1	4	2	0.50	大学院					
	6059	臨床心理学			後	月	2	2	12	—	6936でカウント					
	6936	臨床心理学概論			後	月	2	2	81	0.50						
	9110	臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習Ⅲ)		通	後	月	3	1	2	—	大学院、9111でカウント					
	9111	臨床心理実習Ⅱ		通	後	月	3	1	2	0.50	大学院、2人(田澤・佐藤)で常時担当					
	9110	臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習Ⅲ)		通	後	月	4	1	2	—	大学院、9111でカウント					
	9111	臨床心理実習Ⅱ		通	後	月	4	1	2	0.50	大学院、2人(田澤・佐藤)で常時担当					
	6833	専門演習Ⅱ			後	木	2	2	7	0.50						
	9116	心理実践実習Ⅰ		通	後	木	3	3	2	0.50	大学院					
	9153	論文指導Ⅱ			後	金	1	2	0	—	大学院					
	6971	精神疾患とその治療			後	金	2	2	38	0.50						
	6854	専門演習Ⅳ			後	金	4	2	11	0.50						
	6864	卒業論文		通	後	金	5	6	11	0.50						
	9117	心理実践実習Ⅱ		通	後	土	1	2	2	0.50	大学院					
	9119	心理実践実習Ⅳ		通	後	土	1	4	2	0.50	大学院					
	6901	知的障害者の臨床心理		冬集中	後	冬集中	1	2	0	—						
	まきた こういち 牧田 浩一(男) 昭和48年12月2日 46歳	6065	知的障害者の心理	／A	前	前	月	1	2	29	0.50					
9122		臨床心理学特論		前	前	月	2	2	2	0.50	大学院					
6941		心理演習	／A	前	前	水	2	2	8	0.50						
6824		専門演習Ⅰ		前	前	木	2	2	11	0.50						
9116		心理実践実習Ⅰ		通	前	木	3	3	2	0.50	大学院					
9144		論文指導Ⅰ		前	前	金	1	2	0	—	大学院					
6845		専門演習Ⅲ		前	前	金	4	2	10	0.50						
6865		卒業論文		通	前	金	5	6	10	0.50						
9117		心理実践実習Ⅱ		通	前	土	1	2	2	0.50	大学院					
9119		心理実践実習Ⅳ		通	前	土	1	4	2	0.50	大学院					
6902		知的障害者の心理検査実習		夏集中	前	夏集中	1	4	0	—						
6834		専門演習Ⅱ			後	木	2	2	11	0.50						
9116		心理実践実習Ⅰ		通	後	木	3	3	2	0.50	大学院					
9154		論文指導Ⅱ			後	金	1	2	0	—	大学院					
9103		教育分野に関する理論と支援の展開			後	金	3	2	2	0.50	大学院					
6855		専門演習Ⅳ			後	金	4	2	10	0.50						
6865		卒業論文		通	後	金	5	6	10	0.50						
9117		心理実践実習Ⅱ		通	後	土	1	2	2	0.50	大学院					
9119		心理実践実習Ⅳ		通	後	土	1	4	2	0.50	大学院					

17 専任教員個別表〔2019年度〕社会福祉学部

(表V-17-4)

ふりがな 氏名(性別)	授業科目											職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号	
	毎週授業コマ数															
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コマ数	備考					合計 コマ数
かもざわ あかね 鴨澤 あかね(女) 昭和38年7月16日 56歳	9115	グループ・アプローチ特論		前	前	月	1	2	2	0.50	大学院	7.50	教授	福祉心理 学科長	平成8年3月 早稲田大学大学院 人間科学研究科 健康科学専攻 修士課程 修了	
	9114	心理療法特論		前	前	水	1	2	0	—	大学院					
	6825	専門演習Ⅰ		前	前	木	2	2	8	0.50						
	9116	心理実践実習Ⅰ		通年	前	木	3	3	2	0.50	大学院					
	9145	論文指導Ⅰ		前	前	金	1	2	0	—	大学院					
	6881	カウンセリング論	／社部	前	前	金	2	2	14	—	6935でカウント					
	6935	心理学的支援法		前	前	金	2	2	79	0.50						
	6846	専門演習Ⅲ		前	前	金	4	2	4	0.50						
	6866	卒業論文		通年	前	金	5	6	4	0.50						
	9117	心理実践実習Ⅱ		通年	前	土	1	2	2	0.50	大学院					
	9119	心理実践実習Ⅳ		通年	前	土	1	4	2	0.50	大学院					
	9107	心理支援に関する理論と実践			後	後	木	1	2	2	0.50					大学院
	6835	専門演習Ⅱ			後	後	木	2	2	8	0.50					
	9116	心理実践実習Ⅰ		通年	後	木	3	3	2	0.50	大学院					
	9155	論文指導Ⅱ			後	後	金	1	2	0	—					大学院
	6856	専門演習Ⅳ			後	後	金	4	2	5	0.50					
	6866	卒業論文		通年	後	金	5	6	4	0.50						
	6880	卒業論文			後	後	金	5	6	1	—					6866でカウント
	9117	心理実践実習Ⅱ		通年	後	土	1	2	2	0.50	大学院					
	9119	心理実践実習Ⅳ		通年	後	土	1	4	2	0.50	大学院					
まじま よしまさ 眞嶋 良全(男) 昭和46年9月24日 48歳	9112	心理統計法特論		前	前	火	2	2	2	0.50	大学院	7.50	教授	平成24年4月1日	平成12年3月 北海道大学大学院 文学研究科 行動科学専攻 博士後期課程 修了	
	6815	心理学実験演習	／福心	前	前	火	4	4	1	—	6924でカウント					
	6924	心理学実験	／福心	前	前	火	4	4	84	0.50	3人(栗林・眞嶋・中田龍)で常時担当					
	6815	心理学実験演習	／福心	前	前	火	5	4	1	—	6924でカウント					
	6924	心理学実験	／福心	前	前	火	5	4	84	0.50	3人(栗林・眞嶋・中田龍)で常時担当					
	6876	認知心理学	／福心	前	前	木	1	2	15	—	6933でカウント					
	6933	知覚・認知心理学		前	前	木	1	2	80	0.50						
	6827	専門演習Ⅰ		前	前	木	2	2	4	0.50						
	6873	心理統計法	／福心	前	前	木	5	2	11	—	6926でカウント					
	6926	多変量解析法		前	前	木	5	2	11	0.50						
	9146	論文指導Ⅰ		前	前	金	1	2	0	—	大学院					
	6848	専門演習Ⅲ		前	前	金	4	2	9	0.50						
	6868	卒業論文		通年	前	金	5	6	9	0.50						
	9124	認知心理学特論			後	後	月	2	2	2	0.50					大学院
	6811	心理統計法基礎			後	後	月	3	2	0	—					6923でカウント
	6923	心理学統計法			後	後	月	3	2	97	0.50					
	9132	心理学研究方法論Ⅱ			後	後	水	1	2	2	0.50					大学院
	6927	心理学実験特殊実習			後	後	水	2	2	1	0.50					
	6837	専門演習Ⅱ			後	後	木	2	2	4	0.50					
	9156	論文指導Ⅱ			後	後	金	1	2	0	—					大学院
	6858	専門演習Ⅳ			後	後	金	4	2	9	0.50					
	6868	卒業論文		通年	後	金	5	6	9	0.50						

ふりがな 氏名(性別)	授業科目												職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号				
	毎週授業コマ数																			
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コ マ 数	備 考	合 計 コ マ 数								
とーます げっつ トーマス・ゲッツ (男) 昭和36年3月21日 59歳	513	英語 I	経	前	前	月	4	2	27	0.50	5.00	教授	平成8年4月1日	平成元年5月 米国プリンストン神学大学院 教会史専攻 神学修士課程 修了 M.Div. (神学修士)						
	519	英語 I	経	前	前	火	2	2	25	0.50										
	904	上級英語 I		前	前	水	1	2	25	0.50										
	951	外国語演習[英語]		通	前	木	2	4	18	—					前期:西原担当					
	625	英語III	社	前	前	木	3	2	26	0.50										
	512	英語 I	経	前	前	木	4	2	27	0.50										
	564	英語 II	経	後	後	月	4	2	28	0.50										
	568	英語 II	経	後	後	火	2	2	24	0.50										
	951	外国語演習[英語]		通	後	木	2	4	18	0.50										
	674	英語IV	社	後	後	木	3	2	28	0.50										
561	英語 II	経	後	後	木	4	2	28	0.50											
たじつ きよし 田実 潔 (男) 昭和35年2月22日 60歳	8962	教育実習 I (中学校)		通	前	火	1	4	49	—	5.50	教授	平成13年4月1日	社会福祉 学部長 社会福祉学 研究科長	昭和61年3月 筑波大学大学院 教育研究科 障害児教育専攻 修士課程 修了 教育学修士 筑波大学					
	8963	教育実習 II (高等学校)		通	前	火	1	2	6	—						8978でカウント				
	8978	教育実習事前事後指導		通	前	火	1	1	55	0.50										
	8941	教育方法論	A	前	前	火	3	2	51	0.50										
	8901	教職入門	A	前	前	木	5	2	41	0.50										
	8945	生活指導の研究	A	前	前	金	5	2	19	0.50										
	6425	重複障害・LD等教育論		前	前	金	6	2	22	0.50										
	8962	教育実習 I (中学校)		通	後	火	1	4	49	—						8978でカウント				
	8963	教育実習 II (高等学校)		通	後	火	1	2	6	—						8978でカウント				
	8978	教育実習事前事後指導		通	後	火	1	1	55	—						上段でカウント				
	8981	教職実践演習(中・高)	A	後	後	月	3	2	13	0.50										
	8982	教職実践演習(中・高)	B	後	後	月	5	2	4	0.50										
	8946	生活指導の研究	B	後	後	木	3	2	29	0.50										
	8902	教職入門	B	後	後	金	3	2	60	0.50										
	8942	教育方法論	B	後	後	金	5	2	25	0.50										
	9033	特別支援教育研究		後	後	金	7	2	1	0.50						大学院				
	みやざき やすし 宮崎 靖士 (男) 昭和48年10月4日 46歳 国内研修 2019/4/1~2020/3/31	8601	日本語表現I	英A	前	前	月	4	2	20						0.50	5.00	教授	平成18年4月1日	平成15年3月 北海道大学大学院 文学研究科 国文学専攻 博士後期課程 単位取得後退学
		8607	日本語表現I	英A	前	前	火	3	2	23						0.50				
		8629	日本語表現I	法B	前	前	火	5	2	19						0.50				
8622		日本語表現I	情B	前	前	木	4	2	16	0.50										
8612		日本語表現I	経A	前	前	木	5	2	22	0.50										
8651		日本語表現 II	英A	後	後	月	4	2	21	0.50										
8692		日本語表現 II	福心	後	後	火	1	2	24	0.50										
8657		日本語表現 II	英A	後	後	火	3	2	23	0.50										
8553		文学の世界		後	後	木	4	2	146	0.50										
8662		日本語表現 II	経A	後	後	木	5	2	25	0.50										
にしはら あき 西原 明希 (女) 昭和50年3月28日 45歳	532	英語 I	社	前	前	月	2	2	0	—	4.50	准教授	平成24年4月1日	平成17年1月 英国ブリストル大学大学院 教育学研究科 外国語としての英語教育法専攻 修士課程 (TESOL) 修了 M.Ed. (教育学修士)						
	622	英語 III	社	前	前	月	3	2	20	0.50										
	601	英語 III	英A	前	前	月	4	2	19	0.50										
	1948	英語教育学演習B[授業実践論]		前	前	火	5	2	1	0.50										
	951	外国語演習[英語]		通	前	木	2	4	16	0.50										
	621	英語 III	社	前	前	木	3	2	20	0.50										
	671	英語 IV	社	後	後	月	3	2	18	0.50										
	652	英語 IV	英A	後	後	月	4	2	22	0.50										
	901	英語と文化	A	後	後	火	1	2	11	0.50										
	906	上級英語 II		後	後	水	1	2	28	0.50										
	951	外国語演習[英語]		通	後	木	2	4	16	—					後期:ゲッツ担当					
	903	海外事情	英語	冬集中	後	冬集中	1	2	0	***					履修者未定(確定後コマ換算)					
	よしだ りゅうへい 吉田 竜平 (男) 昭和53年8月2日 41歳	6529	相談援助実践論		前	前	火	2	2	103					0.50	3.00	助教	平成30年4月1日	平成25年3月 東北福祉大学大学院 総合福祉学研究科 社会福祉学専攻 修士課程 修了 修士(社会福祉学) 東北福祉大学	
6567		相談援助実習指導 II	G	前	前	火	5	2	13	0.50										
6715		福祉臨床基礎実習指導 I	C	前	前	木	1	2	35	0.50										
6557		相談援助実習指導 I	G	後	後	火	2	2	12	0.50										
6577		相談援助実習指導 III	G	後	後	火	5	2	13	0.50										
6719		福祉臨床基礎実習指導 II	C	後	後	木	1	2	36	0.50										
さいとう まさし 斎藤 仁史 (男) 昭和31年3月20日 64歳	6432	社会教育演習		通	前	火	4	4	8	0.50	3.50	准教授	平成31年4月1日	平成31年3月 北海学園大学大学院 経済学研究科 経済政策専攻 博士後期課程 単位取得後退学 修士(経済学) 北海学園大学						
	6427	生涯学習概論		通	前	水	4	4	31	0.50										
	6428	青少年問題と社会教育		前	前	木	5	2	19	0.50										
	6127	社会教育計画		前	前	金	5	2	16	0.50										
	6432	社会教育演習		通	後	火	4	4	8	0.50										
	6427	生涯学習概論		通	後	水	4	4	31	0.50										
	6431	高齢化と社会教育		後	後	金	2	2	27	0.50										

17 専任教員個別表〔2019年度〕社会福祉学部

(表V-17-4)

ふりがな 氏名(性別)	授業科目											職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号	
	毎週授業コマ数															
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コ マ 数	備 考					合 計 コ マ 数
たなべ ひとし 田辺 等(男) 昭和26年9月20日 68歳	6607	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ		前	前	月	2	2	21	0.50		3.50	教授	平成29年4月1日		昭和52年3月 北海道大学 医学部 卒業
	6603	精神保健の課題と支援Ⅰ		前	前	月	5	2	30	0.50						
	6521	医学知識Ⅰ		前	前	火	4	2	142	0.50						
	6602	精神疾患とその治療Ⅱ		後	後	月	2	2	24	0.50						
	6601	精神疾患とその治療Ⅰ		後	後	月	5	2	34	0.50						
	6416	病弱者の病理保健		後	後	火	2	2	56	0.50						
6523	医学知識Ⅱ		後	後	火	4	2	89	0.50							
とよむら かずま 豊村 和真(男) 昭和28年3月11日 67歳	9131	心理学研究方法論Ⅰ		前	前	火	1	2	2	0.50	大学院	2.50	教授	昭和59年4月1日		昭和56年6月 東北大学大学院 教育学研究科 教育心理学専攻 博士後期課程 単位取得後退学
	6813	心理学研究法Ⅰ	福心	前	前	火	3	2	0	—	6922でカウント					
	6922	心理学研究法	福心	前	前	火	3	2	139	0.50						
	9102	福祉分野に関する理論と支援の展開		前	前	水	3	2	0	—	大学院					
	6062	福祉心理学		前	前	金	1	2	152	0.50						
	6841	専門演習Ⅲ		前	前	金	4	2	0	—						
	6861	卒業論文		通年	前	金	5	6	0	—						
	6814	心理学研究法Ⅱ	福心	後	後	火	3	2	1	—	6925でカウント					
	6925	心理調査法		後	後	火	3	2	56	0.50						
	6816	心理学実験		後	後	火	4	2	0	—						
	6816	心理学実験		後	後	火	5	2	0	—						
	6064	特別支援教育総論		後	後	金	1	2	15	0.50						
	6851	専門演習Ⅳ		後	後	金	4	2	0	—						
	6861	卒業論文		通年	後	金	5	6	0	—						
	むらい やすひろ 村井 泰廣(男) 昭和26年8月8日 68歳	525	英語Ⅰ	経部	前	前	火	2	2	16	—					
612		英語Ⅲ	経部	前	前	火	4	2	27	0.50						
602		英語Ⅲ	コB	前	前	木	4	2	14	0.50						
574		英語Ⅱ	経部	後	後	火	2	2	24	0.50						
658		英語Ⅳ	経部	後	後	火	4	2	28	0.50						
9243		言語文化教育論特殊研究		後	後	木	2	2	2	0.50	大学院					
672		英語Ⅳ	社部	後	後	木	3	2	18	0.50						
653	英語Ⅳ	コC	後	後	木	4	2	26	0.50							
おおにし まさみ 大西 昌美(男) 昭和32年2月28日 63歳	8024	体育実技Ⅰ	D	通年	前	水	1	2	30	0.50	テニス	7.50	教授	令和2年4月1日	昭和54年3月 日本体育大学 体育学部 卒業	
	8054	体育実技Ⅱ	D	通年	前	水	1	2	8	—	8024でカウント					
	8025	体育実技Ⅰ	E	通年	前	水	2	2	30	0.50	テニス					
	8055	体育実技Ⅱ	E	通年	前	水	2	2	10	—	8025でカウント					
	8026	体育実技Ⅰ	F	通年	前	木	1	2	50	0.50	ソフトボール					
	8056	体育実技Ⅱ	F	通年	前	木	1	2	11	—	8026でカウント					
	8027	体育実技Ⅰ	G	通年	前	木	2	2	50	0.50	ソフトボール					
	8057	体育実技Ⅱ	G	通年	前	木	2	2	9	—	8027でカウント					
	8028	体育実技Ⅰ	H	通年	前	木	3	2	50	0.50	ソフトボール					
	8058	体育実技Ⅱ	H	通年	前	木	3	2	10	—	8028でカウント					
	8029	体育実技Ⅰ	I	通年	前	金	1	2	30	0.50	ソフトボール					
	8059	体育実技Ⅱ	I	通年	前	金	1	2	5	—	8029でカウント					
	7933	スポーツⅠ	Y	前	前	金	1	1	10	—	上段でカウント					
	8031	体育実技Ⅰ	J	通年	前	金	2	2	31	0.50	ソフトボール					
	8061	体育実技Ⅱ	J	通年	前	金	2	2	8	—	8031でカウント					
	7934	スポーツⅠ	Z	前	前	金	2	1	19	—	上段でカウント					
	8021	体育実技Ⅰ	A	通年	後	火	1	2	49	0.50	卓球					
	8051	体育実技Ⅱ	A	通年	後	火	1	2	8	—	8021でカウント					
	8022	体育実技Ⅰ	B	通年	後	火	2	2	50	0.50	卓球					
	8052	体育実技Ⅱ	B	通年	後	火	2	2	9	—	8022でカウント					
	8023	体育実技Ⅰ	C	通年	後	火	3	2	49	0.50	卓球					
	8053	体育実技Ⅱ	C	通年	後	火	3	2	9	—	8023でカウント					
	8024	体育実技Ⅰ	D	通年	後	水	1	2	30	0.50	バドミントン					
	8054	体育実技Ⅱ	D	通年	後	水	1	2	8	—	8024でカウント					
	8025	体育実技Ⅰ	E	通年	後	水	2	2	30	0.50	バドミントン					
	8055	体育実技Ⅱ	E	通年	後	水	2	2	10	—	8025でカウント					
	8026	体育実技Ⅰ	F	通年	後	木	1	2	50	0.50	バドミントン					
	8056	体育実技Ⅱ	F	通年	後	木	1	2	11	—	8026でカウント					
	8029	体育実技Ⅰ	I	通年	後	金	1	2	30	0.50	バドミントン					
	8059	体育実技Ⅱ	I	通年	後	金	1	2	5	—	8029でカウント					
	7937	スポーツⅡ	Y	後	後	金	1	1	9	—	上段でカウント					
	8031	体育実技Ⅰ	J	通年	後	金	2	2	31	0.50	バドミントン					
8061	体育実技Ⅱ	J	通年	後	金	2	2	8	—	8031でカウント						
7938	スポーツⅡ	Z	後	後	金	2	1	13	—	上段でカウント						

17 専任教員個別表〔2019年度〕社会福祉学部

(表V-17-4)

ふりがな 氏名(性別)	授業科目												職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号					
	毎週授業コマ数																				
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コ マ 数	備 考	合 計 コ マ 数									
はりま しょういち 播磨 正一(男) 昭和31年10月4日 63歳	8962	教育実習Ⅰ(中学校)		通年	前	火	1	4	49	—	8978でカウント	6.00	講師	平成30年4月1日 平成30年4月1日		昭和54年3月 北星学園大学 文学部 社会福祉学科 卒業 文学士 北星学園大学					
	8963	教育実習Ⅱ(高等学校)		通年	前	火	1	2	6	—	8978でカウント										
	8978	教育実習事前事後指導		通年	前	火	1	1	55	0.50											
	8941	教育方法論	/A	前	前	火	3	2	51	0.50											
	6413	肢体不自由者の心理		前	前	水	4	2	61	0.50											
	6426	障害児教育実習		通年	前	水	5	3	13	0.50											
	6066	知的障害者の心理	/B	前	前	木	5	2	36	0.50											
	8965	特別支援教育概論	/A	前	前	木	6	2	50	0.50											
	8962	教育実習Ⅰ(中学校)		通年	後	火	1	4	49	—	8978でカウント										
	8963	教育実習Ⅱ(高等学校)		通年	後	火	1	2	6	—	8978でカウント										
	8978	教育実習事前事後指導		通年	後	火	1	1	55	—	上段でカウント										
	8983	教職実践演習(中・高)	/C	後	後	火	3	2	13	0.50											
	8966	特別支援教育概論	/B	後	後	火	6	2	23	0.50											
	6426	障害児教育実習		通年	後	水	5	3	13	0.50											
	6419	肢体不自由教育方法論		後	後	木	1	2	22	0.50											
	6418	知的障害教育方法論Ⅱ		後	後	木	2	2	21	0.50											
	8942	教育方法論	/B	後	後	金	5	2	25	0.50											
	ごみた たい 五味田 泰(男) 昭和55年3月27日 40歳	924	上級フランス語Ⅰ		前	前	水	4	2	14	0.50							4.50	講師	令和元年4月1日 令和元年4月1日	平成27年5月 フランス共和国リヨン第2大学 文学研究科 古文学専攻 博士課程修了 文学博士 フランス共和国リヨン第2大学
		921	フランス語と文化		前	前	水	5	2	12	0.50										
		751	フランス語Ⅰ	/文部	前	前	木	1	2	24	0.50										
953		外国語演習[フランス語]		通年	前	木	2	4	8	0.50											
771		フランス語Ⅲ	/文部	前	前	木	4	2	18	0.50											
953		外国語演習[フランス語]		通年	後	木	2	4	8	0.50											
926		上級フランス語Ⅱ		後	後	水	4	2	14	0.50											
761		フランス語Ⅱ	/文部	後	後	木	1	2	27	0.50											
781		フランス語Ⅳ	/文部	後	後	木	4	2	18	0.50											
923		海外事情	/フラン	冬集中	後	冬集中	1	2	0	***	履修者未定(確定後コマ換算)										

ふりがな 氏名(性別)	授業科目												職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号				
	毎週授業コマ数																			
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コマ数	備考	合計 コマ数								
じゃん まうん ジャン・マウン 昭和35年5月20日 59歳	7036	オーラル・イングリッシュⅠ	/C2	前	前	月	2	2	17	0.25	45分授業	6.50	教授	平成7年4月1日 平成16年4月1日	Ph. D. (理学博士) 米国ライス大学大学院					
	7038	オーラル・イングリッシュⅠ	/D2	前	前	月	2	2	18	0.25	45分授業									
	7481	Life Science(ライフサイエンス)Ⅰ		前	前	月	3	2	43	0.50										
	7031	オーラル・イングリッシュⅠ	/A1	前	前	火	4	2	18	0.25	45分授業									
	7033	オーラル・イングリッシュⅠ	/B1	前	前	火	4	2	17	0.25	45分授業									
	7176	スタディ・スキルⅢ	/G2	前	前	火	6	1	2	0.50										
	7156	スタディ・スキルⅠ	/C2	前	前	木	2	1	0	-	7506でカウント									
	7506	スタディ・スキルⅠ		前	前	木	2	2	17	0.50										
	7342	オーラル・イングリッシュⅢ	/I2	前	前	金	1	1	14	0.25	45分授業									
	7344	オーラル・イングリッシュⅢ	/J2	前	前	金	1	1	14	0.25	45分授業									
	7436	Perspectives in Literature〔文学概論〕Ⅰ		前	前	金	3	2	57	0.50										
	7046	オーラル・イングリッシュⅡ	/C2	後	後	月	2	2	17	0.25	45分授業									
	7048	オーラル・イングリッシュⅡ	/D2	後	後	月	2	2	19	0.25	45分授業									
	7482	Life Science(ライフサイエンス)Ⅱ		後	後	月	3	2	28	0.50										
	7041	オーラル・イングリッシュⅡ	/A1	後	後	火	4	2	18	0.25	45分授業									
	7043	オーラル・イングリッシュⅡ	/B1	後	後	火	4	2	7	0.25	45分授業									
	7166	スタディ・スキルⅡ	/C2	後	後	火	6	1	0	-										
	7186	スタディ・スキルⅣ	/G2	後	後	木	2	1	3	-	7516でカウント									
	7516	スタディ・スキルⅡ		後	後	木	2	2	13	0.50										
	7352	オーラル・イングリッシュⅣ	/I2	後	後	金	1	1	14	0.25	45分授業									
	7354	オーラル・イングリッシュⅣ	/J2	後	後	金	1	1	15	0.25	45分授業									
	7439	Perspectives in Literature〔文学概論〕Ⅱ		後	後	金	3	2	47	0.50										
	たけむら まさし 竹村 雅史(男) 昭和31年3月8日 64歳	7191	リーディング・スキルⅠ	/B	前	前	月	2	1	34	0.50						6.50	教授	平成21年4月1日 平成18年4月1日	平成11年3月 北海道教育大学大学院 修士課程 修了 修士(教育学) 北海道教育大学大学院
		7192	リーディング・スキルⅠ	/C	前	前	月	3	1	34	0.50									
		7146	アゼンブリⅡ	/短英	前	前	火	2	2	108	0.25					2人(竹村・森越)で分担				
		7173	スタディ・スキルⅢ	/F1	前	前	火	6	1	0	-									
		7153	スタディ・スキルⅠ	/B1	前	前	木	2	1	0	-					7503でカウント				
7503		スタディ・スキルⅠ		前	前	木	2	2	17	0.50										
7231		リスニング・スキルⅢ		前	前	木	3	1	10	0.50										
7190		リーディング・スキルⅠ	/A	前	前	金	3	1	34	0.50										
7193		リーディング・スキルⅠ	/D	前	前	金	4	1	35	0.50										
7195		リーディング・スキルⅡ	/B	後	後	月	2	1	35	0.50										
7196		リーディング・スキルⅡ	/C	後	後	月	3	1	35	0.50										
7145		アゼンブリⅠ	/短英	後	後	火	2	2	141	0.25	2人(竹村・森越)で分担									
7163		スタディ・スキルⅡ	/B1	後	後	火	6	1	0	-										
7183		スタディ・スキルⅣ	/F1	後	後	木	2	1	0	-	7513でカウント									
7513		スタディ・スキルⅡ		後	後	木	2	2	13	0.50										
7233		リスニング・スキルⅣ		後	後	木	3	1	10	0.50										
7194		リーディング・スキルⅡ	/A	後	後	金	3	1	36	0.50										
7197		リーディング・スキルⅡ	/D	後	後	金	4	1	37	0.50										
もりこし きょうこ 森越 京子(女) 昭和39年12月7日 55歳		7267	ホスピタリティ&観光		前	前	月	4	2	33	0.50		5.50	教授	平成15年4月1日 平成22年4月1日	短大 英文学科長 令和2年9月 香港 香港理工大学 The School of Hotel and Tourism Management 修了 Doctor of Hotel and Tourism Management 香港 香港理工大学				
		7146	アゼンブリⅡ	/短英	前	前	火	2	2	108	0.25	2人(竹村・森越)で分担								
		7018	リスニング・スキルⅠ	/C	前	前	火	3	1	34	0.25	45分授業								
		7019	リスニング・スキルⅠ	/D	前	前	火	3	1	35	0.25	45分授業								
		7016	リスニング・スキルⅠ	/A	前	前	火	4	1	36	0.25	45分授業								
		7017	リスニング・スキルⅠ	/B	前	前	火	4	1	34	0.25	45分授業								
		7177	スタディ・スキルⅢ	/H1	前	前	火	6	1	0	-									
		7157	スタディ・スキルⅠ	/D1	前	前	木	2	1	0	-	7507でカウント								
		7507	スタディ・スキルⅠ		前	前	木	2	2	17	0.50									
	7016	リスニング・スキルⅠ	/A	前	前	木	3	1	36	0.25	45分授業									
	7017	リスニング・スキルⅠ	/B	前	前	木	3	1	34	0.25	45分授業									
	7018	リスニング・スキルⅠ	/C	前	前	木	4	1	34	0.25	45分授業									
	7019	リスニング・スキルⅠ	/D	前	前	木	4	1	35	0.25	45分授業									
	7145	アゼンブリⅠ	/短英	後	後	火	2	2	141	0.25	2人(竹村・森越)で分担									
	7023	リスニング・スキルⅡ	/C	後	後	火	3	1	34	0.25	45分授業									
	7024	リスニング・スキルⅡ	/D	後	後	火	3	1	35	0.25	45分授業									
	7021	リスニング・スキルⅡ	/A	後	後	火	4	1	35	0.25	45分授業									
	7022	リスニング・スキルⅡ	/B	後	後	火	4	1	34	0.25	45分授業									
	7167	スタディ・スキルⅡ	/D1	後	後	火	6	1	0	-										
	7187	スタディ・スキルⅣ	/H1	後	後	木	2	1	1	-	7517でカウント									
	7517	スタディ・スキルⅡ		後	後	木	2	2	14	0.50										
	7269	総合講義ホスピタリティ		後	後	木	5	2	60	0.50										
	7275	グローバル・インターンシップA		後	後	冬集中	1	2	0	-										
	7277	グローバル・インターンシップ		冬集中	後	冬集中	1	2	0	-										

ふりがな 氏名(性別)	授業科目												職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号				
	毎週授業コマ数																			
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コマ数	備考	合計 コマ数								
かーと あっかーまん カート・アッカーマン(男) 昭和42年1月15日 53歳	7032	オーラル・イングリッシュⅠ	△A2	前	前	月	1	2	18	0.25	45分授業	5.75	准教授	平成21年4月1日 平成27年4月1日		平成12年12月 英国ロンドン大学大学院 環境管理学専攻科 修士課程 修了 理学修士 英国ロンドン大学大学院				
	7034	オーラル・イングリッシュⅠ	△B2	前	前	月	1	2	17	0.25	45分授業									
	7147	エクステンシブ・リーディングⅠ	△IL	前	前	月	2	1	53	0.25	45分授業									
	7148	エクステンシブ・リーディングⅠ	△IK	前	前	月	2	1	54	0.25	45分授業									
	7451	Geography(地理)Ⅰ	△1	前	前	火	1	2	38	0.50										
	7452	Geography(地理)Ⅰ	△2	前	前	火	3	2	45	0.50										
	7172	スタディ・スキルⅢ	△E2	前	前	火	6	1	1	0.50										
	7152	スタディ・スキルⅠ	△A2	前	前	木	2	1	0	—	7502でカウント									
	7502	スタディ・スキルⅠ		前	前	木	2	2	17	0.50										
	7147	エクステンシブ・リーディングⅠ	△IL	前	前	金	2	1	53	0.25	45分授業									
	7148	エクステンシブ・リーディングⅠ	△IK	前	前	金	2	1	54	0.25	45分授業									
	7042	オーラル・イングリッシュⅡ	△A2	後	後	月	1	2	18	0.25	45分授業									
	7044	オーラル・イングリッシュⅡ	△B2	後	後	月	1	2	17	0.25	45分授業									
	7454	Geography(地理)Ⅱ	△1	後	後	火	1	2	30	0.50										
	7455	Geography(地理)Ⅱ	△2	後	後	火	3	2	39	0.50										
	7162	スタディ・スキルⅡ	△A2	後	後	火	6	1	0	—										
	7182	スタディ・スキルⅣ	△E2	後	後	木	2	1	1	—	7512でカウント									
	7512	スタディ・スキルⅡ		後	後	木	2	2	13	0.50										
	7149	エクステンシブ・リーディングⅡ		後	後	木	4	1	13	0.25	45分授業									
	しらとり きんご 白鳥 金吾(男) 昭和39年4月29日 55歳	7111	英文法Ⅰ	△A	前	前	月	1	1	36	0.25						45分授業	7.50	准教授	平成26年4月1日 平成30年4月1日
7112		英文法Ⅰ	△B	前	前	月	1	1	34	0.25	45分授業									
7113		英文法Ⅰ	△C	前	前	月	2	1	34	0.25	45分授業									
7114		英文法Ⅰ	△D	前	前	月	2	1	35	0.25	45分授業									
7241		英語学Ⅰ		前	前	火	3	2	32	0.50										
7178		スタディ・スキルⅢ	△H2	前	前	火	6	1	0	—										
7158		スタディ・スキルⅠ	△D2	前	前	木	2	1	0	—										
7508		スタディ・スキルⅠ		前	前	木	2	2	18	0.50										
7291		英語教育入門Ⅰ		前	前	木	5	2	10	0.50										
7113		英文法Ⅰ	△C	前	前	金	3	1	34	0.25	45分授業									
7114		英文法Ⅰ	△D	前	前	金	3	1	35	0.25	45分授業									
7111		英文法Ⅰ	△A	前	前	金	4	1	36	0.25	45分授業									
7112		英文法Ⅰ	△B	前	前	金	4	1	34	0.25	45分授業									
7116		英文法Ⅱ	△A	後	後	月	1	1	37	0.25	45分授業									
7117		英文法Ⅱ	△B	後	後	月	1	1	34	0.25	45分授業									
7118		英文法Ⅱ	△C	後	後	月	2	1	34	0.25	45分授業									
7119		英文法Ⅱ	△D	後	後	月	2	1	36	0.25	45分授業									
7242		英語学Ⅱ		後	後	火	3	2	29	0.50										
7168		スタディ・スキルⅡ	△D2	後	後	火	6	1	0	—										
7188		スタディ・スキルⅣ	△H2	後	後	木	2	1	0	—	7518でカウント									
7518		スタディ・スキルⅡ		後	後	木	2	2	14	0.50										
7292		英語教育入門Ⅱ		後	後	木	5	2	6	0.50										
8917		英語科教育法Ⅱ		後	後	金	1	2	12	0.50										
7118		英文法Ⅱ	△C	後	後	金	3	1	36	0.25	45分授業									
7119		英文法Ⅱ	△D	後	後	金	3	1	36	0.25	45分授業									
7116		英文法Ⅱ	△A	後	後	金	4	1	37	0.25	45分授業									
7117		英文法Ⅱ	△B	後	後	金	4	1	34	0.25	45分授業									
たなか なおこ 田中 直子(女) 昭和47年9月20日 47歳		7304	通訳法Ⅱ	△1	前	前	火	4	2	19	0.50		6.00	准教授	平成26年4月1日 令和2年4月1日	平成20年5月 米国ハイデルバーグ大学大学院 教育学部 修士課程 修了 M.A.(教育学修士) 米国ハイデルバーグ大学大学院				
		7305	通訳法Ⅱ	△2	前	前	火	5	2	10	0.50									
		7174	スタディ・スキルⅢ	△F2	前	前	火	6	1	1	0.50									
	7154	スタディ・スキルⅠ	△B2	前	前	木	2	1	0	—	7504でカウント									
	7504	スタディ・スキルⅠ		前	前	木	2	2	17	0.50										
	7003	発音法Ⅰ	△C	前	前	木	3	1	34	0.25	45分授業									
	7004	発音法Ⅰ	△D	前	前	木	3	1	35	0.25	45分授業									
	7001	発音法Ⅰ	△A	前	前	木	4	1	35	0.25	45分授業									
	7002	発音法Ⅰ	△B	前	前	木	4	1	34	0.25	45分授業									
	7301	通訳法Ⅰ	△1	後	後	月	4	2	30	0.50										
	7302	通訳法Ⅰ	△2	後	後	月	5	2	30	0.50										
	7307	Tour Guiding and Interpreting		後	後	火	2	2	26	0.50										
	7164	スタディ・スキルⅡ	△B2	後	後	火	6	1	0	—										
	7184	スタディ・スキルⅣ	△F2	後	後	木	2	1	1	—	7514でカウント									
	7514	スタディ・スキルⅡ		後	後	木	2	2	11	0.50										
	7008	発音法Ⅱ	△C	後	後	木	3	1	35	0.25	45分授業									
	7009	発音法Ⅱ	△D	後	後	木	3	1	35	0.25	45分授業									
	7006	発音法Ⅱ	△A	後	後	木	4	1	35	0.25	45分授業									
	7007	発音法Ⅱ	△B	後	後	木	4	1	34	0.25	45分授業									
	7282	海外研修AⅡ		冬集中	後	冬集中	1	2	0	—										
	7285	海外研修A		冬集中	後	冬集中	1	2	0	—										

ふりがな 氏名(性別)	授業科目												職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号
	毎週授業コマ数															
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コマ数	備考	合計 コマ数				
ましゅー こったー マシュー コッター (男) 昭和49年7月27日 45歳	7496	Intercultural Communication(異文化間コミュ)		前	前	月	5	2	2	—	7521でカウント	6.50	講師	平成28年4月1日		平成20年8月 タスマニア大学大学院 教育学部 修士課程 修了
	7521	Intercultural Communication(異文化コミュ)		前	前	月	5	2	19	0.50						
	7497	Intercultural Communication(異文化間コミュ)		前	前	火	4	2	2	—	7522でカウント					
	7522	Intercultural Communication(異文化コミュ)		前	前	火	4	2	39	0.50						
	1983	ジャパニーズ・カルチャー	/A	前	前	火	5	3	2	—	8781でカウント					
	8781	比較文化[国際]	/A	前	前	火	5	2	10	0.50						
	8867	日本の文化[国際]	/A	前	前	火	5	3	5	—	8781でカウント					
	7175	スタディ・スキルIII	/G1	前	前	火	6	1	0	—						
	7155	スタディ・スキルI	/C1	前	前	木	2	1	0	—						
	7505	スタディ・スキルI		前	前	木	2	2	17	0.50						
	7035	オーラル・イングリッシュI	/C1	前	前	木	4	2	17	0.25	45分授業					
	7037	オーラル・イングリッシュI	/D1	前	前	木	4	2	17	0.25	45分授業					
	7346	オーラル・イングリッシュIII	/K2	前	前	金	1	1	12	0.25	45分授業					
	7348	オーラル・イングリッシュIII	/L2	前	前	金	1	1	13	0.25	45分授業					
	7430	Introduction to Sports Theory [スポーツ概論]		前	前	金	4	2	24	0.50						
	7498	Intercultural Communication(異文化間コミュ)		後	後	月	5	2	4	—	7523でカウント					
	7523	Intercultural Communication(異文化コミュ)		後	後	月	5	2	17	0.50						
	7499	Intercultural Communication(異文化間コミュ)		後	後	火	4	2	2	—	7524でカウント					
	7524	Intercultural Communication(異文化コミュ)		後	後	火	4	2	39	0.50						
	7165	スタディ・スキルII	/C1	後	後	火	6	1	0	—						
	7185	スタディ・スキルIV	/G1	後	後	木	2	1	0	—	7515でカウント					
	7515	スタディ・スキルII		後	後	木	2	2	13	0.50						
	7045	オーラル・イングリッシュII	/C1	後	後	木	4	2	17	0.25	45分授業					
	7047	オーラル・イングリッシュII	/D1	後	後	木	4	2	17	0.25	45分授業					
	7356	オーラル・イングリッシュIV	/K2	後	後	金	1	1	14	0.25	45分授業					
	7358	オーラル・イングリッシュIV	/L2	後	後	金	1	1	15	0.25	45分授業					
	7433	Ainu and Maori Studies [アイヌとマオリ研究]		後	後	金	4	2	32	0.50						
	7091	ボキャブラリー・ビルディングI	/A	前	前	月	2	1	35	0.50						
	7094	ボキャブラリー・ビルディングI	/D	前	前	月	3	1	36	0.50						
	7171	スタディ・スキルIII	/E1	前	前	火	6	1	0	—						
7151	スタディ・スキルI	/A1	前	前	木	2	1	0	—	7501でカウント						
7501	スタディ・スキルI		前	前	木	2	2	18	0.50							
7442	International Business[国際ビジネス]		前	前	木	4	2	48	0.50							
7092	ボキャブラリー・ビルディングI	/B	前	前	金	3	1	34	0.50							
7093	ボキャブラリー・ビルディングI	/C	前	前	金	4	1	35	0.50							
7096	ボキャブラリー・ビルディングII	/A	後	後	月	2	1	34	0.50							
7099	ボキャブラリー・ビルディングII	/D	後	後	月	3	1	38	0.50							
7283	海外研修B I		後	後	火	5	2	17	0.50							
7161	スタディ・スキルII	/A1	後	後	火	6	1	0	—							
7181	スタディ・スキルIV	/E1	後	後	木	2	1	2	—	7511でカウント						
7511	スタディ・スキルII		後	後	木	2	2	13	0.50							
7097	ボキャブラリー・ビルディングII	/B	後	後	金	3	1	34	0.50							
7098	ボキャブラリー・ビルディングII	/C	後	後	金	4	1	34	0.50							
7284	海外研修B II		冬集中	後	冬集中	1	2	0	—							
7679	生活創造専門演習	/情	通年	前	火	3	4	15	0.50							
7734	情報処理論	/生	前	前	火	4	2	21	0.50							
7733	生活情報論		前	前	木	1	2	20	0.50							
7914	数の世界		前	前	木	3	2	22	0.50							
7741	生活学基礎演習I	/A	前	前	木	5	2	13	0.50	学科教員7名で分担						
7742	生活学基礎演習I	/B	前	前	木	5	2	12	—							
7743	生活学基礎演習I	/C	前	前	木	5	2	13	—							
7744	生活学基礎演習I	/D	前	前	木	5	2	13	—							
7745	生活学基礎演習I	/E	前	前	木	5	2	13	—							
7746	生活学基礎演習I	/F	前	前	木	5	2	13	—							
7747	生活学基礎演習I	/G	前	前	木	5	2	13	—							
7692	基礎情報処理	/A	前	前	金	4	2	24	0.25	2人(内山・藤木)で分担						
7693	基礎情報処理	/B	前	前	金	4	2	21	0.25	2人(内山・藤木)で分担						
7694	基礎情報処理	/C	前	前	金	5	2	24	0.25	2人(内山・藤木)で分担						
7695	基礎情報処理	/D	前	前	金	5	2	21	0.25	2人(内山・藤木)で分担						
7760	アゼンリII	/生	後	後	火	2	2	84	0.25	2人(内山・山本)で分担						
7679	生活創造専門演習	/情	通年	後	火	3	4	15	0.50							
7905	科学概論		後	後	火	5	2	6	0.50							
7789	情報収集と検索		後	後	木	4	2	27	0.50							
7735	応用情報処理		後	後	木	5	2	11	0.50							
7755	生活学基礎演習II	/情	後	後	金	3	2	7	0.50							

17 専任教員個別表〔2019年度〕短期大学部

(表V-17-5)

ふりがな 氏名(性別)	授業科目												職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号				
	毎週授業コマ数																			
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コマ数	備考	合計 コマ数								
ふじわら りさ 藤原 里佐(女)	7729	女性福祉論		前	前	月	5	2	39	0.50		3.50	教授	短期大学部長	平成17年3月 北海道大学大学院 教育学研究科 教育学専攻 博士課程 修了					
	7705	生活福祉論		前	前	木	4	2	57	0.50										
	7741	生活学基礎演習I	/A	前	前	木	5	2	13	0.50	学科教員7名で分担									
	7742	生活学基礎演習I	/B	前	前	木	5	2	12	—										
	7743	生活学基礎演習I	/C	前	前	木	5	2	13	—										
	7744	生活学基礎演習I	/D	前	前	木	5	2	13	—										
	7745	生活学基礎演習I	/E	前	前	木	5	2	13	—										
昭和37年7月20日 57歳	7746	生活学基礎演習I	/F	前	前	木	5	2	13	—		7.00	教授	平成22年4月1日	博士(教育学) 北海道大学大学院					
	7747	生活学基礎演習I	/G	前	前	木	5	2	13	—										
	7711	現代子ども論		後	後	木	2	2	44	0.50										
	7675	生活創造専門演習	/福	通年	前	金	2	4	13	0.50										
	7675	生活創造専門演習	/福	通年	後	金	2	4	13	0.50										
	7753	生活学基礎演習II	/福	後	後	金	3	2	5	0.50										
	7794	住生活論		前	前	月	1	2	13	0.50										
	7698	芸術文化創造論		前	前	月	3	2	84	0.23	7回担当、(遠藤・川部)									
	7801	住宅CAD設計I		前	前	月	4	2	7	0.50										
	7796	都市環境創造論		前	前	火	3	2	10	0.50										
	えんどう たろう 遠藤 太郎(男) 昭和48年12月2日 46歳	7795	住設計基礎実習		前	前	火	4	2	11	0.50						7.00	教授	生活創造 学科長	平成13年3月 横浜国立大学大学院 工学研究科 計画建設学専攻 博士後期課程 修了 博士(工学) 横浜国立大学大学院
7795		住設計基礎実習		前	前	火	5	2	11	0.50										
7825		住設計応用演習I		前	前	木	2	2	6	0.50										
7741		生活学基礎演習I	/A	前	前	木	5	2	13	0.50	学科教員7名で分担									
7742		生活学基礎演習I	/B	前	前	木	5	2	12	—										
7743		生活学基礎演習I	/C	前	前	木	5	2	13	—										
7744		生活学基礎演習I	/D	前	前	木	5	2	13	—										
7745		生活学基礎演習I	/E	前	前	木	5	2	13	—										
7746		生活学基礎演習I	/F	前	前	木	5	2	13	—										
7747		生活学基礎演習I	/G	前	前	木	5	2	13	—										
7681		生活創造専門演習	/住	通年	前	金	2	4	7	0.50										
7925		美術と文化		後	後	月	1	2	25	0.27	8回担当、(遠藤・川部)									
7798		インテリアデザイン演習		後	後	月	2	2	18	0.50										
7681		生活創造専門演習	/住	通年	後	火	3	4	7	0.50										
7826		住設計応用演習II		後	後	木	1	2	7	0.50										
7799		住宅空間設計演習		後	後	金	1	2	12	0.50										
7756		生活学基礎演習II	/住	後	後	金	4	2	9	0.50										
かわべ だいすけ 川部 大輔(男) 昭和49年2月11日 46歳		7815	基礎デッサン		前	前	月	2	2	19	0.50		6.25	准教授	平成21年4月1日 平成27年4月1日	平成8年3月 北海道教育大学 教育学部 札幌校 芸術文化課程 美術・工芸コース 卒業 学士(芸術文化) 北海道教育大学				
		7698	芸術文化創造論		前	前	月	3	2	84	0.27	8回担当、(遠藤・川部)								
		7759	アゼンブリ	/生	前	前	火	2	2	92	0.25	2人(川部・藤木)で分担								
		7682	生活創造専門演習	/ク	通年	前	火	3	4	13	0.50									
	7814	写真表現		前	前	火	5	2	40	0.50										
	7832	グラフィックデザイン演習I		前	前	木	3	2	15	0.50										
	7741	生活学基礎演習I	/A	前	前	木	5	2	13	0.50	学科教員7名で分担									
	7742	生活学基礎演習I	/B	前	前	木	5	2	12	—										
	7743	生活学基礎演習I	/C	前	前	木	5	2	13	—										
	7744	生活学基礎演習I	/D	前	前	木	5	2	13	—										
	7745	生活学基礎演習I	/E	前	前	木	5	2	13	—										
	7746	生活学基礎演習I	/F	前	前	木	5	2	13	—										
	7747	生活学基礎演習I	/G	前	前	木	5	2	13	—										
	7925	美術と文化		後	後	月	1	2	25	0.23	7回担当、(遠藤・川部)									
	7831	グラフィックデザイン論		後	後	月	4	2	18	0.50										
	7682	生活創造専門演習	/ク	通年	後	火	3	4	13	0.50										
	7785	Webパブリッシング		後	後	火	5	2	24	0.50										
	7833	デジタルグラフィックス基礎		後	後	木	4	2	23	0.50										
	7819	グラフィックデザイン演習II		後	後	木	5	2	14	0.50										
	7757	生活学基礎演習II	/ク	後	後	金	3	2	5	0.50										

17 専任教員個別表〔2019年度〕短期大学部

(表V-17-5)

ふりがな 氏名(性別)	授業科目												職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号					
	毎週授業コマ数																				
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コ マ 数	備 考	合 計 コ マ 数									
かざと まり 風戸 真理(女) 昭和48年4月17日 46歳	7731	国際社会論		前	前	火	2	2	0	7738でカウント	6.00	准教授	平成25年4月1日 令和2年4月1日		平成15年3月 京都大学大学院 人間・環境学研究所 文化・地域環境学専攻 博士後期課程 単位取得後退学 博士(人間・環境学) 京都大学大学院						
	7738	アジア地域論		前	前	火	2	2	17	0.50											
	7915	社会学Ⅰ	短	前	前	火	4	2	47	0.50											
	7674	生活創造専門演習	文	通	前	木	2	4	13	0.50											
	7741	生活学基礎演習Ⅰ	A	前	前	木	5	2	13	0.50						学科教員7名で分担					
	7742	生活学基礎演習Ⅰ	B	前	前	木	5	2	12	—											
	7743	生活学基礎演習Ⅰ	C	前	前	木	5	2	13	—											
	7744	生活学基礎演習Ⅰ	D	前	前	木	5	2	13	—											
	7745	生活学基礎演習Ⅰ	E	前	前	木	5	2	13	—											
	7746	生活学基礎演習Ⅰ	F	前	前	木	5	2	13	—											
	7747	生活学基礎演習Ⅰ	G	前	前	木	5	2	13	—											
	7761	社会調査法		前	前	金	3	2	16	0.50											
	7813	現代女性とキャリア		後	後	月	3	2	85	0.50											
	7762	家族文化論		後	後	火	3	2	17	0.50											
	7917	社会学Ⅱ	短	後	後	火	4	2	27	0.50											
	7674	生活創造専門演習	文	通	後	木	2	4	13	0.50											
	7696	生活文化創造論		後	後	木	3	2	91	0.50											
	7829	現代文化論		後	後	金	3	2	20	0.50											
	7752	生活学基礎演習Ⅱ	文	後	後	金	4	2	7	0.50											
	ふじき あきこ 藤木 晶子(女) 昭和54年11月13日 40歳	7909	心理学Ⅰ	短B	前	前	月	1	2	73						0.50	5.75	講師	平成29年4月1日 平成29年4月1日	平成23年3月 北海道大学 大学院 文学研究科 人間システム科学専攻 博士課程 単位取得後退学 博士(文学) 北海道大学大学院	
		7759	アセンブリ	生	前	前	火	2	2	92						0.25					2人(川部・藤木)で分担
		7716	生活心理学研究法		前	前	火	3	2	7						0.50					
		7672	生活創造専門演習	心	通	前	火	4	4	7						0.50					
7741		生活学基礎演習Ⅰ	A	前	前	木	5	2	13	0.50	学科教員7名で分担										
7742		生活学基礎演習Ⅰ	B	前	前	木	5	2	12	—											
7743		生活学基礎演習Ⅰ	C	前	前	木	5	2	13	—											
7744		生活学基礎演習Ⅰ	D	前	前	木	5	2	13	—											
7745		生活学基礎演習Ⅰ	E	前	前	木	5	2	13	—											
7746		生活学基礎演習Ⅰ	F	前	前	木	5	2	13	—											
7747		生活学基礎演習Ⅰ	G	前	前	木	5	2	13	—											
7692		基礎情報処理	A	前	前	金	4	2	24	0.25	2人(内山・藤木)で分担										
7693		基礎情報処理	B	前	前	金	4	2	21	0.25	2人(内山・藤木)で分担										
7694		基礎情報処理	C	前	前	金	5	2	24	0.25	2人(内山・藤木)で分担										
7695		基礎情報処理	D	前	前	金	5	2	21	0.25	2人(内山・藤木)で分担										
7713		社会心理学	生	後	後	月	4	2	38	0.50											
7910		心理学Ⅱ	短B	後	後	火	1	2	55	0.50											
7672		生活創造専門演習	心	通	後	火	4	4	7	0.50											
7712		発達心理学	生	後	後	木	3	2	47	0.50											
7751		生活学基礎演習Ⅱ	心	後	後	金	3	2	27	0.50											
やまもと しんべい 山本 慎平(男) 昭和57年7月9日 37歳		7723	北海道の生活と経済		前	前	月	4	2	68	0.50	6.25	講師	平成30年4月1日 平成30年4月1日	平成27年3月 大阪市立大学大学院 経済学研究科 現代経済専攻 博士課程 終了 博士(経済学説・経済思想) 大阪市立大学大学院						
		7901	経済学Ⅰ	短	前	前	月	5	2	92	0.50										
		7677	生活創造専門演習	経	通	前	火	3	4	16	0.50										
	7741	生活学基礎演習Ⅰ	A	前	前	木	5	2	13	0.50	学科教員7名で分担										
	7742	生活学基礎演習Ⅰ	B	前	前	木	5	2	12	—											
	7743	生活学基礎演習Ⅰ	C	前	前	木	5	2	13	—											
	7744	生活学基礎演習Ⅰ	D	前	前	木	5	2	13	—											
	7745	生活学基礎演習Ⅰ	E	前	前	木	5	2	13	—											
	7746	生活学基礎演習Ⅰ	F	前	前	木	5	2	13	—											
	7747	生活学基礎演習Ⅰ	G	前	前	木	5	2	13	—											
	7726	応用ビジネスコンピューティング		前	前	金	2	2	49	0.50											
	7697	生活経済創造論		前	前	金	3	2	90	0.50											
	7724	ビジネスコンピューティング	1	後	後	月	2	2	53	0.50											
	7721	生活とサービス産業		後	後	月	5	2	42	0.50											
	7760	アセンブリⅡ	生	後	後	火	2	2	84	0.25	2人(内山・山本)で分担										
	7677	生活創造専門演習	経	通	後	火	3	4	16	0.50											
	7725	ビジネスコンピューティング	2	後	後	木	1	2	11	0.50											
	7919	経済学Ⅱ	短	後	後	木	5	2	52	0.50											
	7754	生活学基礎演習Ⅱ	経	後	後	金	3	2	29	0.50											

17 専任教員個別表〔2019年度〕短期大学部

(表V-17-5)

ふりがな 氏名(性別)	授業科目												職名	就職年月日 現職就任年月日	学内兼任、 分担その他 教務の分担	最終学歴及び学位称号
	毎週授業コマ数															
	履修 コード	科目名	ク ラ ス	開 講 期	担 当 期	曜 日	講 時	単 位	履 修 者 数	コ マ 数	備 考	合 計 コ マ 数				
ろばと げていんぐす ロバート・ゲティンクス(男) 昭和27年10月28日 67歳	7881	英語Ⅰ	／A	前	前	水	2	1	28	0.50		5.00	教授	平成4年4月1日 平成13年4月1日	昭和59年12月 米国ケンブリッジ大学大学院 教育学部 修士課程 修了 M.A.(教育学修士) 米国ケンブリッジ大学大学院	
	3125	ビジネス英語Ⅰ	／経	前	前	水	4	2	3	—	3416でカウント					
	3416	実践英語Ⅰ		前	前	水	4	2	8	0.50						
	7457	History(歴史)Ⅰ		前	前	水	5	2	72	0.50						
	7056	英作文Ⅰ	／C2	前	前	木	1	1	17	0.50						
	7032	オーラル・イングリッシュⅠ	／A2	前	前	木	3	2	18	0.25	45分授業					
	7034	オーラル・イングリッシュⅠ	／B2	前	前	木	3	2	17	0.25	45分授業					
	7886	英語Ⅱ	／A	後	後	水	2	1	29	0.50						
	3126	ビジネス英語Ⅱ	／経	後	後	水	4	2	3	—	3417でカウント					
	3417	実践英語Ⅱ		後	後	水	4	2	8	0.50						
	7459	History(歴史)Ⅱ		後	後	水	5	2	71	0.50						
	7066	英作文Ⅱ	／C2	後	後	木	1	1	17	0.50						
	7042	オーラル・イングリッシュⅡ	／A2	後	後	木	3	2	18	0.25	45分授業					
	7044	オーラル・イングリッシュⅡ	／B2	後	後	木	3	2	17	0.25	45分授業					
なかむら こう 中村 浩(男) 昭和26年9月5日 68歳	7916	心理学Ⅰ	／短A	前	前	水	4	2	69	0.50		3.00	教授	平成12年4月1日 平成12年4月1日	昭和54年3月 日本大学大学院 文学研究科 心理学専攻 博士後期課程 単位取得後退学 文学博士 日本大学大学院	
	8005	心理学Ⅰ	／C	前	前	木	2	2	211	0.50						
	7715	カウンセリング論	／生	前	前	金	4	2	15	0.50						
	7918	心理学Ⅱ	／短A	後	後	水	4	2	54	0.50						
	8006	心理学Ⅱ	／C	後	後	木	2	2	144	0.50						
	7714	生活心理学	／	後	後	金	4	2	27	0.50						

VI. 本学の研究組織及び研究活動に関すること

1 専任教員に配分される研究費〔2020年度〕

(1) 大学 ①予算状況

(表VI-1-①-i)

学部	個人研究費						個人研究費 総額(G)	専任教員数 (H)	一人当たりの学会 加算を除く額(I) (K-J)	一人当たりの学 会加算額(J) (F/H)	一人当たりの個 人研究費額(K) (G/H)	備考
	基礎額(A)	大学院加算 額(B)	傾斜配分額 (C)	繰越額(D)	科研費加算・ 若手支援加 算額(E)	学会活動支 援研究費加 算額(F)						
文	13,950,000	425,000	1,706,000	1,018,000	1,110,000	36,000	18,245,000	32	569,031	1,125	570,156	通常専任 26人、特専5人、特別職員1人
経済	21,800,000	775,000	1,768,000	1,928,000	1,070,000	56,085	27,397,085	49	557,980	1,145	559,124	通常専任 38人、特専11人 内大学院科目担当9人
社会福祉	17,504,000	1,375,000	2,415,400	851,000	1,631,000	16,000	23,792,400	39	609,651	410	610,062	通常専任 31人、特専8人 内大学院科目担当23人
合計	53,254,000	2,575,000	5,889,400	3,797,000	3,811,000	108,085	69,434,485	120	577,720	901	578,621	通常専任 95人、特専24人、大連1人、 助教2人、内大学院科目担当 30人

(1) 大学 ②執行状況

(表VI-1-①-ii)

学部	個人研究費 総額	個人研究費 執行額	個人研究費 残額	執行率 (%)	支 出 項 目							備考
					消耗品費	印刷製本費	諸会費	雑誌資料費	備品費	旅費交通費	その他	
文	18,245,000	14,355,535	3,889,465	78.68%	5,656,619	16,486	904,423	2,687,355	3,074,898	291,186	1,724,568	
経済	27,397,085	22,043,265	5,353,820	80.46%	7,591,270	163,647	1,479,137	6,057,376	5,303,069	497,729	951,037	
社会福祉	23,792,400	18,964,040	4,828,360	79.71%	7,688,510	118,430	1,680,060	4,173,018	2,906,556	829,024	1,568,442	
合計	69,434,485	55,362,840	14,071,645	79.73%	20,936,399	298,563	4,063,620	12,917,749	11,284,523	1,617,939	4,244,047	

- [注] 1 執行状況には超過執行分が含まれている場合がある。
 2 図書は経費扱いなので、図書の支出項目は雑誌資料費に含まれている。
 3 学長は、文学部に記入すること。
 4 大連以外の国際交流教員の研究費は、含めないこと。

(2) 短期大学部 ①予算状況

(表VI-1-②-i)

学部	個人研究費						個人研究費 総額(G)	専任教員数 (H)	一人当たりの学会 加算を除く額(I) (K-J)	一人当たりの学 会加算額(J) (F/H)	一人当たりの個 人研究費額(K) (G/H)	備考
	基礎額(A)	大学院加算 額(B)	傾斜配分額 (C)	繰越額(D)	科研費加算・ 若手支援加 算額(E)	学会活動支 援研究費加 算額(F)						
短大	8,100,000	0	870,000	701,000	665,000	13,617	10,349,617	17	608,000	801	608,801	通常専任 15人、特別専任2人

(2) 短期大学部 ②執行状況

(表VI-1-②-ii)

学部	個人研究費 総額	個人研究費 執行額	個人研究費 残額	執行率 (%)	支 出 項 目							備考
					消耗品費	印刷製本費	諸会費	雑誌資料費	備品費	旅費交通費	その他	
短大	10,349,617	7,719,946	2,629,671	74.59%	1,973,772	6,330	436,639	855,081	3,286,550	239,603	921,971	

- [注] 1 執行状況には超過執行分が含まれている場合がある。
 2 図書は経費扱いなので、図書の支出項目は雑誌資料費に含まれている。

2 専任教員の研究旅費

(1) 大学 [2018～2020]

(表VI-2-①)

学部・研究科等	2018年度					2019年度					2020年度					
	国外研修		国内研修	学会等出張旅費		国外研修		国内研修	学会等出張旅費		国外研修		国内研修	学会等出張旅費		
	長期	短期	長期	国外	国内	長期	短期	長期	国外	国内	長期	短期	長期	国外	国内	
文学部・ 文学研究科	総額	0	0	1,886,270	3,999,762	4,501,178	0	0	194,200	2,363,704	4,245,424	0	0		0	190,266
	支給件数	0	0	1	19	71	0	0	1	12	61	0	0		0	22
	一人当たり支給額	0	0	1,886,270	121,205	136,399	0	0	194,200	71,627	128,649	0	0	0	0	5,946
	専任教員数	33					33					32				
経済学部・ 経済学研究科	総額	0	0	0	5,452,943	7,959,116	0	1,949,173	0	3,708,317	6,123,722	0	0	0	0	30,080
	支給件数	0	0	0	26	122	0	1	0	16	95	0	0	0	1	11
	一人当たり支給額	0	0	0	111,285	162,431	0	1,949,173	0	74,166	122,474	0	0	0	0	614
	専任教員数	49					50					49				
社会福祉学部・ 社会福祉学研究科	総額	3,786,289	0	418,600	6,037,236	7,419,681	0	0	0	3,756,646	8,080,863	0	0	1,825,560	0	436,078
	支給件数	1	0	1	24	104	0	0	0	15	129	0	0	1	0	27
	一人当たり支給額	3,786,289	0	418,600	143,744	176,659	0	0	0	96,324	207,202	0	0	1,825,560	0	11,181
	専任教員数	42					39					39				
計	総額	3,786,289	0	2,304,870	15,489,941	19,879,975	0	1,949,173	194,200	9,828,667	18,450,009	0	0	1,825,560	0	656,424
	支給件数	1	0	2	69	297	0	1	1	43	285	0	0	1	0	60
	一人当たり支給額	3,786,289	0	1,152,435	124,919	160,322	0	1,949,173	194,200	80,563	151,230	0	0	1,825,560	0	5,470
	専任教員数	124					122					120				

(2) 短期大学部

(表VI-2-②)

学部・研究科等	2018年度					2019年度					2020年度					
	国外研修		国内研修	学会等出張旅費		国外研修		国内研修	学会等出張旅費		国外研修		国内研修	学会等出張旅費		
	長期	短期	長期	国外	国内	長期	短期	長期	国外	国内	長期	短期	長期	国外	国内	
短期大学部	総額	0	0	1,928,390	6,210,002	3,583,085	0	0	0	3,761,903	2,666,260	0	0	0	0	106,324
	支給件数	0	0	1	29	56	0	0	0	44	43	0	0	0	0	10
	一人当たり支給額	0	0	1,928,390	345,000	199,060	0	0	0	208,995	148,126	0	0	0	0	6,254
	専任教員数	18					18					17				

- [注] 1 国内外研修については、「北星学園大学教育職員国内外研修規程」による額である。
 2 学会等出張旅費の支給上限額は、個人研究費取扱要領で規定する配分総額である。共同研究費を含めない。
 3 学会等出張旅費は、個人研究費の学会・資料収集等の旅費を記入し、その他の旅費（参加費、アルバイト旅費、論文集、空港施設使用料、出入国税等）は含めない。
 4 学長は、文学部に記入する。
 5 大連外国語学院交流教員は、経済学部に記入する。
 6 大連以外の国際交流教員は含まない。
 7 国外研修短期の欄は、年度をまたぐ研究者も含む。
 8 研修の「長期」とは、1年以上のものをいい、1年未満を「短期」とする。

3 学内共同研究費

(1) 大学 [2019~2020]

(表VI-3-①)

大学・学部・大学院研究科等	2018年度		2019年度		2020年度		備考
	総額	利用件数	総額	利用件数	総額	利用件数	
文学部・文学研究科	1,251,361	3	0	0	0	0	
経済学部・経済学研究科	0	0	1,146,226	3	0	1	
社会福祉学部・社会福祉学研究科	1,977,534	4	1,342,176	4	543,193	2	
計	3,228,895	7	2,488,402	7	543,193	3	

(2) 短期大学部 [2018~2020]

(表VI-3-②)

短期大学部	2018年度		2019年度		2020年度		備考
	総額	利用件数	総額	利用件数	総額	利用件数	
短期大学部	0	0	0	0	0	0	

※「学内共同研究費」とは、特定研究費取扱要領に規定される共同研究費である。

4 教員研究費内訳

(1) 大学 [2018~2020]

(表VI-4-①)

学部・研究科等	研究費の内訳		2018年度		2019年度		2020年度	
			研究費(円)	研究費総額に対する割合(%)	研究費(円)	研究費総額に対する割合(%)	研究費(円)	研究費総額に対する割合(%)
文学部・ 文学研究科	研究費総額		16,297,280	100%	19,713,236	100%	22,004,734	100%
	学内	経常研究費(教員当り積算校費総額)	12,454,693	76%	15,463,236	78%	18,054,734	82%
		学内共同研究費	586,587	4%	0	0%	0	0%
	学	科学研究費助成事業	3,256,000	20%	4,250,000	22%	3,950,000	18%
		政府もしくは政府関連法人からの研究助成金	0	0%	0	0%	0	0%
		民間の研究助成財団等からの研究助成金	0	0%	0	0%	0	0%
	外	受託・請負研究費	0	0%	0	0%	0	0%
その他		0	0%	0	0%	0	0%	
経済学部・ 経済研究科	研究費総額		26,859,140	100%	32,104,694	100%	35,323,158	100%
	学内	経常研究費(教員当り積算校費総額)	18,464,379	69%	24,748,468	77%	27,367,005	77%
		学内共同研究費	1,867,761	7%	1,146,226	4%	0	0%
	学	科学研究費助成事業	6,527,000	24%	6,210,000	19%	6,090,000	17%
		政府もしくは政府関連法人からの研究助成金	0	0%	0	0%	1,866,153	5%
		民間の研究助成財団等からの研究助成金	0	0%	0	0%	0	0%
	外	受託・請負研究費	0	0%	0	0%	0	0%
その他		0	0%	0	0%	0	0%	
社会福祉学部・ 社会福祉学研究科	研究費総額		24,954,395	100%	29,118,761	100%	32,389,515	100%
	学内	経常研究費(教員当り積算校費総額)	17,782,063	71%	20,731,227	71%	23,356,322	72%
		学内共同研究費	1,475,332	6%	1,977,534	7%	543,193	2%
	学	科学研究費助成事業	5,697,000	23%	6,410,000	22%	8,490,000	26%
		政府もしくは政府関連法人からの研究助成金	0	0%	0	0%	0	0%
		民間の研究助成財団等からの研究助成金	0	0%	0	0%	0	0%
	外	受託・請負研究費	0	0%	0	0%	0	0%
その他		0	0%	0	0%	0	0%	

※1「経常研究費」＝表VI-1「専任教員に配分される研究費」の予算状況「研究費総額(G)」－表VI-2「専任教員の研究旅費」の「学会等出張旅費」。

※2「学内共同研究費」の欄は、表VI-3「学内共同研究費」の額である。

4 教員研究費内訳

(1) 大学〔2018～2020〕

(表VI-4-②)

学部・研究科等	研究費の内訳	2018年度		2019年度		2020年度		
		研究費(円)	研究費総額に対する割合(%)	研究費(円)	研究費総額に対する割合(%)	研究費(円)	研究費総額に対する割合(%)	
大学学部・研究科計	研究費総額	68,110,815	100%	80,936,691	100%	89,717,407	100%	
	学内	経常研究費(教員当り積算校費総額)	48,701,135	72%	60,942,931	75%	68,778,061	77%
		学内共同研究費	3,929,680	6%	3,123,760	4%	543,193	1%
	学	科学研究費助成事業	15,480,000	23%	16,870,000	21%	18,530,000	21%
		政府もしくは政府関連法人からの研究助成金	0	0%	0	0%	1,866,153	2%
		民間の研究助成財団等からの研究助成金	0	0%	0	0%	0	0%
	外	受託研究費	0	0%	0	0%	0	0%
		その他	0	0%	0	0%	0	0%

(2) 短期大学部〔2018～2020〕

(表VI-4-③)

短期大学部	研究費の内訳	2018年度		2019年度		2020年度		
		研究費(円)	研究費総額に対する割合(%)	研究費(円)	研究費総額に対する割合(%)	研究費(円)	研究費総額に対する割合(%)	
短期大学部	研究費総額	8,557,801	100%	12,364,023	100%	14,093,293	100%	
	学内	経常研究費(教員当り積算校費総額)	6,498,050	76%	8,744,023	71%	10,243,293	73%
		学内共同研究費	459,751	5%	0	0%	0	0%
	学	科学研究費助成事業	600,000	7%	3,620,000	29%	3,850,000	27%
		政府もしくは政府関連法人からの研究助成金	0	0%	0	0%	0	0%
		民間の研究助成財団等からの研究助成金	1,000,000	12%	0	0%	0	0%
	外	受託研究費	0	0%	0	0%	0	0%
		その他	0	0%	0	0%	0	0%

※1「経常研究費」＝表VI-1「専任教員に配分される研究費」の予算状況「研究費総額(G)」－表VI-2「専任教員の研究旅費」の「学会等出張旅費」。

※2「学内共同研究費」の欄は、表VI-3「学内共同研究費」の額である。

5 学外からの研究費の総額と一人当たりの額

(1) 大学〔2018～2020〕

(表VI-5-①)

学部・研究科等		2018年度	2019年度	2020年度	備考	
文学部・ 文学研究科	科学研究費助成事業	科学研究費助成事業総額(A)	4,232,800	5,525,000	5,135,000	学長含む 総額から分担金配 分額を除く 総額に分担金受入 額を含める
		うちオーバーヘッドの額(間接経費)	1,036,800	1,275,000	1,185,000	
		専任教員一人当たり科研費	128,267	167,424	160,469	
	その他の 学外研究費	その他の学外研究費総額(B)	0	0	0	
		うちオーバーヘッドの額(間接経費)	0	0	0	
		専任教員一人当たり学外研究費	0	0	0	
	合 計 (A+B)		4,232,800	5,525,000	5,135,000	
専任教員一人当たり合計額		128,267	167,424	160,469		
専任教員数		33	33	32		
経済学部・ 経済学研究科	科学研究費助成事業	科学研究費助成事業総額(A)	8,485,100	8,242,000	7,917,000	大連交流教員含む 総額から分担金配 分額を除く 総額に分担金受入 額を含める
		うちオーバーヘッドの額(間接経費)	1,958,100	1,902,000	1,827,000	
		専任教員一人当たり科研費	173,165	161,608	161,571	
	その他の 学外研究費	その他の学外研究費総額(B)	0	0	2,425,999	
		うちオーバーヘッドの額(間接経費)	0	0	559,846	
		専任教員一人当たり学外研究費	0	0	49,510	
	合 計 (A+B)		8,485,100	8,242,000	10,342,999	
専任教員一人当たり合計額		173,165	161,608	211,082		
専任教員数		49	51	49		
社会福祉学部・ 社会福祉学研究科	科学研究費助成事業	科学研究費助成事業総額(A)	7,406,100	8,164,000	11,037,000	総額から分担金配 分額を除く 総額に分担金受入 額を含める
		うちオーバーヘッドの額(間接経費)	1,709,100	1,884,000	2,547,000	
		専任教員一人当たり科研費	176,336	209,333	283,000	
	その他の 学外研究費	その他の学外研究費総額(B)	0	0	0	
		うちオーバーヘッドの額(間接経費)	0	0	0	
		専任教員一人当たり学外研究費	0	0	0	
	合 計 (A+B)		7,406,100	8,164,000	11,037,000	
専任教員一人当たり合計額		176,336	209,333	283,000		
専任教員数		42	39	39		

〔注〕1 「その他の学外研究費」には、科研費以外の政府もしくは政府関連法人からの研究助成金、民間の研究助成財団等からの研究助成金、奨学寄付金、受託研究費、学外共同研究費などが該当する。

5 学外からの研究費の総額と一人当たりの額

(1) 大学 [2018~2020]

(表VI-5-②)

学部・研究科等		2018年度	2019年度	2020年度	備考	
計	科学研究費助成事業	科学研究費助成事業総額(A)	20,124,000	21,931,000	24,089,000	総額から分担金配分額を除く 総額に分担金受入額を含める
		うちオーバーヘッドの額(間接経費)	4,704,000	5,061,000	5,559,000	
		専任教員一人当たり科研費	162,290	178,301	200,742	
	その他の学外研究費	その他の学外研究費総額(B)	0	0	2,425,999	
		うちオーバーヘッドの額(間接経費)	0	0	559,846	
		専任教員一人当たり学外研究費	0	0	20,217	
	合 計 (A+B)		20,124,000	21,931,000	26,514,999	
	専任教員一人当たり合計額		162,290	178,301	220,958	
専任教員数		124	123	120		

(2) 短期大学部 [2018~2020]

(表VI-5-③)

短期大学部		2018年度	2019年度	2020年度	備考	
短期大学部	科学研究費助成事業	科学研究費助成事業総額(A)	780,000	4,706,000	5,005,000	総額に分担金配分額を除く 総額に分担金受入額を含める
		うちオーバーヘッドの額(間接経費)	180,000	1,086,000	1,155,000	
		専任教員一人当たり科研費	43,333	261,444	294,412	
	その他の学外研究費	その他の学外研究費総額(B)	1,000,000	0	0	
		うちオーバーヘッドの額(間接経費)	0	0	0	
		専任教員一人当たり学外研究費	0	0	0	
	合 計 (A+B)		1,780,000	4,706,000	5,005,000	
	専任教員一人当たり合計額		98,889	261,444	294,412	
専任教員数		18	18	17		

[注] 1 「その他の学外研究費」には、科研費以外の政府もしくは政府関連法人からの研究助成金、民間の研究助成財団等からの研究助成金、奨学寄付金、受託研究費、学外共同研究費などが該当する。

6 産学官連携による研究活動状況

(1) 大学〔2018～2020〕

(表VI-6-①)

学部・研究科等		2018年度				2019年度				2020年度			
		共同研究		受託研究		共同研究		受託研究		共同研究		受託研究	
		件数	研究費の額	件数	研究費の額	件数	研究費の額	件数	研究費の額	件数	研究費の額	件数	研究費の額
文学部・ 文学研究科	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経済学部・ 経済学研究科	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会福祉学部・ 社会福祉学研究科	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(2) 短期大学部〔2018～2020〕

(表VI-6-②)

短期大学部		2018年度				2019年度				2020年度			
		共同研究		受託研究		共同研究		受託研究		共同研究		受託研究	
		件数	研究費の額	件数	研究費の額	件数	研究費の額	件数	研究費の額	件数	研究費の額	件数	研究費の額
短期大学部	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

[注] 1 教員、助教が専任として配置されている学部、研究科等ごとに記入すること。

2 本表における「共同研究」とは、民間企業等から研究者と研究経費を受け入れて、大学の教育研究職員と共通の課題について共同で行う研究をさす。学内共同研究は含めないこと。また、「受託研究」とは、民間企業、自治体等からの受託に基づき、専ら大学の教育研究職員が行う研究をさす。

3 複数の学部・学科が共同で産学官連携の研究活動を行っている場合は、重複して記載しないこと。

4 複数年にわたる研究については、初年度を「新規」欄に、次年度以降を「継続」欄に記入すること。

7 文部科学省科学研究費助成事業等の申請、採択及び受給状況

(1) 大学〔2018～2020〕

(表VI-7-①)

学部・研究科等	文部科学省科学研究費助成事業														
	2018年度					2019年度					2020年度				
	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	受給件数	補助・助成金額	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	受給件数	補助・助成金額	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	受給件数	補助・助成金額
文学部・文学研究科	6	1	17	5	3,900,000 (分担金受入額) 256,000 (分担金配分額) -900,000	8	3	38	8	4,000,000 (分担金受入額) 950,000 (分担金配分額) -700,000	9	0	0	10	3,100,000 (分担金受入額) 1,250,000 (分担金配分額) -400,000
経済学部・経済学研究科	9	1	11	14	5,200,000 (分担金受入額) 1,727,000 (分担金配分額) -400,000	9	2	22	12	4,800,000 (分担金受入額) 1,540,000 (分担金配分額) 0	14	3	21	13	4,400,000 (分担金受入額) 1,690,000 (分担金配分額) 0
社会福祉学部・社会福祉学研究科	4	2	50	13	5,600,000 (分担金受入額) 937,000 (分担金配分額) -840,000	8	4	50	14	7,200,000 (分担金受入額) 730,000 (分担金配分額) -1,650,000	8	1	13	14	9,900,000 (分担金受入額) 880,000 (分担金配分額) -2,290,000
計	19	4	21	32	15,480,000	25	9	36	34	16,870,000	31	4	13	37	18,530,000
学部・研究科等	政府もしくは政府関連法人からの研究助成金														
	2018年度					2019年度					2020年度				
	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	受給件数	助成金額	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	受給件数	助成金額	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	受給件数	助成金額
文学部・文学研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経済学部・経済学研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	100	1	1,866,153
社会福祉学部・社会福祉学研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	100	1	1,866,153

- [注] 1 教員、助教が専任として配置されている学部、研究科等ごとに記入すること。
 2 採択件数には、当該年度新規に採択された件数のみをあげ、前年度からの継続分は含めないこと。
 3 受給件数及び補助・助成金額には、新規採択及び継続分を記入すること。

7 文部科学省科学研究費助成事業等の申請、採択及び受給状況

(1) 大学 [2018~2020]

(表VI-7-②)

学部・研究科等	民間の研究助成財団等からの研究助成金														
	2018年度					2019年度					2020年度				
	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	受給件数	助成金額	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	受給件数	助成金額	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	受給件数	助成金額
文学部・文学研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経済学部・経済学研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会福祉学部・社会福祉学研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学部・研究科等	受託・請負研究費														
	2018年度		2019年度		2020年度										
	受託件数	研究費額	受託件数	研究費額	受託件数	研究費額									
文学部・文学研究科	0	0	0	0	0	0									
経済学部・経済学研究科	0	0	0	0	0	0									
社会福祉学部・社会福祉学研究科	0	0	0	0	0	0									
計	0	0	0	0	0	0									

- [注] 1 教員、助教が専任として配置されている学部、研究科等ごとに記入すること。
 2 採択件数には、当該年度新規に採択された件数のみをあげ、前年度からの継続分は含めないこと。
 3 受給件数及び補助・助成金額には、新規採択及び継続分を記入すること。

7 文部科学省科学研究費助成事業等の申請、採択及び受給状況

(2) 短期大学部〔2018～2020〕

(表VI-7-③)

文 部 科 学 省 科 学 研 究 費 助 成 事 業															
短期大学部	2018年度					2019年度					2020年度				
	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	受給件数	助成金額	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	受給件数	助成金額	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	受給件数	助成金額
	3	0	0	2	700,000 (分担金受入額) 100,000 (分担金配分額) -200,000	5	2	40	6	2,900,000 (分担金受入額) 1,020,000 (分担金配分額) -300,000	6	2	33	10	3,400,000 (分担金受入額) 1,500,000 (分担金配分額) -1,050,000
政 府 も し く は 政 府 関 連 法 人 か ら の 研 究 助 成 金															
短期大学部	2018年度					2019年度					2020年度				
	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	受給件数	助成金額	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	受給件数	助成金額	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	受給件数	助成金額
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
民 間 の 研 究 助 成 財 団 等 か ら の 研 究 助 成 金															
短期大学部	2018年度					2019年度					2020年度				
	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	受給件数	助成金額	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	受給件数	助成金額	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	受給件数	助成金額
	1	1	100	1	1,000,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受 託 ・ 請 負 研 究 費															
短期大学部	2018年度					2019年度					2020年度				
	受託件数			研究費額		受託件数			研究費額		受託件数			研究費額	
	0			0		0			0		0			0	

[注] 1 採択件数には、当該年度新規に採択された件数のみをあげ、前年度からの継続分は含めないこと。
2 受給件数及び補助・助成金額には、新規採択及び継続分を記入すること。

8 文部科学省科学研究費助成事業の受給者一覧

(1) 大学 [2018~2020]

(表VI-8)

交付年度	学部	氏名・職名	代表／分担	研究種目	研究課題番号	研究課題名	助成金額(円)	研究分担者の研究代表者	研究期間
2018	経済	多田 和美 准教授	代表	基盤研究(B)	15H03388	新興国の海外子会社マネジメントー国境を越えた組織社会のジレンマとその克服ー	0	—	繰越
	社会福祉	眞嶋 良全 准教授	代表	基盤研究(C)	15K04033	知覚的マインドセットと文化的マインドセットの相似性・相補性に関する研究	0	—	期間延長
	社会福祉	水川 喜文 教授	代表	挑戦的萌芽研究	15K13073	アティピカル・インタラクションのエスノメソドロジー障害と相互行為の研究	0	—	期間延長
	文	田辺 毅彦 教授	代表	基盤研究(C)	16K04173	特別養護老人ホームにおける持続可能な介護システムの研究	1,300,000	—	2016-2018
	社会福祉	中村 和彦 教授	代表	基盤研究(C)	15K03941	レジリエンス思考による精神障害者生活支援モデルの開発的研究ー国際連携研究を基にー	1,000,000	—	2015-2018
	社会福祉	中田 知生 准教授	代表	基盤研究(C)	16K04172	過疎地域における住民自治組織の公共サービス提供プロセスに関する研究	700,000	—	2016-2018
	経済	佐藤 友暁 教授	代表	基盤研究(C)	16K00179	自己修復機能による高速・低消費電力設計対応IPSプロセス開発と標的型攻撃の防御	700,000	—	2016-2020
	文	松浦 利男 准教授	代表	基盤研究(C)	17K02689	天草諸方言の形態音韻現象に関する基礎的研究ー方言類型論の構築を目指して	1,000,000	—	2017-2020
	経済	星野 宏司 教授	代表	基盤研究(C)	17K01678	身体運動能力と口腔機能の可塑性に関する研究	900,000	—	2017-2019
	経済	浦野 真理子 教授	代表	基盤研究(C)	17K03554	インドネシアのアブラヤシ農園開発における自発的土地取引と貧困解決	700,000	—	2017-2019
社会福祉	田中 耕一郎 教授	代表	基盤研究(C)	17K04229	重度知的障害者に対する「ケアの分配」をめぐる規範的研究	600,000	—	2017-2021	

8 文部科学省科学研究費助成事業の受給者一覧

(1) 大学 [2018~2020]

(表VI-8)

交付年度	学部	氏名・職名	代表／分担	研究種目	研究課題番号	研究課題名	助成金額(円)	研究分担者の研究代表者	研究期間
2018	社会福祉	永井 順子 教授	代表	基盤研究(C)	17K04230	北海道における精神保健ソーシャルワークの歴史記録と教育コンテンツの構築	1,100,000	—	2017-2019
	社会福祉	杉岡 直人 教授	代表	基盤研究(C)	17K04231	生活支援サービスにおける有償ボランティア活動の公民連携に関する研究	1,100,000	—	2017-2019
	社会福祉	宮崎 靖士 教授	代表	基盤研究(C)	18K00285	柳田国男の表現構造がもつ現代的意義の発掘—言語観・文章構成・同時代状況への関与—	500,000	—	2018-2020
	文	蓑内 豊 教授	代表	基盤研究(C)	18K10854	指導者と選手をつなぐ指導システムの構築：心理的アプローチに基づくスキル修正の活用	1,100,000	—	2018-2020
	経済	金子 大輔 教授	代表	挑戦的萌芽研究	16K13583	発達した指導者の暗黙的評価観点を取り入れた吹奏楽演奏支援教材の開発	800,000	—	2016-2018
	経済	竹田 恒規 専任講師	代表	挑戦的萌芽研究	17K18543	津波被災地における高台移転事業の実証的研究：行政法学および民法学の観点から	900,000	—	2017-2019
	文	田村 早苗 専任講師	代表	若手研究(B)	16K16027	「認識された事態」にもとづく知識・証拠性・認識の言語表現の分析	500,000	—	2016-2018
	経済	野原 克仁 准教授	代表	若手研究(B)	17K18038	旅行者の意思決定構造と混雑を考慮した観光便益の推計	500,000	—	2017-2019
	経済	山邑 紘史 専任講師	代表	若手研究	18K12744	共有資源の配分問題におけるメカニズムデザイン：理論と実験	700,000	—	2018-2021
	社会福祉	松岡 是伸 専任講師	代表	若手研究	18K12971	現代日本における生活困窮対策のスティグマと抵抗の実態に関する調査研究	600,000	—	2018-2020
	文	松浦 年男 准教授	分担	基盤研究(B)	—	比較言語学的方法による日本語・琉球諸語方言の祖語の再建および系統樹の構築	(分担金) 256,000	一橋大学 大学院社会学研究科 五十嵐 陽介 准教授	2017-2020

8 文部科学省科学研究費助成事業の受給者一覧

(1) 大学 [2018~2020]

(表VI-8)

交付年度	学部	氏名・職名	代表／分担	研究種目	研究課題番号	研究課題名	助成金額(円)	研究分担者の研究代表者	研究期間
2018	経済	金子 大輔 教授	分担	基盤研究(B)	—	MOOCで得られる学習履歴データを活用した教材・教育改善手法の開発と評価	(分担金) 200,000	北海道大学 情報基盤センター 重田 勝介 准教授	2015-2018
	経済	金子 大輔 教授	分担	基盤研究(B)	—	教育実践研究と教授・学習支援システム研究とのマッチングプラットフォームの開発	(分担金) 480,000	千葉工業大学 情報科学部 國宗 永佳 教授	2018-2021
	経済	多田 和美 准教授	分担	基盤研究(B)	—	グローバル・オープン・イノベーションのマネジメントー新たな価値創造への影響分析ー	(分担金) 150,000	北海道大学 経済学研究科 岩田 智 教授	2015-2019
	経済	山邑 紘史 専任講師	分担	基盤研究(B)	—	外部性の存在する経済におけるメカニズム・デザイン：理論と実験	(分担金) 300,000	東京工業大学 工学院 大和 毅彦 教授	2014-2018
	経済	長屋 幸世 教授	分担	基盤研究(B)	—	民事紛争処理手続きにおける情報の利用と保護の両立	(分担金) 300,000	成城大学 法学研究科 町村 泰貴教授	2017-2020
	社会福祉	田中 耕一郎 教授	分担	基盤研究(B)	—	病者障害者運動史研究ー一生の現在までを辿り未来を構想する	(分担金) 10,000	立命館大学 先端総合学術研究科 立岩 真也 教授	2017-2019
	社会福祉	眞嶋 良全 准教授	分担	基盤研究(B)	—	疑似科学に関する議論を媒介にした科学リテラシー教育のプラットフォーム構築の研究	(分担金) 300,000	明治大学 情報コミュニケーション学部 石川 幹人 専任講師	2017-2019
	社会福祉	栗山 隆 教授	分担	基盤研究(B)	—	児童養護施設のグループを活用するソーシャルワークと建築計画学のクロスオーバー研究	(分担金) 250,000	明治学院大学 社会学部 北川 清一 教授)	2016-2018
	社会福祉	大友 秀治 専任講師	分担	基盤研究(B)	—	効果的なスクールソーシャルワークモデルの評価と理論構築	(分担金) 180,000	大阪府立大学 人間社会システム科学研究科 山野 則子 教授	2017-2019
経済	渡邊 稔 専任講師	分担	基盤研究(C)	—	少子高齢化社会における所得格差の是正政策のあり方と経済成長	(分担金) 230,000	志學館大学 法学部 三宅 裕介 講師	2017-2019	

8 文部科学省科学研究費助成事業の受給者一覧

(1) 大学 [2018~2020]

(表VI-8)

交付年度	学部	氏名・職名	代表／分担	研究種目	研究課題番号	研究課題名	助成金額(円)	研究分担者の研究代表者	研究期間
2018	経済	古谷 次郎 教授	分担	基盤研究(C)	—	将来を見据えた小学校プログラミング教育のコンピテンシー構築に向けて	(分担金) 67,000	尚美学園大学 芸術情報学部 恩田 憲一 教授	2018-2020
	社会福祉	水川 喜文 教授	分担	基盤研究(C)	—	初等・中等教育における「自然(現象)の科学的理解」の相互行為分析	(分担金) 167,000	青森大学 社会学部 中村 和生 准教授	2016-2018
	社会福祉	河野 和枝 教授	分担	基盤研究(C)	—	多様な学びを保障する包摂的な教育基盤における原理・条件に関する日韓比較研究	(分担金) 30,000	北海道大学 教育学研究院 宋 美蘭 専門研究員	2016-2018

8 文部科学省科学研究費助成事業の受給者一覧

(1) 大学 [2018~2020]

(表VI-8)

交付年度	学部	氏名・職名	代表／分担	研究種目	研究課題番号	研究課題名	助成金額(円)	研究分担者の研究代表者	研究期間
2019	社会福祉	水川 喜文 教授	代表	基盤研究(B)	19H01567	ダイバーシティにおけるワークプレイス研究—多様性の中で、共に働くこと	1,200,000	—	2019-2021
	経済	佐藤 友暁 教授	代表	基盤研究(C)	16K00179	自己修復機能による高速・低消費電力設計対応IPSプロセス開発と標的型攻撃の防御	0	—	期間延長
	社会福祉	中田 知生 准教授	代表	基盤研究(C)	16K04172	過疎地域における住民自治組織の公共サービス提供プロセスに関する研究	0	—	期間延長
	文	松浦 年男 准教授	代表	基盤研究(C)	17K02689	天草諸方言の形態音韻現象に関する基礎的研究—方言類型論の構築を目指して	1,100,000	—	2017-2020
	経済	星野 宏司 教授	代表	基盤研究(C)	17K01678	身体運動能力と口腔機能の可塑性に関する研究	700,000	—	2017-2019
	経済	浦野 真理子 教授	代表	基盤研究(C)	17K03554	インドネシアのアブラヤシ農園開発における自発的土地取引と貧困解決	700,000	—	2017-2019
	社会福祉	田中 耕一郎 教授	代表	基盤研究(C)	17K04229	重度知的障害者に対する「ケアの分配」をめぐる規範的研究	500,000	—	2017-2021
	社会福祉	永井 順子 教授	代表	基盤研究(C)	17K04230	北海道における精神保健ソーシャルワークの歴史記録と教育コンテンツの構築	800,000	—	2017-2019
	社会福祉	杉岡 直人 教授	代表	基盤研究(C)	17K04231	生活支援サービスにおける有償ボランティア活動の公民連携に関する研究	900,000	—	2017-2019
	社会福祉	宮崎 靖士 教授	代表	基盤研究(C)	18K00285	柳田国男の表現構造がもつ現代的意義の発掘—言語観・文章構成・同時代状況への関与—	500,000	—	2018-2020
	文	養内 豊 教授	代表	基盤研究(C)	18K10854	指導者と選手をつなぐ指導システムの構築：心理的アプローチに基づくスキル修正の活用	600,000	—	2018-2020

8 文部科学省科学研究費助成事業の受給者一覧

(1) 大学 [2018~2020]

(表VI-8)

交付年度	学部	氏名・職名	代表／分担	研究種目	研究課題番号	研究課題名	助成金額(円)	研究分担者の研究代表者	研究期間
2019	文	中地 美枝 准教授	代表	基盤研究(C)	19K00941	社会主義人口論と家族計画運動をめぐる世界史：1974年の世界人口会議を中心に	900,000	—	2019-2022
	社会福祉	中田 知生 准教授	代表	基盤研究(C)	19K02193	過疎地域における集落支援のコミュニティ・ガバナンスと資源の変化：方法論を中心に	600,000	—	2019-2021
	社会福祉	中村 和彦 教授	代表	基盤研究(C)	19K02218	人のレジリエンスを促進するコミュニティ要因の実証研究—国際地域比較調査を通して—	900,000	—	2019-2021
	社会福祉	眞嶋 良全 准教授	代表	基盤研究(C)	19K03194	偽ニュース：誰が信じ、広めるのか？	1,200,000	—	2019-2021
	経済	佐藤 友暁 教授	代表	基盤研究(C)	19K11969	ウェーブパイプライン化ASIC-FPGA協調設計による機械学習IPSの開発	1,000,000	—	2019-2021
	経済	竹田 恒規 専任講師	代表	挑戦的萌芽研究	17K18543	津波被災地における高台移転事業の実証的研究：行政法学および民法学の観点から	800,000	—	2017-2019
	経済	野原 克仁 准教授	代表	若手研究(B)	17K18038	旅行者の意思決定構造と混雑を考慮した観光便益の推計	900,000	—	2017-2019
	社会福祉	松岡 是伸 准教授	代表	若手研究	18K12971	現代日本における生活困窮対策のスティグマと抵抗の実態に関する調査研究	600,000	—	2018-2020
	経済	多鹿 智哉 専任講師	代表	若手研究	19K13644	大人数による多数決の効率性に対する批判的検討	700,000	—	2019-2020
	文	永井 暁行 助教	代表	若手研究	19K14387	ピアサポート活動への参加による学生の発達過程—1年間の縦断調査による検討—	900,000	—	2019-2021
文	寺林 暁良 専任講師	代表	研究活動スタート支援	19K23250	岩木川河川敷における環境ガバナンスのダイナミズムに関する研究	500,000	—	2019-2020	

8 文部科学省科学研究費助成事業の受給者一覧

(1) 大学 [2018~2020]

(表VI-8)

交付年度	学部	氏名・職名	代表／分担	研究種目	研究課題番号	研究課題名	助成金額(円)	研究分担者の研究代表者	研究期間
2019	文	松浦 年男 准教授	分担	基盤研究(A)	—	消滅危機方言のプロソディーに関する実証的・理論的研究と音声データベースの構築	(分担金) 400,000	一橋大学 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所 理論・対照研究領域 窪田 晴夫 教授	2019-2023
	社会福祉	大友 秀治 准教授	分担	基盤研究(A)	—	子どもの課題スクリーニングから支援・効果まで循環するシステム構築	(分担金) 30,000	大阪府立大学 人間社会学研究科 山野 則子 教授	2019-2024
	文	松浦 年男 准教授	分担	基盤研究(B)	—	比較言語学的方法による日本語・琉球諸語方言の祖語の再建および系統樹の構築	(分担金) 300,000	一橋大学 大学院社会学研究科 五十嵐 陽介 准教授	2017-2020
	経済	長屋 幸世 教授	分担	基盤研究(B)	—	民事紛争処理手続きにおける情報の利用と保護の両立	(分担金) 300,000	成城大学 法学研究科 町村 泰貴教授	2017-2020
	社会福祉	田中 耕一郎 教授	分担	基盤研究(B)	—	病者障害者運動史研究—一生の現在までを辿り未来を構想する	(分担金) 10,000	立命館大学 先端総合学術研究科 立岩 真也 教授	2017-2019
	社会福祉	眞嶋 良全 准教授	分担	基盤研究(B)	—	疑似科学に関する議論を媒介にした科学リテラシー教育のプラットフォーム構築の研究	(分担金) 200,000	明治大学 情報コミュニケーション学部 石川 幹人 専任講師	2017-2019
	経済	金子 大輔 教授	分担	基盤研究(B)	—	教育実践研究と教授・学習支援システム研究とのマッチングプラットフォームの開発	(分担金) 130,000	千葉工業大学 情報科学部 國宗 永佳 教授	2018-2021
	文	松浦 年男 准教授	分担	基盤研究(B)	—	推論過程の言語化における地域語のダイナミクスに関する研究：九州方言を中心に	(分担金) 150,000	立命館大学 言語教育情報研究科 中田 節子 教授	2019-2023
	社会福祉	横山 穰 教授	分担	基盤研究(B)	—	高齢多死社会日本におけるウェルビーイングとウェルディングの臨床社会学的研究	(分担金) 150,000	北海道大学 文学研究院 櫻井 義秀 教授	2019-2021
	社会福祉	水川 喜文 教授	分担	基盤研究(C)	—	初等・中等教育における「自然(現象)の科学的理解」の相互行為分析	(分担金) 0	青森大学 社会学部 中村 和生 准教授	期間延長
経済	渡邊 稔 専任講師	分担	基盤研究(C)	—	少子高齢化社会における所得格差の是正政策のあり方と経済成長	(分担金) 230,000	志學館大学 法学部 三宅 裕介 講師	2017-2019	

8 文部科学省科学研究費助成事業の受給者一覧

(1) 大学 [2018~2020]

(表VI-8)

交付年度	学部	氏名・職名	代表／分担	研究種目	研究課題番号	研究課題名	助成金額(円)	研究分担者の研究代表者	研究期間
2019	経済	古谷 次郎 教授	分担	基盤研究(C)	—	将来を見据えた小学校プログラミング教育のコンピテンシー構築に向けて	(分担金) 100,000	尚美学園大学 芸術情報学部 恩田 憲一 教授	2018- 2020
	経済	諸岡 卓真 准教授	分担	基盤研究(C)	—	事例研究と連携させた1970年代以降の日本現代ミステリ史の構築	(分担金) 300,000	北海道大学 文学研究科 押野 武志 教授	2018- 2020
	経済	楠木 敦 専任講師	分担	基盤研究(C)	—	一般均衡理論導入史における米田庄太郎：京都大学所蔵「米田文庫」を手がかりに	(分担金) 480,000	東北工業大学 ライフデザイン学部 金井 辰郎 教授	2019- 2023
	社会福祉	眞嶋 良全 准教授	分担	基盤研究(C)	—	擬人化が科学的説明文の理解課程に及ぼす影響の検討	(分担金) 300,000	愛知淑徳大学 人間情報学部 中村 紘子 助教	2019- 2021

8 文部科学省科学研究費助成事業の受給者一覧

(1) 大学 [2018~2020]

(表VI-8)

交付年度	学部	氏名・職名	代表／分担	研究種目	研究課題番号	研究課題名	助成金額(円)	研究分担者の研究代表者	研究期間
2020	社会福祉	水川 喜文 教授	代表	基盤研究(B)	19H01567	ダイバーシティにおけるワークプレイス研究—多様性の中で、共に働くこと	2,700,000	—	2019-2021
	経済	浦野 真理子 教授	代表	基盤研究(C)	17K03554	インドネシアのアブラヤシ農園開発における自発的土地取引と貧困解決	0	—	期間延長
	文	松浦 年男 教授	代表	基盤研究(C)	17K02689	天草諸方言の形態音韻現象に関する基礎的研究—方言類型論の構築を目指して	600,000	—	2017-2020
	社会福祉	田中 耕一郎 教授	代表	基盤研究(C)	17K04229	重度知的障害者に対する「ケアの分配」をめぐる規範的研究	400,000	—	2017-2021
	社会福祉	宮崎 靖士 教授	代表	基盤研究(C)	18K00285	柳田国男の表現構造がもつ現代的意義の発掘—言語観・文章構成・同時代状況への関与—	500,000	—	2018-2020
	文	養内 豊 教授	代表	基盤研究(C)	18K10854	指導者と選手をつなぐ指導システムの構築：心理的アプローチに基づくスキル修正の活用	600,000	—	2018-2020
	文	中地 美枝 准教授	代表	基盤研究(C)	19K00941	社会主義人口論と家族計画運動をめぐる世界史：1974年の世界人口会議を中心に	800,000	—	2019-2022
	社会福祉	中田 知生 准教授	代表	基盤研究(C)	19K02193	過疎地域における集落支援のコミュニティ・ガバナンスと資源の変化：方法論を中心に	1,100,000	—	2019-2021
	社会福祉	中村 和彦 教授	代表	基盤研究(C)	19K02218	人のレジリエンスを促進するコミュニティ要因の実証研究—国際地域比較調査を通して—	900,000	—	2019-2021
	社会福祉	眞嶋 良全 教授	代表	基盤研究(C)	19K03194	偽ニュース：誰が信じ、広めるのか？	1,300,000	—	2019-2021
	経済	佐藤 友暁 教授	代表	基盤研究(C)	19K11969	ウェーブパイプライン化ASIC-FPGA協調設計による機械学習IPSの開発	1,000,000	—	2019-2021

8 文部科学省科学研究費助成事業の受給者一覧

(1) 大学 [2018~2020]

(表VI-8)

交付年度	学部	氏名・職名	代表／分担	研究種目	研究課題番号	研究課題名	助成金額(円)	研究分担者の研究代表者	研究期間
2020	社会福祉	永井 順子 教授	代表	基盤研究(C)	20K02213	精神保健ソーシャルワークの効果的展開のための諸条件の検討:北海道の歴史から	1,000,000	—	2020-2022
	社会福祉	中田 龍三郎 専任講師	代表	基盤研究(C)	20K02386	社会的つながりをもたらす共食:共食が社会性に与える影響に関する実験的研究	1,500,000	—	2020-2022
	経済	竹田 恒規 専任講師	代表	挑戦的萌芽研究	17K18543	津波被災地における高台移転事業の実証的研究:行政法学および民法学の観点から	0	—	期間延長
	経済	野原 克仁 准教授	代表	若手研究(B)	17K18038	旅行者の意思決定構造と混雑を考慮した観光便益の推計	0	—	期間延長
	社会福祉	松岡 是伸 准教授	代表	若手研究	18K12971	現代日本における生活困窮対策のスティグマと抵抗の実態に関する調査研究	500,000	—	2018-2020
	経済	多鹿 智哉 専任講師	代表	若手研究	19K13644	大人数による多数決の効率性に対する批判的検討	700,000	—	2019-2020
	文	永井 暁行 助教	代表	若手研究	19K14387	ピアサポート活動への参加による学生の発達過程—1年間の縦断調査による検討—	900,000	—	2019-2021
	経済	南 ホチヨル 専任講師	代表	若手研究	20K13528	企業間信用の財務的保険機能の検証とM&A前後の企業間信用の決定要因における分析	500,000	—	2020-2021
	経済	鎌田 直矢 専任講師	代表	若手研究	20K13620	小売企業における在庫リーネネスと企業業績の関係に関する実証的研究	900,000	—	2020-2023
	経済	星野 宏司 教授	代表	若手研究	20K19483	アルペンスキー競技におけるGNSS運動計測データの活用に関する研究	1,100,000	—	2020-2023
文	寺林 暁良 専任講師	代表	研究活動スタート支援	19K23250	岩木川河川敷における環境ガバナンスのダイナミズムに関する研究	500,000	—	2019-2020	

8 文部科学省科学研究費助成事業の受給者一覧

(1) 大学 [2018~2020]

(表VI-8)

交付年度	学部	氏名・職名	代表／分担	研究種目	研究課題番号	研究課題名	助成金額(円)	研究分担者の研究代表者	研究期間
2020	文	松浦 年男 教授	分担	基盤研究(A)	—	消滅危機方言のプロソディーに関する実証的・理論的研究と音声データベースの構築	(分担金) 500,000	一橋大学 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所 理論・対照研究領域 窪田 晴夫教授	2019-2023
	社会福祉	大友 秀治 准教授	分担	基盤研究(A)	—	子どもの課題スクリーニングから支援・効果まで循環するシステム構築	(分担金) 70,000	大阪府立大学 人間社会学研究科 山野 則子 教授	2019-2024
	文	寺林 暁良 専任講師	分担	基盤研究(A)	—	多層的で動的なプロセスとしてのコミュニティ：実践的アプローチによる研究	(分担金) 400,000	北海道大学 文学研究院 宮内 泰介教授	2020-2024
	文	松浦 年男 教授	分担	基盤研究(B)	—	比較言語学的方法による日本語・琉球諸語方言の祖語の再建および系統樹の構築	(分担金) 300,000	一橋大学 大学院社会学研究科 五十嵐 陽介 准教授	2017-2020
	経済	長屋 幸世 教授	分担	基盤研究(B)	—	民事紛争処理手続きにおける情報の利用と保護の両立	(分担金) 200,000	成城大学 法学研究科 町村 泰貴教授	2017-2020
	経済	金子 大輔 教授	分担	基盤研究(B)	—	教育実践研究と教授・学習支援システム研究とのマッチングプラットフォームの開発	(分担金) 240,000	千葉工業大学 情報科学部 國宗 永佳 教授	2018-2021
	文	松浦 年男 教授	分担	基盤研究(B)	—	推論過程の言語化における地域語のダイナミクスに関する研究：九州方言を中心に	(分担金) 150,000	立命館大学 言語教育情報研究科 中田 節子 教授	2019-2023
	社会福祉	横山 穰 教授	分担	基盤研究(B)	—	高齢多死社会日本におけるウェルビーイングとウェルディングの臨床社会学的研究	(分担金) 200,000	北海道大学 文学研究院 櫻井 義秀 教授	2019-2021
	経済	金子 大輔 教授	分担	基盤研究(B)	—	学習履歴データを活用したOER改善手法の開発と学習支援ポータルサイトの構築	(分担金) 720,000	北海道大学 情報基盤センター 重田 勝介 准教授	2020-2022
	社会福祉	田澤 安弘 教授	分担	基盤研究(C)	—	治療的アセスメント短縮版の開発と適用に関する実証的研究 — 複数施設における効果検証	(分担金) 150,000	札幌学院大学 人文学部 宮崎 友香 准教授	2017-2020
経済	古谷 次郎 教授	分担	基盤研究(C)	—	将来を見据えた小学校プログラミング教育のコンピテンシー構築に向けて	(分担金) 50,000	尚美学園大学 芸術情報学部 恩田 憲一 教授	2018-2020	

8 文部科学省科学研究費助成事業の受給者一覧

(1) 大学 [2018~2020]

(表VI-8)

交付年度	学部	氏名・職名	代表／分担	研究種目	研究課題番号	研究課題名	助成金額(円)	研究分担者の研究代表者	研究期間
2020	経済	諸岡 卓真 准教授	分担	基盤研究(C)	—	事例研究と連携させた1970年代以降の日本現代ミステリ史の構築	(分担金) 100,000	北海道大学 文学研究科 押野 武志 教授	2018- 2020
	経済	楠木 敦 専任講師	分担	基盤研究(C)	—	一般均衡理論導入史における米田庄太郎：京都大学所蔵「米田文庫」を手がかりに	(分担金) 120,000	東北工業大学 ライフデザイン学部 金井 辰郎 教授	2019- 2023
	社会福祉	眞嶋 良全 教授	分担	基盤研究(C)	—	擬人化が科学的説明文の理解課程に及ぼす影響の検討	(分担金) 300,000	愛知淑徳大学 人間情報学部 中村 紘子 助教	2019- 2021
	文	松浦 年男 教授	分担	基盤研究(C)	—	A crosslinguistic study of prosody of particles: Japanese and Bantu languages	(分担金) 100,000	国際基督教大学 教養学部 李 勝勲 准教授	2020- 2022
	社会福祉	林 健太郎 専任講師	分担	基盤研究(C)	—	生活保護不正受給の認定のあり方と防止施策の研究—福祉事務所の実態を基に—	(分担金) 200,000	立正大学 社会福祉学部 池谷 秀登 教授	2020- 2022
	経済	金子 大輔 教授	分担	基盤研究(C)	—	事例の分析に基づくプログラミング教育のための知見マップの構築	(分担金) 100,000	明海大学 総合教育センター 山本 樹 講師	2020- 2022
	経済	金子 大輔 教授	分担	基盤研究(C)	—	情報社会におけるウェルビーイングを目標とした情報モラル教育の手法の開発	(分担金) 160,000	金城学院大学 国際情報学部 長谷川 元洋 教授	2020- 2022

8 文部科学省科学研究費助成事業の受給者一覧

(2) 短期大学部 [2018~2020]

(表VI-8)

交付年度	学部	氏名・職名	代表／分担	研究種目	研究課題番号	研究課題名	助成金額(円)	研究分担者の研究代表者	研究期間
2018	短期大学	藤原 里佐 教授	代表	基盤研究(C)	15K04014	障害児者家族の高齢化とその諸相－親役割の長期化と「限界」	700,000	—	2015-2018
	短期大学	藤原 里佐 教授	分担	基盤研究(A)	—	子どもの貧困に関する総合的研究：貧困の世代的再生産の過程・構造の分析を通して	100,000	北海道大学 教育学研究科 松本 伊智朗 教授	2016-2019
2019	短期大学	竹村 雅史 教授	代表	基盤研究(C)	19K00871	多読と自己決定理論の関係性を探る－スマホ・アプリによる多読読書記録手帳の構築－	2,400,000	—	2019-2021
	短期大学	藤原 里佐 教授	代表	基盤研究(C)	19K02207	知的障害者とその家族の高齢期－「地域生活」の多義性と入所施設をめぐる研究	500,000	—	2019-2022
	短期大学	藤原 里佐 教授	分担	基盤研究(A)	—	子どもの貧困に関する総合的研究：貧困の世代的再生産の過程・構造の分析を通して	20,000	北海道大学 教育学研究科 松本 伊智朗 教授	2016-2019
	短期大学	コッター マシュー 専任講師	分担	基盤研究(B)	—	バーチャルエクスチェンジにおける英語と他文化理解向上	350,000	室蘭工業大学 大学院工学研究科 HAGLEY ERIC 准教授	2019-2021
	短期大学	藤原 里佐 教授	分担	基盤研究(C)	—	成人期障害者におけるQOLの規定要因－親の高齢期から「親亡き後」への移行プロセス	200,000	佛教大学 社会福祉学部 田中 智子 准教授	2019-2022
	短期大学	風戸 真理 専任講師	分担	基盤研究(C)	—	モンゴル高原地域における生業生産物の商品化に関する比較研究	450,000	鹿児島大学 法文教育学域法文学系 尾崎 孝宏 准教授	2019-2021

8 文部科学省科学研究費助成事業の受給者一覧

(2) 短期大学部 [2018~2020]

(表VI-8)

交付年度	学部	氏名・職名	代表／分担	研究種目	研究課題番号	研究課題名	助成金額(円)	研究分担者の研究代表者	研究期間
2020	短期大学	竹村 雅史 教授	代表	基盤研究(C)	19K00871	多読と自己決定理論の関係性を探る一スマホ・アプリによる多読読書記録手帳の構築一	500,000	—	2019-2021
	短期大学	藤原 里佐 教授	代表	基盤研究(C)	19K02207	知的障害者とその家族の高齢期一「地域生活」の多義性と入所施設をめぐる研究	800,000	—	2019-2022
	短期大学	コッター マシュー 専任講師	代表	基盤研究(C)	20K01208	Improving Awareness and Understanding of Ainu via Online Resources	800,000	—	2020-2022
	短期大学	森越 京子 教授	代表	基盤研究(C)	20K12448	国際リゾート地ニセコにおける外国人ワーキング・ホリデー・メーカーの生活と労働	1,300,000	—	2020-2022
	短期大学	コッター マシュー 専任講師	分担	基盤研究(B)	—	バーチャルエクステンジにおける英語と他文化理解向上	300,000	室蘭工業大学 大学院工学研究科 HAGLEY ERIC 准教授	2019-2021
	短期大学	森越 京子 教授	分担	基盤研究(B)	—	観光とコミュニケーションに関わるコンピテンシー評価指標の開発	150,000	成蹊大学 経営学部 藤田玲子 教授	2020-2022
	短期大学	田中 直子 准教授	分担	基盤研究(B)	—	観光とコミュニケーションに関わるコンピテンシー評価指標の開発	200,000	成蹊大学 経営学部 藤田玲子 教授	2020-2022
	短期大学	藤原 里佐 教授	分担	基盤研究(C)	—	成人期障害者におけるQOLの規定要因一親の高齢期から「親亡き後」への移行プロセス	200,000	佛教大学 社会福祉学部 田中 智子 准教授	2019-2022
	短期大学	風戸 真理 専任講師	分担	基盤研究(C)	—	モンゴル高原地域における生業生産物の商品化に関する比較研究	500,000	鹿児島大学 法文教育学域法文学系 尾崎 孝宏 准教授	2019-2021
	短期大学	藤木 晶子 専任講師	分担	挑戦的研究(開拓)	—	先天全盲選手の運動イメージ生成スキルに関する全国調査と運動指導法の開発	150,000	常葉大学 教育学部 百瀬容美子 潤教授	2020-2023

9 政府もしくは政府関連法人からの研究助成金の受給者一覧

(1) 大学 [2018~2020]

(表VI-9-①)

交付年度	学 部	氏名・職名	代表 / 分担	研究助成金名	研究課題名	助成金額 (円)	研究分担者の 研究代表者	研究 期間
2018					該当なし			
2019					該当なし			
2020	経済	野原 克仁 准教授	分担	環境研究総合推進費	気候変動影響の経済評価手法の開発	48,478,000	東北大学 日引 聡 教授	2020- 2024

(2) 短期大学部 [2018~2020]

(表VI-9-②)

交付年度	学 部	氏名・職名	代表 / 分担	研究助成金名	研究課題名	助成金額 (円)	研究分担者の 研究代表者	研究 期間
2018					該当なし			
2019					該当なし			
2020					該当なし			

10 民間の研究助成財団等からの研究助成金の受給者一覧

(1) 大学 [2018~2020]

(表VI-10-①)

交付年度	学 部	氏名・職名	代表／分担	研究助成者・助成金名	研究課題名	助成金額 (円)	研究分担者の 研究代表者	研究 期間
2018					該当なし			
2019					該当なし			
2020					該当なし			

(1) 短期大学部 [2018~2020]

(表VI-10-②)

交付年度	学 部	氏名・職名	代表／分担	研究助成者・助成金名	研究課題名	助成金額 (円)	研究分担者の 研究代表者	研究 期間
2018	短期 大学部	風戸 真理 専任講師	代表	サントリー文化財団 人文科学、社会科学に関する学際 的グループ研究助成	文化と身体との交差点としての食：文化固有性・産業 化・異業種ネットワーク	1,000,000		2018- 2019
2019					該当なし			
2020					該当なし			

11 受託研究・請負研究の受給者一覧

(1) 大学 [2018～2020]

(表VI-11-①)

年度	学 部	研究担当者・ 職名	研究委託者	委託研究の題目	委託研究費 (円)	著作権・特許権等の 工業所有権の帰属	研究 期間
2018				該当なし			
2019				該当なし			
2020				該当なし			

(2) 短期大学部 [2018～2020]

(表VI-11-②)

年度	学 部	研究担当者・ 職名	研究委託者	委託研究の題目	委託研究費 (円)	著作権・特許権等の 工業所有権の帰属	研究 期間
2018				該当なし			
2019				該当なし			
2020				該当なし			

12 特定研究費支出対象項目別支出状況

[2015～2019]

(表VI-12)

支出対象項目		年度	2016	2017	2018	2019	2020	5年間平均
1	共同研究活動	件数	10	9	7	7	3	7.2
		総額	4,896,159	4,389,431	3,231,901	2,488,402	543,193	3,109,817.2
(1)	共同研究活動のうちプロジェクト研究を除く研究	件数	8	8	6	7	3	6.4
		総額	3,705,821	3,802,844	2,792,817	2,488,402	543,193	2,666,615.4
(2)	共同研究活動のうちプロジェクト研究	件数	2	1	1	0	0	0.8
		総額	1,190,338	586,587	439,084	0	0	443,201.8
2	学会活動 (国内学会)	件数	91	87	85	89	10	72.4
		総額	7,504,698	7,342,891	6,424,060	6,460,020	84,500	5,563,233.8
3	学会活動 (国際学会)	件数	42	46	54	44	2	37.6
		総額	9,577,281	10,514,652	13,312,164	9,571,179	37,202	8,602,495.6
4	日本私立学校振興・共済事業団による学術研究振興資金に採択された研究活動	件数	0	0	0	0	0	0.0
		総額	0	0	0	0	0	0.0
合 計		件数	143	142	146	140	15	117.2
		総額	21,978,138	22,246,974	22,968,125	18,519,601	664,895	17,275,546.6

13 特定研究費予算額・執行額一覧〔2020年度〕

I. 特定研究費について

1. 2020年度支出状況（2021年3月31日現在）

（表VI-13-①）

支出対象項目	件数	金額	備考
共同研究活動	3	543,193円	
学会活動（国内学会）	10	84,500円	
学会活動（国際学会）	2	37,202円	
日本私立学校振興・共済事業団による学術研究振興資金に採択された研究活動	0	0円	
合計	15	664,895円	年度予算 19,754,000円

※詳細は、『13 特定研究費予算額・執行額一覧（表VI-13②・③～⑧）』参照

II. 学部研究紀要「北星論集」の刊行について（文学部・経済学部は年2回刊行）

1. 文学部「北星論集」第58巻第1号（通巻第72号）

経済学部「北星論集」第60巻第1号（通巻第78号）

(1) 掲載篇数等	学部	掲載篇数	総頁数	登載原稿の内訳
	文学部	6篇	62頁	論説 2篇・研究ノート 1篇・資料 2篇・翻訳 1篇
	経済学部	7篇	118頁	論説 3篇・研究ノート 4篇
(2) 発行年月日	2020年9月30日			
(3) 発行部数	学部	本冊	抜刷	
	文学部	-	6篇 × 30冊（共著 30冊） = 210冊	
	経済学部	-	7篇 × 30冊（共著 30冊） = 240冊	
(4) 発注先	株式会社 北海道機関紙印刷所			

2. 文学部「北星論集」第58巻第2号（通巻第73号）

経済学部「北星論集」第60巻第2号（通巻第79号）

社会福祉学部「北星論集」第58号 故永田勝彦名誉教授追悼号

短期大学部「北星論集」第19号（通巻第57号） 刊行せず

(1) 掲載篇数等	学部	掲載篇数	総頁数	登載原稿の内訳
	文学部	10篇	138頁	論説 4篇・研究ノート 5篇・資料 1篇
	経済学部	8篇	136頁	論説 3篇・研究ノート 5篇
	社会福祉学部	19篇	222頁	論説 13篇・研究ノート 5篇・資料 1篇
	短期大学部	-	-	-
(2) 発行年月日	2021年3月15日			
(3) 発行部数	学部	本冊	抜刷	
	文学部	-	7篇 × 30冊（共著 30冊） = 240冊	
	経済学部	-	4篇 × 30冊（共著 60冊） = 180冊	
	社会福祉学部	30冊	15篇 × 30冊（共著 90冊） = 540冊	
	短期大学部	-	-	
(4) 発注先	株式会社 北海道機関紙印刷所			

※『17 学部研究紀要「北星論集」の刊行状況（表VI-17①～②）』参照

13 特定研究費予算額・執行額一覧〔2020年度〕

(表VI-13-②)

研究代表者 所属学部	研究者名(職名略)	研究課題	研究期間	申請額	決定額	備考
経済学部	研究代表者 柴崎 慎也 研究分担者 勝村 務	経済原論邦語文献整理:宇 野学派とその周辺	自 2020年 4月 至 2021年 3月	400,000	0	
社会福祉	研究代表者 中村 和彦 研究分担者 萱野 智篤 足立 清人 片岡 徹 永井 順子 伊藤 新一郎 松岡 是伸 大友 秀治 林 健太郎 吉田 竜平	マクロ社会環境における人間 行動に関する研究	自 2020年 6月 至 2021年 3月	500,000	234,517	
社会福祉	研究代表者 鴨澤 あかね 研究分担者 水川 喜文 大島 寿美子	Systems-Centered Therapy(SCT)による実践的 集団心理療法が、心の健康 にもたらす効用の検証	自 2020年 4月 至 2021年 3月	500,000	308,676	
研究課題件数 合計 7件			合 計	1,400,000	543,193	

13 特定研究費予算額・執行額一覧〔2020年度〕

(表VI-13-③)

支出	番号	学部	報告・発表者名	学会等名 〔開催場所〕	SCJ 登録	報告・発表テーマ	報告・発表日時	執行額
全国学会等での学術研究報告・発表及び職責を伴う参加	(1)	期大学	マシュー コッター	JALTCALL 2020 online	有	The International Virtual Exchange Project - Making Bridges for Cultural Appreciation	2020/6/6 16:00~	2,000
	(2)	経済学部	金子 大輔	第45回教育システム情報学会全国大会講演論文集 online	有	理工系単科大学における学生の情報機器操作スキルの経年変化 非対面授業の開始時に求められる支援とは:授業開始から3週間の 支援内容の分析	2020/9/3 16:10~	8,500
	(3)	文学部	石川 悟	日本心理学会第84回大会 online	有	「あなた」の引き出し方~会話想定場面で現れた質問形式の違い から~	2020/9/8 ~11/2	14,000
	(4)	文学部	柿原 久仁佳	日本心理学会第84回大会 online	有	結婚前の若者が出産に 影響を与える要因	2020/9/10 ~11/2	14,000
	(5)	経済学部	矢吹 哲夫	日本物理学会2020秋季大会(物性) online	有	【学会発表】エントロピーによる光合成のエネルギー解析Part2	2020/9/10 11:15~	8,000
	(6)	期大学	マシュー コッター	第46回全国語学教育学会年次国際大会 online	有	Teaching Presentation Skills in an ERT Setting	2020/11/17 17:20~	5,000
	(7)	経済学部	矢吹 哲夫	日本物理学会第76回年次大会 online	有	【学会発表】エントロピーによる光合成のエネルギー解析Part3	2021/3/14 16:15~	9,000
	(8)	文学部	大島 寿美子	日本集団精神療法学会第38回大会 online	無	COVID-19 の影響下におけるオンラインがんサロンの展開x 治療者からみたグループの意義とメンバーの体験の整合性	2021/3/21 10:00~	8,000
	(9)	福祉学部	水川 喜文	日本集団精神療法学会第38回学術大会 online	無	治療者からみたグループの意義とメンバーの体験の整合性 — SCTグループの質的研究から—	2021/3/14	8,000
	(10)	福祉学部	鴨澤 あかね	日本集団精神療法学会第38回学術大会 online	無	治療者からみたグループの意義とメンバーの体験の整合性 — SCTグループの質的研究から— "機能的サブグループ"で対人コミュニケーションを学ぶ	2021/3/21 10:00~	8,000
						国内合計		84,500
支出	番号	学部	報告・発表者名	学会等名 〔開催場所〕	SCJ 登録	報告・発表テーマ	報告・発表日時	執行額
国際学会等での学術研究報告	(1)	経済学部	黄 雅雯	26th IPDMC (Innovation and Product Development Management Conference) Organized Virtually.		Role of Knowledge Sharing to Bring Innovation: A Case Study of SME' s Inter-Organizational Network	2020/6/8 10:30~	30,585
	(2)	短期大学	マシュー コッター	MoodleMoot Global Online 2020 online		Open Content Sharing: Rubrics for National Open Courseware Awards	2020/7/6 17:10~	6,617
						海外合計		37,202

14 学術賞の受賞状況

(1) 大学〔2018～2020〕

(表VI-14-①)

学部・研究科等	学術賞の受賞数					
	2018年度		2019年度		2020年度	
	国内	国外	国内	国外	国内	国外
文学部・文学研究科	0	0	0	0	0	0
経済学部・経済学研究科	0	0	0	0	0	0
社会福祉学部・社会福祉学研究科	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0

(2) 短期大学部〔2018～2020〕

(表VI-14-②)

学部・研究科等	学術賞の受賞数					
	2018年度		2019年度		2020年度	
	国内	国外	国内	国外	国内	国外
短期大学部	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0

- [注] 1 教員、助教が専任として配置されている学部、研究科等ごとに記入すること。
 2 学内の複数の教員の共同研究の成果が受賞した場合は、重複して記載しないこと。
 3 ここでいう学術賞は全国レベルの学会もしくは国際的レベルの学会等によるものに限ること。

15 学部研究紀要「北星論集」の刊行状況

(1) 大学 [2016~2020]

(表VI-15-①)

年度	学部	号数	発行年月日	登 載 原 稿 の 種 類								掲 載 篇数計	総頁数	刊行部数 (本冊)	
				論 説	研究ノト	資 料	判例研究	書 評	紹 介	翻 訳	評 論				その他
2016	文 学 部	第56巻第1号 (通巻第70号)	2016.9.30	3	0	1	0	1	0	0	0	0	5	59	180
	経 済 学 部	第56巻第1号 (通巻第70号)	2016.9.30	1	5	0	0	0	0	0	0	0	6	81	200
	文 学 部	第54巻第2号 (通巻第65号)	2017.3.15	3	1	0	0	0	0	0	1	0	5	62	180
	経 済 学 部	第56巻第2号 (通巻第71号)	2017.3.15	8	4	0	1	0	2	0	0	0	15	189	200
	社会福祉学部	第54号	2017.3.15	13	1	0	0	0	0	0	0	0	14	189	170
	計			28	11	1	1	1	2	1	0	0	45	580	930
2017	文 学 部	第55巻第1号 (通巻第66号)	2017.9.15	3	1	0	0	0	0	0	0	0	4	47	180
	経 済 学 部	第57巻第1号 (通巻第72号)	2017.9.15	3	2	0	1	0	0	0	0	0	6	74	180
	文 学 部	第55巻第2号 (通巻第66号)	2018.3.15	7	2	0	0	0	0	0	1	0	10	140	170
	経 済 学 部	第57巻第2号 (通巻第73号)	2018.3.15	7	3	0	1	0	0	0	0	0	11	131	180
	社会福祉学部	第55号	2018.3.15	12	1	0	0	0	0	0	0	0	14	217	330
	計			32	9	0	2	0	0	1	0	1	45	609	1,040
2018	文 学 部	第56巻第1号 (通巻第68号)	2018.9.30	3	0	0	0	0	1	2	0	0	6	72	180
	経 済 学 部	第58巻第1号 (通巻第74号)	2018.9.30	6	4	0	0	0	0	0	0	0	10	178	180
	文 学 部	第56巻第2号 (通巻第69号)	2019.3.15	5	0	0	0	0	0	0	1	0	6	88	170
	経 済 学 部	第58巻第2号 (通巻第75号)	2019.3.15	4	3	0	2	0	1	0	0	0	10	147	180
	社会福祉学部	第56号	2019.3.15	11	1	1	0	0	0	0	0	0	13	187	190
	計			29	8	1	2	0	2	3	0	0	45	672	900
2019	文 学 部	第57巻第1号 (通巻第70号)	2019.9.30	3	2	0	0	0	0	2	0	0	7	84	180
	経 済 学 部	第59巻第1号 (通巻第76号)	2019.9.30	6	2	1	1	0	0	0	0	0	10	152	180
	文 学 部	第57巻第2号 (通巻第71号)	2020.3.15	2	6	3	0	0	0	0	0	0	11	134	145
	経 済 学 部	第59巻第2号 (通巻第77号)	2020.3.15	9	4	0	2	0	1	0	0	0	16	235	150
	社会福祉学部	第57号	2020.3.15	10	4	1	0	0	0	0	0	0	15	216	140
	計			30	18	5	3	0	1	2	0	0	59	821	795
2020	文 学 部	第58巻第1号 (通巻第72号)	2020.9.30	2	1	2	0	0	0	1	0	0	6	62	0
	経 済 学 部	第60巻第1号 (通巻第78号)	2020.9.30	3	4	0	0	0	0	0	0	0	7	118	0
	文 学 部	第58巻第2号 (通巻第73号)	2021.3.15	4	5	1	0	0	0	0	0	0	10	138	0
	経 済 学 部	第60巻第2号 (通巻第79号)	2021.3.15	3	5	0	0	0	0	0	0	0	8	136	0
	社会福祉学部	第58号	2021.3.15	13	5	1	0	0	0	0	0	0	19	222	30
	計			25	20	4	0	0	0	1	0	0	50	676	30

15 学部研究紀要「北星論集」の刊行状況

(2) 短期大学部〔2016～2020〕

(表VI-15②)

年度	短期大学部	号数	発行年月日	登 載 原 稿 の 種 類								掲 載 篇数計	総頁数	刊行部数 (本冊)
				論 説	研究ノト	資 料	判例研究	書 評	紹 介	翻 訳	評 論			
2016	短期大学部	第15号 (通巻第53号)	2017. 3. 15	3	2	0	0	0	0	0	0	5	63	170
2017	短期大学部	第16号 (通巻第54号)	2018. 3. 15	1	3	0	0	0	0	0	0	4	53	150
2018	短期大学部	第17号 (通巻第55号)	2019. 3. 15	2	2	0	0	0	0	0	0	4	48	150
2019	短期大学部	第18号 (通巻第56号)	2020. 3. 15	0	3	0	0	0	0	0	0	3	28	125
2020	短期大学部	第19号 (通巻第57号)	刊行せず	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

16 専任教員の個人別研究業績一覧

(1) 大学

文学部〔2016～2020〕

(表VI-16-①)

氏名	2016年度				2017年度				2018年度				2019年度				2020年度				備考
	計	著書	論文	その他																	
野口 忠男	0	0	0	0																	2016退職
佐々木 敏	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					2019退職
岡村 輝人	0	0	0	0																	2016退職
伊藤 章	3	0	0	3	2	1	0	1													2017退職
佐藤 修子	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0									2018退職
神谷 幹夫	0	0	0	0	0	0	0	0													2017退職
鹿内 啓子	1	0	1	0																	2016退職
濱 保久	3	0	0	3	3	0	1	2	2	0	0	2	2	0	0	2	0	0	0	0	
P. グレイ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
鈴木 剛	2	0	1	1	2	0	1	1	2	0	1	1	1	0	1	0	2	0	1	1	
蓑内 豊	13	2	1	10	4	0	1	3	7	0	1	6	6	0	1	5	4	1	1	2	
長谷川 典子	0	0	0	0	2	0	2	0	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
J. ラケット	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
田辺 毅彦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
森田 勲																	0	0	0	0	2020着任
B. テビッドソン	2	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
高橋 克依	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	
高野 照司	1	0	0	1	2	0	1	1	5	1	0	4	1	0	0	1	0	0	0	0	
河原 歳也	0	0	0	0																	2016退職
柳町 智治	5	0	0	5	6	1	1	4	4	0	1	3	3	0	0	3	2	0	1	1	
阪井 宏	4	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
後藤 靖宏	33	0	4	29	27	0	7	20	22	0	4	18	14	0	2	12	19	0	2	17	
大島 寿美子	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3	6	1	0	5	16	0	1	15	
中嶋 輝明	1	0	0	1	3	0	0	3	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	
高杉 巴彦	2	1	0	1	0	0	0	0													2017.12退職
古賀 清敬	2	0	0	2	2	0	0	2	4	0	0	4	0	0	0	0					2019退職
角田 和彦	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0									2018退職
石川 悟	0	0	0	0	3	0	0	3	3	0	0	3	7	0	1	6	4	1	1	2	
松浦 年男	2	0	1	1	10	3	2	5	6	0	5	1	9	0	1	8	13	0	2	11	
中地 美枝					0	0	0	0	1	0	1	0	2	0	1	1	1	1	0	0	2017着任
江口 均	2	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	
山本 範子	29	2	0	27	29	0	2	27	20	1	0	19	23	1	0	22	14	4	0	10	
片岡 徹	6	0	0	6	7	0	1	6	5	0	0	5	5	0	0	5	1	0	1	0	
柿原 久仁佳									5	0	1	4	7	0	2	5	4	0	1	3	2018着任
島田 桂子	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
鳴海 昌江					3	0	3	0	2	0	2	0	1	0	1	0	2	0	1	1	2017着任
湊 史郎													2	0	0	2	0	0	0	0	2019着任
田村 早苗	2	0	0	2	5	0	1	4	4	0	2	2	4	0	1	3	4	0	1	3	
齋藤 彩世	1	0	0	1	1	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	1	2	1	0	1	2020退職
ハート・トムソン					0	0	0	0	6	0	1	5	6	0	1	5	9	0	2	7	2017着任
寺林 暁良													17	1	0	16	7	1	1	5	2019着任
永井 暁行									3	0	1	2	8	0	4	4	0	0	0	0	2020退職

* 国際交流教員は、含めない。

16 専任教員の個人別研究業績一覧

経済学部 [2016~2020]

(表VI-16-②)

氏名	2016年度				2017年度				2018年度				2019年度				2020年度				備考	
	計	著書	論文	その他																		
澤田 裕	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0									2018退職	
小野 有五	0	0	0	0	0	0	0	0														2017退職
佐々木 隆生	2	1	1	0																		2016退職
田村 信一	0	0	0	0	1	1	0	0														2017退職
山口 博教	6	0	1	5	4	0	0	4	5	0	0	5	0	0	0	0						2019退職
吉田 知行	3	0	1	2	0	0	0	0														2017退職
片山 敏之	0	0	0	0																		2016退職
平井 廣一	2	0	2	0	0	0	0	0	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中村 一浩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
山我 哲雄	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
吉田 かよ子	4	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0										2018退職
竹野内 真樹					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2017着任
松本 康一郎	3	2	0	1	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1		
宮澤 照恵	10	0	0	10	9	2	0	7	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1		
中屋 晃	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
増田 辰良	4	0	2	2	3	0	3	0	3	0	2	1	7	1	3	3	10	0	0	10		
大原 昌明	6	1	3	2	3	0	2	1	8	1	2	5	0	0	0	0	2	0	1	1		
矢吹 哲夫									7	0	1	6	10	0	0	10	3	0	1	2		2018着任
西脇 隆二	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
原島 正衛	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
棚瀬 江里哉	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
篠田 優	0	0	0	0	2	0	0	2	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	
岩本 一郎	14	0	0	14	16	3	0	13	12	1	0	11	7	1	0	6	0	0	0	0	0	
濱 文章	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
鈴木 克典	4	0	1	3	10	0	0	10	13	0	0	13	6	0	1	5	9	0	0	9		
萱野 智篤	1	0	0	1	6	1	0	5	6	0	1	5	4	0	0	4	1	0	0	1		
修 震傑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
秋 森弘	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
浦野 真理子	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	4	3	0	2	1	1	1	0	0	0	
岡田 みさを	0	0	0	0	4	0	2	2	2	0	0	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	
古谷 次郎	4	0	2	2	5	0	4	1	6	0	2	4	3	0	1	2	2	0	1	1		
韓 文熙	4	1	1	2	1	0	0	1	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
足立 清人	7	2	1	4	2	0	1	1	12	0	2	10	11	3	3	5	14	0	5	9		
長屋 幸世	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
星野 宏司	14	0	4	10	10	1	2	7	8	0	1	7	10	0	3	7	4	0	0	4		
金子 大輔	13	1	2	10	15	0	1	14	9	0	1	8	12	0	1	11	13	1	4	8		
林 秀彦	21	0	2	19	0	0	0	0	11	1	4	6	8	0	3	5	9	0	2	7		
萩原 浩太					2	0	0	2	4	0	1	3	0	0	0	0	1	0	0	1		2017着任
佐藤 友暁					9	0	5	4	9	0	3	6	5	0	1	4	0	0	0	0		2017着任
鄭 根珠	1	0	0	1	1	0	1	0	3	0	0	3	2	0	1	1	1	0	0	1		2016着任
野本 啓介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	
勝村 務	4	0	0	4	3	0	1	2	2	0	0	2	1	0	1	0	2	0	0	2		
多田 和美	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0									2018退職	
諸岡 卓真													2	1	0	1	5	1	3	1		2019着任
野原 克仁	2	0	1	1	0	0	0	0	4	0	1	3	1	0	1	0	2	0	0	2		

16 専任教員の個人別研究業績一覧

経済学部〔2016～2020〕

氏名	2016年度				2017年度				2018年度				2019年度				2020年度				備考
	計	著書	論文	その他																	
伊東尚美	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
山吉智久					4	2	2	0	2	1	1	0	4	1	1	2	3	1	1	1	2017着任
増田好純													0	0	0	0					2021.1退職
黄雅雯	1	1	0	0	1	0	1	0	4	1	2	1	3	1	2	0	6	0	2	4	
竹田恒規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	3	0	2	1	
楠木敦	2	0	1	1	2	0	0	2	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	
渡辺稔					2	0	1	1	1	0	0	1	2	0	0	2	2	0	1	1	2017着任
鎌田直矢	1	0	0	1	6	0	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
齊藤正廣	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2016着任
多鹿智哉													10	0	0	10	5	0	3	2	2019着任
柴崎慎也													11	1	1	9	4	0	1	3	2019着任
南ホチヨル													10	0	4	6	3	0	1	2	2019着任
申恩真																	5	0	1	4	2020着任
山邑紘史	7	0	1	6	6	0	1	5	5	0	1	4									2018退職
上口晃	4	1	0	3	2	0	1	1													2017退職

* 大連外国語学院交流教員は、含めない。

16 専任教員の個人別研究業績一覧

社会福祉学部〔2016～2020〕 (表VI-16-④)

氏名	2016年度				2017年度				2018年度				2019年度				2020年度				備考
	計	著書	論文	その他																	
今川民雄	0	0	0	0	5	0	0	5	2	0	0	2									2018退職
高橋孝三	16	0	12	4	3	0	1	2													2017退職
杉岡直人	21	1	6	14	24	0	1	23	21	0	5	16	0	0	0	0					2019退職
豊村和真	4	0	0	4	4	0	0	4	0	0	0	0	2	0	1	1	0	0	0	0	
福島順子	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0									2018退職
村井泰廣	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					2020.8退職
横山穰	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
J. E. アリソン	1	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	1	2	0	1	1	2	0	1	1	
池田雅子	3	0	0	3	0	0	0	0	2	0	0	2	3	1	1	1	0	0	0	0	
K.U. ネンシュティール	7	1	0	6	5	1	1	3	12	2	3	7	9	0	4	5	3	1	2	0	
柴田利男	3	0	0	3	2	0	0	2	2	0	0	2									2018退職
水川喜文	9	1	5	3	4	0	1	3	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	2	
T. ゲッツ	20	0	0	20	12	0	1	11	12	0	1	11	9	0	1	8	8	2	1	5	
田実潔	19	0	0	19	0	0	1	17	21	0	0	21	16	0	0	16	3	0	1	2	
田中耕一郎	10	1	0	9	13	0	0	13	14	0	1	13	9	0	1	8	2	0	0	2	
安部雅仁	0	0	0	0	3	0	0	3	4	0	1	3	3	0	0	3	4	1	1	2	
高橋百代	2	1	1	0	1	1	0	0	1	0	0	1									2018退職
栗山隆	0	0	0	0	4	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1		
中村和彦	5	2	1	2	10	0	1	9	7	0	0	7	12	0	2	10	11	5	1	5	
西山薫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	2	3	
栗林克匡	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	2	0	1	1	
中川純	11	0	5	6																	2016退職
田澤安弘	8	1	7	0	6	0	4	2	6	1	2	3	5	0	2	3	3	0	2	1	
岡田直人	50	2	0	48	57	1	0	56	50	2	0	48	53	0	0	53	5	0	0	5	
西田充潔	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	2	0	0	0	0	
宮崎靖士	2	0	2	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	
河野和枝	16	0	1	15	17	1	1	15	0	0	0	0									2018退職
工藤憲	10	0	0	10	9	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0					2019退職
佐橋克彦	2	0	0	2	1	1	0	0	2	1	0	1	6	0	1	5	1	1	0	0	
田辺等					30	3	0	27	17	0	2	15	0	2	0	18	7	2	1	4	2017着任
大西昌美																	0	0	0	0	2020着任
牧田浩一	13	0	2	11	13	0	1	12	10	1	2	7	18	0	2	16	11	0	1	10	
鴨澤あかね	11	0	2	9	4	0	1	3	10	0	1	9	6	0	0	6	5	0	0	5	
永井順子	16	0	1	15	13	1	1	11	13	0	1	12	13	1	1	11	6	1	0	5	
伊藤新一郎	3	0	0	3	7	2	1	4	5	0	1	4	1	0	0	1	4	4	0	0	
眞嶋良全	9	0	2	7	4	0	0	4	8	0	1	7	13	1	7	5	11	0	4	7	
中田知生	9	2	0	7	10	0	0	10	5	0	0	5	11	1	1	9	7	0	1	6	
西原明希	3	0	1	2	2	0	1	1	1	0	0	1	3	0	0	3	3	0	1	2	
畑亮輔	14	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
大友秀治	15	1	1	13	13	0	0	13	12	0	2	10	11	1	3	7	9	0	1	8	2016着任
松岡是伸					1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	6	1	2	3	2017着任
斎藤仁史													2	0	0	2	1	0	1	0	2019着任
佐藤祐基	8	0	0	8	6	0	0	6	7	0	1	6	3	0	1	2	2	0	1	1	
林健太郎					3	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	3	1	2020退職
坂井圭介	0	0	0	0	0	0	0	0													2017退職
播磨正一									4	0	0	4	0	0	0	1	0	0	0	0	2018着任
五味田泰													0	0	1	2	2	0	1	1	2019着任
中田龍三郎																	2	1	1	0	2020着任
吉田竜平									0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	2018着任

16 専任教員の個人別研究業績一覧

短期大学部 [2016~2020]

(表VI-16-⑤)

氏名	2016年度				2017年度				2018年度				2019年度				2020年度				備考
	計	著書	論文	その他																	
坂内 正	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					2019退職
中村 浩	6	1	0	5	7	0	0	7	5	0	0	5	3	1	0	2	0	0	0	0	
ロバート E. ゲティンクス	4	0	0	4	5	0	0	5	5	0	0	5	6	0	0	6	3	0	0	3	
ジヤン F. マウン	21	0	4	17	9	0	2	7	18	1	1	16	9	0	0	9	1	0	0	1	
溝口 雅明	0	0	0	0	0	0	0	0													2017退職
竹村 雅史	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
内山 智	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	
森越 京子	4	0	0	4	6	0	3	3	4	0	0	4	3	0	1	2	7	1	2	4	
藤原 里佐	2	0	1	1	1	0	0	1	1	0	0	1	2	1	0	1	3	0	0	3	
遠藤 太郎	0	0	0	0	2	0	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
アッカーマン カート	0	0	0	0	8	0	0	8	25	0	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0	
川部 大輔	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
白鳥 金吾	5	0	2	3	5	0	1	4	8	1	0	7	8	0	2	6	0	0	0	0	
風戸 真理	7	4	0	3	12	0	4	8	11	0	1	10	5	0	0	5	0	0	0	0	
田中 直子	5	0	1	4	6	1	1	4	4	0	0	4	5	0	2	3	4	0	1	3	
マシュー コッター	16	2	0	14	21	2	0	19	19	1	0	18	24	0	2	22	16	0	1	15	2016着任
藤木 晶子					0	0	0	0	3	0	1	2	5	0	1	4	3	0	0	3	2017着任
ヘイディ トムソン					6	1	4	1	7	0	1	6	1	0	0	1	4	0	3	1	2017着任
山本 慎平									2	0	1	1	3	0	0	3	1	0	0	1	2018着任

学部に所属しない [2016~2020]

(表VI-16-⑤)

氏名	2016年度				2017年度				2018年度				2019年度				2020年度				備考
	計	著書	論文	その他																	
大坊 郁夫									15	1	6	8	8	1	4	3	4	0	1	3	2018着任
日高 嘉彦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	
田澤 佳江	1	0	1	0	2	0	2	0	1	1	0	0									2018退職

17 専任教員の研究業績[2020年度]

(2021. 3. 31現在)

(表VI-17-1)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁数	
9915	大坊 郁夫	1	論文	査読のない論文	対人関係の視点から見たwell-beingとしての援助行動	20210315	単著	北星学園大学	北星学園大学社会福祉学部北星論集	-58	58	
		2	その他	解説・論説等	なぜ、あなたは人づきあいが苦手なのか？	20200401	単著	一般社団法人地域社会ライフプラン協会	ALPS	-141	141	
		3	その他	解説・論説等	非言語コミュニケーションにおける装(粧)い (鈴木公啓編 装いの心理学―整え飾るこころと行動)	20200401	単著	福村出版	鈴木公啓編 装いの心理学―整え飾るこころと行動			1
		4	その他	全国学会	ポジティブな身体像の獲得を目指す！	20200908	共同(代表以外)	日本心理学会第84回大会				

17 専任教員の研究業績[2020年度]

(2021.3.31現在)

(表VI-17-2)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁数
1036	藪内 豊	1	著書	教科書	基礎から学ぶスポーツ心理学	20200401	共著	中西印刷			193
		2	論文	査読のない論文	心理的アプローチによるスポーツスキルの修正 -新旧対照法の効果と課題-	20210300	共著	北星学園大学	北星論集(北星学園大学文学部)	58-2	8
		3	その他	国際学会	Old way / new way development and athlete's autonomous learning in sports competition scenes -Possibility of fusion of old/way new way and self regulated learning	20200910	共同(代表以外)	The 2020 Yokohama Sport Conference			
		4	その他	国際学会	Psychological effects of the recreation: Influence on Anxiety of the low intensity activities	20200910	単独	The 2020 Yokohama Sport Conference			
1055	後藤 靖宏	1	論文	原著論文	A Relation Nature Between Timbre and Factorial Structure of the Impression of Appropriate Departure Music	20201100	単著		Proceedings of FORUM ACUSTICUM 2020		
		2	論文	査読のない論文	ロールプレイングゲームのBGMの印象にゲーム操作は影響があるのか	20210300	単著	北星学園大学		58-2	
		3	その他	国際学会	A nature of departure music in Japanese railway station: An Comparison between Tokyo and Hokkaido	20201111	単独	FORUM ACUSTICUM 2020			
		4	その他	全国学会	【学会発表】札幌市街地と福岡市街地のサウンドスケープの比較	20200620	単独	日本サウンドスケープ協会2020年度春季研究発表会			
		5	その他	全国学会	【学会発表】文章産出過程におけるBGMの言語ノイズ抑制効果	20200910	単独	日本音響学会2020年秋季研究発表会			
		6	その他	全国学会	【学会発表】癒やし空間構築のための光色変化とBGMの調和に関する感性工学的研究	20200911	単独	第22回日本感性工学会大会			
		7	その他	全国学会	【学会発表】移調楽器演奏時における音高の変換処理の非対称性 -ピアノとクラリネットの比較-	20200918	単独	日本認知科学会第37回大会			
		8	その他	全国学会	【学会発表】リバースカルチャーショック測定のための評価基準の作成-大学生の海外留学経験者における調査結果からの検討-	20200919	単独	日本教育心理学会第62回総会			
		9	その他	全国学会	【学会発表】移調楽器の演奏時において音高変換はどのように処理されるのか	20201025	単独	音楽知覚認知学会2020年度秋季研究発表会			
		10	その他	全国学会	(シンポジウム)音楽教育と音楽心理学:音楽教育に心理学は何ができるか?(1)	20201025	共同(代表)	音楽知覚認知学会2020年秋季研究発表会			
		11	その他	全国学会	【学会発表】コロナ禍の自粛期間における札幌市街地のサウンドスケープ	20201129	単独	日本サウンドスケープ協会2020年度秋季研究発表会			
		12	その他	全国学会	【学会発表】ア・カベラのコーラスに対する協和感評価に“音色”が及ぼす影響	20210303	単独	日本認知心理学会第18回大会			
		13	その他	全国学会	【学会発表】グレープフルーツの香りに関する事前情報による集中力の変化	20210308	単独	第16回日本感性工学会春季大会			
		14	その他	全国学会	【学会発表】移調楽器における音高変換処理の非対称性に関する実験的検証	20210311	単独	日本音響学会2021年春季研究発表会			
		15	その他	全国学会	【学会発表】コロナ禍における札幌市のサウンドスケープの経時的変化	20210326	単独	日本サウンドスケープ協会特別研究会			
		16	その他	その他	学科DPに基づく評価項目の検討-学びの質保証と成果の可視化に向けて	20210217	単著				
		17	その他	その他	【論集】「認知科学研究」発行(第16第1、2合併号)	20210300	編著				
		18	その他	その他/基調講演	キャンパス説明会 心理・応用コミュニケーション学科模擬講義(“コミュカ”を科学する-認知心理学から見たコミュニケーション能力とは?)	20200912	単独				
		19	その他	その他/その他	国内研修に関する打ち合わせ	20210300	単独				

17 専任教員の研究業績[2020年度]

(2021.3.31現在)

(表VI-17-2)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁数	
1058	大島 寿美子	1	論文	査読のない論文	コミュニティにおける「病いの語り」－がん体験者の語りの共同的生成－	20210331	単著	北星学園大学	北星学園大学文学部北星論集	58-2	8	
		2	その他	全国学会	【学会シンポジウム招待講演】がんとともに生きる当事者が望む暮らしを支える	20200827	共同（代表）	第46回日本看護研究学会学術集会				
		3	その他	全国学会	【学会シンポジウム招待講演】病い体験の語りから考える乳がんサバイバー支援	20210314	単独	第27回日本産婦人科乳腺医学会				
		4	その他	全国学会	【学会発表】COVID-19の影響下におけるオンラインがんサロンの展開	20210320	共同（代表以外）	日本集団精神療法学会第38回大会				
		5	その他	全国学会	【学会発表】治療者からみたグループの意義とメンバーの体験の整合性	20210320	共同（代表以外）	日本集団精神療法学会第38回大会				
		6	その他	全国学会	【学会ワークショップ】“機能的サブグループ”で対人コミュニケーションを学ぶ	20210321	共同（代表以外）	日本集団精神療法学会第38回大会				
		7	その他	その他	【新聞連載】ようこそユマニテュードの世界へ<1> 「魔法」のようなケア	20200407	単著	共同通信社	共同通信社			1
		8	その他	その他	【新聞連載】ようこそユマニテュードの世界へ<2> コミュニケーションの始まりは	20200414	単著	共同通信社	共同通信社			
		9	その他	その他	【新聞連載】ようこそユマニテュードの世界へ<3> 前向きな言葉で承認	20200421	単著	共同通信社	共同通信社			
		10	その他	その他	【新聞連載】ようこそユマニテュードの世界へ<4> 触れて受け取るメッセージ	20200428	単著	共同通信社	共同通信社			
		11	その他	その他	【新聞連載】ようこそユマニテュードの世界へ<5> 気持ち尊重 生きる力に	20200505	単著	共同通信社	共同通信社			
		12	その他	その他	【新聞連載】ようこそユマニテュードの世界へ<6> 相手を認める言動大切	20200512	単著	共同通信社	共同通信社			
		13	その他	その他	【新聞連載】ようこそユマニテュードの世界へ<7> ケアの中心は「関係性」	20200519	単著	共同通信社	共同通信社			
		14	その他	その他	【新聞連載】ようこそユマニテュードの世界へ<8> 人間らしくあること	20200526	単著	共同通信社	共同通信社			
		15	その他	その他	【新聞連載】ようこそユマニテュードの世界へ<9> お手伝いするつもりで	20200602	単著	共同通信社	共同通信社			
		16	その他	その他	【新聞連載】ようこそユマニテュードの世界へ<10> 全国各地に広がる「愛」	20200609	単著	共同通信社	共同通信社			
1060	鈴木 剛	1	論文	査読のない論文	コンピテンシー・ベースの学力観と知識教育のゆくえーバンスティンの〈ベダゴジ〉の社会学理論に論及して	20210331	単著	北星学園大学教職課程年報	北星学園大学教職課程年報	4	20	
		2	その他	ノート	学力・コンピテンシー・普通教育ー変化が加速する時代の公教育の課題	20210331	単著	北星学園大学文学部	北星論集	58-2	23	
1069	石川 悟	1	著書	教科書	2020年度心理学実験マニュアル	20200900	共著					
		2	論文	査読のない論文	統計ソフトウェアjamovi の利用ガイドの作成とjamovi を利用した統計および実験実習での実践	20210300	共著	北星学園大学	北星学園大学社会福祉学部北星論集	58		
		3	その他	ノート	農福連携の“仕掛け”となる“拠点施設”の役割と特徴の検討ーオランダのホーフ＝ブルック福祉農園における“温室”の事例をもとにー	20210300	共著	北星学園大学	北星学園大学社会福祉学部北星論集	58-2		
		4	その他	全国学会	「あなた」の引き出し方～会話想定場面で現れた質問形式の違いから～	20200908	単独	日本心理学会第84回大会				

17 専任教員の研究業績[2020年度]

(2021.3.31現在)

(表VI-17-2)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁数	
1071	山本 範子	1	著書	一般書・啓蒙書	三体II(上)	20200620	共訳	早川書房		-2		
		2	著書	一般書・啓蒙書	「三体II」(下)	20200625	共訳	早川書房				
		3	著書	一般書・啓蒙書	時のきざはし 現代中華SF傑作選	20200709	編集・編纂・監修	新紀元社		1	482	
		4	著書	一般書・啓蒙書	「人之彼岸」	20210121	共訳	早川書房				
		5	その他	書評・文献紹介	彼方へ通じる世界観	20200528	単著	思潮社	現代詩手帖		-6	1
		6	その他	書評・文献紹介	『ピエタとトランジ』講談社	20200608	単著		図書新聞		-3451	1
		7	その他	解説・論説等	劉慈欣「鯨歌」解説	20200601	単著	早川書房	SFマガジン	61-3		2
		8	その他	解説・論説等	「三体」以前と以後	20200730	共著	河出書房新社	中国・SF・革命			
		9	その他	解説・論説等	「科幻世界」と中国SF	20201201	単著	早川書房	SFマガジン	61-742		5
		10	その他	全国学会	中国のサブカル	20200530	単独	現代中国文学会				
		11	その他	国際学会	日本漫画におけるコロナ	20200926	単独	中国				
		12	その他	国際学会	中国SFと文明、教育	20210328	単独	バンデミック時代における科学技術と想像力				
		13	その他	その他	中国SF文学がなぜいま人気なのか	20200400	共著	中央公論社	中央公論			
		14	その他	その他	NEWSWEEK の翻訳	20200811	単著		NEWSWEEK			
1075	片岡 徹	1	論文	査読のない論文	〈学問〉としての平和学に関する一考察	20200900	単著	北星学園大学文学部北星論集		58-1		
1076	松浦 年男	1	論文	原著論文	天草市深海方言の漢語に見られる有声阻害重子音	20200930	単著	日本言語学会	言語研究	158	32	
		2	論文	原著論文	天草諸方言における音調型と複合名詞アクセントの中和	20210315	単著	風間書房	筑紫語学論叢3			
		3	その他	資料・報告等	天草市本渡方言のアクセント資料(2)	20200930	単著	北星学園大学	北星学園大学文学部北星論集	58-1	14	
		4	その他	解説・論説等	科目設置の苦しさ、環境づくりの大切さ	20201225	単著	医学書院	看護教育	61-12		9
		5	その他	研究会・シンポジウム等	コーパスの活用例 何が有声促音になるのか? COJADSを用いた分類の試み	20200501	単独	Covid-19の影響下における方言研究のあり方を模索するワークショップ				
		6	その他	研究会・シンポジウム等	天草市本渡方言における呼びかけイントネーション	20200905	単独	音韻文法研究会 第2回研究発表会				
		7	その他	研究会・シンポジウム等	九州諸方言の与格助詞に見られる音韻交替	20201030	単独	国立国語研究所ブロンディー研究班オンライン研究発表会				
		8	その他	研究会・シンポジウム等	北海道における2チーム分けジャンケンへの掛け声	20210124	共同(代表以外)	言語学フェス2021				
		9	その他	研究会・シンポジウム等	自然さ?容認性?文法性?—言語調査で私たちが聞いている「判断」は何ものなのか	20210124	共同(代表)	言語学フェス2021				
		10	その他	研究会・シンポジウム等	研究事例紹介: 辞書の用例を用いた実証研究	20210326	単独	Covid-19の影響下における方言研究のあり方を模索するWS 第二弾				
		11	その他	全国学会	天草市本渡方言における呼びかけのイントネーション	20201122	単独	日本言語学会第161回大会				
		12	その他	全国学会	テキストチャットを効果的に使う: 初年次教育での実例	20201213	単独	日本語学学会第21回大会				
		13	その他	不明	オンラインでの発表をよりインタラクティブにするツール	20210323	単独	日本語学会大会企画委員会オンライン講習会				
1078	柳町 智治	1	論文	原著論文	車椅子使用者による乗車券購入場面の相互行為分析: 活動の進行と介助をめぐる実践的課題	20201200	単著	日本認知科学会	認知科学	27-4	12	
		2	その他	その他	特集を振り返って: 著者の想い	20201200	共著	日本認知科学会	認知科学	27-4	10	

17 専任教員の研究業績[2020年度]

(2021. 3. 31現在)

(表VI-17-2)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁数
1080	斎藤 彩世	1	著書	原著論文	セアラ・オーン・ジュエットの『とんがり樫の木の郷』における孤独と孤島一点と点をつなぐ作家	20201201	単著	日本英文学会	英文学研究	97	16
		2	その他	全国学会	英米モダニズムの巨匠とHenry James——<I>In the Cage</I>を中心に（担当：<I>In the Cage</I>における流動性の美学）	20201212	単独	日本アメリカ文学会北海道支部第30回大会			
1081	田村 早苗	1	論文	査読のない論文	文章力向上のための継続的支援に学生をどうつなげるか—個別支援の利用を促す「日本語レベルテスト」の試み—	20210300	単著	北星学園大学	北星学園大学文学部北星論集	58-2	10
		2	その他	地方学会	Public Commitments に基づく2種のコトダ構文の分析	20200613	単独	関西言語学会第45回大会			
		3	その他	研究会・シンポジウム等	自然さ？容認性？文法性？：言語調査で私たちが聞いている「判断」は何ものなのか	20210124	共同（代表以外）	言語学フェス2021			
		4	その他	研究会・シンポジウム等	コトダ構文の特性とコミットメント調整	20210325	単独	科研ワークショップ：「可能世界を用いない様相表現の意味論的枠組みの構築—日本語様相表現を中心に」			
1082	島田 桂子	1	その他	資料・報告等	【学会抄録】 Dickensと聖書——<I>Hard Times</I>における裁きと福音の声—	20200400	単著		日本キリスト教文学会会報		
1083	中地 美枝	1	著書	学術書	<I>Replacing the Dead: The Politics of Reproduction in the Postwar Soviet Union</I>	20210201	単著	Oxford University Press			348
1084	ロバート・トムソン	1	論文	原著論文	Does Relational Mobility Vary across National Regions? A Within-Country Examination	20200702	共著		PLOS One		
		2	論文	原著論文	A Within-Country Study of Biased Comparative Judgements About the Severity of Environmental Problems	20201030	共著		Social Psychology Bulletin	15-3	22
		3	その他	全国学会	オンラインを通じた 大規模多国の心理実験・調査	20210302	単独	日本認知心理学会第18回大会 ベーシック&フロンティアセミナー			
		4	その他	地方会議/パネリスト	withコロナ時代のサイクルツーリズムのあり方セミナー	20200819	単独	withコロナ時代のサイクルツーリズムのあり方セミナー			
		5	その他	地方会議/講師	Hokkaidoのアドベンチャーツーリズムの可能性	20200916	単独	@大雪山・十勝岳連峰の旅行商品造成事業 第2回目ワークショップ			
		6	その他	地方会議/講師	中川町のアドベンチャーツーリズムの可能性	20201103	単独	中川町のアドベンチャーツーリズムを考えるプロガイドモニターツアー			
		7	その他	地方会議/その他	自然災害や感染症と共に生きる北海道アウトドア トークセッション	20201202	共同	北海道アウトドアフォーラム2020			
		8	その他	国内会議/特別講演・記念講演	北海道におけるアドベンチャータラベルの ポテンシャルと課題	20200803	単独	『Withコロナ時代』のアウトドアツーリズムオンラインセミナー（アウトドアツーリズム）			
		9	その他	国内会議/基調講演	みんなでつくる、世界を魅了する大雪山国立公園	20210318	単独	記念シンポジウム「みんなでつくる、世界を魅了する大雪山国立公園」			
1085	鳴海 昌江	1	論文	査読のない論文	教員を目指す学生のための海外研修の在り方の研究—教師の卵カンボジアに行く—	20210300	単著	北星学園大学	北星学園大学文学部北星論集	58-2	
		2	その他	ノート	北星学園大学教職課程の現状と課題—データと調査、事例から読み解く課題解決への一考察—	20210300	共著	北星学園大学教職部門	北星学園大学教職課程年報		-4
1086	柿原 久仁佳	1	論文	査読のない論文	被災地における防災・木育授業の試み	20200800	単著		こどもロジ	24	
		2	その他	全国学会	結婚前の若者が出産に 影響を与える要因	20200910	単独				
		3	その他	資料・報告等	「防災教育」と「心のケア」のセットで支える子どもサポート・ハンドブック	20210300	共著				32
		4	その他	その他/講師	厚真町に新しく赴任した教職員への研修	20200406	単独				
1089	寺林 暁良	1	論文	総説論文・調査論文・依頼論文	「広域的総合農泊地域の可能性と課題——徳島県西部地域を対象として」	20201200	共著	農林水産省農林水産政策研究所	『農林水産政策研究』		-33
		2	著書	事典・辞書	【項目執筆】『2021年版 金融時事用語集』	20201201	共著	月刊金融ジャーナル社			
		3	その他	ノート	【研究ノート】「農副大連携の“仕掛け”となる“拠点施設”の役割と特徴の検討——オランダのホーフ＝ブルック福祉農園における“温室”の事例をもとに」	20210300	共著	北星学園大学	『北星学園大学社会学部福祉学部北星論集』		-58
		4	その他	研究会・シンポジウム等	エネルギー転換を担う地域組織づくり——ドイツのエネルギー協同組合にみる順応的ガバナンス	20200401	単独	科研基盤(A)「エネルギー技術の多元性と多義性を踏まえたガバナンス方法の研究」研究会			
		5	その他	研究会・シンポジウム等	「多層的で動的なプロセスとしてのコミュニティ」での研究	20200421	単独	基盤研究(A)「多層的で動的なプロセスとしてのコミュニティ：実践論的アプローチによる研究」第1回研究会			
		6	その他	国内会議/講師	人間と自然の豊かな関係性の再構築	20201008	単独	一橋大学・農林中央金庫寄附講義「自然資源経済論IVC」			
		7	その他	地方会議/講師	これからの集落営農はどうありうるか——地域ガバナンスで問われる役割	20210212	単独	青森県「農山漁村」地域経営事業研修会「これからの地域経営はどこへ行くのか」			

17 専任教員の研究業績[2020年度]

(2021.3.31現在)

(表VI-17-3)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁数	
2046	宮澤 照恵	1	その他	書評、文献紹介	書評 『誘惑する西鶴一浮世草子をどう読むか』	20210101	単著	明治書院	国語と国文学 2021年1月号	-1166	6	
2052	大原 昌明	1	論文	総説論文・調査論文・依頼論文	交通系一般財団法人の事業と課題－札幌市のケースに基づいて－	20210300	単著	会計検査院	会計検査研究	-63	16	
		2	その他	ノート	自転車タクシー事業に関する考察	20210300	共著		北星論集（経済学部）	60-2	9	
2064	萱野 智篤	1	その他	その他/講師	フェアトレードによる価値創造	20201201	単独	JICA札幌研修プログラム「森林等自然資源の持続的な利用とバリューチェーン強化」				
2083	竹田 恒規	1	論文	査読のない論文	「奥尻復興の秘けつを聞き出す：高台移転事業の概要と実務当事者へのインタビュー－災害復興を考えるシンポジウムの記録－（2）」	20200900	共著		北星学園大学経済学部北星論集論集	60-1	22	
		2	論文	査読のない論文	「奥尻復興の秘けつを聞き出す：高台移転事業の概要と実務当事者へのインタビュー－災害復興を考えるシンポジウムの記録－（3）」	20210300	共著		北星学園大学経済学部北星論集	60-2	19	
		3	その他	研究会・シンポジウム等	「基調報告」災害復興街づくりにおける意思決定・合意形成・事業実施の過程	20200728	共同（代表）	災害復興を考えるシンポジウム				
2086	古谷 次郎	1	論文	査読のない論文	中学校「社会科（公民的分野）」における公的統計データを利用した教材開発	20210300	単著	北星学園大学教職部門	北星学園大学教職課程年報	-4	19	
		2	その他	全国学会	21世紀型能力の観点に立った情報教育で 育成すべき能力の提案	20200704	共同（代表以外）	日本情報経営学会第80回全国大会				
2087	増田 辰良	1	その他	ノート	労働の断 働かざる者、学ぶべし	20200923	単著	北星学園大経済学部北星論集		60-1		
		2	その他	ノート	経済学の断 学生たちへのぞみ・かなえ・たまえ	20200923	単著	北星学園大経済学部北星論集		60-1		
		3	その他	ノート	経済学の断 ナッシュ均衡	20200923	単著	北星学園大学経済学部北星論集		60-1		
		4	その他	ノート	誰にサポートされれば、日本の開業者は経済的に成功するのか？	20200923	単著		北星学園大経済学部北星論集		60-1	
		5	その他	ノート	労働に関する落語と漫才 バイキングは楽しい／老働／コンサルティングします	20210311	単著	北星学園大学経済学部北星論集		60-2		
		6	その他	ノート	幻想小説 聴こえる／寄り道	20210311	単著	北星学園大学文学部北星論集				
		7	その他	ノート	戯曲 ATMからの脱出	20210311	単著	北星学園大学文学部北星論集			58-2	
		8	その他	ノート	経済学の断 コースの定理	20210311	単著		北星学園大学社会福祉学部北星論集		58	
		9	その他	ノート	経済学の断 微分を使う	20210311	単著	北星学園大学経済学部北星論集			60-2	21
		10	その他	ノート	言葉の探求 ショート・チョットの笑劇場①	20210311	単著				60-2	

17 専任教員の研究業績[2020年度]

(2021. 3. 31現在)

(表VI-17-3)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁数
2093	鈴木 克典	1	その他	ノート	自転車タクシー事業に関する考察	20210300	共著	北星学園大学	北星論集	60-2	9
		2	その他	全国学会	6地域における優先席の利用実態に関する一考察—札幌市、仙台市、関東圏、京都市、神戸市、福岡市の地下鉄を事例に—	20201017	共同（代表以外）	第23回日本福祉のまちづくり学会全国大会（沖縄大会代替）			
		3	その他	研究会・シンポジウム等	旧札幌農学校演武場（時計台）におけるバリアフリー	20201027	単独	文化財のバリアフリー化と最近のバリアフリー化の動き			
		4	その他	国際学会	An Analysis of the Effectiveness of Priority Seat in Transportation Through a Comparative Study of Six Areas in Japan	20210126	共同（代表以外）	Transportation Research Board 100th Annual Meeting			
		5	その他	その他	豊平館（北海道札幌市）	20210300	単著	日本福祉のまちづくり学会 文化財・世界遺産のアクセシビリティに関する特別研究委員会	文化財のバリアフリー事例集2020		
		6	その他	その他/講師	災害と避難所 広域化でできること	20201002	単独	蘭西七町連合会の自主防災組織広域化に向けたグループワーク			
		7	その他	その他/講師	おうちで子どもユニバーサルデザイン×缶バッジ	20201202	単独	ユニバーサルデザイン×缶バッジ			
		8	その他	その他/講師	テーマ研修～ビクトグラム編「防災」	20210208	単独	札幌市子ども会育成連合会ジュニアリーダー研修			
		9	その他	その他/その他	篠路まちづくり座談会	20210318	単独	（仮称）篠路駅周辺地区まちづくり計画検討委員会 新泉社	笹岡正俊・藤原敬大編著『誰のための熱帯林保全か—現場から考えるこれからの熱帯林ガバナンス』		177-189
2099	浦野 真理子	1	著書	学術書	「住民との同意」は本来の目的を果たせるのか	20210100	単著				
2106	星野 宏司	1	その他	国際学会	Influence of Toe Grip Strength to Difference of Sitting and Standing Posture	20200911	単独	2020 Yokohama Sport Conference			
		2	その他	国際学会	Comparison of standing versus sitting toe grip strength...	20201028	単独	25th Annual Congress of the European College of Sport Science			
		3	その他	国内会議/講師	公財）日本スポーツ協会公認コーチ 共通科目Ⅲ講習会	20201101	共同	公財）日本スポーツ協会公認コーチ 共通科目Ⅲ講習会			
		4	その他	国内会議/講師	公財）日本スポーツ協会公認コーチ 共通科目Ⅲ講習会	20201108	共同	公財）日本スポーツ協会公認コーチ 共通科目Ⅲ講習会			
2107	金子 大輔	1	著書	一般書・啓蒙書	デジタル社会の学びのかたちVer.2：教育とテクノロジーの新たな関係	20201005	共訳	北大路書房			
		2	論文	査読のない論文	「自宅・自室での学習環境に関する緊急調査」に対する計量テキスト分析	20200930	共著		北星学園大学文学部北星論集	58-1	
		3	論文	査読のない論文	北星学園大学における非対面授業の実態：2020年度前期末調査の報告	20210315	共著		北星学園大学文学部北星論集	58-2	
		4	論文	査読のない論文	大学の初年次学生に対するプレシメントテストと到達度テストの結果：初年次教育の学修成果の可視化の試み	20210315	単著		北星学園大学経済学部北星論集	60-2	
		5	論文	総説論文・調査論文・依頼論文	北星学園大学における非対面授業に対する支援態勢の構築と学生の意識変化	20201001	共著		教育システム情報学会誌	37-4	
		6	その他	全国学会	理工系単科大学における学生の情報機器操作スキルの経年変化	20200903	共同（代表以外）	第45回教育システム情報学会全国大会講演論文集、189-190			
		7	その他	全国学会	非対面授業の開始時に求められる支援とは：授業開始から3週間の支援内容の分析	20200903	共同（代表）	第45回教育システム情報学会全国大会講演論文集、247-248			
		8	その他	全国学会	質問作り(QFT)を用いた情報モラルの授業における個人の学びの分析	20200913	共同（代表以外）	日本教育工学会2020年秋期全国大会講演論文集、451-452			
		9	その他	国内会議/パネリスト	北星学園大学における非対面授業の実施とその支援	20200821	単独	第14回4月からの大学等遠隔授業に関する取組状況共有サイバーシンポジウム			
		10	その他	国内会議/パネリスト	北星学園大学における非対面授業実施の状況と今後の展望	20210310	単独	北海道大学オープンエデュケーションセンターフォーラム2020「アフターコロナの大学教育」シンポジウム			
		11	その他	地方会議/パネリスト	大学での取り組みについて	20201007	単独	ウイズ/ポスト・コロナの教育・研究のあり方～アナログとデジタルは「混ぜるな危険」か？			
		12	その他	地方会議/パネリスト	学生にとっての大学キャンパスの存在意義	20201221	単独	東京工業大学 教育革新シンポジウム 2020 COVID-19インパクトは大学教育の未来を変える：学習者中心の教育を再考する 第3回「学生のエンゲージメントを高める授業づくり2」			
		13	その他	地方会議/講師	学習効果を高める授業コンテンツの構成とは：学生の学びを止めないために	20210319	単独	信州大学工学部FDセミナー			

17 専任教員の研究業績[2020年度]

(2021.3.31現在)

(表VI-17-3)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁数	
2111	勝村 務	1	その他	全国学会	【共通論題報告】人口減少と資本蓄積	20201024	単独	経済理論学会 第68回大会				
		2	その他	その他	少子化と現代資本主義	20200420	単著	経済理論学会 (桜井書店)	季刊経済理論	57-1		
2113	松本 康一郎	1	その他	その他/講師	税務大学校札幌研修所「会計学」講義	20201000	単独					
		1	論文	査読のない論文	Ad Sequestrem	20200900	単著	北星学園大学	北星論集 (経済学部)	60-1	13	
2115	足立 清人	2	論文	査読のない論文	奥尻復興の秘けつを聞き出す：高台移転事業の概要と事務当事者へのインタビュー(2)	20200900	共著	北星学園大学	北星論集 (経済学部)	60-1	21	
		3	論文	査読のない論文	抵当権と所有権留保との競合について－担保権の競合(1)－	20200900	単著	北星学園大学	北星論集 (経済学部)	60-1	16	
		4	論文	査読のない論文	奥尻復興の秘けつを聞き出す：高台移転事業の概要と実務当事者へのインタビュー(3)－災害復興を考えるシンポジウムの記録－	20210315	共著	北星学園大学	北星論集 (経済学部)	60-2	19	
		5	論文	総説論文・調査論文・依頼論文	『外国人』による土地取引の法律学的考察	20200928	単著		一般社団法人 不動産流通経営協会 平成30年度研究助成実績			20
		6	その他	ノート	「特別養子縁組制度」改正の概観	20210315	単著		北星論集 (社会福祉学部) 58号		-58	8
		7	その他	ノート	新型コロナウイルス感染症による混乱のなかでの大学「在学契約」についての覚書	20210315	単著	北星学園大学	北星論集 (経済学部)	60-2		14
		8	その他	ノート	「契約法務」入門－「私法教育」の素材として：建物賃貸借契約編－	20210331	単著	北星学園大学	北星学園大学教職課程年報		-4	14
		9	その他	その他	『創世記 (Liber Genesis) 新ブルガータ版 (Nova Vulgata Editio)』邦訳(3)	20200900	共訳	北星学園大学	北星論集 (文学部)	58-1		12
		10	その他	その他	意見書 (令和元年 (O) 第△号 土地明渡請求等事件・土地所有権移転登記手続請求反訴事件)	20200914	単著					9
		11	その他	不明/講師	2020年度 消費生活講座「民法改正について」(計3回)	20200702	単独					
		12	その他	不明/講師	債権法	20201125	単独	北海道警察学校				
		13	その他	不明/講師	債権法	20210120	単独	北海道警察学校	「債権法」講義			
		14	その他	不明/講師	「契約自由の原則」について	20210219	単独		法教育授業			
		2123	野原 克仁	1	その他	研究会・シンポジウム等	気候変動による自然災害がもたらす影響 及び適応策に関する経済評価手法の開発	20200714	共同 (代表)	S-18 研究計画交流会		
2	その他			研究会・シンポジウム等	製造業部門における経済影響評価手法の開発	20200924	共同 (代表)	S-18 テーマ5全体会合報告会				
2129	黄 雅雯	1	論文	原著論文	ベンローズの企業成長理論と「資源・能力アプローチ」	20200500	単著	文真堂	経営学史学会年報	第27輯		
		2	論文	原著論文	Role of Knowledge Sharing to Bring Innovation: A Case Study of SME' s Inter-Organizational Network	20200600	共著				レフェリー付ブローシ	
		3	その他	国際学会	Role of Knowledge Sharing to Bring Innovation: A Case Study of SME' s Inter-Organizational Network	20200608	共同 (代表)	26th IPDMC (Innovation and Product Development Management Conference)				
		4	その他	全国学会	ベンローズの企業成長理論の再検討と現代企業への適応	20200904	単独	日本経営学会第94回大会				
		5	その他	全国学会	グローバルな大量生産体制の転換とガバナンスに関する研究	20200907	共同 (代表以外)	工業経営研究会第35回全国大会				
		6	その他	全国学会	スマートフォン産業におけるブランドメーカー、EMS、サプライヤーの企業間関係－日系中小製造企業の事例－	20200907	共同 (代表以外)	工業経営研究会第35回全国大会				

17 専任教員の研究業績[2020年度]

(2021.3.31現在)

(表VI-17-3)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁数
2132	林 秀彦	1	論文	原著論文	A Development of Maternity Application Using Cross-Platform Framework	20200901	共著	IEEE CPS	IIAI-AAI2020		
		2	論文	原著論文	Analyzing the Correlation Between Tweets and Sales for Product Brands	20200901	共著	IEEE CPS	IIAI-AAI2020		
		3	その他	国際学会	A Development of Maternity Application Using Cross-Platform Framework	20200901	共同 (代表以外)	SCAI2020			
		4	その他	国際学会	Analyzing the Correlation Between Tweets and Sales for Product Brands	20200901	共同 (代表以外)	SCAI2020			
		5	その他	国際学会	IIAI-AAI2020 Program Committee	20200901	共同 (代表以外)	IIAI-AAI2020			
		6	その他	国際学会	SCAI2020 Session Organizer, Chair	20200901	共同 (代表以外)	SCAI2020			
		7	その他	国際学会	KIGSS2020 Program Committee	20201125	共同 (代表以外)	KIGSS2020			
		8	その他	国際学会	SNPD2021-Winter Program Committee	20210121	共同 (代表以外)	SNPD2021-Winter			
		9	その他	その他/講師	コロナ禍での大学の価値・教育創造 ～北星フィロソフィ	20201106	単独	令和2年度釧路公立大学FD・SD研修会			
2136	鄭 根珠	1	その他	研究会・シンポジウム等	遠隔授業の実践における評価と課題について	20200919	単独	多文化関係学会九州地区研究大会			
2141	渡邊 稔	1	論文	原著論文	Elderly Labor and Unemployment	20200000	共著		Journal of Interdisciplinary Economics (paper accepted)		
		2	その他	研究会・シンポジウム等	Capital income taxation in endogenous fertility model	20200000	共同 (代表)	KMSG研究会			
2143	山吉 智久	1	著書	その他	【訳書】ジョン・J・コリンズ『「死海文書」物語—どのように発見され、読まれてきたか』	20200000	単著	教文館			
		2	論文	査読のない論文	世界最古のミステリーエグロン王「密室」殺人事件を解け！—	20200000	単著		『北星論集』	59-2	
		3	その他	書評、文献紹介	【書評】山我哲雄著『VTJIB約聖書注解 列王記上1～11章』	20200000	単著	北星学園キリスト教センター	『北星教育と現代』	8	
2146	萩原 浩太	1	その他	研究会・シンポジウム等	不当な取引制限の技術論	20201015	単独	競争法フォーラム			
2147	矢吹 哲夫	1	著書	一般書・啓蒙書	環境問題の数理科学「発展編」	20201120	共訳	丸善出版			230
		2	その他	全国学会	【学会発表】エントロピーによる光合成のエネルギー解析Part2	20200910	単独	日本物理学会2020秋季大会 (物性)			
		3	その他	全国学会	【学会発表】エントロピーによる光合成のエネルギー解析Part3	20210314	共同 (代表)	日本物理学会第76回年次大会			
2149	諸岡 卓真	1	著書	一般書・啓蒙書	2021本格ミステリ・ベスト10	20201215	共著	原書房			
		2	論文	査読のない論文	待機する犯人—今村昌弘『屍人荘の殺人』論	20201200	単著	南雲堂	本格ミステリの本流		
		3	論文	査読のない論文	本格ミステリ二一世紀を振り返る 二〇—～二〇—九	20201200	単著	南雲堂	本格ミステリの本流		
		4	論文	査読のない論文	解析される神—麻耶雄嵩『さよなら神様』論	20201200	単著	南雲堂	本格ミステリの本流		
		5	その他	その他	【紹介】浅子逸男著『御用！ 半七捕物帳』	20200500	単著	日本近代文学会	日本近代文学		-102

17 専任教員の研究業績[2020年度]

(2021. 3. 31現在)

(表VI-17-3)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁数
2150	柴崎 慎也	1	著書	学術書	マルクス経済学：市場理論の構造と転回	20210300	共著	桜井書店			
		2	その他	研究会・シンポジウム等	利子論・市場機構論から市場組織論へ	20200904	単独	杉並経済学研究会			
		3	その他	研究会・シンポジウム等	利子論・市場機構論から市場組織論へ—さくら原論研究会編『これからの経済原論』の市場組織論について	20200909	単独	東京経済大学セミナー			
		4	その他	その他	『季刊経済理論』編集後記	20201000	単著	経済理論学会 第57巻第3号, p. 122			1
2151	南 ホチヨル	1	論文	査読のない論文	Accounts Payable and Sales Growth Rate	20210300	単著	北星学園大学	北星学園大学経済学部北星論集	60-2	
		2	その他	全国学会	Inventory as a Liquidity Provision Channel	20200614	単独	2020年度日本応用経済学会春季大会			
		3	その他	全国学会	Inventory as a Liquidity Provision Channel	20200620	単独	日本ファイナンス学会第28回大会			
2154	多鹿 智哉	1	論文	原著論文	Contribute once! Full efficiency in a dynamic contribution game.	20200900	単著	Elsevir	Games and Economic Behavior	123	
		2	論文	原著論文	Polarization and inefficient information aggregation in electoral competition	20210100	単著	Springer	Social Choice and Welfare	56	
		3	論文	原著論文	Persistent and Snap Decision Making	20210200	単著	Wiley	Journal of Economics and Management Strategy	30-1	
		4	その他	研究会・シンポジウム等	Suspicion aversion and intentional delay in response	20201203	単独	ミクロ経済学・ゲーム理論研究会			
		5	その他	研究会・シンポジウム等	Restriction and Restoration of Freedom: An Economic Approach toward Psychological Reactance	20210220	単独	Contract Theory Workshop on Zoom			
2155	申 恩真	1	論文	博士論文	女子サッカー選手の労働と生活に関する研究：不安定な競技実践形態とアスリート・アイデンティティをめぐるエスノグラフィー	20210325	単著	北海道大学大学院 教育学院			
		2	その他	資料・報告等	【博士論文要旨】女子サッカー選手の労働と生活に関する研究：不安定な競技実践形態とアスリート・アイデンティティをめぐるエスノグラフィー	20210327	単著	北海道大学 教育学研究院 青年期教育論研究室	青年期教育		-5
		3	その他	全国学会	女性アスリートのジェンマと「二重のジェンダー構造」の関係性を問う	20201024	単独	日本スポーツとジェンダー学会第19回大会口頭発表			
		4	その他	国際会議/特別講演・記念講演	日本語学習法に関する特別講演	20201029	単独	卒業生招待・学習方法に関する特別講演			
		5	その他	その他	女性アスリートのジェンマと「二重のジェンダー構造」の関係性を問う	20201024	単著	日本スポーツとジェンダー学会	日本スポーツとジェンダー学会第19回大会プログラム及び抄録集		

17 専任教員の研究業績[2020年度]

(2021. 3. 31現在)

(表VI-17-4)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁数	
3013	中田 知生	1	論文	査読のない論文	高齢期における社会的ネットワーク：ソーシャル・サポートと社会的孤立の構造と変動	20210300	単著	明石書店			192	
		2	その他	研究会・シンポジウム等	MMR（混合研究法）について	20200829	単独	科学研究費研究会				
		3	その他	国際学会	Social Support Disparities and the Numbers of Children among Elderly Japanese People：Mixed Model Approach	20201005	単独	Society for Longitudinal and Life Course Studies 10th Anniversary Events				
		4	その他	全国学会	社会的紐帯とネットワーク部会の司会	20201115	不明	第18回福祉社会学会大会				
		5	その他	研究会・シンポジウム等	“地域”とは誰のものか？	20210310	共同（代表以外）	科学研究費研究会				
		6	その他	研究会・シンポジウム等	fs/qcaを用いた地域活動の構造的な要因分析	20210310	単独	科学研究費研究会				
		7	その他	研究会・シンポジウム等	QGISによるGIS分析－Y県M町データ、北海道における地域包括支援センターデータから－	20210310	単独	科学研究費研究会				
3023	トーマス・ゲッツ	1	著書	学術書	Quiz Aftercare with Moodle' s Facility and Discrimination Indexes	20201000	単著	978-1-912764-78-5	ECEL 2020 19th European Conference on e-Learning		8	
		2	著書	学術書	Setting up Classes so the Magic Can Happen	20201230	単著				11	14
		3	論文	査読のない論文	Setting Up Classes for the Magic to Happen	20200500	単著	北星学園大学	北星学園大学文学部北星論集	58-1	10	
		4	その他	地方学会	Let's learn about the Workshop activity	20200901	単独	Moodle Association of Japan, Hokkaido Chapter				
		5	その他	国際学会	Quiz Aftercare with Moodle' s Facility and Discriminatory and Indexes	20201029	単独	19th European Conference on e-Learning ECEL 2020 - A Virtual Conference				
		6	その他	全国学会	Working Hard and Working Smart In and Out of Class	20201122	単独	JALT 2020				
		7	その他	全国学会	Working Hard, Teaching Smart: A Holistic Approach	20201122	単独	JALT 2020				
		8	その他	全国学会	How do the VAM and Workshop Modules Compare?	20210219	単独	Moodle Association of Japan				
3025	ウルリケ・ネンシュティール	1	著書	学術書	Gesundheitsförderung und Versorgung im ländlichen Raum. Grundlagen, Strategien und Interventionskonzepte	20210300	共著	Hogrefe	Wie koennen kulturelle Oekosystemleistungen konzeptionell gefasst werden? Ein Diskussionsbeitrag auf Schulmagazin		5-10	
		2	論文	査読のない論文	Japan: Gesellschaft - Bildung - Sport	20200600	共著					
		3	論文	原著論文	A social robot in your living? Recent developments and shifting appraisals	20210228	単著	Universitas	Living and Thinking in the Postdigital World. Theories, Experiences, Explorations			
3027	栗林 克匡	1	論文	査読のない論文	失恋後の次の恋愛相手の選択に影響を及ぼす要因に関する研究－失恋の原因とシャイネスの影響－	20210300	単著		北星論集（北星学園大学社会福祉学部）	58		
		2	その他	全国学会	シャイな人の2度目の恋愛相手の選択に関する研究	20201107	単独	日本社会心理学会第61回大会				
3036	田実 潔	1	論文	査読のない論文	アクセシビリティ支援室の現状と課題 全学アンケートから	20210300	共著	北星学園大学	北星学園大学社会福祉学部北星論集	-58	7	
		2	その他	全国学会	アクセシビリティ支援室の現状と課題 全学アンケートから	20200606	共同（代表）	大学教育学会第42回大会				
		3	その他	全国学会	学校を舞台とする多職種の連携	20201128	共同（代表以外）	第54回日本発達障害学会ポストセミナー				

17 専任教員の研究業績[2020年度]

(2021.3.31現在)

(表VI-17-4)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁数
3039	ジェームズ・アリソン	1	論文	査読のない論文	Hokusei Jo Gakko-related Records in the Annual Reports of the Woman's Presbyterian Board of Missions of the Northwest	20210314	単著	Hokusei Gakuen University	Hokusei Review (The School of Social Welfare)	-58	14
		2	その他	ノート	An Overview of Primary Source English Language Historical Documents Related to Hokusei Gakuen's Missionary Founders, Part III	20210314	単著	Hokusei Gakuen University	Hokusei Review, The School of Social Welfare)	-58	11
3045	水川 喜文	1	その他	全国学会	がん体験者の集団精神療法における定式化—エスノメソドロジー／会話分析によるSCTの考察	20201031	共同（代表）	第93回 日本社会学会大会			
		2	その他	全国学会	治療者からみたグループの意義とメンバーの体験の整合性—SCTグループの質的研究から—	20210320	共同（代表以外）	日本集団精神療法学会第38回学術大会			
3047	田中 耕一郎	1	その他	書評、文献紹介	【書評】立岩真也著『病者障害者の戦後：生政治史点描』（青土社）	20200500	単著	学文社	福祉社会学研究	-17	
		2	その他	書評、文献紹介	【書評】柴田保之著『社会に届け、沈黙の声』（萬書房）	20210300	単著	株式会社 読書人	週刊読書人		
3048	佐橋 克彦	1	著書	教科書	『福祉ライブラリ 改訂 社会保障』	20200910	共著	建帛社			
3050	安部 雅仁	1	著書	学術書	社会保障と財政（第3章）	20200900	共著	建帛社	『改訂 社会保障』建帛社		
		2	論文	原著論文	健康経営の目的と方法、今後の方向	20210300	単著		『経済学論集』東北学院大学	No.194・195合併号	
		3	その他	書評、文献紹介	高山一夫著『アメリカの医療政策と病院業』（法律文化社）に対する書評 月刊『経済』	20200900	単著	月刊『経済』 新日本出版社		10月号-No.301	
		4	その他	研究会・シンポジウム等	【研究・講演会報告】医療情報のマネジメンター電子記録の活用目的と方法	20210227	単独	東京通信大学 情報マネジメント・フォーラム 企画会議			
3051	田澤 安弘	1	論文	査読のない論文	不安静穏化機能尺度の妥当性の再検討	20210300	共著		北星論集	-58	
		2	論文	査読のない論文	感情状態のセルフモニタリングを併用した際の多元的ブリーフセラピーの不安低減効果に関する検討	20210300	単著		北星論集	-58	
		3	その他	全国学会	【学会発表】治療的アセスメント短縮版の開発と適用に関する実証的研究	20201120	共同（代表以外）	日本心理臨床学会第39回大会			
3052	栗山 隆	1	その他	ノート	農福大連携の“仕掛け”となる“拠点施設”の役割と特徴の検討 - オランダのホーフ＝ブルック福祉農園における“温室”の事例をもとに -	20210300	共著	北星学園大学	北星学園大学社会福祉学部北星論集第58号	-58	
3053	牧田 浩一	1	論文	査読のない論文	公認心理師資格対応の新カリキュラム下にある大学生の臨床心理士と公認心理師の認知度と資格取得の希望状況—2018年度から2019年度までの追跡調査—	20210300	単著	北星学園大学	北星論集（社会福祉学部）	-58	8
		2	その他	書評、文献紹介	【書評】『臨床心理学への招待 無意識の理解から心の健康へ』	20200800	単著	日本コラーージュ療法学会		11-1	3
		3	その他	その他	【エッセイ】北星学園大学の学生の皆さんへ	20200507	単著		北星学園大学Campus Guide Web		
		4	その他	その他	【巻頭言】ロンドンでの被分析体験	20200800	単著	日本コラーージュ療法学会		11-1	2
		5	その他	その他	【揭示】学生相談室から見た前期の学生の様子について	20200907	共著		北星学園大学教職員掲示板		
		6	その他	その他	【エッセイ】大学生活におけるメンタルヘルスの向上について—後期授業の開始に当たって—	20200914	単著		北星学園大学Campus Guide Web		
		7	その他	その他	【エッセイ】来たる年を迎えるにあたって～北星学園大学の学生の皆さんへ～	20201223	単著		北星学園大学Campus Guide Web		
		8	その他	その他	【コメント】「セラピストの態度がクライアントに与える影響」についてのコメント	20210300	単著	北星学園大学	北星学園大学心理臨床センター紀要	-16	2
		9	その他	その他/その他	【論文査読】「マガジン・フォト・コラージュ(MPC)を用いた大学院生へのグループスーパービジョンの効果について—「クライアント体験」「セラピスト体験」に関するM-GTAを用いた検討—	20200420	単独				
		10	その他	その他/その他	【論文査読】マガジン・フォト・コラージュの「クライアント体験」および「セラピスト体験」における心的プロセスに関する質的研究	20200609	不明				
		11	その他	その他/その他	2020年度の本学学生相談センターの動きと学生のメンタルヘルスを考えるつどい	20201111	共同	2020年度 教職員対象研修会			

17 専任教員の研究業績[2020年度]

(2021. 3. 31現在)

(表VI-17-4)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁数	
3054	中村 和彦	1	著書	教科書	バイオ・サイコ・ソーシャルモデル	20210201	編著	中央法規出版	ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]		359	
		2	著書	教科書	マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開	20210201	単著	中央法規出版	ソーシャルワークの理論と方法[精神専門]		320	
		3	著書	教科書	メンタルヘルスをめぐる新たな課題	20210201	編著	中央法規出版	精神保健福祉の原理		318	
		4	著書	教科書	実習中に直面する悩み	20210201	編著	中央法規出版	ソーシャルワーク実習指導 ソーシャルワーク実習[精神専門]		285	
		5	著書	教科書	実習中に直面する悩み	20210201	編著	中央法規出版	ソーシャルワーク実習指導 ソーシャルワーク実習[社会専門]		328	
		6	論文	査読のない論文		松井二郎のソーシャルワーク論を思い起こすシステム理論・レジリエンス思考・構造-批判モデルに引き寄せて	20210315	単著	北星学園大学社会福祉学部	北星論集	第58号	
		7	その他	解説・論説等		【展望】社会福祉士・精神保健福祉士養成課程の改編について	20210210	単著	北海道精神保健協会	心の健康	-146	70
		8	その他	資料・報告等		新たな社会福祉士養成カリキュラムにおける教員研修のあり方に関する調査研究事業報告書	20210331	共著	日本ソーシャルワーク教育学校連盟			
		9	その他	全国学会		社会福祉士・精神保健福祉士養成カリキュラム改正とソーシャルワーク研究・教育・実践の課題—本学会に求められていることは何か	20200705	単独	日本ソーシャルワーク学会2020年度第37回大会			
		10	その他	その他/講師		ソーシャルワーク研究におけるレジリエンス概念	20201209	単独	社会福祉実践分析研究			
		11	その他	地方会議/講師		コロナ禍における実習をふりかえる—養成校の視点から	20210317	単独	2020年度日本ソーシャルワーク教育学校連盟九州ブロック精神保健福祉士養成教育・研究部会研修会			
3059	岡田 直人	1	その他	資料・報告等	【研修報告書】2019年度『海外福祉計画実習』報告書 ニュージーランド・カンタベリー大学での社会福祉研修	20210200	編集・編集・監修	北星学園大学社会福祉学部			107	
		2	その他	ノート	【ノート】農福大連携の“仕掛け”となる“拠点施設”の役割と特徴の検討—オランダのホーフブルック福祉農園における“温室”の事例をもとに—	20210300	共著	北星学園大学社会福祉学部	北星論集	-58	13	
		3	その他	全国学会	日本ケアマネジメント学会第19回研究大会in京都（書面開催）「～地域共生社会の構築とケアマネジメントの役割～」	20200912	共同（代表以外）	日本ケアマネジメント学会第19回研究大会in京都（書面開催）「～地域共生社会の構築とケアマネジメントの役割～」				
		4	その他	地方学会	【パネルディスカッション】地域共生社会の実現～持続可能なまちづくり	20201021	単独	第44回北海道都市問題会議				
		5	その他	地方学会	【ワークショップ】北海道都市地域学会セミナー 地域共生社会の実現～持続可能なまちづくり	20201022	単独	北海道都市地域学会セミナー				
3063	伊藤 新一郎	1	著書	教科書	最新 社会福祉士養成講座8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習（社会専門）	20210200	編著	中央法規出版			328	
		2	著書	教科書	最新 社会福祉士養成講座／精神保健福祉士養成講座11 ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門）	20210200	編著	中央法規出版			307	
		3	著書	教科書	最新 社会福祉士養成講座／精神保健福祉士養成講座4 社会福祉の原理と政策	20210200	編著	中央法規出版			331	
		4	著書	教科書	最新 精神保健福祉士養成講座8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習（精神専門）	20210200	共著	中央法規出版			285	
3064	鴨澤 あかね	1	その他	解説・論説等	“機能的サブグループ”を活用するSCTから学ぶ	20200900	単著	北海道精神保健境界	心の健康	-145	4	
		2	その他	全国学会	がん体験者の集団精神療法における定式化 —エスノメソロジー／会話分析によるSCTの考察	20201031	共同（代表以外）	第93回 日本社会学会大会				
		3	その他	全国学会	治療者からみたグループの意義とメンバーの体験の整合性 —SCTグループの質的研究から—	20210320	共同（代表）	日本集団精神療法学会第38回学術大会				
		4	その他	全国学会	“機能的サブグループ”で対人コミュニケーションを学ぶ	20210321	共同（代表）	日本集団精神療法学会第38回学術大会				
		5	その他	その他	「機能的サブグループ」で対人コミュニケーションを学ぶ	20200428	単著	九州集団療法研究会	九州集団療法研究会だより		-45	

17 専任教員の研究業績[2020年度]

(2021.3.31現在)

(表VI-17-4)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁数	
3067	眞嶋 良全	1	論文	原著論文	It's my idea! Reputation management and idea appropriation	20200500	共著		Evolution and Human Behavior	41		
		2	論文	原著論文	Development of the Japanese Version of the Generic Conspiracist Beliefs Scale (GCBS - J)	20201000	共著		Japanese Psychological Research	62		
		3	論文	原著論文	Intuitions about the epistemic virtues of majority voting.	20201200	共著		Thinking & Reasoning	Advanced Online		
		4	論文	査読のない論文	統計ソフトウェア jamoviの利用ガイドの作成と jamovi を利用した統計および実験実習での実践	20210300	共著		北星論集	58		
		5	その他	国際学会	Is the structure of the belief in conspiracy theory equivalent across cultures?	20200700	共同(代表)	The 42nd Annual Conference of Cognitive Science Society				
		6	その他	国際学会	Don't cram questions! Mobile devices and the matrix format will impair data quality in online study.	20201100	単独	The 61st Annual Meeting of Psychonomic Society				
		7	その他	全国学会	クラウドソーシングを使ったオンライン実験・調査-MTurk は研究のありようをどう変えたのか	20200800	単独	日本社会心理学会第7回夏の方法論セミナー				
		8	その他	全国学会	コワくない! 国際共同研究	20200900	単独	日本心理学会第84回大会・国際委員会企画シンポジウム「はじめよう! 国際共同研究」				
		9	その他	全国学会	実験協力者募集ツールとしてのクラウドソーシング	20210100	単独	日本視覚学会2021年冬季大会				
		10	その他	全国学会	携帯電話とマトリックス提示はオンライン調査の質を低下させる?	20210300	共同(代表)	日本認知心理学会第18回大会				
		11	その他	全国学会	目的論的信念の直観性の検討	20210300	共同(代表以外)	日本認知心理学会第18回大会				
3068	西山 薫	1	論文	総説論文・調査論文・依頼論文	価値に沿った行動の実践により社交不安症状の軽減が認められた一例	20210228	共著	北海道作業療法士会	作業療法の実践と科学	3-1	6	
		2	論文	査読のない論文	対人的個人目標の設定が大学生のソーシャルスキルに与える効果 - 日常的に取り組めるソーシャルスキルの自己トレーニング -	20210315	単著	北星学園大学	北星学園大学社会福祉学部 北星論集第58号	-58	6	
		3	その他	全国学会	大学生の過剰適応傾向と統合的葛藤解決スキルが抑うつに与える影響	20200908	共同(代表以外)	日本心理学会第84回大会				
		4	その他	全国学会	感謝とレジリエンスが主観的幸福感に与える影響の検討	20200908	共同(代表以外)	日本心理学会第84回大会				
		5	その他	全国学会	成人期の自閉症スペクトラム症者における被害妄想的観念とその関連要因の検討	20200911	共同(代表以外)	日本認知・行動療法学会第46回大会				
3070	西原 明希	1	論文	査読のない論文	Conceptualization of a Multicultural Society in Study Abroad Programs for Japanese University Students	20210300	共著	Aoyama Gakuin University	Aoyama Journal of International Studies Number 8	8		
		2	その他	資料・報告等	テキストデータ分析研究会	20210300	共著	Aoyama Gakuin University	Aoyama Journal of International Studies Number 8	8		
		3	その他	全国学会	The Impact of Intercultural Encounter in a Short Term Study Abroad Programme - Student Perception of Self and Connection with Others	20201108	単独	第35回 異文化コミュニケーション学会 (SIETAR JAPAN)				
3072	永井 順子	1	著書	その他	最新 精神保健福祉士養成講座 ソーシャルワーク実習指導 ソーシャルワーク実習 [精神専門]	20210201	共著	中央法規				
		2	その他	書評、文献紹介	この一冊『社会保障法へのアプローチ』	20201005	単著	株式会社法研	週刊社会保障	74-3090	3090	
		3	その他	書評、文献紹介	今月の2冊『社会保障法へのアプローチ - 方法としての「ソモソモ」と「深堀り」	20201115	単著	健康保険組合連合会	健康保険	74-10	1	
		4	その他	資料・報告等	北海道稚内市・名寄市における精神障害者地域リハビリテーション資源創出の過程	20201130	共著	日本精神障害者リハビリテーション学会	精神障害とリハビリテーション	24-2	2	
		5	その他	書評、文献紹介	今月の2冊『歯医者さんのかかり方』	20210215	単著	健康保険組合連合会	健康保険	75-2	1	
		6	その他	その他/講師	JICA研修「日本の社会福祉制度～高齢者と障害者の福祉制度に焦点をあてて～」	20210122	単独					

17 専任教員の研究業績[2020年度]

(2021. 3. 31現在)

(表VI-17-4)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁数
3073	佐藤 祐基	1	論文	査読のない論文	大学生の親子間信頼感が自尊感情を介して死生観に与える影響—「解放としての死」に着目して—	20210331	単著	北星学園大学心理臨床センター	北星学園大学心理臨床センター紀要	-16	6
		2	その他	全国学会	【学会発表】スマートフォンゲーム依存傾向測定尺度の作成の試み	20200911	共同（代表以外）	日本パーソナリティ心理学第29回大会			
3076	大友 秀治	1	論文	原著論文	参加型評価を活用したスーパービジョンモデルの生成：研修システムを協働構築するプロセス	202101020	単著		学校ソーシャルワーク研究	-15	
		2	その他	研究会・シンポジウム等	(ファシリテーター) スクリーニングによるチーム学校づくり	20200801	共同（代表以外）	スクリーニングによるチーム学校づくり			
		3	その他	研究会・シンポジウム等	(司会・ファシリテーター) 効果的なSSW事業プログラムあり方研究会	20200802	共同（代表以外）	効果的なSSW事業プログラムあり方研究会			
		4	その他	全国学会	(司会) 分科会：周産期とヨーガ療法	20200919	共同（代表以外）	第18回日本ヨーガ療法学会研究総会札幌大会			
		5	その他	全国学会	(司会) 分科会：教育とヨーガ療法	20200919	共同（代表以外）	第18回日本ヨーガ療法学会研究総会札幌大会			
		6	その他	その他	「効果的なスクールソーシャルワーク事業プログラム」評価ファシリテーションの手引き(改訂版)	20210320	共著	大阪府立大学スクールソーシャルワーク評価支援研究所			
		7	その他	/	コロナ禍における実践、マイクロアプローチについて	20200930	単独	北海道スクールソーシャルワーカー第1回研修会			
		8	その他	/	マイクロアプローチの基本的な考え方	20210129	単独	北海道スクールソーシャルワーカー第2回研修会			
		9	その他	/	マイクロアプローチの基本的な考え方	20210210	単独	北海道スクールソーシャルワーカー第2回研修会			
3079	松岡 是伸	1	著書	教科書	社会福祉士国家試験過去問解説集2021	20200501	共著	中央法規出版	社会福祉士国家試験過去問解説集2021		
		2	論文	原著論文	COVID-19の蔓延における労働と生活の実態に関する考察 —北海道における生活福祉資金制度特例貸付を対象として—	20210300	単著	北海道地域福祉学会	北海道地域福祉研究第24巻	24	
		3	論文	査読のない論文	生活困窮者自立支援におけるスティグマの付与に関する考察 —援助者に対するインタビュー調査から—	20210300	単著	北星学園大学	北星学園大学社会福祉学部北星論集第58号	-58	
		4	その他	資料・報告等	名寄市における子どもと家庭の生活実態に関する調査報告書—子どもと家庭における生活実態に関する調査研究(地方都市A)—	20200400	共著	北星学園大学社会福祉学部福祉計画学科松岡是伸研究室			
		5	その他	研究会・シンポジウム等	不安定化する「家族」 —ソーシャルワーカーの抱く家族像の二面性と葛藤—	20201213	共同（代表以外）	北海道社会福祉学会2020年度シンポジウム			
		6	その他	地方学会	地方都市Aにおける子どもを育てる保護者の生活実態—主に経済的な困難や家計の逼迫、生活状況、子どもの所有(物)・体験の保護者票の分析—	20201220	単独	北海道地域福祉学会 全道研究大会			
3080	田辺 等	1	著書	教科書	社会福祉学習双書2021 第11巻心理学と心理的支援	20201222	共著	社会福祉法人 先刻社会福祉協議会			321
		2	著書	教科書	最新 精神保健福祉士養成講座 2 現代の精神保健の課題と支援	20210201	共著	中央法規出版株式会社			305
		3	論文	総説論文・調査論文・依頼論文	ギャンブル障害の相談支援と医療対応	20200901	単著	日本医師会	日本医師会雑誌	149-6	
		4	その他	地方会議/基調講演	最近のギャンブル依存症問題と自殺予防	20210215	単独	石川県医師会依存症対応力向上研修講演会			
		5	その他	その他/基調講演	職場のメンタルヘルスと組織の活性化	20210227	単独	北海道看護協会令和2年度ケル氏ワークプレイス講演会			
		6	その他	その他/講師	ギャンブル依存症の治療について	20210123	単独	北海道依存症拠点医療機関研修			
		7	その他	その他/講師	ギャンブル障害の病理と回復支援	20210313	単独	令和2年度依存症支援者研修			

17 専任教員の研究業績[2020年度]

(2021.3.31現在)

(表VI-17-4)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁数
3081	林 健太郎	1	論文	査読のない論文	兼業・副業を行う労働者と雇用保険法の課題	20200600	単著	労働開発研究会	季刊労働法	269	10
		2	論文	査読のない論文	生活困窮者自立支援における「個別支援」と“地域づくり”との接続—第一回北星学園大学社会福祉学部シンポジウム企画を契機として—	20210300	単著	北星学園大学	北星学園大学社会福祉学部北星論集	58	18
		3	論文	査読のない論文	要保障事由としての「失業」の意義—イギリスにおける「失業」に対する所得保障法制の形成史を踏まえて—	20210300	単著	法律文化社	社会保障法	36	15
		4	その他	その他	低賃金労働者を巡る労働法制と所得保障法制の接点：イギリス・ユニバーサルクレジットが提起する課題	20200500	単著	労働政策研究・研修機構	日本労働研究雑誌	719	
3082	吉田 竜平	1	論文	査読のない論文	T. H. マーシャルのシティズンシップ論再考—『シティズンシップと社会的階級』を中心に—	20210300	単著	北星学園大学	北星学園大学社会福祉学部北星論集	第58号	11
3084	斎藤 仁史	1	論文	査読のない論文	学習支援重視型公立図書館の探究：くにたち公民館図書室を参考にして	20200518	単著	北海道公共図書館司書会	北海道公共図書館司書会会報「すてきな図書館」論文集No.8	通巻53	10
3085	五味田 泰	1	論文	原著論文	テオドール・ド・バンヴィルにおける詩的シャンソンの実践	20201201	単著	慶應義塾大学藝文学会	藝文研究	-119	13
		2	その他	その他	感情の歴史 II [啓蒙の時代から19世紀末まで]	20201100	共著	藤原書店			
3086	中田 龍三郎	1	著書	学術書	分担執筆：社会的な存在—他者—を投射する	20200900	共著		プロジェクション・サイエンス 心と身体を世界につなぐ第三世代の認知科学		
		2	論文	原著論文	Older adults exhibit greater brain activity than young adults in a selective inhibition task by bipedal and bimanual responses: an fNIRS study.	20200900	共著		Neuroreport	31-14	21

17 専任教員の研究業績[2020年度]

(2021. 3. 31現在)

(表VI-17-5)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁数	
5005	ロバート・ゲティンクス	1	その他	国際学会	CEFR (Common European Framework of Reference) A1 to B1 levels and online timed extensive writing task design	20210206	単独	17th Annual Cambodia TESOL Conference				
		2	その他	全国学会	CLIL, CEFR mediation and the integration of non-target language input in the design of learning and assessment tasks: The pink elephant in the ecology of the EFL classroom	20201024	単独	The praxis of teaching, learning, and assessment with CEFR and CLIL (Online)				
		3	その他	全国学会	Extensive Multimedia Language Practice: Moodle Quizzes, Google, YouTube and other sites	20210219	単独	2021 日本ムードルムート				
5012	ジャン・マウン	1	その他	国際学会	Agency Via <I>Cinderella</I>	20201116	単独	JALT Conference 2020				
		1	著書	一般書・啓蒙書	観光言語を考える 第6章 外国語ガイドをとりまく現状と課題	20200627	共著	三秀舎				
5015	森越 京子	2	論文	博士論文	FEMALE WORKFORCE IN A SMALL INTERNATIONAL SKI RESORT: A CASE STUDY OF NISEKO, JAPAN	20200600	単著					
		3	論文	原著論文	Tour guiding practice and feedback in guide education: Lessons from London for Japan	20201022	共著		Journal of Hospitality, Leisure, Sport & Tourism Education			
		4	その他	その他	ホテルフロントの接客コミュニケーションのCan-doリスト作成プロセス 外国語教育を通じた観光人材育成を視野に入れて	20210300	共著		日本観光ホスピタリティ教育学会発表要旨集 No. 20		2	
		5	その他	国際学会	The Impact of Covid-19 on Hospitality and Tourism Education	20210307	単独	SEAMA 2021 Islands Tourism & Hospitality Management				
		6	その他	全国学会	Hospitality and tourism education at junior college in Japan: the significance of practical programs	20200705	共同(代表)	観光学術学会 2020年度「第9回大会」				
		7	その他	全国学会	ホテルフロントの接客コミュニケーションのCan-doリスト作成プロセス 外国語教育を通じた観光人材育成を視野に入れて	20210307	共同(代表以外)	日本観光ホスピタリティ教育学会				
		5016	藤原 里佐	1	その他	資料・報告等	「親ある時に」－家族のこれまでと「今」へのまなざし	20201006	単著	社会福祉法人 きょうされん	月刊 きょうされん T OMO	増刊通巻 8046-T O M O. 487
2	その他			研究会・シンポジウム等	「家族支援の在り方」について	20201017	単独	きょうされん北海道支部教育研修委員会				
3	その他			研究会・シンポジウム等	不安定化する「家族」－ソーシャルワーカーの抱く家族像の二面性と葛藤－	20201213	単独	日本社会福祉学会北海道ブロック				
5024	田中 直子	1	論文	原著論文	Tour guiding practice and feedback in guide education: Lessons from London for Japan	20201022	共著	ELSEVIER	Journal of Hospitality, Leisure, Sport & Tourism Education	100287	10	
		2	その他	国際学会	Hospitality and Tourism Education at Junior College in Japan: The Significance of Practical Programs	20200705	共同(代表以外)	観光学術学会2020年度第9回大会				
		3	その他	全国学会	接客コミュニケーションのコンピテンシー抽出のための基礎研究：厚生労働省職業能力評価シートとインタビューデータの分析結果の比較	20201010	共同(代表以外)	観光コミュニケーション分科会第1回研究発表会				
		4	その他	全国学会	ホテルフロントの接客コミュニケーションのCan-doリスト作成プロセス 外国語教育を通じた観光人材育成を視野に入れて	20210307	共同(代表以外)	日本観光ホスピタリティ教育学会 第20回全国大会				

17 専任教員の研究業績[2020年度]

(2021. 3. 31現在)

(表VI-17-5)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁数
5026	マシュー・コッター	1	論文	原著論文	Development of a Rubric for Evaluation of Moodle LMS Educational Content in Japan	20200724	共著	MOODLE ASSOCIATION OF JAPAN	MoodleMoot Japan 2020 Proceedings		
		2	その他	国際学会	The International Virtual Exchange Project - Making Bridges for Cultural Appreciation	20200606	共同 (代表)	JALTCALL 2020			
		3	その他	国際学会	Open Content Sharing: Rubrics for National Open Courseware Awards	20200706	共同 (代表以外)	MoodleMoot Global Online 2020			
		4	その他	国際学会	Global Connections Through International Virtual Exchange	20201108	単独	Qatar University 5th International Conference on Language Teaching			
		5	その他	国際学会	Teaching Presentation Skills in an ERT Setting	20201117	共同 (代表以外)	第46回全国語学教育学会年次国際大会			
		6	その他	国際学会	Critical Corpus Analysis of ALTs' Online Discourse - Hugh Kirkwood Fairness Perceptions of Assessment Approaches - Matthew Wallace	20201121	単独	第46回全国語学教育学会年次国際大会			
		7	その他	国際学会	Bridging the Gaps	20201122	共同 (代表)	第46回全国語学教育学会年次国際大会			
		8	その他	国際学会	Effects of Task Repetition in Presentation Skills - Makiko Kanda Integrating TBLT and Applied Linguistics Content - Richard Caraker	20201122	単独	第46回全国語学教育学会年次国際大会			
		9	その他	国際学会	Moodle Functions that Aid Emergency Remote Teaching of Presentation Skills	20210220	共同 (代表)	2021 Japan MoodleMoot			
		10	その他	国際学会	Using action research to investigate multi-word expressions and fluency	20200906	単独	Hiroshima Vocabulary Acquisition Group conference			
		11	その他	全国学会	Course Design: Making a Moodle course to suit you and your student' s needs.	20200903	単独	MoodleWeek Japan 2020			
		12	その他	地方学会	Essay Autograde: A plugin for on-demand teaching in all subjects	20200901	単独	2020 Hokkaido Moodle Summer Workshop			
		13	その他	地方学会	Moodle Beginner Workshop	20200901	単独	2020 Hokkaido Moodle Summer Workshop			
		14	その他	地方学会	Techniques for Teaching Presentation Skills Online	20200901	共同 (代表以外)	2020 Hokkaido Moodle Summer Workshop			
		15	その他	地方会議/基調講演	ニュージーランドが特別な理由は何ですか？	20210116	単独	北海道国際女性協会			
		16	その他	地方会議/特別講演・記念講演	Indigenous Education in New Zealand	20210322	単独	International Indigenous Studies Seminar			
5027	ヘイディ・トムソン	1	論文	原著論文	The challenges of measuring multi-word expression use in conversation	20200825	単著	JALT Vocab SIG	Vocabulary Learning and Instruction	9-2	
		2	論文	原著論文	Tour guiding practice and feedback in guide education: Lessons from London for Japan	20201022	共著	Elsevier	Journal of Hospitality, Leisure, Sport & Tourism Education		
		3	論文	博士論文	Developing fluency with multi-word expressions	20201100	単著	Victoria University of Wellington, New Zealand			279
		4	その他	国際学会	Using action research to investigate multi-word expressions and fluency	20200906	単独	Hiroshima Vocabulary Acquisition Group conference			
5028	藤木 晶子	1	その他	全国学会	騒音環境下の「歩きスマホ」が聴覚的注意に及ぼす影響	20200900	単独	日本心理学会第84回大会			
		2	その他	全国学会	折り紙イメージの機能的側面について - 平面作品と立体作品の相違 -	20201115	単独	日本イメージ心理学会第21回大会			
		3	その他	全国学会	大学生のSNS利用と特性不安および自己開示態度の関連	20201116	共同 (代表以外)	日本健康心理学会第33回大会			
5029	山本 慎平	1	その他	地方会議/講師	新渡戸稲造と札幌農学校の教育	20200714	単独	札幌遠友夜学校記念館建設支援連続講座 (道民カレッジ連携講座)			

18 経済学部研究資料室の図書・雑誌等購入状況

[2016~2020]

(表VI-18)

年 度 図書並びにその他の資料	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	5年間平均
当該年度受入図書冊数(冊)	29	27	29	42	37	33
(外国書内数)	(5)	(3)	(4)	(2)	(3)	(3)
当該年度受入雑誌数(種類)	55	53	52	38	36	47
(外国誌内数)	(27)	(25)	(26)	(22)	(22)	(24)

19 教員研究室〔2020年度〕

(1) 大学

(2020年5月1日現在) (表VI-19-①)

学 部	室 数			総面積 (㎡) (B)	1室当たりの平均面積 (㎡)		専任教員数 (C)	個室率(%) (A/C*100)	教員1人当たりの平均面積 (㎡) (B/C)	備 考
	個室(A)	共 同	計		個 室	共 同				
文学部	30	0	30	746.64	25	0	31	97	24.89	助教1名については個室を有していないため、30名で平均面積を算出した。
経済学部	49	0	49	1,250.19	25	0	49	100	25.51	
社会福祉学部	38	0	38	947.21	25	0	39	97	24.93	助教1名については個室を有していないため、38名で平均面積を算出した。
計	117	0	117	2,944.04	25	0	119	98	25.16	助教2名については個室を有していないため、117名で平均面積を算出した。

(2) 短期大学部

(2020年5月1日現在) (表VI-19-②)

学 部	室 数			総面積 (㎡) (B)	1室当たりの平均面積 (㎡)		専任教員数 (C)	個室率(%) (A/C*100)	教員1人当たりの平均面積 (㎡) (B/C)	備 考
	個室(A)	共 同	計		個 室	共 同				
短期大学部	17	0	17	346.53	20	0	17	100	20.38	

- [注] 1 「室数」、「総面積」欄には、学部、大学院研究科等の保有する全ての教員研究室についてこれを記入すること。
 2 「1室当たりの平均面積」は全ての教員研究室について、「教員1人当たりの平均面積」は、学部、大学院研究科等の専任教員が実際に使用している教員研究室について算出すること。
 3 「個室率」の算出にあたっては、個室数が専任教員数を上回る場合は、原則として100%と記入すること。
 4 個室を持たない教員については、「備考」欄にその数を記入すること。
 5 学長及び国際交流教員は、含めないこと。

21 公的監査ガイドライン説明会実施状況

[2018～2020年度]

(表VI-21)

	説明会・研修会の名称	実施日時	実施場所	説明者等	各年度参加者数	実施内容
2018年度	2018年度 北星学園大学における公的研究費及び研究活動についての学内説明会	2018年6月20日 17:10～18:30	北星学園大学 A館 A403教室	学長 大坊 郁夫 研究支援課 田中 課長	内訳 研究者 116名 大学院生 20名 事務職員 30名 合計 166名	講演：「適切な外部資金獲得と研究倫理」 講師：大坊 郁夫 学長 説明：「研究費の支出手続き及び研究倫理に係る主な注意点」 説明者：研究支援課 田中 課長 配布資料： ①講演資料「適切な外部資金獲得と研究倫理」 ②研究費の支出手続き及び研究倫理に係る主な注意点 ③北星学園大学研究倫理ハンドブック ④個人研究費の支出手続き等に関するガイドライン ⑤北星学園大学公的研究費ハンドブック ⑥平成30年度公的研究費に関する確認（誓約）書（教職員用） ⑦平成30年度公的研究費等に関する確認（誓約）書（大学院生用） ⑧図書「科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－」（教員のみ）
2019年度	2019年度 公的研究費・研究活動研修会	2019年6月12日 17:10～18:30	北星学園大学 A館 A305教室	学長 大坊 郁夫	内訳 研究者 107名 大学院生 12名 事務職員 27名 合計 146名	講演：「研究倫理と研究活動の活性化」 講師：大坊 郁夫 学長 配布資料： ①講演資料「研究倫理と研究活動の活性化」 ②令和元年度公的研究費に関する確認（誓約）書（教職員用） ③令和元年度公的研究費等に関する確認（誓約）書（大学院生用）
2020年度	新型コロナウイルス感染症の影響により中止					

22 本学の科学研究費助成事業に係る説明会・研修会実施状況〔2018～2020年度〕

(表VI-22)

	説明会・研修会の名称	実施日時	実施場所	説明者等	参加者数	実施内容
2018年度	平成31年度科研費公募学内説明会	①2018年9月19日 12:20～ ②2018年9月26日 12:30～	北星学園大学 C館 C700教室	①第1回説明会 北星学園大学・北星学園大学 短期大学部 大坊 郁夫 学長 北星学園大学 文学部 松浦年男 准教授 ②第2回説明会 北星学園大学 社会福祉学部 杉岡直人 教授 ロバストジャパン株式会社 代表取締役 中安豪 氏	参加者総数 (2回合計) 研究者 56名	内容: ①第1回説明会 「科学研究費補助金申請を工夫する」 北星学園大学・北星学園大学短期大学部 大坊 郁夫 学長 「科研費獲得のためのエトセトラ」 文学部 松浦年男 准教授 ②(第2回説明会) 「科研費申請書の作成ポイント」 社会福祉学部 杉岡直人 教授 「科研費制度改革新様式に対応した申請戦略」 ロバストジャパン株式会社 代表取締役 中安豪 氏 配布資料: ①「科学研究費補助金申請を工夫する」 ②「科研費獲得のためのエトセトラ」 ③「科研費申請書の作成ポイント」 ④「科研費制度改革新様式に対応した申請戦略」
2019年度	令和2年度科研費公募学内説明会	2019年9月13日 17:00～	北星学園大学 B館 B500教室	ロバストジャパン株式会社URA 松場 里弥 氏	参加者総数 研究者 55名	内容: 「科研費制度改革・新様式に対応した申請戦略」 ロバストジャパン株式会社URA 松場 里弥 氏 配布資料: ①「科研費制度改革 新様式に対応した申請戦略」 ②「令和2年度科研費公募学内説明会資料」
2020年度	令和3年度科研費申請オンラインセミナー	2020年7月22日 16:00～	オンライン	ロバストジャパン株式会社 URA 矢野 覚士 氏	参加者総数 研究者 59名	内容: 「特別講演「北星学園大学研究の現在地と最新申請テクニック」」 ロバストジャパン株式会社 URA 矢野 覚士 氏 配布資料: ①「北星学園大学研究の現在地と最新申請テクニック」 ②講演会質問事項の回答について

24 本学の研究倫理審査承認課題一覧〔2020年度〕

(表VI-24)

承認番号	承認日	研究課題名	申請者	指導教員 (大学院生の場合)
1	2020.4.15	失恋にまつわる心理学的要因に関する研究	社会福祉学部 栗林克匡	
2	2020.4.15	英語学習に影響を及ぼす心理学的要因に関する研究	社会福祉学部 栗林克匡	
3	2020.4.15	大学入学時におけるSNSの活用実態についてー入学前のSNSが対人関係形成に及ぼす影響ー	文学部 永井暁行	
4	2020.4.15	(科研費課題番号20K19483) アルペンスキー競技におけるGNSS運動計測データの活用に関する研究	経済学部 星野宏司	
5	2020.6.19	Improving Awareness and Understanding of Ainu via online Resources	短期大学部 マシュー・コッター	
6	2020.6.19	非対面式の授業期間における学習態度・生活状況の追跡調査	文学部 永井暁行	
7	2020.6.19	表情と声調の適合度が感情判断の正確性および記憶に与える影響の検討	社会福祉学部 眞嶋良全	
8	2020.6.19	公正感受性が正直な行動に与える影響の検討	社会福祉学部 眞嶋良全	
9	2020.6.19	注意バイアスにおける外国語効果	社会福祉学部 眞嶋良全	
10	2020.7.15	Improving Awareness and Understanding of Ainu via online Resources	短期大学部 マシュー・コッター	
11	2020.7.15	社会的自己制御能力と断り表現の関係	短期大学部 藤木晶子	
12	2020.7.15	不安感情に対するSNSの影響に関する検討 ー自己開示能力と情動的共感性の個人差を踏まえてー	短期大学部 藤木晶子	
13	2020.7.15	蛍光ペンによるハイライトが検出と記憶に及ぼす影響	社会福祉学部 眞嶋良全	
14	2020.7.15	焦点の変動による時間割引率の変化	社会福祉学部 眞嶋良全	
15	2020.7.15	大学生の親子信頼感と自尊感情が死生観に及ぼす影響	社会福祉学部 佐藤祐基	
16	2020.7.15	スマートフォンゲーム依存傾向測定尺度の妥当性の検討	社会福祉学部 佐藤祐基	
17	2020.7.15	成年後見制度におけるニーズ変化に対応した法人後見の体制に関する考察 ー法律専門職後見人との連携における社会福祉士後見人の役割ー	社会福祉学研究科 古山明美	永井順子教授
18	2020.7.15	新型コロナウイルスの影響による生活困難に関する調査研究	社会福祉学部 松岡是伸	
19	2020.8.3	Improving Awareness and Understanding of Ainu via online Resources	短期大学部 マシュー・コッター	
20	2020.9.9	非対面型授業時におけるオンラインを生かしたピア・サポート	文学部 永井暁行	
21	2020.9.9	統計ソフトウェア jamovi の共通教材の効果的測定および改善	社会福祉学部 眞嶋良全	
22	2020.9.9	発達障害傾向がゲーム利用動機を介してスマートフォンゲーム依存傾向に与える影響についての検討	社会福祉学部 佐藤祐基	
23	2020.9.9	自己愛傾向がインターネット依存に及ぼす影響の検討 ー現実場面とインターネット上の行動内容に着目してー	社会福祉学部 佐藤祐基	
24	2020.9.9	介護支援専門員の仕事に対する意識と就業環境に関する研究	社会福祉学部 畑 亮輔	
25	2020.9.9	性的指向及び性的指向によるマイノリティ・ストレスが精神的健康に及ぼす影響	社会福祉学部 西山 薫	
26	2020.10.14	コロナウイルス感染症の感染拡大を受けた陰謀論信念の時間的変化の検討	社会福祉学部 眞嶋良全	
27	2020.10.14	潜在的な非実証的信念関行動と認知・思考スタイルの関係性の検討	社会福祉学部 眞嶋良全	
28	2020.10.14	多感覚イメージの様相について	短期大学部 藤木晶子	
29	2020.11.12	地域における通訳案内士育成のあり方の研究	短期大学部 田中直子	
30	2020.11.12	「重度知的障害者」が「地域社会で生活する」とは、どのような営みであるのか？ ー 本人と「ケア」を行う者たちとのエスノグラフィーを手がかりに ー	社会福祉学研究科 久野真知子	田中耕一郎教授
31	2020.11.18	地域における通訳案内士育成のあり方の研究	短期大学部 田中直子	
32	2020.12.9	国際リゾート地ニセコにおける外国人ワーキング・ホリデー・メーカーの生活と労働	短期大学部 森越京子	
33	2020.12.9	大学生の福祉・ボランティア意識に関する調査	社会福祉学部 中田知生	
34	2021.1.13	北海道都市圏Aにおける生活実態に関する調査研究	社会福祉学部 松岡是伸	
35	2021.2.17	精神保健ソーシャルワークの効果的展開のための諸条件の検討:北海道の歴史から (2020~2022年度科学研究費助成事業課題番号:20K2213)	社会福祉学部 永井順子	
36	2021.2.17	地域生活支援ネットワークサロンにおける実践展開プロセス	社会福祉学部 大友秀治	
37	2021.2.17	多言語ワークプレイスにおけるオンラインミーティングの相互行為分析	文学部 柳町智治	
38	2021.3.3	「障害とは何か」という問いは、いったいどういふ問いなのか ー障害定義の戦略的な使用へー	社会福祉学研究科 牧田俊樹	田中耕一郎教授
39	2021.3.3	大学生の過剰適応傾向と自我同一性及び精神的健康との関連	社会福祉学研究科 長岐昇磨	西山薫教授
40	2021.3.3	性産業で働く女性の生活問題に関する調査研究	社会福祉学研究科 春田彩夏	松岡是伸准教授

Ⅶ. 本学の学生の受入れに関すること

1 学部・学科の特別入試による在籍学生数一覧〔2020年度〕

(1) 大学

2020. 5. 1現在

(表Ⅶ-1-①)

種別	学 科	在籍学生 総 数	在 籍 学 生 数				備 考
			第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	
社 会 人	文学部英文	1人	0人	0人	0人	1人	
	心理・応用 コミュニケーション	0人	0人	0人	0人	0人	
	経 済	0人	0人	0人	0人	0人	
	経 営 情 報	0人	0人	0人	0人	0人	
	経 済 法	0人	0人	0人	0人	0人	
	福祉計画	0人	0人	0人	0人	0人	
	福祉臨床	0人	0人	0人	0人	0人	
	福祉心理	0人	0人	0人	0人	0人	
	合 計	1人	0人	0人	0人	1人	
帰 国 生 徒	文学部英文	0人	0人	0人	0人	0人	
	心理・応用 コミュニケーション	0人	0人	0人	0人	0人	
	経 済	0人	0人	0人	0人	0人	
	経 営 情 報	0人	0人	0人	0人	0人	
	経 済 法	0人	0人	0人	0人	0人	
	福祉計画	0人	0人	0人	0人	0人	
	福祉臨床	0人	0人	0人	0人	0人	
	福祉心理	0人	0人	0人	0人	0人	
	合 計	0人	0人	0人	0人	0人	
外 国 人 留 学 生	文学部英文	0人	0人	0人	0人	0人	
	心理・応用 コミュニケーション	0人	0人	0人	0人	0人	
	経 済	0人	0人	0人	0人	0人	
	経 営 情 報	1人	0人	0人	0人	1人	
	経 済 法	0人	0人	0人	0人	0人	
	福祉計画	0人	0人	0人	0人	0人	
	福祉臨床	1人	0人	1人	0人	0人	
	福祉心理	0人	0人	0人	0人	0人	
	合 計	2人	0人	1人	0人	1人	

(2) 短期大学部

2020. 5. 1現在

(表Ⅶ-1-②)

種別	学 科	在籍学生 総 数	在 籍 学 生 数				備 考
			第1年次	第2年次			
社 会 人	短期大学部英文	0人	0人	0人			
	生活創造	1人	0人	1人			
	合 計	1人	0人	1人			
帰 国 生 徒	短期大学部英文	0人	0人	0人			
	生活創造	0人	0人	0人			
	合 計	0人	0人	0人			
外 国 人 留 学 生	短期大学部英文	0人	0人	0人			
	生活創造	0人	0人	0人			
	合 計	0人	0人	0人			

2 学部・学科の学生定員及び在籍学生数一覧〔2020年度〕

(1) 大学

2020.5.1現在 (表VII-2-①)

学部	学科	入学定員	編入学定員	収容定員(A)	在籍学生総数(B)	編入学生数(内数)	B/A	在籍学生数				
								第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	
								学生数	学生数	学生数	学生数	留年者数(内数)
文学部	英文学科	113	14	480	575	39	1.20	123	121	141	190	53
	心理・応用コミュニケーション学科	90	10	380	431	13	1.13	104	98	111	118	25
計		203	24	860	1,006	52	1.17	227	219	252	308	78
経済学部	経済学科	152	6	620	693	4	1.12	179	161	156	197	28
	経営情報学科	102	6	420	490	10	1.17	103	124	123	140	13
	経済法学科	110	10	460	520	1	1.13	116	129	129	146	21
計		364	22	1,500	1,703	15	1.14	398	414	408	483	62
社会福祉学部	福祉計画学科	85	10	360	401	3	1.11	113	93	97	98	14
	福祉臨床学科	85	10	360	378	7	1.05	104	80	87	107	10
	福祉心理学科	64	7	270	310	4	1.15	82	80	72	76	10
計		234	27	990	1,089	14	1.10	299	253	256	281	34
合計		801	73	3,350	3,798	81	1.13	924	886	916	1,072	174

(2) 短期大学部

2020.5.1現在 (表VII-2-②)

学科	入学定員	収容定員(A)	在籍学生総数(B)	B/A	在籍学生数		
					第1年次	第2年次	
					学生数	学生数	留年者数(内数)
英文学科	120	240	257	1.07	137	120	14
生活創造学科	80	160	175	1.09	90	85	0
計	200	400	432	1.08	227	205	14

3 大学院研究科の学生定員及び在籍学生数一覧表 [2020年度]

2020.5.1現在 (表Ⅶ-3)

研究科	専攻	入学定員		収容定員		在籍学生数											C/A	D/B
		修士課程	博士課程	修士課程(A)	博士課程(B)	修士課程						博士課程						
						一般	学内選考	姉妹校	リカント	外国人	その他	計(C)	一般	リカント	その他	計(D)		
文学研究科	言語文化 コミュニケーション専攻	8	—	16	—	1	3	—	0	0	0	4	—	—	—	—	0.25	—
計		8	—	16	—	1	3	—	0	0	0	4	—	—	—	—	0.25	—
経済学研究科	経済学専攻	10	—	20	—	2	2	2	0	1	0	7	—	—	—	—	0.35	—
計		10	—	20	—	2	2	2	0	1	0	7	—	—	—	—	0.35	—
社会福祉学 研究科	社会福祉学専攻	8	3	16	9	1	0	—	3	0	0	4	4	1	0	5	0.25	0.56
	臨床心理学専攻	4	—	8	—	1	2	—	1	0	0	4	—	—	—	—	0.50	—
計		12	3	24	9	2	2	—	4	0	0	8	4	1	0	5	0.33	0.56
合計		30	3	60	9	5	7	2	4	1	0	19	4	1	0	5	0.32	0.56

[注] 1 科目等履修生、聴講生、研究生は、在籍学生数には含めないこと。

2 「C/A」および「D/B」欄については、小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位まで表示すること。

4 大学院・研究科の入学者の構成一覧
(2018～2020)

(表VII-4-①)

研究科	専攻	定員	課程	期	種別	2018年度					2019年度					2020年度					
						志願	受験	合格	手続	入学	志願	受験	合格	手続	入学	志願	受験	合格	手続	入学	
社会福祉学	社会福祉学	8※	修士	第1期	一般	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	
					リカレント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
					推薦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
					小計	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	
				第2期	一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
					リカレント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	2	2	2	
					外国人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
					小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	2	2	2		
				第1・2期計	一般	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	2	2	0	0	0	
					リカレント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	2	2	2		
	外国人	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
	推薦	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
	合計	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	5	5	2	2	2					
	臨床心理学	4	修士	第1期	一般	9	9	3	3	3	4	4	2	2	2	0	0	0	0		
					リカレント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
					推薦	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			
					小計	10	10	4	4	4	5	5	3	3	3	1	1	1	1		
				第2期	一般	3	2	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	1	0	0	
					リカレント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1		
					外国人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
小計					3	2	0	0	0	1	1	0	0	2	2	2	1	1			
第1・2期計				一般	12	11	3	3	3	5	5	2	2	2	1	1	1	0	0		
				リカレント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1			
	外国人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
	推薦	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1						
合計	13	12	4	4	4	6	6	3	3	3	3	3	3	2	2						

* 2015年度より臨福祉臨床学（定員3）から社会福祉学専攻領域（定員8）に変更あり。

* 社会・発達心理学領域を廃止して計画と臨床を統合して社会福祉学専攻。定員は8名。研究目的により福祉臨床学に該当するため旧福祉臨床学欄に数字を記載する。

4 大学院・研究科の入学者の構成一覧
(2018～2020)

(表Ⅶ-4-②)

研究科	専攻	定員	課程	期	種別	2018年度					2019年度					2020年度				
						志願	受験	合格	手続	入学	志願	受験	合格	手続	入学	志願	受験	合格	手続	入学
文学	言語文化コミュニケーション	8	修士	第1期	一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1
					リカレント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
					外国人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
					推薦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	3	3	3
					小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	4	4	4
				第2期	一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
					リカレント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
					外国人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
					推薦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
					小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
				第1・2期 合計	一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	1	1
					リカレント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
					外国人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
					推薦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	3	3	3
合計	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	5	4	4	4	4				
経済学	経済学	10	修士	大連	姉妹校	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
					一般	0	0	0	0	0	2	2	2	2	2	0	0	0	0	0
				第1期	リカレント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
					外国人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
					推薦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
					小計	0	0	0	0	0	2	2	2	2	2	0	0	0	0	0
					一般	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0
				第2期	リカレント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
					外国人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1
					推薦	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1
					小計	3	3	3	3	3	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2
					姉妹校	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
				第1・2期 合計	一般	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	0	0	0	0	0
					リカレント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外国人	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1				
推薦	1	1	1		1	1	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1				
合計	3	3	3		3	3	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3				
		30	修士課程合計 (第1・2期)	姉妹校	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
				一般	14	13	5	5	5	9	9	6	6	6	5	4	2	1	1	
				リカレント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	3	3	3	
				外国人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	
				推薦	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	5	5	5	5	5	
				合計	16	15	7	7	7	11	11	8	8	8	16	15	12	11	11	
社会福祉学	社会福祉学	3	博士〔後期〕	一般	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	
				リカレント	3	3	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
				合計	5	5	3	3	3	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	

Ⅷ 本学の学生の課外活動、厚生及び就職に関すること

1 学生交流会館Kirari利用状況

[2016～2020]

(表Ⅷ-1)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	5年平均
宿泊を伴うもの(回数)	82	77	63	57	0	56 回
宿泊を伴わないもの(回数)	154	139	93	99	1	97 回
利用回数合計	236	216	156	156	1	153 回
管理・維持経費(単位:円)	18,297,000	21,755,000	18,607,000	19,468,777	18,394,792	19,304,514

注 平均利用回数及び、平均維持経費は小数点以下切り捨て

2 サークル団体状況

[2016～2020]

(表Ⅷ-2)

項目	年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	5年間平均	
サークル団体数	団体数	66	62	61	59	59	61.4	
	顧問実人数	49	48	48	46	46	47.4	
	負担割合	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	
サークル加入者(人) 加入割合 (加入者/在学者)	全体	文	749	664	555	582	396	589.2
		経	1,199	1,104	927	1,034	634	979.6
		社	995	824	662	728	480	737.8
		短	203	185	111	152	64	143.0
		合	3,146	2,777	2,255	2,496	1,574	2,449.6
サークル援助金 (単位:千円)	計	6,713	6,687	6,487	6,096	1,252	5,447.0	
サークル援助金 (特別) (単位:千円)	計	670	880	510	530	90	536.0	
全国大会 出場援助金 (単位:千円)	計	1,998	1,759	2,689	1,008	30	1,496.8	
大学後援会 からの援助金 (単位:千円)	計	3,883	10,373	3,895	3,997	4,116	5,252.8	

※ 大学・短大それぞれ、5/1現在の学生数から算出

※ 大学・短大学生数別、サークル加入者割合(延べ人数)

3 学生の健康管理状況

定期健康診断受診者数・学生相談室利用者数

大学院・大学・短大 計 (単位：人)

(表Ⅷ-3)

項目	年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	5年間平均
定期健康診断	学 部 生	4,084	4,179	4,110	4,013	3,846	4,098.6
	受 診 割 合	97.8	98.0	98.1	97.7	93.6	97.9
受診者	院 生 他	35	35	34	25	25	31.0
	上記内精密検査人数	68	42	45	64	56	57.8
学生相談室 利用者	学 部 生	797	709	712	666	688	748.4
		(123)	(116)	(126)	(137)	(74)	113.2
		<93>	<85>	<105>	<100>	<479>	84.0
() 実人数	院 生	8	1	12	2	0	19.2
	そ の 他	(2)	(1)	(3)	(2)	(0)	2.2
下段<> 女子	計	(1)	(1)	(3)	(0)	(0)	1.2
		806	710	724	668	688	767.8
		(126)	(117)	(129)	(139)	(74)	115.8
		<94>	<86>	<107>	<101>	<479>	85.0

※ 「学部生」は大学・短期大学の学部生を含む。

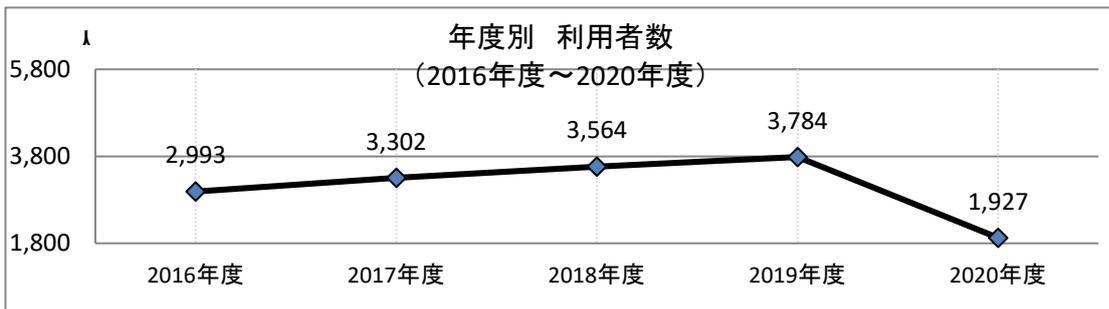
※ 「院生他」「その他」は科目等履修生等を含む。

4 医務室の利用状況

(単位：人) (表Ⅷ-4)

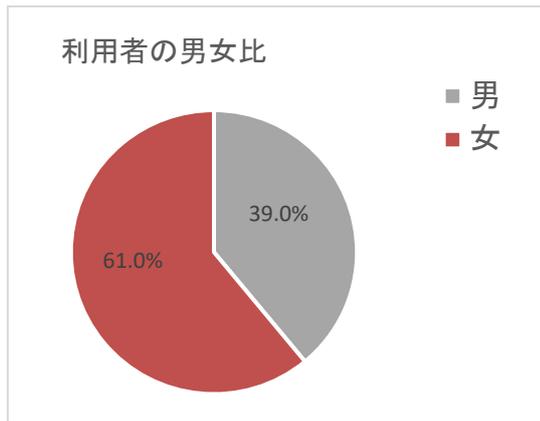
利用者数 年度別 [2016～2020]

2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
2,993	3,302	3,564	3,784	1,927



2020年度	前期 (人)	後期 (人)	合計 (人)
男	279	324	603
女	476	466	942
合計	755	790	1,545

2019年度	男女比	合計 (人)
男	43.3%	1,242
女	56.7%	1,626
合計	100.0%	2,868



延べ人数	2020年度	全利用者に対する割合	2019年度	全利用者に対する割合
1年次	291	18.7%	442	15.4%
2年次	204	13.1%	307	10.7%
3年次	278	17.9%	443	15.4%
4年次	198	12.7%	418	14.6%
大学留年	60	3.9%	272	9.5%
短大1年次	113	7.3%	139	4.8%
短大2年次	53	3.4%	172	6.0%
短大留年	11	0.7%	7	0.2%
大学院	20	1.3%	16	0.6%
その他の学生 (科目等・留年・研究生)	5	0.3%	19	0.7%
学生 計	1,233	79.3%	2,235	77.9%
教職員	251	16.2%	598	20.9%
学外者・不明者	70	4.5%	35	1.2%
合計	1,554	100.0%	2,868	100.0%

5 障害のある学生及び特別な支援を要する学生の状況

(1) 大学 [2016-2020]

(表Ⅷ-5-①)

項目	年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	5年間平均
アクセシビリティ支援室への支援要請数 下段：面談数	文 学	4	27	14	11	7	12.6
		48	162	222	152	42	125.2
	経 済	5	22	4	6	9	9.2
		64	72	21	30	9	39.2
	社会福祉	14	40	16	15	80	33.0
		108	152	228	232	381	220.2
	院 生 他	0	7	1	1	7	3.2
		0	31	44	7	7	17.8
	計	23	96	35	33	103	58.0
		220	417	515	421	439	402.4
配慮依頼文書発行数 (実人数) 〈支援回数〉* 《学生による支援回数》*	文 学	59	75	89	41	22	57.2
		(3)	(5)	(7)	(4)	(2)	4.2
		< 127 >	< 150 >	< 150 >	< 225 >	< 105 >	151.4
		《 》	《 360 》	《 240 》	《 15 》	《 》	123.0
	経 済	47	68	17	18	13	32.6
		(3)	(3)	(5)	(2)	(1)	2.8
		< 150 >	< 105 >	< 15 >	< 30 >	< 2 >	60.4
		《 87 》	《 225 》	《 105 》	《 105 》	《 》	104.4
	社会福祉	142	134	154	96	60	117.2
		(7)	(8)	(9)	(7)	(3)	6.8
		< 150 >	< 75 >	< 69 >	< 171 >	< 381 >	169.2
		《 3 》	《 495 》	《 1050 》	《 825 》	《 969 》	668.4
	院 生 他	0	14	1	1	0	3.2
		()	(1)	(1)	(1)	(1)	0.8
		< >	< 50 >	< 50 >	< 22 >	< 7 >	25.8
		《 》	《 》	《 》	《 》	《 》	0.0
	計	248	291	261	156	95	210.2
		(13)	(17)	(22)	(14)	(7)	14.6
		< 427 >	< 380 >	< 284 >	< 448 >	< 495 >	406.8
		《 90 》	《 1080 》	《 1395 》	《 945 》	《 969 》	895.8

* 〈支援回数〉は、支援機器の配置や設営などのスタッフによる支援

* 《学生による支援回数》は、ノートテイクなどの学生による情報保障支援

* アクセシビリティ支援室は2016年度に開設された

5 障害のある学生及び特別な支援を要する学生の状況

(2)短期大学部

[2016-2020]

(表Ⅷ-5-②)

項目	年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	5年間平均
アクセシビリティ支援室への支援要請数	英 文	1	4	1	1	2	1.8
		5	8	6	3	22	8.8
	生活創造	0	2	1	1	0	0.8
		0	3	5	7	0	3.0
	下段：面談数	計	1	6	2	2	2
5			11	11	10	22	11.8
配慮依頼文書発行数 (実人数) 〈支援回数〉* 《学生による支援回数》*	英 文	30	0	0	17	36	16.6
		(1)	()	()	(1)	(1)	0.6
		< >	< >	< >	< 3 >	< 5 >	1.6
	生活創造	《 285 》	《 》	《 》	《 》	《 》	57.0
		0	0	19	13	0	6.4
		()	()	(1)	(1)	()	0.4
	計	< >	< >	< 15 >	< 7 >	< >	4.4
		《 》	《 》	《 》	《 》	《 》	0.0
		30	0	19	30	36	23.0
	計	(1)	()	(1)	(2)	(1)	1.0
		< >	< >	< 15 >	< 10 >	< 5 >	6.0
		《 285 》	《 》	《 》	《 》	《 》	57.0

- * 〈支援回数〉は、支援機器の配置や設営などのスタッフによる支援
- * 《学生による支援回数》は、ノートテイクなどの学生による情報保障支援
- * アクセシビリティ支援室は2016年度に開設された

6 学生相談センター主催講演会参加状況

[2014～2020]

(表VIII-6)

年度	演題	参加教員数	参加職員数
2014年度	講師：櫻井 義秀 氏（北海道大学大学院文学研究科） 演題：「大学のカルト対策：信教の自由とケアの諸問題」	8	18
2015年度	講師：萩原 拓 氏（北海道教育大学旭川校特別支援教育分野） 演題：「青年・成人期の発達障害の理解と支援」	20	19
2016年度	助言者：平野 直己 氏（北海道教育大学札幌校） 演題：「学生対応に関する事例検討会」	13	20
2017年度	助言者：平野 直己 氏（北海道教育大学札幌校） 演題：「学生対応に関する事例検討会」 事例報告者-浦野真理子 氏（北星学園大学経済学部）、 安達美幸 氏（北星学園大学保健師）	11	11
2018年度	演題：「今川先生、新学長・大坊先生と学生を語る」 対談者-大坊郁夫 氏（北星学園大学学長）、 今川民雄 氏（北星学園大学社会福祉学部）	7	3
2019年度	講師：精神科医 北山 修 氏 演題：「心の消化と排出」	26	7
2020年度	講師：牧田浩一 氏（北星学園大学社会福祉学部、学生相談センター長）、中谷紫乃 氏（北星学園大学学生相談室カウンセラー） 演題：「2020年度の本学学生相談センターの動きと学生のメンタルヘルスを考えるつどい」	7	7

7 学生医療互助会給付状況

大学院・大学・短期大学部 計 [2016～2020]

(表Ⅷ-7)

項目	年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	5年間平均
給付件数 ()内 実人数	学部生	3,233	3,548	4,708	4,678	3,788	3,991
		(647)	(684)	(793)	(778)	(573)	(695)
	院生他	28	54	82	60	44	54
		(2)	(4)	(8)	(6)	(4)	(5)
	計	2,818	3,602	4,790	4,738	3,832	3,956
		(582)	(688)	(801)	(784)	(577)	(686)
給付総額 (千円)	学部生	15,382	17,149	23,076	22,476	18,802	19,377
	院生他	82	179	269	265	218	203
	計	15,464	17,328	23,345	22,741	19,020	19,580

*「院生他」の他は科目等履修生等含む。

*「学部生」は大学・短期大学部の学部生を含む。

8 学生の食生活改善プログラム開催状況

[2018～2020]

(表Ⅷ-8)

	50円キャンペーン	開催期間	開催日数	一食価格(円)	延べ利用人数	一日平均(人)
2018年度	第1回朝食キャンペーン	4/23～27	5日	50	805	161
	ランチキャンペーン	6/1	1日	50	549	549
	第2回朝食キャンペーン	5/21～25	5日	50	683	136.6
	第3回朝食キャンペーン	9/25～28	5日	50	429	85.8
	第4回朝食キャンペーン	10/22～26	5日	50	564	112.8
	夕食キャンペーン	12/5～7	3日	50	1,066	355
	合計	—	24日	—	4,096	170.6
	その他のイベント	日	内容			
	学生料理教室	12/13	料理講師を招き、在学生や留学生の男女合わせて18名を対象に行った。学生交流会館を利用して、栄養バランスや効率の良い調理方法を学び、各自調理した料理を食した。			
	テーピング講習会	①5/30 ②10/17	①は過去最高となる40名の体育系サークルの学生が参加した。ニチバン(株)講師の指導のもと、ケガの予防・応急措置を目的に、実践を交えた講習を実施した。			
体育祭特別企画	6/1～6/2	体育祭での熱中症対策・栄養補充を目的に、参加学生へペットボトル飲料約1300本・健康食品約200個を無料で配布した。				
2019年度	50円キャンペーン	開催期間	開催日数	一食価格(円)	延べ利用人数	一日平均(人)
	第1回朝食キャンペーン	4/22～26	5日	50	692	138.4
	ランチキャンペーン	6/7	1日	50	617	617
	第2回朝食キャンペーン	5/27～31	5日	50	560	112
	第3回朝食キャンペーン	9/24～27	4日	50	403	100.8
	第4回朝食キャンペーン	10/21～25	5日	50	509	101.8
	第1回夕食キャンペーン	11/6～8	3日	50	1,112	370.7
	第2回夕食キャンペーン	12/4～6	3日	50	1,013	337.7
	合計	—	24日	—	4,906	170.6
	その他のイベント	日	内容			
学生料理教室	—	学校の日程合わず、実施なし。				
テーピング講習会	①5/21 ②10/28	両日とも20名前後の体育系サークルを中心に、ケガの予防・応急措置を目的に、実践を交えた講習をニチバン(株)講師の指導のもと実施した。				
体育祭特別企画	6/7～6/8	体育祭での熱中症対策・栄養補充を目的に、参加学生へペットボトル飲料864本・健康食品243個を無料で配布した。				
2020年度	50円キャンペーン	開催期間	開催日数	一食価格(円)	延べ利用人数	一日平均(人)
	第1回朝食キャンペーン	—	—	50	—	—
	ランチキャンペーン	—	—	50	—	—
	第2回朝食キャンペーン	—	—	50	—	—
	第3回朝食キャンペーン	—	—	50	—	—
	第4回朝食キャンペーン	—	—	50	—	—
	第1回夕食キャンペーン	—	—	50	—	—
	第2回夕食キャンペーン	—	—	50	—	—
	合計	—	—	—	0	—
	その他のイベント	日	内容			
学生料理教室	—	コロナウィルス感染拡大防止のため、実施なし。				
テーピング講習会	—	コロナウィルス感染拡大防止のため、実施なし。				
体育祭特別企画	—	コロナウィルス感染拡大防止のため、実施なし。				

9 各種奨学金援助状況

[2018-2020]

単位 (人)

(表Ⅷ-9-①)

種別	該当別	年・月額	学年別・月額または年額				2018年度	2019年度	2020年度	3年間平均		
			1年次	2年次	3年次	4年次						
奨学金	大学院	第一種	5万・8.8万		8万円・12.2万円		5	5	3	4.3		
		第二種	5万・8万・10万・13万・15万円				1	0	0	0.3		
	大学	第一種	自宅	2万円・3万円・4万円・5.4万円				716	758	779	751.0	
			自宅外	2万円・3万円・4万円・5万円・6.4万円								
		第二種		2万円・3万円・4万円・5万円・6万円・7万円 8万円・9万円・10万円・11万円・12万円				1170	1090	1018	1092.7	
		旧給付	自宅	3万円				28	54	10	30.7	
			自宅外	4万円								
		新給付	自宅	1.28万円・2.56万円・3.83万円				/	/	420	420.0	
			自宅外	2.53万円・5.06万・7.58万円								
		短大部	第一種	自宅	2万円～5.3万円		/	128	118	98	114.7	
	自宅外			2万円～6万円								
	第二種		2万円～12万円 (1万刻み)		128	109		107	114.7			
	旧給付		自宅	3万円				8	17	0	8.3	
			自宅外	4万円								
	新給付		自宅	1.28万円・2.56万円・3.83万円				/	/	78	78.0	
		自宅外	2.53万円・5.06万・7.58万円									
	大学院	入学時特別増額貸与奨学金		年額 10万円・20万円・30万円・40万円・50万円				0	0	0	0.0	
								50	46	31	42.3	
	北星学園大学一般奨学金	大学・短大部		年額 12万円				13	13	/	13.0	
	北星学園大学松田奨学金	大学		年額 6万円				1	1	1	1.0	
北星学園大学融資奨学金(有利子)	大学院・大学・短大部		年額 10～50万円				0	0	/	0.0		

9 各種奨学金援助状況

[2018-2020]

単位 (人)

(表Ⅷ-9-②)

種別	該当別	年・月額	学年別・月額または年額				2018年度	2019年度	2020年度	3年間平均	
			1年次	2年次	3年次	4年次					
奨学金	有馬・安孫子・手島・時任・永澤奨学金	大学	年額	10万円				2	2	2	2.0
		短大部		10万円				0	0	0	0.0
	スミス・モンク・エバンス奨学金	大学		10万円				1	1	1	1.0
		短大部		10万円				1	1	1	1.0
	成績優秀者学業奨励賞	大学			1~5万円			126	126	128	126.7
		短大部			1-5万円			11	11	11	11.0
	自宅外通学支援奨学金	大学		36万円				91	129	116	112.0
		短大部		36万円				29	19	20	22.7
	前頁より上記在学学生割合 (%)						57.4	58.3	67.5	61.1	
	減免制度	入試特別奨学賞		大学	年額	授業料の1/2相当額免除				69	69
短大部							5	6	3	4.7	
私費外国人留学生修学奨励金		大学院・大学・短大部	授業料の1/3相当額免除				1	2	3	2.0	
私費外国人奨学金		大学院・大学・短大部	授業料の1/3相当額免除				1	2	3	2.0	
兄弟姉妹同時在学者減免		大学院・大学・短大部	教育充実費相当額免除				36	39	36	37.0	
身体・精神障害修学者減免		大学院・大学・短大部	教育充実費の1/2相当額免除				16	12	8	12.0	
社会人入試入学者減免		大学院・大学・短大部	授業料から15万円免除				2	1	0	1.0	
修学困難者減免		大学院・大学・短大部	授業料の1/2相当額免除				8	13		10.5	
上記在学学生割合 (%)						3.2	3.4	2.4	3.0		

* 日本学生支援機構新給付奨学金(高等教育修学支援制度)は2020年度より開始

* 在学生割合は5/1現在の在学生数を基に小数点第2位四捨五入した。

* 北星学園大学一般奨学金、北星学園大学融資奨学金は2020年度から募集停止。

* 自宅外通学支援奨学金は2020年度入学生を最後に募集停止。

10 大学 学部・学科別卒業生の卒業後の状況（状況別）〔2020年度〕

（表Ⅷ-10-⑤）

学部	学科	性別	卒業生数	状況別卒業生数																	大学院博士課程の計 (a)のうち(再掲)							
				A 大研 学究 院科	B 大学 学部	C 短本 期 大学 科	D 専 攻 科	E 別 科	就職者等 (左記A~Eを除く。)			F 自 営 業 主 等	G 無 期 雇 用 労 働 者	H 有 期 雇 用 労 働 者 (一 か 月 以 上 の 者)	I 臨 時 労 働 者	J 外 専 国 の 修 学 校 等 入 学 者 ・ 進 学 準 備 中 の 者	左記以外の者		不 詳 ・ 死 亡 の 者	計 (a)	(再掲)			満 期 退 学 者	ポストドクター等 (満期退学者を含む)			
									J 進 学 準 備 中 の 者	就 職 準 備 中 の 者	そ の 他						左記A~Eのうち、 就職している者				無 期 雇 用 労 働 者	自 営 業 主 等、 雇 用 契 約 期 間 が 一 年 以 上、 か つ フル タ イ ム 勤 務 相 当 の 者	左 記 H 有 期 雇 用 者 の うち、 雇 用 契 約 期 間 が 一 年 以 上、 か つ フル タ イ ム 勤 務 相 当 の 者		H の うち	I の うち	J の うち	
																	無 期 雇 用 労 働 者	自 営 業 主 等、 雇 用 契 約 期 間 が 一 年 以 上、 か つ フル タ イ ム 勤 務 相 当 の 者										左 記 H 有 期 雇 用 者 の うち、 雇 用 契 約 期 間 が 一 年 以 上、 か つ フル タ イ ム 勤 務 相 当 の 者
文学部	英文	男	32	1	0	0	0	0	0	21	5	0	0	0	0	1	4	0	32	0	0	5	0	0	0	0		
		女	101	1	1	0	0	0	0	77	1	0	0	1	2	4	14	0	101	0	0	1	0	0	0	0	0	
	計	133	2	1	0	0	0	0	98	6	0	0	1	2	5	18	0	133	0	0	6	0	0	0	0	0		
	心理学	男	33	0	1	0	0	0	0	25	0	0	0	0	1	0	6	0	33	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	52	1	0	0	0	0	0	46	0	0	0	0	0	3	2	0	52	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	85	1	1	0	0	0	0	71	0	0	0	0	1	3	8	0	85	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	男	65	1	1	0	0	0	0	46	5	0	0	0	1	1	10	0	65	0	0	5	0	0	0	0	0		
	女	153	2	1	0	0	0	0	123	1	0	0	1	2	7	16	0	153	0	0	1	0	0	0	0	0		
計	218	3	2	0	0	0	0	169	6	0	0	1	3	8	26	0	218	0	0	6	0	0	0	0	0	0		
経済学部	経済学	男	130	2	0	0	0	0	0	103	0	0	0	0	12	13	0	130	0	0	0	0	0	0	0	0		
		女	29	0	0	0	0	0	0	26	0	0	0	1	0	2	0	29	0	0	0	0	0	0	0	0		
	計	159	2	0	0	0	0	0	129	0	0	0	1	12	15	0	159	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	経営学	男	64	0	0	0	0	0	0	49	0	0	0	0	2	13	0	64	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	53	0	0	0	0	0	0	47	0	0	0	0	4	2	0	53	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	117	0	0	0	0	0	0	96	0	0	0	0	6	15	0	117	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	経済学	男	93	1	0	0	0	0	0	70	1	0	0	1	0	9	11	0	93	0	0	1	0	0	0	0	0	
		女	35	0	0	0	0	0	0	32	0	0	0	0	1	2	0	35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	128	1	0	0	0	0	0	102	1	0	0	1	0	10	13	0	128	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
	計	男	287	3	0	0	0	0	0	222	1	0	0	1	0	23	37	0	287	0	0	1	0	0	0	0	0	
女		117	0	0	0	0	0	0	105	0	0	0	0	1	5	6	0	117	0	0	0	0	0	0	0	0		
計	404	3	0	0	0	0	0	327	1	0	0	1	1	28	43	0	404	0	0	1	0	0	0	0	0	0		
社会福祉学部	福祉学	男	42	0	0	0	0	0	0	33	0	0	0	1	0	4	4	0	42	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	36	0	0	0	0	0	0	31	0	0	0	0	2	3	0	36	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	78	0	0	0	0	0	0	64	0	0	0	1	0	6	7	0	78	0	0	0	0	0	0	0	0		
	福祉学	男	21	0	0	0	0	0	0	13	1	0	0	0	0	3	4	0	21	0	0	1	0	0	0	0	0	
		女	76	0	0	0	0	0	0	64	2	0	0	0	0	1	9	0	76	0	0	2	0	0	0	0	0	
	計	97	0	0	0	0	0	0	77	3	0	0	0	0	4	13	0	97	0	0	3	0	0	0	0	0		
	福祉学	男	13	2	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	3	2	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	45	1	0	0	0	0	0	35	0	0	0	0	1	1	7	0	45	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	58	3	0	0	0	0	0	41	0	0	0	0	1	4	9	0	58	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	男	76	2	0	0	0	0	0	52	1	0	0	1	0	10	10	0	76	0	0	1	0	0	0	0	0	
女		157	1	0	0	0	0	0	130	2	0	0	0	1	4	19	0	157	0	0	2	0	0	0	0	0		
計	233	3	0	0	0	0	0	182	3	0	0	1	1	14	29	0	233	0	0	3	0	0	0	0	0	0		
学部合計	男	428	6	1	0	0	0	0	320	7	0	0	2	1	34	57	0	428	0	0	7	0	0	0	0	0		
	女	427	3	1	0	0	0	0	358	3	0	0	1	4	16	41	0	427	0	0	3	0	0	0	0	0		
計	855	9	2	0	0	0	0	678	10	0	0	3	5	50	98	0	855	0	0	10	0	0	0	0	0	0		

※ 各年度間（4月1日から3月31日まで）に卒業した、卒業生の卒業後の状況を5月1日現在で作成。

2020年度 キャリアデザインプログラム等出席状況

※大学の『他』＝大学院生、科目等履修生、卒業生

13 キャリアデザインプログラム等出席状況〔2020年度〕

(単位：人) (表Ⅷ-13)

プログラム名	実施日	曜	講時	全合計	大 学										短大部				
					学 年	文学部		経済学部			社会福祉学部			他	大学計	学 年	英文	生活	短合計
						英文	心コ	経済	経情	経法	計画	臨床	心理						
教員採用試験願書記入説明会 (大学4年対象)	4/10	金	13:00~ 14:30	48	3年生	20	3	0	0	8	0	11	5	1	48				
						23		8			16								
第3回福祉ガイダンス (大学4年対象)	5/20	水	13:00~ 14:30	58	4年生						17	36	5		58				
											58								
就職支援について (大学4年・短大2年対象)	5/22	金	13:00~ 14:30	175	4年生	21	14	21	15	24	15	25	16	1	152	1年生	9	14	23
						35		60			56						9	14	23
オリエンテーション (大学3年・短大1年対象)	5/25	月	13:00~ 14:30	307	3年生										0	1年生			0
						0		0			0						0	0	0
第1回公務員ガイダンス・学内公務員講座説明会 (大学1~2年対象)	6月上旬		16:20~ 17:50	0	1年生										0				
					2年生	0		0			0								
第1回公務員ガイダンス・学内公務員講座説明会 (大学3年・短大1年対象)	6月上旬		16:20~ 17:50	0	3年生										0	1年生			0
						0		0			0						0	0	0
編入学ガイダンス (短大1・2年対象)	6月上旬		13:00~ 14:30	0												1年生			0
																2年生			0
面接・WEB面接対策ガイダンス (大学4年・短大2年対象)	6/3	水	13:00~ 14:30	89	4年生	16	5	8	3	5	9	14	4	1	65	2年生	8	16	24
						21		16			27						8	16	24
第1回福祉ガイダンス (大学3年対象)	6/3	水	13:00~ 14:30	73	3年生						22	31	20		73				
											73								
第4回福祉ガイダンス (大学4年対象)	6/10	水	13:00~ 14:30	21	4年生						3	18	0		21				
											21								
ES・履歴書の書き方講座 (大学4年・短大2年対象)	6/10	水	13:00~ 14:30	30	4年生	7	1	2	2	1	1	5	2		21	2年生	5	4	9
						8		5			8						5	4	9
インターンシップ等事前説明会 (大学3年・短大1年対象)	6/17	水	13:00~ 14:30	243	3年生	51	24	21	26	28	16	13	16	1	196	1年生	13	34	47
						75		75			45						13	34	47
インターンシップ対策講座 (大学3年・短大1年対象)	6/24	水	13:00~ 14:30	220	3年生										0	1年生			0
						0		0			0						0	0	0
航空業界対策プログラム説明会 (大学1~3年・短大1年対象)	7/1	水	13:00~ 14:30	69	2年生	3			1						40	1年生	27	2	29
					3年生	23	4	4	1	2	1	1	1						29
						30		7			3						27	2	29
マナー講習会 (大学3年・短大1年対象)	7/8	水	13:00~ 14:30	199	3年生	42	18	10	15	21	15	14	16	2	153	1年生	11	35	46
						60		46			45						11	35	46
卒業生による航空業界就活体験報告会 (大学1~3年・短大1年対象)	7/15	水	13:00~ 14:30	39	1年生										28	1年生	11		11
					2年生	2			1										11
					3年生	17	4	1	1		1		1						11
						23		3			2						11	0	11

2020年度 キャリアデザインプログラム等出席状況

※大学の『他』＝大学院生、科目等履修生、卒業生

13 キャリアデザインプログラム等出席状況〔2020年度〕

(単位：人) (表Ⅷ-13)

プログラム名	実施日	曜	講時	全合計	大 学										短 大 部				
					学 年	文学部		経済学部			社会福祉学部			他	大学計	学 年	英文	生活	短合計
						英文	心コ	経済	経情	経法	計画	臨床	心理						
第1回社会福祉士国家試験ガイダンス (大学3～4年対象)	7/29	水	13:00～ 14:30	51	4年生						7	44			51				
プレ航空業界特別講座 (大学1～3年・短大1年対象)	8/5	水	13:00～ 14:30	30	1年生									20	1年生	10		10	
					2年生	2			1										
					3年生	13	3				1								
就活必勝法指南 (大学3年・短大1年対象)	9/16	水	13:00～ 14:30	115	3年生	22	11	4	8	10	5	7	10	2	79	1年生	2	34	36
						33		22		22									
第2回公務員ガイダンス (大学3年・短大1年対象)	9/16	水	13:00～ 14:30	30	3年生	2	1	3	2	7	4	3	5		27	1年生	0	3	3
						3		12			12					0	3		
学内公務員講座説明会(後期) (大学2年対象)	9/16	水	16:20～ 17:50	0	2年生										0				
業界研究は必要！？ (大学3年・短大1年対象)	9/23	水	13:00～ 14:30	113	3年生	25	11	5	6	14	6	2	11		80	1年生	8	25	33
						36		25		19									
第2回社会福祉士国家試験ガイダンス (大学4年対象)	9/23	水	13:00～ 14:30	64	3年生						14	23	1	64					
					4年生						8	18	0						
特別支援学校教員講座 (大学1-4年対象)	9/23	水	13:00～ 14:30	24	4年生	1								24					
					3年生	1					1	1							
					2年生		1	1			1	2							
					1年生		2	1		2	1	5	4						
					5		4			15									
SPIってどんな試験？ (大学3年・短大1年対象)	9/30	水	13:00～ 14:30	116	3年生	19	10	11	8	11	8	5	11	4	87	1年生	9	20	29
						29		30		24									
SPI解き方講座(非言語) (大学3年・短大1年対象)	10/7	水	13:00～ 14:30	114	3年生	20	10	4	11	11	10	8	11	2	87	1年生	5	22	27
						30		26		29									
SPI解き方講座(言語+非言語) (大学3年・短大1年対象)	10/14	水	13:00～ 14:30	114	3年生	19	12	7	10	14	5	8	11	4	90	1年生	8	16	24
						31		31		24									
短大生の就職活動について (短大1年対象)	10/21	水	13:00～ 14:30	85	3年生	1	1	1		1				4	4	1年生	26	55	81
						2		2		0									
航空業界特別講座	10/24	土	9:00～ 16:00	8	3年生	6	1							7	7	1年生	1		1
						7		0		0									
航空業界特別講座	10/25	土	9:00～ 16:00	7	3年生	5	1							6	6	1年生	1		1
						6		0		0									
自己分析の方法 (大学3年・短大1年対象)	10/28	水	13:00～ 14:30	135	3年生	17	11	11	9	17	10	11	11	2	99	1年生	11	25	36
						28		37		32									

2020年度 キャリアデザインプログラム等出席状況

※大学の『他』＝大学院生、科目等履修生、卒業生

13 キャリアデザインプログラム等出席状況〔2020年度〕

(単位：人) (表Ⅷ-13)

プログラム名	実施日	曜	講時	全合計	大 学									短大部									
					学 年	文学部		経済学部			社会福祉学部			他	大学計	学 年	英文	生活	短合計				
						英文	心コ	経済	経情	経法	計画	臨床	心理										
教員採用試験ガイダンス (大学3年対象)	10/下	水	13:00～ 14:30	0	4年生																		
					3年生																		
					1年生																		
						0		0		0				0									
先輩たちはこうして内定をゲットした (大学3年・短大1年対象)	11/4	水	13:00～ 14:30	85	3年生	14	8	8	7	13	5	4	6		65	1年生	7	13					20
						22		28		15							7	13					
公務員合格体験談報告会 (大学1～3年・短大1年対象)	11/4	水	13:00～ 14:30	43	3年生	4	2	5	2	10	6	5	5		39	1年生	2	2					4
						6		17		16							2	2					
動画面接対策講座 (大学3年・短大1年対象)	11/11	水	13:00～ 14:30	118	3年生	19	11	7	9	16	5	8	12	1	88	1年生	10	20					30
						30		32		25							10	20					
エントリーシート「自己PR編」+「志望 動機編」 (大学3年・短大1年対象)	11/18	水	13:00～ 14:30	138	3年生	20	15	8	12	20	7	11	9	3	105	1年生	13	20					33
						35		40		27							13	20					
業界・企業研究のHowto! (大学3年・短大1年対象)	11/25	水	13:00～ 14:30	112	3年生	19	12	4	9	17	6	10	11		88	1年生	9	15					24
						31		30		27							9	15					
グループディスカッション・集団面接の ポイント (大学3年・短大1年対象)	12/2	水	13:00～ 14:30	124	3年生	19	11	7	10	17	6	9	10	6	95	1年生	10	19					29
						30		34		25							10	19					
チャレンジ! グループディスカッション (実践編) ⇒中止 (大学3年・短大1年対象)	12/9	水	12:30～ 14:30	0	3年生										0	1年生							0
						0		0		0							0	0					
チャレンジ! 集団面接(実践編) ⇒中止 (大学3年・短大1年対象)	12/16	水	12:30～ 14:30	0	3年生										0	1年生							0
						0		0		0							0	0					
第2回福祉ガイダンス⇒延期 (大学3年対象)	12/16	水	13:00～ 14:30	0	3年生										0								
										0													
キャリアプロ最終回～就活本番直前講座～ (大学3年・短大1年対象)	12/23	水	13:00～ 14:30	163	3年生	28	16	10	13	22	13	11	13	4	130	1年生	13	20					33
						44		45		37							13	20					
学内企業説明会事前ガイダンス (大学3年・短大1年対象)	1/22	金	13:00～ 14:30	362	3年生	37	41	28	40	48	45	30	20		295	1年生	29	38					67
						78		117		95							29	38					

14 各種公務員及び公立学校教員の受験・合格状況

(1) 大学

[2018～2020年度]

(表Ⅷ-14-①)

		2018年度 (H30)				2019年度 (R1)				2020年度 (R2)				3年間 平均
		文学部	経済学部	社会福祉学部	計	文学部	経済学部	社会福祉学部	計	文学部	経済学部	社会福祉学部	計	
国家公務員 (大卒程度) ※1	受験者数現役(a)	不明	不明	不明	-	不明	不明	不明	-	不明	不明	不明	-	-
	合格者数現役(b)	10	33	4	47	2	12	7	21	1	24	6	31	33.0
	(既卒者を含む合格者数)	(10)	(33)	(4)	(47)	(2)	(13)	(7)	(22)	(3)	(24)	(6)	(33)	34.0
	合格率(b/a*100)(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北海道職員 (A区分)	受験者数現役(a)	不明	不明	不明	-	不明	不明	不明	-	不明	不明	不明	-	-
	合格者数現役(b)	8	17	10	35	2	17	11	30	2	16	11	29	31.3
	(既卒者を含む合格者数)	(8)	(18)	(10)	(36)	(3)	(19)	(11)	(33)	(2)	(16)	(11)	(29)	32.7
	合格率(b/a*100)(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
市町村職員	受験者数現役(a)	不明	不明	不明	-	不明	不明	不明	-	不明	不明	不明	-	札幌市・市町村
	合格者数現役(b)	13	20	12	45	7	28	12	47	4	22	15	41	44.3
	(既卒者を含む合格者数)	(13)	(22)	(13)	(48)	(7)	(29)	(12)	(48)	(4)	(22)	(15)	(41)	45.7
	合格率(b/a*100)(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
各種公務員 (自衛官・警察・ 国立大学法人等職員)	受験者数現役(a)	不明	不明	不明	-	不明	不明	不明	-	不明	不明	不明	-	-
	合格者数現役(b)	3	12	9	24	3	23	10	36	1	9	2	12	24.0
	(既卒者を含む合格者数)	(3)	(12)	(9)	(24)	(4)	(23)	(10)	(37)	(1)	(10)	(2)	(13)	24.7
	合格率(b/a*100)(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北海道・札幌市公立 学校教員(英語)	受験者数現役(a)	9	0	0	9	6	0	0	6	17	0	0	17	10.7
	合格者数現役(b)	1	0	0	1	2	0	0	2	9	0	0	9	4.0
	(既卒者を含む合格者数)	(7)	(0)	(0)	(7)	(13)	(0)	(0)	(13)	(9)	(0)	(0)	(9)	(9.7)
	合格率(b/a*100)(%)	11.1%	0.0%	0.0%	11.1%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	52.9%	0.0%	0.0%	52.9%	37.5%
北海道・札幌市公立 学校教員(社会地歴 等)	受験者数現役(a)	5	8	6	19	3	2	3	8	1	7	4	12	13.0
	合格者数現役(b)	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0.3
	(既卒者を含む合格者数)	(0)	(1)	(0)	(1)	(0)	(2)	(2)	(4)	(0)	0	0	0	(1.7)
	合格率(b/a*100)(%)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%

※1 国家公務員(総合職・一般職・専門職)、裁判所職員を含む

14 各種公務員及び公立学校教員の受験・合格状況

(1) 大学

[2018～2020年度]

(表Ⅷ-14-②)

		2018年度 (H30)				2019年度 (R1)				2020年度 (R2)				3年間 平均
		文学部	経済学部	社会福祉学部	計	文学部	経済学部	社会福祉学部	計	文学部	経済学部	社会福祉学部	計	
北海道・札幌市公立 学校教員(特別支援) ※1	受験者数現役(a)	0	0	9	9	0	0	14	14	0	0	10	10	11.0
	合格者数現役(b)	0	0	6	6	0	0	12	12	0	0	6	6	8.0
	(既卒者を含む合格者数)	(1)	(0)	(12)	(13)	(1)	(0)	(20)	(21)	(0)	(0)	(10)	(10)	(14.7)
	合格率(b/a*100)(%)	0.0%	0.0%	66.7%	66.7%	0.0%	0.0%	85.7%	85.7%	0.0%	0.0%	60.0%	60.0%	72.7%
北海道・札幌市公立 学校教員(その他)	受験者数現役(a)	0	1	0	1	1	3	1	5	1	0	3	4	3.3
	合格者数現役(b)	0	1	0	1	1	0	0	1	1	0	1	2	1.3
	(既卒者を含む合格者数)	(2)	(1)	(0)	(3)	(5)	(0)	(0)	(5)	(1)	(0)	(1)	(2)	(3.3)
	合格率(b/a*100)(%)	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	40.0%
北海道外 公立学校教員 (全校種・教科計)	受験者数現役(a)	0	0	0	0	1	1	4	6	0	1	0	1	2.3
	合格者数現役(b)	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0.3
	(既卒者を含む合格者数)	(0)	(0)	(1)	(1)	(0)	(0)	(1)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0.7)
	合格率(b/a*100)(%)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%
社会福祉士	受験者数現役(a)	84				71				65				73.3
	合格者数現役(b)	45				29				31				35.0
	(既卒者を含む合格者数)	(64)				(53)				(54)				(57.0)
	合格率(b/a*100)(%)	53.6				40.8				47.7				47.4
精神保健福祉士	受験者数現役(a)	8				8				14				10.0
	合格者数現役(b)	7				4				11				7.3
	(既卒者を含む合格者数)	(8)				(4)				(12)				(8.0)
	合格率(b/a*100)(%)	87.5				50.0				78.6				72.0

※1 札幌市公立学校教員～在学時の所属不明の既卒者が他に4名合格。英語1・社会地歴等2・特別支援1(教育委員会合格者情報開示より)

14 各種公務員及び公立学校教員の受験・合格状況

(2) 短期大学部 [2018～2020年度]

(表Ⅷ-14-③)

		2018年度 (H30)			2019年度 (R1)			2020年度 (R2)			3年間 平均	備考
		英文 学科	生活 創 造 学科	計	英文 学科	生活 創造 学科	計	英文 学科	生活 創造 学科	計		
国家公務員 (高卒程度) ※1	受験者数現役(a)	不明	不明	-	不明	不明	-	不明	不明	-	-	
	合格者数現役(b)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	(既卒者を含む合格者数)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	
	合格率(b/a*100) (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
北海道職員 (B区分)	受験者数現役(a)	不明	不明	-	不明	不明	-	不明	不明	-	-	
	合格者数現役(b)	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0.7	
	(既卒者を含む合格者数)	(1)	(0)	(1)	(0)	(1)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0.7)	
	合格率(b/a*100) (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
市町村職員	受験者数現役(a)	不明	不明	-	不明	不明	-	不明	不明	-	-	
	合格者数現役(b)	0	1	1	1	1	2	1	1	2	1.7	
	(既卒者を含む合格者数)	(0)	(1)	(1)	(1)	(1)	(2)	(1)	(1)	(2)	(1.7)	
	合格率(b/a*100) (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※1 国家公務員（一般職・専門職）、裁判所職員を含む

14 各種公務員及び公立学校教員の受験・合格状況

(2) 短期大学部 [2018～2020年度]

(表Ⅷ-14-④)

		2018年度 (H30)			2019年度 (R1)			2020年度 (R2)			3年間 平均	備考
		英文	生活 創	計	英文	生活	計	英文	生活	計		
各種公務員 (自衛官・警察・ 国立大学法人等職員)	受験者数現役(a)	不明	不明	-	不明	不明	-	不明	不明	-	-	
	合格者数現役(b)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
	(既卒者を含む合格者数)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	
	合格率(b/a*100) (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
北海道・札幌市公立 学校教員 ()	受験者数現役(a)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	合格者数現役(b)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	(既卒者を含む合格者数)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	合格率(b/a*100) (%)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
北海道・札幌市公立 学校教員 ()	受験者数現役(a)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	合格者数現役(b)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	(既卒者を含む合格者数)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	合格率(b/a*100) (%)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
北海道・札幌市公立 学校教員 (その他)	受験者数現役(a)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	合格者数現役(b)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	(既卒者を含む合格者数)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	合格率(b/a*100) (%)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	

15 社会福祉士講座・精神保健福祉士講座受講者の合格率

[2018～2020年度] ※精神保健福祉士については、2017年度より講座取り止め。

(表Ⅷ-15)

		2018年度 (H30)			2019年度 (H31)			2020年度 (R2)			3年間 平均	備考
		現役	既卒	計	現役	既卒	計	現役	既卒	計		
社会福祉士	受講者数(a)	47	1	48	51	2	53	49	0	49	49.0	←現役の平均数
	受講者の合格者数(b)	27	不明	-	23	不明	-	27	0	27	25.7	←現役の平均数
	合格率(b/a*100) (%)	57.4	-	-	45.1	-	-	55.1	0.0	-	52.5	←現役の平均数
	本学合格者数	45	19	64	29	24	53	31	23	54	57.0	
精神保健福祉士	受講者数(a)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	←現役の平均数
	受講者の合格者数(b)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	←現役の平均数
	合格率(b/a*100) (%)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	←現役の平均数
	本学合格者数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	

16 学生ボランティア団体の活動状況〔2020年度〕

(表Ⅷ-16)

ボランティア・コバン部		部員数123名(4月～3月活動数 合計3回)
活動名	日時・期間	活動場所
レインボー遊び教室	09.26	つどーむパークゴルフ場
ゴミ拾い	10.24	北星学園大学周辺
レインボー遊び教室	10.25	エルプラザ

※活動団体は学生生活支援課の集計によるもの。

Ⅸ. 本学の図書及び学術情報に関すること

1 図書・資料等所蔵状況

[2017～2020]

(表Ⅸ-1)

図書館の名称	館数		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	備考	
図書館	1	蔵書冊数	和書	431,718	438,171	451,002	457,941	
			開架図書の冊数(内数)	292,071	295,596	303,052	305,230	
			外国書	157,462	160,149	162,271	164,779	
			開架図書の冊数(内数)	119,971	122,763	123,954	124,434	
			計	589,180	598,320	613,273	622,720	
			開架図書の冊数(内数)	412,042	418,359	427,006	429,664	
			年間受入冊数	17,219	13,926	15,567	12,817	
			寄贈図書冊数(内数)	2,606	2,326	3,020	1,799	
		所蔵雑誌数 (種類)	和雑誌	4,427	4,809	4,163	4,032	
			外国雑誌	1,049	1,156	1,085	1,077	
			計	5,476	5,965	5,248	5,109	
			年間受入誌数	1,991	1,919	1,141	1,086	
			寄贈雑誌数(内数)	1,179	1,214	447	417	
		電子情報資源	電子書籍(冊数)	1,021	1,090	1,136	1,387	
			電子ジャーナル(利用可能種類)	62,954	69,087	71,312	87,665	
			情報データベース(種類)	34	32	38	41	
視聴覚資料の所蔵数			13,196	11,028	11,191	11,191		

2 分野別図書・雑誌受け入れ状況

[図書]

(大学・短期大学部) [2016～2020]

(表IX-2-①)

分野別 (日本十進分類法)		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	5年間平均
日本十進分類法 (類目表)	000 総記 (知識・学問一般・情報科学) (外国書内数)	529 (103)	616 (97)	445 (25)	817 (39)	606 (67)	603 (66)
	100 哲学・宗教 (心理学・キリスト教) (外国書内数)	991 (190)	974 (189)	942 (159)	1,153 (188)	781 (137)	968 (173)
	200 歴史・地理 (外国書内数)	1,248 (261)	1,279 (164)	1,110 (248)	1,328 (219)	954 (172)	1,184 (213)
	300 社会科学 (法律・経済・社会学・教育) (外国書内数)	5,239 (1,134)	6,090 (766)	5,184 (1,095)	5,900 (859)	5,214 (1,237)	5,525 (1,018)
	400 自然科学 (数学・地学・医学) (外国書内数)	925 (121)	1,199 (120)	843 (78)	1,008 (85)	997 (104)	994 (102)
	500 技術・工学 (建築・環境・工業・家政学) (外国書内数)	461 (75)	458 (45)	426 (98)	408 (54)	379 (63)	426 (67)
	600 産業 (農・水産業・商業) (外国書内数)	614 (156)	605 (64)	516 (83)	518 (33)	490 (92)	549 (86)
	700 芸術・美術 (美術・音楽・スポーツ) (外国書内数)	1,210 (208)	1,316 (67)	967 (170)	852 (40)	643 (41)	998 (105)
	800 言語 (外国書内数)	1,667 (1,143)	1,241 (583)	755 (275)	1,005 (349)	801 (434)	1,094 (557)
	900 文学 (外国書内数)	1,660 (161)	2,090 (255)	1,574 (221)	1,424 (158)	1,271 (234)	1,604 (206)
		分野別合計 (外国書内数)	14,544 (3,552)	15,868 (2,350)	12,762 (2,452)	14,413 (2,024)	12,136 (2,581)
主要分野詳細	007 情報科学 (外国書内数)	205 (20)	231 (37)	172 (12)	478 (22)	342 (25)	286 (23)
	140 心理学 (外国書内数)	373 (119)	397 (146)	359 (66)	388 (96)	333 (74)	370 (100)
	190 キリスト教 (外国書内数)	150 (13)	191 (120)	189 (24)	284 (50)	123 (20)	187 (45)
	320 法律 (外国書内数)	563 (96)	640 (88)	616 (84)	710 (156)	676 (166)	641 (118)
	330 経済 (外国書内数)	1,230 (369)	1,340 (152)	1,274 (434)	1,201 (162)	1,132 (314)	1,235 (286)
	360 社会学(社会福祉) (外国書内数)	1,357 (335)	1,761 (228)	1,316 (310)	1,567 (229)	1,535 (439)	1,507 (308)
	370 教育 (外国書内数)	832 (139)	1,050 (140)	785 (51)	977 (43)	672 (58)	863 (86)
	490 医学 (外国書内数)	496 (93)	774 (102)	458 (36)	564 (63)	594 (64)	577 (72)
830 英語 (外国書内数)	1,198 (972)	673 (436)	287 (87)	470 (191)	430 (275)	612 (392)	

2 分野別図書・雑誌受け入れ状況

〔雑誌〕

(大学・短期大学部) [2016～2020]

(表IX-2-②)

分野別		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	5年間平均
主要分野別	総記及び共通 (外国書内数)	115 (13)	241 (64)	124 (23)	123 (24)	121 (24)	145 (30)
	心理 (外国書内数)	84 (27)	104 (26)	105 (27)	79 (24)	81 (24)	91 (26)
	社会福祉 (外国書内数)	134 (24)	144 (41)	144 (41)	118 (23)	114 (22)	131 (30)
	教育 (外国書内数)	30 (2)	31 (1)	31 (1)	28 (1)	27 (1)	29 (1)
	経済 (外国書内数)	126 (60)	173 (68)	185 (79)	106 (53)	101 (51)	138 (62)
	法律 (外国書内数)	70 (16)	88 (31)	85 (28)	66 (20)	66 (20)	75 (23)
	英語・言語 (外国書内数)	68 (42)	84 (49)	84 (49)	69 (41)	62 (39)	73 (44)
	主要分野別合計 (外国書内数)	627 (184)	865 (280)	758 (248)	589 (186)	572 (181)	682 (216)
	紀要 (外国書内数)	500 (22)	383 (2)	1,071 (6)	311 (1)	294 (2)	512 (7)
	新聞 (外国書内数)	30 (11)	30 (14)	29 (10)	29 (10)	27 (10)	29 (11)
	その他合計 (外国書内数)	530 (33)	413 (16)	1,100 (16)	340 (11)	321 (12)	541 (18)

3 図書館の利用状況

[2016～2020]

(表IX-3)

項目		年度					5年間平均	備 考	
		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度			
年間開館日数	授業期間平日 (8:45～22:00)	171	165	167	168	0	134		
	休業期間平日 (8:45～20:00)	57	63	62	65	211	92		
	土曜日 (8:45～20:00)	47	44	40	35	22	38		
	日曜・祝日・特別開館 (12:00～17:00)	42	43	36	44	0	33		
	合計	317	315	305	312	233	296		
	総開館時間数 時間外開館時間数(内数)	3,646 1,555	3,605 1,509	3,540 1,459	3,511 1,369	2,287 288	3,318 1,236		※時間外は、平日17:00以降及び土日祝日の開館時間
入館者数	学生(学部生・短大生)	127,915	130,289	123,924	117,912	15,535	103,115		
	大学院生	1,372	1,343	1,059	1,144	308	1,045		
	教職員	3,735	4,392	4,391	4,111	1,811	3,688		
	学外利用者	22,722	19,915	18,319	18,525	0	15,896		
	高校生の利用(内数)	6,987	5,273	5,263	6,893	0	4,883		
	合計	155,744	155,939	147,693	141,692	17,654	123,744		
	1日当たりの入館者数平均(通年)	491.30	495.00	484.20	454.10	75.80	400.08		
	授業期間平日の1日当たり入館者数平均	759.00	840.50	749.90	715.50	70.90	627.16		
学生1人当たりの年間入館回数平均	29.80	29.90	28.60	27.80	27.80	28.78			
貸出統計(図書)	学部生	1年次	5,737	6,460	6,294	6,497	1,379	5,273	
		2年次	6,515	6,935	5,100	4,522	2,258	5,066	
		3年次	9,502	8,073	8,027	6,501	3,031	7,027	
		4年次以上	12,529	11,798	11,597	10,264	5,833	10,404	
	短大生	1年次	9,741	11,399	9,458	7,996	1,268	7,972	
		2年次以上	6,818	5,939	4,676	2,420	649	4,100	
	大学院生	1,679	1,422	1,332	735	775	1,189		
	その他学生(研究生・留学生・科目等履修生等)	468	651	245	489	151	401		
	学生合計	52,989	52,677	46,729	39,424	15,344	41,433		
	教職員	4,873	5,357	5,809	5,246	3,673	4,992		
	学外利用者	7,737	7,435	8,926	7,945	803	6,569		
	卒業生(内数)	1,817	1,395	2,810	2,208	102	1,666		
	貸出合計	65,599	65,469	61,464	52,615	19,820	52,993		
	学部学生1人当たりの年間貸出冊数平均	9.00	8.58	8.01	7.26	3.29	7.23		
短大生1人当たりの年間貸出冊数平均	33.59	35.46	30.46	24.06	4.44	25.60			
大学院生1人当たりの年間貸出冊数平均	52.47	43.09	44.40	35.00	26.72	40.34			
情報検索支援	文献検索ガイダンス実施件数	254	258	181	169	45	181.40		
	文献検索ガイダンス受講数(延べ)	3,219	3,226	2,684	2,872	2,710	2,942		
図書館相互利用(ILL)	文献複写依頼	1,268	997	914	1,034	721	987	※相互利用の「依頼」は本学から他大学へ申し込んだ件数。受付は、他大学図書館等から申し込まれた件数。	
	学生の依頼(内数)	527	539	378	506	180	426		
	文献複写受付	732	697	808	815	950	800		
	文献貸借依頼	243	315	365	356	326	321		
	学生の依頼(内数)	120	121	86	96	83	101		
文献貸借受付	691	581	531	577	616	599			

X. 本学の宗教活動に関すること

1 各種行事等の出席者状況

(2016～2020)

(単位：名) (表X-1)

項目	年度		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	5年間平均 ※4
日常礼拝	出席者総数		4,225	4,383	3,455	3,952	※1	3,203
	出席者平均		33.3	34.8	29.0	33.5	—	26
宗教週間 (スミス・ミッションウイーク)	礼拝出席者総数		379	166	140	106	—	158
	講演会出席者数		369	251	289	257	—	233
宗教改革記念講演会	出席者数		77	90	60	234	—	92
スミス・ミッションセンター企画 (旧スミス・ミッションセンター講演会)	出席者数		68	38	89	216	—	82
チャペルコンサート	開催回数		6	6	7	7	3 ※2	5
	出席者総数		808	779	741	750	—	616
	出席者平均		135	130	106	107	—	96
ともに祈る会	開催回数		—	—	—	—	—	0
	出席者総数		—	—	—	—	—	0
	出席者平均		—	—	—	—	—	0
S M C 合宿旅行	出席者数		24	27	31	25	—	21
クリスマス礼拝	礼拝出席者総数		135	182	179	184	—	136
	祝会出席者数		72	64	65	83	—	57
卒業礼拝	礼拝出席者総数		113	117	119	—	52	70
	茶話会出席者数		43	62	42	—	※3	29
上記年間行事延べ出席者総数		6,313	6,159	5,210	5,807	0	4,698	

※「チャペル懇談会」は、1999年度以降の開催実績がないため、項目を削除した。

※1 2020年度の日常礼拝はコロナ対応のため配信形式をとった。

※2 2020年度のチャペルコンサートは、チャペルで録画した演奏動画を配信する形式をとった。

※3 2020年度の卒業礼拝は、礼拝自体は実施したが茶話会はコロナ対応により中止した。

※4 5年間平均に2020年度の数値は含めないこととする。

2 スミス・ミッションセンター主催諸行事実施状況〔2020年度〕

(表X-2)

	日 時	主 催 行 事 ・ 内 容	参 加 人 数	備 考
1	2020/10/26・ 10/27	チャペル・ピアノコンサート 小板橋 沙里 (ピアノ)・大久保 規子 (ピアノ) 「ペーターヴェン生誕250年記念企画」	-	無観客・ 録画配信形式
2	2020/10/29	宗教改革記念講演会 講演者：梅津 順一 演題：「プロテスタンティズムと自発結社の精神 - マックス・ヴェーバーの応用問題-」	-	録画配信形式
3	2020/11/30	クリスマスツリー点灯式	-	録画配信形式
4	2020/12/1	チャペルコンサート 大森 潤子 (ヴァイオリン) 「チャペルに響くバッハ 番外編」	-	録画配信形式
5	2020/12/16	パイプオルガンコンサート 上平 未奈 (オルガニスト) 「聖夜を待ち望むオルガン」	-	録画配信形式
6	2020/12/22	クリスマス礼拝 メッセンジャー：古川 敬康 (北星学園大学 理事長・ 学園長)	-	録画配信形式
7	2021/3/12	卒業・修了礼拝	52	

※ / は行事が2部構成になっている場合を指す (例) クリスマス礼拝参加者/クリスマス祝会参加者

3 スミス・ミッションセンター 震災等ボランティア派遣状況

1. 東北地方被災地ボランティア派遣 [2011-2016]

(表X-3-①)

年度	派遣弾	派遣期	派遣期間	期毎派遣人数	弾毎派遣人数	年度派遣人数	主な派遣先団体、活動場所
2011	第1弾	第1期	2011/4/14-19	17	17	102	釜石市災害ボランティアセンター
		第2弾	第1期	2011/7/7-7/10	4		8
		第2期	2011/7/22-7/24	4			
	第3弾	第1期	2011/8/16-8/23	7	29		GINGA-NETプロジェクト（岩手県立大学学生ボランティアセンター）：岩手県大槌、陸前高田、大船渡、釜石の各仮設住宅
		第2期	2011/8/24-8/30	6			
		第3期	2011/8/31-9/6	8			
		第4期	2011/9/7-9/13	8			
	第4弾	第1期a	2012/2/16-2/18	3	48		日本バプテスト連盟北海道・東北地方連合プロジェクト：岩手県野田村仮設住宅訪問
		第2期a	2012/3/15-3/17	3			
		第1期b	2012/2/27-3/4	10			
		第2期	2012/2/27-3/4	9			
		第3期	2012/3/5-3/11	9			
		第4期	2012/3/12-3/18	6			
	第5期	2012/3/19-3/25	8		遠野まごころネット：岩手県沿岸部		
2012	第5弾	第1期	2012/8/21-8/27	7	29	34	GINGA-NETプロジェクト（岩手県立大学学生ボランティアセンター）：岩手県釜石市及び沿岸部
		第2期	2012/8/28-9/3	6			
		第3期	2012/9/4-9/10	8			
		第4期	2012/9/11-17	8			
	第6弾	第1期	2013/2/11-2/18	5	5	日キ教団東北教区被災者支援センター	
2013	第7弾	第1期	2013/8/12-8/17	8	34	65	日本キリスト教団東北教区被災者支援センター「エマオ」：宮城県仙台市仮設住宅、笹屋敷地区、釜石市仮設住宅
		第2期	2013/8/19-8/24	6			
		第3期	2013/8/26-8/31	7			
		第4期	2013/9/2-9/7	8			
		第5期	2013/9/9-9/14	5			
	第8弾	第1期	2014/2/2-2/9	7	31	日本キリスト教団東北教区被災者支援センター「エマオ」：宮城県仙台市仮設住宅、笹屋敷地区、釜石市仮設住宅	
		第2期	2014/2/10-2/17	8			
		第3期	2014/2/17-2/24	7			
	第4期	2014/2/24-3/3	9				
2014	第9弾	第1期	2014/8/11-8/16	7	35	60	日本キリスト教団東北教区被災者支援センター「エマオ」：宮城県仙台市仮設住宅、笹屋敷地区、釜石市仮設住宅
		第2期	2014/8/18-8/23	7			
		第3期	2014/8/25-8/30	7			
		第4期	2014/9/1-9/6	7			
		第5期	2014/9/8-9/13	7			
	第10弾	第1期	2015/2/2-2/7	7	25	日本キリスト教団東北教区被災者支援センター「エマオ」：宮城県仙台市仮設住宅、笹屋敷地区、釜石市仮設住宅	
		第2期	2015/2/9-2/14	5			
		第3期	2015/2/16-2/21	6			
		第4期	2015/2/23-2/28	7			
2015	第11弾	第1期	2015/8/11-8/15	3	22	34	日本キリスト教団東北教区被災者支援センター「エマオ」：宮城県仙台市仮設住宅、笹屋敷地区、釜石市仮設住宅
		第2期	2015/8/18-8/22	3			
		第3期	2015/8/25-8/29	2			
		第4期	2015/9/1-9/5	8			
		第5期	2015/9/8-9/12	6			
	第12弾	第1期	2016/2/2-2/7	3	12	日本キリスト教団東北教区被災者支援センター「エマオ」：宮城県仙台市仮設住宅、笹屋敷地区、釜石市仮設住宅	
		第2期	2016/2/23-2/28	4			
		第3期	2016/3/15-3/20	3			
		第4期	2016/3/22-3/27	2			
2016	第13弾	第1期	2016/8/16-8/21	4	16	22	日本キリスト教団東北教区被災者支援センター「エマオ」：宮城県仙台市仮設住宅、笹屋敷地区、石巻市仮設住宅
		第2期	2016/8/23-8/28	4			
		第3期	2016/9/1-9/4	4			
		第4期	2016/9/6-9/11	4			
	第14弾	第1期	2017/1/31-2/5	2	6	日本キリスト教団東北教区被災者支援センター「エマオ」：宮城県仙台市仮設住宅、笹屋敷地区、石巻市仮設住宅	
		第2期	2017/2/7-2/12	2			
		第3期	2017/2/14-2/19	2			
総合計						317	

3 スミス・ミッションセンター 震災等ボランティア派遣状況

2. 熊本地震被災地支援ボランティア派遣 (2016-2019)

(表 X-3-②)

年度	派遣弾	派遣期間	派遣人数	年度派遣人数	主な派遣先団体、活動場所
2016	第1弾	2016/9/7-9/12	4	10	阿蘇YMCA： 熊本県阿蘇市及びその周辺地域
	第2弾	2017/2/10-2/15	6		阿蘇YMCA： 熊本県阿蘇市及びその周辺地域
2017	第3弾	①2017/8/28-9/2 ②2017/9/4-9/9	5 5	19	阿蘇YMCA： 熊本県阿蘇市及びその周辺地域
	第4弾	①2018/2/5-2/10 ②2018/2/16-2/21	5 4		阿蘇YMCA： 熊本県阿蘇市及びその周辺地域
2018	第5弾	①2018/8/14-8/21 ②2018/8/19-8/26	5 5	13	阿蘇YMCA： 熊本県阿蘇市及びその周辺地域
	第6弾	2019/2/21-2/26	3		阿蘇YMCA： 熊本県阿蘇市及びその周辺地域
2019	第7弾	2019/9/2-9/7	6	6	阿蘇YMCA： 熊本県阿蘇市及びその周辺地域
総合計				48	

3. 南富良野災害支援ボランティア派遣 (2016)

(表 X-3-③)

年度	派遣	派遣期間	派遣人数	年度派遣人数	主な派遣先団体、活動場所
2016	臨時	2016/11/5	20	20	南富良野町災害ボランティアセンター： 南富良野町及びその周辺地域

4. 国際ボランティア・ワークキャンプ派遣 (2015-2019)

(表 X-3-④)

年度	派遣	派遣期間	派遣人数	年度派遣人数	主な派遣先団体、活動場所
2015	第1回	2016/3/4-3/11	3	3	タイ王国パタヤ 社会福祉法人バーン・ジンジャイ
2016	第2回	2016/8/29-9/5	5	5	タイ王国パタヤ 社会福祉法人バーン・ジンジャイ
2017	第3回	2017/8/27-9/3	6	6	タイ王国パタヤ 社会福祉法人バーン・ジンジャイ
2018	第4回	2018/8/27-9/3	6	6	タイ王国パタヤ 社会福祉法人バーン・ジンジャイ
2019	第5回	2019/8/25-9/1	8	8	タイ王国パタヤ 社会福祉法人バーン・ジンジャイ
総合計				28	

5. 熊本学園大学被災地支援ボランティア派遣 (2017)

(表 X-3-⑤)

年度	派遣	派遣期間	派遣人数	年度派遣人数	主な派遣先団体、活動場所
2017	第1弾	2017/8/17-8/21	2	2	熊本学園大学ボランティアセンター： 熊本県益城町及びその周辺地域

6. 大学間連携災害ボランティアシンポジウム派遣 (2017-2020)

(表 X-3-⑥)

年度	派遣	派遣期間	派遣人数	年度派遣人数	主な派遣先団体、活動内容
2017	第1回	2017/12/16-12/17	2	2	東北学院大学災害ボランティアステーション事務局：北星ネット活動紹介、ポスター発表、ワークショップ参加等
2018	第2回	2018/12/15-12/16	3	3	東北学院大学災害ボランティアステーション事務局：北星ネット活動紹介、ポスター発表、ワークショップ参加等
2019	第3回	2019/12/14-12/15	3	3	東北学院大学災害ボランティアステーション事務局：北星ネット活動紹介、ポスター発表、ワークショップ参加等
2020	オンライン開催	2020/12/12	3	3	東北学院大学災害ボランティアステーション事務局：基調講演・パネルディスカッション等
総合計				11	

7. 東北学院大学との合同ボランティア企画派遣 (2018-2019)

(表 X-3-⑦)

年度	派遣	派遣期間	派遣人数	年度派遣人数	主な派遣先団体、活動場所
2018	第1回	2018/9/21-9/24	4	4	東北学院大学災害ボランティアステーション： 宮城県石巻市及びその周辺地域
2019	第2回	2019/8/18-8/22	6	6	東北学院大学災害ボランティアステーション： 宮城県石巻市及びその周辺地域
総合計				10	

8. 胆振東部地震被災地支援ボランティア派遣 (2018-2019)

(表 X-3-⑧)

年度	派遣	派遣期間	派遣人数	年度派遣人数	主な派遣先団体、活動場所
2018	第1回	2018/11/10	9	9	安平町災害ボランティアセンター： 安平町及びその周辺地域
2019	第2回	2019/10/26	3	3	むかわ町社会福祉協議会： 鶴川地区及びその周辺地域
総合計				12	

9. 「みやぎ招へいプログラム」派遣 (2019)

(表 X-3-⑨)

年度	派遣	派遣期間	派遣人数	年度派遣人数	主な派遣先団体、活動場所
2019	第1回	2019/11/23-11/24	2	2	復興大学災害ボランティアステーション： 東北学院大学キャンパス及び宮城各地域

XI. 本学の国際交流に関すること

1 国際交流に関する財源状況

[2016-2020]

(表XI-1)

項目	年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	5年間平均
大学会計〔当初予算額〕 ①国際交流費 ②国際交流教材費 ③(直接)一般事務管理費: 業務委託費 ④供与奨学金費		17,330,000	19,003,000	19,905,000	20,764,000	18,483,000	19,097,000
大学後援会からの補助		6,000,000	6,000,000	7,000,000	7,000,000	3,800,000	5,960,000
外国人留学生授業料減免額		200,000	257,000	297,000	497,000	1,191,000	488,400
私費外国人留学生奨学金*1		200,000	257,000	297,000	497,000	1,191,000	488,400
公益社団法人北海道国際交流・協力総合センターからの補助 *2		0	0	0	0	0	0
日本学生支援機構からの補助 *3		0	0	0	0	0	0
大学同窓会からの補助		0	0	1,000,000	1,000,000	0	400,000
合 計		23,730,000	25,517,000	28,499,000	29,758,000	24,665,000	26,433,800

*1 私費留学生経済的理由による減免

*2 旧社団法人北方圏センター 北海道外国人留学生国際交流支援事業助成金

*3 私費外国人留学生学習奨励費

2 学生及び教員の派遣状況

(1) 大学 [2016～2020]

(表XI-2-①)

		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	5年間平均	累計	備考
学 生	交換留学提携先派遣者数	18	25	15	23	0	16.2	746	
	ルイス&クラーク大学	2	3	1	2	2	2.0	151	※5
	ブエナ・ビスタ大学	2	3	1	4	4	2.8	116	※5
	セントオラフ大学	1	0	0	0	0	0.2	1	
	ジュニアータ大学※1	3	3	2	2	1	2.2	10	※5
	マンチェスター大学※2	0	0	1	0	0	0.2	1	
	ウィスコンシン大学ミウオキー校	/	/	/	0	0	0.0	0	2019年度協定開始
	ハワイ大学マウイカレッジ	/	/	/	0	0	0.0	0	2019年度協定開始
	ブレズレン大学連盟(B. C. A) ※3	/	/	/	/	/	0.0	239	
	大連外国語大学	0	0	0	0	0	0.0	80	
	リバプール ジョン・モーズ大学 ※4	/	/	/	/	/	0.0	24	
	セントラルランカシャー大学	0	0	1	0	0	0.2	5	
	リージェンツ大学	0	2	0	1	0	0.6	3	
	セント・トーマス大学	5	3	3	4	2	3.4	41	※5
	アルゴマ大学	0	0	0	0	0	0.0	3	
	サン・パブロ大学	0	2	2	1	0	1.0	6	
	ジュネーブ・ビジネススクール	0	0	1	1	1	0.6	5	
	カトリック大学校	3	4	0	4	0	2.2	32	
	東海大学	2	1	2	2	1	1.6	24	
	マラナタクリスチャン大学	0	4	1	2	0	1.4	7	
私費留学	0	36	41	43	23	28.6	/	休学して留学した学生	
計		18	61	56	66	23	44.8	/	
交 流 教 員 派 遣	ルイス&クラーク大学	0	0	0	0	0	0.0	0	
	ブエナ・ビスタ大学	0	0	0	0	0	0.0	0	
	ブレズレン大学連盟(B. C. A)	0	0	0	0	0	0.0	0	
	大連外国語大学	0	0	0	1	0	0.2	17	
	計	0	0	0	1	0	0.2	17	

※1.2 BCA協定終了後、直接協定。

※3 2013年度をもって終了。累計の人数には協定終了までの※1,2の大学分を含む。

※4 2013年度をもって終了。

※5 2020年度春期・秋期交換留学は中止。2019年秋派遣生でオンライン受講を継続したものを含む

2 学生及び教員の派遣状況

(2) 短期大学部

[2016~2020]

(表XI-2-②)

		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	5年間 平均	累計	備 考
学 生	提携先派遣者数	29	9	19	5	0	12.4	391	
	アメリカ								
	イースタン・メソナイト大学							3	
	ワシタバプティスト大学							1	
	メアリービル大学	0	0	0	0	0	0.0	11	
	ネブラスカ大学リンカーン校	0	0	0	0	0	0.0	1	
	ハワイ大学マウイカレッジ				1	0	0.5	1	
	カナダ								
	マラスピナ大学								24
	トリニティ・ウエスタン大学								2
	オカナガン大学	2	1	3	0	0	1.2	60	
	バンクーバー・アイランド大学	6	2	5	1	0	2.8	37	
	イギリス								
	ランカスター大学								0
	リーズ大学								6
	ソリハル大学								10
	コベントリー大学								18
	新ノッティンガム大学	8	0	0	0	0	1.6	62	
	ワーウィックシャー大学	6	0	0	0	0	1.2	22	
	サウス・アンド・シティ・カ レッジ・バーミンガム		4	8	1	0	3.3	13	
	オーストラリア								
	モナシュ大学								9
	ロイヤル・メルボルン工科大学								16
	タスマニア大学	0	0	0	0	0	0.0	0	
	ニュージーランド								
	クライストチャーチカレッジ・ オブ・イングリッシュ	3	2	3	2	0	2.0	65	
	マレーシア								
マレーシア・サインス大学	4	0	0	0	0	0.8	30		
私費留学	2	13	9	10	4	7.6		休学して留学 した学生	
計	31	22	28	15	4	20.0	391		

3 学生及び教員の学科別派遣状況〔2020年度〕

(1) 大学

(表XI-3-①)

	学部	文学部				経済学部						社会福祉学部						合計		
		英文		心理・応用 コミュニケーション		経済		経営情報		経済法		福祉計画		福祉臨床		福祉心理				
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
学 生	交換留学提携先派遣大学	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0
	ルイス&クラーク大学	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
	ブエナ・ビスタ大学	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0
	セント・オラフ大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ジュニアータ大学	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	マンチェスター大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ウィスコンシン大学 シルウォーキー校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハワイ大学 マウイカレッジ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	大連外国語大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	セントラル・ランカシャー大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	リージェンツ大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	セント・トーマス大学	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
	アルゴマ大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	サン・パブロ大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ジュネーブ・ビジネススクール	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	カトリック大学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	東海大学	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
マラナタ・クリスチャン大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
私費留学	9	6	1	0	5	5	2	2	2	1	0	0	0	1	5	2	24	17		
計	20	6	1	0	5	5	2	2	2	1	0	0	0	1	5	2	35	17		
交 流 派 遣 員	ルイス&クラーク大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブエナ・ビスタ大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	大連外国語大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

3 学生及び教員の学科別派遣状況〔2020年度〕

(2) 短期大学部

(表XI-3-②)

	学科	英 文		生活創造学科		合 計		備 考	
	期	春	秋	春	秋	春	秋		
学 生	提携先派遣大学	0	0	0	0	0	0		
	アメリカ								
	イースタン・メノナイト大学	0	0	0	0	0	0		
	ワシタバプティスト大学	0	0	0	0	0	0		
	メアリービル大学	0	0	0	0	0	0		
	ネブラスカ大学リンカーン校	0	0	0	0	0	0		
	ハワイ大学マウイカレッジ	0	0	0	0	0	0		
	カナダ								
	マラスピナ大学	0	0	0	0	0	0		
	トリニティ・ウエスタン大学	0	0	0	0	0	0		
	オカナガン大学	0	0	0	0	0	0		
	バンクーバー・アイランド大学	0	0	0	0	0	0		
	イギリス								
	ランカスター大学	0	0	0	0	0	0		
	リーズ大学	0	0	0	0	0	0		
	ソリハル大学	0	0	0	0	0	0		
	コベントリー大学	0	0	0	0	0	0		
	新ノッティンガム大学	0	0	0	0	0	0		
	ワーウィックシャー大学	0	0	0	0	0	0		
	サウス・アンド・シティ・カレッジ・バーミンガム	0	0	0	0	0	0		
	オーストラリア								
	モナシュ大学	0	0	0	0	0	0		
	ロイヤル・メルボルン工科大学	0	0	0	0	0	0		
	タスマニア大学	0	0	0	0	0	0		
	ニュージーランド								
	クライストチャーチカレッジ・オブ・イングリッシュ	0	0	0	0	0	0		
	マレーシア								
	マレーシア・サインス大学	0	0	0	0	0	0		
	私費留学		3	3	0	0	3	3	休学して留学した学生
	計		3	3	0	0	3	3	

4 学生及び教員の受入状況

(1) 大学 [2016-2020]

(表XI-4-①)

		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	5年間平均	累計	備考
交換留学提携先受入者数		59	53	59	63	7	48.2	1,681	※注4
	ルイス&クラーク大学	4	1	2	2	0	1.8	417	※注1
	ブエナ・ビスタ大学	1	2	0	1	0	0.8	75	
	ジュニアータ大学	2	1	2	2	0	1.4	42	
	マンチェスター大学	0	1	4	1	0	1.2	28	
	ウィスコンシン大学ミッドウエスタ校				0	0	0.0	0	2019年度協定開始
	ハワイ大学 マウイカレッジ				0	0	0.0	0	2019年度協定開始
	大連外国語大学	7	7	7	7	0	5.6	154	※注2
	リージェンツ大学	1	0	1	0	0	0.4	8	
	セント・トーマス大学	1	1	0	0	0	0.4	23	
	カトリック大学校	23	20	20	22	0	17.0	339	※注3
	セントラル・ランカシャー大学	3	4	4	5	3	3.8	33	※注5
	マラナタ・クリスチャン大学	4	4	5	9	0	4.4	32	※注2
	ジュネーブ・ビジネススクール	2	2	5	3	0	2.4	18	
	サン・パブロ大学	0	0	0	1	1	0.4	12	※注5
	東海大学	9	9	7	9	2	7.2	133	※注2
	セント・オラフ大学	2	1	2	1	1	1.4	7	
私費外国人留学生数		0	1	1	1	2	1.0	48	「外国人特別入試」による入学者数と「一般外国人留学生」数を計上
計		0	1	1	1	2	1.0	48	
教交受	大連外国語大学	1	1	1	1	0	0.8	31	2019年度単独協定終了
員流入	計	1	1	1	1	0	0.8	51	協定終了済の過去教員含

数字は単年度毎の受入数：前年度からまたがる継続生は両方の年度でカウントした。

春～秋の1年間在籍者は1名でカウントした。

※注1 協定に基づく受入れ実績をすべて計上。

※注2 覚書による短期招聘学生数を含む。

※注3 覚書による短期招聘学生数及び覚書による短期留学生数を含む。

※注4 2020年度は春期・秋期ともに交換留学新規受入停止。2020年度春期のみ、2019年度秋期から1年間交換の留学生が在籍していた。

※注5 長期休暇一時帰国後新型コロナウイルスの影響により再入国困難となった学生数(在籍を続けて遠隔授業により単位取得)含む

(2) 短期大学部 [2016-2020]

(表XI-4-②)

		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	5年間平均	累計	備考
学生	私費外国人留学生数	0	0	0	0	0	0.0	2	「外国人特別入試」による入学者数と「一般外国人留学生」数を計上

(3) 大学院 [2016-2020]

(表XI-4-③)

		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	5年間平均	累計	備考
学生	大連外国語大学特別入試による留学生数	1	0	0	1	2	0.8	10	※注1
学生	外国人留学生数 (私費留学生)	0	0	0	1	2	0.6	60	「外国人特別入試」による入学者数と「一般外国人留学生」数を計上

5 学生及び教員の学科別受け入れ状況〔2020年度〕

(1) 大学

(表XI-5)

	学部 学科 期	文学部				経済学部						社会福祉学部						合計		
		英文		心理・応用 コミュニケーション		経済		経営情報		経済法		福祉計画		福祉臨床		福祉心理				
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
学 生	交換留学提携先受入大学	6	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0
	ルイス&クラーク大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブエナ・ビスタ大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ジュニアータ大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	マンチェスター大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ウイスコンシン大学ミルウォーキー校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハワイ大学マウイカレッジ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	大連外国語大学 *1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	リージェンツ大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	セント・トーマス大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	カトリック大学校 *1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	セントラルランカシャー大学	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
	マラナタクリスチャン大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ジュネーブ ビジネススクール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	サン・パブロ大学	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	東海大学	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
セントオラフ大学	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
計	6	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	
交 流 受 入 教 員	ルイス&クラーク大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブエナ・ビスタ大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	大連外国語大学 *2	0	0	0	0	0						0	0	0	0	0	0	0	0	
	カトリック大学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0				0						0						0			

*1 春―秋の1年間在籍者は便宜上、「春」でカウント。

*2 交流教員は学科所属なし。春―秋の1年間在籍。

6 受入交換留学生のためのホームステイ状況

[2016-2020]

(表XI-6)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	5年間平均	備考
登録件数 (a)	40	46	52	53	0	38.2	2015年度からショートホームステイ開始
※利用件数 (b)	19	14	30	29	0	18.4	
充足率 (b)/(a)	47.5%	30.4%	57.7%	54.7%	0.0%	38.1%	

※ 利用件数は、同じホストファミリーが前期と後期に同じ学生を引き受けた場合は1件、違う学生を引き受けた場合は2件として計上する。

※ 2012年度は学期途中で別のホストファミリー宅へ移動した学生1名有り、その場合は2件として計上する。

※ ショートホームステイについて、ホストファミリー1家庭が同一日に2名以上の学生を引き受けた場合も1件として計上する。

※ 2020年度春期在籍の留学生は協定に関わらず学生交流会館kirari滞在。

7 外国人留学生の奨学金受給率

[2016-2020]

(表XI-7)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	5年間平均	備考
外国人留学生数 (a)	1	1	1	3	6	2.4	「外国人特別入試」による入学者数と「一般外国人留学生」数を計上
内奨学金受給者 (b)	1	1	1	2	5	2.0	
受給率 (b)/(a)	100.0%	100.0%	100.0%	66.7%	83.3%	90%	

※ 外国人留学生数は、「留学」の在留資格を持って学部及び大学院に在籍する正規学生の合計数である。

ただし、本学の外国人特別入試制度を使わず入学した留学生(便宜的に一般外国人留学生と呼ぶ)は本学独自の奨学金対象にはならない。

一般外国人留学生は、大学を通して応募するものなど、大学で把握できる政府・民間の奨学金受給をしている場合に限り、「内奨学金受給者」に計上。

8 国際教育センターイベント及び国際ラウンジ利用状況〔2020年度〕

(表XI-8)

回	主催	日程	イベント名(項目別)	国際ラウンジ 利用人数
授業関係				
0			国際ラウンジでの開催はなし	
1	日本語教員	07月27日	オンラインで留学生日本語スピーチ練習を行った	7
海外渡航・派遣留学関係				
国際ラウンジでの開催はなし				
オンラインにて派遣留学報告会を実施した				
1	センター	11月09日	ジュニアータ大学	8
2	センター	11月11日	韓国カトリック大学	6
3	センター	11月13日	ルイス&クラーク大学	7
4	センター	11月16日	台湾・東海大学	2
5	センター	11月17日	セント・トーマス大学	7
6	センター	11月19日	ブエナ・ビスタ大学	7
7	センター	11月24日	マラナタ・クリスチャン大学	4
8	センター	11月26日	リージェンツ大学	5
9	センター	11月30日	ジュニアータ大学②	5
10	センター	12月02日	ジュネーブ・ビジネススクール	5
11	センター	12月04日	サン・パブロ大学	4
12	センター	12月07日	マンチェスター大学	6
13	センター	12月09日	台湾・東海大学②	5
14	センター	12月11日	セント・トーマス大学②	8
留学生交流関係等				
国際ラウンジでの開催はなし				
1	センター	07月29日	感染対策を行ったたうネキラリ屋外にて、受入れ留学生送別会を行った	11
2	センター	07月27日	感染対策を行った上、受入留学生とウポポイ見学ツアーを行った	8
3	HUIT	11月8日	オンラインにてセントラル・ランカシャー大学学生とHUIT及び本学学生の語学交流会を行った	30
4	EASCOM	11月28日	オンラインにてEASCOMプレゼンテーション発表をアジア協定校学生と行った(延べ人数)	72
語学関係				
国際ラウンジで開催なし				
1	ゲッツ教授他	12月11日	オンラインにて外国語朗読会を行った	18
その他				
1	マウン教授	06月10日	短大英文科パンフ撮影	4
2	学内	07月21日	広報用撮影	4
3	学内	12月01日	入試広報用撮影	4
4	学内	02月16日	広報用撮影	5
5	西原准教授	02月26日	マスコミ取材	6
6	学内	03月08日	広報用撮影	3
地域交流				
国際ラウンジでの開催はなし				
1	国際センター 言語部門 英文学科	11月16日～ 12月18日	オンラインにてEnglishCampOnline020を行った(延べ人数)	191

8 国際教育センターイベント及び国際ラウンジ利用状況〔2020年度〕

(表XI-8)

回	主催	日程	イベント名 (項目別)	国際ラウンジ 利用人数
			ミーティング 関連	
			国際ラウンジでの開催はなし	
1	HUIT	04月30日	HUITミーティング	7
2	HUIT	05月08日	HUITミーティング	5
3	HUIT	05月12日	HUITミーティング	6
4	HUIT	05月19日	HUITミーティング	6
5	HUIT	05月06日	HUITミーティング	5
6	HUIT	06月02日	HUITミーティング	7
7	HUIT	06月09日	HUITミーティング	5
8	HUIT	06月16日	HUITミーティング	6
9	HUIT	06月23日	HUITミーティング	5
10	HUIT	06月30日	HUITミーティング	7
11	HUIT	07月07日	HUITミーティング	6
12	HUIT	07月13日	HUITミーティング	6
13	HUIT	07月21日	HUITミーティング	6
14	HUIT	07月28日	HUITミーティング	5
15	HUIT	08月04日	HUITミーティング	8
16	HUIT	09月29日	HUITミーティング	7
17	HUIT	10月06日	HUITミーティング	6
18	HUIT	10月20日	HUITミーティング	4
19	HUIT	10月29日	HUITミーティング	7
20	HUIT	11月10日	HUITミーティング	7
21	HUIT	11月17日	HUITミーティング	6
22	HUIT	11月24日	HUITミーティング	7
23	HUIT	12月01日	HUITミーティング	6
24	HUIT	12月08日	HUITミーティング	6
25	HUIT	12月15日	HUITミーティング	6
26	HUIT	12月19日	HUITミーティング	6
27	グレイ教授	12月22日	HUIT任命式	8
28	HUIT	01月12日	HUITミーティング	7
29	HUIT	01月19日	HUITミーティング	7
30	HUIT	02月03日	HUITミーティング	8
31	HUIT	02月10日	HUITミーティング	6
32	HUIT	03月17日	HUITミーティング	6

◎ 2020年度はCOVID-19蔓延に伴い、感染防止の為ラウンジでのイベントは行われなかった。

そのため従来ラウンジで行っていたものでオンライン化したものをカウントしている

2020年度

国際教育センター イベント件数(オンライン含む・ミーティングは除く)	21件
利用者 合計(オンライン含む 延べ)	642人
国際ラウンジ利用イベント等件数	0件
利用者 合計(延べ)	26人

Ⅻ. 本学の社会との連携交流に関すること

1 大学公開講座の開催状況

[2016年度～2020年度]

(表Ⅻ-1)

年度	通算	メインテーマ及び講座名(担当者)	開催期間等	担当学科等	受講費及び受講者数等
2016年度	41	テマ『現代教育の必須アイテムを探る -子どもの明日に必要なことは?』 ①「障害者差別解消法施行にみる 共生社会をめざした教育とは」 田実 潔 ②「オープンデータ化と情報教育」 古谷 次郎 ③「子どもが学ぶ英語教育ワークショップ」 江口 均 ④「今、スポーツ教育に必要なこと- 自主、自立を促す指導とは」 掛屋 忠義 ⑤「危機の時代の教育思想- ルソーの教育哲学から学ぶ」 鈴木 剛 ⑥「18歳選挙権時代の『主権者教育』」 高杉 巴彦	9月23日(金) 9月30日(金) 10月7日(金) 10月14日(金) 10月21日(金) 10月28日(金)	教職部門	一般 ¥2,000 × 70人 学生 ¥1,000 × 1人 収入額 ¥141,000 支出額 ¥1,469,737 収支 ¥-1,328,737
2017年度	42	テマ『グローバル資本主義と経済学』 ①経済の中に倫理を見いだす -資本主義の新しい形と伝統芸能 岩井 克人 ②越境する社会空間 竹野内 真樹 ③経済学と環境問題 野原 克仁 ④ファストファッションから考える グローバル資本主義の闇とフェアトレード 萱野 智篤 ⑤「資本主義はなぜ続いてしまうのか」という問い -マルクス生誕200年と宇野弘蔵 勝村 務 ⑥資本主義の終末論 田村 信一	9月21日(木) 9月29日(金) 10月6日(金) 10月13日(金) 10月20日(金) 10月27日(金)	経済	一般 ¥2,000 × 135人 学生 ¥1,000 × 21人 収入額 ¥291,000 支出額 ¥1,168,388 収支 ¥-877,388
2018年度	43	テマ『デジタル社会とビジネス・経営 -デジタルとヒューマンの融合-』 ①デジタル時代の経営、生き方、そして生きる意味 小川 長 ②仮想通貨について考える 山口 博教 ③マーケティング4.0を読み解く ~デジタル時代のマーケティングとは?~ 西脇 隆二 ④ヒューマンセンシング技術の研究開発 林 秀彦 ⑤ICT(情報通信技術)の進展と国際ビジネス 多田 和美 ⑥経営者のための情報セキュリティ 佐藤 友暁	9月28日(金) 10月5日(金) 10月12日(金) 10月19日(金) 10月26日(金) 11月2日(金)	経営情報	一般 ¥2,000 × 72人 学生 ¥1,000 × 1人 収入額 ¥145,000 支出額 ¥1,640,658 収支 ¥-1,495,658
2019年度	44	テマ『北海道から考える地域・国際社会のコミュニケーション ~人と人が支え合う社会を目指して~』 ①「チャイルドラインほっかいどう」の活動から考える 子ども達の生きづらさを支える社会 田辺 毅彦 ②子どもたちや高齢者を支えるやさしいまちづくりを目指して 北澤 一利 ③子どもが育つ環境づくり -コミュニケーションの視点から- 柿原 久仁佳 ④地域の中で学ぶ -大学での学びを導く「現場」- 石川 悟 ⑤地域再生のコミュニティ論 -日本とドイツの事例に学ぶ 寺林 暁良 ⑥競争と共生は両立できるか 阪井 宏 -英国・田舎暮らしで見えたこと-	9月27日(金) 10月4日(金) 10月11日(金) 10月18日(金) 10月25日(金) 11月1日(金)	心理・応用 コミュニケーション	一般 ¥2,000 × 53人 学生 ¥1,000 × 0人 収入額 ¥106,000 支出額 ¥888,221 収支 ¥-782,221
2020年度	45	コロナ禍により中止		短大英文	一般 ¥2,000 × 0人 学生 ¥1,000 × 0人 収入額 ¥0 支出額 ¥0 収支 ¥0
		総収支額	¥-4,484,004	総受講者数	353

2 学科・部門等公開講座の開催状況

[2016年度～2020年度]

(表XII-2)

年度	メインテーマ及び講座名(担当者)	開催期間等	担当学科等	受講者数	
2016年度	メディアは何を伝えるのか～真実とは何か、虚偽とは何か、多様な視点をもとう～(森 達也)	6.10(金)Ⅱ	心理・応用コ	85	
	「担保物権法」講演会(佐藤 聡彦)	7.4(月)Ⅳ	経 済 法	35	
	ブルーバッジガイドから見た英国の魅力～次世代につながるホスピタリティの心(スーザン・キング)	7.12(火)Ⅱ	短 大 英 文	201	
	現代イスラームにおける「聖戦(ジハード)」の観念とテロリズム(池内 恵)	7.12(火)Ⅴ	共 通 部 門	225	
	伝統 現代 未来を共にある大地から(結城 幸司)	11.8(火)Ⅱ	共 通 部 門	124	
	母子家庭と貧困(流石 智子)	11.12(土)Ⅱ	計 画	33	
	国際協力とコミュニティ開発～女性への支援という視点から(今里 いさ)	12.22(木)Ⅳ	短 大 生 活	85	
	宗教の未来～近代から現代へのベクトルの延長線上を見て(宇都宮 輝夫)	1.17(火)Ⅴ	共 通 部 門	282	
	所要経費等(収入額 0円、支出額 777,268円、収支)		収支	-777,268	
2017年度	"Fight to the Bitter End? Katsu Kaishu and Fukuzawa Yukichi"(ダグラス・スティフラー)	5.30(火)Ⅱ	国 際 教 育	190	
	A Poetry Reading by Neal Hall(ニール・ホール)	9.28(木)Ⅳ	言 語 教 育	187	
	北海道米はこうして売れた ～ゆめびりかの広告事例から～(碓井 雅博)	10.27(金)Ⅳ	経 営 情 報	97	
	子どもの学ぶ力と可能性を信じる教育 ～カナダ・ノヴァスコシア州、特別支援学校の実践から学ぶ～(ピーター・コール)	10.30(月)Ⅵ	福 祉 臨 床	47	
	メディアの進化と表現の深化(澤本 嘉光)	11.10(金)Ⅳ	経 営 情 報	105	
	所要経費等(収入額 0円、支出額 387,681円)		収支	-387,681	
2018年度	ソーシャルワーカーに必要なスキルを学ぶ(前田 ケイ)	6.8(金)ⅣⅤ	福 祉 臨 床	153	
	証券論(後藤 英仁)	7.6(金)Ⅳ	経 済 法	4	
	Introduction to Sustainable Tourism(岡本 洋平)	7.11(水)Ⅵ	短 大 英 文	140	
	Going Global!:国際社会で活躍するための心得とは(西村 由賀里)	10.2(火)Ⅳ	大 学 英 文	161	
	国際広告賞に見る流れと最近国内の流れ ～海外CMの傾向からこれからの広告を考える～(澤本 嘉光)	10.5(金)Ⅳ	経 営 情 報	54	
	バイク便からセブ大手語学学校経営者へ(藤岡 頼光)	10.19(金)Ⅲ	経 済	179	
	レジリエンスを育む ～逆境下における前向きな成長を促す社会的・物的環境のインパクト(ウンガー・マイケル)	10.26(金)Ⅱ	福 祉 臨 床	142	
	社会保障制度と持続可能性 ～これからの社会保障制度に求められる視点～(菊地 馨実)	11.12(月)Ⅴ	福 祉 計 画	283	
	私がラジオを通して伝えたいこと(吉川 典雄)	11.29(水)Ⅴ	心理応用コミュニケーショ	252	
	History and Citizenship Education from Comparative Perspectives - Singapore, Australia, Japan and Beyond -(ヤオトン・チア)	1.9(水)Ⅴ	言 語 教 育 部 門	62	
	LGBTQ Young People : Inequalities and Futures(ピクトリア・ローリングス)	1.10(木)Ⅴ	言 語 教 育 部 門	82	
	所要経費等(収入額 0円、支出額 863,412円)		収支	-863,412	
	2019年度	60歳までに実際にいくら、どうやって貯めればいいのか? ～人生100年時代を有意義に過ごすために～	6.1(土)Ⅲ	経 済 法	22
近時の企業や自治体における地域密着型ブランド戦略の状況及び問題点		7.29(金)Ⅱ	経 済 法	115	
映像クリエイティブに何ができるか ～CM制作の現場から～		10.29(火)Ⅳ	経 営 情 報	110	
持続可能な社会保障と生活保障		11.12(火)Ⅲ	福 祉 計 画	124	
国際化を模索するSF者たち		11.15(金)Ⅲ	言 語 教 育 部 門	25	
映像クリエイティブ～言葉の持つチカラ		10.31(木)Ⅴ	経 営 情 報	95	
所要経費等(収入額 0円、支出額 627,652円)			収支	-627,652	
2020年度	コロナ禍により開催なし				
	所要経費等(収入額 0円、支出額 0円)		収支	0	
		総収支額	-2,656,013	総受講者数	3,699

3 社会福祉学部地域連携事業の開催状況

[2016年度～2020年度]

(表Ⅱ-3-①)

年度	講義名	派遣講師名	開催日	派遣先	受講者数	
2016年度	演習：基本的なコミュニケーションと傾聴	栗山 隆	5/28 (土)	岩内町	30	
	人と人が結びつき盛り上がっているある連合町内会の仕掛け	岡田 直人	7/ 3 (日)	標津町	30	
	障害者の虐待防止と差別	田中 耕一郎	8/ 2 (火)	遠軽町	100	
	人と人が結びつき盛り上がっているある連合町内会の仕掛け	岡田 直人	8/ 3 (水)	音更町	120	
	地域の支援計画に基づいた地域福祉活動(小地域ネットワーク活動)等の仕掛けの作り方	岡田 直人	8/10 (水)	幕別町	30	
	地産地消文化を推進するためのコミュニティレストラン	杉岡 直人	8/18 (木)	稚内市	15	
	人と人が結びつき盛り上がっているある連合町内会の仕掛け	岡田 直人	8/30 (火)	黒松内町	30	
	地域の支援計画に基づいた地域福祉活動(小地域ネットワーク活動)等の仕掛けの作り方	岡田 直人	9/ 2 (金)	岩内町	15	
	演習：基本的なコミュニケーションと傾聴	栗山 隆	10/ 6 (木)	遠別町	30	
	乳幼児期(0歳～3歳)の子どもを理解する	牧田 浩一	10/19 (水)	砂川市	15	
	カンファレンス-子ども虐待をめぐる-	栗山 隆	10/27 (木)	函館市	20	
	発達障害(がいの)理解と支援	田実 潔	10/29 (土)	稚内市	100	
	人と人が結びつき盛り上がっているある連合町内会の仕掛け	岡田 直人	11/20 (日)	興部町	50	
	障害者の虐待防止と差別解消に向けて	田中 耕一郎	2/13 (月)	札幌市	25	
	ワークショップ：傾聴の姿勢を身につけるための研修	今川 民雄	3/ 9 (木)	新篠津村	30	
所要経費等(15件分) 支出額 790,446 円(予算額:908,000 円/15件分)						
2017年度	今後の地域福祉のあり方 -全国の先進地域から学ぶ-	岡田 直人	6/26 (月)	滝上町	43	
	乳幼児期(0歳～3歳)の子どもを理解する	牧田 浩一	7/1 (土)	鹿追町	30	
	乳幼児期(0歳～3歳)の子どもを理解する	牧田 浩一	7/19 (水)	真狩村	30	
	「幸福」とは何か	ネジューティール	7/21 (金)	由仁町	35	
	町内会の加入促進と担い手育成	岡田 直人	8/3 (木)	札幌市	169	
	地域包括ケアとまちづくり	杉岡 直人	8/7 (月)	音更町	126	
	今後の地域福祉のあり方 -全国の先進地域から学ぶ-	岡田 直人	8/12 (土)	むかわ町	43	
	利用者・家族からの支援に対する要求や苦情	中村 和彦	8/22 (火)	福島町	40	
	ワークショップ：傾聴の姿勢を身につけるための研修	今川 民雄	9/6 (水)	恵庭市	10	
	ふれあいサロン活動の進め方 ～継続と活性化に向けた～	岡田 直人	9/27 (水)	八雲町	42	
	事例検討 ソーシャルワーク実践のポイントを振り返る	中村 和彦	10/7 (土)	稚内市	30	
	演習：対人援助の基礎・自他の価値観	栗山 隆	11/9 (木)	札幌市	20	
	発達障害の理解と支援	田実 潔	11/15 (水)	紋別市	50	
	演習：対人援助の基礎・自他の価値観	栗山 隆	11/28 (火)	札幌市	20	
	「利用者の自己決定」からソーシャルワークを考える	中村 和彦	12/5 (火)	芦別市	35	
	地域の支え合い活動への新たな住民ボランティアの参加に向けて	岡田 直人	12/9 (土)	標茶町	92	
	障害者運動は何を訴えてきたのか -日本とイギリスの障害者運動史から-	田中 耕一郎	12/16 (土)	札幌市	40	
	社会福祉実習におけるスーパービジョン	伊藤 新一郎	1/24 (水)	札幌市	20	
所要経費等(18件分) 支出額 852,126 円(予算額:858,000 円/18件分)						
2018年度	地域への支え合い活動へのアクティブシニアの参加に向けて	岡田 直人	6/25(金)	足寄町	30	
	障害者運動は何を訴えてきたのか	田中 耕一郎	7/17 (火)	岩見沢市	80	
	被虐待児の心理～子どもの心の治療～	牧田 浩一	7/19 (木)	長沼町	45	
	地域包括ケアとまちづくり	杉岡 直人	7/6 (金)	池田町	120	
	町内会活動にどう関わればいいのか	杉岡 直人	8/29 (水)	音更町	150	
	お金をもらうボランティア活動の捉え方	杉岡 直人	8/30 (木)	釧路市	50	
	発達障害の理解と支援	田実 潔	10/11 (木)	札幌市内	21	
	人と人が結びつき盛り上がっている連合町内会の仕掛け	岡田 直人	10/12 (金)	滝川市	100	
	障害者運動は何を訴えてきたのか	田中 耕一郎	10/14 (日)	新ひだか町	68	
	ワークショップ：傾聴の姿勢を身につけるための研修	今川 民雄	10/24 (水)	帯広市	40	
	地域の支え合い活動への地域住民の参加に向けて	岡田 直人	10/28 (日)	松前町	80	
	発達障害(がいの)理解と支援	田実 潔	10/30 (火)	岩見沢市	22	
	思春期の心理を理解する	牧田 浩一	11/23 (金)	登別市	21	
	親子の愛着形成と思春期に大切なこと	牧田 浩一	11/5 (月)	紋別市	56	
	英国障害者運動と社会モデルの考え方	田中 耕一郎	12/1 (土)	札幌市	40	
	わが国における社会福祉理論の歴史と展望	佐橋 克彦	12/21 (金)	札幌市内	30	
	町内会活動にどう関わればいいのか	杉岡 直人	12/5(木)	札幌市内	30	
	地域の支え合い活動への新たな住民ボランティアの参加に向けて ～ふくしでまちづくりで地域共生社会の実現を～	岡田 直人	3/2 (土)	紋別市	60	
	所要経費等(18件分) 支出額 848,728 円(予算額:840,000 円/18件分)					

3 社会福祉学部地域連携事業の開催状況

[2016年度～2020年度]

(表Ⅺ-3-②)

2019年度	乳幼児期(0～3歳)の子どもを理解する	牧田 浩一	9/25 (水)	遠別町	15
	利用者・家族からの支援に対する要求や苦情	中村 和彦	8/6(火)	佐呂間町	45
	今後の地域福祉のあり方 -全国の先進事例から学ぶ	岡田 直人	6/12 (水)	苫小牧市	100
	演習：対人援助の基礎・自他の価値観	栗山 隆	8/9 (金)	北見市	30
	「幸福」とはなにか	K. Uネンシュティール	6/12(金)	南幌町	46
	社会福祉事業者における法令順守入門	林 健太郎	7/12 (金)	美唄市	36
	被虐待児の心理 ～子どもの心の治療～	牧田 浩一	11/7 (木)	札幌市内	90
	生活困窮の実態とその支援について	松岡 是伸	10/10 (木)	札幌市内	17
	ふれあいサロン活動の進め方 ～継続と活性化に向けて～	岡田 直人	6/26 (水)	室蘭市	141
	基本的なコミュニケーションと傾聴	栗山 隆	9/30(月)	函館市	40
	地域の支え合い活動への新たな住民ボランティアの参加に向けて～ふくしでまちづくりで地域共生社会の実現を～	岡田 直人	9/9 (月)	湧別町	115
	地域の支え合い活動への新たな住民ボランティアの参加に向けて～ふくしでまちづくりで地域共生社会の実現を～	岡田 直人	10/7 (月)	豊富町	46
	地域の支え合い活動への新たな住民ボランティアの参加に向けて～ふくしでまちづくりで地域共生社会の実現を～	岡田 直人	8/10 (土)	鶴居村	50
	発達障害(がい)の理解と支援	田実 潔	7/18(木)	札幌市内	15
	地域の支え合い活動への地域住民の参加に向けて	岡田 直人	11/11 (月)	新得町	50
	地域の支え合い活動への「地域住民」の参加に向けて	岡田 直人	12/11 (水)	黒松内町	14
	人と人が結びつき盛り上がっているある町内会連合の仕掛け ～一人ではできないから、協力者を増やす要諦とは～	岡田 直人	2/11 (火)	厚岸町	92
	所要経費等 (17件分) 支出額 875,036円 (予算額 : 938,000 円/18件分)				

2020年度	コロナ禍により派遣なし				
	所要経費等 (0件分) 支出額 0円 (予算額 : 612,000 円/18件分)				

4 障害児教育夏季セミナーの開催状況

[2016年度～2020年度]

(表ⅩⅢ-4)

年度	通算	メインテーマ及び講座名 (担当者)	開催期間等	担当学科等	受講費及び受講者数等
2016年度	12	<p>メインテーマ「障害のある人への認知行動療法とは」</p> <p>基調講演 『発達障害のある人への認知行動療法の基礎』 嶋田 洋徳</p> <p>対談・事例研究 『教育現場でできる認知行動療法(仮)』 嶋田 洋徳、田実 潔 司会(質疑・応答)：藤原 里佐</p>	8/9(火)	教職部門	<p>一般 ¥1,000 × 189人 学生 ¥0 × 13人 職員 ¥0 × 0人</p> <p>収入額 ¥189,000 支出額 ¥384,132 収支 ¥-195,132</p>
2017年度	13	<p>メインテーマ「気になる・困った行動への教育的支援の在り方」</p> <p>基調講演Ⅰ 『気になる・困った行動への教育的支援の在り方Ⅰ』 藤原 義博</p> <p>基調講演Ⅱ 『気になる・困った行動への教育的支援の在り方Ⅱ』 司会(質疑・応答)：田実 潔</p>	8/7(月)	教職部門	<p>一般 ¥1,000 × 262人 学生 ¥0 × 3人 職員 ¥0 × 0人</p> <p>収入額 ¥262,000 支出額 ¥355,399 収支 ¥-93,399</p>
2018年度	14	<p>メインテーマ「発達障害のある児童生徒の具体的支援 ～将来の就労を見据えて今できること」</p> <p>基調講演 『発達障害のある児童生徒の具体的支援』 梅永 雄二</p> <p>対談・事例研究 『将来の進路や就労に向けて、今できる支援は何か』 梅永 雄二、田実 潔 司会：播磨 正一</p>	8/8(水)	教職部門	<p>一般 ¥1,000 × 191人 学生 ¥0 × 7人 職員 ¥0 × 4人</p> <p>収入額 ¥191,000 支出額 ¥395,074 収支 ¥-204,074</p>
2019年度	15	<p>メインテーマ「発達が気になる子のステキを伸ばす」</p> <p>基調講演 『発達障害のある児童生徒の具体的支援 ～自尊感情を下げないためにできること』 加藤 潔</p> <p>対談・事例研究 『将来の進路や就労に向けて、今できる支援は何か』 加藤 潔、田実 潔 司会：鳴海 昌江</p>	8/9(金)	教職部門	<p>一般 ¥1,000 × 233人 学生 ¥0 × 1人 職員 ¥0 × 2人</p> <p>更新講習 18人</p> <p>収入額 ¥314,000 支出額 ¥276,880 収支 ¥37,120</p>
2020年度	16	<p>メインテーマ「学校を舞台とする多職種連携 ～支援を必要とする子どもたちと保護者および先生たちのために～」</p> <p>基調講演 『学校を舞台とする多職種連携』 大石 幸二</p> <p>対談・事例研究 『学校を舞台とする多職種連携』 大石 幸二、田実 潔 司会：播磨 正一</p>	11/28(土) オンライン 開催	教職部門	<p>一般 ¥1,000 × 57人 学生 ¥0 × 2人 職員 ¥0 × 0人</p> <p>更新講習 0人</p> <p>収入額 ¥57,000 支出額 ¥88,162 収支 ¥-31,162</p>

5 学部別研究生の受入状況

[2016~2020]

単位 (人)

(表Ⅺ-5)

受入学部		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	5年間平均	備考
研究生	文学部	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0.2 (0.2)	()内は本学卒業生以外の内数
	経済学部	2 (1)	1 (0)	0 (0)	2 (1)	2 (0)	1.4 (0.4)	
	社会福祉学部	0 (0)	1 (0)	0 (0)	3 (1)	0 (0)	0.8 (0.2)	
	短期大学部	3 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	1.0 (0.0)	
	計	5 (1)	2 (0)	3 (1)	5 (2)	2 (2)	3.4 (1.2)	

6 学部別科目等履修生の受入状況

[2016~2020]

単位 (人)

(表Ⅺ-6)

受入学部		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	5年間平均	備考	
科目等履修生	文学	特別	27	17	23	*17	10	19.3	*後期出願者を含む
		特定	0	0	0	0	0	0.0	
		一般	3	3	0	*1	2	2.8	*後期出願者を含む
		学内	0	0	0	0	0	0.0	
	経済	特別	14	27	24	8	0	14.6	
		特定	1	0	2	0	1	0.8	
		一般	4	2	6	4	4	4.0	
		学内	0	0	0	0	1	0.2	
	社会福祉	特別	3	13	27	8	0	11.6	
		特定	0	1	0	0	0	0.2	
		一般	*3	5	3	*3	1	3.2	*後期出願者を含む
		学内	3	3	13	14	7	8.0	
	短期大	特別	0	0	0	0	0	0.0	
		特定	/	/	/	/	/	/	
		一般	0	0	0	1	0	0.2	
		学内	/	/	/	/	/	/	
計	特別	44	57	74	33	10	43.6		
	特定	1	1	2	0	1	1.0		
	一般	10	10	9	9	7	9.0		
	学内	3	3	13	14	8	8.2		

※短期大学部科目等履修生(下線部)は、2016年度から“一般科目等履修生”となった。

※年度途中にて、履修の取消、停止、退学した数は除く

7 科目群別科目等履修生の受入状況

〔2016～2020〕

単位（人）

（表Ⅲ-7）

授業科目群		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	計	5年間平均	備考	
大学共通科目	特別	31	50	69	*22	0	172	34.4	*札幌圏単位互換を含む	
	特定	1	1	2	0	1	5	1.0		
	一般	2	0	3	*5	1	11	2.2		*後期出願の科目を含む
	学内	0	0	0	0	0	0	0.0		
英文学科 専門教育科目	特別	1	0	2	0	0	3	0.6		
	特定	0	0	0	0	0	0	0.0		
	一般	1	1	0	0	1	3	0.6		
	学内	0	0	0	0	0	0	0.0		
心理・応用 コミュニケーション学科 専門教育科目	特別	2	2	1	*3	0		0.0	*札幌圏単位互換を含む	
	特定	0	0	0	0	0	0	0.0		
	一般	0	1	0	0	0	1	0.2		
	学内	0	0	0	0	0	0	0.0		
経済学科 専門教育科目	特別	3	1	0	*1	0		0.0	*札幌圏単位互換を含む	
	特定	0	0	0	0	0	0	0.0		
	一般	3	3	1	1	3	11	2.2		
	学内	2	0	0	0	1	3	0.6		
経営情報学科 専門教育科目	特別	0	1	1	2	0	4	0.8		
	特定	1	0	1	0	1	3	0.6		
	一般	2	0	2	0	0	4	0.8		
	学内	0	0	0	0	0	0	0.0		
経済法学科 専門教育科目	特別	2	0	0	1	0	3	0.6		
	特定	1	0	1	0	0	2	0.4		
	一般	0	0	2	1	0	3	0.6		
	学内	0	0	0	0	0	0	0.0		
福祉計画学科 専門教育科目	特別	3	2	0	*5	0		0.0	*札幌圏単位互換を含む	
	特定	0	1	0	0	0	1	0.2		
	一般	0	1	1	0	0	2	0.4		
	学内	0	0	6	6	6	18	3.6		
福祉臨床学科 専門教育科目	特別	1	6	3	0	0	10	2.0		
	特定	0	0	0	0	0	0	0.0		
	一般	1	2	0	1	0	4	0.8		
	学内	1	0	0	0	1	2	0.4		
福祉心理学科 専門教育科目	特別	1	5	0	*1	0		0.0	*札幌圏単位互換を含む	
	特定	0	0	0	0	0	0	0.0		
	一般	1	1	0	1	0	3	0.6		
	学内	0	0	8	6	0	14	2.8		
教職課程科目	特別	8	9	12	9	10	48	9.6		
	特定	0	0	0	0	0	0	0.0		
	一般	5	6	4	2	5	22	4.4		
	学内	0	0	0	0	0	0	0.0		
国際交流科目	特別									
	特定									
	一般	0	0	0	0	0	0	0.0		
	学内									
短期大学部科目	特別	0	0	0	0	0	0	0.0		
	特定									
	一般	0	0	0	1	0	1	0.2		
	学内									

8 各自治体との連携協定締結・協議状況〔2020年度〕

〈締結〉

(2021年3月31日現在) (表Ⅱ-8)

自治体名	対象	内容	締結年月日
栗山町	北星学園大学 北星学園大学短期大学部	北星学園大学及び北星学園短期大学部と栗山町との連携協定書	2007年12月21日
歌志内市	北星学園大学 北星学園大学短期大学部	北星学園大学及び北星学園短期大学部と歌志内市との連携協定書	2013年10月29日
札幌市厚別区 株式会社札幌 副都心開発公社	北星学園大学 北星学園大学短期大学部	北星学園大学及び北星学園短期大学部、株式会社副都心開発公社及び札幌市厚別区における三者の連携協力に関する協定	2008年12月21日
北海道教育委員会	北星学園大学	北海道教育委員会と北星学園大学との調査研究に関する協定	2014年3月28日
札幌市	北星学園大学	札幌市営住宅の北星学園大学・北星学園大学短期大学部の学生への提供についての協定書	2017年11月27日
後志振興局	北星学園大学短期大学部	北海道後志総合振興局・北星学園大学短期大学部によるグローバル人材育成に係る連携・協力に関する協定書	2018年7月23日

〈協議中〉

自治体名	対象	内容	締結年月日
新ひだか町	北星学園大学 文学部英文学科	新ひだか町姉妹都市、米国レキシントン市親善訪問団の新ひだか町訪問に際し、本学英文学科から学生1名を通訳ボランティアとして、札幌視察時のサポートとして学生3名を派遣した。(7/19～7/28) また、新ひだか町からの米国友好親善訪問団とともに、語学サポートボランティアとして学生1名を派遣予定であったが、新型コロナウイルス拡大のため中止。	-

9 各自治体との連携事業実施状況〔2020年度〕

(表XII-9-①)

自治体名	日 程	内 容	備考・場所	参加者数
歌志内市	コロナ禍につき中止	歌志内市高齢者大学「チロル学園」講演会	歌志内市	-
	コロナ禍につき中止	歌志内市 市民芸術文化祭「吹奏楽コンサート」 本学吹奏楽部	歌志内市	-
厚別区及び 札幌副都心開 発公社	4月13日	「第11回みんなの！新さっぽろフォトコンテスト」実施打合せ	オンライン等	-
	11月7日	「第11回みんなの！新さっぽろフォトコンテスト」表彰式	サンピアザ 光の広場	-
	11月7日 ～12日	「第11回みんなの！新さっぽろフォトコンテスト」展示会(全作品)	サンピアザ 光の広場	-
	11月25日 ～30日	「第11回みんなの！新さっぽろフォトコンテスト」展示会(入選・入賞作品)	新さっぽろ ギャラリー	-
	コロナ禍につき中止	厚別区高齢者教室「瑞穂大学」	厚別区及び 北星学園大学	-
新ひだか町	コロナ禍につき中止	新ひだか町国際交流事業に対する、本学学生ボランティア派遣(レキシントン市への帯同)	レキシントン市	-
	コロナ禍につき中止	レキシントン市からの友好親善訪問団による新ひだか町滞在及び札幌視察に同行し、通訳ボランティア等を行う	新ひだか町 及び札幌	-
札幌市	4月15日	もみじ台団地物件内覧・説明	もみじ台団地	-
	6月5日	もみじ台団地入居面接	本学	-
	6月5日	もみじ台団地事業担当者打合せ	本学	-
	9月25日	もみじ台団地入居学生との面談	本学	-
後志振興局	-	グローバル人材育成に係る連携「Shiribeshi留学」への学生派遣(短大英文学科)	ニセコ町	-

その他連携事業実施状況〔2020年度〕

(表XII-9-②)

自治体名	日 程	内 容	備考・場所	参加者数
大谷地東 小学校	コロナ禍につき中止	大谷地東小 3年生 「町はかせになろう」	本学	-
北野中学校	コロナ禍につき中止	北野中学校 「総合的な学習の時間」における職場体験学習の受入れ	本学	-

10 後援会総会・地区別父母懇談会 開催状況[2020年度]

(表XII-10-①)

日程	後援会総会・懇親会	地区別父母懇談会		
	5月30日(土)	7月4日(土)	8月22日(土)	8月23日(日)
地区	札幌	札幌	北見	旭川
会場	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
父母出席人数 (出席組数)	0	0	0	0
派遣教職員人数 (後援会役員含まない)	0	0	0	0
学長 副学長				
学部長				
局次部長				
教員				
後援会役員				
職員				
備考				

10 後援会総会・地区別父母懇談会 開催状況[2020年度]

(表XII-10-②)

地区別父母懇談会					
日程	8月29日(土)	8月30日(日)	9月5日(土)	9月6日(日)	11月7日(土)
地区	釧路	帯広	函館	苫小牧	札幌
会場	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
父母出席人数 (出席組数)	0	0	0	0	0
派遣教職員人数 (後援会役員含まない)	0	0	0	0	0
学長 副学長					
学部長					
局次部長					
教員					
後援会役員					
職員					
備考					

11 同窓会各支部懇親会開催状況〔2020年度〕

(表XII-11)

日程	8月22日(土)	8月29日(土)	8月30日(日)	9月5日(土)	9月26日(土)	10月17日(土)	11月14日(土)	12月5日(土)
地区	北見	釧路	帯広	函館	旭川	札幌	東京	千歳
会場	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止							
全参加人数	0名							
同窓生参加人数 (現教職員・同窓会役員除く)	0名							
学園役員								
学長 副学長								
学部長								
局次部長								
教員								
後援会役員								
同窓会役員								
職員								
備考								

[2019～2020]

(表XII-12)

	日 程	コ ン サ ー ト ・ 講 演 会 名	場 所	内 容	来 場 者 数
2019年度	5/11(土)	パイプオルガンコンサート Back to Bach ～バッハへの回想～	チャペル	パイプオルガン コンサート	247
	9/28(土)	矢口祐人 講演会 「フラから見るハワイの歴史と文化」	図書館棟4階A教室	講演会	146
	12/14(土)	Winter マリンバコンサート 「チャペルに響くローズウッドの音色」	チャペル	音楽コンサート	256
2020年度	5/23(土)	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止			0
	9/26(土)	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止			0
	12/12(土)	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止			0
平均参加者数(2019年度)					216.3

ⅩⅢ その他必要な事項に関すること

1 各種講座受講者状況[2020年度]

(表ⅩⅢ-1)

	講座名	前期			後期			計		
		クラス数	受講者数	学生(内数)	クラス数	受講者数	学生(内数)	クラス数	受講者数	学生(内数)
1	Word2016スペシャリスト	/	/	/	1	14	14	1	14	14
2	Word2016スペシャリスト(集中)	/	/	/	1	3	3	1	3	3
3	Excel2016スペシャリスト	/	/	/	1	22	22	1	22	22
4	Excel2016スペシャリスト(集中)	/	/	/	1	7	7	1	7	7
5	社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験 スタートアップ講座	1	47	47	/	/	/	1	47	47
6	社会福祉士国家試験対策講座	/	/	/	1	49	49	1	49	49
7	サービス接客検定2級	1	8	8	1	8	8	2	16	16
8	サービス接客検定2級(集中)	/	/	/	1	2	2	1	2	2
9	総合旅行業務取扱管理者	1	8	8	/	/	/	1	8	8
10	総合[国内有資格者]旅行業務取扱管理者	1	2	2	/	/	/	1	2	2
11	国内旅行業務取扱管理者	1	18	18	/	/	/	1	18	18
12	秘書検定2級	1	22	22	1	14	14	2	36	36
13	秘書検定2級(集中)	/	/	/	1	5	5	1	5	5
14	3級FP技能士資格対策講座	/	/	/	1	9	9	1	9	9
15	3級FP技能士資格対策講座(集中)	/	/	/	1	4	4	1	4	4
16	日商簿記3級講座(集中)	/	/	/	1	6	6	1	6	6
17	ビジネスマナースペシャリスト(集中)	/	/	/	1	2	2	1	2	2
18	IT/パスポート試験対策講座(集中)	/	/	/	1	1	1	1	1	1
		6	105	105	14	146	146	20	251	251

「自己点検評価資料」点検評価項目

I. 本学の在り方及び目標に関すること

【点検評価項目】

1 本学の基本的又は一般的目的について

- (1) 教育基本法、学校教育法、大学設置基準、短期大学設置基準、大学院設置基準との適合性がはかられているか。
- (2) 各年度の運営計画、運営総括は適切に設定、総括されているか。
- (3) 建学の理念に鑑みて、ミッションステートメント、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーは適切に定められ運用されているか。

2 教育研究活動における目的について

- (1) 大学、学部、大学院研究科設置の目的との関係において、実態はどうか。

3 教育活動（目的）に沿った人材育成について

- (1) 人間性・社会性・国際性豊かな人材育成のためにどのような教育・研究活動がなされるべきであり、またなされているか。
- (2) 具現化するための教育内容はどのように編成されているか。

4 キリスト教による人格教育について

- (1) キリスト教による人格教育を建学の精神とする目的との関係において、実態はどうか。
- (2) キリスト教による人格教育を具体化するための教育内容はどのように編成されているか。
- (3) キリスト教による人格教育を具体化するためのキリスト教職員の採用は、適切になされているか。

5 地域社会への寄与・貢献について

- (1) 地域社会への寄与及び貢献はどのようになされているか。
 - ① 教育的側面〔社会連携事業・公開講座・出前講義・セミナー、生涯学習、社会人特別入試等〕
 - ② 研究的側面〔研究業績書刊行等〕
 - ③ 行政的側面〔各種審議会・委員会の審議員・委員、委託研究等〕
 - ④ 施設設備等の側面〔図書館、ホール、講堂・教室（学会等）、体育館（大会）等〕
- (2) 社会的要請に対応できているか。その妥当性、適切性はどうか。
 - ① 教育活動の側面から
 - ② 研究活動の側面から
 - ③ 社会活動の側面から

6 国際社会への寄与・貢献について

- (1) 国際社会への寄与及び貢献はどのようになされているか。
 - ① 教育的側面〔教員の国際交流、外国大学との提携、外国人教員・留学生受入〕
 - ② 研究的側面〔研究業績の交換、外国人研究者の受入等〕

7 本学の目的等の社会的評価について

- (1) 社会的評価はどうか。
 - ① 自己評価
 - ② 認証評価機関による評価
 - ③ 他者（第三者）評価

II. 本学の管理運営の在り方及び組織並びに機構に関すること

【点検評価項目】

1 大学における意思決定の組織・機構について

- 各組織は、適切に組織され、機能を果たしているか。

2 大学の管理運営機構における意思決定について

各組織において審議決定事項が明確にされ、議案の審議、議案の採択・不採択等運営は適切になされているか。

3 大学における執行の組織について

各組織において機能、適性、選出方法、任期、補助組織等が明確にされ、適切に機能しているか。

4 事務職員について

- (1) 事務職員の機能・役割が明確にされ、有効にその役割が果たされているか。
- (2) 事務組織・運営体制は適切に組織化されているか。
- (3) 職員のSD研修は適切に開催され、また参加状況はどうか。

Ⅲ. 本学の財務、施設設備及び環境に関すること

[I 財務]

【点検評価項目】

1 学園（法人）財務と大学財務の関係について

- (1) 学園財務における大学財務の位置づけ（予算編成、決算処理方針）はどうか。
- (2) 会計単位としての大学財務の実態はどうか。
- (3) 学園機能と大学財務の関係はどうか。
- (4) 法人費操出金における、①各校分担比率、②各校予算内占有比率、③学園決算に対する自己監査等は適切であるのか。
- (5) 大学における資金造成のうち、①資金運用の妥当性、②寄付金等の収入、③収益事業の可能性等の実態はどうか。
- (6) 大学における土地取得・利用・管理は適切であるか。

2 大学財務の構造について

[収入]

- (1) 学費に関して、①全収入に占める学費比率、②他大学との学費比較③支出の増加に対応する学費額の増加（学生たちの受益と負担の均衡との関係）、④全収入に占める人件費比率、及び研究費比率は妥当なものか。
- (2) 寄付金に関して、①募集の目的と活用方法、②募集組織・機構の整備、③活用による教育研究の成果、④冠（寄付）講座・研究助成の推進等の実態はどうか、それは適切であるか。
- (3) 国・公費助成・補助金に関して、①文部科学省科学研究費、②研究設備整備費、③私大等経常費補助費の実態はどうか。
- (4) 施設設備使用料収入、特に施設設備の多角的活用と使用料徴収の実態はどうか。

[支出]

- (1) 人件費に関して、教育職員・事務職員人件費の実態はどうか、それは適切であるか。
- (2) 教育研究経費の総額、その構成比は適切であるか。
- (3) 管理経費の総額、その構成比は適切であるか。
- (4) 施設関係経費の総額、その構成比は適切であるか。
- (5) その他

3 大学財務の管理について

- (1) 財務分析に関し、下記分析はどのように行っているか。
 - ① 単年度財務分析
 - ② 中・長期財務分析
 - ③ 財務構成比率分析
 - ④ 勘定構成分析

(2) 財務計画に関し、下記計画はどのように行っているか。

- ① 単年度財務計画
- ② 中・長期財務計画

4 大学財務の運営について

- (1) 予算編成に関し、①予算編成の原理、②予算編成の方法、③予算の決定手続、④補正予算の決定手続はどのように定められ、どのように行っているか。
- (2) 予算の執行に関し、①予算の執行体制、②予算統制、③執行責任、④予備費等の経費の効率的運用はどのように行っているか。
- (3) 決算に関し、①決算承認の手続、②決算の内部監査はどのように定められ、どのように行っているか。

5 大学財務の運営組織について

- (1) 予算編成の組織はどのように定められているか。
- (2) 予算執行の組織はどのように定められているか。
- (3) 監査の組織はどのように定められているか。

[Ⅱ 施設設備及び環境]

【点検評価項目】

1 校地とその整備状況について

- (1) キャンパスプラン、総合的将来構想はどのようになっているか。特に、①キャンパスレイアウト（美観、機能性）は適切であるか。②バリアフリーへの対応状況は適切であるか。

2 施設とその整備状況について（図書館を除く）

- (1) 建築物の美観、機能性、安全性はどうか。
- (2) 施設の利用状況に関し、①教室（講義室、演習室、実験室、情報処理実習室等）の種類・総面積、室数、②学生一人当たりの面積、使用頻度等の実情はどうか、それは適切であるか。
- (3) 施設の維持・保守・管理は適切に行っているか。

3 設備とその整備状況について

- (1) 設備の機能、安全性はどのように果たされているか。
- (2) 設備の維持・保守・管理はどのように行っているか。
- (3) 情報・通信教育機器の接続環境はどうか。

4 環境について

- (1) 教育環境、研究環境、学習環境は適切であるか。
- (2) 職場環境、学生生活環境は適切であるか。
- (3) 庭園、芝生、樹木、キャンパス内通路整備・通行規制、駐車場の整備・規制、騒音規制、清掃、禁煙指導等は適切であるか。

IV. 本学の教育研究活動等の在り方及び目標に関すること

【点検評価項目】

1 教育研究活動における目的について

- (1) 学部（学科）、大学院研究科の設置目的、教育・研究目標、水準はどのようなものであるか。
- (2) 教育職員の研修費執行は適切になされているか。
- (3) 教育職員の国内外研修及びサバティカルは適切に取得されているか。
- (4) 教育職員のFD研修は適切に開催され、また参加状況はどうか。

2 教育活動に沿った人材育成について

- (1) 学部（学科）、大学院研究科ではどのような人材育成を目指しているか。
- (2) 具現化するための教育内容水準はどのような実態であるか。

3 学部（学科）、大学院研究科が果たす社会的役割について

- (1) 地域社会への寄与及び貢献はどのようになされているか。
 - ① 教育的側面〔公開講座・セミナー・生涯学習、社会人特別入試等〕
 - ② 研究的側面〔研究業績書刊行等〕
 - ③ 行政的側面〔各種審議会・委員会の審議員・委員、委託研究等〕
- (2) 国際社会への寄与及び貢献はどのようになされているか。
 - ① 教育的側面〔教育の国際交流、外国大学との提携、外国人教員・留学生受入〕
 - ② 研究的側面〔研究業績の交換、外国人研究者の受入等〕

4 本学の目的等の社会的評価について

- (1) 社会的要請に対応できているか。その適切性はどうか。
 - ① 教育活動の側面から
 - ② 研究活動の側面から
 - ③ 社会活動の側面から

V. 本学の教育課程、教育組織及び教育活動に関すること

[I 教育課程、教育活動]

【点検評価項目】

〔学部（学科）〕

1 専門教育科目の教育課程の構成について

- (1) 「専攻に係る専門の学芸」を教授するための専門教育科目とその学部・学科等の理念・目的、学問の体系性並びに学校教育法との適合性は図られているか。
- (2) 学部（学科）の目的に従い、適切・効果的に編成されているか。
- (3) 授業科目数並びに卒業所要総単位に占める専門教育授業科目の割合は適切であるか。
- (4) 授業科目はシラバスに則った展開がなされているか。
- (5) 授業科目は、カリキュラム・ポリシーに則って設定されているか。

2 大学共通科目部門の教育課程について

〔大学〕

- (1) 「幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養」するための配慮は適切になされているか。
- (2) 「人間科学」の目的及び編成原理は明確にされ、それに基づいて教育課程が編成されているか。
- (3) 「人間科学と人間」の目的及び編成原理は明確にされ、それに基づいて教育課程が編成されているか。
- (4) 「自然・科学技術・人間」の目的及び編成原理は明確にされ、それに基づいて教育課程が編成されているか。
- (5) 「社会と人間」の目的及び編成原理は明確にされ、それに基づいて教育課程が編成されているか。
- (6) 「地域と文化」の目的及び編成原理は明確にされ、それに基づいて教育課程が編成されているか。
- (7) 「宗教と文化」の目的及び編成原理は明確にされ、それに基づいて教育課程が編成されているか。
- (8) 「演習科目」の目的及び編成原理は明確にされ、それに基づいて教育課程が編成されているか。
- (9) 「総合講義」の目的及び編成原理は明確にされ、それに基づいて教育課程が編成されているか。
- (10) 「キャリア教育」の目的及び編成原理は明確にされ、それに基づいて教育課程が編成されているか。
- (11) 「日本語」の目的及び編成原理は明確にされ、それに基づいて教育課程が編成されているか。

- (12) 「情報科目」の目的及び編成原理は明確にされ、それに基づいて教育課程が編成されているか。
- (13) 「外国語」の目的及び編成原理は明確にされ、それに基づいて教育課程が編成されているか。

〔短期大学部〕

- (1) 「幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養」するための配慮は適切になされているか。
- (2) 基礎教養科目の目的及び編成原理は明確にされ、それに基づいて教育課程が編成されているか。
- (3) 外国語科目の目的及び編成原理は明確にされ、それに基づいて教育課程が編成されているか。
- (4) 保健体育科目の目的及び編成原理は明確にされ、それに基づいて教育課程が編成されているか。
- (5) キリスト教科目の目的及び編成原理は明確にされ、それに基づいて教育課程が編成されているか。

3 教職課程科目の教育課程について

- (1) 教育職員免許法、教育職員免許法施行令等の教員免許関係法令との適合性ははかられているか。
 - ① 授業科目の開設・展開は適切であるか。
 - ② 担当教育職員の配置は適切であるか。
- (2) 教職部門会議の組織・体制は適切であるか。
- (3) ①教職部門長、②教職部門会議、③教育支援課はそれぞれの役割を十分果たしているか。
- (4) 教育実習は適切に展開され、その体制は適切に組織されているか。
 - ① 実習先は十分確保されているか。
 - ② 実習ガイダンス（事前、事後指導）は適切であるか。

4 外国語教育と言語部門会議の関係について

- (1) ①言語教育部門長、②言語教育部門会議、③教育支援課はそれぞれの役割を十分果たしているか。
- (2) 言語教育部門会議と共通科目部門会議との連携は適切であるか。
- (3) 「国際化等の進展に適切に対応するための外国語能力の育成」のための教育課程が適切に展開されているか。

5 情報処理教育と総合情報センターの関係について

- (1) 総合情報センターは、設置目的に従い機能しているか。
- (2) ①総合情報センター長、②総合情報センター運営委員会、③情報システム課はそれぞれの役割を十分果たしているか。
- (3) 総合情報センター運営委員会と共通科目部門会議との連携は適切になされているか。
- (4) 「情報化等の進展に適切に対応するための情報処理能力の育成」のための教育課程が適切に展開されているか。

6 国際教育と国際教育センターの関係について

- (1) 国際教育センターは、設置目的に従い機能しているか。
- (2) 国際交流関係科目は、本学の国際交流の基本理念を踏まえ、体系的に開設されているか。
- (3) 国際交流関係科目の展開（授業担当者・授業内容・授業規模、登録・履修・単位の取得状況など）は、適切になされているか。

7 学習支援委員会とラーニング・コモンズの関係について

- (1) ラーニング・コモンズは設置目的に従い、機能しているか。

8 授業科目の展開方法について（専門及び大学共通）

- (1) 授業科目の種類（必修か選択）と開設比率は適切であるか。
- (2) 授業科目の関連性は適切であるか。（概論・総論から各論へ、または積上げ等）
- (3) 授業科目の年次配当、展開期（前・後・通年）は開設の目的との関係において適切であるか。

9 授業科目の展開形態について（専門及び大学共通）

- (1) 授業形態と授業時間数（単位数）の関係は適切であるか。
 - ① 講義、総合講義、演習、実習、実験の授業時間数と単位数は適切であるか。
- (2) 授業規模は授業形態との関連において適切であるか。
 - ① 講義、総合講義、演習、実習、実験の授業規模は適切であるか。
- (3) ティーチング・アシスタント制度の活用は有効になされているか。

10 授業方法について

- (1) 各授業科目の教授内容及び範囲は適切であるか。（全授業科目）
- (2) 授業の展開は適切であるか。
 - ① シラバスは有効活用がなされているか。
 - ② 授業方法の工夫（ICT 機材の活用等）はどのようになされているか。

11 教育水準及び評価について

- (1) 各授業科目の教育水準をどのように定めているのか（学生に求める到達期待値はどの程度か）。
- (2) 成績評価基準をどのように設定しているか。
 - ① 評価の客観性はどのように担保されているか。
 - ② 単位認定は適切であるか。
 - ③ GPA 制度による成績評価は適切であるか。

12 修学指導について

- (1) 授業科目の教授内容、履修方法、授業計画を示したシラバスは、学生の理解を深めるために適切に編集・公開されているか。
- (2) 卒業論文指導、卒業課題研究指導等の教科指導は適切な方法によって行われているか。
- (3) 修学指導体制は適切であるか。担任制、アドバイザーシステム等の導入は必要か。
- (4) 成績不良者への対応は適切であるか。
- (5) 保護者との連携をどう図っていくか。
- (6) 社会人学生に対しての教育上の配慮は適切であるか。
- (7) 編入学生に対しての教育上の配慮は適切であるか。
- (8) 外国人留学生に対しての教育上の配慮（日本語教育等）は適切であるか。
- (9) 障害をもった学生に対して教育上の合理的配慮がなされているか。

13 既修得単位取得者の対応について

- (1) 既修得単位の認定の基準方法は適切であるか。
- (2) 編入学生に対しての既修得単位認定は適切であるか。

〔大学院〕

1 教育課程の構成について

- (1) 修士課程において「広い視野に立って精深な学識を授け、専攻における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養う」という目的との適合性がはかられているか。
- (2) 博士課程において「専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の専門的な業務に従事する必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養う」という目的との適合性がはかられているか。
- (3) 研究科の目的に従い適切に編成されているか。
- (4) 授業科目は、修了要件・カリキュラム・ポリシーとの関係で適切であるか。

2 教育指導等について

- (1) 教育指導並びに学位論文の作成等を通じた研究指導は適切に行われているか。

3 社会人学生（リカレント入学生）に対する教育課程編成、教育研究指導への配慮について

- (1) 社会人学生への教育研究指導は適切に行われているか。

4 学位について

- (1) 修士の学位の授与状況と学位の授与方針・基準は適切に行われているか。
- (2) 博士の学位の授与状況と学位の授与方針・基準は適切に行われているか。

[Ⅱ 教育組織]

【点検評価項目】

1 教員の適性配置について

- (1) 基準教員数に比して、教員の配置は適切であるか。
- (2) ①一人当たり授業科目数、②一人当たり学生数、③年齢構成は適切であるか。
- (3) 教員数は、学部（学科）等の目的を実現し、有効な教育研究活動を展開する上で、必要かつ十分な数であるかどうか。
- (4) 学部（学科）の再編成構想と人事構想との関連は適切であるか。

2 人的補助体制について

- (1) 実験・実習、外国語・情報処理教育を効果的に実施するための授業援助体制は適切に機能しているか。
- (2) ティーチング・アシスタント（TA）の採用基準は適切であり、授業援助機能は有効に働いているか。

3 教員人事について

- (1) 採用の基準及び手続は適切であるか。
- (2) 任免の基準及び手続は適切であるか。
- (3) 昇格の基準及び手続は適切であるか。
- (4) 定年の基準及び手続は適切であるか。
- (5) 人事は学部（学科）の教育活動目標に合致し適切に行われているか。

4 教育研究活動の評価について

- (1) 学部（学科）の目的を達成するための、内容・レベルに相応しい教育活動上の能力評価が適切になされているか。
- (2) 上記(1)が学生の学修の活性化及び教育研究上の能力向上にどのように貢献しているか。
- (3) モデルティーチング顕彰制度は適切に運用されているか。

Ⅵ. 本学の研究組織及び研究活動に関すること

【点検評価項目】

1 研究組織・研究体制について

- (1) 研究水準向上のための研究体制・条件は適切に構築されているか。

2 研究活動の検証システムについて

- (1) 教員の研究活動の活性度・質・水準を測定・評価をするシステムは有効に編成され、機能しているか。

3 研究活動状況について

- (1) 教員の研究活動として、研究成果の発表等は適切に行われているか。
- (2) 教員の研究活動として、学会発表等は適切に行われているか。

4 研究財政・施設面について

- (1) 教員の研究活動を支えるための財政・施設面での条件整備は適切になされているか。
 - ① 個人研究費は適切に利用されているか。
 - ② 学外研究費の獲得は適切であるか。
 - ③ 科学研究費助成事業等の応募、採択は適切であるか。
 - ④ 研究旅費は適切に利用されているか。
 - ⑤ 共同研究費は適切であるか。
 - ⑥ 研究室（広さ等）、研究用施設は適切であるか。

Ⅶ. 本学の学生の受入れに関すること

【点検評価項目】

1 入学者選抜の方針・方法について

- (1) 入学者選抜方針は、学部（各学科）の掲げる理念・目的、アドミッション・ポリシーが適切に反映したものであるか。
- (2) 入学者選抜方針は、多様化する社会の要求に適切に応え、それに合致した入学者選抜がなされているか。
- (3) 入学希望者の区分に対応した選抜方法は適切になされているか。
- (4) 入学希望者の大学理解と入学希望につながる多面的な取り組みがなされているか。

2 入学者募集について

- (1) 学部（学科）の特色が、募集活動に適切に反映されているか。
- (2) 学部（学科）の特色を捉えた広報活動は適切であるか。
- (3) 入学者募集広報の方法は適切であるか。その効果は有効なものであるか。
- (4) 学園内高校との連携及び学園内進学者の状況は適切であるか。

3 入学定員・収容定員について

- (1) 学生の入学定員及び収容定員との関係において入学者数は適切であるか。

Ⅷ. 本学の学生の課外活動、厚生及び就職に関すること

【点検評価項目】

1 学生生活一般について

- (1) 学生生活指導（ガイダンス）体制は適切に組織され行われているか。
- (2) 生活指導体制に関し、①学生支援委員長、②学生支援委員会、③学生生活支援課はその役割を有効に発揮しているか。
- (3) 学生生活上の要望聴取等の体制・運用は適切であるか。

2 生活環境について

- (1) 学生会館（食堂、ホール等）の維持・保全是適切であるか。
- (2) サークル棟、学生交流会館 Kirari の維持・保全是適切であるか。
- (3) 違反駐車、構内禁煙指導は適切であるか。

3 課外活動について

- (1) 学生自治会・体育会の諸活動の把握と指導は適切であるか。
- (2) 各サークルの諸活動の把握と指導は適切であるか。
- (3) 各サークルへの支援及び責任体制は有効に機能しているか。

4 学生相談・医務室について

- (1) 学生相談、医務室の体制は適切であるか。
- (2) 学生相談室は有効に機能しているか。
- (3) 学生の健康状況は適切に管理把握されているか。
- (4) 学生の健康保持・増進のための配慮は適切に行なわれているか。

5 アクセシビリティ支援室について

- (1) 支援対象者の相談体制は適切であるか。
- (2) アクセシビリティ支援室は有効に機能しているか。
- (3) 学生の授業支援は合理的配慮に基づいて行われているか。

5 奨学金について

- (1) 各種奨学金制度は適切であるか。
- (2) 奨学生の採用選考手続は、適切なものとして設定されているか。
- (3) 奨学生指導は適切に行われているか。

6 就職について

- (1) 就職指導（キャリアデザインプログラム）体制は適切に編成されているか。
 - ① 民間企業
 - ② 公務員

- ③ 教員
- ④ 社会福祉施設等
- ⑤ インターン
- (2) 就職指導体制に関し、①キャリアデザインセンター長、②キャリアデザイン支援委員会、③就職支援課はその役割を有効に発揮しているか。
- (3) 求人情報の収集及び提供、求人開拓等は適切であるか。
 - ① 学生のニーズとの関連において求人開拓は適切であるか。
 - ② 就職後のフォローを十分行っているか。特に企業管理職、公務員管理職の状況は把握できているか。
 - ③ 卒業生との組織的連携は適切に行われているか。
 - ④ 各種国家試験対策のフォローは十分行っているか。
- (4) 卒業延期者の対応は適切に行われているか。

Ⅸ. 本学の図書及び学術情報に関すること

【点検評価項目】

1 図書館の機能について

- (1) 大学設置基準第 38 条第 1 項、短期大学設置基準第 29 条第 1 項、大学院設置基準第 21 条との適合性がはかられているか。
- (2) 学術情報収集・保存・利用の提供機能は適切であるか。
- (3) 教育（教育課程の展開）への寄与機能は適切であるか。

2 図書館の運営組織について

- (1) 運営体制に関し、①図書館長、②司書課はその役割を有効に発揮しているか。

3 図書等の収集・保存について

- (1) 図書・電子図書・資料・学術情報の収集方法は適切であるか。
 - ① 収集は、大学の理念・目的に沿って適切になされているか。
 - ② 収集は、学部（学科）の理念・目的、教育課程に沿って適切になされているか。
- (2) 図書・電子図書・資料・学術情報の収集・選定方法は適切であるか。
- (3) 図書・電子図書・資料・学術情報の収集・選定手続は適切であるか。
- (4) 図書・電子図書・資料・学術情報の収集は適切になされているか。
- (5) 利用提供に関し、他の大学図書館との協力は適切になされているか。

4 図書等の利用の提供について

- (1) 利用提供（レファレンス・サービス）は適切になされているか。
- (2) 利用提供指導体制（ガイダンス）は適切になされているか。
- (3) 研究活動への貢献は適切になされているか。
- (4) 教育活動への貢献は適切になされているか。

5 施設・設備等について

- (1) 閲覧座席数は教育・研究及び学生の学習のために充分であるか。
- (2) 開館時間は利用者に対して適切な配慮であるか。

6 図書館の社会的貢献について

- (1) 地域社会の開放ニーズへの対応は適切であるか。
- (2) 他大学・公共図書館との連携は適切になされているか。

X. 本学の宗教活動に関すること

【点検評価項目】

1 宗教活動について

(1) 大学における宗教活動の意義・目的は明確化され、共通に意識化されているか。

2 建学の精神との関係について

(1) キリスト教による人格教育を具体化するための「キリスト教（宗教）活動内容」は、適切であるか。〔礼拝及び宗教部主催各種行事の位置づけ等はどうか〕

(2) キリスト教による人格教育を行う教職員の役割は何か。〔学長、チャプレン、一般教職員はどう関わっていくべきなのか。〕

3 スミス・ミッションセンターについて

(1) スミス・ミッションセンター体制に関し、①スミス・ミッションセンター部長、②スミス・ミッションセンター運営委員会、③チャプレンはその役割を有効に発揮しているか。

4 スミス・ミッションセンター活動について

(1) 各種行事（大学礼拝、記念講演会等）は、適切に行われているか。

(2) 各種行事が宗教活動として「建学の精神」にどのように反映されているか。

(3) 学生が主体的に活動するボランティア活動を適切に支援しているか。

5 チャペルについて

(1) 大学のチャペルは、スミス・ミッションセンター活動の展開の場として有効に機能を果たしているか。

6 規程について

(1) スミス・ミッションセンターの諸活動に関する規程が適切に整備されているか。

XI. 本学の国際交流に関すること

【点検評価項目】

1 国際交流の基本理念について

(1) 国際交流の基本的方針はどうか。

(2) 国際交流協定は適切であるか。

(3) 国際交流に関する財源等はどうなっており、適切であるか。

2 国際交流の組織について

(1) 国際教育センターは、設置目的に従い機能しているか。

(2) 運営に関し、①国際教育センター長、②国際教育推進委員会、③国際教育課はそれぞれの役割を十分果たしているか。

3 国際交流プログラム（派遣）について

(1) 国際交流協定校との関係において適切であるか。

(2) 派遣前・後の指導（ガイダンス）は適切であるか。

(3) 認定単位読替・振替の基準・方法は適切であるか。

4 国際交流プログラム（受入）について

(1) 国際交流協定校との関係において適切であるか。

(2) 日本語教育体制はどうなっており、適切であるか。

5 留学生の支援について

(1) 短期（提携校）受入留学生については適切であるか。

(2) 外国人留学生（学部生）については適切であるか。

6 国際社会への寄与及び貢献について

(1) 国際社会への寄与及び貢献はどのようになされているか。

① 教育的側面〔教員の国際交流、外国大学との提携、外国人教員・留学生受入〕

② 研究的側面〔研究業績の交換、外国人研究者の受入〕

XII. 本学の社会との連携交流に関すること

[社会連携事業について]

【点検評価項目】

1 公開講座について

- (1) 公開講座の種類等は適切であるか。
- (2) 各講座の受講者数は適切であるか。
- (3) 社会的ニーズへの対応は適切であるか。

2 研究生・科目等履修生について

- (1) 受入の基準、方法は適切であるか。

3 民間企業等の共同研究について

- (1) 民間企業・団体・組織との共同研究はどうなっており、適切であるか。
- (2) 共同研究の組織、運営は適切であるか。また、支援はどのようになされているか。

4 地域社会への寄与及び貢献について

- (1) 地域社会への寄与及び貢献はどのようになされているか。
 - ① 教育的側面〔公開講座・セミナー、出張講義、生涯学習、社会人特別入試等〕
 - ② 研究的側面〔研究業績書刊行等〕
 - ③ 行政的側面〔各種審議会・委員会の審議員・委員、委託研究等〕
 - ④ 施設設備等の側面〔図書館、ホール、講義・教室（学会等）、体育館（大会）等〕

[同窓会・後援会について]

【点検評価項目】

1 同窓会について

- (1) 教職員の同窓会への派遣はどうなっているか。
- (2) 同窓会主催のイベントの開催状況はどうなっているか。

2 後援会について

- (1) 教職員の後援会総会・懇親会及び地区別父母懇談会への派遣状況はどうなっているか。

XIII. その他必要な事項に関すること

[オープンユニバーシティについて]

【点検評価項目】

1 社会連携センターの組織について

- (1) オープンユニバーシティの位置づけはどうなっているのか。
- (2) 社会連携センターは、設置目的に従い機能しているか。
- (3) ①社会連携センター長、②社会連携センター運営委員会、③社会連携課は、それぞれの役割を十分果たしているか。

2 既存のオープンユニバーシティプログラムについて

- (1) 正課教育課程との関連は適切であるか。
- (2) 国際交流等の機関との関連は適切であるか。
- (3) 各種講座の現状は、適切であるか。
- (4) 各種講座の受講者数は、適切であるか。
- (5) 地域社会との関係はどうなっているのか。

3 新規講座について

- (1) 社会状況の変化に合わせた新規講座の設置はどうなっているか。

2020 年度 自己点検評価報告書・自己点検評価資料

2021（令和3）年8月発行

編集 自己点検評価・内部質保証委員会
発行 北星学園大学・北星学園大学短期大学部
〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号
TEL 011-891-2731
FAX 011-892-6097
URL <https://www.hokusei.ac.jp>